



**OTRS**  
Open Technology  
Real Services

## **Documentation**

### **OTRS 4 - 管理 マニュアル**

**Build Date:**

**2015-05-26**

---

---

## OTRS 4 - 管理 マニュアル

製作著作 © 2003-2015 OTRS AG

René Bakker, Stefan Bedorf, Michiel Beijen, Shawn Beasley, Hauke Böttcher, Jens Bothe, Udo Bretz, Martin Edenhofer, Carlos Javier García, Martin Gruner, Manuel Hecht, Christopher Kuhn, André Mindermann, Marc Nilius, Elva María Novoa, Henning Oswald, Martha Elia Pascual, Thomas Raith, Carlos Fernando Rodríguez, Stefan Rother, Rolf Schmidt, Burchard Steinbild, Michael Thiessmeier, Daniel Zamorano.

この著作はOTRS AGによって著作権で保護されています。

コピーがこの著作権宣言文を保持する限り、全体あるいは一部分をコピーしても良いです。

このドキュメントのソース・コードは[github](#)のリポジトリ [doc-admin](#)で見つけることができます。

UNIX は X/Open Company Limited. の登録商標です。 Linux は Linus Torvalds の登録商標です。

MS-DOS, Windows, Windows 95, Windows 98, Windows NT, Windows 2000, Windows XP, Windows 2003, Windows Vista, Windows 7 は、Microsoft Corporation の登録商標です。その他の商標及び登録商標: SUSE と YaST は SUSE Linux GmbH の、Red Hat と Fedora は Red Hat, Inc の登録商標です。Mandrake は MandrakeSoft, SA の登録商標です。Debian は Software in the Public Interest, Inc の登録商標です。MySQL と the MySQL Logo は Oracle Corporation と、あるいは、その系列企業の登録商標です。

全ての登録名は、無償利用の保障なしに使用されており、そして恐らくそれらは登録商標です。

OTRS AGは、基本的にメーカーの記法に従います。その他の製品は各製造者の登録商標で記載しています。



# 目次

序文 .....	viii
1. 導入 .....	1
1. トラブル・チケット・システム - 基礎 .....	1
1.1. トラブル・チケット・システムとは何でしょうか？なぜあなたはそれを必要 としているのでしょうか？ .....	1
1.2. トラブル チケットとは？ .....	2
2. OTRS ヘルプデスク .....	2
2.1. 基礎 .....	2
2.2. 機能 .....	2
2.3. ハードウェアとソフトウェアの必要条件 .....	9
2.4. コミュニティー .....	10
2.5. OTRSのためのプロフェッショナル・サービス .....	10
2. インストール .....	11
1. シンプルな方法 - あらかじめ構築されたパッケージのインストール .....	11
1.1. SUSE Linuxサーバ上でのRPMのインストール .....	11
1.2. Red Hat Enterprise Linux あるいは CentOS システムへのOTRSのインス トール .....	13
1.3. Debian または Ubuntuシステム上でのOTRSのインストール .....	18
2. ソース (Linux,Unix)からのインストール .....	18
3. ウェブ・インストーラの使用 .....	22
4. Windows版のOTRS .....	26
4.1. How to migrate existing Windows installations to Linux .....	27
5. OTRS の 3.3 から 4 へのアップグレード .....	38
6. 追加のアプリケーション .....	43
6.1. FAQ (よくある質問) .....	43
3. ファースト・ステップ .....	44
1. 担当者ウェブインターフェイス .....	44
2. 顧客ウェブインターフェイス .....	44
3. 公開ウェブインターフェイス .....	45
4. はじめてのログイン .....	45
5. ウェブインターフェイス - 概要 .....	46
6. ダッシュボード .....	48
7. キューとは何か？ .....	53
8. キュー概要とは何か？ .....	53
9. ユーザ選択 (選好) .....	54
4. 管理 .....	57
1. OTRSの管理者エリア .....	57
1.1. 基礎 .....	57
1.2. 担当者、グループおよび役割 .....	57
1.3. 顧客および顧客グループ .....	64
1.4. キュー .....	67
1.5. 挨拶文、署名、添付およびテンプレート .....	68
1.6. 自動応答 .....	73
1.7. Eメール・アドレス .....	75
1.8. 通知 .....	76
1.9. SMIME .....	77
1.10. PGP鍵 .....	77
1.11. 状態 .....	78
1.12. SysConfig .....	79
1.13. Eメールアカウントの使用 .....	79
1.14. 受信Eメール・メッセージのフィルタリング .....	80
1.15. GenericAgent (一般担当者) による自動処理の実行 .....	82
1.16. 管理者Eメール .....	84
1.17. セッション管理 .....	84
1.18. システムメンテナンス .....	85

1.19. システムログ .....	86
1.20. SQLボックス経由でのSQLクエリー .....	87
1.21. パッケージ・マネージャー .....	87
1.22. ウェブサービス .....	88
1.23. 動的フィールド .....	88
2. システム構成 .....	89
2.1. OTRS構成ファイル .....	89
2.2. ウェブインターフェースによるシステムの構成 .....	89
3. システムのバックアップ .....	90
3.1. バックアップ .....	90
3.2. リストア .....	91
4. Eメール設定 .....	91
4.1. Eメールの送信/受信 .....	91
4.2. PGP鍵を備えた安全なEメール .....	96
4.3. S/MIMEを備えた安全なEメール .....	98
5. 外部バックエンドの使用 .....	102
5.1. 顧客情報 .....	102
5.2. 顧客ユーザ・バックエンド .....	102
5.3. 担当者と顧客を認証するバックエンド .....	109
5.4. 顧客自己登録のカスタマイズ .....	113
6. チケット設定 .....	115
6.1. チケットの状態 .....	115
6.2. チケット・プロパティ .....	119
6.3. チケット責任者とチケットの監視 .....	119
7. 時間関連機能 .....	122
7.1. 業務時間、祝祭日とタイムゾーンの設定 .....	122
7.2. 自動アンロック .....	122
8. PDF出力のカスタマイズ .....	123
9. 統計モジュール ( Stats module ) .....	123
9.1. 担当者によるモジュールの取り扱い .....	124
9.2. OTRS管理者による統計モジュールの管理 .....	132
9.3. システム管理者による統計モジュールの管理 .....	132
10. 動的フィールド .....	135
10.1. 導入 .....	135
10.2. 構成 .....	135
11. 一般インターフェイス .....	151
11.1. 一般インターフェイス・レイヤー .....	151
11.2. ウェブサービス・コマンドライン・インタフェース .....	153
11.3. ウェブサービス .....	156
11.4. ウェブサービス・グラフィカル・インターフェイス .....	156
11.5. ウェブサービス・コマンドライン・インタフェース .....	173
11.6. ウェブサービス構成 .....	175
11.7. コネクタ .....	181
12. OTRSスケジューラ .....	197
12.1. スケジューラ・グラフィカル・インターフェイス .....	198
12.2. スケジューラ・コマンドライン・インタフェース .....	199
5. カスタマイズ .....	202
1. アクセス・コントロール・リスト(ACL) .....	202
1.1. 導入 .....	202
1.2. 記述 .....	202
1.3. サンプル .....	203
1.4. 参照 .....	209
2. 工程管理 .....	212
2.1. 導入 .....	212
2.2. サンプル・プロセス .....	213
2.3. 例の実行 .....	213
2.4. プロセス構成リファレンス .....	238
3. 自分のテーマの作成 .....	259

4. OTRSフロント・エンドのローカライゼーション .....	260
6. パフォーマンス・チューニング .....	261
1. OTRS .....	261
1.1. TicketIndexModule .....	261
1.2. SearchIndexModule .....	261
1.3. TicketStorageModule (チケット・格納・モジュール) .....	262
1.4. チケットのアーカイブに保管 .....	263
1.5. キャッシュ .....	264
2. データベース .....	264
2.1. MySQL .....	264
2.2. PostgreSQL .....	264
3. ウェブサーバ .....	265
3.1. 事前に確立しているデータベース接続 .....	265
3.2. プレインストールされたモジュール - startup.pl .....	265
3.3. ディスク上で更新された時パール・モジュールをリロードします。 .....	265
3.4. 正しい戦略の選択 .....	265
3.5. mod_gzip/mod_deflate .....	265
A. 追加の資料 .....	266
B. Configuration Options Reference .....	268
1. DynamicFields .....	268
2. Framework .....	274
3. GenericInterface .....	417
4. ProcessManagement .....	431
5. Scheduler .....	442
6. Ticket .....	445
C. GNUフリー文書許諾契約書 .....	702
0. はじめに .....	702
1. この利用許諾契約書の適用範囲と用語の定義 .....	702
2. 逐語的に忠実な複製 .....	703
3. 大量の複製 .....	703
4. 改変 .....	704
5. 文書の結合 .....	705
6. 文書の収集 .....	705
7. 独立した著作物の集積 .....	706
8. 翻訳 .....	706
9. 契約の終了 .....	706
10. 将来における本利用許諾契約書の改訂 .....	706
この利用許諾契約書をあなたの文書に適用するには .....	706

## 表の一覧

4.1. デフォルト・グループは新規のOTRSインストールで利用可能です .....	58
4.2. OTRSグループと関連した権限 .....	60
4.3. 追加の許可グループ .....	61
4.4. 自動応答用イベント .....	74
4.5. 異なるX-OTRSヘッダーの機能 .....	80
4.6. 次のフィールドがシステムへ追加されます。: .....	137
4.7. テーブル4.7. init.d スクリプトのリストとサポートされるオペレーティング・システム .	199
A.1. メーリングリスト .....	266



## 例の一覧

4.1. 特定のキューの中へのスパム・メールのソート .....	82
4.2. .fetchmailrc .....	94
4.3. フィルタ・モジュールのためのサンプルジョブ .....	94
4.4. フィルタ・モジュールのためのサンプル・ジョブ Kernel::System::PostMaster::Filter::CMD .....	95
4.5. フィルター・モジュールのためのサンプル・ジョブ Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognition .....	95
4.6. DB顧客バックエンドの構成 .....	102
4.7. DBバックエンドを備えた会社チケットの使用 .....	105
4.8. LDAP顧客バックエンドの構成 .....	105
4.9. LDAPバックエンドを備えた会社チケットの使用 .....	106
4.10. OTRSでひとつ以上の顧客バックエンドを使用する .....	107
4.11. DBバックエンドに対する認証エージェント .....	109
4.12. LDAPバックエンドに対する認証エージェント .....	109
4.13. HTTPBasicを使用して、担当者を認証します。 .....	111
4.14. Radiusバックエンドに対する担当者を認証します。 .....	111
4.15. DBバックエンドに対する顧客ユーザ認証 .....	112
4.16. LDAPバックエンドに対する顧客ユーザ認証 .....	112
4.17. HTTPBasicを備えた顧客ユーザ認証 .....	113
4.18. Radiusのバックエンドに対する顧客ユーザ認証 .....	113
4.19. 値系列の定義 - 1つの要素 .....	130
4.20. 値系列の定義 - 2つの要素 .....	131
4.21. 新規電話チケット画面にあるフィールド1を活性化します。 .....	145
4.22. 新規電話チケット画面中の必須フィールド1を活性化 .....	146
4.23. 必須として新規電話チケット画面中のフィールド1を活性化 .....	146
4.24. 新規電話チケット画面中の複数の必須フィールドを非活性化 .....	147
4.25. チケットズーム画面でフィールド1を活性化 .....	148
4.26. チケット概要小画面の中のField1を活性化 .....	149
4.27. チケット作成イベントのフィールド1を活性化 .....	150
4.28. ユーザー選択でのField1を活性化 .....	150
4.29. Linux上でOTRSを開始するサンプル .....	200
4.30. OTRSスケジューラを開始するサンプル .....	200
4.31. OTRSスケジューラを強要停止するサンプル .....	201
5.1. ACLはチケット優先度5のチケットのみをキューへの移動を許可します。 .....	203
5.2. データベースに格納された優先度5のチケットだけのキューへ移動を許可するACL .....	204
5.3. 未対応のキュー中のチケットの完了を不能にし、閉じるボタンを隠すACL .....	205
5.4. 状態：「閉鎖成功」を常に削除するACL .....	207
5.5. "HW"で始まるキューが作成されるハードウェア・サービス・チケットのみを表示する ACL .....	207
5.6. ACL to restrict a Process in the customer frontend using the CustomerID. ....	209
5.7. 全ての可能かつ重要なACL設定を示すリファレンス（参照） .....	210

# 序文

OTRS 管理者向けの冊子です。OTRS 初心者のための参考書としても提供しています。

次の章では、インストール、構成、および OTRS ソフトウェアの管理について説明します。テキストの最初の 3行で、ソフトウェアの主要な機能について説明しています。一方残りの部分は、構成可能なパラメタの完全なセットへの参照として提供されています。

この本は新製品中の移動標的を与えられて、引き続き進行中の仕事です。私達はこれを使いやすく正確かつ完璧な高品質な参考文献にするためにあなたのフィードバックを必要としています。この本で内容の欠落、説明が不十分な点、スペルミス、文法のエラーあるいは誤植を見つけた場合は私達にお知らせ下さい。どのような種類のフィードバックも正しく評価され、<http://bugs.otrs.org>にある 私達の追跡システムによって反映されます。あなたの貢献に感謝申し上げます。



# 第1章 導入

## 1. トラブル・チケット・システム - 基礎

この章ではトラブル・チケットの主要概念の説明とともにトラブル・チケット・システムの手短な紹介を提供します。例示により手っ取り早くこのようなシステムを使うメリットについて説明します。

### 1.1. トラブル・チケット・システムとは何でしょうか？ なぜあなたはそれを必要としているのでしょうか？

次の例ではトラブル・チケット・システムとは何か、そしてどのようにあなたが会社でそのようなシステムが役立つかを述べています。

マックス氏は、ビデオレコーダーの製造業者だと想像して下さい。マックス氏は製品サポートを必要とするお客様から多くのメッセージを受け取っています。ある日、彼は速やかに返答することもメッセージを受け入れることもできなくなりました。一部の顧客は対応の遅さに我慢ができず同じ質問をするために2度めのメッセージを送ります。サポート依頼を含むすべてのメッセージは、単一の受信トレイフォルダーに格納されます。サポート依頼はソートされておらず、マックス氏は、通常のEメールプログラムを使用してメッセージに回答します。

マックス氏はすべてのメッセージに対して十分に速やかに返信できないため、彼は開発者のジョー氏とジョン氏に助けられています。ジョー氏とジョン氏は同じメールシステムを使い、同じメールボックスにアクセスします。彼らはマックス氏がしばしば一人の不満を持った顧客から2件の全く同じ要求を受けていることに気づいていません。ときどき彼ら二人は全く同じサポート依頼に対して別々に返答をし、顧客は二つの異なる返答を受信してしまうはめになります。その上、マックス氏は彼らの返信の詳細について知りさえしないのです。また彼は、どの問題がより頻繁に起こっているのかといった顧客の問題やそれらの解決の詳細についても、あるいは、顧客サポートにどれほどの時間やお金が使われているかについても気づいてはいません。

会議にて同僚はマックス氏に対して、トラブル・チケット・システムが、如何にマックスが顧客サポートで抱えている問題を解決可能であるかを伝えました。インターネットで情報を調査したのち、マックス氏は、コンピュータにOTRSをインストールすることに決めました。それは彼の顧客と彼の従業員の両者がウェブからアクセスできるものです。現在では顧客のサポート要求はもうマックス氏の個人メールボックスに送られることはなくOTRS用に使用されるメールアカウントに送信されます。チケットシステムはこのメールボックスに接続しすべての顧客の要求をデータベースに保存します。新しい要求毎に、システムは自動的に解答を生成し、それを顧客に送ります。そのため顧客は要求が受信されて速やかに要求に対し解答されるだろうとわかります。OTRSは明確な参照番号、すなわち、チケット番号を生成し、要求毎に対して与えます。現在では顧客は喜んでいきます。なぜなら顧客の要求は認識され、同じ内容の2度目の要求メッセージを送らなくても良くなったからです。マックス氏、ジョン氏そしてジョー氏は現在では、シンプルにウェブからOTRSにログインして顧客の要求に回答しています。システムは回答中のチケットをロックするので、そのメッセージを同時に他の誰かに編集されることはありません。

スミス氏がマックス・カンパニーにサポート要求をして、彼のメッセージがOTRSで処理されたと想像してみましょう。ジョン氏は彼の要求に短い解答をします。しかしスミス氏は彼の質問に対するジョンの解答に対して引き続き質問をしたいと思っています。ジョン氏は多忙のためマックスがスミス氏のメッセージに解答します。マックス氏は、OTRSの履歴機能によってこの要求に関するコミュニケーションの全ての流れを把握することができます。スミス氏は複数のサービス担当者が彼の要求を解決するためにかかわっていることを知らないのですが、彼はマックス氏の最後の解答が到着しその詳細について大変満足しています。

むろん、これはトラブル・チケット・システムのほんのわずかの可能性と特徴を垣間見たに過ぎません。しかし、もしあなたの会社がEメールと電話を通して大量の顧客要求を処理しなければならないならば、そして、もし異なるサービス担当者が異なる時間に対応する必要があるならば、チケット・システムは大変役立つことができます。むろん、これはトラブル・チケット・システムの

ほんのわずかの可能性と特徴を垣間見たに過ぎません。しかし、あなたの会社がEメールと電話を使って大量の顧客要求を処理しなければならないならば、そして、もし異なるサービス担当者が異なる時間に対応する必要があるならば、チケット・システムは大変役立ちます。またチケット・システムは、ワークフロー・プロセスを合理化する助けとなり、効率化を促進し、全体的に生産性を改善します。チケットシステムは柔軟にサポートやヘルプデスク環境を構築することができます。顧客と2人のサービススタッフ間のコミュニケーションはよりわかりやすくなります。最終的な成果は、サービスの効率性が向上することです。そしてきっとその顧客の満足度は、会社により良い財務実績をもたらすことでしょう。

## 1.2. トラブル チケットとは？

トラブル チケットは、病院の患者のために作成した医療レポートに似ています。患者が病院を訪れるとまず、すべての必要な個人と医療情報を保持するために医療レポートが作成されます。何度も通院すると、患者は前回と同じあるいは他の医師に診察され、診察医は、患者の健康及び治療中の処置に関する情報を追加しレポートを更新します。こうすることで他のどの医師や看護スタッフがすぐに患者の状態を完全に把握することができます。患者が回復し退院するとき、医療レポートから得られるすべての情報は保存されレポートは閉じられます。

OTRSのようなトラブル・チケット・システムはトラブル・チケットを通常のEメールのように取り扱います。メッセージはシステムに保存されます。顧客が依頼を送信すると、システムは新しいチケットを生成します。そのようなシステムは新しく作成される医療レポートに相当します。新しいチケットへの応答は、医者が医療レポートへの記入することに似ています。チケットは、回答が顧客へ返送された場合あるいは、チケットがシステムによって個別に閉じられた場合に、完了となります。もし顧客がすでに完了したチケットに再度応答すると、そのチケットは、新しい情報を追加された上で、再対応中となります。全てのチケットは格納され、完全な情報でアーカイブされます。チケットは通常のEメールのように取り扱われ、添付ファイルや文脈上の注釈もまた各Eメールに格納されます。さらに、基準日、従業員関係、チケットの解決に要した作業時間などの情報が保存されます。その後いつでも、チケットはソートされ、検索可能であり、さまざまなフィルタリング・メカニズムを使いすべての情報を分析することができます。

## 2. OTRS ヘルプデスク

この章では、OTRS ヘルプデスク (OTRS) の機能について説明します。OTRSのハードウェアとソフトウェアの要件に関する情報を提供します。さらにこの章では、コミュニティとの連絡方法、そしてもし必要ならOTRSに関する商用サポートを取得する方法を知ることができます。

### 2.1. 基礎

OTRS ヘルプデスク (OTRS) は、ウェブ サーバーにインストールされるウェブアプリケーションです。したがって ウェブ ブラウザーで使用することができます。

OTRS ヘルプデスク (OTRS) は、ウェブ サーバーにインストールされるウェブアプリケーションです。したがって ウェブ ブラウザーで使用することができます。OTRS はいくつかのコンポーネントに分かれています。主なコンポーネントは、アプリケーションとチケット システムのすべての主要機能を含んでいる OTRS フレームワークです。以下のような追加のアプリケーションをインストールすることが可能です。OTRS::ITSM モジュール、ネットワーク監視ソリューションとの統合、知識ベース (サポート技術情報) (FAQ) など。

### 2.2. 機能

OTRSには多くの機能があります。OTRS フレームワークに含まれる主な機能の概要を以下に示します。

#### 2.2.1. ユーザ・インターフェイス

- OTRS には、担当者と顧客用に別々の最新のウェブ インターフェイスが付属します。

- モバイルプラットフォーム、ラティナディスプレイ対応、どのモダンブラウザでも利用可能です
- ウェブインターフェイスは、独自のテーマとスキンでカスタマイズできます。
- 強力でカスタマイズ可能な担当者用ダッシュボードは、個人チケット概要とグラフィカルな統計情報のサポートを実装しています。
- 拡張可能なレポート作成エンジンは、様々な統計とレポートのスケジュール・オプションを提供します。
- プロセス管理でチケット・ベースの独自の画面とプロセス (チケット・ワークフロー) を定義することが可能です。
- OTRS は、権限管理システムを内蔵しており、きめ細かいアクセス制御リスト (ACLs) で拡張することができます。
- 30 以上の言語と異なるタイムゾーンをサポートします。

## 2.2.2. メール・インターフェース

- MIME メール添付ファイル付きのメールをサポートします。
- HTML形式メールをテキスト形式に自動変換します(機密性の高いコンテンツのセキュリティを強化し検索をより高速にします)。
- 受信メールはフィルタリングされ、複雑な規則のある、例えばスパムメッセージまたはキュー配布に対するなどの前処理が可能です。
- キー証明書の管理とメールの処理のための PGP鍵 と S/MIME 準拠のサポート。
- 全てのキューに設定可能な自動応答。
- 新規、フォローアップあるいはロック解除されたチケットに関する担当者へのEメール通知。
- フォローアップ (たとえばコール#、チケット#、あるいはリクエスト#など) を認識するために独自のチケットの識別子を定義することが可能です。さまざまなチケット番号生成器 (日付ベース、ランダムなど) があり、あなたがあなた自身をもそれに統合することができます。フォローアップもまたIn-Reference-To headers (メール参照ヘッダー) または外部チケット番号で認識できます。

## 2.2.3. チケット

- OTRSは、外部、内部に所属している全てのコミュニケーションを収集するためにチケットを用います。これらのチケットは、キューで整理されます。
- 異なる詳細なレベル(小/中/プレビュー)においてシステム内のチケット (キュー、状態、エスカレーションなど) を閲覧するための多くそして異なる方法が用意されています。
- チケットの履歴は、チケットのあらゆる変更を記録します。
- チケットは、さまざまな方法で変更されます。返信、転送、bouncing、別のキューへの移動、属性 (状態、優先度など) の更新、ロック、稼働時間の計算という方法です。チケットの一括変更も可能です。 (bulk action)
- 保留中時間とエスカレーション時間 /SLA 管理は、チケットに関する時間ベースのスケジュール設定と制限を許可します。
- チケットは他のチケットまたは FAQ エントリなどの他のオブジェクトにリンクできます。
- 自動およびタイムアクションのチケットが「GenericAgent」で利用可能です。

- OTRSは、チケットに関する複雑でフルテキストの検索が可能な強力な検索エンジンとなります。

## 2.2.4. システム

- OTRS runs on many operating systems (Linux, Solaris, AIX, FreeBSD, OpenBSD, Mac OS 10.x) and supports several database systems for the central OTRS back-end (MySQL, PostgreSQL, Oracle, MSSQL).
- コア・システムは、OTRSパッケージのインストールにより拡張することができます。OTRSグループのサービス契約顧客が利用可能な機能追加パッケージと同様に、多くの無料のパッケージも (FAQ、OTRS::ITSM他のような)あります。
- 顧客情報用の外部バックエンドの統合 (例えば AD、eDirectoryあるいはOpenLDAP経由)。顧客は、データベース、LDAP、HTTPAuth あるいは Radius によって認証されます。
- 一般インターフェイス (GenericInterface) で、他のウェブサービスにOTRSを接続するのは簡単です。シンプルなウェブサービスによって、プログラムやカスタム拡張による複雑なシナリオなど必要とせずに、統合することができます。OTRSチケット・コネクターは、サードパーティー・アプリケーションのウェブサービスによって、チケットの更新、検索および作成を許可します。

では、次にOTRSの最近のバージョンの変化を見ましょう。

## 2.2.5. OTRS 4 での新機能

### 2.2.5.1. 生産性

- 新しく洗練されたフラットデザインが実装されました。
- 担当者がチケットの注釈に直接返信できるようになりました。オリジナルの注釈が新規注釈の中で引用されます。
- 担当者は すべての画面において内部向けの注釈でテンプレートを利用することが可能です
- Ticket action screens (such as note, owner etc.) now allow to do actions without always creating an article (configurable).
- New ticket overview based on "my services" that an agent can subscribe to. Notification options for new tickets and follow-ups can now be based on "my queues", "my services" or combinations of both.
- OTRSは数千のチケットが表示できるようになりました。
- Customer online list in Dashboard now links directly to CustomerInformationCenter page for the customer.
- Agents can now persistently reorder their main menu with drag&drop.
- Agents and customers can now search tickets by attachment name.
- New Dashboard Widget for running process tickets.
- New search options for the last change time of the ticket.
- Added new screen for outgoing emails on a ticket that are not replies.

### 2.2.5.2. スケーラビリティ & パフォーマンス

- OTRS 4 can handle more concurrent users/requests on the same hardware, and response times for single requests are shorter as well, especially for pages with lots of data.

### 2.2.5.3. 外部システムとの作業

- ジェネリックインターフェイスはネットワークトランスポートプロトコルとして新たにHTTP RESTをサポートします。

### 2.2.5.4. インストールとアドミニストレーション (管理)

- Postmaster filters are no longer limited to 4 match/set fields. They can now have a configurable amount of fields (default 12, up to 99).
- A new configuration option Ticket::MergeDynamicFields makes it possible to specify which dynamic fields should also be merged when a ticket is merged to another ticket.
- Added new options to check dynamic fields of type text on patterns relating to error messages (translated), if they do not match.
- Added new options to restrict dynamic fields of type date/datetime on future or past dates.
- OTRS can be configured to automatically unlock a ticket if articles are added and the owner is out of office.
- Linked tickets of a specific type (e.g. merged or removed) can now be hidden via SysConfig option.
- ACL handling has been improved, made more consistent and easier to debug.
  - Added new ACL option PossibleAdd to add items to a possible list without resetting (like Possible does).
  - Added new ACL value modifiers [Not], [NotRegExp], [Notregexp], for all ACLs parts.
- Process handling has been improved, made more consistent and easier to debug.
  - A new GUID-based entity naming scheme for the OTRS Process configuration makes it possible to safely transfer processes from one system to another without duplicating the entities.
  - Added new Transition Action to create a new ticket.
  - Added possibility to define variable Transition Action attributes based on current process ticket values.
- The possibility to schedule System Maintenance periods is available from the System Administration panel in the Admin interface.
  - A notification about an incoming System Maintenance period will be shown with some (configurable) time in advance.
  - If a System Maintenance is active, a notification about it will be shown on the Agent and Customer interface, and only admin users can log on to the system.
  - An overview screen informs admins about active sessions, which can be ended all on one click or one by one.
- Added possibility to disable sysconfig import via configuration.
- Added Apache MD5 as a new password hashing backend, thanks to Norihiro Tanaka.
- Added the possibility to restrict customer self registration by email address whitelist or blacklist, thanks to Renée Bäcker.

- Added new dashboard module that shows the output of an external command, thanks to ib.pl.

## 2.2.5.5. Development

- New powerful template engine based on Template::Toolkit.
- A central object manager makes creating and using global objects much easier (thanks to Moritz Lenz @ noris network).
- The OPM package format was extended to signal that a package has been merged into another package, allowing the package manager to correctly handle this situation on package installation or update.
- Caching was centralized in one global cache object which also performs in-memory caching for all data.
- Added cache benchmark script, thanks to ib.pl.

## 2.2.6. OTRS 3.3の新たな機能

### 2.2.6.1. 生産性

- ダッシュボード・チケット・リストおよび通常のチケット概要では、適格なチケット列をフィルターし、表示列を構成可能になりました。
- チケット・メディアムおよびプレビュー概要が、ソート可能になりました。
- チケットをイベントとして表示することができるダッシュボード用のカレンダー・ウィジェットを追加しました。
- 状態値およびキュー当たりのチケットの数から、表形式で表示する新しいダッシュボード・ウィジェットの追加。
- 担当者は重要な記事をマークすることができるようになりました。
- 新しいツリー選択ウィジェットは、ツリーデータ（キュー、サービスなど）を用いて作業をより速く、より簡単にします。
- 曜日および日付時刻といった動的なフィールドで、相対日付(例えば1か月以上前)を検索するサポート機能を追加。
- テンプレート(以前は「標準レスポンス」)を指定することができます。新しいチケットの生成および転送のためにも使えます。
- 利用可能なプロセスのリストは、ACLによってフィルターすることができるようになりました。
- カスタマー・インターフェースからのプロセスを始める追加サポート。
- 多くの場合テキストは文字の定数(「Queue1...」...)によって短くはできませんが、利用可能な画面(解像度)によって可能になります。それによって一覧でより多くの情報を見ることができます。
- OTRSがレティナ・ディスプレイ対応となりました。イメージはより高い解像度に適応されています。また、ほとんどのイメージ・アイコンは FontAwesome webfont からのフォント文字と取り替えられました。
- 新機能「管理ダッシュボード」が追加され、ダッシュボード中で統計の図表を表示できるようになりました。ただし、IE8はこの機能をサポートしておりませんのでご注意ください。

## 2.2.6.2. 外部システムとの作業

- OTRSは、複数の顧客会社データベースを使用することができるようになりました。  
(Cyrille@belnet-ictに感謝！)
- OTRSは、顧客ユーザーデータをチケットの動的フィールドに（チケットに永久保存するため）格納するようになりました。これはレポーティングに役立つ場合があります。
- OTRSは、外部システムから受信したEメールを、チケット番号に基づいて既存のチケットへ、正しく割り当てることができるようになりました。
- OTRSは、POP3/TLS接続経由でEメールを取得(fetch)することができるようになりました。

## 2.2.6.3. インストールとアドミニストレーション（管理）

- ウェブインストーラーは、MySQLに加えてのPostgreSQL、オラクルおよびSQLサーバー・データベースの上でOTRSをセットアップできるようになりました。
- OTRSは、MySQL 5.6をフルサポートするようになりました。
- 一般の担当者ジョブが、設定されたチケット・イベントのために実行することができるようになりました。
- 新しいグラフィカルなACLEディターはACL編集をより簡単にします。
- ポストマスター・フィルターによっては、無効にされたフィルター条件を使用することができるようになりました。（Renee Backerに感謝！）
- ポストマスター・フィルターは、関連した滞留日と所有者あるいは、受信するEメールデータに基づく新しいチケットに対する責任者を特定するようになりました。
- 顧客と担当者のパスワードは強力なbcryptアルゴリズムを使って暗号化することができるようになりました。bcryptはSHAより良質です。
- 多くのアイコンはアイコン・フォントを使うことができるようになりました。それによりさまざまな基調色でカスタム・スキンを作成することが容易になりました。

## 2.2.7. OTRS 3.2の新機能

### 2.2.7.1. 顧客をより重視すること

- 新しい「顧客情報センター」は、顧客（会社）に大きなダッシュボードのような概要を提供します。
- 顧客の会社のチケットを、エスカレーション、リマインダー、新規作成、そして対応中にします。
- 顧客ユーザ（連絡先）は、この顧客会社に所属しており、それら個別のチケットカウントと新規チケットを作成するためのショートカットを持っています。
- 顧客会社の総合的なチケット状態のビュー
- 新しい「顧客へのスイッチ」の機能によって、担当者は、必要な許可さえあればその権限に応じて、顧客のパネルを見ることができるようになりました。

### 2.2.7.2. さらにカスタマイズが可能

#### 2.2.7.2.1. 工程管理

- 新しい工程管理 process management は、OTRSの内のプロセスを表わすことを可能にします。

### 2.2.7.2.2. 顧客インターフェースの改良

- 顧客ウェブインターフェースは全面的にAJAXとACLをサポートするようになりました。
- 顧客ウェブインターフェースは、JavaScriptを必要とし、IE6以前バージョンと互換性がなくなりました。
- 顧客インターフェースでは、新しいチケット用にデフォルト・チケット・タイプをセットすることができるようになりました。さらにチケット・タイプを非表示とし、デフォルト値を顧客インターフェース経由で作成されたすべてのチケットに使用することができるようになりました。

### 2.2.7.2.3. 担当者インターフェースの改良

- 担当者は、エスカレーション時間に基づいてチケットを検索することができるようになりました。
- チケット検索のデフォルトで DynamicFields を表示する新しいオプション。
- ポップアップ・ウィンドウ中でスクロールしないようにするためのチケット画面中の画面利用最適化。各チケット画面については、リッチ・テキスト・エディタのサイズは個別に設定できるようになりました。
- 構成オプションを活性化した後に、TicketAction ダイアログ (TicketNote、TicketCloseなど) の内部からの別のキューへの移動が可能になりました。この機能はデフォルトではオフです。
- チケットが1枚しかない場合、チケット検索からチケット・ズーム画面に直接ジャンプするようになりました。
- ブラウザ・ウィンドウに、より多くのデータを調整表示するために役立つ TicketActionCommon ベースの画面から記事のタイプを非表示にする新しい機能。
- 現在利用不可能な担当者をすべてリストする、新しいオフィス不在・ダッシュボード・ウィジェットがあります。
- 新しい CKEditor 4は、リッチ・テキスト内容(HTML Eメールのような)での作業をより簡単で安定させます。

### 2.2.7.2.4. 管理の改善

- イベント・ベースの通知は、特定の記事送信者タイプのためにのみ送信することができます。
- OTRSの中の統計エンジンは、日次、月次、年次にに加えて「週次」を理解するようになりました。これにより、例えば、「先週作成されたチケットのための報告書を作成します。」あるいは1週当たりの1つのキュー当たり作成されたチケットを表示する報告書を生成する、といったことが可能になりました。
- Custom/Kernel/Output/HTML にカスタマイズしたDTL(テンプレート)ファイルを置くことは可能です。そのため、それらはすでにPerlファイルでは稼働しているように、システムのデフォルトのDTLファイルを無効化(override)します。
- AdminSMIME では、人が読める証明書コンテンツを表示することができます。
- SysConfig は、Types Date と DateTime を設定をサポートするようになりました。

### 2.2.7.3. 拡張性の向上

#### 2.2.7.3.1. 改善されたチケットのアーカイブ

- チケットがアーカイブに保管される際、担当者のチケット購読と同様に、担当者が読んだチケットや記事の情報は、削除されます。これはデフォルトで有効で、それにより、多数のチケットや担当者を伴う大規模システムのデータベースのデータ量を減らすことに役立ちます。



- さらに既存のアーカイブに保管されたチケットからこのデータを取り除く、新しいスクリプトがあります。
- アーカイブに保管されたチケットは、担当者には「read」として常に表示されます。

### 2.2.7.3.2. パフォーマンスの改善

- セッション管理は特に多くの活動的なユーザにおいて、10倍近くまで高速化されました。
- サーバー能力過負荷を回避するために担当者および(または)ユーザの数を制限することができるようになりました。
- 担当者および顧客フロント・エンドの中のチケット概要およびチケット・マスク中の実行されたデータベース命令文数の著しい減少。
  - これは、特に大規模システム上で、データベース・サーバ上のロードを軽減するでしょう。ある場合には、OTRSが、明白に、もっと反応が良くなるでしょう(システムがDBロードが遅延によって遅くなった場合)。
- LDAP ユーザ同期のパフォーマンスの改善。
- 多くのキャッシュ・ファイルでキャッシュ・パフォーマンスの改善。

### 2.2.7.4. 相互運用可能性の改善

#### 2.2.7.4.1. GenericInterface (一般インターフェイス)のためのFAQコネクタ

- ウェブサービス (GenericInterface) 経由で FAQモジュール (OTRS知識データベース) のデータにアクセスできるようになりました。例えば、これはあなたの会社ウェブサイト上のFAQ記事を埋め込むのに役立ちます。

## 2.3. ハードウェアとソフトウェアの必要条件

OTRS can be installed on many different operating systems. OTRS can run on linux and on other unix derivates (e.g. OpenBSD or FreeBSD). OTRS does not have excessive hardware requirements. We recommend using a machine with at least a 2 GHz Xeon or comparable CPU, 2 GB RAM, and a 160 GB hard drive for a small setup.

さらに、OTRSを実行するために、ウェブサーバとデータベース・サーバを使用する必要があります。それとは別に、perlをインストールし、かつ、またはいくつかの追加のperlモジュールをOTRSマシンにインストールするべきです。OTRSと同じマシンにウェブサーバとパールをインストールしなければいけません。データベース・バックエンドは、ローカルにあるいは別のホスト上でインストールしても結構です。

ウェブサーバについては、Apache HTTP Serverの利用をお勧めします。そのモジュールmod\_perlがOTRSの性能を非常に改善するためです。それとは別に、OTRSは、Perlスクリプトを実行することができるウェブサーバ上で走らせるべきです。

異なるデータベース上のOTRSを展開させることができます。MySQL、PostgreSQL、OracleあるいはMicrosoft SQL Serverのいずれかを選択可能です。MySQLを使用すれば、ウェブ・フロントエンドによって、インストール中にデータベースおよびいくつかのシステム・セッティングを設定することができるという長所を持ちます。

For Perl, you will need some additional modules which can be installed either with the Perl shell and CPAN, or via the package manager of your operating system (rpm, yast, apt-get).

ソフトウェア必要条件

### 2.3.1. Perlサポート

- Perl 5.10以上

## 2.3.2. ウェブサーバ・サポート

- Apache2 + mod\_perl2、またはそれ以上(推奨)
- CGIサポート(CGIは非推奨)を備えたウェブサーバー

## 2.3.3. データベース・サポート

- MySQL 5.0以上
- MariaDB
- PostgreSQL 8.4 以上
- Oracle 10g以上

Perl・モジュールのインストールに関するマニュアル中のセクションは、OTRSに必要とされるものをどのようにセット・アップすることができるかをより詳細に説明しています。

If you install a binary package of OTRS, which was built for your operating system (rpm), either the package contains all Perl modules needed or the package manager of your system should take care of the dependencies of the Perl modules needed.

## 2.3.4. ウェブブラウザ・サポート

To use OTRS, you'll be OK if you use a modern browser with JavaScript support enabled. Supported browsers are:

- Google Chrome
- Firefox version 10 and higher
- Safari version 5 and higher
- Internet Explorer version 8 and higher, Microsoft Edge

ブラウザの最新バージョンを常に使用することを推奨します。それは最良のJavaScriptとレンダリングパフォーマンスを有するためです。巨大なデータあるいは巨大なシステムでブラウザを使うとそのパフォーマンスに劇的な違いが生じます。その問題に関してご意見頂ければうれしく思います。

## 2.4. コミュニティー

OTRS has a large user community. Users and developers discuss OTRS and exchange information on related issues through the mailing-lists. You can use the mailing lists to discuss installation, configuration, usage, localization and development of OTRS. You can report software bugs in our bug tracking system.

OTRSコミュニティのホームページは次のとおりです:<http://www.otrs.com/open-source/> .

## 2.5. OTRSのためのプロフェッショナル・サービス

Our **OTRS Business Solution™** offers you best professional support from the OTRS team, reliable OTRS security and regular free updates as well as an **exclusive set of additional Business Features** that you can flexibly activate or deactivate according to different deployment scenarios.

**OTRSグループ** は、様々な国々の特定の**トレーニング・プログラム**を提供します。定期的開催する私たちの公のOTRS管理者トレーニングのうちの1つに参加するか、あるいは社内の特定の要求をすべてカバーするための社内トレーニングから利益を享受することもできます。

## 第2章 インストール

This chapter describes the installation and basic configuration of the central OTRS framework. It covers information on installing OTRS from source, or with a binary package such as an RPM.

ここでカバーするトピックは以下を含みます。ウェブおよびデータベース・サーバ、OTRSとデータベースの間のインターフェース、追加の pearl・モジュールのインストール、OTRSのためのセットする適切なアクセス権、OTRSのために cronジョブをセット・アップすること、OTRS設定ファイル中のいくつかの基礎的な設定の構成、です。

本章の詳細なステップに従ってOTRSをサーバにインストールしましょう。インストールが完了したらウェブ・インターフェースを使用してシステムにログインし管理することができます。

### 1. シンプルな方法 - あらかじめ構築されたパッケージのインストール

If available for your platform you should use pre-built packages to install OTRS, since it is the simplest and most convenient method. You can find them in the download area at <http://www.otrs.com>. The following sections describe the installation of OTRS with a pre-built or binary package on SUSE and Red Hat systems. Only if you are unable to use the pre-built packages for some reason should you follow the manual process.

#### 1.1. SUSE Linuxサーバ上でのRPMのインストール

このセクションは、SUSEリナックス・サーバの私たちのRPMのパッケージの設置について記述します。私たちはすべての最近のSLESおよびopenSUSEバージョンに対してテストしました。インストールを始める前に<http://www.otrs.com/downloads>を訪ね、利用可能な最新のOTRS RPMのパッケージを使用しているかをご確認下さい。

##### 1.1.1. OTRS用データベースの準備

異なるデータベース・バックエンドを使用して、OTRSを使用することができます:MySQL、PostgreSQL、オラクルあるいはMicrosoft SQL Server。OTRS上に展開させる最もポピュラーなデータベースはMySQLです。本章は、SUSEベースのサーバ上のMySQLを形成するために取る必要のあるステップを示します。もちろん、もし拡張性あるいは他の目的で必要ならば、データベースを専用データベース・サーバにインストールすることができます。

##### 注記

openSUSE 12.3以上に関する本章に従って、実際にMySQLではなくMariaDB (MySQLコードのMySQL互換フォーク)を代わりにインストールする場合。これは問題ではありません。かえって都合がよく作動するでしょう。(しかもいくつかの点で多少より良いです)

rootとして次のコマンドを実行しMySQLをインストールします:

```
linux:~ # zypper install mysql perl-DBD-mysql
```

デフォルト・オプションが付属したMySQLをシステムにインストールします。それをOTRSに適するようにデフォルトを変更する必要があるでしょう。テキストエディターで、ファイル/etc/my.cnfを開き、コマンド**max\_allowed\_packet**で行を変更し、以下のように一行追加しよう:

```
max_allowed_packet=20M  
query_cache_size=32M
```

まず、データベース・サーバを再起動し、かつこれらの変更を活性化するために**rcmysql restart**を実行します。次に、**/usr/bin/mysql\_secure\_installation**を実行して、データベースrootパスワードをセットし、匿名のアクセスを削除し、テスト・データベースを削除し、スクリーン上の指示に従ってください。最後に、mysqlがサーバ起動時に自動的に開始されることを確かめるために**chkconfig -a mysql**を実行してください。

### 1.1.2. OTRSのインストール

コマンド**zypper**を使用するコマンドラインでOTRSをインストールします。これはApacheのウェブサーバおよびいくつかのパーラ・モジュールのようないくつかの依存性も誘起します。カレント・ディレクトリにOTRS RPMのファイルをコピーしたことを確かめてください。

```
otrs-sles:~ # zypper install otrs-3.3.*.rpm
....
Retrieving package otrs-3.3.3-01.noarch (1/26), 17.5 MiB (74.3 MiB unpacked)
Installing: otrs-3.3.3-01 [done]
Additional rpm output:
Check OTRS user ... otrs added.

Next steps:

[start database and Apache]
Make sure your database is running and execute 'rcapache2 restart'.

[install the OTRS database]
Use a webbrowser and open this link:
http://myserver.example.com/otrs/installer.pl

[OTRS services]
Start OTRS 'rcotrs start-force' (rcotrs {start|stop|status|restart|start-force|
                                stop-force}).

((enjoy))

Your OTRS Team
http://otrs.org/

otrs-sles:~ #
```

図：OTRSをインストールするコマンド

OTRS設置は完了しました。以下のスクリプト中で示されるように、その構成中のOTRS特有の変更をロードするためにウェブサーバを開始してください。さらにサーバのリポート時OTRSが自動的に開始されることを確認するために**chkconfig**を実行してください。

```
otrs-sles:~ # chkconfig -a apache2
apache2          0:off 1:off 2:off 3:on  4:off 5:on  6:off
otrs-sles:~ # rcapache2 start
Starting httpd2 (prefork) httpd2-prefork: Could not reliably determine the server's fully
qualified domain name, using 10.x.x.x for ServerName

done
otrs-sles:~ #
```

スクリプト：ウェブサーバの開始

### 1.1.3. 追加perlモジュールのインストール

OTRSは、RPMによってインストールすることができるモジュールよりさらに幾つか多くのモジュールを必要とします。それらを手動で後からインストールすることができます。/opt/otrsディレクトリにあるbin/otrs.CheckModules.pl スクリプトを実行して、不足しているのがどのモジュールかをチェックすることができます。いくつかのモジュールは、IMAP(S)サー

パーかPDF生成とのコミュニケーションのようなオプションの機能性にだけ必要とされます。SLESではシステムにモジュールを必要とするために外部リポジトリをzypper構成に追加すべきです。OSバージョンに必要とされたモジュールをここから選択してください:<http://download.opensuse.org/repositories/devel:/languages:/perl/>。SLE 11 SP2用にこのようにリポジトリを追加します。

```
zypper ar -f -n perl http://download.opensuse.org/repositories/devel:/languages:/perl/SLE_11_SP2 Perl
```

openSUSE 12.3では、別のリポジトリがMail::IMAPClientモジュールにだけ必要とされます。TLSで安全なIMAPサーバーからメールを集める必要があるときだけ、それを必要とするでしょう。対応する行は以下ご欄ください:

```
zypper ar -f -n perl http://download.opensuse.org/repositories/devel:/languages:/perl/openSUSE_12.3/ Perl
```

このリポジトリ追加後、はじめてzypperを使用時、そのキーを追加するように促されるでしょう。これで以下のように、不足しているモジュールをインストールすることができます。

```
otrs-sles:/opt/otrs # zypper install -y "perl(YAML::LibYAML)"
Refreshing service 'susecloud'.
Retrieving repository 'perl' metadata [\]

New repository or package signing key received:
Key ID: DCCA98DDDCEF338C
Key Name: devel:languages:perl OBS Project <devel:languages:perl@build.opensuse.org>
Key Fingerprint: 36F0AC0BCA9D8AF2871703C5DCCA98DDDCEF338C
Key Created: Wed Oct 10 22:04:18 2012
Key Expires: Fri Dec 19 22:04:18 2014
Repository: perl

Do you want to reject the key, trust temporarily, or trust always? [r/t/a/?] (r): a
Retrieving repository 'perl' metadata [done]
Building repository 'perl' cache [done]
Loading repository data...
Reading installed packages...
'perl(YAML::LibYAML)' not found in package names. Trying capabilities.
Resolving package dependencies...

The following NEW package is going to be installed:
perl-YAML-LibYAML

The following package is not supported by its vendor:
perl-YAML-LibYAML

Retrieving package perl-YAML-LibYAML-0.38-12.4.x86_64 (1/1), 75.0 KiB (196.0 KiB unpacked)
Retrieving: perl-YAML-LibYAML-0.38-12.4.x86_64.rpm [done (55.7 KiB/s)]
Installing: perl-YAML-LibYAML-0.38-12.4 [done]
```

次のステップではこのセクションで記述されるように、ウェブ・インストーラーを使用して、OTRSを構成します。

## 1.2. Red Hat Enterprise Linux あるいは CentOS システムへのOTRSのインストール

このセクションは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)あるいはCentOSサーバー上のRPMのパッケージの構成について記述します。OTRS 3.3以上については、RHEL 6あるいはCentOS 6が必須です、バージョン5はサポートされません。インストールを始める前に、<http://www.otrs.com/downloads>を訪れ、利用可能な最新のOTRS RPMのパッケージを使用しているかを確認してください。

## 1.2.1. OTRS用データベースの準備

異なるデータベースバックエンドを使用して、OTRSを使用することができます: MySQL、PostgreSQL、OracleあるいはMicrosoft SQL Server。OTRSを上に展開させる最もポピュラーなデータベースはMySQLです。本章は、RHELベースのサーバ上のMySQLを構成するために必要なステップを示します。もちろん、拡張性あるいは他の目的に必要なならばデータベースを専用データベース・サーバにインストールすることもできます。

rootとして次のコマンドを実行しMySQLをインストールします:

```
[root@otrs-centos6 ~]# yum -y install mysql-server
```

これは、デフォルト・オプションを持つMySQLをシステムにインストールします。それをOTRSに適しているようにデフォルトを変更する必要があります。テキストエディターで、ファイル/etc/my.cnfを開き、[mysqld]セクションの下の次の2行を追加します:

```
max_allowed_packet=20M
query_cache_size=32M
```

ここで、データベース・サーバを再起動し、かつこれらの変更を活性化するために**service mysqld start**を実行します。次に、**/usr/bin/mysql\_secure\_installation**を実行して、データベースrootパスワードをセットし、匿名のアクセスを削除し、テスト・データベースを削除し、スクリーン上の指示に従ってください。最後に、mysqlがサーバ開始時に自動開始されることを確認するために**chkconfig mysqld on**を実行してください。

## 1.2.2. OTRSのインストール

コマンド**yum**を使用するコマンドラインからOTRSをインストールします。これは、さらにApacheウェブサーバおよびいくつかのPerlモジュールのようないくつかの依存性を誘起するでしょう。カレント・ディレクトリにOTRS RPMのファイルをコピーしたことを確認してください。

```
[root@otrs-centos6 ~]# yum install --nogpgcheck otrs-3.3.*.rpm
...
Dependencies Resolved

=====
Package                Arch   Version                Repository              Size
=====
Installing:
otrs                    noarch 3.3.3-01               /otrs-3.3.3-01.noarch 74 M
Installing for dependencies:
apr                     x86_64 1.3.9-5.el6_2         updates                 123 k
...
procmail                x86_64 3.22-25.1.el6         base                    163 k

Transaction Summary
=====
Install      26 Package(s)

Total size: 80 M
Total download size: 6.0 M
Installed size: 88 M
Downloading Packages:
(1/25): apr-1.3.9-5.el6_2.x86_64.rpm | 123 kB   00:00
...
(25/25): procmail-3.22-25.1.el6.x86_64.rpm | 163 kB   00:00
-----
Total                                887 kB/s | 6.0 MB   00:06
Running rpm_check_debug
Running Transaction Test
Transaction Test Succeeded
```

```

Running Transaction
  Installing : apr-1.3.9-5.el6_2.x86_64                1/26
  ...
  Installing : otrs-3.3.3-01.noarch                    26/26
Check OTRS user ... otrs added.

Next steps:

[httpd services]
Restart httpd 'service httpd restart'

[install the OTRS database]
Make sure your database server is running.
Use a web browser and open this link:
http://myserver.example.com/otrs/installer.pl

[OTRS services]
Start OTRS 'service otrs start' (service otrs {start|stop|status|restart}).

((enjoy))

Your OTRS Team

Installed:
  otrs.noarch 0:3.3.3-01

Dependency Installed:
  ...

Complete!
[root@otrs-centos6 ~]#

```

図：OTRSをインストールするコマンド

OTRS設置は完了しました。ここでApacheが開始し、サーバがリブートする場合は常に、Apacheが開始することを確認すべきです。

```

[root@otrs-centos6 ~]# chkconfig httpd on
[root@otrs-centos6 ~]# service httpd start
Starting httpd: httpd: Could not reliably determine the server's fully qualified domain
name, using 10.x.x.x for ServerName [ OK ]
[root@otrs-centos6 ~]#

```

スクリプト：ウェブサーバの開始

### 1.2.3. 追加perlモジュールのインストール

OTRSは、RPMによってインストールすることができるよりさらに幾つかのモジュールを必要とします。それらを手動で後でインストールすることができます。/opt/otrsディレクトリーにあるbin/otrs.CheckModules.plスクリプトを実行して、不足しているのがどのモジュールかをチェックすることができます。いくつかのモジュールは、IMAP(S)サーバーかPDF生成とのコミュニケーションのようなオプションの機能性にのみ必要とされます。Red HatまたはCentOSの上でEPELリポジトリからのこれらのモジュールのインストールを推奨します。そのリポジトリは、RHELとその派生のための高品質パッケージを供給しているFedora projectによって維持管理されています。より詳細な情報は以下を御覧ください。[the EPELウェブサイト](#)。

RHEL 6あるいはCentOS 6をご利用の場合、EPELのために最新のパッケージを得ることができます。[このサイト](#)から。このページで見つけたRPM URLをコピーして、このコマンドを実行することによって、このリポジトリをyumに追加できます：

```

[root@otrs-centos6 otrs]# yum -y install http://download.fedoraproject.org/pub/epel/6/i386/epel-release-6-8.noarch.rpm
Loaded plugins: security
Setting up Install Process
epel-release-6-8.noarch.rpm | 14 kB 00:00

```

```
Examining /var/tmp/yum-root-7jrJef/epel-release-6-8.noarch.rpm: epel-release-6-8.noarch
Marking /var/tmp/yum-root-7jrJef/epel-release-6-8.noarch.rpm to be installed
Resolving Dependencies
--> Running transaction check
---> Package epel-release.noarch 0:6-8 will be installed
--> Finished Dependency Resolution

Dependencies Resolved

=====
Package                Arch          Version      Repository    Size
=====
Installing:
epel-release           noarch       6-8          /epel-release-6-8.noarch 22 k

Transaction Summary
=====
Install      1 Package(s)

Total size: 22 k
Installed size: 22 k
Downloading Packages:
Running rpm_check_debug
Running Transaction Test
Transaction Test Succeeded
Running Transaction
  Installing : epel-release-6-8.noarch      1/1
  Verifying  : epel-release-6-8.noarch      1/1

Installed:
epel-release.noarch 0:6-8

Complete!
[root@otrs-centos6 otrs]#
```

このリポジトリを追加後、yumの初回使用時、そのキーを加えるように促されます。ここで不足しているモジュールを以下のようにインストールすることができます。

```
[root@otrs-centos6 otrs]# yum -y install "perl(Text::CSV_XS)"
Loaded plugins: security
Setting up Install Process
Resolving Dependencies
--> Running transaction check
---> Package perl-Text-CSV_XS.x86_64 0:0.85-1.el6 will be installed
--> Finished Dependency Resolution

Dependencies Resolved

=====
Package                Arch          Version      Repository    Size
=====
Installing:
perl-Text-CSV_XS       x86_64       0.85-1.el6   epel          71 k

Transaction Summary
=====
Install      1 Package(s)

Total download size: 71 k
Installed size: 154 k
Downloading Packages:
perl-Text-CSV_XS-0.85-1.el6.x86_64.rpm | 71 kB    00:00
warning: rpmts_HdrFromFdno: Header V3 RSA/SHA256 Signature, key ID 0608b895: NOKEY
Retrieving key from file:///etc/pki/rpm-gpg/RPM-GPG-KEY-EPEL-6
Importing GPG key 0x0608B895:
  Userid : EPEL (6) <epel@fedoraproject.org>
  Package: epel-release-6-8.noarch (@/epel-release-6-8.noarch)
  From   : /etc/pki/rpm-gpg/RPM-GPG-KEY-EPEL-6
Is this ok [y/N]: y
Running rpm_check_debug
```



```
Running Transaction Test
Transaction Test Succeeded
Running Transaction
  Installing : perl-Text-CSV_XS-0.85-1.el6.x86_64      1/1
  Verifying  : perl-Text-CSV_XS-0.85-1.el6.x86_64      1/1

Installed:
  perl-Text-CSV_XS.x86_64 0:0.85-1.el6

Complete!
[root@otrs-centos6 otrs]#
```

次のステップではこのセクションで記述されるように、ウェブ・インストーラーを使用して、OTRSを構成します。

## 1.2.4. Red HatまたはCentOSでのOracleデータベース・ドライバのインストール

Oracleデータベース上のOTRSを展開させたいければ、DBD::Oracleデータベース・ドライバをコンパイルし、インストールする必要があります。これは他のどのパッケージのインストールよりわずかに複雑です;これはオラクルが所有権のあるデータベースであり、Red HatもCentOSもRPMレゴジトリにドライバを配布することが許可されないプロジェクトだからという理由だからです。

まず、ドライバーをコンパイルしインストールできるように、gcc, make 及び CPANをインストールする必要があります。以下、CentOSに関するコマンドを見てみましょう;他のバージョンにおいては、それが少し異なっているように見えるかもしれません。

```
[root@otrs-centos6 otrs]# yum -y install gcc make "perl(CPAN)"
```

次のステップは、データベース・クライアントを入手しインストールすることです。これについては、オラクルのウェブサイトで無料アカウントのサインアップをする必要があるでしょう。このページからドライバをダウンロードすることができます: <http://www.oracle.com/technetwork/database/features/instant-client/index-097480.html> システムのアーキテクチャーに対応するLinux x86 か x86-64バージョンを選んでください。コマンド**uname -i**でこれをチェックすることができます。それは、x86-64のための「x86\_64」あるいはx86のための「i386」のいずれかです。以下のパッケージをダウンロードするべきです: 'Instant Client Package - Basic', 'Instant Client Package - SQL\*Plus', and 'Instant Client Package - SDK'。それらをディスクに保存してください。ここで、rootユーザーとして、次のコマンドを使用して、パッケージをインストールすることができます:

```
[root@otrs-centos6 otrs]# yum install oracle-instantclient*
```

この後、2つの環境変数をセットし、DBD::Oracleドライバーをコンパイルするべきです。再び、rootユーザーとしてこれらのタスクを行なってください。以下にステップを概説します。コマンドが除去されたことで出力行が数行短くなっていることにお気づき下さい。

```
[root@otrs-centos6 otrs]# export ORACLE_HOME=/usr/lib/oracle/11.2/client64
[root@otrs-centos6 otrs]# export LD_LIBRARY_PATH=$ORACLE_HOME/lib
[root@otrs-centos6 otrs]# cpan
cpan[1]> look DBD::Oracle
...
Fetching with LWP:
  http://www.perl.org/CPAN/authors/id/P/PY/PYTHIAN/CHECKSUMS
Checksum for /root/.cpan/sources/authors/id/P/PY/PYTHIAN/DBD-Oracle-1.62.tar.gz ok
Scanning cache /root/.cpan/build for sizes
DONE
...
Working directory is /root/.cpan/build/DBD-Oracle-1.62-ZH6LNy
[root@localhost DBD-Oracle-1.62-ZH6LNy]# perl Makefile.PL
...
```

```
[root@localhost DBD-Oracle-1.62-ZH6LNy]# make
...
[root@localhost DBD-Oracle-1.62-ZH6LNy]# make install
...
cpan[2]> exit
Terminal does not support GetHistory.
Lockfile removed.
```

ここで、ORACLE\_HOMEを提供するファイル Kernel/Config.pmを編集すべきです。次のステップはこのセクションで記述されるように、ウェブ・インストーラを使用して、OTRSを構成することです。

## 1.3. Debian または Ubuntuシステム上でのOTRSのインストール

### 重要

OTRSはソースからインストールして下さい。Debian/Ubuntuが提供するOTRSパッケージを使用しないで下さい。

利用可能なパッケージを使用すれば、必要なPerlモジュールのインストールはより容易です:

```
apt-get install libapache2-mod-perl2 libdbd-mysql-perl libtimedate-perl libnet-dns-perl \
libnet-ldap-perl libio-socket-ssl-perl libpdf-api2-perl libdbd-mysql-perl libsoap-lite-
perl \
libgd-text-perl libtext-csv-xs-perl libjson-xs-perl libgd-graph-perl libapache-dbi-perl
```

## 2. ソース (Linux,Unix)からのインストレーション

### 2.1. ステップ1 : .tar.gzファイルのインストール

If you want to install OTRS from source, first download the source archive as .tar.gz, .tar.bz2, or .zip file from <http://www.otrs.com/try/>

アーカイブをディレクトリー/optへ解凍して(例えば、tarを使用して)、ディレクトリーを otrs-x.x.x から otrs へ改名してください(下記のスクリプトを参照)。

```
shell> tar xzf /tmp/otrs-x.x.x.tar.gz
shell> mv otrs-x.x.x /opt/otrs
```

### 2.2. ステップ2 : Perlモジュールの追加インストール

Use the following script to get an overview of all installed and required cpan modules.

```
shell> perl /opt/otrs/bin/otrs.CheckModules.pl
o CGI.....ok (v3.60)
o Crypt::PasswdMD5.....ok (v1.3)
o Crypt::SSLeay.....Not installed! (Optional - Required for Generic Interface
SOAP SSL connections.)
o CSS::Minifier.....ok (v0.01)
o Date::Format.....ok (v2.22)
o Date::Pcalc.....ok (v1.2)
...
```

To install missing Perl modules, you can:

## 2.2.1. a) Install the packages via the package manager of your Linux distribution

- For Red Hat, CentOS, Fedora or compatible systems:

```
shell> yum install "perl(Digest::MD5)"
```

- For SUSE Linux Enterprise Server, openSUSE or compatible systems: first determine the name of the package the module is shipped in. Usually the package for My::Module would be called "perl-My-Module".

```
shell> zypper search Digest::MD5
```

Then install:

```
shell> zypper install perl-Digest-MD5
```

- For Debian, Ubuntu or compatible systems first determine the name of the package the module is shipped in. Usually the package for My::Module would be called "libmy-module-perl".

```
shell> apt-cache search Digest::MD5
```

Then install:

```
shell> apt-get install libdigest-md5-perl
```

Please note that it might be that you can't find all modules or their required versions in your distribution repository, in that case you might choose to install those modules via CPAN (see below).

## 2.2.2. b) Install the required modules via the CPAN shell

Note that when you're on Linux you should run CPAN as your superuser account because the modules should be accessible both by the OTRS account and the account under which the web server is running.

```
shell> perl -MCPAN -e shell;
...
install Digest::MD5
install Crypt::PasswdMD5
...
```

Any optional modules listed by the script should be installed depending on the special requirements of the target system.

## 2.3. ステップ3 : OTRSユーザーの作成

Create user:

```
shell> useradd -d /opt/otrs -c 'OTRS user' otrs
```

Add user to webserver group (if the webserver is not running as the OTRS user):

```
shell> usermod -G www otrs  
(SUSE=www, Red Hat/CentOS/Fedora=apache, Debian/Ubuntu=www-data)
```

## 2.4. ステップ4：初期設定ファイルの有効化

There are two OTRS config files bundled in `$OTRS_HOME/Kernel/*.dist` and `$OTRS_HOME/Kernel/Config/*.dist`. You must activate them by copying them without the ".dist" filename extension.

```
shell> cd /opt/otrs/  
shell> cp Kernel/Config.pm.dist Kernel/Config.pm  
shell> cp Kernel/Config/GenericAgent.pm.dist Kernel/Config/GenericAgent.pm
```

## 2.5. ステップ5：必須モジュールのインストール状況確認

```
shell> perl -cw /opt/otrs/bin/cgi-bin/index.pl  
/opt/otrs/bin/cgi-bin/index.pl syntax OK  
  
shell> perl -cw /opt/otrs/bin/cgi-bin/customer.pl  
/opt/otrs/bin/cgi-bin/customer.pl syntax OK  
  
shell> perl -cw /opt/otrs/bin/otrs.PostMaster.pl  
/opt/otrs/bin/otrs.PostMaster.pl syntax OK
```

"syntax OK" tells you all mandatory perl modules are installed.

## 2.6. ステップ6：Apache Webサーバーの設定

第一に、Apache2ウェブサーバおよびmod\_perlをインストールするべきです;典型的にはシステム・パッケージ・マネージャーからこれをします。以下の、最も人気のあるLinuxディストリビューション上でApacheを設定するために必要なコマンドをご覧ください。

```
# rhel / centos:  
shell> yum install httpd mod_perl  
  
# suse:  
shell> zypper install apache2-mod_perl  
  
# debian/ubuntu:  
shell> apt-get install apache2 libapache2-mod-perl2
```

To access the web interface of OTRS via a short URL, Alias and ScriptAlias entries are needed. Most Apache installations have a `conf.d` directory included. On Linux systems you can usually find this directory under `/etc/apache` or `/etc/apache2`. Log in as root, change to the `conf.d` directory and link the appropriate template in `/opt/otrs/scripts/apache2-httpd.include.conf` to a file called `zzz_otrs.conf` in the Apache configuration directory (to make sure it is loaded after the other configurations)..

Restart your web server to load the new configuration settings. On most systems you can start/restart your web server with the command `/etc/init.d/apache2 restart`.

ここで、ウェブサーバはOTRS用に構成されるべきです。

## 2.7. ステップ7：ファイル権限

File permissions need to be adjusted to allow OTRS to read and write files:

`otrs.SetPermissions.pl [ --otrs-user= OTRS user, defaults to 'otrs'] { --web-group= group of the web server user}`

For example:

- Web server which runs as the OTRS user:

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-user=otrs
```

- Webserver with wwwrun user (e. g. SUSE):

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-group=wwwrun
```

- Webserver with apache user (e. g. Red Hat, CentOS):

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-group=apache
```

- Webserver with www-data user (e. g. Debian, Ubuntu):

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-group=www-data
```

## 2.8. ステップ8 : データベースのセットアップとシステムの基本設定

Please use the web installer at <http://yourhost/otrs/installer.pl> (replace "yourhost" with your OTRS hostname) to setup your database and basic system settings such as email accounts.

## 2.9. ステップ9 : はじめてのログイン

Now you are ready to login to your system at <http://yourhost/otrs/index.pl> with the credentials you configured in the web installer (User: root@localhost).

With this step, the basic system setup is finished.

## 2.10. ステップ10 : はじめての電子メール

To check email reception, you can pipe an email directly into `/opt/otrs/bin/otrs.Postmaster.pl`:

```
shell> cat /opt/otrs/doc/sample_mails/test-email-1.box | /opt/otrs/bin/otrs.PostMaster.pl
```

## 2.11. ステップ11 : OTRSユーザーのcronジョブ

There are several OTRS default cronjobs in `/opt/otrs/var/cron/*.dist`. They can be activated by copying them without the ".dist" filename extension.

```
shell> cd var/cron
shell> for foo in *.dist; do cp $foo `basename $foo .dist`; done
```

To schedule these cronjobs on your system, you can use the script `Cron.sh`. Make sure to execute it as the OTRS system user!

Scheduling the cronjobs for the first time:

```
shell> /opt/otrs/bin/Cron.sh start
```

Updating the cronjob schedules if you made changes:

```
shell> /opt/otrs/bin/Cron.sh restart
```

Stopping the cronjobs (useful for maintenance):

```
shell> /opt/otrs/bin/Cron.sh stop
```

Note: From OTRS 3.3.7 on OTRS Scheduler uses a cronjob to start-up and keep alive. Please make sure that scheduler\_watchdog cronjob is activated.

## 2.12. ステップ12：その他の情報

We advise you to read the OTRS performance tuning chapter.

If you encounter problems with the installation, you can send a message to our mailing list [otrs@otrs.org](mailto:otrs@otrs.org) (<http://lists.otrs.org/>).

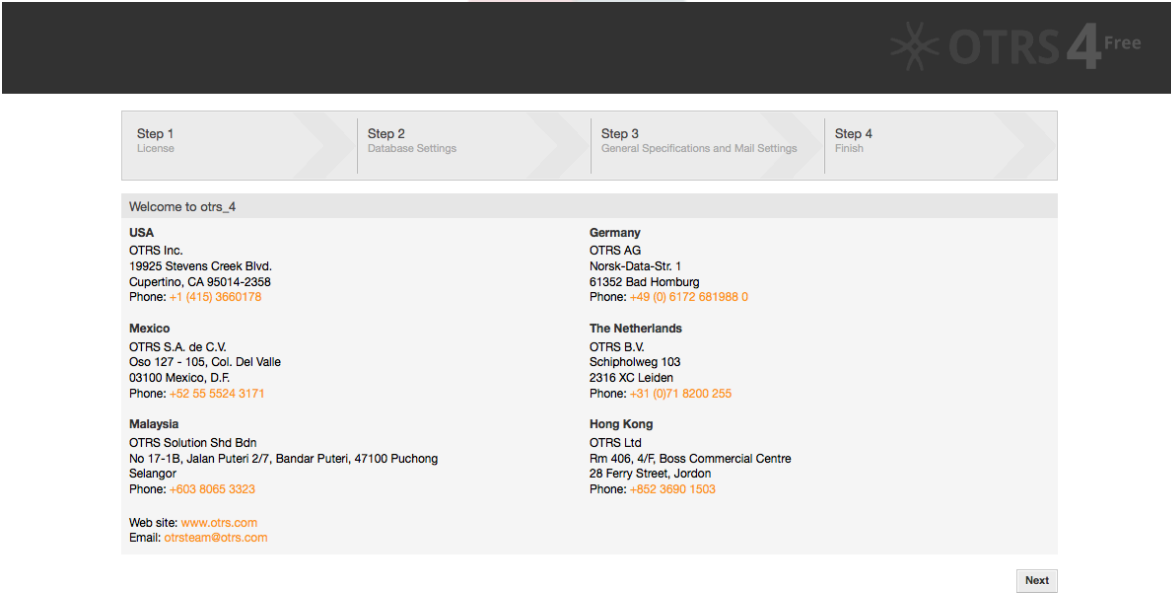
You can also ask the OTRS Group to either help you in planning or deploying OTRS, or review your installed OTRS system. Our [professional services](#) are designed to help you deploy OTRS faster and to get the most benefit out of OTRS.

## 3. ウェブ・インストーラの使用

OTRSデータベースをセット・アップおよび構成するためにOTRSソフトウェアをインストールした後、OTRSウェブ・インストーラを使用することができます。ウェブ・インストーラはブラウザから訪れることができるウェブ・ページです。ウェブ・インストーラ用のURLは<http://localhost/otrs/installer.pl>です。

ウェブ・インストーラが開始したらシステムをセットアップする次のステップにしたがってください。

1. OTRSオフィスに関する情報をチェックして、次に進むをクリックします（下図参照）。



OTRS 4 Free

Step 1 License   Step 2 Database Settings   Step 3 General Specifications and Mail Settings   Step 4 Finish

Welcome to otrs\_4

**USA**  
OTRS Inc.  
19925 Stevens Creek Blvd.  
Cupertino, CA 95014-2358  
Phone: +1 (415) 3660178

**Mexico**  
OTRS S.A. de C.V.  
Oso 127 - 105, Col. Del Valle  
03100 Mexico, D.F.  
Phone: +52 55 5524 3171

**Malaysia**  
OTRS Solution Shd Bdn  
No 17-1B, Jalan Puteri 2/7, Bandar Puteri, 47100 Puchong  
Selangor  
Phone: +603 8065 3323

Web site: [www.otrs.com](http://www.otrs.com)  
Email: [otrsteam@otrs.com](mailto:otrsteam@otrs.com)

**Germany**  
OTRS AG  
Norsk-Data-Str. 1  
61352 Bad Homburg  
Phone: +49 (0) 6172 681988 0

**The Netherlands**  
OTRS B.V.  
Schipholweg 103  
2316 XC Leiden  
Phone: +31 (0)71 8200 255

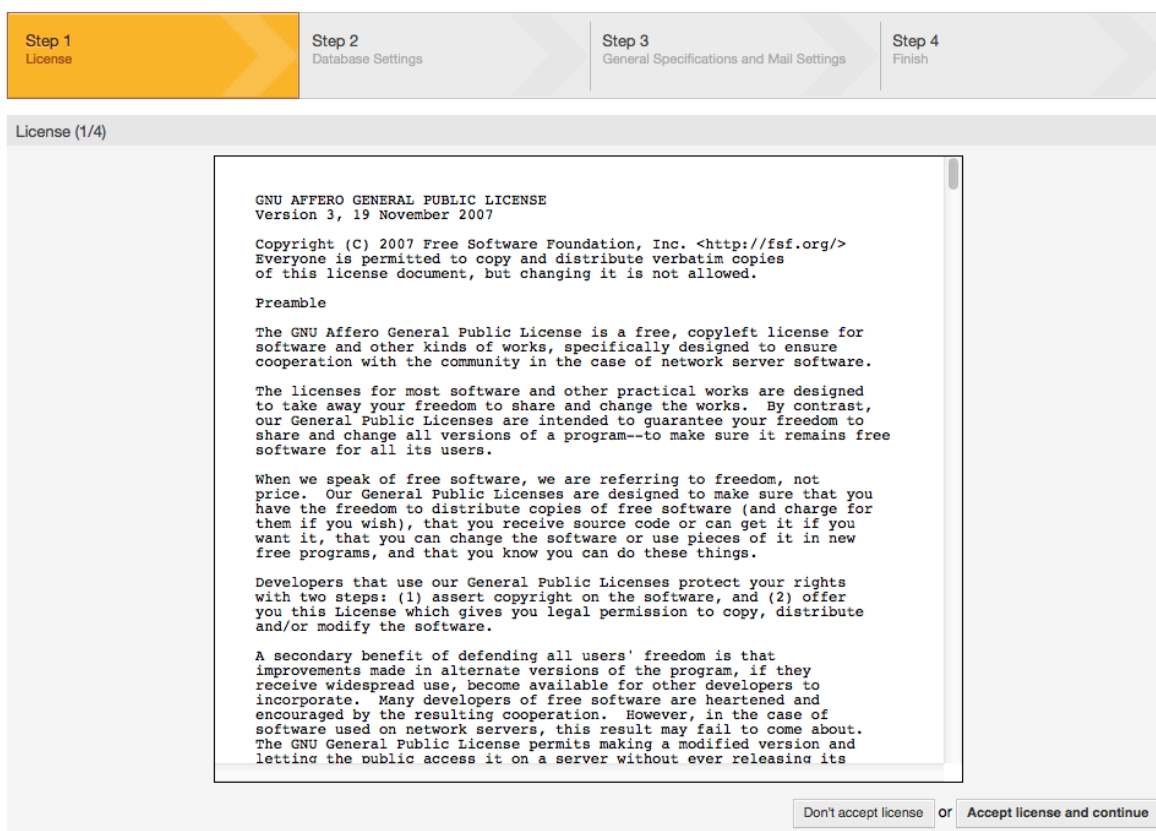
**Hong Kong**  
OTRS Ltd  
Rm 406, 4/F, Boss Commercial Centre  
28 Ferry Street, Jordan  
Phone: +852 3690 1503

Next

Powered by OTRS 4

図：ウェルカム画面

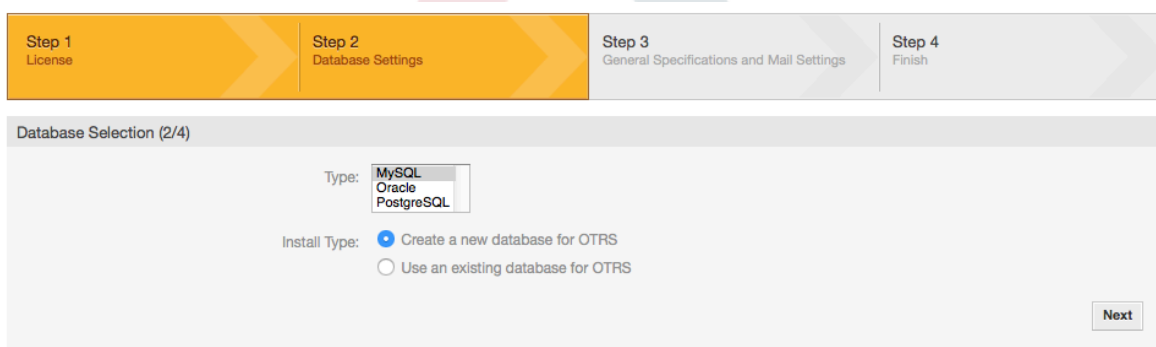
2. Read the GNU GENERAL PUBLIC LICENSE (see Figure below) and accept it, by clicking the corresponding button at the bottom of the page.



The screenshot shows the 'License' step (Step 1) of the OTRS installation process. The progress bar at the top indicates four steps: Step 1 License, Step 2 Database Settings, Step 3 General Specifications and Mail Settings, and Step 4 Finish. The main content area displays the text of the GNU AFFERO GENERAL PUBLIC LICENSE, Version 3, dated 19 November 2007. At the bottom right, there are two buttons: 'Don't accept license' and 'Accept license and continue', with the word 'or' between them.

Figure: GNU GENERAL PUBLIC LICENSE.

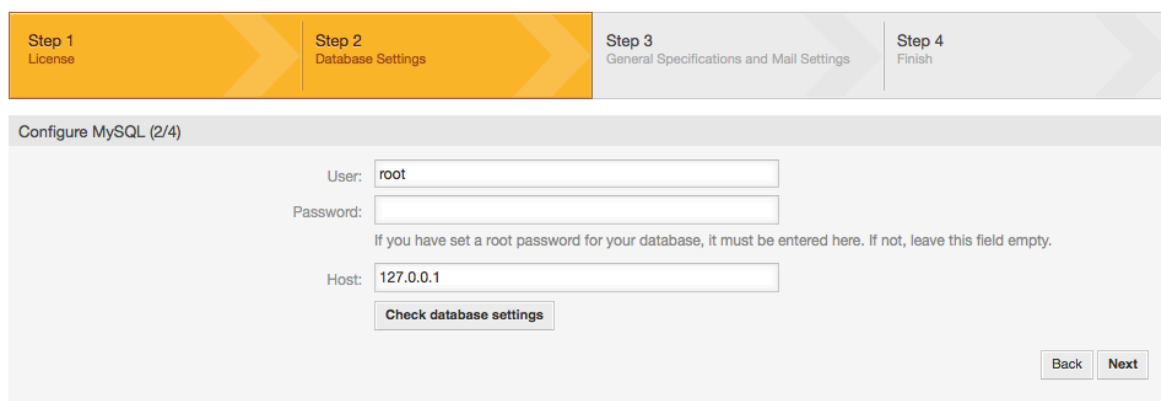
3 OTRSで使いたいデータベースを選択します。データベースとして、MySQL、PostgreSQL あるいは Microsoft SQL Serverを選択する場合、また、データベースを作成するためにウェブ・インストーラーが必要ならば、あるいはデータベース管理者が、使いたい空のデータベースを既に作成していれば、ここで選択することもできます。その後、次ボタンをクリックしてください(下記の図を参照)。



The screenshot shows the 'Database Selection' step (Step 2) of the OTRS installation process. The progress bar at the top shows Step 1 License, Step 2 Database Settings, Step 3 General Specifications and Mail Settings, and Step 4 Finish. The main content area has a 'Type:' label with a dropdown menu showing 'MySQL', 'Oracle', and 'PostgreSQL'. Below that, there are two radio buttons for 'Install Type': 'Create a new database for OTRS' (which is selected) and 'Use an existing database for OTRS'. A 'Next' button is located at the bottom right.

図：データベース選択

4. 選んだデータベースによって、および、データベースを作成するためにウェブ・インストーラーを必要とするか、または、前ステップの既存のものを使用するか、によって、この画面は少し異なるかもしれません。この画面でデータベース用に認証情報を入力してください。

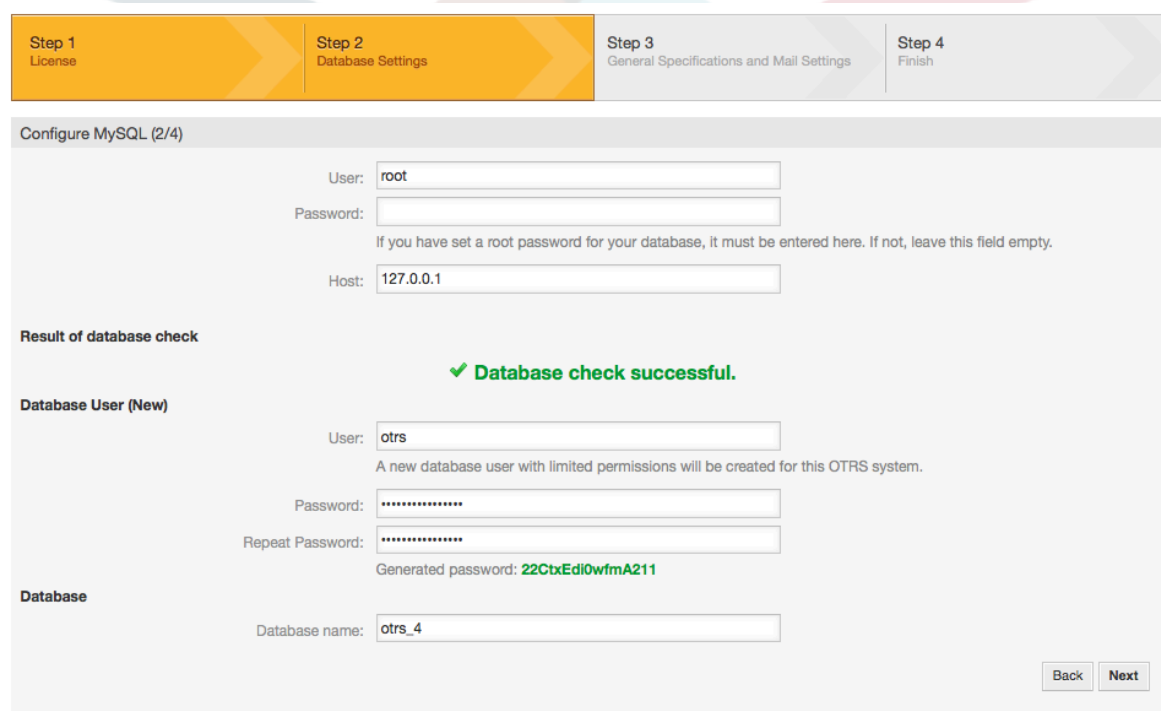


図：データベース認証情報

5. 新規データベースユーザを作成し、データベース名を選択し、「次」をクリックして下さい（下図参照）。

## 警告

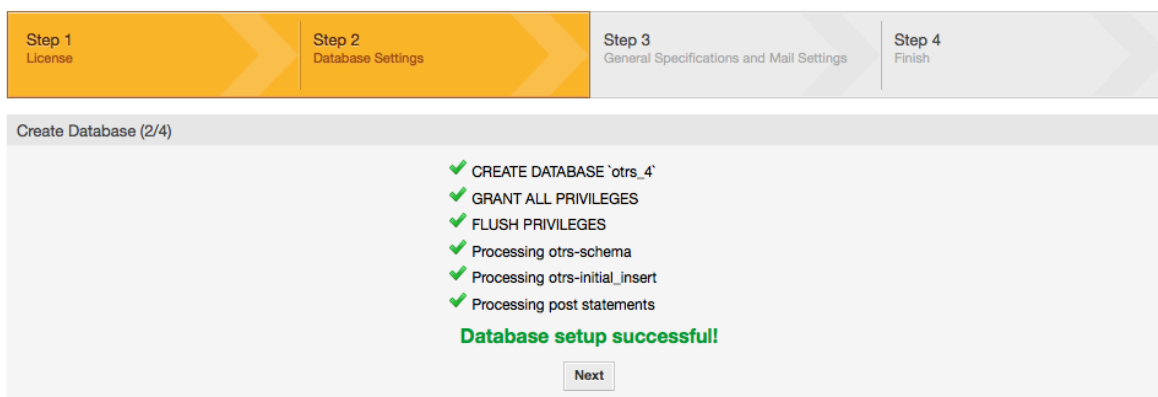
OTRSは、強いパスワードを生成します。望めば自分のパスワードを入力することも可能です。パスワードは構成ファイルKernel/Config.pmに書かれるのでこのパスワードを思い出す必要はありません。



図：データベース設定

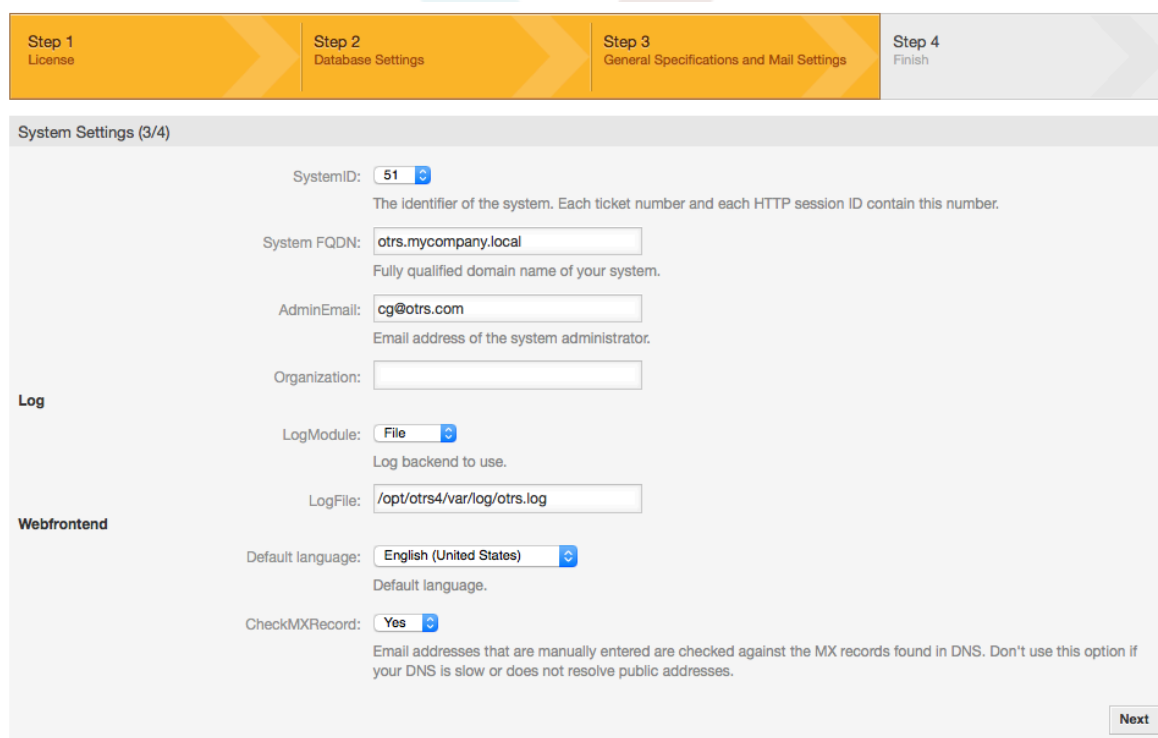
6. 必要ならデータベースは作成され、この図で示されるように追加されます。次のスクリーンに行くために「次へ」をクリックしてください。





図：データベース設定の成功

7. 必要なすべてのシステム設定を提供し、「次に」をクリックしてください(下図参照)。



図：システム設定

8. 希望するならば、受信、発信メールを構成する必要なデータを提供し、あるいは、画面の下部を右クリックを押すことでこのステップを割愛します。(下図参照)。

Step 1 License	Step 2 Database Settings	Step 3 General Specifications and Mail Settings	Step 4 Finish
-------------------	-----------------------------	--	------------------

Mail Configuration (3/4)

**Configure Outbound Mail**

Outbound mail type:  Select outbound mail type.

Outbound mail port:  Select outbound mail port.

SMTP host:  SMTP host.

SMTP authentication:  Does your SMTP host need authentication?

**Configure Inbound Mail**

Inbound mail type:  Select inbound mail type.

Inbound mail host:  Inbound mail host.

Inbound mail user:  User for inbound mail.

Inbound mail password:  Password for inbound mail.

or

図：メール構成

9. おめでとうございます! これで、OTRSのインストールは終了です。そして、システムで稼働できるに違いありません(下記の図を参照)。OTRSのウェブ・インターフェースにログインするために、ブラウザからアドレス<http://localhost/otrs/index.pl>を使用します。ユーザー名 'root@localhost' および生成されたパスワードを使用して、OTRS管理者としてログインしてください。その後、要求を満たすシステムを構成することができます。

### 警告

'root@localhost' アカウント用に生成したパスワードを書き留めておいて下さい。

Step 1 License	Step 2 Database Settings	Step 3 General Specifications and Mail Settings	Step 4 Finish
-------------------	-----------------------------	--	------------------

Finished (4/4)

Start page: <http://localhost/otrs4/index.pl>

User: root@localhost

Password: **GIYmDVoeE1kTICMP**

((enjoy))  
Your OTRS Team

図：ウェブ・インストラー最終画面

## 4. Windows版のOTRS

OTRS can be run on a wide range of system platforms, including Enterprise Linux Platforms such as Red Hat Enterprise Linux, and SUSE Linux Enterprise Server, as well as a series of other Linux derivatives.

However, when running OTRS on Windows platforms we have encountered repeated performance losses, and despite an exhaustive analysis, it has not been possible to solve these issues to our satisfaction due to technical differences. It is thus with a heavy heart that we have ceased development on our Windows Installer and the OTRS Appliance due to the currently limited availability of necessary third-party components offered by other vendors.

Under these circumstances, we are not able to guarantee the continuing operation of OTRS on Windows platforms, and therefore recommend migrating to one of the Linux platforms mentioned above or recommend using our **OTRS Business Solution™ Managed**.

To make it easier for you to migrate from Windows to Linux and to offer you the best OTRS performance, we have prepared detailed instructions for you here.

## 4.1. How to migrate existing Windows installations to Linux

### 4.1.1. Introduction and preparation

If you have a windows based installation and you would like to change to a linux based system you will need to setup a linux server or virtual machine and install OTRS there (see the installation instructions). This will be the target system for the migration.

### 4.1.2. Get OTRSCloneDB script to clone databases

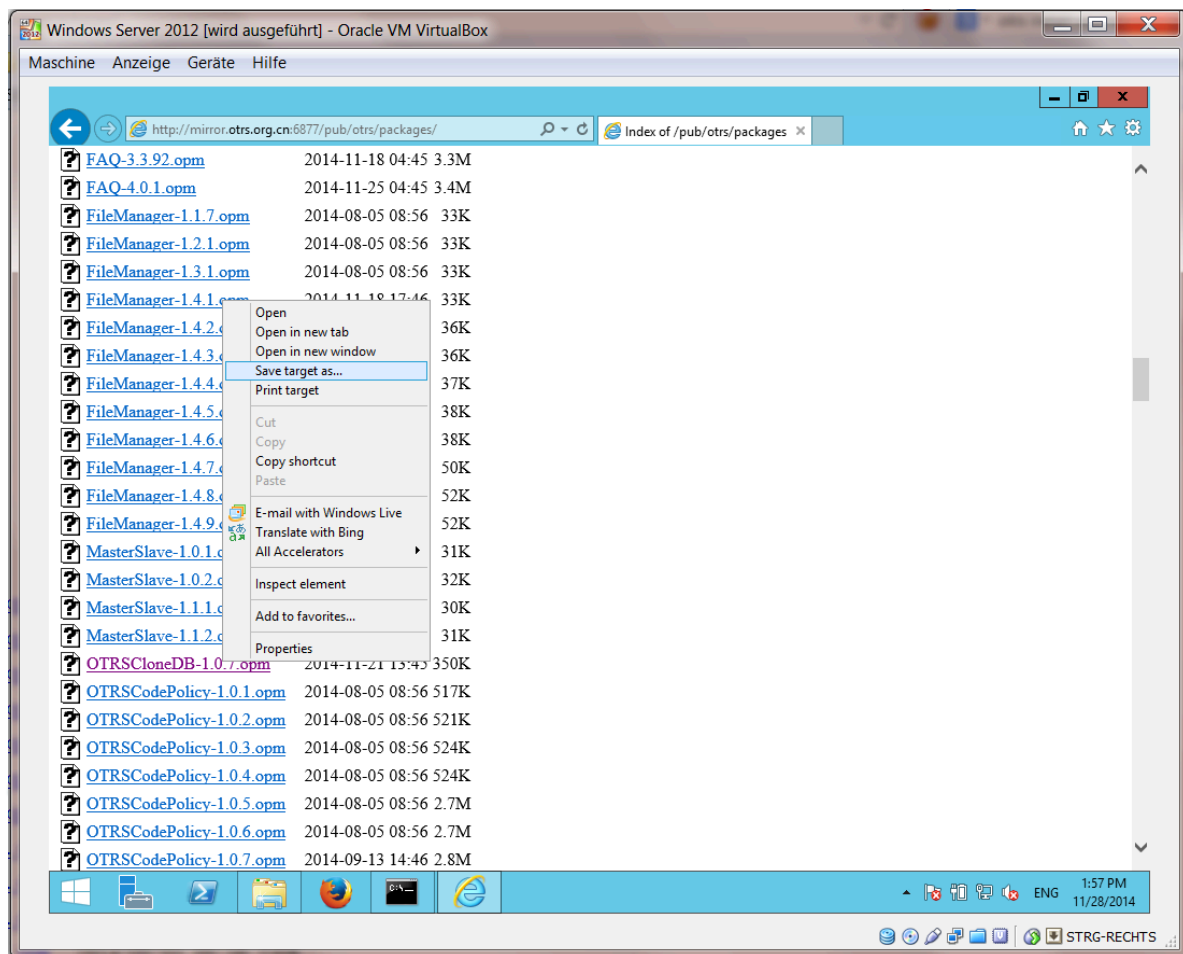
Please go to the admin menu of the windows based system and install the newest version of OTRSCloneDB package into your OTRS:

You can install the OTRSCloneDB package directly from the package manager. Select "OTRS Extensions" from the dropdown list on the left and click on the button "Update repository information" below. Then the OTRSCloneDB package will be shown in a list where you can click on "Install".

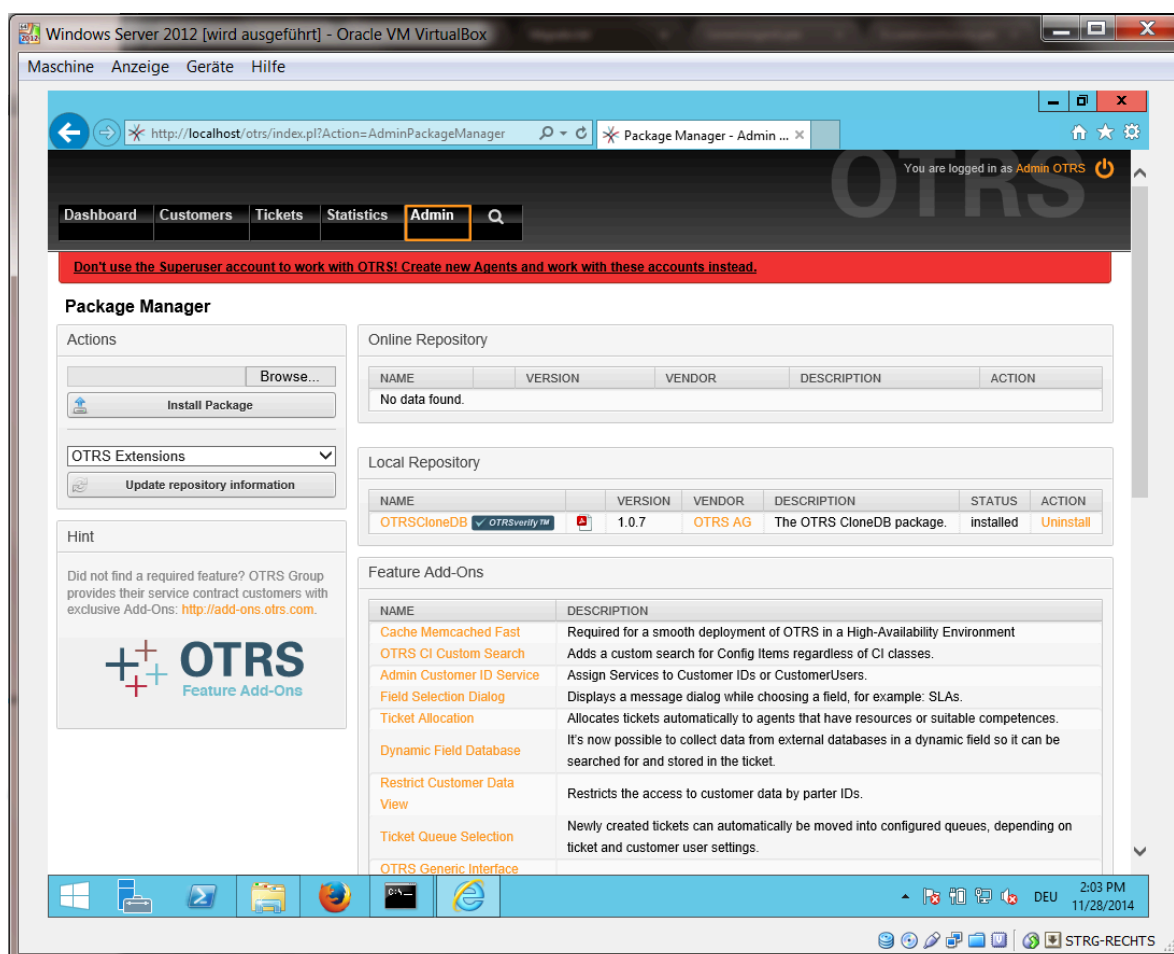
You could also download the package manually from the OTRS FTP server and install the package manually as described below. <http://ftp.otrs.org/pub/otrs/packages/>

Please download the package with the highest version number:

```
OTRSCloneDB-1.0.10.opm
```



and install it to your windows based installation:



It is also no problem if you have installed some additional features or custom developments on your OTRS. You just need to take care that all of your installed packages are also compatible with unix based systems. For packages provided by OTRS this is the case.

### 4.1.3. Enable remote access for the postgresql database of target system

The OTRSCloneDB script will copy the database data over the network, so we need to enable remote access to the database. The setup is different for the different databases, we will describe opening remote access for a postgresql database here.

After logging into your target system via SSH you need to change into the postgresql directory:

```
shell> cd /etc/postgresql/9.4/main
shell> vi postgresql.conf
```

Add the following line at the end of the file:

```
listen_addresses = '*'
```

Save the file.

```
shell> vi pg_hba.conf
```

Add the following line at the end of the file:

```
host all all 0.0.0.0/0 md5
```

Save the file.

Restart your postgresql server

```
shell> service postgresql restart
```

#### 4.1.4. OTRSサービスを停止する

Stop all running services of your target system:

```
shell> service cron stop
shell> service apache2 stop
shell> su - otrs
shell> cd /opt/otrs/
shell> bin/Cron.sh stop
shell> bin/otrs.Scheduler.pl -a stop
shell> exit
```

#### 4.1.5. Drop the existing database of your target system to have an empty database for the clone data

The OTRSCloneDB script will not remove the data in the existing otrs database of the target system, so we need to do this manually:

Change the user to the postgresql user:

```
shell> su - postgres
```

Drop the existing otrs database:

```
shell> dropdb otrs
```

Create a new otrs database for the otrs user:

```
shell> createdb --owner=otrs --encoding=utf8 otrs
```

Go back to root user:

```
shell> exit
```

#### 4.1.6. Get the postgresql password of your database

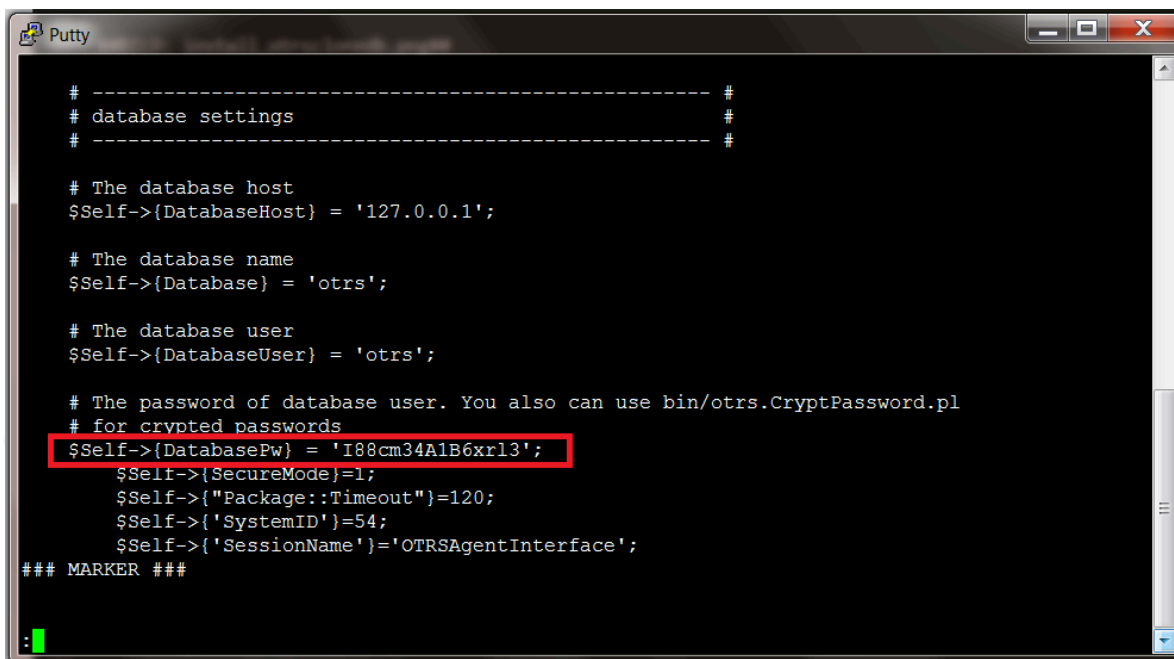
Change into the OTRS directory of your target system:

```
shell> cd /opt/otrs
```

and take a look at the configuration file of your target system:

```
shell> less Kernel/Config.pm
```

You will find your database password if you scroll down a bit:



```
Putty
# -----#
# database settings#
# -----#

# The database host
$Self->{DatabaseHost} = '127.0.0.1';

# The database name
$Self->{Database} = 'otrs';

# The database user
$Self->{DatabaseUser} = 'otrs';

# The password of database user. You also can use bin/otrs.CryptPassword.pl
# for crypted passwords
$Self->{DatabasePw} = 'I88cm34A1B6xrl3';
$Self->{SecureMode}=1;
$Self->{"Package::Timeout"}=120;
$Self->{'SystemID'}=54;
$Self->{'SessionName'}='OTRSagentInterface';
### MARKER ###
:
```

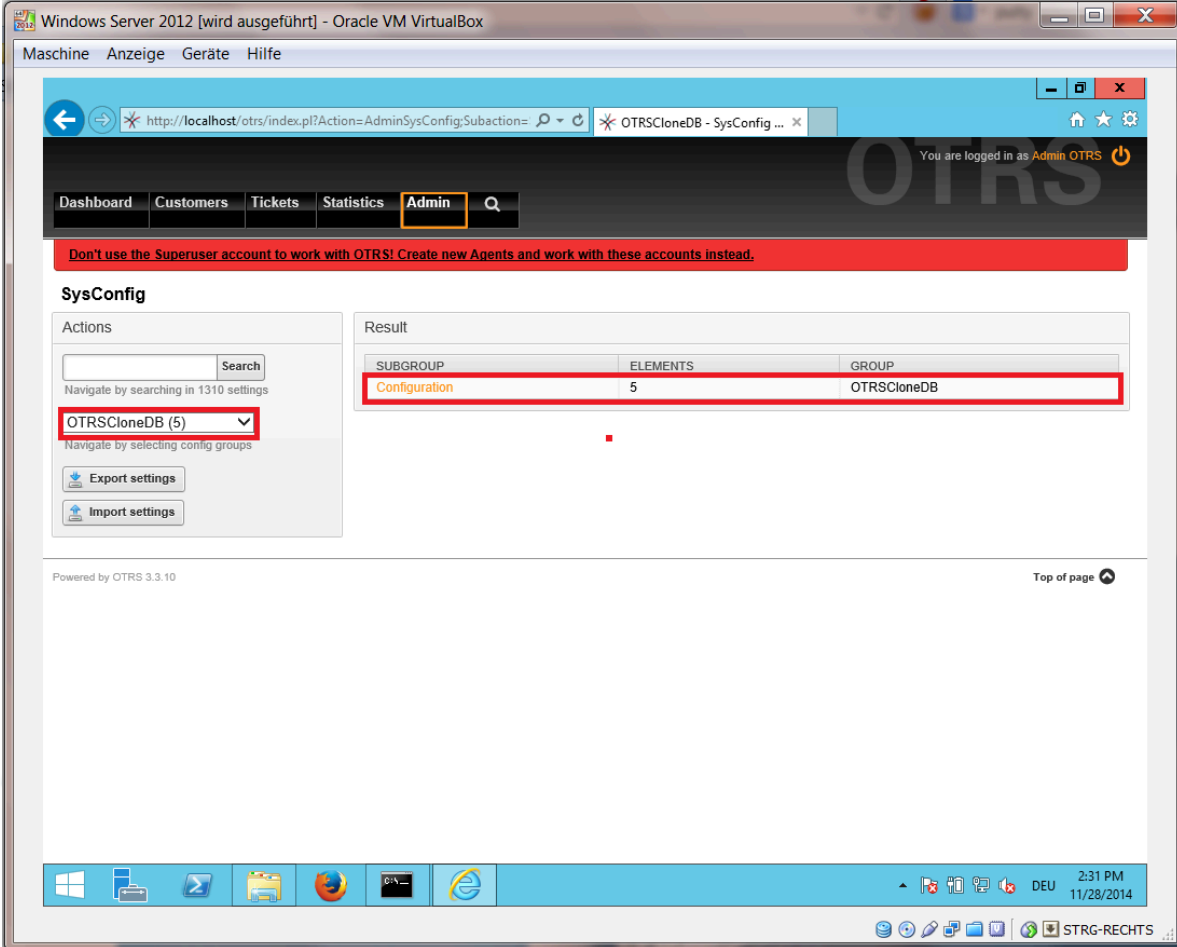
In our example:

```
I88cm34A1B6xrl3
```

Write the password down on a piece of paper.

### 4.1.7. Clone your database into the target system

Switch back to your windows based installation and open the SysConfig admin menu. Please select the group "OTRSCLonedB" and the subgroup "Configuration":



Windows Server 2012 [wird ausgeführt] - Oracle VM VirtualBox

Maschine Anzeige Geräte Hilfe

http://localhost/otrs/index.pl?Action=AdminSysConfig:Subaction=... OTRSCloneDB - SysConfig ...

You are logged in as Admin OTRS

Dashboard Customers Tickets Statistics Admin

Don't use the Superuser account to work with OTRS! Create new Agents and work with these accounts instead.

**SysConfig**

Actions

Search

Navigate by searching in 1310 settings

OTRSCloneDB (5)

Navigate by selecting config groups

Export settings

Import settings

Result

SUBGROUP	ELEMENTS	GROUP
Configuration	5	OTRSCloneDB

Powered by OTRS 3.3.10

Top of page

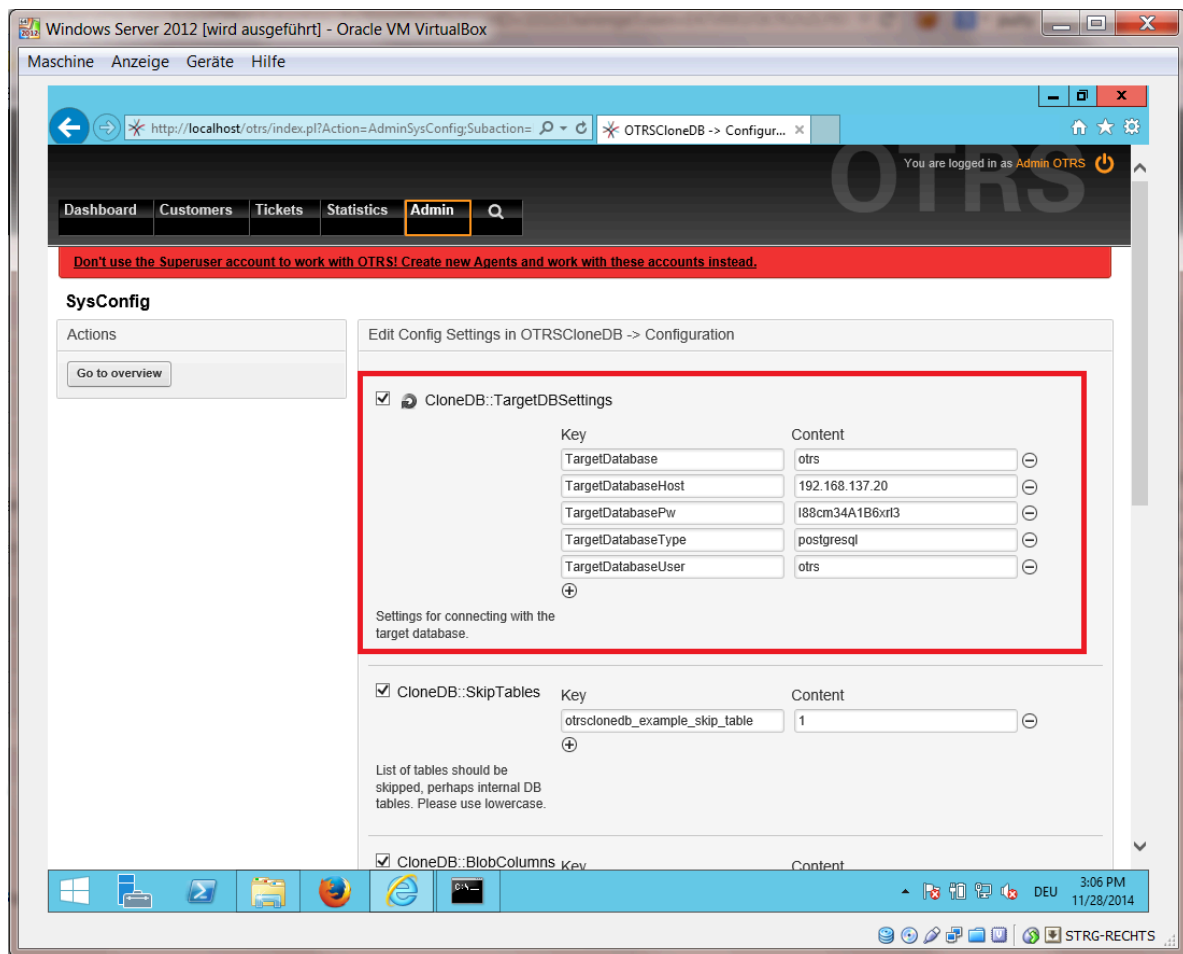
DEU 2:31 PM 11/28/2014

STRG-RECHTS

We need to configure the SysConfig option OTRSCloneDB::TargetSettings with the following values:

```
TargetDatabaseHost => 192.168.137.20 (Here you need to enter the ip address of your target system)
TargetDatabase => otrs
TargetDatabaseUser => otrs
TargetDatabasePw => I88cm34A1B6xrl3 (Here you need to set the password of your target system)
TargetDatabaseType => postgresql
```



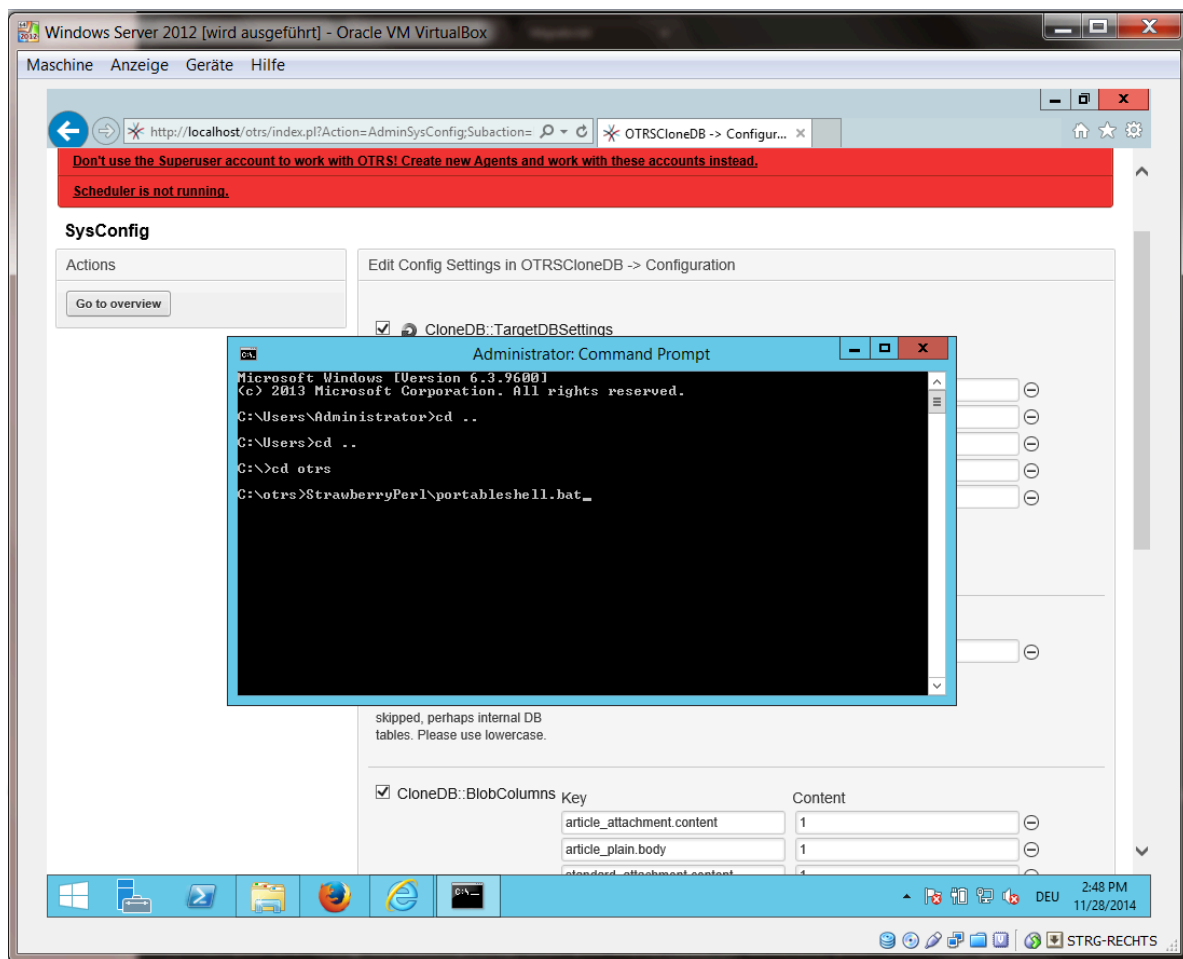


To run the OTRSCloneDB script we need to switch to the command prompt of our windows based otrs and to change into the base directory of our OTRS installation:

```
shell> cd "C:\otrs"
```

If you are using StrawberryPerl, then you maybe need to activate your shell for perl:

```
shell> StrawberryPerl\portableshell.bat
```



The OTRSCloneDB script is located in the bin directory of the otrs directory.

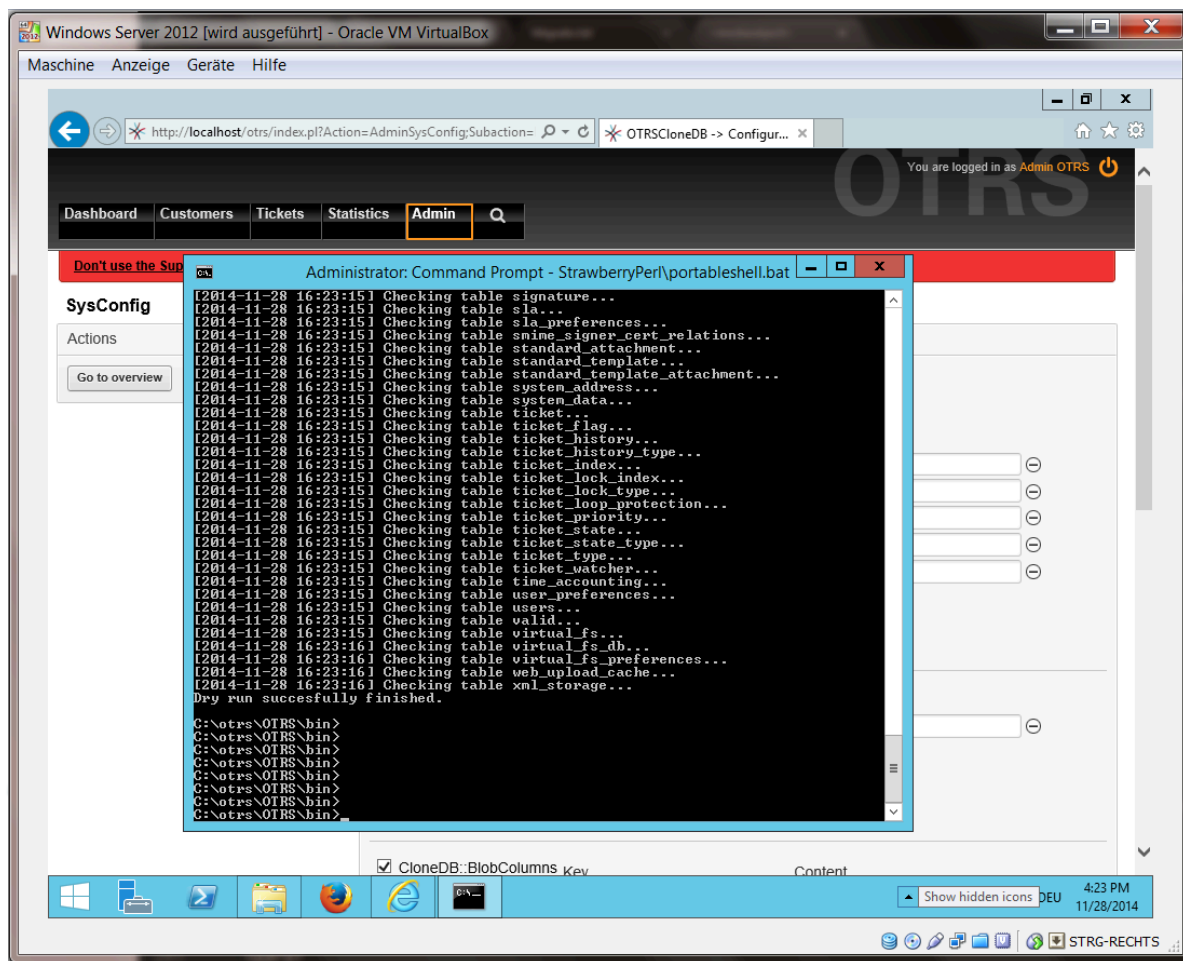
```
shell> cd "OTRS\bin"
```

Run the OTRSCloneDB script:

```
shell> perl otrs.OTRSCloneDB.pl
```

Now you should see some information about the script and its parameters.





Start the cloning of your database and cross your fingers:

```
shell> perl otrs.OTRScloneDB.pl -r
```

An example of a successfully run look like this:

```
Generating DDL for OTRS.
Generating DDL for package OTRScloneDB.
Creating structures in target database (phase 1/2)
...
...
Creating structures in target database (phase 2/2)
...
done.
```

#### 4.1.8. Copy the following files from your windows based system to the target system

You need to copy some files from your windows based system to the target system. You can do this for example with a free tool like "WinSCP" (just search the internet for "WinSCP"). Copy the following files from your windows based system:

```
C:/otrs/OTRS/Kernel/Config/GenericAgent.pm
C:/otrs/OTRS/Kernel/Config/Files/ZZZAuto.pm
C:/otrs/OTRS/var/article/*
```

```
C:/otrs/OTRS/var/log/TicketCounter.log
```

to your target system:

```
/opt/otrs/Kernel/Config/GenericAgent.pm  
/opt/otrs/Kernel/Config/Files/ZZZAuto.pm  
/opt/otrs/var/article/*  
/opt/otrs/var/log/TicketCounter.log
```

Open the file `/opt/otrs/Kernel/Config/Files/ZZZAuto.pm` on the target system and replace all paths like `"C:/otrs/OTRS/"` with `"/opt/otrs/"`!

If you have manually changes in your `Kernel/Config.pm` then please copy these changes to the target system's `Kernel/Config.pm`. Don't copy it 1:1 because you will now have different database settings and the file paths on the target system are different from windows!

### 4.1.9. パッケージの完全な再インストール

パッケージマネージャーからパッケージの完全な再インストールを行うと、カスタマイズしているファイルも含めてすべて初期状態にもどります。

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --otrs-user=otrs --otrs-group=otrs --web-user=www-data --  
web-group=www-data /opt/otrs  
shell> su - otrs  
shell> cd /opt/otrs  
shell> perl bin/otrs.DeleteCache.pl  
shell> perl bin/otrs.LoaderCache.pl -o delete  
shell> perl bin/otrs.PackageManager.pl -a reinstall-all  
shell> exit
```

Fix all permissions in your OTRS system again:

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --otrs-user=otrs --otrs-group=otrs --web-user=www-data --  
web-group=www-data /opt/otrs
```

### 4.1.10. Disable remote access for the postgresql database of your target system

Undo all steps you did to enable the remote access for the postgresql database to your target system.

Change into postgresql directory:

```
shell> cd /etc/postgresql/9.4/main  
shell> vi postgresql.conf
```

Remove the following line at the end of the file:

```
listen_addresses = '*'
```

Save the file.

```
shell> vi pg_hba.conf
```

Remove the following line at the end of the file:

```
host all all 0.0.0.0/0 md5
```

Save the file.

Restart your postgresql server

```
shell> service postgresql restart
```

### 4.1.11. OTRS Daemonを起動する

Start services of your target system:

```
shell> service cron start
shell> service apache2 start
shell> su - otrs
shell> cd /opt/otrs/
shell> bin/Cron.sh start
shell> bin/otrs.Scheduler.pl -a start
```

Now you should be able to open the OTRS of your target system in the browser with the imported data of your windows based system.

## 5. OTRS の 3.3 から 4 へのアップグレード

これらの手順は、OTRSを3.3から4へアップグレード、及び4以降のパッチレベルリリースの4へアップグレードする人々に向けた説明です。RPMとソースコード(tarball)のアップグレードの両方に適用されます。

あなたがOTRSの下位バージョンを実行している場合は、3.3の最初の(1.1->1.2->1.3->2.0->2.1->2.2->2.3->2.4>3.0->3.1->3.2->3.3)アップグレードパスに従わなければなりません！あなたは、データベースの変更とアップグレードのperlスクリプトを含む、その間のすべてのバージョンへの完全アップグレードを実行する必要があります。

OTRS2.2またはそれ以前からアップグレードする場合、あなたは**余分なステップ**を取らなければならないことに注意してください。

単一のマイナーバージョンの中で、あなたがアップグレードする場合、パッチレベルリリースをスキップすることができます。あなたは、このような「パッチレベルのアップグレード」を行う必要がある場合たとえば、あなたは手順6、11、13および14をスキップする必要があり、バージョン4パッチレベル6に直接OTRS4パッチレベル2からアップグレードすることができます。

最初に独立した試験機でのテスト・アップデートを実行することを強くお勧めします。

### 5.1. Step 1: 関連するすべてのサービスを停止します。

OTRSにアクセスしようとする複数の実行中のサービスやcronジョブがないことを確認してください。これはあなたのサービスの構成に依存し、これは一例です。

```
shell> /etc/init.d/cron stop
shell> /etc/init.d/postfix stop
```

```
shell> /etc/init.d/apache stop
```

OTRS cronジョブとスケジューラを(この順序で)停止します。

```
shell> cd /opt/otrs/  
shell> bin/Cron.sh stop  
shell> bin/otrs.Scheduler.pl -a stop
```

## 5.2. Step 2: /opt/otrs/ 配下の全てをバックアップしてください。

- Kernel/Config.pm
- Kernel/Config/GenericAgent.pm
- Kernel/Config/Files/ZZZAuto.pm
- var/\*
- データベースも同様に行います。

## 5.3. Step 3: 全てを確実にバックアップしたことを確認してください。 ;-)

## 5.4. Step 4: 新しいリリースをインストールします。(tar や RPM)

### 5.4.1. Step 4.1: tarball を使う場合:

```
shell> cd /opt  
shell> mv otrs otrs-old  
shell> tar -xzf otrs-x.x.x.tar.gz  
shell> mv otrs-x.x.x otrs
```

#### 5.4.1.1. 旧構成ファイルをリストア

- Kernel/Config.pm
- Kernel/Config/GenericAgent.pm
- Kernel/Config/Files/ZZZAuto.pm

#### 5.4.1.2. TicketCounter.logをリストア

In order to let OTRS continue with the correct ticket number, restore the TicketCounter.log to /opt/otrs/var/log/. This is especially important if you use incremental ticketnumbers.

#### 5.4.1.3. 記事データのリストア

If you configured OTRS to store article data in the filesystem you have to restore the article folder to /opt/otrs/var/.

#### 5.4.1.4. Set file permissions

Please execute

```
shell> cd /opt/otrs/  
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl
```

with the permissions needed for your system setup. For example:

- Web server which runs as the OTRS user:

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-group=otrs
```

- Webserver with wwwrun user (e. g. SUSE):

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-group=wwwrun
```

- Webserver with apache user (e. g. Red Hat, CentOS):

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-group=apache
```

- Webserver with www-data user (e. g. Debian, Ubuntu):

```
shell> bin/otrs.SetPermissions.pl --web-group=www-data
```

#### 5.4.2. Step 4.2: With the RPM:

```
shell> rpm -Uvh otrs-x.x.x.-01.rpm
```

In this case the RPM update automatically restores the old configuration files and sets file permissions.

### 5.5. Step 5: Check needed Perl modules

システムに必要とされるperlモジュールがすべてインストールされ不足しているおそれのあるモジュールをインストールすることを確認してください。

```
shell> /opt/otrs/bin/otrs.CheckModules.pl
```

### 5.6. Step 6: Apply the database changes

#### 5.6.1. Step 6.1: Database schema update

##### 5.6.1.1. MySQL:

Note: new tables created in the MySQL UPGRADING process will be created with the default table storage engine set in your MySQL server. In MySQL 5.5 the new default type is InnoDB. If existing tables, e.g. "users", have the table storage engine e.g. MyISAM, then an error will be displayed when creating the foreign key constraints.



You have two options: you can change the default storage engine of MySQL back to MyISAM so that new tables will have the same engine as the existing tables, or change the existing tables to use InnoDB as storage engine.

Any problems with regards to the storage engine will be reported by the `otrs.CheckDB.pl` script, so please run it to check for possible issues.

```
shell> cd /opt/otrs/  
shell> bin/otrs.CheckDB.pl  
shell> cat scripts/DBUpdate-to-4.mysql.sql | mysql -p -f -u root otrs
```

### 5.6.1.2. PostgreSQL:

```
shell> cd /opt/otrs/  
shell> cat scripts/DBUpdate-to-4.postgresql.sql | psql --set ON_ERROR_STOP=on --single-transaction otrs otrs
```

## 5.6.2. Step 6.2: Database migration script

Run the migration script (as user `otrs`, NOT as `root`):

```
shell> scripts/DBUpdate-to-4.pl
```

Do not continue the upgrading process if this script did not work properly for you. Otherwise data loss may occur.

## 5.7. Step 7: Own themes

Note: The OTRS themes of 3.3 are NOT compatible with OTRS 4, so don't use your old themes!

Themes are located under `/opt/otrs/Kernel/Output/HTML/*/*.tt`.

Please note that OTRS 4 comes with a new templating engine based on [Template::Toolkit](#). All customized templates must be converted from DTL to the new format. Please see [the development manual](#) for detailed instructions.

## 5.8. Step 8: Refresh the configuration cache and delete caches

Please run (as user `otrs`, *not* as `root`):

```
shell> bin/otrs.RebuildConfig.pl  
shell> bin/otrs.DeleteCache.pl
```

## 5.9. Step 9: Restart your services

例えば (ご使用中のサービスによりますが)

```
shell> /etc/init.d/apache start  
shell> /etc/init.d/postfix start  
shell> /etc/init.d/cron start
```

今、システムにログインできます。

## 5.10. Step 10: Check installed packages

### 注記

The OTRS packages of 3.3 are NOT compatible with OTRS 4, so you have to perform a package upgrade!

以下のパッケージはアップグレード・プロセス後。自動的にアンインストールされます（先にインストール済ならば）

- OTRSGenericInterfaceREST
- OTRSMYServices
- OTRSStatsRestrictionByDateTimeDF
- Support

## 5.11. Step 11: Check GenericAgent jobs

If you have any GenericAgent jobs (or even any custom developments) that automatically set ProcessID or ActivityID dynamic fields, you need to update these to set the fields to the new long EntityIDs that were generated by DBUpdate-to-4.pl.

## 5.12. Step 12: Update and activate cronjobs

There are several OTRS default cronjobs in /opt/otrs/var/cron/\*.dist. They can be activated by copying them without the ".dist" filename extension. Do this to make sure you get the latest versions of the cronjobs and new cronjobs as well.

```
shell> cd /opt/otrs/var/cron
shell> for foo in *.dist; do cp $foo `basename $foo .dist`; done
```

Please check the copied files and re-apply any customizations that you might have made. To schedule these cronjobs on your system, you can use the script Cron.sh. Make sure to execute it as the otrs user!

```
shell&gt; /opt/otrs/bin/Cron.sh start
```

This will also cause the OTRS Scheduler to be started.

## 5.13. Step 13: Update Customer database configuration

If you're using an external customer database and this database does NOT provide the OTRS specific fields create\_time, create\_by, change\_time and change\_by, please set ForeignDB => 1 for \$Self->{CustomerUser} and \$Self->{CustomerCompany} (see Kernel/Config/Defaults.pm).

## 5.14. Step 14: Rebuild Ticket index

Please run bin/otrs.RebuildTicketIndex.pl to regenerate the ticket index. This can be done in the background to calculate the ticket numbers for the queue view screens. You can already use your system.

---

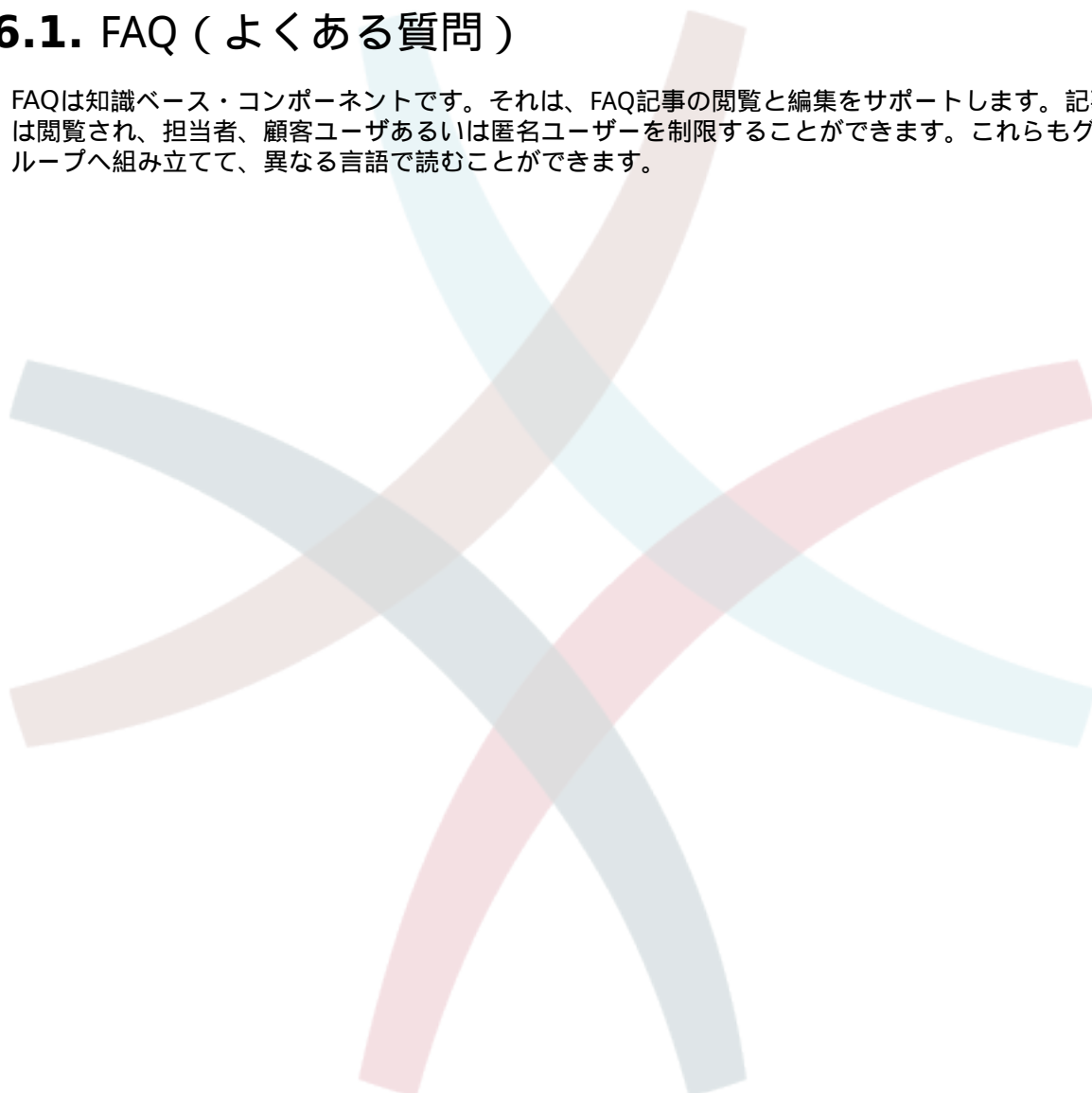
## 5.15. Step 14: Well done!

# 6. 追加のアプリケーション

OTRSフレームワークの機能性を拡張するために追加出願パッケージをインストールすることができます。これは、管理者ページからのパッケージ・マネージャーによって行うことができます。それはオンライン・リポジトリから適用をダウンロードし、パッケージ依存性を管理します。また、ローカル・ファイルからパッケージをインストールすることも可能です。

## 6.1. FAQ (よくある質問)

FAQは知識ベース・コンポーネントです。それは、FAQ記事の閲覧と編集をサポートします。記事は閲覧され、担当者、顧客ユーザあるいは匿名ユーザを制限することができます。これらもグループへ組み立てて、異なる言語で読むことができます。



## 第3章 ファースト・ステップ

この章の目的は、OTRSの簡潔な概要を提供することです。

### 1. 担当者ウェブインターフェイス

#### 注記

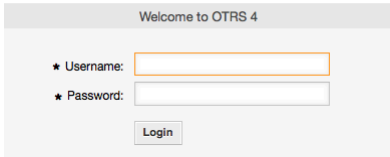
Before logging on for the first time, please consider activating the HTTPS on your web server in order for OTRS to be served as a secure app over SSL/TLS protocol. For detailed instructions on how to do this, please consult the documentation of your web server (e.g. Apache2).

After you activate HTTPS, please set the configuration option `HttpType` to `https` in `SysConfig`. This will make sure that all internal links in OTRS are indeed using HTTPS.

Good practice is to also redirect all HTTP traffic to HTTPS, in case someone tries to access the OTRS via an insecure link. This should be done on web server configuration level for maximum effect.

担当者は、担当者ウェブインターフェイスで顧客のリクエストに答えることができます。顧客のためあるいは他の担当者のために新規チケットを作成し、顧客との通話に関することをチケットに書き、FAQを記入し、顧客データを編集します。

URL <http://www.example.com> 経由であなたのOTRSホストへ到達すると仮定すれば、ウェブブラウザ（下図参照）でアドレス <http://www.example.com/otrs/index.pl> を使用することでOTRSログイン画面へ到達します。



Welcome to OTRS 4

\* Username:

\* Password:

Login

[Lost your password?](#)

図：担当者インターフェイスのログイン画面

### 2. 顧客ウェブインターフェイス

顧客は、OTRSの別々のウェブインターフェイスを持ち、それを通じて、新規アカウントを作成し、アカウント設定を変更し、チケットを作成、編集し、作成したチケットに関する概要を取得することができます。

上のサンプルを続け、顧客ログイン画面はウェブブラウザでURL <http://www.example.com/otrs/customer.pl> を使用することで到達します。（下図参照）

Login

  
[Forgot password?](#)

 Not yet registered? [Sign up now.](#)

図：顧客ログイン画面

## 3. 公開ウェブインターフェイス

担当者と顧客のためのウェブインターフェイスに加えて、OTRSにはさらにFAQモジュールによって利用可能な公開ウェブ・インターフェイスがあります。このモジュールを別々にインストールしている必要があります。それはFAQシステムに公衆アクセスを提供し、特別の認可のないFAQエントリをビジターに捜させます。

私達のサンプルでは、公開ウェブインターフェイスは次のいずれかのURL : <http://www.example.com/otrs/faq.pl> , <http://www.example.com/otrs/public.pl>に到達できます。

### FAQ Explorer

NAME	COMMENT	SUBCATEGORIES	FAQ ARTICLES
Bugzilla	Reporting bugs	0	1
Feature AddOns	FAQs	0	1
OTRS Framework	Questions and answers about OTRS	0	1

FAQ#	TITLE	CATEGORY	LANGUAGE
No FAQ articles found.			


  

**Search**


Wildcardes are allowed.

**Latest created FAQ articles** 


[Advanced Escalations](#)  
 Feature AddOns - en - public (all) - 12/03/2014 00:54  
[Framework bug](#)  
 Bugzilla - en - public (all) - 12/03/2014 00:53  
[Test Uno](#)  
 OTRS Framework - en - public (all) - 12/03/2014 00:51

**Latest updated FAQ articles** 

[Advanced Escalations](#)  
 Feature AddOns - en - public (all) - 12/03/2014 00:54  
[Framework bug](#)  
 Bugzilla - en - public (all) - 12/03/2014 00:53  
[Test Uno](#)  
 OTRS Framework - en - public (all) - 12/03/2014 00:51

**Top 10 FAQ articles** 

図：パブリック・ウェブインターフェイス

## 4. はじめてのログイン

セクションAgent web interface に記載のようにログイン画面へアクセスします。ユーザ名とパスワードを入力します。システムはインストールされたばかりでユーザはまだ作成されていないので、まず、ユーザ名として'root@localhost' をパスワードとして'root'を使用してOTRS管理者としてログインします。

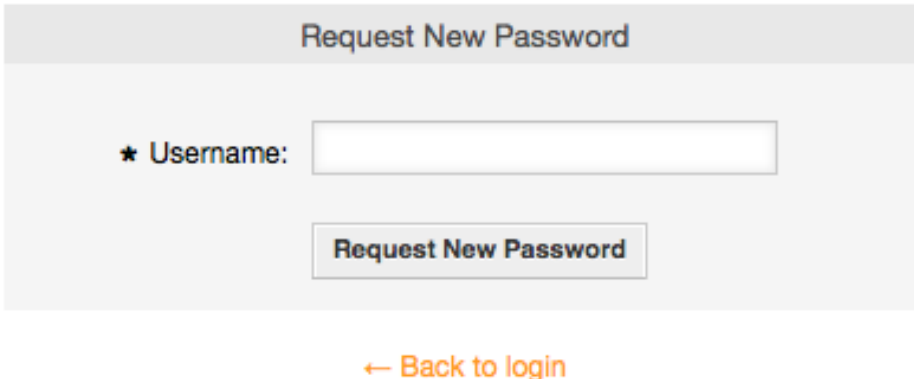
### 警告

このアカウントデータは

どの新規にインストールされたOTRSシステムでも有効です。OTRS管理者パスワードはできるだけ早く変更すべきです。OTRS管理者用画面preferencesから実行できます。

OTRS管理者としてログインしたくなければ、あなたの通常の担当者アカウント用のユーザ名とパスワードを入力してもいいです

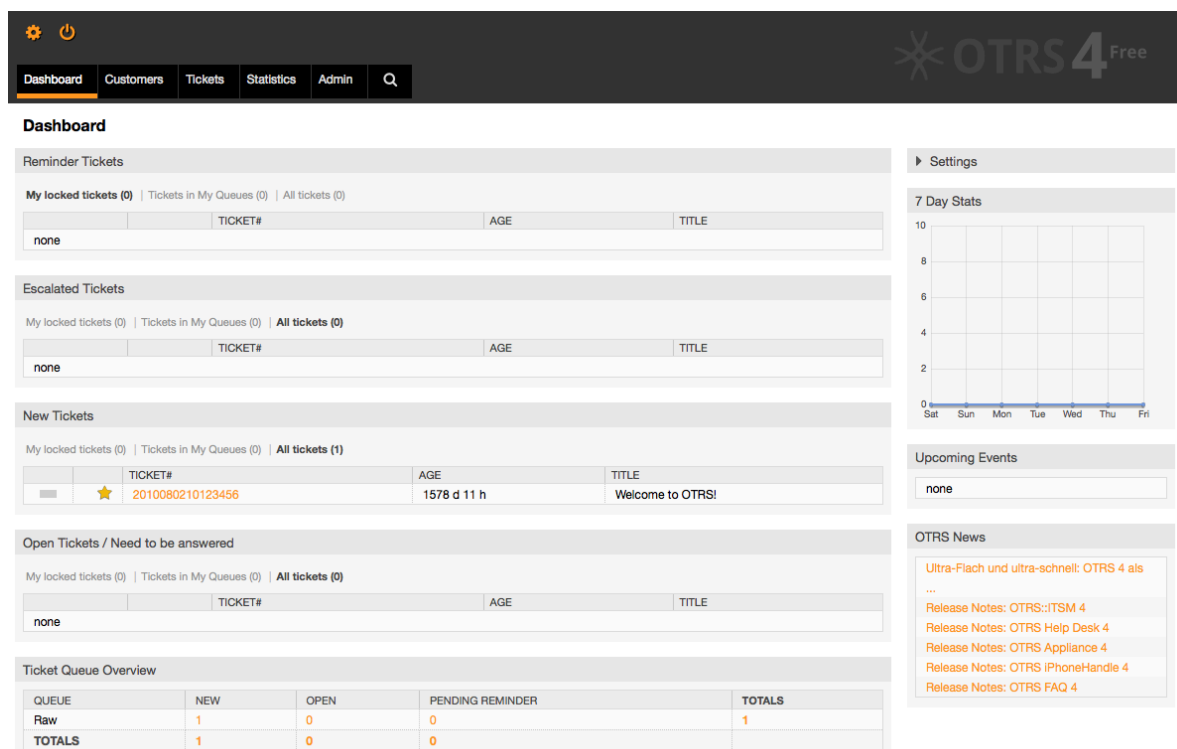
パスワードをお忘れの場合、新規パスワードをシステムに要求することができます。単にログインボタンの下のリンクを押すだけです。OTRSアカウント用の入力フィールドに登録されたEメールアドレスを入力します。送信ボタンを押します（下図参照）。



図：新規パスワードの要求

## 5. ウェブインターフェイス - 概要

システムへログイン成功時、ダッシュボード・ページが表示されます(下記の図を参照)。ロックされたチケットを表示し、キュー、ステータスおよびエスカレーション・ビューへのメニューから直接アクセスを許可し、さらに、新規の電話および電子メール・チケットの生成に対するオプションも保持します。さらに様々な基準を使用して、チケットのクイックサマリも表示します。



**Dashboard**

Reminder Tickets

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (0)

TICKET#	AGE	TITLE
none		

Escalated Tickets

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (0)

TICKET#	AGE	TITLE
none		

New Tickets

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (1)

TICKET#	AGE	TITLE
★ 2010080210123456	1578 d 11 h	Welcome to OTRS!

Open Tickets / Need to be answered

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (0)

TICKET#	AGE	TITLE
none		

Ticket Queue Overview

QUEUE	NEW	OPEN	PENDING REMINDER	TOTALS
Raw	1	0	0	1
TOTALS	1	0	0	1

Settings

7 Day Stats

Upcoming Events

OTRS News

Ultra-Flach und ultra-schnell: OTRS 4 als ...

- Release Notes: OTRS::ITSM 4
- Release Notes: OTRS Help Desk 4
- Release Notes: OTRS Appliance 4
- Release Notes: OTRS iPhoneHandle 4
- Release Notes: OTRS FAQ 4

図：初めてのログイン成功後の画面

わかりやすさを改善するために、一般的ウェブ・インターフェースは異なるエリアへ分離されています。各ページのトップの列は以下のようないくつかの一般情報を示します。現在のユーザー名、ログアウト・ボタン、ダイレクトアクセスを備えたロックされたチケットの数のリストアイコン、新しい電話/電子メール・チケットなどを作成するリンク。さらにキュー、ステータスおよびエスカレーション・ビューに行くアイコンがあります。

アイコンの下に行はナビゲーション・バーです。システムのもジュールや異なるエリアへナビゲートしてくれるメニューを表示し、いくつかの全体的アクションを実行させてくれます。ダッシュボード・ボタンをクリックすることでダッシュボード行けます。チケット・ボタンをクリックすれば、チケット・ビューを変更したり、新しいチケット(電話/Eメール)を作成したり、あるいは特定のチケットを探索したりするオプションを備えたサブメニューを使えます。統計ボタンは、新しいものを作成し、既存のものを輸入して、登記済みの統計の概観からあなたが選ぶことを可能にするメニューを表示します。顧客ボタンはあなたを顧客管理スクリーンへ導きます。管理者ボタンのクリックによって、管理者モジュールすべてにアクセスすることができます、それは新しい代理人、キューなどを作ることを可能にします。さらにチケット探索をするサーチ・ボタンもあります。

関連するアプリケーションがインストールされている場合、例えばFAQ、サーベイ、これらのアプリケーションを起動するボタンも表示されます。

ナビゲーション・バー下の赤いバーは様々なシステム・メッセージを表示します。OTRS管理者としてログインすると、このシステム・アカウントを使用して作業しない旨の警告メッセージを受けます。

現在表示しているセクションのタイトルの下に、いくつかのサブセクションがあります。別々のボックスに各1つずつ、作業中の画面に関する関連情報を含んでいます。

これらのボックスは各スクリーンの主要部分を含んでいます。それらは常に1つあるはいくつかのカラムで表示されます。ボックスはそれぞれ、現在のスクリーンに関する関連情報(例えば指示、アドバイス、概観など)を格納することができます。さらに、各画面に関連するアクションを実行するために必要なフォームあるいはツールも表示されます。例えば、レコードの追加、更新、削除、ログのチェック、構成設定の変更等のアクションです。

最後に、ページの最下部に、サイト・フッタが表示されます(下図参照)。それは、直接OTRS公式ウェブサイトへアクセスするかあるいはページのトップへ行くリンクを含んでいます。

通常は、アイコン列、ナビゲーション・バーおよびフッタはウェブ・インターフェース上のすべての画面の中で同じに存在します。

Powered by OTRS 4

図：フッター

## 6. ダッシュボード

ダッシュボードはシステムのメインページです。ここでチケット・アクティビティに関連する他のスタッフやチケットに関する概要を得ることができます。それは担当者にとっての日常業務のための出発点であると言えます。それはデフォルトでチケットの即時サマリーを表示します。サマリーには他の情報の中で保留、エスカレーション、新規および対応中の情報があります。

ダッシュボードの最も重要な機能のひとつは完璧なカスタマイズ機能です。要素を表示あるいは非表示にすることで思い通りに各パートを構成することができることを意味します。要素のヘッダをクリックしながらドラッグし要素をどこにでもドロップすることで同じ列の中でこの要素を再配置することさえ可能です。システムは、ボックスから使用する準備ができていくつかのウィジェットを持っています。しかし、ダッシュボード画面のモジュール設計は、カスタム・ウィジェットを簡単に統合する準備ができています。

この画面のコンテンツは2つのメインカラムに整列され、その左カラムで各状態（リマインダ、エスカレーション、新規、対応中といった）で分類されたチケットに関する情報を見ることができます。この各ウィジェットでは、他のフィルターの中で、アクセスすることを認められるチケット、ロックしたチケット、および他のフィルタ中に担当者が定義したキューにあるチケットのをすべて見るために結果をフィルタすることができます。このカラムには他の種類のウィジェットもあり、それらすべてを以下の述べます。

### Dashboard

#### Reminder Tickets

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (0)

	TICKET#	AGE	TITLE
none			

#### Escalated Tickets

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (0)

	TICKET#	AGE	TITLE
none			

#### New Tickets

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (1)

	TICKET#	AGE	TITLE
■ ★	2010080210123456	1578 d 11 h	Welcome to OTRS!

#### Open Tickets / Need to be answered

My locked tickets (0) | Tickets in My Queues (0) | All tickets (0)

	TICKET#	AGE	TITLE
none			

#### Ticket Queue Overview

QUEUE	NEW	OPEN	PENDING REMINDER	TOTALS
Raw	1	0	0	1
<b>TOTALS</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	



## 左列 ダッシュボード・ウィジェット

### • チケット・リスト・ウィジェット

このカテゴリーの下のウィジェットは全体的な同じ挙動、ルック・アンド・フィールを共有します。このウィジェットは決定した状態のチケットのリストを表示します。チケット数は各リスト・ページに表示します。リスト・ページは、ウィジェット・オプション(あなたがウィジェットの右上部にマウスポインタを置くとそれらが現われます)で構成することができます。このウィジェットは次のフィルタを支援します:

#### • 自身のロック・チケット

ログインした担当者がロックされたチケット

#### • 自身の監視チケット

ログインした担当者がウォッチリストを持っているチケット。それを表示するために Ticket::Watcher 設定をオンにすることが必要です。

#### • 自身の責任者

ログインしている担当者が責任者として設定されているチケット。Ticket::Responsible設定は、このフィルターを可視化できるようにオンにする必要があります。

#### • 自身のキューにあるチケット

このチケットは担当者が「マイ・キュー」として定義するキューにあります。

#### • 担当サービス内チケット

The tickets that are assigned to services where the agent define as "My Services" and are on queues with at least read-only permissions.

#### • 全てのチケット

担当者がアクセス権を持つ全てのチケット

このウィジェットは :

#### • リマインダ・チケット

保留として設定され、かつ、リマインダ日を経過したチケット。

#### • エスカレーションされたチケット

エスカレーション済のチケット

#### • 新規チケット

状態「新規」を持つチケット

#### • 対応中チケット / 返答必要

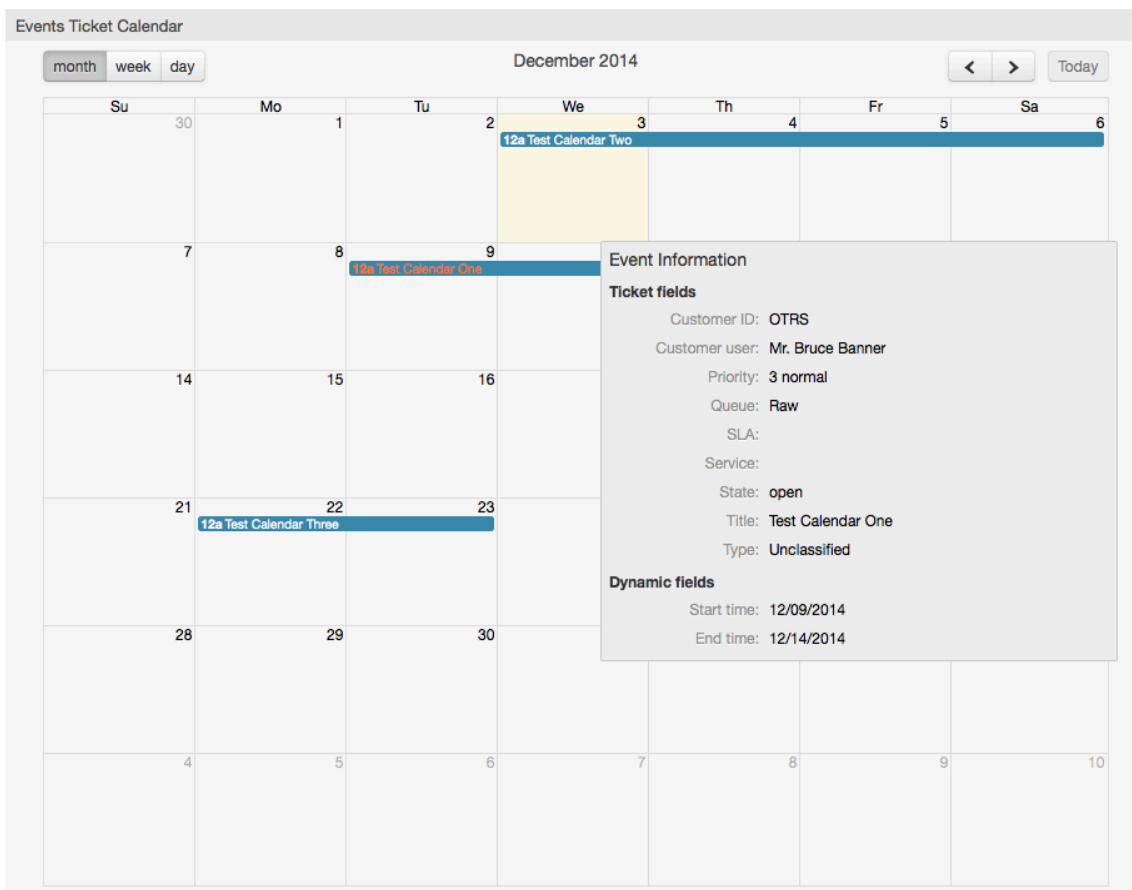
状態「対応中」を持つチケットとそれらに対応する準備

### • イベント・チケット・カレンダー

カレンダー・イベントは新規チケットが作成された時、イベント・チケット・カレンダー機能が有効になります。それはチケット作成画面に表示する2つの新規フィールドを必要とし、ひとつはイベント開始時刻、他方は終了時刻用です。この2つの時刻がイベント期間を決定します。定義されます。

このウィジェットは次のビューを含みます：月、週、日、及び左右の矢印を使用することでページからスクロールできる担当者です。

直前にウィジェットは十分に有効になっていないと述べたようにチケット用の「Date/Time」の動的フィールドのいくつかはシステムに追加し、（管理者パネルにある動的フィールドリンク経由で）それらをこのウィジェットのためにSysConfigで設定すべきです。両方の動的フィールドはチケット生成画面に表示されるように構成されるべきです。それらは、カレンダーのイベント（開始及び終了時間）用の時間枠について記述するために、チケット生成あるいは他のチケット・アクション画面(例えば自由フィールド)中に満たされるべきです。チケット・ズーム画面は、それが必要であると考えた場合、動的フィールドも示すように構成されるかもしれません。



このウィジェットのためのさらなる構成は、SysConfig中の"Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar" サブグループの下で見つけられるかもしれません。

- カレンダー幅

カレンダーの幅をパーセントで定義します。デフォルトは95%です。

- DynamicFieldStartTime

開始時間の動的フィールド名を定義します。

- DynamicFieldEndTime

終了時間の動的フィールド名を定義します。

- キュー

この設定で明記されたキュー上のチケットのみが、カレンダー・ビューで検討されます。

- DynamicFieldsForEvents

カレンダー・イベント・オーバーレイ画面に表示する動的フィールドを定義します。

- TicketFieldsForEvents

カレンダー・イベント・オーバーレイ画面に表示するチケット属性を定義します。

- チケット・キュー・外観

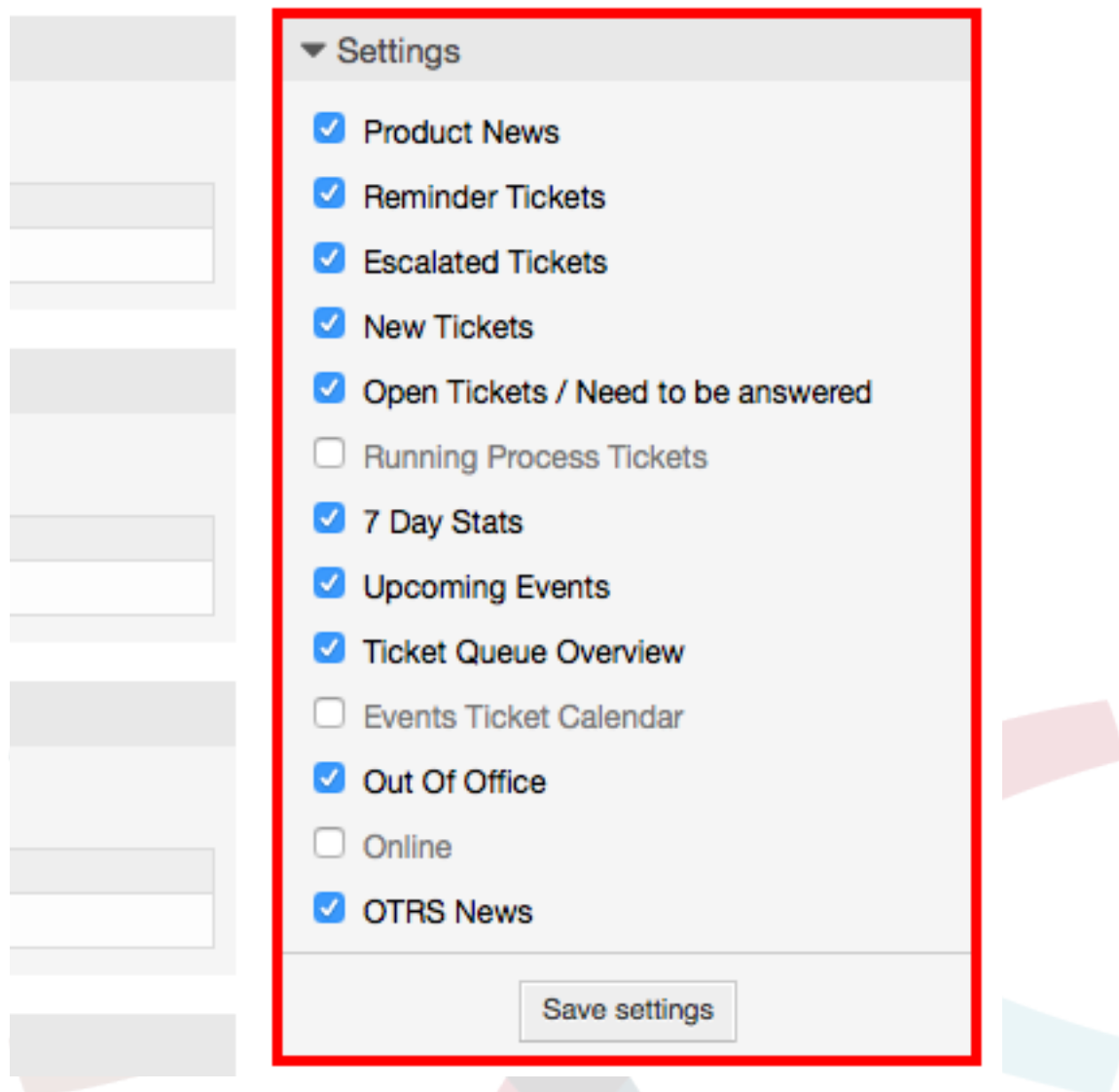
このウィジェットは行がキューを表し列がチケット状態を表しているチケット・カウント・マトリックスの中で表示します。各セルには、特定のキュー上に属する定義された状態上のチケット数が表示されます。

ウィジェットは、集計行および集計列も表示します。集計行は、すべての示されたキュー上の各状態のチケットの合計を表します。一方、集計列はすべての示された状態上で各キューのチケットの合計を表します。

表示されるキューと状態はSysConfigで変更することができます

チケット・カウント数のどれかをクリックすると検索結果ページが開き、担当者にそれらのより詳細な概要を得させます。

右列に特別なウィジェットが位置しており、非表示あるいは表示したいウィジェットをコントロールすることができます。これがウィジェットの設定です。セクションを拡張するヘッダをクリックします。すると下図のように全ての利用可能なウィジェットが見えます。各ウィジェット名にはチェックボックスがあり、ダッシュボードでのウィジェットの可視性を定義するためにこのチェックボックスを使用します（チェックが外れているウィジェットは表示されません）。可視性オプションを定義したら、変更を格納するために「保存」をクリックします。このセクションはスクリーンに固定されるので、それをドラッグ&ドロップができないし閉じることもできないということです。



図：ダッシュボード設定の編集

右列ダッシュボード・ウィジェット

- 7日統計

それは、2行のラインを含んでいる過去7日にわたるチケット活動のグラフを示します。通常青い色である第1行は、日次作成チケット数を表示し、通常オレンジ色の第2行は日次完了チケットを表示します。

- 次回のイベント

エスカレーションするためあるいは既にエスカレーションされた至急のチケットはここにリストされます。このウィジェットからの情報は大変役立ちます。なぜなら、注意喚起する必要のあるチケットを知る機会を持つからです。そうしてどのチケットに労力を傾注したいのか、優先度を置きたいのか、単に次の予定をチェックするのか、を決定することができます。

- OTRSニュース

OTRSアクティビティの完全なリストと新製品のリリースやパッチに関する大変重要な情報

- オンライン

ここで、現在システムにログインしている担当者に関する要約が示されます。さらにそれは、オンラインの顧客用セクションを含んでいます。このウィジェットは通常非表示であることに注目してください。それは前述の設定ウィジェットを使用して表示することができます。

## 7. キューとは何か？

多くのメールシステムでは、全てのメッセージが格納される受信ファイルに流し込むのが普通です。新しいメッセージはその受信ファイルの最後に追加されます。メール・クライアント・プログラムはメールの読み書きに使用され、この受信ファイルを読み、ユーザにコンテンツを表示します。

多くのメッセージを格納することもできるので、OTRSでのキューは多少受信ボックスと比較できます。キューにはさらに受信ボックスのメール・ファイル以上の特徴があります。OTRS担当者あるいはユーザとして、チケットがどのキューに格納されているかを記憶しておく必要があります。担当者は、キューにあるチケットを開き編集することができ、あるキューから別のキューに移動することもできます。しかし、なぜチケットを移動させるのでしょうか。

それについてより実践的な説明するために、example of a ticket systemで述べたマックスの会社の例を思い出しましょう。マックスは彼のチームがビデオテープレコーダーを買う会社取引先のサポートをよりよく管理することを可能にするためにOTRSをインストールしました。

全てのリクエストを持つ1つのキューは、この状況にとって十分です。しかし、マックスがさらにいくつかDVDレコーダーを売ること決定後は、顧客は、ビデオテープレコーダーだけでなく新製品に関する質問をします。より多くのEメールがマックスのOTRSの単一のキューに入り、起こっていることの明瞭な事態を把握することは難しくなります。

マックスは、サポート・システムを再構成することを決定し、2つの新しいキューを追加します。したがって、これで3つのキューが使用されていることとなります。チケットシステムに到着する新しいメッセージは、古いキュー「未対応(raw)」へ格納されます。2つの新しいキューのうち、1つ「ビデオテープレコーダー」はもっぱらビデオテープレコーダーのリクエスト用、もう一方の「dvdレコーダー」はもっぱらdvdレコーダーのリクエスト用です。

マックスはサンドラに未対応キューを注視し、顧客の要求に応じてメッセージを「ビデオレコーダ」キューまたは「dvdレコーダ」キューにソート（送る）します。

OTRSは、ユーザ、グループおよび役割のためのアクセス管理をサポートします。いくつかのユーザアカウントにのみアクセス可能なキューを設定することも簡単です。マックスは、さらにフィルタ・ルールで、リクエストを異なるキューに入れる別の方法を使用することができました。そうでなければ、2つの異なるメールアドレスが使用される場合、サンドラは単に自動的に送信できない2つの他のキューへそれらの電子メールを送信しなければなりません。

異なるキューへの受信メッセージをソートすることは、サポート・システムを組み立てて、かつ整然としておくのを助けます。担当者はキュー上の異なるアクセス権を持つ異なるグループへ配置されるので、システムはさらに最適化することができます。キューは、ワークフロー・プロセスを定義するかあるいは会社の構造を作るために使用することができます。マックスは例えば、「要求、オファー、注文、請求」等を含む「販売」と呼ばれる別のキューを実行することができました。マックスにとってそのようなキュー構造は、注文処理を最適化するのを助けることができました。

キューの適切なデザインを通してのような改善されたシステム構造により、重要な時間および原価の削減につなげることができます。キューは、会社の中のプロセスを最適化するのを支援することができます。

## 8. キュー概要とは何か？

キュー概要は（チケットが表示され、読み書き権限を持つユーザに対する）全てのキューの一覧を提供します。

## QueueView: My Queues

My Queues (0) Raw (1)

All tickets 0

Available tickets 0



Bulk |

Order by "Age" (descending)



No ticket data found.

キュー概要は、OTRSの日常業務に対して様々なオプションを提供します。まずはじめに、マイキューです。担当者選択（選好）であるいは担当者を管理する場合、内部で作業するために指定された担当者のためにキューのセットは定義可能です。Ticket -> Queue View メニューにアクセスする時、すべてのチケットがこのデフォルト・ビューに表示されます。

キュー・ビューによって提供される2番目のオプションは、個別のキューと作業すべきチケット含むサブ・キューにドリルダウンするナビゲーションです。

両方のビュータイプでユーザはさらに追加の能力を持ちます。全てのアンロック・チケット、あるいは利用可能なチケットを見ることを選択できます。チケットは、キュー・ビューで見える可視状態タイプの一つでなければなりません。デフォルトでは「対応中、新規、保留、リマインダ、保留-自動」があります。

ユーザ補助のための視覚アラームがあります。

My Queues (0) Junk (1) Postmaster (1) Raw (1)

### 視覚アラーム

- **ハイライト 時間 1**：未対応のチケットを含んでいるハイライトされたキューに対して、数分(第1のレベル)の時間をセットします。「未対応」キューの中で上部に表示されます。
- **ハイライト 時間 2**：未対応のチケットを含んでいるハイライトされたキューに対して、数分(第2のレベル)の時間をセットします。「ポストマスター」キューの中で上部に表示されます。
- **点滅**：最も古いチケットを含んでいるキューの明滅するメカニズムを活性化します。すべてのブラウザでサポートされているわけではありません。その場合「ジャンク」キューの上部に赤色で見えます。
- **太字**：現在のキューは「マイキュー」の上部に太字で見えます。

## 9. ユーザ選択（選好）

OTRSユーザ（顧客、担当者、OTRS管理者としての）は、必要に応じて自身のアカウントの選択（選好）を構成できます。担当者はウェブインターフェイスの上部右隅にあるログイン名をクリックして構成画面にアクセスできます。顧客は「選択（選好）」リンクをクリックしなければなりません（下図参照）。

## Edit your preferences

User Profile	Email Settings	Other Settings
<b>Change password</b> Current password: <input type="text"/> New password: <input type="text"/> Verify password: <input type="text"/> <input type="button" value="Update"/>	<b>New ticket notification</b> Send me a notification if there is a new ticket in my queues/services. Send new ticket notifications if subscribed to: <input type="button" value="No Notification"/> <input type="button" value="Update"/>	<b>My Queues</b> Your queue selection of your fa about those queues via email if My Queues: <input type="button" value="Junk"/> <input type="button" value="Misc"/> <input type="button" value="Postmaster"/> <input type="button" value="Raw"/> <input type="button" value="Update"/>
<b>Language</b> Frontend language: <input type="button" value="English (United States)"/> <input type="button" value="Update"/>	<b>Ticket follow up notification</b> Send me a notification if a customer sends a follow up and I'm the owner of the ticket or the ticket is unlocked and is in one of my queues/services. Send ticket follow up notifications if subscribed to: <input type="button" value="No Notification"/> <input type="button" value="Update"/>	<b>My Services</b> Your service selection of your fa
<b>Skin</b> Wear this frontend skin: <input type="button" value="Default"/> <input type="button" value="Update"/>	<b>Ticket lock timeout notification</b> Send me a notification if a ticket is unlocked by the system.	
<b>Out Of Office Time</b>		

図：担当者の個人選択（選好）

担当者は選択（選好）から3つの異なるカテゴリーを構成できます。ユーザプロフィール、Eメール設定及びその他設定です。デフォルトの可能性は：

### ユーザ・プロフィール

- 現在のパスワードを変更
- インターフェイス言語を変更
- フロントエンド・スキンを変更
- フロントエンド・テーマを変更
- 業務外時間を活性化し構成

### Eメール設定

- 担当者へEメール通知をきっかけとするイベントを選択

### その他の設定

- 「マイキュー」でモニターしたいキューを選択
- Select the services you want to monitor in "My Services".
- Set the refresh period for the overviews (Dashboard, LockedView, QueueView).
- チケット作成後表示する画面を設定

## Example Company

Tickets

Interface language	Ticket overview
Language <input type="text" value="English (United States)"/>	Refresh interval <input type="text" value="off"/>
<input type="button" value="Update"/>	<input type="button" value="Update"/>

Number of displayed tickets	Change password
Tickets per page <input type="text" value="25"/>	Current password <input type="text"/>
<input type="button" value="Update"/>	New password <input type="text"/>
	Verify password <input type="text"/>
	<input type="button" value="Update"/>

### 図：顧客の個人選択（選好）

顧客はウェブ・インターフェース言語を選択し、チケット概要用の更新間隔をセットし、表示するチケット最大数を選択できます。また新しいパスワードをセットすることも可能です。



# 第4章 管理

## 1. OTRSの管理者エリア

### 1.1. 基礎

次のシステム構成セッティングは、OTRS管理者が、OTRSウェブインターフェースの管理者ページへのアクセスをすることで利用可能です。それにより可能なことは、担当者、顧客、そしてキューの追加。チケットとEメールの構成、FAQやITSMなどさらに多くの追加のパッケージをインストールすることです。

管理者グループのメンバーである担当者は、ナビゲーション・バー中の管理者リンクのクリックにより管理者エリアにアクセスすることができます(下記の図を参照)。十分に高いアクセス権のない担当者はこのリンクにアクセスすることができません。

<b>Agent Management</b> <b>Agents</b> Create and manage agents. <b>Agents &lt;-&gt; Groups</b> Link agents to groups. <b>Agents &lt;-&gt; Roles</b> Link agents to roles.	<b>Groups</b> Create and manage groups. <b>Roles</b> Create and manage roles. <b>Roles &lt;-&gt; Groups</b> Link roles to groups.	<b>Customer Management</b> <b>Customer User</b> Create and manage customer users. <b>Customer User &lt;-&gt; Groups</b> Link customer user to groups.	<b>Customers</b> Create and manage customers. <b>Customer User &lt;-&gt; Services</b> Link customer user to services.	<b>Email Settings</b> <b>PostMaster Mail Accounts</b> Manage POP3 or IMAP accounts to fetch email from. <b>Email Addresses</b> Set sender email addresses for this system. <b>PGP Keys</b> Manage PGP keys for email encryption.	<b>PostMaster Filters</b> Filter incoming emails. <b>S/MIME Certificates</b> Manage S/MIME certificates for email encryption.
<b>Queue Settings</b> <b>Queues</b> Create and manage queues. <b>Templates &lt;-&gt; Queues</b> Link templates to queues. <b>Auto Responses &lt;-&gt; Queues</b> Link queues to auto responses.	<b>Templates</b> Create and manage templates. <b>Auto Responses</b> Create and manage responses that are automatically sent. <b>Attachments</b> Create and manage attachments.	<b>Ticket Settings</b> <b>Agent Notifications</b> Manage notifications that are sent to agents. <b>Types</b> Create and manage ticket types. <b>States</b> Create and manage ticket	<b>Notifications (Event)</b> Create and manage event based notifications. <b>Access Control Lists (ACL)</b> Configure and manage ACLs. <b>Priorities</b> Create and manage ticket	<b>System Administration</b>	<b>Online Admin Manual</b>
				<b>GenericAgent</b> Manage tasks triggered by event or time based execution. <b>OTRS Business Solution™</b> Deploy and manage OTRS Business Solution™. <b>Admin Notification</b> Send notifications to users.	<b>System Registration</b> Manage system registration. <b>Service Center</b> Manage OTRS Group services. <b>Session Management</b> Manage existing sessions.

図: OTRS管理者画面。

### 1.2. 担当者、グループおよび役割

#### 1.2.1. 担当者

担当者のリンクをクリックし、OTRSの担当者管理画面にアクセスします(下記の図を参照)。管理者は担当者アカウントを追加、変更、非活性化することができます。更に、管理者は個々の担当者のインターフェースのための言語と通知に関する構成を含む担当者選好を管理することができます。

#### 注記

OTRSの担当者アカウントは非活性化されますが、ここでは削除はされません。非活性化は無効または無効-暫定のフラグを有効にセットするで実施されます。

### Agent Management

**Actions**

**List**

USERNAME	NAME	EMAIL	LAST LOGIN	VALIDITY	CHANGED	CREATED
carlos.garcia	Carlos Garcia	carlos.garcia@mycompany...		valid	11/28/2014 01:28	11/28/2014 01:28
carlos.rodriguez	Carlos Rodriguez	carlos.rodriguez@mycomp...		valid	11/28/2014 03:22	11/28/2014 03:22
dennis.schmelter	Dennis Schmelter	dennis.schmelter@mycomp...		valid	11/28/2014 03:52	11/28/2014 03:52
dominik.klein	Dominik Klein	dominik.klein@mycompany...		valid	11/28/2014 03:51	11/28/2014 03:51
johannes.horburger	Johannes Hörburger	johannes.horburger@myco...		valid	11/28/2014 03:50	11/28/2014 03:50
manuel.hecht	Manuel Hecht	manuel.hecht@mycompany.com		valid	11/28/2014 03:54	11/28/2014 03:54
marc.bonsels	Marc Bonsels	marc.bonsels@mycompany.com		valid	11/28/2014 03:24	11/28/2014 03:24
marco.buchholz	Marco Buchholz	marco.buchholz@mycompan...		valid	11/28/2014 03:48	11/28/2014 03:48
martin.gruner	Martin Gruner	martin.gruner@mycompany...		valid	11/28/2014 03:23	11/28/2014 03:23
oliver.rottges	Oliver Röttges	oliver.rottges@mycompan...		valid	11/28/2014 03:52	11/28/2014 03:52
rolf.schmidt	Rolf Schmidt	rolf.schmidt@mycompany.com		valid	11/28/2014 03:53	11/28/2014 03:53
root@localhost	Admin OTRS	root@localhost	11/28/2014 00:37	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
stefan.bedorf	Stefan Bedorf	stefan.bedorf@mycompany...		valid	11/28/2014 03:46	11/28/2014 03:46
udo.bretz	Udo Bretz	udo.bretz@mycompany.com		valid	11/28/2014 03:47	11/28/2014 03:47

**Hint**

Agents will be needed to handle tickets.  
 Attention: Don't forget to add a new agent to groups and/or roles!

図:担当者管理。

担当者を登録するには図の中で示されるように、「担当者追加」ボタン上のクリックし、必要なデータを入力し、画面の最下部の送信 (Submit) ボタンを押します。

### Agent Management

**Actions**

**Add Agent**

Title:

★ Firstname:

★ Lastname:

★ Username:

Password:

★ Email:

Validity:

Language:

Frontend language

Skin:

Wear this frontend skin

Out Of Office Time:  On  Off

Start:  /  /

End:  /  /

New ticket notification:

Send new ticket notifications if subscribed to

**Hint**

Agents will be needed to handle tickets.  
 Attention: Don't forget to add a new agent to groups and/or roles!

図:新規担当者の追加。

新規担当者アカウントが作成された後、担当者に1つ以上のグループあるいは役割のメンバーを作るべきです。グループと役割に関する情報は本章のグループ と役割のセクションにおいて利用可能です。

## 1.2.2. グループ

すべての担当者アカウントは少なくとも1つのグループあるいは役割に属するべきです。新規インストールでは、テーブル5-1に示されるように、利用可能な3つの事前定義されたグループがあります。

表4.1 デフォルト・グループは新規のOTRSインストールで利用可能です

グループ	摘要
admin	システムで管理業務を実行することができます。
stats	OTRSのstatsモジュールにアクセスし、統計を生成する資格があります。
users	担当者は読み書きの権限を持って、このグループに属し、チケットシステムのすべての機能にアクセスすることができます


## 注記

新規OTRSインストールでは、最初はユーザグループにメンバーは存在しません。担当者'root@localhost'はデフォルトでは管理者及び状態グループに属します。

管理者エリアのグループリンクをクリックするとグループ管理ページ(下記の図を参照)にアクセスすることができます。

**Group Management**

**Actions**

 Add group

**Hint**

The admin group is to get in the admin area and the stats group to get stats area.  
 Create new groups to handle access permissions for different groups of agent (e. g. purchasing department, support department, sales department, ...).  
 It's useful for ASP solutions.

**List**

NAME	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED
admin	Group of all administrators.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
stats	Group for statistics access.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
users	Group for default access.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50

図:グループ管理。

## 注記

担当者でそうであるように、OTRSグループは非活性化することができますが削除はできません。非活性化は無効または無効-暫定のフラグを有効にセットすることで実施されます。

担当者をグループに加えるかあるいはグループに属する担当者を変更するために、管理者ページから担当者リンク<->グループを使用することができます(下記の図を参照)。

**Manage Agent-Group Relations**

**Filter for Agents**

Just start typing to filter...

**Filter for Groups**

Just start typing to filter...

**Overview**

**AGENTS**

- carlos.garcia (Carlos García)
- carlos.rodriguez (Carlos Rodríguez)
- dennis.schmelter (Dennis Schmelter)
- dominik.klein (Dominik Klein)
- johannes.horburger (Johannes Hörburger)
- manuel.hecht (Manuel Hecht)
- marc.bonsels (Marc Bonsels)
- marco.buchholz (Marco Buchholz)
- martin.gruner (Martin Gruner)
- oliver.rottgies (Oliver Röttges)
- rolf.schmidt (Rolf Schmidt)
- root@localhost (Admin OTRS)
- stefan.bedorf (Stefan Bedorf)
- udo.bretz (Udo Bretz)

**GROUPS**

- admin
- stats
- users

図:グループ管理。

システムでのすべてのグループおよび担当者の概要はこのページに表示されます。さらに、特定のエンティティ(実体)を検索するために利用可能なフィルタを使用することができます。担当者がメンバーであるグループを変更したい場合は、担当者の名前をクリックしてください(下記の図を参照)。グループに関連付けされた担当者を変更するためには、編集したいグループをクリックしてください(下記の図を参照)。

### Manage Agent-Group Relations

Actions

Go to overview

Change Group Relations for Agent **Carlos Rodríguez (carlos.rodriguez)**

GROUP	<input type="checkbox"/> RO	<input type="checkbox"/> MOVE_INTO	<input type="checkbox"/> CREATE	<input type="checkbox"/> NOTE	<input type="checkbox"/> OWNER	<input type="checkbox"/> PRIORITY	<input type="checkbox"/> RW
admin	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
stats	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
users	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Submit or Cancel

Reference

**ro**  
Read only access to the ticket in this group/queue.

**move\_into**  
Permissions to move tickets into this group/queue.

**create**  
Permissions to create tickets in this group/queue.

**note**  
Permissions to add notes to tickets in this group/queue.

**owner**  
Permissions to change the owner of tickets in this group/queue.

**priority**  
Permissions to change the ticket priority in this group/queue.

**rw**  
Full read and write access to the tickets in this group/queue.

図:担当者が属するグループを変更。

### Manage Agent-Group Relations

Actions

Go to overview

Change Agent Relations for Group **users**

AGENT	<input checked="" type="checkbox"/> RO	<input checked="" type="checkbox"/> MOVE_INTO	<input checked="" type="checkbox"/> CREATE	<input checked="" type="checkbox"/> NOTE	<input checked="" type="checkbox"/> OWNER	<input checked="" type="checkbox"/> PRIORITY	<input checked="" type="checkbox"/> RW
carlos.garcia (Carlos García)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
carlos.rodriguez (Carlos Rodríguez)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
dennis.schmelter (Dennis Schmelter)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
dominik.klein (Dominik Klein)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
johannes.horburger (Johannes Hörburger)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
manuel.hecht (Manuel Hecht)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
marc.bonsels (Marc Bonsels)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
marco.buchholz (Marco Buchholz)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
martin.gruner (Martin Gruner)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
oliver.rottges (Oliver Röttges)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
rolf.schmidt (Rolf Schmidt)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
root@localhost (Admin OTRS)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
stefan.bedorf (Stefan Bedorf)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
udo.bretz (Udo Bretz)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

Submit or Cancel

Reference

**ro**  
Read only access to the ticket in this group/queue.

図:特定のグループに属する担当者を変更。

各グループはそれに関連した権限のセットを保持しています。そして各グループメンバー(担当者)は各々自分のためにこれらの権限の組み合わせを持つことができます。許可/権限のリストはテーブル5-2を御覧ください。

表4.2 OTRSグループと関連した権限

権限	摘要
ro	このグループのチケット、エントリー、キューへのRead onlyのアクセス
move into	このグループのエリア、キュー間におけるエントリーあるいはチケットの移動権限
create	このグループのエリアまたはキュー間におけるエントリーあるいはチケットの作成権限
note	Right to add notes to tickets or entries in the queues or areas of this group.
owner	このグループのエリアまたはキュー間におけるエントリーあるいはチケットのオーナーの更新権限

権限	摘要
優先度 ( priority )	このグループのエリアまたはキュー間におけるエントリあるいはチケットの優先度の変更権限
rw	このグループのエリアまたはキュー間におけるエントリあるいはチケットのフルのRead/Write権限

## 注記

By default, the QueueView only lists tickets in queues that an agent has `rw` access to, i.e., the tickets the agent needs to work on. If you want to change this behaviour, you can set `Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###ViewAllPossibleTickets` to `Yes`.

すべての利用可能なパーミッションはデフォルトで表示されるとは限りません。これらの追加のパーミッションは加えることができます。

**表4.3** 追加の許可グループ

権限	摘要
stats	stats(統計)ページにアクセス権を与えます。
bounce ( 返送 )	Eメールメッセージを送り返す権限 ( チケットズームの返送ボタンで )。
compose ( 作成 )	チケットに対する回答を作成する権限。
customer ( 顧客 )	チケットの顧客を変更する権限。
forward ( 転送 )	メッセージを転送する権限(転送ボタンで)。
pending ( 保留 )	チケットを保留にする権限。
phone ( 電話 )	チケットに通話を追加する権限。
responsible ( 責任者 )	チケットに対する責任担当者を変更する権限。

## 注記

権限の変更は`System::Permission`から変更可能です

### 1.2.3. 役割

Roles:"役割"は、強力な機能で、それにより非常にシンプルかつ迅速に多くの担当者のアクセス権を管理できます。それらは、多くの担当者、グループおよびキューを抱える大きく複雑なサポート・システムで特に役立ちます。下記の例でどのようなケースでご利用いただければ良いかを説明します。

あなたのシステムが100人の担当者を持つと仮定します。90 of them with access to a single queue called "support" where all support requests are handled. 単一のキューにアクセスを持つ100人中90人は、全てのサポート依頼を取り扱う「サポート」と呼ばれるます。「サポート」キューは複数の副キューを含みます。残りの10人の担当者は、システムの全てのキューへアクセスする許可を持っています。この10人の担当者は、チケットを発行し、未対応のキューを見て、「ジャンク」キューへスパム・メッセージを移動させます。

その会社は、何らかの製品を販売する新規部署を開設します。注文依頼、受注、注文確認あるいは支払などの処理が必要となるでしょう。そして、会社の担当者のうちの数人は、OTRSを使用して、これを行うこととなります。異なる担当者は、生成される新規のキューへのアクセスを得なければいけません。

個々の担当者のためにアクセス権を手動で変更するのに長い時間がかかるので、異なるアクセスレベルを定義する“役割”を作成することができます。その後、担当者は、自動的に修正済のアクセス権を持つことにより、1つ以上の役割に加えることができます。新規担当者アカウントが作成される場合、さらに、このアカウントを1つ以上の役割に加えることは可能です。


## 注記

Roles are really useful when dealing with complex organizations and when maintaining larger OTRS installations. Proper care is advised though. Mixing Agent to Group with Agent to Role mappings can make for a complex access control scheme, that is difficult to understand and maintain. If you wish to use only roles and disable the Agents <-> Groups option in the Admin area, you can do so by modifying the Frontend::Module###AdminUserGroup in the SysConfig. Be aware that this won't remove already existing Agents to Group assignments!

管理ページにある 役割 リンクをクリックすることで、役割管理セクション(下図参照)にアクセスできます。

**Role Management**

Actions

 Add role

Hint

Create a role and put groups in it. Then add the role to the users.

List

NAME	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED
Development	Member of the developme...	valid	11/28/2014 04:15	11/28/2014 04:15
IT Supervisor	Supervisor of the IT de...	valid	11/28/2014 04:13	11/28/2014 04:13
Service Desk	Member of the service d...	valid	11/28/2014 04:15	11/28/2014 04:15

図: 役割管理。


## 注記

担当者とグループでそうであったように、いったん作成された役割は、非活性化することができるが削除することができません。非活性化するためには、有効オプションで「無効」あるいは「無効-暫定」にセットするします。

システムでのすべての役割の概要が表示されます。役割設定を編集するためには、役割の名前をクリックしてください。新規のOTRSインストールでは、デフォルトで定義された役割はありません。役割を登録するためには、「役割追加」ボタンをクリックして、必要とされるデータを入力し、それを送信(Submit)して下さい(下記の図を参照)。

**Role Management**

Actions


 Go to overview

Hint

Create a role and put groups in it. Then add the role to the users.

Add Role

★ Name:

Validity:  

Comment:

or

図:役割の新規追加。

システムですべての役割および担当者の概要を得るためには、管理者ページの役割リンク<-> 担当者をクリックして下さい。さらに、特定の要素を見つけるためにフィルタを使用することができます。担当者に関連付けられた役割を変更したい場合は、担当者の名前をクリックしてください(下記の図を参照)。役割に関連付けられた担当者を変更するためには、あなたが編集したい役割をクリックしてください(下記の図を参照)。

## Manage Role-Agent Relations

**Actions**

◀ Go to overview

**Filter**

Change Role Relations for Agent **Dennis Schmelter (dennis.schmelter)**

ROLE	<input type="checkbox"/> ACTIVE
Development	<input checked="" type="checkbox"/>
IT Supervisor	<input type="checkbox"/>
Service Desk	<input type="checkbox"/>

Submit or Cancel

図：担当者に関連付けられた役割の変更

## Manage Role-Agent Relations

**Actions**

◀ Go to overview

**Filter**

Change Agent Relations for Role **Development**

AGENT	<input type="checkbox"/> ACTIVE
carlos.garcia (Carlos García)	<input type="checkbox"/>
carlos.rodriguez (Carlos Rodríguez)	<input type="checkbox"/>
dennis.schmelter (Dennis Schmelter)	<input type="checkbox"/>
dominik.klein (Dominik Klein)	<input type="checkbox"/>
johannes.horburger (Johannes Hörburger)	<input type="checkbox"/>
manuel.hecht (Manuel Hecht)	<input type="checkbox"/>
marc.bonsels (Marc Bonsels)	<input type="checkbox"/>
marco.buchholz (Marco Buchholz)	<input type="checkbox"/>
martin.gruner (Martin Gruner)	<input type="checkbox"/>
oliver.rottges (Oliver Röttges)	<input type="checkbox"/>
rolf.schmidt (Rolf Schmidt)	<input type="checkbox"/>
root@localhost (Admin OTRS)	<input type="checkbox"/>
stefan.bedorf (Stefan Bedorf)	<input type="checkbox"/>
udo.bretz (Udo Bretz)	<input type="checkbox"/>

Submit or Cancel

図：特別な役割に関連付けられた担当者の変更

システムでのすべての役割およびグループの概要を得るためには、管理者ページのリンク・役割<->グループをクリックしてください。図で表示されたと同様の画面が見えることでしょう。さらに、特定のエンティティ（実体）を見つけるためにフィルタを使用することができます。

## Manage Role-Group Relations

**Filter for Roles**

**Overview**

ROLES	GROUPS
Development	admin
IT Supervisor	stats
Service Desk	users

## 役割グループ関係の管理

役割用の異なるアクセス権を定義するためには、役割またはグループの名前をクリックしてください(図5.13および5.14以下にそれぞれ参照)。

## Manage Role-Group Relations

**Actions**

Go to overview

**Filter**

**Hint**

Select the role:group permissions. If nothing is selected, then there are no permissions in this group (tickets will not be available for the role).

Change Group Relations for Role **Service Desk**

GROUP	<input type="checkbox"/> RO	<input type="checkbox"/> MOVE_INTO	<input type="checkbox"/> CREATE	<input type="checkbox"/> NOTE	<input type="checkbox"/> OWNER	<input type="checkbox"/> PRIORITY	<input type="checkbox"/> RW
admin	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
stats	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
users	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Submit or Cancel

**Reference**

**ro**  
Read only access to the ticket in this group/queue.

**move\_into**  
Permissions to move tickets into this group/queue.

**create**  
Permissions to create tickets in this group/queue.

**priority**  
Permissions to change the ticket priority in this group/queue.

**rw**  
Full read and write access to the tickets in this group/queue.

図: 役割のためのグループ関係の変更

## Manage Role-Group Relations

**Actions**

Go to overview

**Filter**

**Hint**

Select the role:group permissions. If nothing is selected, then there are no permissions in this group (tickets will not be available for the role).

Change Role Relations for Group **stats**

ROLE	<input type="checkbox"/> RO	<input type="checkbox"/> MOVE_INTO	<input type="checkbox"/> CREATE	<input type="checkbox"/> NOTE	<input type="checkbox"/> OWNER	<input type="checkbox"/> PRIORITY	<input type="checkbox"/> RW
Development	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
IT Supervisor	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Service Desk	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Submit or Cancel

**Reference**

**ro**  
Read only access to the ticket in this group/queue.

**move\_into**  
Permissions to move tickets into this group/queue.

**create**  
Permissions to create tickets in this group/queue.

**priority**  
Permissions to change the ticket priority in this group/queue.

**rw**  
Full read and write access to the tickets in this group/queue.

図: グループ用役割関係の変更

## 1.3. 顧客および顧客グループ

### 1.3.1. 顧客

OTRSは、異なるタイプのユーザをサポートします。顧客リンク(ナビゲーション・バー、あるいは管理者ページから)を使用すると、顧客(下記の図を参照)のアカウントを管理することができます。顧客・インターフェース(customer.pl)経由でシステムにログインすることができます。このインターフェースを通して、あなたの顧客はチケットを作成することができるだけでなく、更新するために過去のチケットをレビューすることもできます。顧客はシステムでのチケット履歴を必要としていることを知ることは重要です。



### Customer User Management

Actions

List

USERNAME	NAME	EMAIL	CUSTOMERID	LAST LOGIN	VALIDITY
anthony.stark	Mr. Anthony Stark	anthony.stark@testcustomer.com	THAVS		valid
bruce.banner	Mr. Bruce Banner	bruce.banner@testcustomer.com	THAVS		valid
thor.odinson	Mr. Thor Odinson	thor.odinson@testcustomer.com	THAVS		valid

Hint

Customer user are needed to have a customer history and to login via customer panel.

図: 顧客管理

登録した顧客を検索し顧客名をクリックすることで設定を編集できます。顧客のバックエンドを変更することもできます。詳細は外部バックエンドの章を参照下さい。

新規顧客アカウントを作成するためには、「顧客追加」ボタンをクリックしてください(下記の図を参照)。フィールドのうちのいくつかは入力必須項目です。つまり、フィールドには値の入力が必要です。したがって、必須入力項目に入力漏れがあれば、赤でハイライトされます。

### Customer User Management

Actions

Add Customer User

Title:

\*

\*

Password:

\*

\*

Phone:

Fax:

Mobile:

Street:

Zip:

City:

Country:

Hint

Customer user are needed to have a customer history and to login via customer panel.

図: 顧客追加

顧客はそれらのユーザー名とパスワードの提供されることでシステムにアクセスすることができます。CustomerIDはユーザと関連チケットを識別するためにシステムによって必要です。メールアドレスがユニークな値であるので、それはIDとして使用することができます。

## 注記

担当者、グループおよび役割でそうであったように、顧客は、システムから削除されません。単に、有効オプションが無効または無効-暫定に設定されることで非活性化されるだけです。

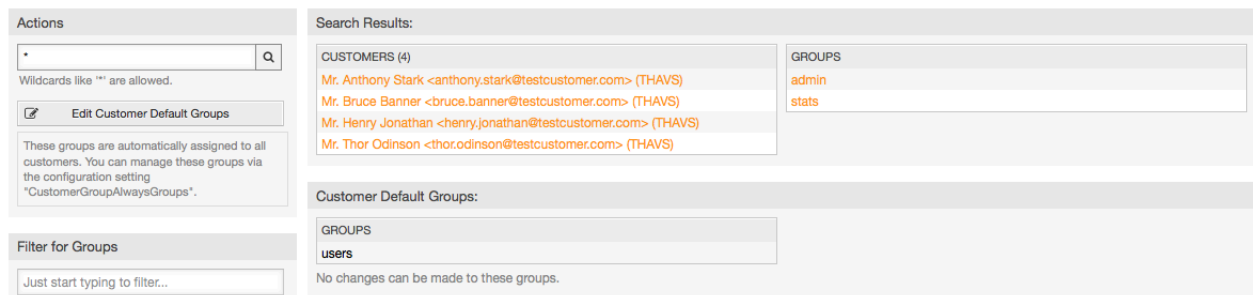
### 1.3.2. 顧客グループ

顧客ユーザもグループに加えることができます。1つあるいは少数のキューへのアクセスと同じ会社の顧客を加えたいければ、役立つでしょう。まず、グループ管理モジュールによって、あなたの顧客が属するグループを作ってください。次に、キューを加えて、キューに新規グループを選んでください。

The next step is to activate the customer group support. This can be done with the configuration parameter CustomerGroupSupport, from the Admin SysConfig option. Using the parameter CustomerGroupAlwaysGroups, you can specify the default groups for a newly added customer, so that every new account will be automatically added to these groups.

リンク"顧客<-> グループ" によって、異なるグループ(下記の図を参照)に属する顧客を管理できません。

### Manage Customer-Group Relations



**Actions**

Wildcards like "\*" are allowed.

Edit Customer Default Groups

These groups are automatically assigned to all customers. You can manage these groups via the configuration setting "CustomerGroupAlwaysGroups".

Filter for Groups

Just start typing to filter...

**Search Results:**

**CUSTOMERS (4)**

- Mr. Anthony Stark <anthony.stark@testcustomer.com> (THAVS)
- Mr. Bruce Banner <bruce.banner@testcustomer.com> (THAVS)
- Mr. Henry Jonathan <henry.jonathan@testcustomer.com> (THAVS)
- Mr. Thor Odinson <thor.odinson@testcustomer.com> (THAVS)

**GROUPS**

- admin
- stats

**Customer Default Groups:**

GROUPS

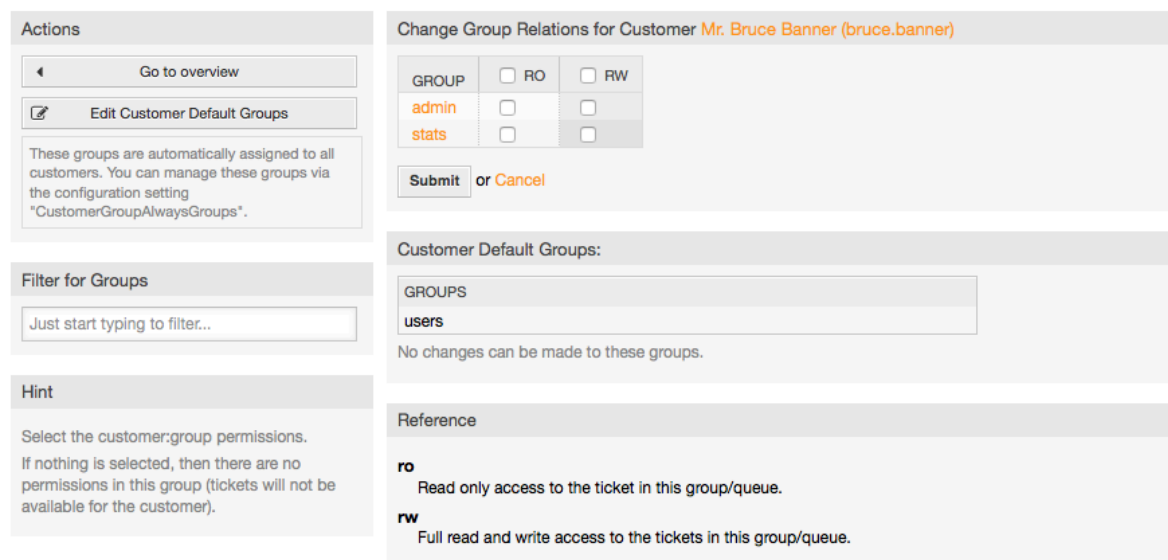
- users

No changes can be made to these groups.

### 図:顧客グループ関係管理

異なるグループを定義するために、顧客もその一部分であるべきです。対応する顧客名やグループをクリックします(図5.16および5.17以下にそれぞれ参照)。

### Manage Customer-Group Relations



**Actions**

Go to overview

Edit Customer Default Groups

These groups are automatically assigned to all customers. You can manage these groups via the configuration setting "CustomerGroupAlwaysGroups".

Filter for Groups

Just start typing to filter...

**Hint**

Select the customer:group permissions.  
If nothing is selected, then there are no permissions in this group (tickets will not be available for the customer).

**Change Group Relations for Customer Mr. Bruce Banner (bruce.banner)**

GROUP	<input type="checkbox"/> RO	<input type="checkbox"/> RW
admin	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
stats	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Submit or Cancel

**Customer Default Groups:**

GROUPS

- users

No changes can be made to these groups.

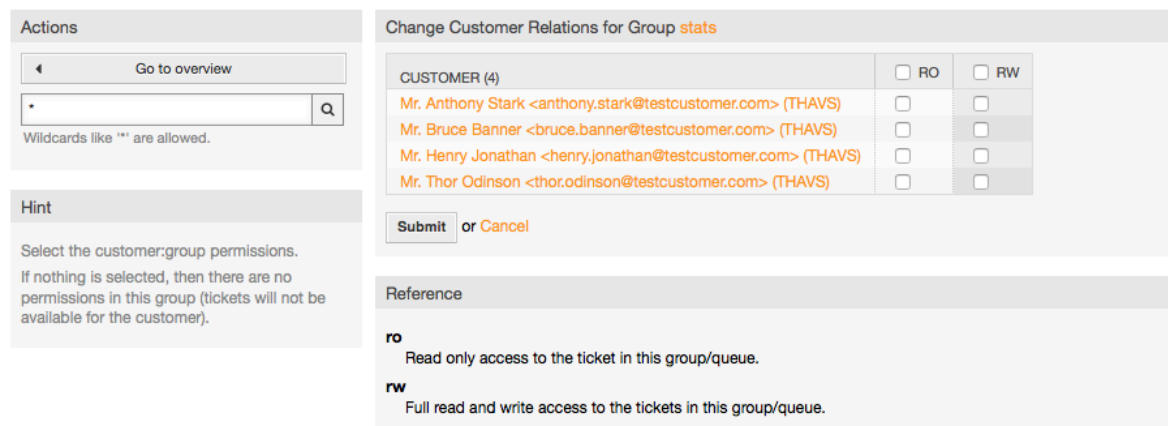
**Reference**

**ro**  
Read only access to the ticket in this group/queue.

**rw**  
Full read and write access to the tickets in this group/queue.

### 図:顧客用グループ関係の変更

### Manage Customer-Group Relations



**Actions**

Go to overview

Wildcards like "\*" are allowed.

**Hint**

Select the customer:group permissions.  
If nothing is selected, then there are no permissions in this group (tickets will not be available for the customer).

**Change Customer Relations for Group stats**

CUSTOMER (4)	<input type="checkbox"/> RO	<input type="checkbox"/> RW
Mr. Anthony Stark <anthony.stark@testcustomer.com> (THAVS)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Mr. Bruce Banner <bruce.banner@testcustomer.com> (THAVS)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Mr. Henry Jonathan <henry.jonathan@testcustomer.com> (THAVS)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Mr. Thor Odinson <thor.odinson@testcustomer.com> (THAVS)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Submit or Cancel

**Reference**

**ro**  
Read only access to the ticket in this group/queue.

**rw**  
Full read and write access to the tickets in this group/queue.

図:グループのための顧客関係の変更

## 1.4. キュー

管理者ページをリンク「キュー」をクリックすると、システムのキューを管理することができます(下記の図を参照)。新規OTRS装置では、4つのデフォルト・キューがあります:「未対応」、「ジャンク」、「その他」と「ポストマスター」。フィルタ規則が定義されなければ、受信メッセージはすべて「未対応の」キューに格納されるでしょう。「ジャンク」キューはスパム・メッセージを格納するために使用することができます。

### Manage Queues

NAME	GROUP	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED
Junk	users	All junk tickets.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
Misc	users	All misc tickets.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
Postmaster	users	Postmaster queue.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
Raw	users	All default incoming ti...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50

図:キュー管理

ここで、キュー(下記の図を参照)を加えて、それらを修正することができます。キューを使用すべきグループを指定することができます。さらに、既存のキューのサブキューとしてキューをセットすることができます。

### Manage Queues

Actions	Add Queue
Go to overview	<p>★ Name: <input type="text" value="Support"/></p> <p>Sub-queue of: <input type="text" value=""/></p> <p>★ Group: <input type="text" value="admin"/></p> <p>Unlock timeout minutes: <input type="text" value="1220"/></p> <p><small>0 = no unlock - 24 hours = 1440 minutes - Only business hours are counted. If an agent locks a ticket and does not close it before the unlock timeout has passed, the ticket will unlock and will become available for other agents.</small></p> <p>Escalation - first response time (minutes): <input type="text" value="60"/> (Notify by <input type="text" value="50%"/>)</p> <p><small>0 = no escalation - 24 hours = 1440 minutes - Only business hours are counted. If there is not added a customer contact, either email-external or phone, to a new ticket before the time defined here expires, the ticket is escalated.</small></p> <p>Escalation - update time (minutes): <input type="text" value="180"/> (Notify by <input type="text" value="50%"/>)</p> <p><small>0 = no escalation - 24 hours = 1440 minutes - Only business hours are counted. If there is an article added, such as a follow-up via email or the customer portal, the escalation update time is reset. If there is no customer contact, either email-external or phone, added to a ticket before the time defined here expires, the ticket is escalated.</small></p> <p>Escalation - solution time (minutes): <input type="text" value="300"/> (Notify by <input type="text" value="50%"/>)</p> <p><small>0 = no escalation - 24 hours = 1440 minutes - Only business hours are counted. If the ticket is not set to closed before the time defined here expires, the ticket is escalated.</small></p>

図:新規キューの追加

キュー用のアンロック・タイムアウトを定義することができます。担当者がチケットをロックし、アンロックタイムアウトが過ぎる前に、それを完了しなければ、チケットが自動的にアンロックされ、他の担当者が継続して利用可能にされます。

キュー・レベルに関連可能な3つのエスカレーション時間設定があります:

### エスカレーション - 第1の応答時間

- チケットの生成の後、顧客といかなるコミュニケーションも無く、定義された時間が失効した場合、Eメールであれ電話であれエスカレーションされます。

### エスカレーション - 更新時間

- Eメールあるいは顧客ポータル(それはチケットに記録される)のいずれかによって顧客フォローアップがある場合、エスカレーション更新時間はリセットされます。ここで定義された時間が失効するまでに顧客へのコンタクトがない場合、チケットはエスカレーションされます。

## エスカレーション - 解決時間

- ここで定義された時間が失効する前にチケットが完了（成功）しなかったら、チケットはエスカレーションされます。

「フォローアップの後のチケット・ロック」により、以下を定義できます。1. 旧チケット・オーナーに対して「ロック」状態にセットすべきチケット。2. 一旦完了して、再度対応中となったチケットこれにより以前にそのチケットを扱った担当者が確実にフォローアップ・チケットが処理することができます。

システム・アドレス用のパラメタは、このキューの送信チケットに使用されるメール・アドレスを特定します。Eメール返信のために、挨拶文と署名にキューを関連させることもできます。より多くの詳細情報に関しては、Eメール・アドレス、挨拶文および署名のセクションを参照してください。

### 注記

担当者でそうであるように、グループ、顧客、キューは削除できません。単に有効オプションを無効にあるいは無効-暫定にする設定によって非活性化するだけです。

## 1.5. 挨拶文、署名、添付およびテンプレート

### 1.5.1. 挨拶文

挨拶文はテンプレート用のテキスト・モジュールです。キューに関するセクションに述べられているように、挨拶文は1つ以上のキューにリンクすることができます。挨拶文は、挨拶文がリンクされて、返信されているキューからのチケットのみに使用されます。システムの異なる挨拶文を管理するためには、管理者エリアの「挨拶文」リンクを使用してください(下記の図を参照)。

Salutation Management

Actions		List				
<input type="button" value="Add salutation"/>		NAME	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED
		system standard salutation (en)	Standard Salutation.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50

図:挨拶文管理

デフォルト・インストレーションの後、利用可能な1つの挨拶文が既にあります、「システム標準挨拶文(en)」

新規挨拶文を作成するには「挨拶文の追加」ボタンを押して、必要なデータを提供し、送信して(下記の図を参照)下さい

## Salutation Management

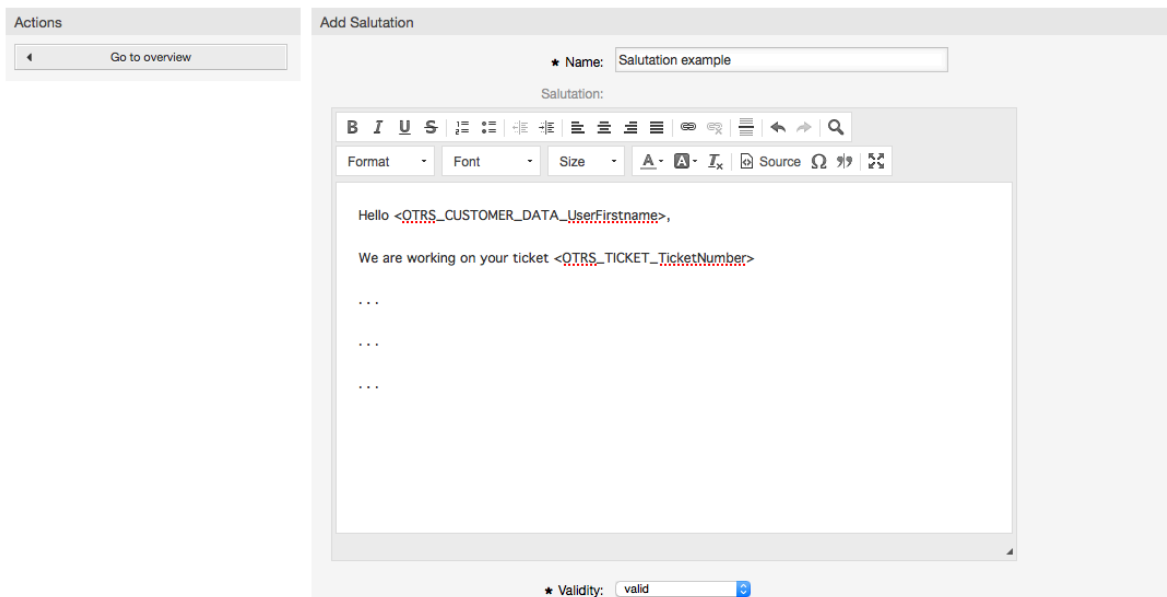


図:新規挨拶文の追加

挨拶文の中で変数を使用することは可能です。チケットに回答する時、変数名はそれらの値と取り替えられるでしょう。

テンプレートの中で使用することができる異なる変数は、挨拶文画面の下方部分にリストされます。例えばこれを使えば、チケット送信者の姓が変数<OTRS\_LAST\_NAME> が返信に含まれるでしょう。

## 注記

他のOTRSの実体のように、挨拶文は削除できません。有効オプションを無効または無効-暫定にすることで不活性化されるだけです。

## 1.5.2. 署名

テンプレート用の別のテキスト・モジュールは署名です。キューに関するセクションに述べられているように、署名はキューにリンクすることができます。署名が以前にキューにリンクされていれば、署名は単にテンプレート・テキストに追加されるだろうということに注意してください。管理者ページの「署名」リンクへのアクセスにより、システムでの署名を管理することができます(下記の図を参照)。

**Signature Management**

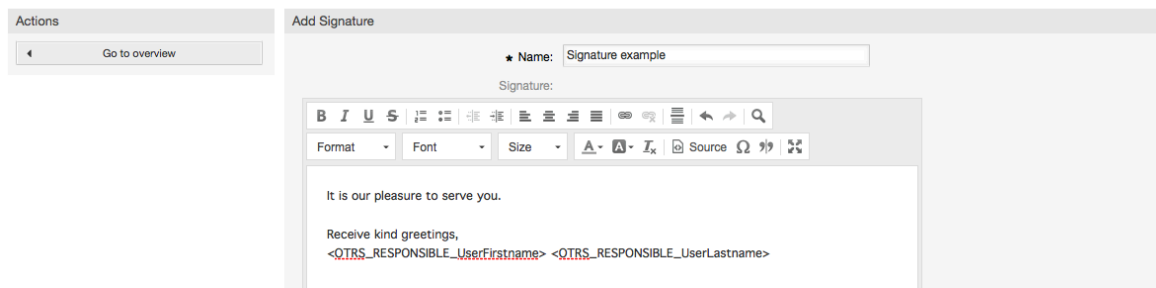
NAME	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED
system standard signature (en)	Standard Signature.	valid	11/25/2014 11:14	11/25/2014 11:14

図: 署名管理

OTRSの新規インストール後、システムにはあらかじめ定義された署名：「システム標準署名(en)」が存在します。

新規署名を作成するために、「署名の追加」ボタンを押して下さい。必要とされるデータを提供し、送信します(下記の図を参照)。

### Signature Management



Actions: [Go to overview](#)

Add Signature

★ Name:

Signature:

**B I U S** | **Format** | **Font** | **Size** | **Color** | **Background Color** | **Text Color** | **Text Background Color** | **Source** | **Undo** | **Redo** | **Search**

It is our pleasure to serve you.

Receive kind greetings,  
 <OTRS\_RESPONSIBLE\_UserFirstname> <OTRS\_RESPONSIBLE\_UserLastname>

図:新規署名の追加

挨拶文のように、署名は、チケットに答える担当者の姓、名のような動的内容を含むことができます。またここで変数は、すべてのチケットに対して署名テキストのコンテンツを代替するために使用することができます。使う変数に関しては署名画面の下部をご覧ください。あなたが署名に例えば可変<OTRS\_LAST\_NAME>を含めば、チケットに答える担当者の姓は変数を代替します。

### 注記

挨拶文でもそうであるように、署名も削除できません。有効オプションを無効または無効-一時的に設定してのみ非活性化することができます。

## 1.5.3. 添付

さらに、任意に1つ以上の添付をテンプレートに加えることができます。テンプレートが選択されていれば、添付はメッセージ作成ウィンドウに付けられるでしょう。必要ならば、担当者は顧客のもとへそれを送る前に個々のテンプレートから添付を取り除くことができます。

管理者ページの「添付」リンクによって、システムのデータベースに添付を読み込むことができます(下記の図を参照)。

### Attachment Management

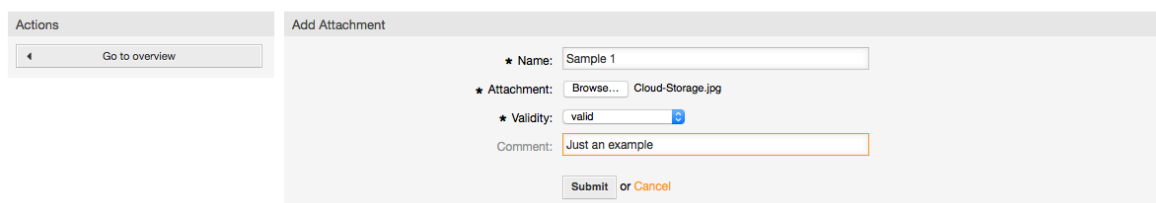


NAME	FILENAME	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED	DELETE
Sample 1	Cloud-Storage.jpg	Just an example	valid	12/01/2014 19:23	12/01/2014 19:23	
Sample 2	buro.pdf	Just another sample.	valid	12/01/2014 19:37	12/01/2014 19:37	

図:添付管理

新規添付を作成するために、「添付追加」ボタンを押し、必要なデータを提供し、送信します(下記の図を参照)。

### Attachment Management



Actions: [Go to overview](#)

Add Attachment

★ Name:

★ Attachment:  Cloud-Storage.jpg

★ Validity:

Comment:

or

図:新規添付の追加

添付が格納される場合、1つ以上のテンプレートにリンクすることができます。管理者ページ(下記の図を参照)のリンク「添付<-> テンプレート」をクリックして下さい。

### Manage Templates <-> Attachments Relations

Filter for Templates	Overview	ATTACHMENTS
Just start typing to filter...	TEMPLATES Answer - empty answer Answer - test answer Create - Ceate One Create - Create Two Email - Email One Forward - Forward One Forward - Forward Two Note - Simple PhoneCall - General PhoneCall Template	Sample 1 ( Cloud-Storage.jpg ) Sample 2 ( buro.pdf )

図:添付のテンプレートへのリンク

特定のテンプレートに、および逆に異なる添付を関連させるためには、対応するテンプレート名あるいは添付をクリックしてください(図5.27および5.28以下にそれぞれ参照)。

### Manage Templates <-> Attachments Relations

Actions	Change Attachment Relations for Template Answer - empty answer						
Go to overview	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ATTACHMENT</th> <th>ACTIVE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sample 1 ( Cloud-Storage.jpg )</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Sample 2 ( buro.pdf )</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	ATTACHMENT	ACTIVE	Sample 1 ( Cloud-Storage.jpg )	<input type="checkbox"/>	Sample 2 ( buro.pdf )	<input type="checkbox"/>
ATTACHMENT	ACTIVE						
Sample 1 ( Cloud-Storage.jpg )	<input type="checkbox"/>						
Sample 2 ( buro.pdf )	<input type="checkbox"/>						
Filter Just start typing to filter...	Submit or Cancel						

図:テンプレート用添付関連の変更

### Manage Templates <-> Attachments Relations

Actions	Change Template Relations for Attachment Sample 1																				
Go to overview	<table border="1"> <thead> <tr> <th>TEMPLATE</th> <th>ACTIVE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Answer - empty answer</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Answer - test answer</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Create - Ceate One</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Create - Create Two</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Email - Email One</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Forward - Forward One</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Forward - Forward Two</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Note - Simple</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>PhoneCall - General PhoneCall Template</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	TEMPLATE	ACTIVE	Answer - empty answer	<input type="checkbox"/>	Answer - test answer	<input type="checkbox"/>	Create - Ceate One	<input type="checkbox"/>	Create - Create Two	<input type="checkbox"/>	Email - Email One	<input checked="" type="checkbox"/>	Forward - Forward One	<input type="checkbox"/>	Forward - Forward Two	<input type="checkbox"/>	Note - Simple	<input checked="" type="checkbox"/>	PhoneCall - General PhoneCall Template	<input checked="" type="checkbox"/>
TEMPLATE	ACTIVE																				
Answer - empty answer	<input type="checkbox"/>																				
Answer - test answer	<input type="checkbox"/>																				
Create - Ceate One	<input type="checkbox"/>																				
Create - Create Two	<input type="checkbox"/>																				
Email - Email One	<input checked="" type="checkbox"/>																				
Forward - Forward One	<input type="checkbox"/>																				
Forward - Forward Two	<input type="checkbox"/>																				
Note - Simple	<input checked="" type="checkbox"/>																				
PhoneCall - General PhoneCall Template	<input checked="" type="checkbox"/>																				
Filter Just start typing to filter...	Submit or Cancel																				

図:添付用テンプレート関連の変更

## 1.5.4. テンプレート

チケット処理を促進し、かつ返答の外観を標準化するために、OTRSにテンプレートを定義することができます。テンプレートは1つ以上のキューにリンク、および逆リンクも可能です。

OTRSの異なる部分で使用される、異なる種類およびそれらのテンプレートがありますそれらはそれ自身の目的を持っていて、下記は可能なテンプレート・タイプのリストです。:

- 返答 : Answer: チケット・応答として使用されるか返答します。
- 作成 : Create: 新規電話かEメール・チケットの中で使用されます。
- 転送 : Forward: 誰か他の人へ記事を転送するために使用されます。
- 電話 : PhoneCall: 電話の着信および発信画面で使用されます。

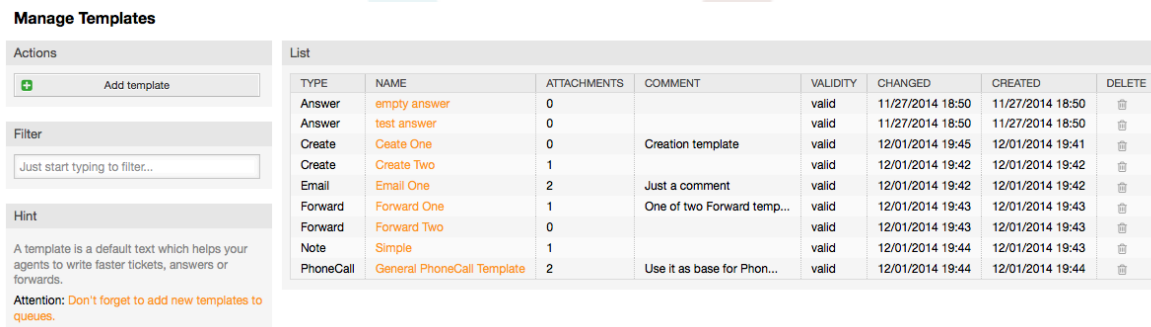
電話の受発信画面で使うためには、返答テンプレートは二つの方法でアクセス可能です。ひとつは、記事メニューでのチケット・ズーム画面から。もうひとつ、より素早い方法なら、状態ビューやチケット・ビューのようなチケット概要の大画面から。新規のOTRS導入に関しては、テンプレート「空の答え ( empty answer )」がすべてのキューに対してデフォルトでセットされます。

転送テンプレートがキューに割り当てられ加えられるとすぐに、チケット・ズーム中の「転送」ボタン ( 通常は空のテキスト転送画面に導かれます ) は選択コントロールに変化します。ひとつのテ

ンプレートを選択することで「選択」は、転送テンプレートに情報を与えます。転送画面は、テンプレートテキストと添付で事前に情報を与えられ表示されます。(返答テンプレートでの「返答選択ボックス」と同様です。)

タイプ「作成」と「電話」のテンプレートを作成することは、それぞれの画面の中の「テキスト・テンプレート」選択ボックス」を見えるようにします。リストにテンプレートを選択することは、「テキスト」と「添付」フィールド(テンプレートで利用可能ならば)にデータを追加することになるでしょう。テキストまたは添付で何からの以前の変更が、テンプレートを選択することで上書きされることに気づいて下さい。

管理者ページの「テンプレート」をクリックすれば、テンプレート管理画面が開きます。(下記の図を参照)。



**Manage Templates**

Actions: Add template

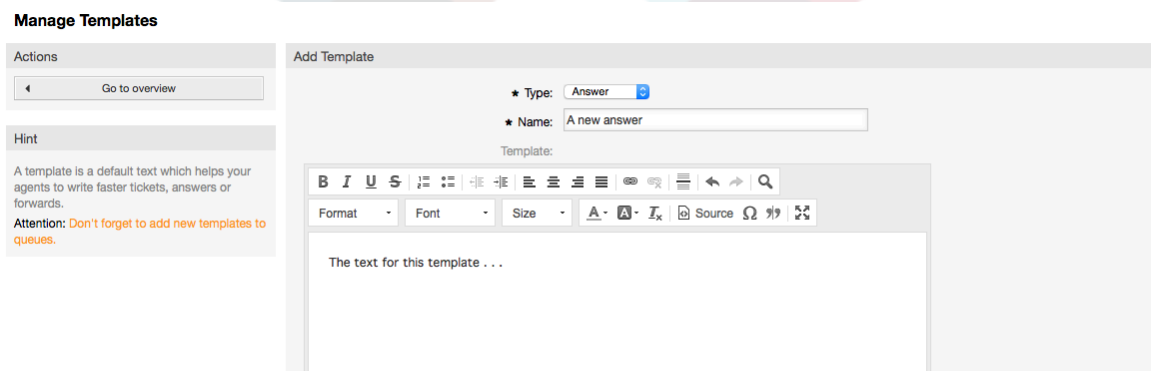
Filter: Just start typing to filter...

Hint: A template is a default text which helps your agents to write faster tickets, answers or forwards. Attention: Don't forget to add new templates to queues.

TYPE	NAME	ATTACHMENTS	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED	DELETE
Answer	empty answer	0		valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50	🗑️
Answer	test answer	0		valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50	🗑️
Create	Create One	0	Creation template	valid	12/01/2014 19:45	12/01/2014 19:41	🗑️
Create	Create Two	1		valid	12/01/2014 19:42	12/01/2014 19:42	🗑️
Email	Email One	2	Just a comment	valid	12/01/2014 19:42	12/01/2014 19:42	🗑️
Forward	Forward One	1	One of two Forward temp...	valid	12/01/2014 19:43	12/01/2014 19:43	🗑️
Forward	Forward Two	0		valid	12/01/2014 19:43	12/01/2014 19:43	🗑️
Note	Simple	1		valid	12/01/2014 19:44	12/01/2014 19:43	🗑️
PhoneCall	General PhoneCall Template	2	Use it as base for Phon...	valid	12/01/2014 19:44	12/01/2014 19:44	🗑️

## 図:テンプレート管理

新規テンプレート(「テンプレート追加」ボタン上のクリック)を作成するためには、必要なデータ(確実に適切なテンプレート・タイプを選択すること)を提供して、送信下さい(下記の図を参照)。



**Manage Templates**

Actions: Go to overview

Hint: A template is a default text which helps your agents to write faster tickets, answers or forwards. Attention: Don't forget to add new templates to queues.

**Add Template**

★ Type: Answer

★ Name: A new answer

Template:

Rich text editor with toolbar (B, I, U, S, etc.) and a text area containing "The text for this template ..."

## 図:テンプレートの追加

テンプレートを1つ以上のキューに追加/削除するためには、管理者ページの「テンプレート<->キュー」リンクをクリックしてください(下記の図を参照)。さらに、特定の实体に関する情報を得るためにフィルタを使用することができます。



**Manage Template-Queue Relations**

Filter for Templates: Just start typing to filter...

Filter for Queues: Just start typing to filter...

**Overview**

TEMPLATES	QUEUES
Answer - empty answer	Junk
Answer - test answer	Misc
Create - Create One	Postmaster
Create - Create Two	Raw
Email - Email One	
Forward - Forward One	
Forward - Forward Two	
Note - Simple	
PhoneCall - General PhoneCall Template	

## 図:テンプレート・キュー関係管理



キューに、および逆に (and vice versa) 利用可能になる、異なるテンプレートを定義するためには、対応するテンプレートがキューをクリックしてください(図5.32および5.33以下にそれぞれ参照)。

#### Manage Template-Queue Relations

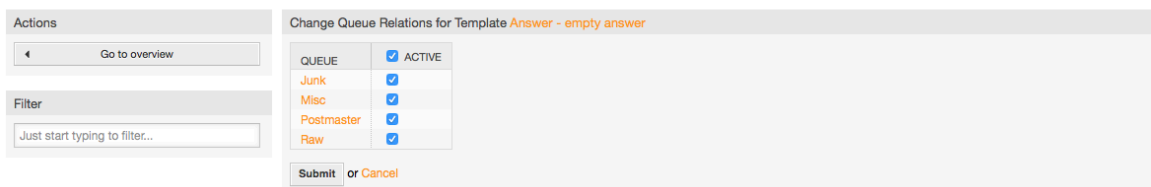


図:テンプレートのためのキュー関係の変更

#### Manage Template-Queue Relations

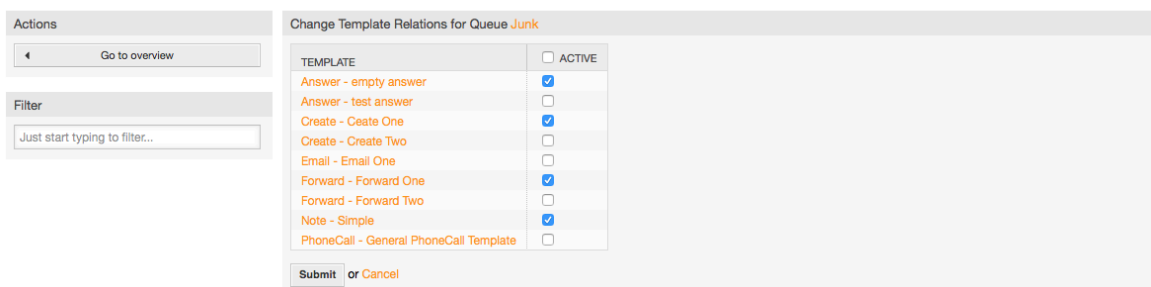


図:キューのためのテンプレート関係の変更

テンプレートを選択するとき追加の情報がテンプレート・テキストに追加できます。これはテンプレートのタイプに依存します：

しかしながら、「電話」とテンプレートの作成はテンプレート・テキストにいかなるコンテンツも追加しません。新規Eメールチケット画面はキューを追加し、そのキューは解決Eメール本文に署名を割り当てます。(この画面は署名を視覚化するための別のボックスを持ちます。)

返答テンプレートテキストは、選択された時、キューに関連づけられて挨拶文を含みます。

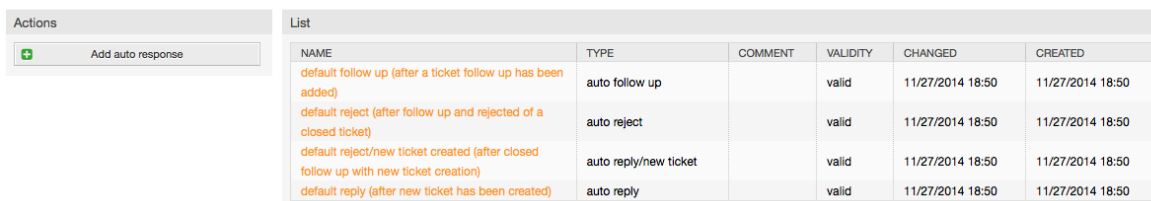
それからテンプレートはのテキスト、それから引用されたチケットのテキスト、そして最後はキューに関連付けられた署名も含みます。

転送テンプレートは返答テンプレートと同様ですが、それらは挨拶文部分を含みません。

## 1.6. 自動応答

OTRSは、特定のイベントが発生に応じて顧客へ自動応答を送信することを可能にします。それらのイベントとは、特定のキュー中のチケットの生成、チケットに関するフォローアップメッセージの受取、チケットの完了か拒否、等です。そのような応答を管理するためには、管理者ページ上でリンク「自動応答」をクリックしてください(下記の図を参照)。

#### Auto Response Management



NAME	TYPE	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED
default follow up (after a ticket follow up has been added)	auto follow up		valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
default reject (after follow up and rejected of a closed ticket)	auto reject		valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
default reject/new ticket created (after closed follow up with new ticket creation)	auto reply/new ticket		valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
default reply (after new ticket has been created)	auto reply		valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50

図:自動応答管理

自動応答を作成するために、「自動応答の追加」をボタンをクリックし、必要とされるデータを提供し、送信して下さい(下記の図を参照)。



## 図:キュー自動応答関連の管理

キューに利用可能になる異なる自動応答を定義するためには、対応するキュー名をクリックしてください(下記の図を参照)。さらに、既存の自動応答を編集することは可能です。それには「応答」をクリックして、「新規自動応答を編集」として同じやり方で編集してください。

**Manage Queue-Auto Response Relations**

Actions

Change Auto Response Relations for Queue **Junk**

auto reply:

auto reject:

auto follow up:

auto reply/new ticket:

auto remove:

or

## 図:キュー用の自動応答関連の変更

# 1.7. Eメール・アドレス

OTRSがEメールを送ることを可能にするために、システムによって使用されるために有効なEメール・アドレスを必要とします。多くのサポート・インストレーションはひとつ以上の使用する必要があるため、OTRSは複数ので稼働できます。キューは多くのEメール・アドレスにリンクすることができ、その逆も可です。キューが作成されると、キューから送信メッセージとして送信するEメール・アドレスは、セットされます。システムの全てのEメール・アドレスを管理するために、管理者ページから「Eメール・アドレス」リンクを使用してください(下記の図を参照)。

**System Email Addresses Management**

Actions

Hint  
 All incoming email with this address in To or Cc will be dispatched to the selected queue.

List

EMAIL ADDRESS	DISPLAY NAME	QUEUE	VALIDITY	CHANGED	CREATED
otrs@localhost	OTRS System	Postmaster	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
postmaster@mycompany.com	Postmaster Team	Postmaster	valid	12/01/2014 23:56	12/01/2014 23:56
support@mycompany.com	Support Team	Junk	valid	12/01/2014 23:55	12/01/2014 23:55

## 図:システム・Eメール・アドレス管理

新規Eメールアドレス(下記の図を参照)を作れば、それとリンクされるキューかサブキューを選択することができます。このリンクでシステムは受信メッセージをソートすることが可能となります。正しいキューの中でメールのTo;フィールドアドレスによりソートされます。

**System Email Addresses Management**

Actions

Hint  
 All incoming email with this address in To or Cc will be dispatched to the selected queue.

Add System Email Address

\* Email address:

\* Display name:

The display name and email address will be shown on mail you send.

\* Queue:

\* Validity:

Comment:

or

## 図:システム・メール・アドレスの追加

### 注記

他のOTRSの実体と同様に、Eメール・アドレスも単に非活性化されるだけであり、削除はできません。(有効オプションを無効または無効-暫定に設定することによって)



## 図:通知管理に基づくイベント

図の中で示されるように、追加ボタンをクリックすることにより新規通知を作成することができます(図を参照)。

**Notification Management**

Actions

Add Notification

★ Name:

Comment:

Validity:

▼ Events

★ Event:

- ArticleCreate
- ArticleUpdate
- ArticleSend
- ArticleBounce
- ArticleAgentNotification

▶ Ticket Filter

▶ Article Filter (Only for ArticleCreate and ArticleSend event)

▼ Recipient

Recipient group:

## 図: 通知管理に基づくイベントの登録

図の中で示される画面の一番下にリストされた特殊変数の使用により、通知に基づいたイベント内容をダイナミックに作成することができることにご注意ください。

## 1.9. SMIME

OTRS can process incoming S/MIME encoded messages and sign outgoing mails. Before this feature can be used, you need to activate it and change some configuration parameters in the SysConfig.

管理者ページの「S/MIME証明書」リンクによってS/MIME証明書を管理することができます(下記の図を参照)。証明書の追加及び削除、またSMIMEデータの検索もできます。

**S/MIME Management:**

Actions

- 
- 

Filter for certificates

Hint

To show certificate details click on a certificate icon.  
 To manage private certificate relations click on a private key icon.

Results

TYPE	SUBJECT	HASH	FINGERPRINT	CREATE	EXPIRES	DELETE
No data found.						

## 図: S/MIME 管理

## 1.10. PGP鍵

OTRS handles PGP keys, which allows you to encrypt/decrypt messages and to sign outgoing messages. Before this feature can be used, you need to activate it and change some configuration parameters in the SysConfig.

管理者ページの「PGP鍵」リンクによって、OTRS(例えば地方のOTRSユーザ、ウェブサーバ・ユーザ)(下記の図を参照)を備えたPGP鍵に使用されるものとするユーザのkey ringを管理することは可

能です。キーと署名を加えること、削除することは可能です。また、key ring中のすべてのデータを捜すことができます。

#### PGP Management

**Actions**

**Result**

TYPE	STATUS	IDENTIFIER	BIT	KEY	FINGERPRINT	CREATED	EXPIRES	DELETE
No data found.								

**Hint**

In this way you can directly edit the keyring configured in SysConfig.  
 Description: [Introduction to PGP](#)

図: PGP鍵 管理

## 1.11. 状態

管理者ページの「状態」リンクによって、システムの中で使用したい異なるチケット状態を管理することができます(下記の図を参照)。

#### State Management

**Actions**

**List**

NAME	TYPE	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED
closed successful	closed	Ticket is closed ...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
closed unsuccessful	closed	Ticket is closed ...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
merged	merged	State for merged ...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
new	new	New ticket create...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
open	open	Open tickets.	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
pending auto close+	pending auto	Ticket is pending...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
pending auto close-	pending auto	Ticket is pending...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
pending reminder	pending reminder	Ticket is pending...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50
removed	removed	Customer removed ...	valid	11/27/2014 18:50	11/27/2014 18:50

**Hint**

Attention: Please also update the states in SysConfig where needed.  
 See also: <http://doc.otrs.org>

図:状態管理

デフォルトの開始後、定義される「状態」がいくつかあります。

- 完了 (成功)
- 完了 (不成功)
- 結合済
- 「新規」 (new)
- 対応中 (open)
- 保留 (自動完了+)
- 保留 (自動完了-)
- 保留 (期限付)
- 削除済

全ての状態はタイプにリンクされます。それは新規状態が作成されれば指定されねばなりません。デフォルトの状態タイプは次の通りです。

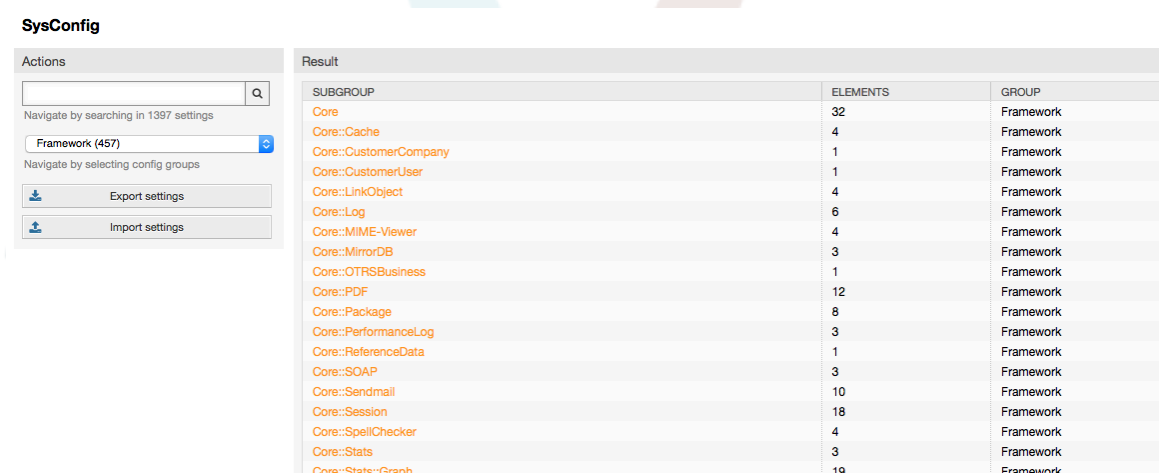
- 完了済
- 結合済
- 「新規」 (new)
- 対応中 (open)
- 保留 (自動)

- 保留 (期限付)
- 削除済

## 1.12. SysConfig

SysConfigのリンクは、多くのOTRSコンフィグレーション・オプションがメンテナンスされるセクションへと辿り着きます。

管理者ページのSysConfigリンクは、システム構成用のグラフィカル・インターフェースをロードする(下記の図を参照)。現在の全ての設定を1ファイルにバックアップするように、システム用の自分の構成ファイルをアップロードすることができます。OTRSフレームワークおよびインストールされたアプリケーションの構成パラメタはほとんどすべて、このインターフェースを通して見て変更することができます。全ての構成パラメタがグループおよびサブグループへソートされるので、既存のパラメタの莫大な数によってすばやく閲覧することは可能です。さらに、構成パラメタのすべてによって全文検索を行なうことも可能です。



**SysConfig**

Actions

Search:  [Q]

Navigate by searching in 1397 settings

Framework (457)

Navigate by selecting config groups

Export settings

Import settings

Result

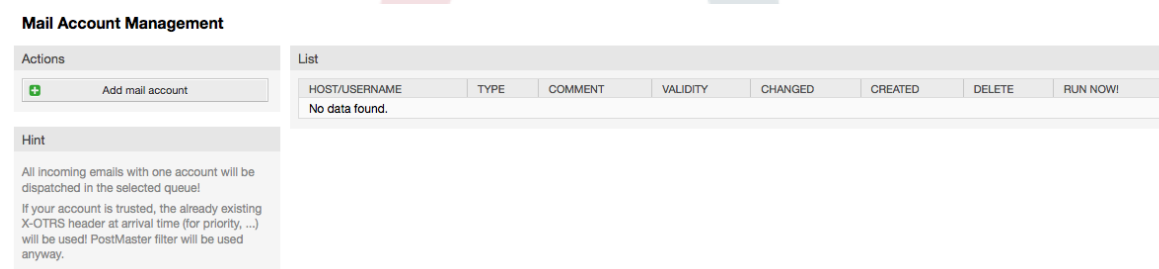
SUBGROUP	ELEMENTS	GROUP
Core	32	Framework
Core::Cache	4	Framework
Core::CustomerCompany	1	Framework
Core::CustomerUser	1	Framework
Core::LinkObject	4	Framework
Core::Log	6	Framework
Core::MIME-Viewer	4	Framework
Core::MirrorDB	3	Framework
Core::OTRSBusiness	1	Framework
Core::PDF	12	Framework
Core::Package	8	Framework
Core::PerformanceLog	3	Framework
Core::ReferenceData	1	Framework
Core::SOAP	3	Framework
Core::Sendmail	10	Framework
Core::Session	18	Framework
Core::SpellChecker	4	Framework
Core::Stats	3	Framework
Core::Stats::Graph	19	Framework

図:システム構成(SysConfig)用のグラフィカル・インターフェース

システム構成用グラフィカル・インターフェースに関してこの章 "ウェブ・インターフェースからのシステム構成"でより詳細に記述されます。

## 1.13. Eメールアカウントの使用

チケット・システムへ新規Eメールを移送する可能性いくつかあります。ひとつはローカルMTAとシステムに直接メールを繋ぐotrs.PostMaster.pl scriptです。もうひとつの可能性は、ウェブ・インターフェースをと通して管理されるメールアカウントを使用することです。管理ページにある"ポストマスター・メールアカウント"リンクは、メールアカウント(下図参照)管理コンソールをロードします。OTRSがサポートするメール・プロトコル: POP3, POP3S, IMAPとIMAPSです。



**Mail Account Management**

Actions

Add mail account

Hint

All incoming emails with one account will be dispatched in the selected queue!

If your account is trusted, the already existing X-OTRS header at arrival time (for priority, ...) will be used! PostMaster filter will be used anyway.

List

HOST/USERNAME	TYPE	COMMENT	VALIDITY	CHANGED	CREATED	DELETE	RUN NOW!
No data found.							

図: Eメールアカウント管理

より詳細については、PostMasterメールアカウントに関するセクションを参照してください。

## 1.14. 受信Eメール・メッセージのフィルタリング

OTRSは、受信Eメール・メッセージのフィルタリング能力を持っています。例えば、指定されたキューに特定のEメールを自動的に入れるか、いくつかのメールのために特定の状態かチケット・タイプをセットすることが可能です。フィルタはすべての受信メールに適用します。管理者ページ上でリンク「PostMasterフィルタ」によってフィルタを管理することができます(下記の図を参照)。

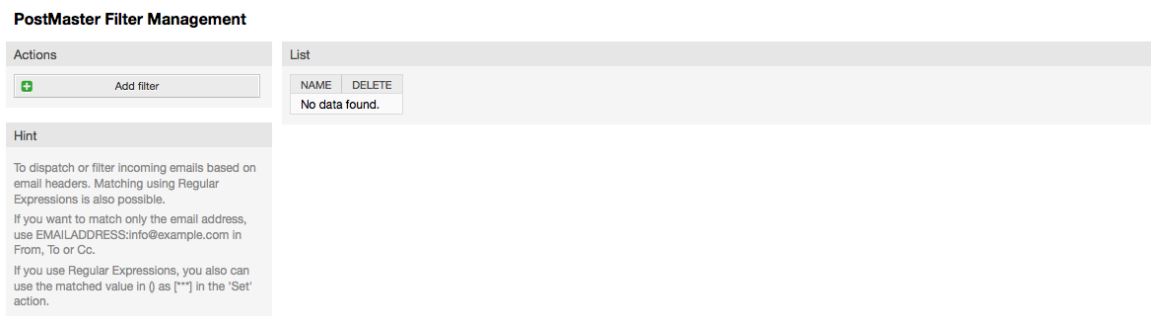


図:ポストマスター・フィルタ管理

フィルタは、Eメール上で実行される定義されたアクションのために、順番に合致しなければならない1つ以上の基準から成ります。フィルター基準は、本文にヘッダーあるいはEメールの本文のために定義できます。(例えば送信者アドレスや本文中の文字列などのような特定のヘッダー入力 of 検索)正規表現でさえ拡張パターン一致のために使用することができます。フィルタが一致する場合、GUIの中でX-OTRSヘッダーを使用して、フィールドをセットすることができます。OTRSでチケットかフォローアップ・メッセージを作成する時、これらの値が適用されるでしょう。テーブル5-4は異なるX-OTRSヘッダーおよびそれらの意味をリストします。

さらに、フォローアップEメールに対して値をセットするために X-OTRS-FollowUp-\*ヘッダーを使用することができます。

表4.5 異なるX-OTRSヘッダーの機能

Name	可能な値	摘要
X-OTRS-優先度:	1 極低い, 2 低い, 3 普通, 4 高い, 5 極高い	チケットの優先度を設定します。
X-OTRS-キュー:	システム内でのキュー名	チケットがソートされる場合、キューをセットします。もしX-OTRSヘッダーの中でセットされれば、特定のキューへチケットをソートしようとする他のすべてのフィルタ規則が無視されます。サブキューを使用する場合は、「Parent::Sub」としてそれを指定してください。
X-OTRS-ロック:	ロック、アンロック	チケットのロック状態を設定します
X-OTRS-無視:	「はい」あるいは「真」	このX-OTRSヘッダーが「はい」にセットされれば、受信メッセージは完全に無視され、システムに配達されないでしょう。
X-OTRS-状態:	新規、対応中、完了(成功)、完了(不成功)...	チケットの次の状態を設定します



Name	可能な値	摘要
X-OTRS-状態-保留時間:	例えば 2010-11-20 00:00:00	チケットの保留時間を設定します。(X-OTRS-Stateによって保留状態を送信もして下さい)電子メールの到着時刻に基づいて、「2010-11-20 00:00:00」のような絶対日付あるいは相対日付を指定することができます。フォーム「+ \$Number \$Unit」を使用してください。ここで、「\$Unit」は、「s」の(秒)、「m」(分)、「h」(時間)あるいは「d」(日)です。1ユニットのみ指定することができます。有効な設定例:「+50s」(50秒でペンディング)、「+30m」(30分)、「+12d」(12日)。「+1d 12h」のようなセッティングができないことに注意してください。その代わりに「+36h」を指定できます。
X-OTRS-タイプ:	デフォルト (あなたの実施したセットアップに依存します)	チケットタイプの設定 (Ticket::Type が活性化されていれば)。
X-OTRS-サービス:	(セットアップにもよりますが)	チケットのサービスを設定します。(Ticket::Service がアクティブならば)。サブキューを使用する場合は、「Parent::Sub」としてそれを指定してください。
X-OTRS-SLA:	(セットアップにもよりますが)	チケットのSLAを設定します。(Ticket::Service support がアクティブならば)。
X-OTRS-顧客ユーザ:	CustomerUser (顧客ユーザ)	チケット用顧客ユーザーを設定します。
X-OTRS-顧客番号:	CustomerNo (顧客番号)	このチケットの顧客IDを設定します。
X-OTRS-送信者タイプ:	担当者、システム、顧客	このチケット送信者のタイプを設定します。
X-OTRS-記事タイプ:	外部Eメール、内部Eメール、外部Eメール通知、内部Eメール通知、電話、ファックス、SMS、ウェブリクエスト、内部ノート、外部ノート、ノートレポート。	受信チケットの記事タイプを設定します。
X-OTRS-DynamicField-<DynamicFieldName>:	動的フィールドの構成に依存します (テキスト: ノートブック、日付: 2010-11-20 00:00:00, Integer: 1)	摘要:動的フィールド <DynamicFieldName> でチケットの追加情報値を保存します。
X-OTRS-ループ:	真	このX-OTRSヘッダーが設定されたら、メッセージ送信者へ自動返信は配信されません。(メール・ループ保護のため)

すべてのフィルタ・ルールに対して名前を指定するべきです。フィルター基準はセクション「フィルタ条件」の中で指定することができます。「ヘッダー1」、「ヘッダー2」あるいは、あなたが検索したいメッセージの部分等をリストボックスから選んでください。そしてあなたがフィルターしたい値を右側で指定して下さい。セクション「セット電子メール・ヘッダー」では、フィルタ規則が一致する場合、起きるアクションを選ぶことができます。X-OTRSヘッダーを選択し、かつ関連する値(下記の図を参照)をセットするために、「ヘッダー1」、「ヘッダー2」などを選択することができます。フィルタ規則はアルファベティカルに評価され、すべて実行されます。但し、「Stop after match」セッティングが規則のうちの1つで「はい」にセットされている場合を除きます。(この場合、残りのフィルタの評価は取り消されます。)

#### PostMaster Filter Management

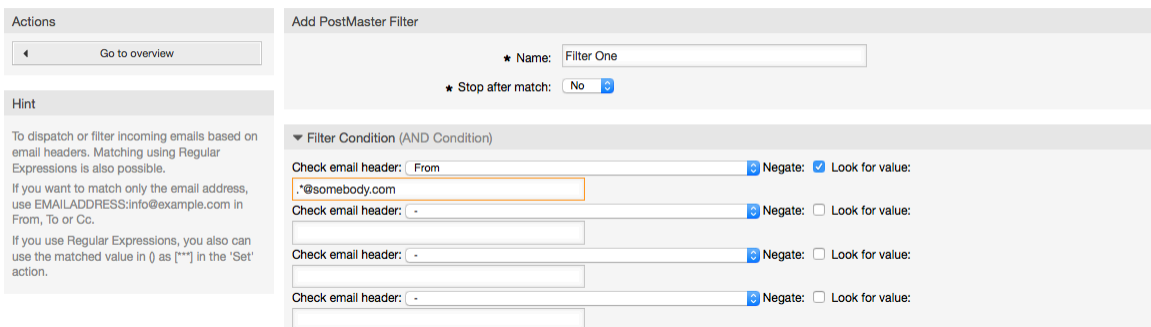


図:PostMasterフィルタの追加

### 例4.1 特定のキューの中へのスパム・メールのソート

OTRSは、有用なフィルタ規則によってスパムと判定されたEメールを自動的に移動します。SpamAssassinのようなスパム検出ツールによって「ジャンク」キューへ移動します。SpamAssassinは「X-Spam-Flag」ヘッダーを全てのチェックしたメールに追加します。メールがスパムとして判定された場合、ヘッダーは「はい」にセットされます。したがって、フィルター条件は「X-Spam-Flag」が「Yes」になります。この基準でフィルタ規則を作成するために、例えば「spam-mails」として名前を挿入することができます。「フィルタ条件」のためのセクションでは、リストボックスから「Header 1」に対して「X-Spam-Flag」を選んでください。このヘッダーに見合う値として「はい」を挿入してください。今、フィルター条件は指定されます。スパム・メールがすべて「ジャンク」キューに入れられることを確認し、「Set Email Headers」のためのセクションで「Header 1」のために入力した「X-OTRS-Queue:」を選択して下さい。このヘッダーの値として「ジャンク」を指定してください。最後に、システムでの新規メッセージを活性化し、新規フィルタ規則を追加して下さい。

追加モジュール(受信メッセージのフィルタリングをより明確にするために使用することができる)があります。より大きく、より複雑なシステムに対処する場合、これらのモジュールは有用かもしれません。

## 1.15. GenericAgent (一般担当者) による自動処理の実行

GenericAgent (一般担当者) はタスクを自動的に実行するツールです。「一般担当者」は例えば、チケットを完了したり、移動したり、エスカレートされたチケットに対して通知を送信したりできます。

管理者ページ上でリンクGenericAgen (一般担当者) をクリックしてください(下記の図を参照)。システムでのすべての自動ジョブを備えたテーブルが表示されます。その後、これらのジョブは編集、手動で動作、または完全に削除することができます。

### Generic Agent

Actions		List				
<input type="button" value="Add job"/>		NAME	LAST RUN	VALIDITY	DELETE	RUN NOW!
		Job One		valid	<input type="button" value="Delete"/>	<input type="button" value="Run this task"/>
		Job Three		valid	<input type="button" value="Delete"/>	<input type="button" value="Run this task"/>
		Job Two		valid	<input type="button" value="Delete"/>	<input type="button" value="Run this task"/>

図: GenericAgentのためのジョブ・リスト

新規ジョブを作成するために「ジョブ追加」ボタンをクリックしてください。最初に名前を提供する必要があります。その後、ジョブがどのように実行されるか特定することができます:指定時刻で自動(cronjobのようにこのモードはチケット・フィルターによってすべてのチケットで作動します。)あるいは、チケット・イベントで自動(チケット・フィルターにマッチしていれば単一のチケットが変更された直後に)。

### Generic Agent

Actions		Job Settings								
<input type="button" value="Go to overview"/>		* Job name: <input type="text" value="Job Four"/>								
		Validity: <input type="button" value="Yes"/>								
▼ Automatic execution (multiple tickets)										
SCHEDULE MINUTES <input type="text" value="00"/> <input type="text" value="10"/> <input type="text" value="20"/> <input type="text" value="30"/> <input type="text" value="40"/> <input type="text" value="50"/>		SCHEDULE HOURS <input type="text" value="00"/> <input type="text" value="01"/> <input type="text" value="02"/> <input type="text" value="03"/> <input type="text" value="04"/> <input type="text" value="05"/>		SCHEDULE DAYS <input type="checkbox"/> Sun <input type="checkbox"/> Mon <input type="checkbox"/> Tue <input type="checkbox"/> Wed <input type="checkbox"/> Thu <input type="checkbox"/> Fri <input type="checkbox"/> Sat						
Currently this generic agent job will not run automatically. To enable automatic execution select at least one value from minutes, hours and days!										
▼ Event based execution (single ticket)										
Event Triggers:										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>TYPE</th> <th>EVENT</th> <th>DELETE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ticket</td> <td>EscalationResponseTimeNotifyBefore</td> <td><input type="button" value="X"/></td> </tr> </tbody> </table>		TYPE	EVENT	DELETE	Ticket	EscalationResponseTimeNotifyBefore	<input type="button" value="X"/>	Additionally or alternatively to a periodic execution, you can define ticket events that will trigger this job. If a ticket event is fired, the ticket filter will be applied to check if the ticket matches. Only then the job is run on that ticket.		
TYPE	EVENT	DELETE								
Ticket	EscalationResponseTimeNotifyBefore	<input type="button" value="X"/>								
Add Event Trigger: <input type="button" value="Ticket"/> <input type="text" value="EscalationResponseTimeNotifyBefore"/> <input type="button" value="X"/>										

図: GenericAgentのためのジョブ作成

すべてのジョブについては、チケット・フィルタを指定することができるが、例えば、ある特定のキュー中ではチケット上でのみ作動します。フィルター条件はすべて、チケット上で実行されるジョブのために満たされなければならない。

すべてのジョブについては、チケット・フィルタを指定することができるが、例えば、ある特定のキュー中ではチケット上でのみ作動します。フィルター条件はすべて、チケット上で実行されるジョブのために満たされなければなりません。最後に、チケットは新規キューか状態のような様々なチケット・フィールドの設定により修正することができます。チケットにノートを付けるか、カスタマイズされたモジュールを実行することは可能です。さらに、データベースからチケットを削除するオプションがあります。これはシステムからの時代遅れのデータあるいは無効のデータを除去するのに有用になりえます。

## 警告

チケットを削除する機能を使う場合、すべての影響を受けるチケットやそれらの添付ファイルはデータベースから取り除かれ復元することはできません。

ジョブを編集した後に、OTRSは概要画面に戻ります。そこで、どんなジョブも手動で実行できる可能性があります。ジョブを実行することを選ぶならば、ジョブが実際に走っている時に全てのチケットが影響を受けることをまず最初に見ることでしょう。このリストは、あなたが意図通りに

ジョブが働いていることを確認するのに役立ちます。このポイントでは、これらのチケットにまだ変更は行なわれていません。あなたが画面を確認する場合のみ、ジョブが実行されます。

## 1.16. 管理者Eメール

OTRS管理者は特定のユーザあるいはグループへメッセージを送ることができます。管理者ページの「管理者通知」リンクでは、通知されるべき担当者とグループは選択可能な画面を開きます。(下図参照)

**Admin Notification**

**Hint**  
With this module, administrators can send messages to agents, group or role members.

**Create Administrative Message**

★ From:

Send message to users:

- carlos.garcia
- carlos.rodriguez
- dennis.schmelter
- dominik.klein
- johannes.horburger
- manuel.hecht

Send message to group members:

- admin
- stats
- users

Group members need to have permission:

ro  
 rw

Send message to role members:

- Development
- IT Supervisor
- Service Desk

Also send to customers in groups:

★ Subject:

図:管理者通知

通知文の送信者、件名、本文は指定可能です。担当者、グループ、およびメッセージを受け取るべき役割を選ぶこともできます。

## 1.17. セッション管理

管理者エリアの「セッション管理」リンクをクリックすれば、全ログインユーザとそのセッション詳細を見ることができます(下記の図を参照)。

**Session Management**

SESSION	TYPE	USER	KILL
Kj8ZxjMzhZwXM0ZgXF0oWWIxH6Kw3vo	Agent	Admin OTRS	<a href="#">Kill this session</a>
ReF14x9ZzKqjFPQkwMnUY8nThEiOTIS	Agent	Carlos Garcia	<a href="#">Kill this session</a>
TwjO0ZrvxSC14sU4o5oyd5HYcGJL9MJM	Customer	Bruce Banner	<a href="#">Kill this session</a>

**Actions**

All sessions	3
Agent sessions	2
Customer sessions	1
Unique agents	2
Unique customers	1

図:セッション管理

すべてのアクティブなセッションに関する統計が表示されます、例えば、ユーザはどれだけの担当者および顧客にログインされ、アクティブなセッションの数。どんな個々のセッションもリストの右側にあるこのセッションを強制終了しますリンクをクリックすることにより削除することができます。さらに、全てのセッションを強制終了しますのオプションもあり、それはシステムをオフラインで利用したければ便利です。すべてのセッションの詳細情報も利用可能です(下図参照)。

### Session Management

**Actions**

◀ Go to overview

🔄 Kill this session

Detail View for SessionID : Kjf8ZxjMzhZwXM0ZgXF0oWWxH6Kw3vo - Admin OTRS

KEY	VALUE
AdminDynamicFieldsOverviewPageShown	25
ChangeTime	2014-11-27 18:50:25
CreateTime	2014-11-27 18:50:25
SessionID	Kjf8ZxjMzhZwXM0ZgXF0oWWxH6Kw3vo
UserChallengeToken	rp9CKIGPu69CUSkSa0uk9939embPlwg1
UserEmail	root@localhost
UserFirstname	Admin
UserFullname	Admin OTRS
UserID	1
UsersGroupPo[admin]	Yes
UsersGroupPo[stats]	Yes
UsersGroupPo[users]	Yes
UsersGroup[admin]	Yes
UsersGroup[stats]	Yes
UsersGroup[users]	Yes
UserLastLogin	1417481926
UserLastLoginTimestamp	2014-12-02 01:58:46
UserLastRequest	1417481927
UserLastname	OTRS
UserLogin	root@localhost
UserPw	xxxxxxxx

図: セッション詳細

## 1.18. システムメンテナンス

System Maintenance give the option to schedule one or more maintenance periods for the system. During this period no agents or customers can login into the system (except for Agents in the "admin" group). Current logged users and customers receive a notification about the maintenance (before and during the maintenance period). Administrators have the option to kill the sessions for logged agents and customers, all this in preparation to be able to make changes in the system (e.g. a system update) in a "safe" environment.

### System Maintenance Management

**Actions**

+ Schedule New System Maintenance

**List**

START DATE	STOP DATE	COMMENT	VALIDITY	DELETE
2014-12-16 20:07:00	2014-12-16 21:07:00	A comment about this maintenance period	valid	🗑️
2014-12-20 02:09:00	2014-12-20 02:09:00	DB maintenance	valid	🗑️
2014-12-23 20:11:00	2014-12-23 23:11:00	System upgrade	valid	🗑️

**Hint**

Schedule a system maintenance period for announcing the Agents and Customers the system is down for a time period.

Some time before this system maintenance starts the users will receive a notification on each screen announcing about this fact.

Figure: The system maintenance overview screen with some scheduled periods.

The Start Date and the Stop Date are required fields, and the only rule for this combination is that Start Date can not be a date before the Stop Date.

## Edit System Maintenance

**Actions**

**▼ Edit System Maintenance information**  

Start date:  -

Stop date:  -

★ Comment:

Login message:

Show login message:

Notify message:

★ Validity:

or

**▼ Manage Sessions**  

All Sessions 3

Unique agents 2

Unique customers 1

**Agent Sessions**

SESSION	TYPE	USER	KILL
KjF8ZxjMzhZwXM0ZgXF0oWWxH6Kw3vo	Agent	Admin OTRS	<a href="#">Kill this session</a>
ReFt4x9zKqjFPQkwMnUY8nThE1OTIS	Agent	Carlos Garcia	<a href="#">Kill this session</a>

**Customer Sessions**

SESSION	TYPE	USER	KILL
TwjO0ZrvvSC14sU4o5oyd5HYcGJL9MJM	Customer	Bruce Banner	<a href="#">Kill this session</a>

Figure: The system maintenance edit screen.

After a new maintenance period is defined an overview and details about the current active sessions is shown, from there administrators can kill this sessions one by one or all of them (except current) if it is needed.

## 1.19. システムログ

管理者ページの「システムログ」リンクは、システムのログ・エントリーを表示します。最新を先頭にして年代を逆順にソートされます(下記の図を参照)。

### System Log

**Hint**  
 Here you will find log information about your system.

TIME	PRIORITY	FACILITY	MESSAGE
Tue Dec 2 02:00:12 2014	notice	OTRS-otrs.GenericAgent.pl-2664	Use module (Kernel::System::GenericAgent::TriggerAdvancedEscalationStartEvents) for Ticket (20141112266400012/3).
Tue Dec 2 02:00:11 2014	notice	OTRS-otrs.GenericAgent.pl-2664	Added scheduler job 'EscalationHistory' by escalation event 'EscalationBreachd_2' for ticket '2'!
Tue Dec 2 02:00:11 2014	notice	OTRS-CGI-3051	CustomerUser: 'bruce.banner' changed password successfully!
Tue Dec 2 02:00:11 2014	notice	OTRS-otrs.GenericAgent.pl-1092	Use module (Kernel::System::GenericAgent::TriggerEscalationStartEvents) for Ticket (109200664/990).

図: システムログ

ログの各ラインは、以下を含みます。タイム・スタンプ、ログ優先度、システム・コンポーネント及びログ・エントリー自体です。

### 注記

System logs are available via the web interface only on Linux / Unix systems.

## 1.20. SQLボックス経由でのSQLクエリー

管理者ページの「SQLボックス」リンクから画面を開きます。画面では、OTRSデータベースでのテーブル・コンテンツをクエリーできます。(下記の図を参照)テーブルの内容を変更することは不可能で、「select」クエリーのみ許可されます。

**SQL Box**

**Hint**

Here you can enter SQL to send it directly to the application database. It is not possible to change the content of the tables, only select queries are allowed.

**Options**

★ SQL:

Limit:

Result format: HTML

図:SQLボックス

## 1.21. パッケージ・マネージャー

管理者ページ上で「パッケージ・マネージャー」リンクを使用すると、OTRSの機能性を拡張するパッケージをインストールし管理することができます(下記の図を参照)。OTRSリポジトリから利用可能な拡張に関する議論は追加アプリケーションセクションを御覧ください。

**Package Manager**

**Actions**

Browse... No file selected.

OTRS Extensions

**Online Repository**

NAME	VERSION	VENDOR	DESCRIPTION	ACTION
FAQ	4.0.1	OTRS AG	The FAQ/knowledge base.	<input type="button" value="Install"/>
OTRSCodePolicy	1.0.7	OTRS AG	OTRS code quality checks.	<input type="button" value="Install"/>
OTRSMasterSlave	4.0.1	OTRS AG	Includes "Ticket Master/Slave" feature.	<input type="button" value="Install"/>
Survey	4.0.1	OTRS AG	A customer survey tool.	<input type="button" value="Install"/>
SystemMonitoring	4.0.1	OTRS AG	Basic mail interface to System Monitoring Suites. AL...	<input type="button" value="Install"/>
TimeAccounting	4.0.1	OTRS AG	A Time Registration Module.	<input type="button" value="Install"/>
iPhoneHandle	4.0.1	OTRS AG	The iPhoneHandle Package.	<input type="button" value="Install"/>

**Local Repository**

NAME	VERSION	VENDOR	DESCRIPTION	STATUS	ACTION
No data found.					

Features for OTRS Business Solution™ customers only → [sales@otrs.com](mailto:sales@otrs.com)

With OTRS Business Solution™, you can benefit from the following optional features. Please make contact with [sales@otrs.com](mailto:sales@otrs.com) if you need more information.

NAME	DESCRIPTION
Cache Memcached Fast	Required for a smooth deployment of OTRS in a High-Availability Environment
OTRS CI Custom Search	Adds a custom search for Config Items regardless of CI classes.
Admin Customer ID Service	Assign Services to Customer IDs or CustomerUsers.
Field Selection Dialog	Displays a message dialog while choosing a field, for example: SLAs.

図:パッケージ・マネージャ

パッケージ・マネージャは、それらのバージョン番号と一緒に、サーバに現在インストールしたOTRS addonパッケージを示します。

オンライン・レポジトリセクションにあるレポジトリを選択し、レポジトリ情報の更新ボタンをクリックすることによって、リモート・ホストからパッケージをインストールすることができます。利用可能なパッケージが対応するテーブルに表示されます。画面右側には利用可能なパッケージを表示します。パッケージをインストールするためにインストールをクリックします。インストール後、パッケージはローカル・レポジトリセクションを表示します。

インストールされたパッケージをアップグレードするために、オンライン・レポジトリにある利用可能なパッケージのリストは、ローカルにインストールされているものより高いバージョンがあるあらゆるパッケージ用のアクション・カラムでアップグレードを表示します。単にアップグレードをクリックしてください。そうすれば、新しいパッケージ・バージョンをシステムにインストールします。

OTRSシステムがインターネットに接続されないような場合、ローカル・ディスクにダウンロードしたそれらのパッケージもインストールすることもできます。アクション・サイドバー上のブラウザをクリックし、あなたのディスク内の.opmファイルを選択します。開くを、それからパッケージをインストールをクリックします。インストーションの完了後、パッケージはレポジトリセクションに表示されます。設置が終わった後、パッケージはローカルのリポジトリセクションに表示されます。既にインストールされているパッケージの更新のために同じステップを使用することができます。

In special cases, you might want to configure the Package Manager, e.g., to use a proxy or to use a local repository. Just take a look at the available options in SysConfig under Framework:Core::Package.

## 1.22. ウェブサービス

Webサービスリンクはグラフィカル・インターフェースにつながっています。そこではウェブサービス (for the OTRS Generic Interface) が作成され維持されます。(下図参照)

**GenericInterface Web Service Management - Overview**

Web Services

Actions

Web Service List

NAME	DESCRIPTION	REMOTE SYSTEM	PROVIDER TRANSPORT	REQUESTER TRANSPORT	VALIDITY
WebserviceOne	First web service	Any remote system	-	-	valid
WebserviceTwo	-	-	-	-	valid

図: ウェブサービスのためのグラフィカル・インターフェース

ウェブサービス構成用のグラフィカル・インターフェースは、セクション"Webサービス・グラフィカル・インターフェース"に、より詳細に述べられています。

## 1.23. 動的フィールド

動的フィールドは、チケットと記事用のカスタムフィールドをセットアップし管理する場所です。(下記参照)

**Dynamic Fields Management - Overview**

Actions

Article

Add new field for object: Article

Ticket

Add new field for object: Ticket

Hint

To add a new field, select the field type from one of the object's list, the object defines the boundary of the field and it can't be changed after the field creation.

Dynamic Fields List

NAME	LABEL	ORDER	TYPE	OBJECT	VALIDITY	DELETE
ProcessManagementProcessID	Process	1	ProcessID	Ticket	valid	
ProcessManagementActivityID	Activity	2	ActivityID	Ticket	valid	
Field1	My Field 1	3	Text	Ticket	valid	<input type="button" value="🗑"/>
Field2	My Field 2	4	Textarea	Ticket	valid	<input type="button" value="🗑"/>
Field3	My Field 3	5	Checkbox	Ticket	valid	<input type="button" value="🗑"/>
Field4	My Field 4	6	Dropdown	Ticket	valid	<input type="button" value="🗑"/>
Field5	My Field 5	7	Multiselect	Ticket	valid	<input type="button" value="🗑"/>
Field6	My Field 6	8	Date	Ticket	valid	<input type="button" value="🗑"/>
Field7	My Field 7	9	Date / Time	Ticket	valid	<input type="button" value="🗑"/>

図: いくつかの動的フィールドを備えた動的フィールド概要画面

動的フィールド構成は、セクション"動的フィールド構成"に、より詳細に述べられています。

動的フィールドタイプにはそれぞれ自身自身の構成セッティングおよびしたがってそれ自身の構成画面があります。

### 注記

OTRSフレームワークでは、動的フィールドはデフォルトでチケットと記事にリンクのみすることができます。しかし、それらは、他のオブジェクトまで同様に延長することができます。



## 2. システム構成

### 2.1. OTRS構成ファイル

OTRS構成ファイルはすべてディレクトリKernelおよびそのサブディレクトリに格納されます。システムがアップグレードされる時、残りのファイルは変更されるので、Kernel/Config.pm以外のファイルを手動で変更する必要はありません。構成パラメータを他のファイルからKernel/Config.pmに単にコピーして、必要に応じてそれらを変更してください。このファイルがアップグレード・プロセス中に接触されることはなので手動構成は安全に実施できます。

ディレクトリ Kernel/Config/Filesでは、OTRSログイン・ページにアクセス時に、解析される他のいくつかのファイルがあります。FAQまたはファイル・マネージャーのような追加アプリケーションがインストールされている場合、それらのための構成ファイルも上記パスで見つけることができます。

OTRSウェブ・インターフェースがアクセスされる場合、Kernel/Config/Filesディレクトリ中の.xmlファイルはすべて、ABC順と設定で解析されます。また、中央のフレームワークおよび追加アプリケーションのための設定がロードされるでしょう。後で、Kernel/Config/Files/ZZZAAuto.pm、Kernel/Config/Files/ZZZAuto.pm とKernel/Config/Files/ZZZProcessManagement.pm といったファイル(もし存在していれば)の設定は、評価されるでしょう。これらのファイルはグラフィカル・インターフェースによってシステム構成キャッシングに使用され、手動で変更されるべきではありません。最後に、個々のセッティングおよび手動で変更された構成パラメータを含んでいるファイル Kernel/Config.pmは解析されるでしょう。この順に構成ファイルを読めば、あなたの特別な構成設定がシステムによって使用されることを確実にします。

### 2.2. ウェブインターフェースによるシステムの構成

OTRS 2.0以降は、中央フレームワークまたは追加でインストールされたアプリケーションのほぼすべての構成パラメータは、システム構成用グラフィカル・インターフェースで簡単に変更することができるので、新規構成ツールを実行するため、OTRS管理者としてログインして、管理者ページのSysConfigリンクをたどってください(下記の図を参照)。

**SysConfig**

Actions

Navigate by searching in 1397 settings

Navigate by selecting config groups

Export settings

Import settings

Result

SUBGROUP	ELEMENTS	GROUP
Core	32	Framework
Core::Cache	4	Framework
Core::CustomerCompany	1	Framework
Core::CustomerUser	1	Framework
Core::LinkObject	4	Framework
Core::Log	6	Framework
Core::MIME-Viewer	4	Framework
Core::MirrorDB	3	Framework
Core::OTRSBusiness	1	Framework
Core::PDF	12	Framework
Core::Package	8	Framework
Core::PerformanceLog	3	Framework
Core::ReferenceData	1	Framework
Core::SOAP	3	Framework
Core::Sendmail	10	Framework
Core::Session	18	Framework
Core::SpellChecker	4	Framework
Core::Stats	3	Framework
Core::Stats::Graph	19	Framework

図:システム構成用のグラフィカル・インターフェース

OTRSは、現在600以上の構成パラメータを持っていて、特定のものに素早くアクセスする異なる複数の方法があります。全文検索で、構成パラメータはすべて1つ以上のキーワードでスキャンできます。全文検索は、構成パラメータの名前だけでなくパラメータの記述を通じても検索します。これによりその名前を知らなくとも要素を容易に見つけることができます。

更に、全ての構成パラメータはメイングループおよびサブグループの中でソートされます。メイングループは、構成パラメータが属するアプリケーションを意味します。例えば中央のOTRSフレーム

ワーク用「フレームワーク」、チケット・システムの「チケット」、FAQシステム用の「FAQ」などです。アプリケーションがグループ・リストボックスから選択され、「グループ選択」ボタンが押される場合、サブグループにアクセスすることができます。

すべての構成パラメタはチェックボックスからオン・オフできます。パラメタをオフにすれば、システムはこのパラメタを無視するかまたはデフォルトを使用します。リセット用リンクを使用して、変更した構成パラメタをシステム・デフォルトへ戻し切り替えることは可能です。アップデート・ボタンですべてのシステム構成パラメタへの変更を送信します。

例えば

迅速に新規インストールをセットアップ等、システムの構成に加えた変更をすべて保存したい場合には「エクスポート設定」ボタンを使用できます。その際、.pmファイルを作成します。自身の設定をリストアするためには、「インポート設定」ボタンを押すだけです。そして作成した.pmファイルを選択します。

## 注記

セキュリティ上の理由で、データベース接続用の構成パラメタはSysConfigセクションの中で変更することができません。Kernel/Config.pmの中でそれらを手動でセットしなければならない。

# 3. システムのバックアップ

本章はバックアップとOTRSデータのリストアについて記述します。

## 3.1. バックアップ

バックアップする2つのタイプのデータがあります:ひとつはアプリケーションファイル(例えば /opt/otrs 中のファイル)、もうひとつはデータベースに格納されたデータです。

バックアップを単純化するために、スクリプト `scripts/backup.pl` はOTRSのインストレーションに含まれています。それは全てのインポートデータをバックアップするように走らせることができます。(下記のスクリプトを参照)。

```
linux:/opt/otrs# cd scripts/  
linux:/opt/otrs/scripts# ./backup.pl --help  
backup.pl - backup script  
Copyright (C) 2001-2018 OTRS AG, https://otrs.com/  
usage: backup.pl -d /data_backup_dir/ [-c gzip|bzip2] [-r 30] [-t fullbackup|nofullbackup|  
donly]  
linux:/opt/otrs/scripts#
```

スクリプト: *OTRS*バックアップメカニズムに関するヘルプ

バックアップを作成するために以下のスクリプトで指定したコマンドを実行します:

```
linux:/opt/otrs/scripts# ./backup.pl -d /backup/  
Backup /backup//2010-09-07_14-28/Config.tar.gz ... done  
Backup /backup//2010-09-07_14-28/Application.tar.gz ... done  
Dump MySQL rdbms ... done  
Compress SQL-file... done  
linux:/opt/otrs/scripts#
```

スクリプト:バックアップの作成

全てのデータはディレクトリ `/backup/2010-09-07_14-28/` に格納されます。(下図参照) それに加えてデータはa .tar.gz fileに保存されます。

```
linux:/opt/otrs/scripts# ls /backup/2010-09-07_14-28/  
Application.tar.gz Config.tar.gz DatabaseBackup.sql.gz  
linux:/opt/otrs/scripts#
```

スクリプト:バックアップ・ファイルのチェック。

## 3.2. リストア

バックアップをリストアするために、保存されたアプリケーション・データはインストレーション・ディレクトリ(例えば、/opt/otrs)に書き戻されなければいけません。さらに、データベースをリストアしなければなりません。

リストア・プロセスを簡素化するスクリプト `scripts/restore.pl` (下記のスクリプトを参照)は、OTRSの全ての出荷時に同梱され、MySQLとPostgreSQLをサポートします。

```
linux:/opt/otrs/scripts# ./restore.pl --help  
restore.pl - restore script  
Copyright (C) 2001-2018 OTRS AG, https://otrs.com/  
usage: restore.pl -b /data_backup/<TIME>/ -d /opt/otrs/  
linux:/opt/otrs/scripts#
```

スクリプト:リストア・メカニズムに関するヘルプ

例えば保存されるデータ(例えば、ディレクトリー/backup/2010-09-07\_14-28/の中にある)は、以下のスクリプトで指定されたコマンドでリストアすることができます。(OTRSは/opt/otrsにインストールされていると仮定します。)

```
linux:/opt/otrs/scripts# ./restore.pl -b /backup/2010-09-07_14-28 -d /opt/otrs/  
Restore /backup/2010-09-07_14-28//Config.tar.gz ...  
Restore /backup/2010-09-07_14-28//Application.tar.gz ...  
create MySQL  
decompresses SQL-file ...  
cat SQL-file into MySQL database  
compress SQL-file...  
linux:/opt/otrs/scripts#
```

スクリプト: OTRSデータのリストア

## 4. Eメール設定

### 4.1. Eメールの送信/受信

#### 4.1.1. Eメールの送信

##### 4.1.1.1. Sendmail(デフォルト)経由。

OTRSは、[Sendmail](#)、[Postfix](#)、[Qmail](#)あるいは[Exim](#)によってEメールを送信することができます。デフォルト構成はsendmailを使用し使用開始時に即稼働します。

グラフィカルな構成フロント・エンドによってsendmailの設定を構成することができます。(Framework::Core::Sendmail)

##### 4.1.1.2. SMTPサーバまたは **smarthost**経由。

OTRS can send emails via SMTP ([Simple Mail Transfer Protocol / RFC 821](#)) or Secure SMTP.

SMTPサーバー・セッティングは、SysConfig(Framework::Core::Sendmail)によって構成できます。オプションのSMTPSを利用可能として見つけることができないならば、必要なパール・モジュール

ルがないということです。その場合は、"OTRSに必要なパール・モジュールのインストール"を参照してください。

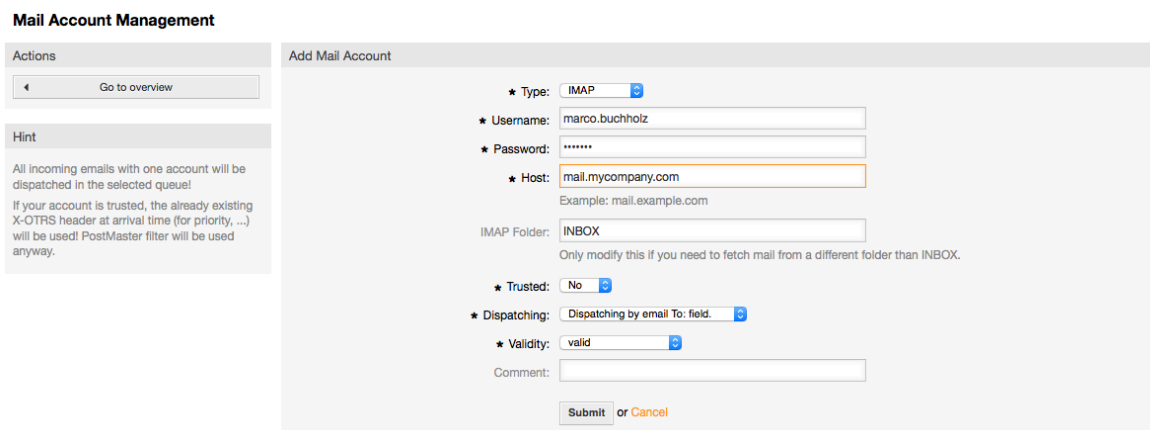
## 4.1.2. Eメールの受信

### 4.1.2.1. OTRS GUI OTRSで構成されたEメールアカウント

OTRSは、POP3、POP3S、IMAPおよびIMAPSメールアカウントからEメールを受け取ることができます。

管理者ページのPostMasterメールアカウント・リンク経由でメールアカウントを構成して下さい。

新規メールアカウントが作成されることになっている場合(下記の図を参照)そのメールサーバ名、ログイン名およびパスワードが指定されなければいけません。また、POP3、POP3S、IMAP あるいはIMAPS等のようなメールサーバタイプを選択する必要があります。サーバー・タイプのオプションとして利用可能なものが見あたらない場合は、システムに必要なPerlモジュールがないことがその理由です。その場合、指示に関しては "OTRSに必要なパール・モジュールのインストール"を参照してください。



The screenshot shows the 'Mail Account Management' section with a 'Hint' box and an 'Add Mail Account' form. The form fields are as follows:

- ★ Type: IMAP (dropdown)
- ★ Username: marco.buchholz
- ★ Password: \*\*\*\*\*
- ★ Host: mail.mycompany.com (Example: mail.example.com)
- IMAP Folder: INBOX (Only modify this if you need to fetch mail from a different folder than INBOX.)
- ★ Trusted: No (dropdown)
- ★ Dispatching: Dispatching by email To: field. (dropdown)
- ★ Validity: valid (dropdown)
- Comment: (empty text field)
- Buttons: Submit or Cancel

図:メールアカウントの追加。

信頼済オプションの値にYesを選べば、受信メッセージに付けられたどんなX-OTRSヘッダーも評価され実行されます。X-OTRSヘッダーがチケットシステムの中のいくつかのアクションを実行することができるので既知の送信者だけに信頼済オプションをYesにセットするべきです。X-OTRSヘッダーはOTRSではフィルタ・モジュールによって使用されます。X-OTRSヘッダーは、このテーブルの中でより詳細に説明されます。作成されたどんなpostmasterフィルタ規則も、信頼されたオプションのセッティングに関係なく実行されます。

The distribution of incoming messages can be controlled if they need to be sorted by queue or by the content of the "To:" field. For the Dispatching field, if "Dispatching by selected queue" is selected, all incoming messages will be sorted into the specified queue. The address where the mail was sent to is disregarded in this case. If "Dispatching by email To: field" is selected, the system checks if a queue is linked with the address in the To: field of the incoming mail. You can link an address to a queue in the E-mail address management section of the Admin page. If the address in the To: field is linked with a queue, the new message will be sorted into the linked queue. If no link is found between the address in the To: field and any queue, then the message flows into the "Raw" queue in the system, which is the PostmasterDefaultQueue after a default installation.

メールアカウント用データはすべてOTRSデータベースの中で保存されます。otrs.PostMasterMailbox.pl スクリプト(OTRSインストールのbinディレクトリーにあります)は、データベースの中で設定を使用し、メールを取って来ます。全てのメール設定が適切に動いているかどうかをチェックするために./bin/otrs.PostMasterMailbox.plを手動で実行することができます。

On a normal installation, the mail will be fetched every 10 minutes by the `postmaster_mailbox` cron job. For further information about modifying cron jobs, please refer to the "Setting up the cron jobs for OTRS" section.

## 注記

メールを取って来る場合、OTRSはPOPかIMAPサーバーからメールを削除します。さらにサーバ上でコピーを保存するオプションはありません。サーバのコピーを保持したければ、メールサーバで転送規則を作成するとよいでしょう。詳細のためにメールサーバ・ドキュメンテーションを調べてください。

### 4.1.2.2. コマンドライン・プログラムおよび**procmail**経由 (**otrs.PostMaster.pl**)

OTRSにEメールを入れるためにメールアドレスを使用することができなければ、コマンドライン・プログラム `bin/otrs.PostMaster.pl`はその問題を解決するひとつの方法かもしれません。それはSTDIN経由でメールを取り、OTRSにそれらを直接送ります。それは、MDA(メール配信エージェント(例えばprocmail))がこのプログラムを実行すれば、EメールがOTRSシステムにおいて利用可能だろうということを意味します。

MDAなしで `bin/otrs.PostMaster.pl`をテストするには、次のスクリプトのコマンドを実行してください。

```
linux:/opt/otrs# cd bin
linux:/opt/otrs/bin# cat ../doc/sample_mails/test-email-1.box | ./otrs.PostMaster.pl
linux:/opt/otrs/bin#
```

スクリプト:MDAのないポストマスターのテスト

EメールがQueueViewの中で表示される場合、あなたの設定は正しく動作しています。

ProcmailはLinux環境中에서도普及しているEメール・フィルタです。ほとんどのシステムにそれがインストールされます。そうでなければ、[procmailホームページ](#)を見てください。

OTRS用にprocmailを構成するためには(sendmail、postfix、eximあるいはqmailといったprocmail構成のMTAに基づいた)、`~otrs/.procmailrc.dist`ファイルを使用して、`.procmailrc`にそれをコピーして、スクリプトのラインを下に加えてください。

```
SYS_HOME=$HOME
PATH=/bin:/usr/bin:/usr/local/bin
# --
# 全てのEメールをthe PostMaster processへPipe します。
# --
:0 :
| $SYS_HOME/bin/otrs.PostMaster.pl
```

スクリプト:OTRSのためのprocmailの構成。

localのOTRSユーザへ送られたEメールはすべて、`bin/otrs.PostMaster.pl`に送られ、QueueViewで表示されるでしょう。

### 4.1.2.3. **otrs.PostMaster.pl**のためのPOP3, IMAPおよび**fetchmail**によるEメールの取得

メールサーバから、POP3またはIMAPのメールボックス経由で、OTRSマシン/ローカルのOTRSアカウント、およびprocmailにEメールを受け取るために、[fetchmail](#)を使用します。

## 注記

OTRSマシン上で作動してるSMTP構成が必要です。

OTRSのホームディレクトリーの中で、`.fetchmailrc.dist`を使用し、必要に応じて、`.fetchmailrc.Modify/change`にそれをコピーすることができます。(下記の例7-1を参照)

## 例4.2 .fetchmailrc

```
#poll (mailserver) protocol POP3 user (user) password (password) is(localuser)
poll mail.example.com protocol POP3 user joe password mama is otrs
```

`.fetchmailrc`を710("chmod 710.fetchmailrc")にセットすることを忘れないでください!

上記の例7-1からの`.fetchmailrc`で、コマンド**fetchmail -a**が実行されれば、EメールはすべてローカルのOTRSアカウントへ転送されるでしょう。メールを定期的にとって来たい場合は、このコマンドでcronjobをセット・アップしてください。

### 4.1.2.4. OTRS/PostMasterモジュール(より多く複雑な送信用の)によるフィルター/送信

`bin/otrs.PostMaster.pl`あるいは`bin/otrs.PostMasterMailbox.pl`の方法を使用すれば、PostMasterフィルタ・モジュールを備えたX-OTRSヘッダー・エントリを挿入するか修正することができます。チケットシステムは、X-OTRSヘッダーによって、受信に対するいくつかのアクションを実行するか、特定のキューへそれらをソートするか、優先度を変更するか、あるいは例えば顧客IDを変更することができます。X-OTRSヘッダーに関してより多くの情報、OTRS管理者ページからの「メールアカウントの追加」に関するセクションにおいて利用可能です。

いくつかのデフォルト・フィルタ・モジュールがあります:

#### 注記

ジョブ名 (e.g. `$Self->{'PostMaster::PreFilterModule'}->{'JobName'}`) はユニークである必要があります。

`ernel::System::PostMaster::Filter::Match` は、いくつかのEメールヘッダ(e.g. From, To, Subject, ...)をマッチさせるためのデフォルトモジュールです。フィルタ規則がマッチすれば、それは新規Eメールヘッダ(例: X-OTRS-Ignore: yes or X-OTRSQueue:spam)にセットできます。例 7-2のジョブは `Kernel/Config.pm` に挿入可能です。

## 例4.3 フィルタ・モジュールのためのサンプルジョブ

```
# Job Name: 1-Match
# (noreply@からの全てのスパムEメールをブロックまたは無視)
$Self->{'PostMaster::PreFilterModule'}->{'1-Match'} = {
  Module => 'Kernel::System::PostMaster::Filter::Match',
  Match => {
    From => 'noreply@',
  },
  Set => {
    'X-OTRS-Ignore' => 'yes',
  },
};
# Job Name: 2-Match
# (件名: **ORDER**かつsales@example.comからのEメールをソート)
# into queue 'Order')
$Self->{'PostMaster::PreFilterModule'}->{'2-Match'} = {
  Module => 'Kernel::System::PostMaster::Filter::Match',
  Match => {
    To => 'sales@example.com',
    Subject => '**ORDER**',
  },
  Set => {
    'X-OTRS-Queue' => 'Order',
  },
};
```

Kernel::System::PostMaster::Filter::CMDは外部コマンドにEメールを送る、デフォルト・モジュールです。出力はSTDOUTに与えられます、また、結果がTrueの場合、新規Eメール・ヘッダー(例えば、X-OTRS-Ignore: yes or X-OTRS-Queue: spam)をセットします。例7-3は Kernel/Config.pmで使用することができます。

#### 例4.4 フィルタ・モジュールのためのサンプル・ジョブ Kernel::System::PostMaster::Filter::CMD

```
# Job Name: 5-SpamAssassin
# (SpamAssassin サンプルセットアップ, スпамメールを無視します)
$self->{'PostMaster::PreFilterModule'}->{'5-SpamAssassin'} = {
    Module => 'Kernel::System::PostMaster::Filter::CMD',
    CMD => '/usr/bin/spamassassin | grep -i "X-Spam-Status: yes"',
    Set => {
        'X-OTRS-Ignore' => 'yes',
    },
};
```

Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognitionは、Eメールの件名、本文、または正規表現を使用する両方に、外部識別子を解析する可能性を加えるデフォルト・モジュールです。その後、それは定義された動的フィールドにこの値を格納します。Eメールが中へ入る時、OTRSは最初に外部識別子を検索し、1つ見つけると、あらかじめ定義された動的フィールドについてOTRSにクエリします。それは既存のチケットを見つければ、このチケットを更新するでしょう。そうでなければ、それは別々のフィールドに外部参照番号で新規チケットを作成するでしょう。

OTRS SysConfigは、異なる外部チケット番号を設定するために4つの異なる設定を既に供給していますより多くのセッティングが必要な場合、それらを手動で加える必要がある必要があります。次の例はSysConfig設定を拡張するためにKernel/Config.pmの中で使用することができます。

#### 例4.5 フィルター・モジュールのためのサンプル・ジョブ Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognition

```
# Job Name: ExternalNumber
# 外部チケット番号の認識では、<送信者>@externalticket.comのアドレス
# からの入信Eメールの中の件名と本文インシデント<番号>をチェックします。
# <番号>が見つければそれは動的フィールド「ExternalNumber(外部番号)」
# に保存されます。(管理者パネルで設定が必要)
$self->{'PostMaster::PreFilterModule'}->{'000-ExternalTicketNumberRecognition5'} = {
    'FromAddressRegExp' => '\\s*@externalticket.com',
    'NumberRegExp' => 'Incident-(\\d.*)',
    'SearchInSubject' => '1',
    'SearchInBody' => '1',
    'TicketStateTypes' => 'new;open',
    'DynamicFieldName' => 'ExternalNumber',
    'Module' =>
'Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognition',
    'Name' => 'Test External Ticket Number',
    'SenderType' => 'system',
};
```

#### 構成オプション

- FromAddressRegExp

これはオプションの設定です。この「From:」アドレスと一致しているメールだけがこのフィルターで考慮されます。この設定を調整して、送信メール用外部システム利用を、送信者アドレスにすることができます。このアドレスが異なる場合、このオプションを空にすることができます。この場合、OTRSは送信者アドレスをチェックしません。

- NumberRegExp

これは必須設定項目です。この設定は  
件名またはチケットの本文からチケット番号を抽出するためにOTRSが使う正規表現を含みます。  
デフォルトの正規表現は  
以下のような例の発生と一致するでしょう。例えば「Incident-12354」そしてその部分を動的  
フィールド中に括弧で挟む部分を置きます（ここでは「12354」）

- SearchInSubject

これが「1」にセットされる場合、Eメール件名はチケット番号を求めて検索されます。

- SearchInBody

これが「1」にセットされる場合、Eメール本文はチケット番号を求めて検索されます。

- TicketStateTypes (チケット・状態・タイプ)

これはオプションの設定です。もし与えられれば、それは与えられた状態タイプの開いた外部チケットのみOTRSを検索するでしょう。状態タイプはセミコロンで分離されます。

- DynamicField

これは必須の設定で、外部番号を保存するために使われている動的フィールドを定義します。  
(フィールド名はシステムに存在しなければいけないしかつ有効でなければなりません)

- SenderType

これは、OTRSで記事作成に使用される送信者タイプを定義します。

もちろん、自分のPostMasterフィルタ・モジュールを開発することも可能です。

## 4.2. PGP鍵を備えた安全なEメール

OTRSは、PGP鍵を備えた送信メッセージに署名するか暗号化する能力を持っています。更に、暗号化された受信メッセージは解読することができます。暗号化と解読はGPLツールGnuPGで実施されます。OTRSのためのセットアップGnuPGに、次のステップを行なわなければなりません。

1. オペレーティング・システムのパッケージ・マネージャーによるGnuPGのインストール
2. OTRSで使うGnuPGを構成してください。GnuPGと秘密鍵のための必要なディレクトリを作成しなければなりません。シェルからユーザ「otrs」としてスクリプト中で下に示されるコマンドを実行しなければなりません。

```
linux:~# su otrs
linux:/root$ cd
linux:~$ pwd
/opt/otrs
linux:~$ gpg --gen-key
gpg (GnuPG) 1.4.2; Copyright (C) 2005 Free Software Foundation, Inc.
This program comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY.
This is free software, and you are welcome to redistribute it
under certain conditions. See the file COPYING for details.

gpg: directory `/opt/otrs/.gnupg' created
gpg: new configuration file `/opt/otrs/.gnupg/gpg.conf' created
gpg: WARNING: options in `/opt/otrs/.gnupg/gpg.conf' are not yet active during t
his run
gpg: keyring `/opt/otrs/.gnupg/secring.gpg' created
gpg: keyring `/opt/otrs/.gnupg/pubring.gpg' created
Please select what kind of key you want:
  (1) DSA and Elgamal (default)
  (2) DSA (sign only)
  (5) RSA (sign only)
Your selection? 1
```





次の構成設定(PGP::Options)はさらに変わることを要求するかもしれません。このコンフィグ・セッティングによって、「otrs」ユーザによってgpgのすべての実行に使用されるパラメータは指定することができます。特に「otrs」ユーザのGnuPGのための構成ファイルのディレクトリは重要です。例/opt/otrs/.gnupgの中で、使用されます。このディレクトリは、PGP鍵構成以前に作成されました。

次の構成オプション(PGP::Key::Password)によって、キーIDのペアおよび自身の秘密鍵のパスワードを指定することは可能です、なぜなら、外部からのコミュニケーションパートナーチケットシステムに彼らのメッセージを暗号化と秘密鍵で書き込み、OTRSはそれらのメッセージをIDとパスワードをここで指定して解読するからです。

どのようにしてあなた自身の秘密鍵のIDを得ることができますか？あなた自身の秘密鍵のIDはすでにキー生成時に表示されています。(上記ステップ1をご覧ください)さらに、次のスクリプト中で指定されたコマンドがユーザ「otrs」として実行される場合、IDを得ることが可能です:

```
linux:~# su otrs
linux:/root$ cd
linux:~$ pwd
/opt/otrs
linux:~$ gpg --list-keys
/opt/otrs/.gnupg/pubring.gpg
-----
pub   1024D/7245A970 2006-02-03
uid           Ticket System (Private gpg key for ticket system with
address support@example.com) <support@example.com>
sub   2048g/52B97069 2006-02-03

linux:~$
```

スクリプト:自分の秘密鍵のIDを得ること。

秘密鍵のIDは、「サブ」で始まるラインで見つけることができます。それは長さ8文字で16進法の文字列で上の例では「52B97069」です。チケットシステムでこのキー用に指定しなければならないパスワードは、キー生成中に与えられたのと同じです。

このデータが挿入された後、「アップデート」ボタンはセッティングを保存するために使用することができます。これでOTRSは暗号化されたメッセージを受け取り解読する準備ができています。

4. このデータが挿入された後、「アップデート」ボタンはセッティングを保存するために使用することができます。これでOTRSは暗号化されたメッセージを受け取り解読する準備ができています。

最初の方法は、顧客管理インターフェースで顧客の公開鍵を指定することです。

第2の方法は、PGP鍵設定(管理者ページから到達可能)によってキーを指定することです。この画面の右側のセクションにおいては、すでにインポート済の顧客の公開鍵が全て表示されます。PGP鍵がOTRSのために活性化され構成されたら、自分の公開鍵もそこにリストされるべきです。PGP鍵設定画面の左のエリアでキーを探せます。さらに、新規公開鍵はファイルからシステムへアップロードすることができます。

OTRSへインポートされる必要のある公開鍵を備えたファイルはGnuPG互換性をもつキー・ファイルでなければなりません。ほとんどの場合、ファイルに格納されたキーは「ASCII armored key」です。OTRSはこのフォーマットを取り扱えます。

## 4.3. S/MIMEを備えた安全なEメール

一見、S/MIMEを備えた暗号化はPGP鍵を備えた暗号化より少し複雑に見えます。最初に、OTRSシステムのために認証局(CA)を設立しなければなりません。後のステップは、PGP鍵で必要とされる

ものに非常に似ています:OTRSの構成、自身の証明書のインストール、必要な他の証明書のインストール等。

S/MIME構成は、大部分はOTRSウェブインターフェースの外部で行われ、「otrs」ユーザによってシェルの中で実行されるべきです。Linux下のMIME構成SSL(OpenSSL)に基づきます。したがって、あなたのシステムにOpenSSLパッケージがインストールされるかどうかを第一にチェックしてください。OpenSSLパッケージは、CA.pl(証明書生成の最も重要なステップはそれで行なうことができます)と呼ばれるスクリプトを含んでいます。手続きを単純化するために、ファイルシステムでCA.plスクリプトが保存され、シェルのパス変数に一時的に位置を入力する場所を見つけます。(下記のスクリプトを参照)

```
otrs@linux:~> rpm -ql openssl | grep CA
/usr/share/ssl/misc/CA.pl
otrs@linux:~> export PATH=$PATH:/usr/share/ssl/misc
otrs@linux:~> which CA.pl
/usr/share/ssl/misc/CA.pl
otrs@linux:~> mkdir tmp; cd tmp
otrs@linux:~/tmp>
```

### スクリプト:S/MIMEの構成

上記のスクリプトは、新規一時ディレクトリ~/tmpが作成されたことを表示しています。証明書は其中で生成されることになっています。

証明書を作成するためには、コマンドライン中から次のオペレーションを行なってください:(我々は、OTRS管理者がテスト用のSSL証明書および学習する目的を作成しなければならないと考えます。暗号化用の保証されたSSL証明書を既に持った場合それを使用して、これらのステップをスキップしてください。)

1. SSLのために自分の認証局を開設してください。自分のSSL証明書の要請を証明するためにそれを必要とする(下記のスクリプトを参照)。

```
otrs@linux:~/tmp> CA.pl -newca
CA certificate filename (or enter to create)

Making CA certificate ...
Generating a 1024 bit RSA private key
...+++++
.....+++++
writing new private key to './demoCA/private/akey.pem'
Enter PEM pass phrase:
Verifying - Enter PEM pass phrase:
-----
You are about to be asked to enter information that will be incorporated
into your certificate request.
What you are about to enter is what is called a Distinguished Name or a DN.
There are quite a few fields but you can leave some blank
For some fields there will be a default value,
If you enter '.', the field will be left blank.
-----
Country Name (2 letter code) [AU]:DE
State or Province Name (full name) [Some-State]:OTRS-state
Locality Name (eg, city) []:OTRS-town
Organization Name (eg, company) [Internet Widgits Pty Ltd]:Your company
Organizational Unit Name (eg, section) []:
Common Name (eg, YOUR name) []:OTRS Admin
Email Address []:otrs@your-domain.tld
otrs@linux:~/tmp> ls -la demoCA/
total 8
-rw-r--r--  1 otrs otrs 1330 2006-01-08 17:54 cacert.pem
drwxr-xr-x  2 otrs otrs  48 2006-01-08 17:53 certs
drwxr-xr-x  2 otrs otrs  48 2006-01-08 17:53 crl
-rw-r--r--  1 otrs otrs   0 2006-01-08 17:53 index.txt
drwxr-xr-x  2 otrs otrs  48 2006-01-08 17:53 newcerts
drwxr-xr-x  2 otrs otrs  80 2006-01-08 17:54 private
```

```
-rw-r--r-- 1 otrs otrs 17 2006-01-08 17:54 serial  
otrs@linux:~/tmp>
```

スクリプト: *SSLのために認証局を設立*

## 2. 証明書リクエストを生成してください(下記のスクリプトを参照)

```
otrs@linux:~/tmp> CA.pl -newreq  
Generating a 1024 bit RSA private key  
.....+++++  
....+++++  
writing new private key to 'newreq.pem'  
Enter PEM pass phrase:  
Verifying - Enter PEM pass phrase:  
-----  
You are about to be asked to enter information that will be incorporated  
into your certificate request.  
What you are about to enter is what is called a Distinguished Name or a DN.  
There are quite a few fields but you can leave some blank  
For some fields there will be a default value,  
If you enter '.', the field will be left blank.  
-----  
Country Name (2 letter code) [AU]:DE\keyreturn  
State or Province Name (full name) [Some-State]:OTRS-state  
Locality Name (eg, city) []:OTRS-town  
Organization Name (eg, company) [Internet Widgits Pty Ltd]:Your company  
Organizational Unit Name (eg, section) []:  
Common Name (eg, YOUR name) []:OTRS admin  
Email Address []:otrs@your-domain.tld  
  
Please enter the following 'extra' attributes  
to be sent with your certificate request  
A challenge password []:  
An optional company name []:  
Request (and private key) is in newreq.pem  
otrs@linux:~/tmp> ls -la  
total 4  
drwxr-xr-x 6 otrs otrs 232 2006-01-08 17:54 demoCA  
-rw-r--r-- 1 otrs otrs 1708 2006-01-08 18:04 newreq.pem  
otrs@linux:~/tmp>
```

スクリプト: *証明書リクエストの作成*

## 3. 証明書リクエストは署名され、それによってあなた自身のCAに証明されます。あるいは別の外部の保証されたCAによって署名されることによりさらに信頼性を高められます。(下記スクリプト参照)

```
otrs@linux:~/tmp> CA.pl -signreq  
Using configuration from /etc/ssl/openssl.cnf  
Enter pass phrase for ./demoCA/private/cakey.pem:  
Check that the request matches the signature  
Signature ok  
Certificate Details:  
  Serial Number:  
    fd:85:f6:9f:14:07:16:c8  
  Validity  
    Not Before: Jan  8 17:04:37 2006 GMT  
    Not After : Jan  8 17:04:37 2007 GMT  
  Subject:  
    countryName           = DE  
    stateOrProvinceName   = OTRS-state  
    localityName          = OTRS-town  
    organizationName      = Your Company  
    commonName            = OTRS administrator  
    emailAddress         = otrs@your-domain.tld  
  X509v3 extensions:  
    X509v3 Basic Constraints:
```

```
CA:FALSE
Netscape Comment:
  OpenSSL Generated Certificate
X509v3 Subject Key Identifier:
  01:D9:1E:58:C0:6D:BF:27:ED:37:34:14:D6:04:AC:C4:64:98:7A:22
X509v3 Authority Key Identifier:
  keyid:10:4D:8D:4C:93:FD:2C:AA:9A:B3:26:80:6B:F5:D5:31:E2:8E:DB:A8
  DirName:/C=DE/ST=OTRS-state/L=OTRS-town/O=Your Company/
  CN=OTRS admin/emailAddress=otrs@your-domain.tld
  serial:FD:85:F6:9F:14:07:16:C7

Certificate is to be certified until Jan  8 17:04:37 2007 GMT (365 days)
Sign the certificate? [y/n]:y

1 out of 1 certificate requests certified, commit? [y/n]y
Write out database with 1 new entries
Data Base Updated
Signed certificate is in newcert.pem
otrs@linux:~/tmp>
```

#### スクリプト:証明書リクエストの署名

4. あなた自身の証明書を生成して下さい。そしてそれに伴い、署名された証明書を使う、すべてのデータを生成して下さい。(下記スクリプト参照)

```
otrs@linux:~/tmp> CA.pl -pkcs12 "OTRS Certificate"
Enter pass phrase for newreq.pem:
Enter Export Password:
Verifying - Enter Export Password:
otrs@linux:~/tmp> ls -la
total 12
drwxr-xr-x  6 otrs otrs  328 2006-01-08 18:04 demoCA
-rw-r--r--  1 otrs otrs 3090 2006-01-08 18:13 newcert.p12
-rw-r--r--  1 otrs otrs 3791 2006-01-08 18:04 newcert.pem
-rw-r--r--  1 otrs otrs 1708 2006-01-08 18:04 newreq.pem
otrs@linux:~/tmp>
```

#### スクリプト:新規証明書の生成

今、これらのオペレーションが実行され、S/MIMEセットアップはOTRSの中で完成したはずです。

セットアップのこの部分はリンク"SMIME"を選んで、管理者ページで実行されます。OTRSで一般的なS/MIMEサポートがまだ可能にされていない場合、マスク(mask)は管理者にこれを指摘し、それを可能にするために適切なリンクを提供します。

SysConfig group で"Crypt::SMIME" S/MIME に関する全般の設定が行えます

ここで、S/MIME支援を活性化し、OpenSSLコマンド用のパスおよび証明書用のディレクトリーを定義することができます。上に作成されたキー・ファイルは、ここで示されたディレクトリーに格納されなければいけません。そうでなければ、OpenSSLは使用できません。

次のステップはOTRS管理ページ上のS/MIME構成で行われます。ここで、OTRSシステムの秘密鍵および他のコミュニケーション・パートナーの公開鍵(複数)をインポートすることができます。このセクションの最初に作成し、OTRSに追加した公開鍵を入力してください。

言うまでもなく、コミュニケーション・パートナーの全てのパブリックS/MIMEキーは顧客管理ツールを使用してインポートすることもできます。

## 5. 外部バックエンドの使用

### 5.1. 顧客情報

OTRSは、ユーザー名、メール・アドレス、電話番号などのような多くの顧客情報属性で動作しています。これらの属性は担当者および顧客フロント・エンドの両方に表示され、顧客の認証に使用されます。

OTRSの内に使用されるか表示された顧客情報は高度にカスタマイズ可能です。しかし次の情報は、顧客認証に常に必要とされます:

- User login (ユーザーログイン)
- Email address (Eメールアドレス)
- Customer ID (顧客ID)

担当者インターフェースの顧客情報を表示したければ、次のSysConfigパラメタを使用して下さい。

```
# Ticket::Frontend::CustomerInfo*
# (作成(電話とEメール)、ズーム、キュービュー時に顧客情報を表示)
$self->{'Ticket::Frontend::CustomerInfoCompose'} = 1;
$self->{'Ticket::Frontend::CustomerInfoZoom'} = 1;
```

スクリプト: SysConfig構成パラメタ

### 5.2. 顧客ユーザ・バックエンド

2つのタイプの顧客バックエンド、DBおよびLDAPを使用することができます。あなたが別の顧客バックエンド(例えばSAP)を既に持っていれば、それを使用するモジュールを書くことはもちろん可能です。

#### 5.2.1. データベース(デフォルト)

例11-1は、DB顧客バックエンドの構成を示します。それは、OTRSデータベースに保存された顧客情報を使用します。

#### 例4.6 DB顧客バックエンドの構成

```
# CustomerUser (customer database backend and settings)
$self->{'CustomerUser'} = {
  Name => 'Database Datasource',
  Module => 'Kernel::System::CustomerUser::DB',
  Params => {
    # if you want to use an external database, add the required settings
    # DSN => 'DBI:odbc:yourdsn',
    # Type => 'mssql', # only for ODBC connections
    # DSN => 'DBI:mysql:database=customerdb;host=customerdbhost',
    # User => '',
    # Password => '',
    Table => 'customer_user',

    # CaseSensitive will control if the SQL statements need LOWER()
    # function calls to work case insensitively. Setting this to
    # 1 will improve performance dramatically on large databases.
    CaseSensitive => 0,
  },
  # customer unique id
  CustomerKey => 'login',
# customer #
```

```

CustomerID => 'customer_id',
CustomerValid => 'valid_id',
CustomerUserListFields => ['first_name', 'last_name', 'email'],
CustomerUserSearchFields => ['login', 'last_name', 'customer_id'],
CustomerUserSearchPrefix => '',
CustomerUserSearchSuffix => '*',
CustomerUserSearchListLimit => 250,
CustomerUserPostMasterSearchFields => ['email'],
CustomerUserNameFields => ['title', 'first_name', 'last_name'],
CustomerUserEmailUniqCheck => 1,
# # show not own tickets in customer panel, CompanyTickets
# CustomerUserExcludePrimaryCustomerID => 0,
# # generate auto logins
# AutoLoginCreation => 0,
# AutoLoginCreationPrefix => 'auto',
# # admin can change customer preferences
# AdminSetPreferences => 1,
# # cache time to live in sec. - cache any database queries
# CacheTTL => 0,
# # just a read only source
# ReadOnly => 1,
# Map => [
# # note: Login, Email and CustomerID needed!
# # var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-
link, readonly, http-link-target
[ 'UserTitle', 'Title', 'title', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserFirstname', 'Firstname', 'first_name', 1, 1, 'var', '', 0 ],
[ 'UserLastname', 'Lastname', 'last_name', 1, 1, 'var', '', 0 ],
[ 'UserLogin', 'Username', 'login', 1, 1, 'var', '', 0 ],
[ 'UserPassword', 'Password', 'pw', 0, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserEmail', 'Email', 'email', 1, 1, 'var', '', 0 ],
# [ 'UserEmail', 'Email', 'email', 1, 1, 'var', "[% Env("CGIHandle")
%]?Action=AgentTicketCompose&ResponseID=1&TicketID=[% Data.TicketID %]&ArticleID=[%
Data.ArticleID %]", 0 ],
[ 'UserCustomerID', 'CustomerID', 'customer_id', 0, 1, 'var', '', 0 ],
# [ 'UserCustomerIDs', 'CustomerIDs', 'customer_ids', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserPhone', 'Phone', 'phone', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserFax', 'Fax', 'fax', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserMobile', 'Mobile', 'mobile', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserStreet', 'Street', 'street', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserZip', 'Zip', 'zip', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserCity', 'City', 'city', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserCountry', 'Country', 'country', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'UserComment', 'Comment', 'comments', 1, 0, 'var', '', 0 ],
[ 'ValidID', 'Valid', 'valid_id', 0, 1, 'int', '', 0 ],
],
# default selections
Selections => {
  UserTitle => {
    'Mr.' => 'Mr.',
    'Mrs.' => 'Mrs.',
  },
},
};

```

顧客情報をカスタマイズしたい場合は、カラム・ヘッダーを変更するか、あるいは新規ものをOTRSデータベース中のcustomer\_userテーブルに加えてください。例として、下記のスクリプトは、room番号用の新規フィールドを加える方法を教えます。

```

linux:~# mysql -p
Enter password:
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 116 to server version: 5.0.18-Debian_7-log

Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the buffer.

mysql> use otrs;
Reading table information for completion of table and column names
You can turn off this feature to get a quicker startup with -A

```

```
Database changed
mysql> ALTER TABLE customer_user ADD room VARCHAR (250);
Query OK, 1 rows affected (0.01 sec)
Records: 1 Duplicates: 0 Warnings: 0

mysql> quit
Bye
linux:~#
```

スクリプト: *room*フィールドの*customer\_user*テーブルへの追加。

次のスクリプトで示されるように、さて、新規カラムを*Kernel/Config.pm*中のMAP配列に追加してください。

```
# var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-link,
readonly
[...]
[ 'UserRoom',      'Room',      'room',      0, 1, 'var', '', 0 ],
```

スクリプト:*room*フィールドの*Kernel/Config.pm*ファイルへの追加。

担当者インターフェースの顧客リンクによってこの顧客情報をすべて編集することも可能です。

### 5.2.1.1. 多数のID(会社チケット)を持った顧客

顧客に1つを超える顧客IDを割り当てることは可能です。顧客が他の顧客のチケットへアクセスしなければならないならばこれは役立ちます。(例えば、スーパーバイザはアシスタントのチケットを見たい。)顧客が他の顧客のチケットへアクセスできるならば、OTRSの会社チケット機能が使われます。会社チケットは、顧客パネル中の「会社チケット」リンクによってアクセスすることができます。

会社チケットを使用するために、顧客にとってアクセス可能であるべきIDを備えた新規カラムをOTRSデータベース中の*customer\_user*テーブルに加えなければなりません(下記のスクリプトを参照)。

```
linux:~# mysql -p
Enter password:
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 124 to server version: 5.0.18-Debian_7-log

Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the buffer.

mysql> use otrs;
Reading table information for completion of table and column names
You can turn off this feature to get a quicker startup with -A

Database changed
mysql> ALTER TABLE customer_user ADD customer_ids VARCHAR (250);
Query OK, 1 rows affected (0.02 sec)
Records: 1 Duplicates: 0 Warnings: 0

mysql> quit
Bye
linux:~#
```

スクリプト: *customer\_ids*フィールドの*customer\_user*テーブルへの追加。

スクリプトの中で下に示されるように、新規カラムを*Kernel/Config.pm*中のMAP配列に加えなければなりません。

```
# var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-link,
readonly
[...]
[ 'UserCustomerIDs', 'CustomerIDs', 'customer_ids', 1, 0, 'var', '', 0 ],
```



スクリプト: `UserCustomerIDs`フィールドの `Kernel/Config.pm`ファイル への追加。

ここで、多数の顧客IDのための新規カラムは、顧客管理のためのセクションの中で担当者・インターフェース経由で編集することができます。

顧客が他の顧客のチケットにアクセスすることを確実にするために、多数の顧客IDのための新規フィールドの中へのこれらの他のユーザのIDを追加します。セミコロンによって各IDを区切って下さい(下記の例11-2を参照)。

#### 例4.7 DBバックエンドを備えた会社チケットの使用

顧客A、BおよびCはあなたのシステムに存在します。また、Aは顧客パネルからBとCのチケットにアクセスしたい。BとCは他のユーザのチケットにアクセスするべきではありません。

このセットアップを実現するためには、上に記述されるような`Kernel/Config.pm`中の`customer_user`テーブルおよびMappingを変更してください。次に、担当者インターフェースあるいは管理者ページの顧客リンクから、顧客Aのための設定をロードしてください。設定が表示される場合、`CustomerIDs`のためのフィールドへ値「B;C;」を追加して下さい。

## 5.2.2. LDAP

顧客情報を備えたLDAPディレクトリーを持っているならば、例11-3において示されるように、OTRSを備えた顧客バックエンドとしてそれを使用することができます。

#### 例4.8 LDAP顧客バックエンドの構成

```
# CustomerUser
# (customer ldap backend and settings)
$self->{CustomerUser} = {
  Name => 'LDAP Data Source',
  Module => 'Kernel::System::CustomerUser::LDAP',
  Params => {
    # ldap host
    Host => 'bay.csuhayward.edu',
    # ldap base dn
    BaseDN => 'ou=seas,o=csuh',
    # search scope (one|sub)
    SSCOPE => 'sub',
    # The following is valid but would only be necessary if the
    # anonymous user does NOT have permission to read from the LDAP tree
    UserDN => '',
    UserPw => '',
    # in case you want to add always one filter to each ldap query, use
    # this option. e. g. AlwaysFilter => '(mail=*)' or AlwaysFilter =>
    '(objectclass=user)'
    AlwaysFilter => '',
    # if the charset of your ldap server is iso-8859-1, use this:
    SourceCharset => 'iso-8859-1',

    # Net::LDAP new params (if needed - for more info see perldoc Net::LDAP)
    Params => {
      port => 389,
      timeout => 120,
      async => 0,
      version => 3,
    },
  },
},
# customer unique id
CustomerKey => 'uid',
# customer #
CustomerID => 'mail',
CustomerUserListFields => ['cn', 'mail'],
CustomerUserSearchFields => ['uid', 'cn', 'mail'],
CustomerUserSearchPrefix => '',
CustomerUserSearchSuffix => '*',
CustomerUserSearchListLimit => 250,
```

```

CustomerUserPostMasterSearchFields => ['mail'],
CustomerUserNameFields => ['givenname', 'sn'],
# show not own tickets in customer panel, CompanyTickets
CustomerUserExcludePrimaryCustomerID => 0,
# add an ldap filter for valid users (expert setting)
# CustomerUserValidFilter => '(!(description=locked))',
# administrator can't change customer preferences
AdminSetPreferences => 0,
# # cache time to live in sec. - cache any database queries
# CacheTTL => 0,
Map => [
  # note: Login, Email and CustomerID are mandatory!
  # var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-
link, readonly
  [ 'UserTitle',      'Title',      'title',          1, 0, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserFirstname', 'Firstname', 'givenname',     1, 1, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserLastname',  'Lastname',  'sn',            1, 1, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserLogin',     'Username',  'uid',           1, 1, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserEmail',     'Email',     'mail',          1, 1, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserCustomerID', 'CustomerID', 'mail',          0, 1, 'var', '', 0 ],
#   [ 'UserCustomerIDs', 'CustomerIDs', 'second_customer_ids', 1, 0, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserPhone',     'Phone',     'telephonenumber', 1, 0, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserAddress',   'Address',   'postaladdress',  1, 0, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserComment',   'Comment',   'description',    1, 0, 'var', '', 0 ],
],
};

```

追加の顧客属性（マネージャーの名前、携帯電話番号あるいは部署のような）が、あなたのLDAPディレクトリーに格納されていて、この情報をOTRSに表示したいならば、次のスクリプトの中で示されるように、これらの属性へのエンターリーを備えたKernel/Config.pm 中のMAP配列をただ拡張してください。

```

# var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-link,
readonly
[...]
[ 'UserPhone',      'Phone',      'telephonenumber', 1, 0, 'var', '', 0 ],

```

スクリプト:新規フィールドのKernel/Config.pmファイルへの追加

### 5.2.2.1. 多数のID(会社チケット)を持った顧客

LDAPバックエンドを使用する場合、顧客にひとつ以上の顧客IDを割り当てることが可能です。会社チケットを使用するために、新規フィールドを顧客によってアクセス可能なIDを含んでいるLDAPディレクトリーに加えなければなりません。

LDAPディレクトリーの新規フィールドが作成されている場合、スクリプトの中で下に示されるように、新規エンターリーをKernel/Config.pm中のMAP配列に加えなければなりません。

```

# var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-link,
readonly
[...]
[ 'UserCustomerIDs', 'CustomerIDs', 'customer_ids', 1, 0, 'var', '', 0 ],

```

スクリプト: 新規フィールドのKernel/Config.pmファイルへのMapping

複数の顧客IDのためのフィールドをLDAPディレクトリーで直接編集しなければなりません。OTRSはLDAPから単に読み込むだけで書き込むことはできません。

顧客によって他の顧客のチケットにアクセスを保証するためには、そのチケットがあなたのLDAPディレクトリーの新規フィールドにアクセスされるべき顧客の顧客IDを加えてください。各IDはセミコロンで区切って下さい(下記の例11-4を参照)。

#### 例4.9 LDAPバックエンドを備えた会社チケットの使用

顧客A、BおよびCはあなたのシステムに存在します。また、Aは顧客パネルからBとCのチケットにアクセスしたい。BとCは他のユーザのチケットにアクセスするべきではありません。

このセットアップを実現するためには、上に記述されるようなKernel/Config.pm中のLDAPディレクトリーおよびMappingを変更してください。その後、CustomerIDsのためのフィールドへ値「B; C;」をあなたのLDAPディレクトリーの顧客Aのために追加して下さい。

### 5.2.3. OTRSでひとつ以上の顧客バックエンドを使用する

あなたがOTRS(例えばLDAPおよびデータベース・バックエンド)と共に使用されるひとつ以上の顧客情報ソースを利用したければ、CustomerUser構成パラメタを「数」で(例えば「CustomerUser1」、「CustomerUser2」)拡張するべきです。(下記の例11-5を参照)。

#### 例4.10 OTRSでひとつ以上の顧客バックエンドを使用する

以下は、OTRSでLDAPとデータベース顧客バックエンドの両方を使用する構成例です。

```
# 1. Customer user backend: DB
# (customer database backend and settings)
$self->{CustomerUser1} = {
  Name => 'Customer Database',
  Module => 'Kernel::System::CustomerUser::DB',
  Params => {
    # if you want to use an external database, add the
    # required settings
    DSN => 'DBI:odbc:yourdsn',
    Type => 'mssql', # only for ODBC connections
    DSN => 'DBI:mysql:database=customerdb;host=customerdbhost',
    User => '',
    Password => '',
    Table => 'customer_user',
  },
  # customer unique id
  CustomerKey => 'login',
  # customer #
  CustomerID => 'customer_id',
  CustomerValid => 'valid_id',
  CustomerUserListFields => ['first_name', 'last_name', 'email'],
  CustomerUserSearchFields => ['login', 'last_name', 'customer_id'],
  CustomerUserSearchPrefix => '',
  CustomerUserSearchSuffix => '*',
  CustomerUserSearchListLimit => 250,
  CustomerUserPostMasterSearchFields => ['email'],
  CustomerUserNameFields => ['title', 'first_name', 'last_name'],
  CustomerUserEmailUniqCheck => 1,
  # show not own tickets in customer panel, CompanyTickets
  CustomerUserExcludePrimaryCustomerID => 0,
  # generate auto logins
  AutoLoginCreation => 0,
  AutoLoginCreationPrefix => 'auto',
  # admin can change customer preferences
  AdminSetPreferences => 1,
  # cache time to live in sec. - cache any database queries
  CacheTTL => 0,
  # just a read only source
  ReadOnly => 1,
  Map => [

    # note: Login, Email and CustomerID needed!
    # var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-
    link, readonly, http-link-target
    [ 'UserTitle',      'Title',      'title',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserFirstname', 'Firstname',  'first_name', 1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserLastname',  'Lastname',   'last_name',  1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserLogin',     'Username',   'login',      1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserPassword',  'Password',   'pw',         0, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserEmail',     'Email',      'email',      1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserCustomerID', 'CustomerID', 'customer_id', 0, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserPhone',     'Phone',      'phone',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserFax',       'Fax',        'fax',        1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserMobile',    'Mobile',     'mobile',     1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserStreet',    'Street',     'street',     1, 0, 'var', '', 0 ],
  ],
};
```

```

    [ 'UserZip',      'Zip',      'zip',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserCity',    'City',    'city',    1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserCountry', 'Country', 'country', 1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserComment', 'Comment', 'comments', 1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'ValidID',     'Valid',   'valid_id', 0, 1, 'int', '', 0 ],
  ],
  # default selections
  Selections => {
    UserTitle => {
      'Mr.' => 'Mr.',
      'Mrs.' => 'Mrs.',
    },
  },
};

# 2. Customer user backend: LDAP
# (customer ldap backend and settings)
$self->{CustomerUser2} = {
  Name => 'LDAP Datasource',
  Module => 'Kernel::System::CustomerUser::LDAP',
  Params => {
    # ldap host
    Host => 'bay.csuhayward.edu',
    # ldap base dn
    BaseDN => 'ou=seas,o=csuh',
    # search scope (one|sub)
    SSCOPE => 'sub',
    # The following is valid but would only be necessary if the
    # anonymous user does NOT have permission to read from the LDAP tree
    UserDN => '',
    UserPw => '',
    # in case you want to add always one filter to each ldap query, use
    # this option. e. g. AlwaysFilter => '(mail=*)' or AlwaysFilter =>
    '(objectclass=user)'
    AlwaysFilter => '',
    # if the charset of your ldap server is iso-8859-1, use this:
    SourceCharset => 'iso-8859-1',

    # Net::LDAP new params (if needed - for more info see perldoc Net::LDAP)
    Params => {
      port => 389,
      timeout => 120,
      async => 0,
      version => 3,
    },
  },
  # customer unique id
  CustomerKey => 'uid',
  # customer #
  CustomerID => 'mail',
  CustomerUserListFields => ['cn', 'mail'],
  CustomerUserSearchFields => ['uid', 'cn', 'mail'],
  CustomerUserSearchPrefix => '',
  CustomerUserSearchSuffix => '*',
  CustomerUserSearchListLimit => 250,
  CustomerUserPostMasterSearchFields => ['mail'],
  CustomerUserNameFields => ['givenname', 'sn'],
  # show not own tickets in customer panel, CompanyTickets
  CustomerUserExcludePrimaryCustomerID => 0,
  # add a ldap filter for valid users (expert setting)
  CustomerUserValidFilter => '(!(description=locked))',
  # admin can't change customer preferences
  AdminSetPreferences => 0,
  Map => [
    # note: Login, Email and CustomerID needed!
    # var, frontend, storage, shown (1=always,2=lite), required, storage-type, http-
    link, readonly
    [ 'UserTitle',      'Title',      'title',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserFirstname', 'Firstname',  'givenname',  1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserLastname',  'Lastname',   'sn',         1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserLogin',     'Username',   'uid',        1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserEmail',     'Email',     'mail',       1, 1, 'var', '', 0 ],
  ],
};

```

```

# [ 'UserCustomerID', 'CustomerID', 'mail', 0, 1, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserCustomerIDs', 'CustomerIDs', 'second_customer_ids', 1, 0, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserPhone', 'Phone', 'telephonenumber', 1, 0, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserAddress', 'Address', 'postaladdress', 1, 0, 'var', '', 0 ],
  [ 'UserComment', 'Comment', 'description', 1, 0, 'var', '', 0 ],
],
};

```

10までの異なる顧客バックエンドを統合することは可能です。全ての顧客情報を見るか編集する(書き込みアクセス権限が可能と仮定して)ためにOTRSの中で顧客管理インターフェースを使用してください。

## 5.2.4. 動的フィールドにCustomerUserデータを格納すること

顧客データを直接チケットの動的フィールドに格納することも時には役立つかもしれません。(例えばこのデータで特別な統計を作成するような目的で)

チケットが作成される場合、あるいはチケットの顧客が変更される場合、動的フィールド値がセットされます。動的フィールドの値は顧客データから得られます。これはすべてのバックエンドのために働きますが、特にLDAPバックエンドに役立ちます。

OTRSのこのオプション機能を活性化するために、以下の二つの設定を活性化して下さい。

「Ticket::EventModulePost###930-DynamicFieldFromCustomerUser」および「DynamicFieldFromCustomerUser::Mapping」。後の設定では、CustomerUserフィールド入力がチケットのどの動的フィールドに格納しなければならないかの構成を含んでいます。フィールドはシステムの中にあるに違いありませんし、AgentTicketFreeTextのために可能になるに違いありません。そのゆえ、それらは手動でセットすることができます。それらはAgentTicketPhone、AgentTicketEmailおよびAgentTicketCustomerのために可能になってはなりません。もしそれらが可能ならば、それらは自動設定値に対して先行するでしょう。

## 5.3. 担当者と顧客を認証するバックエンド

OTRSは、異なるバックエンドに対する、担当者および顧客を認証するオプションを提示します。

### 5.3.1. 担当者のための認証バックエンド

#### 5.3.1.1. DB(デフォルト)

デフォルトで使用される担当者を認証するバックエンドは、OTRSデータベースです。担当者は、管理者ページの担当者管理インターフェイス経由で追加・編集されます(下のサンプル11-6参照)。

#### 例4.11 DBバックエンドに対する認証エージェント

```
$Self->{'AuthModule'} = 'Kernel::System::Auth::DB';
```

#### 5.3.1.2. LDAP

LDAPディレクトリが担当者データをすべて保存する場合、OTRSの中のユーザを認証するためにLDAPモジュールを使用することができます(下記の例11-7を参照)。このモジュールはLDAPツリーに対して単に読み込みアクセスを有しています。それは、担当者管理インターフェイス経由で利用者データを編集することができないことを意味します。

#### 例4.12 LDAPバックエンドに対する認証エージェント

```

# これはLDAP認証バックエンド用サンプル構成です。
# (Net::LDAPがインストール済であることを確認下さい。)
$Self->{'AuthModule'} = 'Kernel::System::Auth::LDAP';
$Self->{'AuthModule::LDAP::Host'} = 'ldap.example.com';
$Self->{'AuthModule::LDAP::BaseDN'} = 'dc=example,dc=com';
$Self->{'AuthModule::LDAP::UID'} = 'uid';

```

```

# ユーザがposixGroupで認証を許可されていることを確認します。
# (例えばユーザはOTRSを利用するグループ xyz に属する必要があります。)
$self->{'AuthModule::LDAP::GroupDN'} = 'cn=otrsallow,ou=posixGroups,dc=example,dc=com';
$self->{'AuthModule::LDAP::AccessAttr'} = 'memberUid';
# for ldap posixGroups objectclass (just uid)
# $self->{'AuthModule::LDAP::UserAttr'} = 'UID';
# for non ldap posixGroups objectclass (with full user dn)
# $self->{'AuthModule::LDAP::UserAttr'} = 'DN';

# 次は有効です。しかし 匿名ユーザがLDAPツリーから
# 読み込み許可を持たない場合のみ必要です。
$self->{'AuthModule::LDAP::SearchUserDN'} = '';
$self->{'AuthModule::LDAP::SearchUserPw'} = '';

# 常にあるフィルタを各LDAPクエリに追加したい場合このオプションを使います。
# たとえば AlwaysFilter => '(mail=*)' or AlwaysFilter => '(objectclass=user)'
$self->{'AuthModule::LDAP::AlwaysFilter'} = '';

# ログイン名の後に接頭辞を追加したければ、このオプションを使います。
# たとえばユーザがuserを使いたい、LDAPにuser@domainが存在する場合。
# $self->{'AuthModule::LDAP::UserSuffix'} = '@domain.com';

# Net::LDAP new params (if needed - for more info see perldoc Net::LDAP)
$self->{'AuthModule::LDAP::Params'} = {
    port => 389,
    timeout => 120,
    async => 0,
    version => 3,
};

```

スクリプトの中で下に示される構成パラメータは、ローカルのOTRSデータベースの中へのLDAPディレクトリーからの利用者データを同期させるために使用することができます。これは、LDAPサーバーにリクエストの数を減らし、OTRSでの認証の速度を向上させます。担当者が最初に認証する場合、データ同期は終わっています。ローカルのOTRSデータベースへデータを同期することができますが、LDAPディレクトリーは認証のための最後の実体（インスタンス）です、したがって、LDAPツリー内の活性化されていないユーザは認証することができません。アカウント・データがOTRSデータベースに既に保存されている場合さえ、LDAPディレクトリーの担当者データは、OTRSのウェブインターフェース経由で編集することができません。したがって、LDAPツリーにデータを直接管理しなければなりません。

```

# AuthModule用にAuthSyncBackend (AuthSyncModule)定義します。
# キーが存在しそれが空ならば、Syncにならないでしょう。
# サンプル値: AuthSyncBackend, AuthSyncBackend2
$self->{'AuthModule::UseSyncBackend'} = 'AuthSyncBackend';

# LDAPに対する担当者データ sync
$self->{'AuthSyncModule'} = 'Kernel::System::Auth::Sync::LDAP';
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::Host'} = 'ldap://ldap.example.com/';
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::BaseDN'} = 'dc=otrs, dc=org';
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::UID'} = 'uid';
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::SearchUserDN'} = 'uid=sys, ou=user, dc=otrs, dc=org';
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::SearchUserPw'} = 'some_pass';
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::UserSyncMap'} = {
    # DB -> LDAP
    UserFirstname => 'givenName',
    UserLastname  => 'sn',
    UserEmail     => 'mail',
};
[...];

# AuthSyncModule::LDAP::UserSyncInitialGroups
# (最初の担当者のログインの初期の作成後に、rw許可を持つsync followingグループ)
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::UserSyncInitialGroups'} = [
    'users',
];

```

スクリプト：OTRSデータベースの中へのLDAPディレクトリーからの利用者データを同期させること。

Alternatively, you can use LDAP groups to determine group memberships or roles in OTRS. For more information and examples, see Kernel/Config/Defaults.pm. Here is an example for synchronizing from LDAP into OTRS groups.

```
# Attributes needed for group syncs
# (attribute name for group value key)
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::AccessAttr'} = 'memberUid';
# (select the attribute for type of group content UID/DN for full ldap name)
# $self->{'AuthSyncModule::LDAP::UserAttr'} = 'UID';
# $self->{'AuthSyncModule::LDAP::UserAttr'} = 'DN';

AuthSyncModule::LDAP::UserSyncGroupsDefinition
# (If "LDAP" was selected for AuthModule and you want to sync LDAP
# groups to otrs groups, define the following.)
$self->{'AuthSyncModule::LDAP::UserSyncGroupsDefinition'} = {
  # your ldap group
  'cn=agent,o=otrs' => {
    # otrs group(s)
    'admin' => {
      # permission
      rw => 1,
      ro => 1,
    },
    'faq' => {
      rw => 0,
      ro => 1,
    },
  },
  'cn=agent2,o=otrs' => {
    'users' => {
      rw => 1,
      ro => 1,
    },
  },
};
```

### 5.3.1.3. 担当者のためのHTTPBasicAuth

すべての担当者のための「シングル・サインオン」解決を実行したければ、OTRSのためにHTTP基本認証(すべてのシステム用の)およびHTTPBasicAuthモジュールを使用することができます(下記の例11-8を参照)。

**例4.13 HTTPBasic**を使用して、担当者を認証します。

```
# これはapache ($ENV{REMOTE_USER})認証バックエンド用のサンプル構成です。
# apache http-basic-authのシングル・サインオンを持ちたいければそれを使います。
$self->{'AuthModule'} = 'Kernel::System::Auth::HTTPBasicAuth';

# Note:
#
# このモジュールを使うなら、代替手段として次の構成設定を使うべきです。
# (もしユーザがapache ($ENV{REMOTE_USER})として認証されていないならば)
$self->{'LoginURL'} = 'http://host.example.com/not-authorized-for-otrs.html';
$self->{'LogoutURL'} = 'http://host.example.com/thanks-for-using-otrs.html';
```

### 5.3.1.4. Radius

例11-9において示される構成パラメータは、Radiusサーバーに対する担当者を認証するために使用することができます。

**例4.14 Radius**バックエンドに対する担当者を認証します。

```
# これは、radiusサーバに対するauth. agentsへのサンプル構成です。
```

```
$Self->{'AuthModule'} = 'Kernel::System::Auth::Radius';
$Self->{'AuthModule::Radius::Host'} = 'radiushost';
$Self->{'AuthModule::Radius::Password'} = 'radiussecret';
```

## 5.3.2. 顧客のための認証バックエンド

### 5.3.2.1. データベース(デフォルト)

OTRSの中の顧客のための既定のユーザー認証バックエンドはOTRSデータベースです。このバックエンドで、顧客情報はすべて、OTRSのウェブインターフェース経由で編集することができます(下記の例11-10を参照)。

#### 例4.15 DBバックエンドに対する顧客ユーザ認証

```
# これはthe otrs dbに対する認証モジュールです。
$Self->{'Customer::AuthModule'} = 'Kernel::System::CustomerAuth::DB';
$Self->{'Customer::AuthModule::DB::Table'} = 'customer_user';
$Self->{'Customer::AuthModule::DB::CustomerKey'} = 'login';
$Self->{'Customer::AuthModule::DB::CustomerPassword'} = 'pw';
#$Self->{'Customer::AuthModule::DB::DSN'} =
  "DBI:mysql:database=customerdb;host=customerdbhost";
#$Self->{'Customer::AuthModule::DB::User'} = "some_user";
#$Self->{'Customer::AuthModule::DB::Password'} = "some_password";
```

### 5.3.2.2. LDAP

すべての顧客データを備えたLDAPディレクトリーを持っていれば、OTRSへの顧客を認証するためにLDAPモジュールを使用することができます(下記の例11-11を参照)。このモジュールがLDAPバックエンドに対して単に読み取り専用アクセスをしているので、OTRSウェブインターフェース経由で顧客情報を編集することはできません。

#### 例4.16 LDAPバックエンドに対する顧客ユーザ認証

```
# これはLDAP認証バックエンド用サンプル構成です。
# Net::LDAPがインストールされていることを確認下さい。 )
$Self->{'Customer::AuthModule'} = 'Kernel::System::CustomerAuth::LDAP';
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::Host'} = 'ldap.example.com';
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::BaseDN'} = 'dc=example,dc=com';
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::UID'} = 'uid';

# ユーザがposixGroupで認証することが可能かどうか確認します。
# (例えばユーザはOTRSを使うにはグループ xyzに属する必要があります。 )
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::GroupDN'} =
  'cn=otrsallow,ou=posixGroups,dc=example,dc=com';
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::AccessAttr'} = 'memberUid';
# for ldap posixGroups objectclass (just uid)
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::UserAttr'} = 'UID';
# for non ldap posixGroups objectclass (full user dn)
#$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::UserAttr'} = 'DN';

# 次は有効です。しかし 匿名ユーザがLDAPツリーから
# 読み込み許可を持たない場合のみ必要です。
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::SearchUserDN'} = '';
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::SearchUserPw'} = '';

# 常にあるフィルタを各LDAPクエリに追加したい場合このオプションを使います
# このオプションは例えば
# AlwaysFilter => '(mail=*)' or AlwaysFilter =>
  '(objectclass=user)'です。
$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::AlwaysFilter'} = '';

# ログイン名のに接頭辞を追加したければ、このオプションを使います。
# たとえばユーザがuserを使いたい、LDAPにuser@domainが存在する場合。
#$Self->{'Customer::AuthModule::LDAP::UserSuffix'} = '@domain.com';
```



```
# Net::LDAP new params (if needed - for more info see perldoc Net::LDAP)
$self->{'Customer::AuthModule::LDAP::Params'} = {
    port => 389,
    timeout => 120,
    async => 0,
    version => 3,
};
```

### 5.3.2.3. 顧客のためのHTTPBasicAuth

全顧客ユーザに「シングル・サイン・オン」ソリューションを実行したければ、HTTPBasic認証（あなたの全てのシステムに対して）を使い、そしてOTRSのHTTPBasicAuthモジュールを使う（OTRSでログインが必要なくなります）。下記の例11-12を参照してください。

#### 例4.17 HTTPBasicを備えた顧客ユーザ認証

```
# apache ($ENV{REMOTE_USER})認証バックエンド用のサンプル構成です。
# apache http-basic-authのシングル・サインオンを
# 持ちたければそれを使います。
$self->{'Customer::AuthModule'} = 'Kernel::System::CustomerAuth::HTTPBasicAuth';

# ノート:
# このモジュールを使うなら、代替手段として次の構成設定を使うべきです。
# もしユーザがapache ($ENV{REMOTE_USER})として認証されていないならば
$self->{'CustomerPanelLoginURL'} = 'http://host.example.com/not-authorized-for-otrs.html';
$self->{'CustomerPanelLogoutURL'} = 'http://host.example.com/thanks-for-using-otrs.html';
```

### 5.3.2.4. Radius

例11-13において示される設定はRadiusサーバーに対するあなたの顧客を認証するために使用することができます。

#### 例4.18 Radiusのバックエンドに対する顧客ユーザ認証

```
# これはRadiusサーバへの認証顧客へのサンプル構成です。
$self->{'Customer::AuthModule'} = 'Kernel::System::Auth::Radius';
$self->{'Customer::AuthModule::Radius::Host'} = 'radiushost';
$self->{'Customer::AuthModule::Radius::Password'} = 'radiussecret';
```

## 5.4. 顧客自己登録のカスタマイズ

新規顧客(customer.plパネルによってアクセス可能)のための自己登録をカスタマイズすることは可能です。新規の任意または必須フィールド（room番号、アドレスあるいは状態のような）を追加することができます。

次の例は、顧客のroom番号を格納するためには、この場合どのように顧客データベースの中であるが必須フィールドを指定することができるかを示します。

### 5.4.1. ウェブインターフェースのカスタマイズ

customer.plウェブインターフェースのroom番号用の新規フィールドを表示するために、このインターフェースのレイアウトの責任者である.dtlファイルを修正しなければなりません。80行目のまわりの新規フィールドを加えて、Kernel/Output/HTML/Standard/CustomerLogin.dtlファイルを編集してください。（下記のスクリプトを参照）。

```
[...]
<div class="NewLine">
  <label for="Room">[% Translate("Room{CustomerUser}") | html %]</label>
```

```

<input title="[% Translate("Room Number") | html %]" name="Room" type="text"
id="UserRoom" maxlength="50" />
</div>
[...]
```

スクリプト:ウェブインターフェースでの新規フィールドの表示

## 5.4.2. 顧客マッピング

次のステップで、顧客マッピングはroom番号への新規エントリーで拡張しなければなりません。変更がアップデート後に失われないことを確実にするためには、Kernel/Config.pmにKernel/Config/Defaults.pmからの「CustomerUser」設定を入れてください。スクリプト中で下に示されるように、MAP配列を変更して、新規room番号フィールドを追加してください。

```

# CustomerUser
# (顧客データベース・バックエンドと設定)
$self->{CustomerUser} = {
  Name => 'Database Backend',
  Module => 'Kernel::System::CustomerUser::DB',
  Params => {
    # 外部データベースを使いたければ、
    # 必須設定を追加する必要があります。
    DSN => 'DBI:odbc:yourdsn',
    Type => 'mssql', # only for ODBC connections
    DSN => 'DBI:mysql:database=customerdb;host=customerdbhost',
    User => '',
    Password => '',
    Table => 'customer_user',
  },
  # customer unique id
  CustomerKey => 'login',
  # customer #
  CustomerID => 'customer_id',
  CustomerValid => 'valid_id',
  CustomerUserListFields => ['first_name', 'last_name', 'email'],
  # CustomerUserListFields => ['login', 'first_name', 'last_name', 'customer_id', 'email'],
  CustomerUserSearchFields => ['login', 'last_name', 'customer_id'],
  CustomerUserSearchPrefix => '',
  CustomerUserSearchSuffix => '*',
  CustomerUserSearchListLimit => 250,
  CustomerUserPostMasterSearchFields => ['email'],
  CustomerUserNameFields => ['title', 'first_name', 'last_name'],
  CustomerUserEmailUniqCheck => 1,
  # # 顧客パネルで自身のチケットではなく顧客チケットを表示します。
  # CustomerUserExcludePrimaryCustomerID => 0,
  # # 自動ログインを生成します。
  # AutoLoginCreation => 0,
  # AutoLoginCreationPrefix => 'auto',
  # # 管理者は顧客の選択 (選好) を変更できます。
  # AdminSetPreferences => 1,
  # # キャッシュが生存する秒数 - キャッシュ・データベース必須
  # CacheTTL => 0,
  # # 読み込み専用のソース
  # ReadOnly => 1,
  Map => [

    # ノート: ログイン、Eメール、顧客IDは必要です!
    # 変数、フロントエンド、保存場所、表示(1=常時,2=軽度)、必須、
    # 保存タイプ、httpリンク、読み込み専用、httpリンク・ターゲット。
    [ 'UserTitle',      'Title',      'title',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserFirstname', 'Firstname', 'first_name', 1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserLastname',  'Lastname',  'last_name',  1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserLogin',     'Username',  'login',      1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserPassword',  'Password',  'pw',         0, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserEmail',     'Email',     'email',      1, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserCustomerID', 'CustomerID', 'customer_id', 0, 1, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserPhone',     'Phone',     'phone',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserFax',       'Fax',       'fax',        1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserMobile',    'Mobile',    'mobile',     1, 0, 'var', '', 0 ],
```

```

    [ 'UserRoom',      'Room',      'room',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserStreet',   'Street',    'street',    1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserZip',      'Zip',       'zip',       1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserCity',     'City',      'city',      1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserCountry',  'Country',   'country',   1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'UserComment',  'Comment',   'comments',  1, 0, 'var', '', 0 ],
    [ 'ValidID',      'Valid',     'valid_id',  0, 1, 'int', '', 0 ],
  ],
  # default selections
  Selections => {
    UserTitle => {
      'Mr.' => 'Mr.',
      'Mrs.' => 'Mrs.',
    },
  },
};

```

スクリプト: マッピング配列の変更

### 5.4.3. OTRS DBでcustomer\_userテーブルのカスタマイズ

最後のステップは、新しいroom番号カラムをOTRSデータベース中customer\_userテーブルに追加することです(下記のスクリプトを参照)。このカラムでは、room番号へのエントリーは格納されません。

```

linux:~# mysql -p
Enter password:
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 6 to server version: 5.0.18-Debian_7-log

Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the buffer.

mysql> use otrs;
Reading table information for completion of table and column names
You can turn off this feature to get a quicker startup with -A

Database changed
mysql> ALTER TABLE customer_user ADD room VARCHAR (200);
Query OK, 3 rows affected (0.01 sec)
Records: 3  Duplicates: 0  Warnings: 0

mysql> quit
Bye
linux:~#

```

スクリプト:新しいカラムをcustomer\_userテーブルに追加

room用の新規フィールドに入力されたら、顧客情報パネルに表示され、顧客・ユーザ管理画面にも表示されます。さらに、新しいアカウントを登録する場合、新しい顧客はroom番号を挿入しなければなりません。マイクロソフトのIISの上でOTRSを使用する場合、Config.pmの中で行われた変更を活性化するためにウェブサーバを再起動する必要があります。

## 6. チケット設定

### 6.1. チケットの状態

#### 6.1.1. 事前定義された状態

OTRSでは、事前定義されたチケット状態とタイプを変更または新規追加することができます。状態名と状態タイプという2つの属性が状態にとって重要です。

OTRSのデフォルト状態は以下の通りです。「完了(成功)」('closed\_successful')、「完了(不成功)」('closed\_unsuccessful')、「結合済」('merged')、「新規」('new')、「対応中」

('open')、「保留(自動完了+)」('pending auto close+')、「保留(自動完了-」('pending auto close-')、「保留(期限付)」('pending reminder')、「削除」('removed'.)。

#### 6.1.1.1. 「新規」(New)

チケットは、受信Eメールから作成された時、通常この状態です。

#### 6.1.1.2. 対応中(open)

これはキューと担当者に割り当てられたチケットのためのデフォルト状態です。

#### 6.1.1.3. 保留(期限付)

保留時間が終了すると、チケット所有者はチケットに関するリマインダーEメールを受信します。チケットがロックされていないければ、リマインダーはキュー中の全担当者へ送られます。リマインダーチケットは単に業務時間に送信され、チケット状態が担当者によって変更されるまで、24時間ごとに繰り返し送信されます。このステータスでのチケットによって費やされた時間は、さらにエスカレーション時間として追加計上されます。

#### 6.1.1.4. 保留(自動完了-)

保留時間が終了したらこの状態のチケットは「完了(不成功)」('closed unsuccessful')にセットされます。このステータスでのチケットによって費やされた時間は、さらにエスカレーション時間として追加計上されます。

#### 6.1.1.5. 保留(自動完了+)

保留時間が終了したらこの状態のチケットは「完了(成功)」('closed successful')にセットされます。この状態のチケットに費やされた時間は、さらにエスカレーション時間として追加計上されます。

#### 6.1.1.6. 結合済

これは他のチケットと結合されたチケットの状態です。

#### 6.1.1.7. 完了(成功)

これはうまく解決されたチケットの最終状態です。構成に依存しますが、一旦完了したチケットを再対応可能にも不可能にも構成可能です。

#### 6.1.1.8. 完了(不成功)

これは解決できなかったチケット用の最終状態です。構成に依存しますが、一旦完了したチケットを再対応可能にも不可能にも構成可能です。

### 6.1.2. 状態のカスタマイズ

すべての状態は名(状態名)およびタイプ(状態タイプ)を持っています。管理ページの状態リンクをクリックします。そして新規状態を作成する"状態追加"ボタンを押します。新しい状態の名前は自由に選択することができます。ウェブインターフェイス経由では状態タイプを変更することはできません。新規タイプを追加あるいは既存名を変更したい場合、データベース直接変更されなければいけません。概してデフォルトの状態タイプは変更すべきではありません。予測不能の結果を生むことがあるためです。例えば、エスカレーション計算とアンロック機能は特別な状態タイプに基いています。

既存の状態名は変更することができます。あるいは、新規状態はこの画面から追加されます。「新規」状態が、ウェブインターフェイス経由で変更されたなら、この変更も、構成ファイル Kernel/Config.pmまたはSysConfigインターフェイス経由で構成変更されねばなりません。以

下のスクリプトで指定された設定は、「新規」に変更された状態で、OTRSが確実に稼働するように変更されなければなりません。

```
[...]
# PostmasterDefaultState
# (新規チケットのデフォルト状態) [default: new]
$self->{PostmasterDefaultState} = 'new';

# CustomerDefaultState
# (新規顧客チケットのデフォルト状態)
$self->{CustomerDefaultState} = 'new';
[...]
```

スクリプト:Kernel/Config.pmの設定修正

万一新規状態タイプが加えられるならば、OTRSデータベースにあるthe ticket\_state\_typeテーブルは、下記のスクリプトで表示されるように、データベース・クライアント・プログラムで変更される必要があります。

```
linux:~# mysql -p
Enter password:
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 23 to server version: 5.0.16-Debian_1-log

Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the buffer.

mysql> use otrs;
Reading table information for completion of table and column names
You can turn off this feature to get a quicker startup with -A

Database changed
mysql> insert into ticket_state_type (name,comments) values ('own','Own
state type');
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)

mysql> quit
Bye
linux:~#
```

スクリプト:OTRSデータベースの修正

あなたが今作成した新規状態タイプを使用することは可能である。状態がこの新規状態タイプとリンクされた後、OTRS構成も、さらに新規状態が使用可能であることを確実にするために変更されなければならない。SysConfigにて次のオプションを修正してください:

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew > AgentTicketPhone###StateDefault - to define the default next state for new phone tickets.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew > AgentTicketPhone###StateType - to define the available next states for new phone tickets.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew > AgentTicketEmail###StateDefault - to define the default next state for new email tickets.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew > AgentTicketEmail###StateType - to define the available next states for new email tickets.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound > AgentTicketPhoneOutbound###State - to define the default next state for new phone articles.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound > AgentTicketPhoneOutbound###StateType - to define the available next states for new phone articles.

---

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewMove > AgentTicketMove###State - to define the default next state for moving a ticket.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewMove > AgentTicketMove###StateType - to define the available next states for moving a ticket.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce > StateDefault - to define the default next state after bouncing a ticket.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce > StateType - to define the available next states in the bounce screen.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk > StateDefault - to define the default next state in a bulk action.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk > StateType - to define the available next states in the bulk action screen.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewClose > StateDefault - to define the default next state after closing a ticket.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewClose > StateType - to define the available next states in the close screen.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose > StateDefault - to define the default next state in the Compose (reply) screen.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose > StateType - to define the available next states in the Compose (reply) screen.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewForward > StateDefault - to define the default next state after forwarding a ticket.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewForward > StateType - to define the available next states in the Forward screen.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewForward > StateDefault - to define the default next state of a ticket in the free text screen.

Ticket -> Frontend::Agent::Ticket::ViewForward > StateType - to define the available next states in the free text screen.

Ticket -> Core::PostMaster > PostmasterDefaultState - to define the state of tickets created from emails.

Ticket -> Core::PostMaster > PostmasterFollowUpState - to define the state of tickets after a follow-up has been received.

Ticket -> Core::PostMaster > PostmasterFollowUpStateClosed - to define the state of tickets after a follow-up has been received on an already closed ticket.

Ticket -> Core::Ticket > ViewableStateType - to define the state types that are displayed at various places in the system, for example in the Queueview.

Ticket -> Core::Ticket > UnlockStateType - to define the state types for unlocked tickets.

Ticket -> Core::Ticket > PendingReminderStateType - to define the state type for reminder tickets.

Ticket -> Core::Ticket > PendingAutoStateType - to define the state type for Pending Auto tickets.

Ticket -> Core::Ticket > StateAfterPending - to define the state a ticket is set to after the Pending Auto timer of the configured state has expired.

## 6.2. チケット・プロパティ

OTRSには、5つのデフォルトの優先度レベルが付属しています。それは、管理者ページにある「プロパティ」"Priorities"

経由で変更可能です。カスタマイズされた優先度リストを作成する場合、ユーザ・インターフェース中の優先度選択箱の中でそれらがアルファベット順にソートされると心に留めておいてください。さらに、OTRSはQueueViewの中の内部データベースIDによってチケットを順序づけします。

### 注記

他のOTRS実体でそうであるように、優先度は、削除できないかもしれませんが、有効オプションを無効または無効-暫定にする設定によって、単に非活性化されるかもしれません。

### 重要

新規優先度が加えられた場合、あるいは既存のものが変更された場合、SysConfigの中のいくつかの値を修正したいと思うかもしれません:

- Ticket:Core::Postmaster::PostmasterDefaultPriority - defines the default priority for all incoming emails.
- Ticket:Frontend::Agent:Ticket::ViewPhoneNew:Priority - defines the default priority in the New Phone Ticket screen for agents.
- Ticket:Frontend::Agent:Ticket::ViewEmailNew:Priority - defines the default priority in the New Email Ticket screen for agents.
- Ticket:Frontend::Customer:Ticket::ViewNew:PriorityDefault - defines the default priority in the New Ticket screen in the Customer frontend.

## 6.3. チケット責任者とチケットの監視

OTRS 2.1からチケットの所有者に加えて、1チケットに対して1名の責任者を割り当てるのが可能です。さらに、チケットと関係のある全ての活動はチケットの所有者以外の誰かに見られるようにできます。これらの2つの機能性は、チケット責任者 (TicketResponsible) とチケット監視者 (TicketWatcher) としてインプリメントされ、タスクの割り当ておよび階層的チーム構造内に働くことを手助けします。

### 6.3.1. チケット責任者

チケット責任者の機能は、チケット所有者以外に担当者によってチケットの完全な処理を手助けします。したがってチケットをロックした担当者はそれをもう一人の担当者に渡すことができます。渡された担当者はチケットの所有者ではなく、顧客依頼に対する第二の返答者となります。依頼が取り扱われた後、最初の担当者は第2の担当者からチケット責任を譲り受けできます。

With the configuration parameter Ticket::Responsible, the ticket responsibility feature can be activated. This will cause 3 new links to appear in the ticket activities menu of a zoomed ticket in the agent interface.

チケット責任者は、チケット内容呼び出して割り当てることができます。そしてチケット活動メニュー「責任者」リンク (担当者インターフェイスにあるズームチケットにある) をクリックします。(下図参照)

**Ticket#2010080210123456 – Welcome to OTRS!**

Back | Lock | History | Print | Priority | Free Fields | Link | Owner | Responsible | Customer | Note | Phone Call Outbound | Phone Call Inbound | E-Mail Outbound | Merge | Pending | Close | - Move -

▼ Article Overview - 1 Article(s)

☆	NO.	TYPE	FROM	SUBJECT	CREATED
	1	customer – email-external	OTRS Feedback	Welcome to OTRS!	08/02/2010 14:00

▼ Article #1 – Welcome to OTRS! Created: 08/02/2010 14:00

Print | Split | Bounce | Forward | - Reply -

From: OTRS Feedback  
 To: Your OTRS System  
 Subject: Welcome to OTRS!

Welcome!  
 Thank you for installing OTRS.

▼ Ticket Information

Age: 1582 d 17 h  
 Created: 08/02/2010 14:00  
 State: new  
 Locked: unlock  
 Priority: 3 normal  
 Queue: Raw  
 CustomerID:  
 Accounted time: 0  
 Owner: Admin OTRS  
 Responsible: Admin OTRS

▼ Customer Information  
 none

▼ Linked Objects  
 none

図:ズーム・ビューでのチケット責任者の変更

「責任者」をクリックしたのちに、チケットの責任者変更ダイアログのポップアップが開きます。(下図参照)このダイアログは新規責任者の担当者へメッセージを送信するために使用することもできます。

**Change Responsible of Ticket: 2010080210123456 - Welcome to OTRS!**

All fields marked with an asterisk (\*) are mandatory.

Cancel & close window








▼ Ticket Settings




★ Title: Welcome to OTRS!  
 Responsible: Marc Bonsels

▼ Add Article

★ Subject: Responsible Update!

★ Text:

**B I U S** |  |  |  |  |  |  | 

Format - Font - Size - A -  -  -  | Source Ω ↻ ↺

Please take care of this ticket.

Greetings,

Attachment: Browse... No file selected.

図：チケット責任者を変更するポップアップ・ダイアログ

チケット責任者機能が活性化されるとすぐに、担当者が責任を負う全チケットのリストは、OTRS担当者インターフェイスの責任者ビューを通してアクセスできます。

### 6.3.2. チケットの監視

OTRS2.1から 「チケット監視」機能を使えば

スーパーバイザのような担当者を選ぶことにより、システム内の特定のチケットを処理することなく監視することができます。

The TicketWatcher feature can be activated with the configuration parameter Ticket::Watcher which adds new links to your actions toolbar. Using Ticket::WatcherGroup, one or more user groups with permission to watch tickets can also be defined.



チケットを見るためには、ズーム・ビューに行って、チケット活動メニュー中の「購読」リンクをクリックしてください(下記の図を参照)。

**Ticket#2010080210123456 -- Welcome to OTRS!**

Back | Lock | History | Print | Priority | Free Fields | Link | Owner | Responsible | Customer | Note | Phone Call Outbound | Phone Call Inbound | E-Mail Outbound | Merge | Pending | **Watch** | Close | - Move -

▼ Article Overview - 1 Article(s)

☆	NO.	TYPE	≡	FROM	SUBJECT	CREATED
	1	customer - email-external	+	OTRS Feedback	Welcome to OTRS!	08/02/2010 14:00

▼ Article #1 - Welcome to OTRS! Created: 08/02/2010 14:00

Print | Split | Bounce | Forward | - Reply -

From: OTRS Feedback  
 To: Your OTRS System  
 Subject: Welcome to OTRS!

Welcome!  
 Thank you for installing OTRS.

▼ Ticket Information

Age: 1582 d 17 h  
 Created: 08/02/2010 14:00  
 State: new  
 Locked: unlock  
 Priority: 3 normal  
 Queue: Raw  
 CustomerID:  
 Accounted time: 0  
 Owner: Admin OTRS  
 Responsible: Admin OTRS

▼ Customer Information

none

▼ Linked Objects

none

図:ズーム・ビューでチケットを監視するために購読する

もう特定のチケットを見たくない場合は、ズーム・ビューへ行き、チケット活動メニュー中の「購読しない」リンクをクリックします(下記の図を参照)。

**Ticket#2010080210123456 -- Welcome to OTRS!**

Back | Lock | History | Print | Priority | Free Fields | Link | Owner | Responsible | Customer | Note | Phone Call Outbound | Phone Call Inbound | E-Mail Outbound | Merge | Pending | **Unwatch** | Close | - Move -

▼ Article Overview - 1 Article(s)

☆	NO.	TYPE	≡	FROM	SUBJECT	CREATED
	1	customer - email-external	+	OTRS Feedback	Welcome to OTRS!	08/02/2010 14:00

▼ Article #1 - Welcome to OTRS! Created: 08/02/2010 14:00

Print | Split | Bounce | Forward | - Reply -

From: OTRS Feedback  
 To: Your OTRS System  
 Subject: Welcome to OTRS!

Welcome!  
 Thank you for installing OTRS.

▼ Ticket Information

Age: 1582 d 17 h  
 Created: 08/02/2010 14:00  
 State: new  
 Locked: unlock  
 Priority: 3 normal  
 Queue: Raw  
 CustomerID:  
 Accounted time: 0  
 Owner: Admin OTRS  
 Responsible: Admin OTRS

▼ Customer Information

none

▼ Linked Objects

none

図:ズーム・ビューでチケットの監視の登録解除

監視中のすべてのチケットのリストは、チケット監視者機能が活性化されるとすぐに、OTRS担当者インターフェイス(下図参照)の監視ビュー経由でアクセス可能になりました

**My Watched Tickets: All**

All 1 | New Article 0 | Pending 0 | Reminder Reached 0

Bulk | 1-1 of 1 | S M L

<input type="checkbox"/>	TICKET#	▲AGE	FROM / SUBJECT	STATE	LOCK	QUEUE	OWNER	CUSTOMERID
<input type="checkbox"/>	2010080210123456	1582 d 17 h	OTRS Feedback Welcome to OTRS!	new	unlock	Raw	Admin OTRS	

図:監視チケットビュー

## 7. 時間関連機能

### 7.1. 業務時間、祝祭日とタイムゾーンの設定

Some functions in OTRS, like escalations and automatic unlocking of tickets, depend on a proper configuration of business hours, time zones and holidays. You can define these via the SysConfig interface, in Framework > Core::Time. You can also specify different sets of business hours, holidays and time zones as separate 'Calendars' in Framework > Core::Time::Calendar1 through Framework > Core::Time::Calendar9. Calendars can be defined by queue settings, or on SLA levels. This means that, for example, you can specify a calendar with 5 x 8 business hours for your 'standard' SLA, but create a separate calendar with 7 x 24 support for your 'gold' SLA; as well as set a calendar for your 'Support-USA' queue with a different time window than your 'Support-Japan' queue. OTRS can handle up to 99 different calendars.

#### 7.1.1. 業務時間

Set up the working hours for your system in SysConfig Framework > Core::Time::TimeWorkingHours, or for your specific calendar in the calendar's configuration. OTRS can handle a granularity of one hour. Checking the marks in the boxes 8, 9, 10 ... 17 corresponds with business hours of 8 AM - 6 PM.

業務時間内のみエスカレーション・チケットを作成することができます。エスカレーションの通知や送信された保留チケットロックされていないチケットも同様です。

#### 7.1.2. 固定の期日、祝祭日

Holidays that are on a fixed date every year, such as New Year's Day or the Fourth of July, can be specified in TimeVacationDays, or in the corresponding section for the calendars 1-9.

チケットはエスカレーションしませんした、TimeVacationDaysに定義された日付にアンロックされません。

##### 注記

OTRS出荷のデフォルトでドイツの祝祭日をインストールしています。

#### 7.1.3. TimeVacationDaysOneTime

Holidays such as Easter that do not have a yearly fixed date but instead vary each year, can be specified in TimeVacationDaysOneTime.

チケットはエスカレーションしませんした、TimeVacationDaysに定義された日付にアンロックされません。

##### 注記

OTRSは、一度だけの休日をつけて出荷しません。イースターまたは感謝祭のような休日はOTRSを構成する際にご自身でシステムに追加して下さい。

### 7.2. 自動アンロック

ロックされたチケットは、システムによって自動的に対応中にするすることができます。この機能はこんな場合に有用でしょう。例えば、担当者が処理される必要のあるチケットをロックしているが、彼が何らかの理由でそれらを処理できなければ、「彼は今緊急の用事のためオフィスの外にいます」ということができます。自動アンロック機能は、ロックされたチケットがないことが忘れられないことを確実にするために与えられた時間の後でチケットをアンロックします。

チケットが対応中にされる前の時間の量は、すべてのキューのためのキュー設定の中で指定することができます。モジュール `bin/otrs.UnlockTickets.pl` (cronジョブとして周期的に実行される)は、チケットの自動アンロックします。アンロック中のチケットに関する通知は以下の担当者のみ送信されます。

「マイ・キュー」にあるアンロックされたチケット・セットを持つキューを持っている担当者。個人的選択 (選好) のアンロック・チケットに関する通知を活性化した担当者。

次の条件がすべて満たされれば、チケットはアンロックされます:

- チケットがあるキューのために定義されたアンロック・タイムアウトがあります。
- チケットはロック済みにセットされています。
- チケットの状態は対応中です。

アンロック・タイマーは担当者がチケットに新しい外部記事を追加すればリセットされます。それは次のタイプのうちのいずれかでしょう。: 外部Eメール、電話、ファックス、*sms*あるいは外部ノート。

さらに、チケット中の最後の記事が担当者によって作成され、顧客が別のものを加えれば、ウェブあるいはEメール応答のいずれかによって、アンロック・タイマーはリセットされるでしょう。

アンロック・タイマーをリセットする最後のイベントは、チケットがもう一人の担当者にいつ割り当てられるかです。

## 8. PDF出力のカスタマイズ

このセクションは、OTRSの中のPDF出力に対する構成可能なオプションを扱います。

If you use the Print action from anywhere within the OTRS interface, it will generate a formatted PDF file. You can deactivate this by modifying the configuration parameter PDF to create HTML output instead.

You can adjust the look of the files generated by OTRS by creating your own logo and adding it to `PDF::LogoFile`. You can use `PDF::PageSize` to define the standard page size of the generated pdf file (DIN-A4 or Letter), and also `PDF::MaxPage` to specify the maximum number of pages for a pdf file, which is useful if a user generates a huge output file by mistake.

Perl CPANモジュール`PDF::API2`および`Compress::Zlib`はpdfファイルの生成のためにインストールされなければいけません。多くのディストリビューションでは、それらはパッケージとして利用可能で、それぞれのパッケージ・マネージャーを使用して、容易にインストールすることができます。これが可能ではなかった場合、CPANでそれらをインストールしなければならない。Perlモジュールのインストールに関するさらに詳しい情報に関しては、"Perlモジュールの設置"セクションを参照してください。

## 9. 統計モジュール ( Stats module )

OTRS統計モジュールは、運用上の統計を追跡するための機能を保持し、OTRS使用量に関連したカスタムレポートを生成します。OTRSシステムは、様々な指標を示すレポートに言及するために用語「stat」を属に関して使用します。

OTRS統計モジュールの適切な構成は多くの必要条件および考察に関連しています。これらは以下を含んでいます。様々な評価すべきOTRSモジュール、ユーザ許可設定、計算指標とそれらの複雑さのレベル、統計モジュールの構成の簡易化・軽減、計算の高速化・効率化、豊富な出力セットのサポート。

統計要素(つまり特定の必要条件用の統計モジュールの機能性を補足するファイル)は、複雑な統計の計算のために統合することができます。

## 9.1. 担当者によるモジュールの取り扱い

担当者として署名すると、図中のように、ナビゲーション・バーは、様々なサブメニュー・オプションと共に、リンク「統計」を表示します。

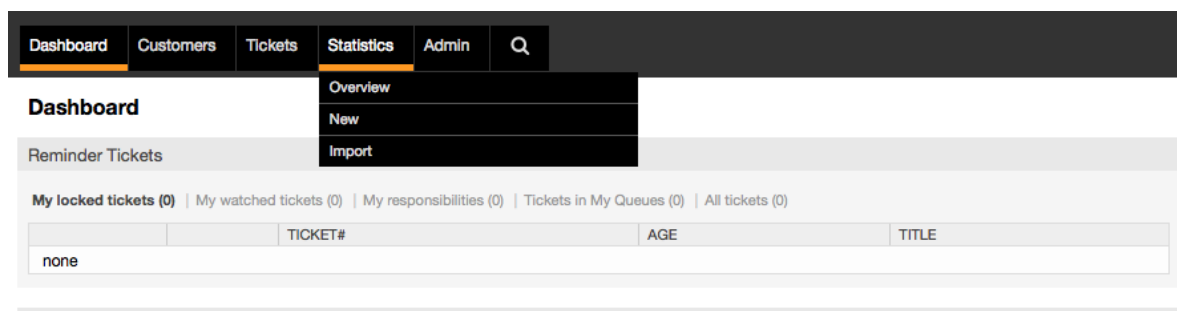


図:統計メニュー・オプション

統計メニューの中で提供される異なるオプションは次のとおりである:

- 概要。異なる事前構成されたレポートのリストを示します。
- 新規。rw権限を必要とします。
- インポート。rw権限を必要とします。

### 9.1.1. 概要

ナビゲーション・バー中の「統計」リンクと、サブメニュー・リンクの「概要」を選択することで、概要画面を呼び出します。概要画面は、全ての事前定義された担当者が利用可能なレポートをのリストを表します(下記の図を参照)。

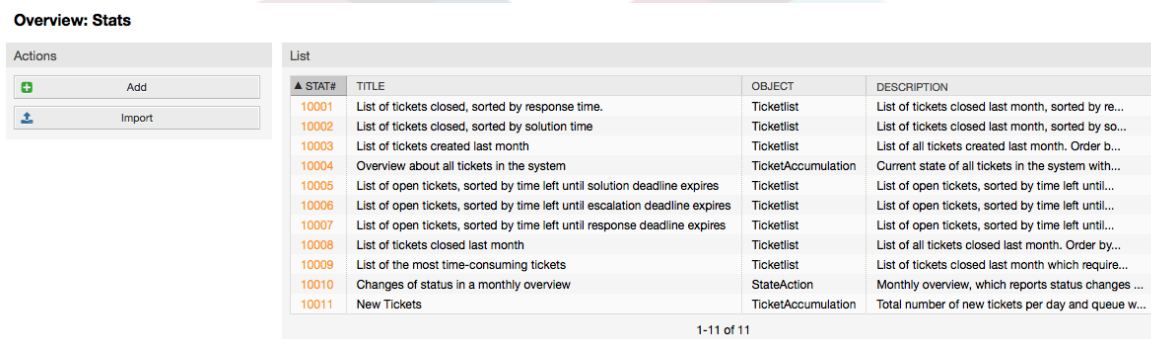


図:標準レポートの概要

次の情報が概要にリストされたそれぞれの標準レポートのために提供される:

- Stat#. ユニークなレポート番号。
- Title. レポートのタイトル。
- オブジェクト。オブジェクトは統計生成するために使用します。静的統計の場合には、動的オブジェクトがその生成に使用されないとともに、オブジェクトは表示されません。
- 摘要: レポートの簡潔な記述。

統計モジュールがインストールされている場合、それはシステムへインポートされた少数のサンプルのレポートでプレインストールされたようになる。これらは概要ページのリストとして示されま。概要リストが単一のページを越えるものまで及ぶ場合、担当者は異なるページをブラウズすることができます。レポートのリストは、リスト中の希望のカラム・ヘッダーのクリックすることで、好みに応じてソートすることができます。特別のレポートを生成するためには、概要リスト中

でレポートに関連したstat番号をクリックしてください。これによりレポート用の「ビュー」インターフェイスが表示されます。

## 9.1.2. レポートの生成と閲覧

ビュー・ユーザ・インターフェイスはstatの構成設定を提供します(下記の図を参照)。

**View: Stat# 10001**

**Actions**

Go to overview

Edit

Delete

Export config

---

**Hint**

With the input and select fields you can influence the format and contents of the statistic. Exactly what fields and formats you can influence is defined by the statistic administrator.

**Stat Details**

Stat#: 10001

Title: List of tickets closed, sorted by response time.

Object: Ticketlist

Description: List of tickets closed last month, sorted by response time.

NOTE: Please check the output and configuration of the statistics carefully to make sure that it produces the results you expect. If necessary, change the configuration before using the statistics in a production environment.

Format:  CSV  PDF

Sum rows: No

Sum columns: No

Cache: No

Show as dashboard widget: No

Validity: valid

図:特定のレポートのビュー

特定のレポート用構成設定は

ビュー画面の中のオプションの範囲の中で設定できます。レポート製作者あるいは適切な許可を持つ他の誰でも、設定を作ることができます。

下記参照:

- 可能なアクション:
  - 概要に行ってください。レポートの概要リストにリンクしてください。
  - 編集。現在のレポート構造(必要なrw権)を編集してください。)
  - 削除。現在のレポート(要求されるrw権)を削除してください。
  - 構成のエクスポート。ファイル・ダウンロード(必要なrw権)によって、レポート構成をエクスポートしてください。

使用法:エクスポート・インポート機能で、テストシステム上でのレポートのテストと作成が便利になります。そしてそれに続く生産システムへの統合を容易にします。
- レポート詳細:
  - Stat#。レポートの数。
  - Title。レポートのタイトル。
  - オブジェクト。レポートの生成のために使用されたオブジェクト。
  - 摘要。レポートの目的を記載するための摘要。
  - フォーマット。構成に依存しますが、次いずれかの出力フォーマットによるレポート出力フォーマット:
    - CSV。
    - 印刷。

- グラフ・線。
- グラフ・棒。
- グラフ・横棒。
- グラフ・点。
- グラフ・点—線。
- グラフ・エリア。
- グラフ・パイ。
- グラフ化。グラフィック/図表用ピクセルでのサイズ。レポート構成が図表を許可する場合のみ、このオプションが与えられます。一般に使用可能なグラフィックのサイズはすべて SysConfig 中の OTRS 管理者によって構成されます。レポートを構成する一方で、担当者はあらかじめ適切なフォーマットをすべて選択することができます。
- 行の合計。レポートが、列(複数のセルが各行の合計を表している)によって修正されるかどうかを示します。
- 列の合計。レポートが、行(複数のセルが各列の合計を表している)によって修正されるかどうかを示します。
- キャッシュ。生成されたレポートがファイルシステムにキャッシュされるかどうかを示します。
- 有効。どんな理由でもレポートを一時的に実行してはならない場合これは「無効」にセットすることができます。そうすると、パネルの右側底部にある「スタート」ボタンは、もはや表示されません。そのレポートはもはや生成することができません。
- 作成済。レポートの生成時間。
- 作成済。レポートを作成した担当者の名前。
- 変更済。レポートが最後に修正された時刻による。
- 変更済。レポートを最後に変更した担当者の名前による。
- X軸。この機能を使用すると、担当者はxとyの軸(OTRS管理者によって活性化された時だけ)を切り替えることができます。
- レポート自体に関する情報は一般情報に続きます。2つの異なるレポート(あるいはstat)ビューがあります:
  - 静的stat・ビュー。静的レポート生成者は、統計モジュールへ統合することができます(下記の図を参照)。

Stat Details

Stat#: 10002

Title: List of tickets closed, sorted by solution time

Object: Ticketlist

Description: List of tickets closed last month, sorted by solution time.

NOTE: Please check the output and configuration of the statistics carefully to make sure that it produces the results you expect. If necessary, change the configuration before using the statistics in a production environment.

Format:

Sum rows: No

Sum columns: No

Cache: No

Show as dashboard widget: No

Validity: valid

Created: 11/27/2014 19:05:06

Created by: Admin OTRS

Changed: 11/27/2014 19:05:06

Changed by: Admin OTRS

X-axis

Attributes to be printed	Number
Ticket#	
Age	

#### 図:静的レポートのビュー

- 動的統計(stat)ビュー(上記の図を参照)。それらは2つの異なる方法で表示することができる:
  - 不変の設定。レポートの作成者は、このフィールドを変更する許可を持っていません。
  - 可変の設定。そのようなレポートの構成設定は担当者によって変更することができます。

「スタート」ボタン(画面の底の)を押すことは、レポートを生成する最後のステップです。これら二つのボタンが表示されない理由の可能性は二つあります。:

1. そのレポートは無効にセットされ、それゆえ非活性化されます。
2. そのレポートはクリーンに構成されなかったため、まだ実行可能ではありません。この場合、必要な情報はOTRS通知セクション(ナビゲーション・バーより下の)で見つけることができます。

ビューページのセッティングが正しくない場合、「スタート」ボタンが押された後、このページは再び示されます。また、どの入力为正しくなかったかに関する情報は通知セクションの中で提供されます。

### 9.1.3. 編集/新規

書き込み権を持った担当者は、統計モジュールの編集ユーザ・インターフェースを呼び出すことにより、既存のレポート構成を編集することができます。一方、彼らは新規レポート作成できます。関連する画面に、次の方法で到達することができます:

1. 編集:統計ビュー中の「編集」ボタン経由
2. 新規:ナビゲーション・バーからの統計メニュー中の「新規」リンク、あるいは概要ページからの「追加」ボタン経由。

統計は4ステップのウィザードで編集されます:

1. 一般的な仕様
2. X軸のための要素の定義
3. 値系列の仕様
4. レポートを制限する(limit)ために制限(Restrictions)を選択

ステップ2から4は、動的統計を備えたレポートの生成にのみ必要とされます。静的統計のために単に一般情報(point 1)が必要です。

ページを扱う方法に関する情報はヒント・パネル中のアクション・パネル以下にこれらの画面の各々の上で提供されます。

正しくない入力が入力される場合、以前に処理されたユーザ・インターフェースは再び表示れ、それから正しくない入力に関する情報が表示されます。この情報はOTRS通知セクションで見つけることができます。現在の形式が正確に記入された後のみ、次の入力ユーザ・インターフェースが表示されます。

1. 一般的な仕様。それは編集ウィザードの最初のページです(下記の図を参照)。

Edit: Stat# 10001

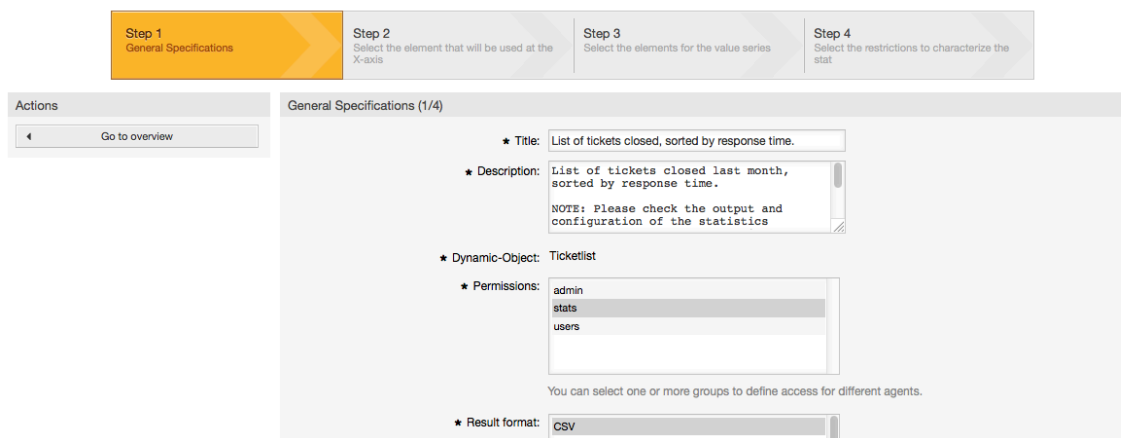


図:レポートの一般的な仕様の編集

図示した画面中で、編集することができる多くの共通の仕様および設定があります:

- タイトル。簡潔なやり方でstatの目的を反映するべきです。
- 摘要。レポート定義、構成パラメータのタイプ等より多くの説明を含む情報。
- 動的オブジェクト。OTRSインストレーションが様々な動的オブジェクトを提供する場合、それらのうちの1つを選ぶことができます。オブジェクトは、特定のモジュールの必要条件を満たします。
- 静的ファイル。通常はこの選択は表示されません。なぜならどのレポートにもまだ割り当てられていない単なる静的ファイルは  
 まだ表示されないからです。しかしながら、「静的ファイル」が表示される場合、オプション・フィールドにチェックマークを付けて、生成モード(動的オブジェクトまたはファイル付の静的オブジェクトで動的)を選択することは重要です。静的ファイルが選択されている場合、入力ユーザ・インターフェイス2から4は表示されません。静的ファイルはすべての必須の構成設定を含んでいないためです。
- 許可設定。グループ(担当者も)の制限を緩和して下さい。その担当者が事前定義のレポートを後で閲覧し生成できるように。このように様々なレポートを、それらを必要とする異なる部署やワークグループに割り付けることができます。



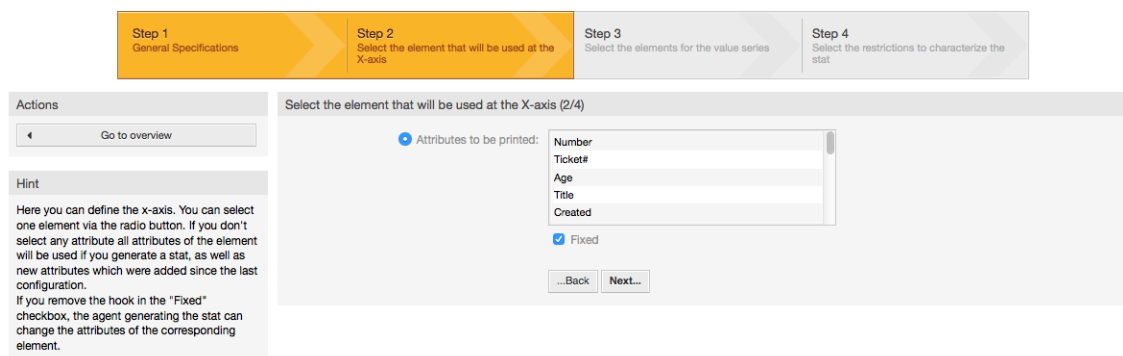
例1:「統計」グループが選択されました。少なくとも「統計」グループのためのro権を持っているすべてのユーザは、そのレポートを見ることができます。この権限はデフォルトで利用可能です。

例2:「販売」という名のグループが選択されました。「販売」グループのためのro権を持ったユーザは、みなビュー・モードでstatを見て、それを生成することができます。しかしながら、そのレポートは他のユーザよっとビューできません。

- フォーマット。statの出力フォーマット:構成に依存しますが、ひとつのまたは複数の次のフォーマットを選択可能です。
    - CSV。
    - 印刷。
    - グラフ・線
    - グラフ・棒
    - グラフ・横棒
    - グラフ・点
    - グラフ・点。線
    - グラフ・エリア
    - グラフ・パイ
  - グラフ化。ピクセル中の図表サイズを選択します。グラフ式の出力フォーマットが「フォーマット」の下で選ばれている場合のみ、この選択は必要です。一般に使用することができるグラフィックのサイズはすべてSysConfigにOTRS管理者によって定義されています。レポートを構成する場合、担当者はあらかじめ適切なフォーマットをすべて選択することができます。
  - 行の合計。レポートが列(複数のセルが各行の合計を含んでいる)によって修正されるかどうかを示します。
  - 列の合計。レポートが行(複数のセルが各列の合計を含んでいる)によって修正されるかどうかを示します。
  - キャッシュ。生成されたレポートがファイルシステムでキャッシュとして保持されるべきかどうかを特定します。レポートが再び呼び出される場合、これは計算能力と時間を節約します。しかし、レポートの内容に変化がない場合、節約になるわけではありません。
- レポートが時間指示値を含んでいない場合、あるいは時間指示値が将来を指す場合、自動的にキャッシングは防止されます。
- キャッシュされたレポートが編集される場合、キャッシュされたデータはすべて削除されます。
- 有効。どんな理由でも事前構成されたレポートを一時的に実行してはならない場合、これは「無効」にセットすることができます。その後、右側パネル最下部の「スタート」ボタンは、もはや表示されません。そのレポートはもはや生成することができません。

2. X軸のための要素の定義。それは、X軸の描写に使用された要素、あるいはX軸に適用されたコラム名の(テーブルが使用される場合)構成です(図を参照)。

Edit: Stat# 10001



### 図: X軸のための要素の定義

第一に、要素はオプション・フィールドを使用して選択されています。その後、要素の2つ以上の属性が選択されなければいけません。属性が選択されていない場合、属性はすべてレポートの構成の後に加えられたものを含めて使用されます。

「固定の」セッティングが無効になる場合、レポートを生成する担当者は「ビュー」ユーザ・インターフェース中のそれぞれの要素の属性を変更することができます。

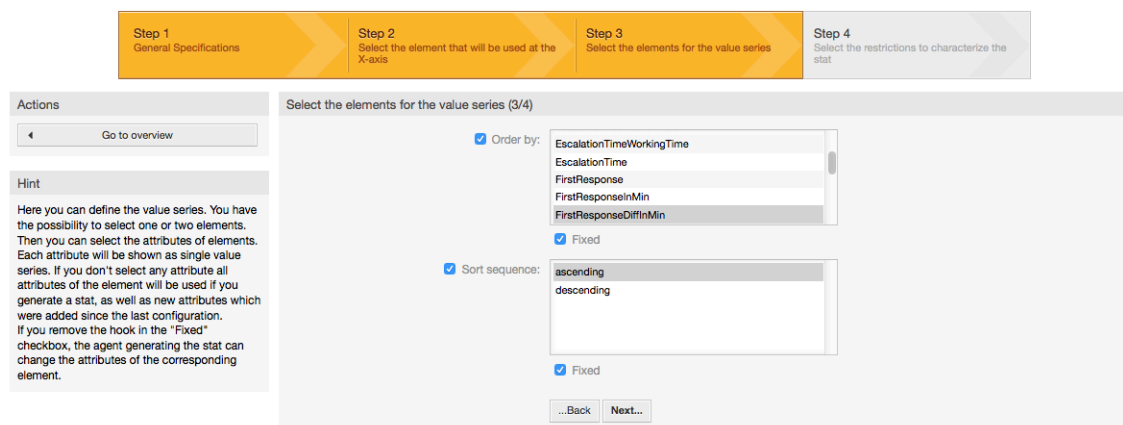
期間と規模を述べなければならないとともに、時間的要因は異なります。要素のタイプおよび数は使用された動的オブジェクトに起因し、それに依存して変わります。

入力がすべて正確な場合、「次」ボタンは「値系列」フォームに向かいます。さらに、初めのセクションの編集に戻ることも可能です。

### 3. 値系列の仕様

レポート構成の3番目のステップで、値系列は定義されます(下記の図を参照)。それらは、後で表のビュー内で個別のグラフあるいは様々なシリーズを形成するでしょう。

Edit: Stat# 10001



### 図:値系列の定義

要素が選択されていれば、選ばれた属性はそれぞれ値系列に対応するでしょう(下記の例19-1を参照)。

### 例4.19 値系列の定義 - 1つの要素

要素キュー:

- 値系列 1 = 未対応
- 値系列 2 = ジャンク
- ....

2つの要素が選択されている場合、最初の要素の選択された属性はそれぞれ、値系列を形成する第2の要素の属性と結合します(下記の例19-2を参照)。

#### 例4.20 値系列の定義 - 2つの要素

要素1 キュー、要素2 ステータス:

- Value chain 1 = 未対応 - 未完了
- Value series 2 = 未対応 - 完了 (成功)
- Value series 3 = ジャンク - 未完了
- Value series 4 = ジャンク - 完了 (成功)

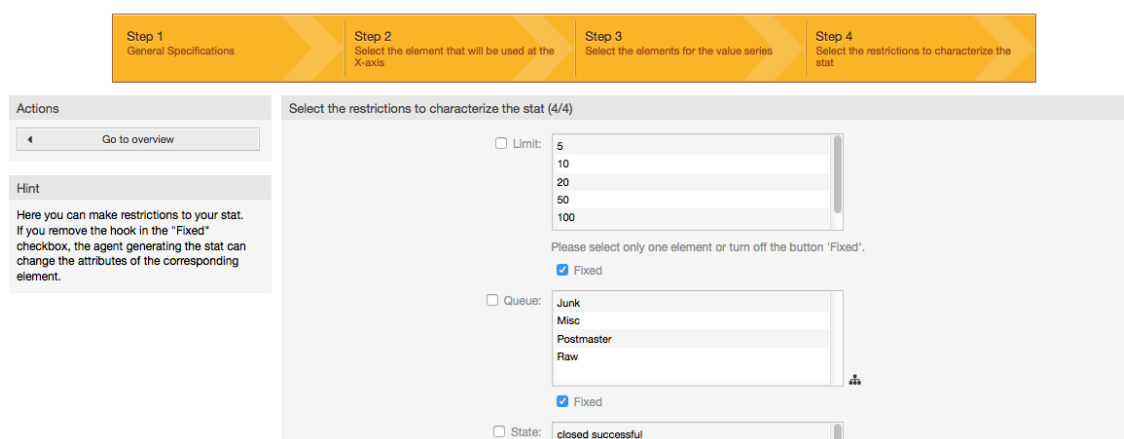
3つ以上の要素の選択は許可されません。

さらに、同じ条件は、「X軸」選択に関してと同様に、属性および「固定の」チェックボックスの選択に当てはまります:

- 要素の属性が選択されていない場合、属性はすべてレポートの構成の後に加えられたものを含めて使用されます。
- 「固定の」セッティングが無効の場合、レポートを生成する担当者はそれぞれの要素の属性を変更することができます。

4. レポートへの制限の設定。これは構成の4番目と最終ステップです(下記の図を参照)。制限は、その結果を選択された基準に制限する役目をします。多くの場合では、制限は全くセット・アップされないかもしれません。

Edit: Stat# 10001



Step 1  
General Specifications

Step 2  
Select the element that will be used at the X-axis

Step 3  
Select the elements for the value series

Step 4  
Select the restrictions to characterize the stat

Actions  
Go to overview

Hint  
Here you can make restrictions to your stat. If you remove the hook in the "Fixed" checkbox, the agent generating the stat can change the attributes of the corresponding element.

Select the restrictions to characterize the stat (4/4)

Limit: 5, 10, 20, 50, 100  
Please select only one element or turn off the button 'Fixed'.  
 Fixed

Queue: Junk, Misc, Postmaster, Raw  
 Fixed

State: closed successful

図:制限の定義

制限がすべてセット・アップされた後、レポートの構成は「終了」ボタンを押すことにより完成します。

## 9.1.4. インポート

インポート・ユーザ・インターフェース(下記の図を参照)はナビゲーション・バー、リンク「統計」から選ぶことによりアクセスすることができ、「インポート。」(その後)一方、概要画面上でインポート・ボタンを押すことは同じ結果となります。レポートへの「rw」権は必須です。

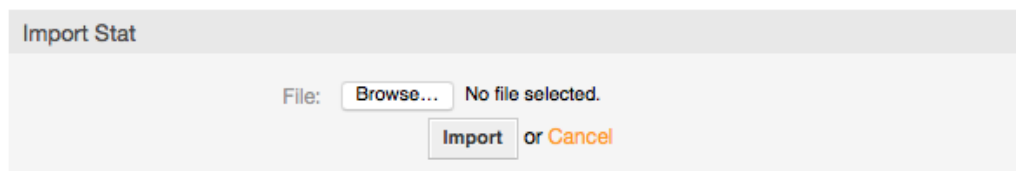


図:インポート・ユーザ・インターフェース

非常に機能的なモジュールのエクスポート機能と結合した時、レポートのインポートはより円滑になります。統計は、テスト・システムに便利のように作成しテストし、次に、プロダクション・システムへインポートすることができます。

インポートは容易なファイル・アップロードによってもたらされます。インポートレポートの「ビュー」ユーザ・インターフェースは自動的に後で開かれます。

## 9.2. OTRS管理者による統計モジュールの管理

このセクションでは、統計モジュールを取り扱うOTRS管理者のタスクおよび責任に関する情報を提供します。

### 9.2.1. 許可設定、グループ及びキュー

統計モジュールがインストールされている場合、新規キューおよび(または)グループは作成されません。

モジュール登録ではデフォルト設定で、すべての担当者に対して統計モジュールに「統計」グループ許可アクセスを与えます。

許可設定による権限:

- *rw*. 統計とレポートを構成可能にします。
- *ro*. あらかじめ形成された統計およびレポートを構成可能にします。

OTRS管理者は、以下のふたつを決定します。ひとつは、事前構成されたレポートを生成する許可を持つ担当者が、「統計」グループ中で*ro*権を割り当てられるか、もうひとつは、それぞれのグループがSysConfigの中のモジュール登録で追加されるかどうかです。

### 9.2.2. SysConfig

The SysConfig groups Framework:Core::Stats, Framework:Core::Stats::Graph and Framework:Frontend::Agent::Stats contain all configuration parameters for the basic set-up of the statistics module. Moreover, the configuration parameter \$Self->{'Frontend::Module'}->{'AgentStats'} controls the arrangement and registration of the modules and icons within the statistics module.

## 9.3. システム管理者による統計モジュールの管理

一般に、システム管理者は、統計モジュールのオペレーション、構成およびメンテナンスに必要とされません。しかしながら、この点に関してシステム管理者に若干の背景情報は与えられます。

## 注記

ファイル・パスは、OTRSホームディレクトリー(ほとんどの場合 /opt/otrs)のサブディレクトリを指します。

### 9.3.1. データベース・テーブル

レポート構成はすべてXMLの中でインプリメントされ処理され、したがって、データベース・テーブル「xml\_storage」に格納されます。その内容がxmlフォーマットで示される他のモジュールは同様にこのテーブルを使用します。

### 9.3.2. すべてのファイルのリスト

以下は、統計モジュールが正確に動作するためにの必須のファイルです:

- Kernel/System/Stats.pm
- Kernel/Modules/AgentStats.pm
- Kernel/System/CSV.pm
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsOverview.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsDelete.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsEditSpecification.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsEditRestrictions.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsEditXaxis.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsEditValueSeries.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsImport.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsPrint.dtl
- Kernel/Output/HTML/Standard/AgentStatsView.dtl
- Kernel/System/Stats/Dynamic/Ticket.pm
- bin/otrs.GenerateStats.pl

### 9.3.3. キャッシング

統計の結果がキャッシュされるかされないかは構成でセットアップされます。キャッシュ・レポート結果は、OTRSインスタレーション(ほとんどの場合/opt/otrs/var/tmp)のvar/tmp directoryでファイルとして格納されます。

キャッシュ・統計は、「Stat」接頭辞によって認識することができます。

データが失われるにしても、大きな被害を引き起こしません。次回レポートが呼び出される時には、統計モジュールはファイルを見つけることなく、新規レポートを生成するでしょう。もちろん、これは恐らく実行にもう少し長くかかるでしょう。

### 9.3.4. otrs.GenerateStats.pl

このファイルはbin directoryに保存されます。それは、コマンドライン中のレポートの生成に役立ちます。

例として、次のスクリプトでコマンドライン呼び出しを参照してください。

```
bin> perl otrs.GenerateStats.pl -n 10004 -o /output/dir
```

スクリプト：コマンドラインからのレポートの生成

統計構成「Stat# 10004」からのレポートは/output/dir ディレクトリー中でcsvとして生成され保存されます。

生成されたレポートも、Eメールとして送ることができます。より多くの情報は、スクリプト中のコマンドで下に呼び出すことができます。

```
bin> perl otrs.GenerateStats.pl --help
```

スクリプト： *otrs.GenerateStats.pl*ファイルに関する情報の入手

### 9.3.5. 自動統計生成 - Cronジョブ

統計モジュールに便利なGUIがあるため、通常はコマンドラインによってレポートを手動で生成しても意味をなしません。しかしながら、Cronジョブと結合した時、手動によるレポートの生成は意味をなします。

次のシナリオを想像してください:毎月の1日目に、部長は先月のレポートを受け取りたい。cronジョブとコマンドラインの呼び出しを組み合わせることによって、レポートは、Eメールでそれらに自動的に送ることができます。

### 9.3.6. 静的な統計

統計モジュールは、静的統計の生成に役立ちます。全ての静的統計はそのコンテンツが正確に定義されているファイルに存在します。

このように非常に複雑な統計が生成されます。そのデメリットはそれらが特に柔軟ではないことです。

ファイルはディレクトリKernel/System/Stats/Static/ に保存されます。

### 9.3.7. 古い静的な統計の使用

先のOTRSバージョン1.3および2.0は、既に統計/レポートの生成を促進しました。顧客の必要条件を満たすために特に開発されているOTRSバージョン1.3および2.0のための様々なレポートは、最近のOTRSバージョンの中でまた使用することができます。

ただ、ファイルは、Kernel/System/Stats/ のパスからKernel/System/Stats/Static/ のパスへ移動されなければいけません。さらに、「::Static」によってそれぞれのスクリプトのパッケージ名を修正しなければなりません。

次の例は、最初のパスがどのように修正されるか示します。

```
package Kernel::System::Stats::AccountedTime;
```

```
package Kernel::System::Stats::Static::AccountedTime;
```

### 9.3.8. Default stats (デフォルト統計)

「わかり切ったことを最初からやり直すことは必ずしも必要だとは限りません...」

統計モジュールは様々なデフォルトレポートを提供します。すべてのOTRSユーザに興味深いレポートは、統計モジュール・パッケージのデフォルトレポートセットに今後加えられるでしょう。デフォルトレポートは、scripts/test/sample/ ディレクトリー中の統計モジュールxmlフォーマットで保存されます。

## 10. 動的フィールド

### 10.1. 導入

動的フィールドは、チケットが記事上に格納された情報を拡張するために作られて、OTRSの中の特別の種類フィールドです。これらのフィールドはシステムに固定されません。そして、それらは特定の画面にのみ現われる場合があります。それらが必須であれ、そうでなけれ、それらの画面上の表現はそれらの作成時間に定義されたフィールドタイプに依存します。その作成時間はフィールドによって保持されるデータよりも。例えば、テキスト、日付、アイテムの選択を保持するフィールドがあります。

動的フィールドは、TicketFreeText TicketFreeKey TicketFreeTime、ArticleFreeTextおよびArticleFreeKeyフィールドの発展形です。それらは以前もそしてOTRS 3.0の中でも一般に使用されます。これらの「自由フィールド」には以下の制限がありました。1.) 16の(テキストまたはdropdown)フィールドまで定義可能。2.) 1チケットにつき6回のフィールドまで定義可能。3.) 1記事につき3フィールド(テキストまたはdropdown)まで定義可能。

今、動的フィールドで、チケットまたは記事についてフィールドの数の制限は撤去される、チケットが記事のいずれかのために希望する数だけ動的フィールドとして作成することができます。また、それを越えて、動的フィールドの背後のフレームワークは、単なるチケットや記事だけではなく、他のオブジェクト用カスタム・フィールドを扱う準備ができています。

動的フィールドを扱うこの新規フレームワークは、モジュール的アプローチを使用して、構成されている。ここでの各種類の動的フィールドは、フレームワーク用のプラグインモジュールと見なすことができます。このことは、公開されているOTRSモジュール、OTRSアドオン、OTRSカスタム開発および他のカスタム開発によって容易に動的フィールドの種類を拡張することができることを意味します。

次の動的フィールド・タイプがこのリリースに含まれている:

- テキスト(テキストの1行のライン)
- テキスト領域(テキストの多数の行)
- チェックボックス
- ドロップダウン(単一の選択、複数の値)
- マルチ選択(多項式選択の多数の値)
- 日付
- Date / Time

### 10.2. 構成

By default, a clean installation of OTRS comes with two pre-installed internal dynamic fields, which cannot be removed. If you plan to use such fields in tickets or articles you need to create new, custom dynamic fields.

動的フィールドの構成はふたつの部分に分かれています。ひとつは新しい動的フィールドを追加するため。もうひとつは、既存の動的フィールドを管理するためです。(既存のものは「動的フィールド」リンクにある「管理者」パネルへとあなたが案内する必要があります。)画面の中で、必須

として表示するため、あるいは動的フィールドを非表示にするため、あなたは「SysConfig」画面の中でOTRS設定を変更する必要があります。

## 10.2.1. 動的フィールドの追加

ナビゲーション・バーにある「管理者」ボタンをクリックして、次に、画面の底部中央付近にある「チケット設定」ボックスの内部の「動的フィールド」リンクをクリックしてください。概要が以下のように表示する動的フィールド:

**Dynamic Fields Management - Overview**

**Actions**

**Article**

-

Add new field for object: Article

**Ticket**

-

Add new field for object: Ticket

**Hint**

To add a new field, select the field type from one of the object's list, the object defines the boundary of the field and it can't be changed after the field creation.

**Dynamic Fields List**

1-9 of 9

NAME	LABEL	ORDER	TYPE	OBJECT	VALIDITY	DELETE
ProcessManagementProcessID	Process	1	ProcessID	Ticket	valid	
ProcessManagementActivityID	Activity	2	ActivityID	Ticket	valid	

Figure: Dynamic fields overview screen.

作られてた全ての動的フィールドをリストへ、あなたがさらに動的フィールドを追加すると、この画面が変化することにご留意下さい。インストレーションがOTRSのより古いバージョンから更新された場合、この画面には既にいくつかのフィールドがあるかもしれません。

画面の左のサイド・バーのアクションは、2つの可能性について表しています: それは記事およびチケットで、各々は動的フィールドの自身のdropdown選択を持っています。

### 注記

OTRSパッケージのインストレーションはより多くのオブジェクトをアクション・サイド・バーに追加しました。

動的フィールドを作る基本手順は次のとおりです:

- アクション・サイド・バーで希望するの動的フィールドオブジェクトdropdownをクリックしてください。
- リストから追加したい動的フィールドタイプをクリックしてください。
- 構成を記入してください。
- 保存してください。

動的フィールドのための構成ダイアログはふたつの部分に分かれます。上部のセクションはすべてのフィールド中に一般的です。また、下方部分は別のタイプへの1つのタイプの動的フィールドとは異なるかもしれません。

一般的な動的フィールドセッティング:

- 名前: 必須で、ユニークで、文字および数字だけが許可されます。

これは、1つの画面の中で例えばフィールドを表示または非表示するために使用するような、フィールドの内部名前である。フィールド名のどんな修正する(推奨しませんが)場合でも、フィールドがreferenciared (参照) される「SysConfig」設定の手動のアップデートが必要です。

- ラベル: 必須



これは画面に表示されるフィールド名である。それは翻訳を支援します。

## 注記

ラベルの翻訳を言語変換ファイルに手動で加えなければならない。

- フィールド順: 必須

相対的な順序を定義します。画面で表示されるフィールドの相対的な順序を定義します。デフォルトでは各々の新規フィールドは最後尾に位置します。この設定の変更は他に作られた動的フィールドの順序に影響します。このセッティングの変化は、他の作られた動的フィールドの順序に影響するでしょう。

- 有効性: 必須

如何に表示するように構成しても、無効の動的フィールドはどの画面にも表示されません。

- フィールド・タイプ: 必須。読み込み専用。

現在の選択されたフィールド・タイプを示します。

- オブジェクト・タイプ: 必須。読み込み専用

フィールドの範囲を示します。

## 注記

例では、特定のフィールド・タイプの設定を各々説明するために、少数のフィールドが追加されます。これらの新規フィールドは後のセクションの中でreferenciated (参照) されるでしょう。

次の例については、記事オブジェクトのための動的フィールドを作る必要があれば、チケット・オブジェクトのためにすべての動的フィールドが作られます。単に記事ドロップダウン・リストからフィールドを選択して下さい。

表4.6 次のフィールドがシステムへ追加されます。:

Name	ラベル	タイプ
Field1	My Field 1	テキスト
Field2	My Field 2	Textarea
Field3	My Field 3	チェックボックス
Field4	My Field 4	ドロップダウン
Field5	My Field 5	Multiselect
Field6	My Field 5	日付
Field7	My Field 6	Date / Time

### 10.2.2. テキスト動的フィールドの構成

テキスト動的フィールドは単一行の文字列を格納するために使用されます。

テキスト動的フィールド設定:

- デフォルト値: オプション。

これは、デフォルトでは編集画面上に表示される値です。(新規電話チケットまたはチケットが作成されるような画面)

- リンクの表示：オプション。

セットされたら、フィールド値は、表示画面用に（チケット・ズームや概要のように）クリック可能なリンクに変換されます。

例えば、「リンクを表示」を「http://www.otrs.com」にセットするなら、値を入力してクリックすれば、ブラウザでOTRSウェブページが開きます。

## 注記

The use of [% Data.NameX | uri %] in the Set link value, where NameX is the name of the field will add the field value as part of the link reference.

**Dynamic Fields - Ticket: Add Text Field**

**Actions**

Go back to overview

**General**

★ Name:  Validity:

Must be unique and only accept alphabetic and numeric characters.

Field type:

★ Label:  This is the name to be shown on the screens where the field is active.

Object type:

★ Field order:  This is the order in which this field will be shown on the screens where is active.

**Text Field Settings**

Default value:  This is the default value for this field.

Show link:  Here you can specify an optional HTTP link for the field value in Overviews and Zoom screens. Example: http://some.example.com/handle?query=[% Data.Field1 | uri %]

Check RegEx: Here you can specify a regular expression to check the value. The regex will be executed with the modifiers xms. Example: ^[0-9]\$

★ RegEx:

★ Error Message:

Add RegEx:

Submit or Cancel

図:動的フィールド・テキストの構成ダイアログ

### 10.2.3. テキスト領域動的フィールド構成

テキスト領域の動的フィールドは複数行の文字列を格納するために使用されます。

テキストエリア動的フィールドの設定:

- 列の数:オプション、整数。

編集画面(新規電話チケットあるいはチケット作成のように)にフィールドの高さを定義するために使用されます。

- 列の数：オプション、整数。

この値は、編集画面でフィールドの幅を定義するために使用されます。

- デフォルト値:オプション。

これは、編集画面中のデフォルトによって示される値です。(複数行テキストも可)

### Dynamic Fields - Ticket: Add Textarea Field

Actions

◀ Go back to overview

General

★ Name:  Validity:

Must be unique and only accept alphabetic and numeric characters.

Field type:

★ Label:  This is the name to be shown on the screens where the field is active.

Object type:

★ Field order:  This is the order in which this field will be shown on the screens where is active.

Textarea Field Settings

Number of rows:  Specify the height (in lines) for this field in the edit mode.

Number of cols:  Specify the width (in characters) for this field in the edit mode.

Default value:

Value

This is the default value for this field.

Check RegEx: Here you can specify a regular expression to check the value. The regex will be executed with the modifiers xms.  
Example: ^[0-9]\$

Add RegEx:

or

図:動的フィールドテキストエリアの構成ダイアログ

## 10.2.4. チェックボックス動的フィールド構成

チェックボックス動的フィールドは、真偽値を格納するために使用されます。チェックボックス内のチェックの有無で表現されます。

チェックボックス動的フィールドの設定:

- デフォルト値:必須。

これは、編集画面上デフォルトによって示される値です。(新規電話チケットあるいはチケット作成のように)このフィールド用のデフォルト値は、チェックの有無をすることができる閉じた選択です。

### Dynamic Fields - Ticket: Add Checkbox Field

Actions

◀ Go back to overview

General

★ Name:  Validity:

Must be unique and only accept alphabetic and numeric characters.

Field type:

★ Label:  This is the name to be shown on the screens where the field is active.

Object type:

★ Field order:  This is the order in which this field will be shown on the screens where is active.

Checkbox Field Settings

Default value:

This is the default value for this field.

or

図:動的フィールド・チェックボックスの構成ダイアログ

## 10.2.5. ドロップダウン動的フィールドの構成

ドロップダウン動的フィールドは単一の値を格納するために閉じたリストから使用されます。

ドロップダウン動的フィールドの設定:

- 可能な値：必須。

例えば、「リンクを表示」が「<http://www.otrs.com>」にセットするなら、値を入力してクリックすれば、ブラウザでOTRSウェブページが開きます。

- デフォルト値:オプション。

この値はデフォルトで編集画面に表示されます。(新規電話チケットあるいはチケット作成のように)このフィールドのデフォルト値は、可能な値によって定義された閉じた選択です。

- 空の値の追加：必須、(はい/いいえ)

このオプションが活性化されるなら、特別な値が、可能な値のリスト中で「-」を表示されて定義されます。この特別な値は内部的には空です。

- 翻訳可能な値:必須、(はい/いいえ)

この設定は、このフィールドが翻訳可能な値であることの指標として使われます。単に翻訳される表示上の値であり、内部的な値に影響を与えるものではありません。翻訳値は手動で言語ファイルに追加する必要があります。

- リンクの表示：オプション。

セットされたら、フィールド値は  
表示画面（ズームや概要のように）用にクリック可能ならHTTPリンクに変換されます。

例えば、もし「表示」リンクが「<http://www.otrs.com>」にセットされたら、フィールド値をクリックすればブラウザでOTRSのウェブページが開きます。

### 注記

The use of [% Data.NameX | uri %] in the Set link value, where NameX is the name of the field, will add the field value as part of the link reference.

**Dynamic Fields - Ticket: Add Dropdown Field**

Actions

Go back to overview

General

★ Name:  Validity:

Must be unique and only accept alphabetic and numeric characters.

Field type:

★ Label:  Object type:

This is the name to be shown on the screens where the field is active.

★ Field order:

This is the order in which this field will be shown on the screens where is active.

Dropdown Field Settings

Possible values: ★ Key:  ★ Value:

★ Key:  ★ Value:

★ Key:  ★ Value:

Add value:

Default value:

This is the default value for this field.

Add empty value:

Activate this option to create an empty selectable value.

Tree View:

Activate this option to display values as a tree.

Translatable values:

If you activate this option the values will be translated to the user defined language.  
 Note: You need to add the translations manually into the language translation files.

Show link:

Here you can specify an optional HTTP link for the field value in Overviews and Zoom screens.  
 Example: `http://some.example.com/handle?query={% Data.Field1 | uri %}`

or

図:動的フィールド・ドロップダウンの構成ダイアログ

## 10.2.6. 多重選択動的フィールドの構成

多重選択動的フィールドは多数の値を格納するために閉じたりストから使用されます。

多重選択動的フィールドの設定:

- 可能な値：必須。

フォームを選択するための値のリスト。

追加のリスト項目を追加するなら、キー（内部値）と値（表示値）を指定する必要があります。

- デフォルト値:オプション。

これは、編集画面上にデフォルトで示される値です(新規電話チケットあるいはチケット作成のように)。このフィールドのデフォルト値は、可能な値によって定義されるような閉じた選択です。

- 空の値の追加：必須、(はい/いいえ)

このオプションが活性化される場合、特別な値が、可能な値のリスト中で「-」を表示されて定義されます。この特別な値は内部的には空です。

- 翻訳可能な値:必須、(はい/いいえ)

この設定は、このフィールドが翻訳可能な値であることの指標として使われます。単に翻訳される表示上の値であり、内部的な値に影響を与えるものではありません。翻訳値は手動で言語ファイルに追加する必要があります。

**Dynamic Fields - Ticket: Add Multiselect Field**

Actions

Go back to overview

General

★ Name:  Validity:

Must be unique and only accept alphabetic and numeric characters.

Field type:

★ Label:  Object type:

This is the name to be shown on the screens where the field is active.

★ Field order:

This is the order in which this field will be shown on the screens where is active.

Multiselect Field Settings

Possible values: ★ Key:  ★ Value:

★ Key:  ★ Value:

Add value:

Default value:

Option A

Option B

This is the default value for this field.

Add empty value:

Activate this option to create an empty selectable value.

Tree View:

Activate this option to display values as a tree.

Translatable values:

If you activate this option the values will be translated to the user defined language.  
Note: You need to add the translations manually into the language translation files.

or

図:動的フィールド 複数選択の構成ダイアログ

## 10.2.7. 日付動的フィールド設定

日付動的フィールドは日付値(日、月および年)を格納するために使用されます。

日付動的フィールド設定:

- デフォルトの時差：オプション、整数

現在の日付と選択された日付間の秒数（正でも負でも）。デフォルトで編集画面に表示されます。（新規電話チケットやチケット作成のように）

- 年の期間を定義：必須（はい/いいえ）

この設定は、このフィールドが翻訳可能な値であることの指標として使われます。単に翻訳される表示上の値であり、内部的な値に影響を与えるものではありません。翻訳値は手動で言語ファイルに追加する必要があります。

- 過去の年：オプション、正の整数

編集画面の年選択で表示する現在の日付から過去の年数を定義します。

- 将来の年：オプション、正の整数

編集画面にある年選択で表示するために現在の日付から将来の年数を定義します。

- リンクの表示：オプション。

セットされたら、フィールド値は表示画面（ズームや概要のように）用にクリック可能ならHTPリンクに変換されます。

例えば、もし「表示」リンクが「 http://www.otrs.com 」にセットされたら、フィールド値をクリックすればブラウザでOTRSのウェブページが開きます。

## 注記

The use of [% Data.NameX | uri %] in the Set link value, where NameX is the name of the field will add the field value as part of the link reference.

### Dynamic Fields - Ticket: Add Date Field

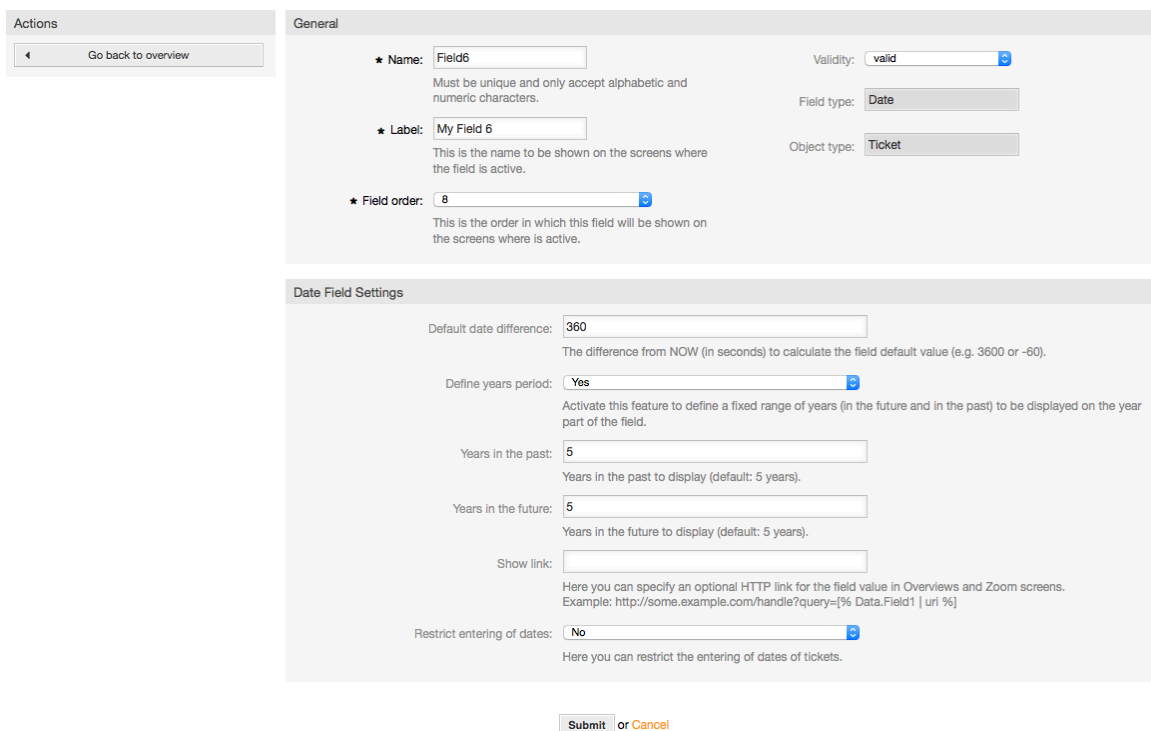


図:動的フィールド 日付/時刻の構成ダイアログ

## 10.2.8. 日付/時刻 動的フィールドの編集

### 日付/時刻

動的フィールドは日付/時刻の値（分、時、日、月と年）を格納するために使用されます。

### 日付/時刻 動的フィールドの設定：

- デフォルトの時差：オプション、整数

編集画面でデフォルトで表示される（新規電話チケットまたはチケット作成のように）現在の日付と選択した日付間の秒数（正負可）

- 年の期間を定義：必須（はい/いいえ）

このフィールドの年設定で、過去に将来（現在日から直近3日）に定義済の年数を設定するために使います。次のオプションが「はい」に設定されて利用可能ならば、：

- 過去の年：オプション、正の整数

編集画面の年選択で表示する現在の日付から過去の年数を定義します。

- 将来の年：オプション、正の整数

編集画面にある年選択で表示するために現在の日付から将来の年数を定義します。

- リンクの表示：オプション。

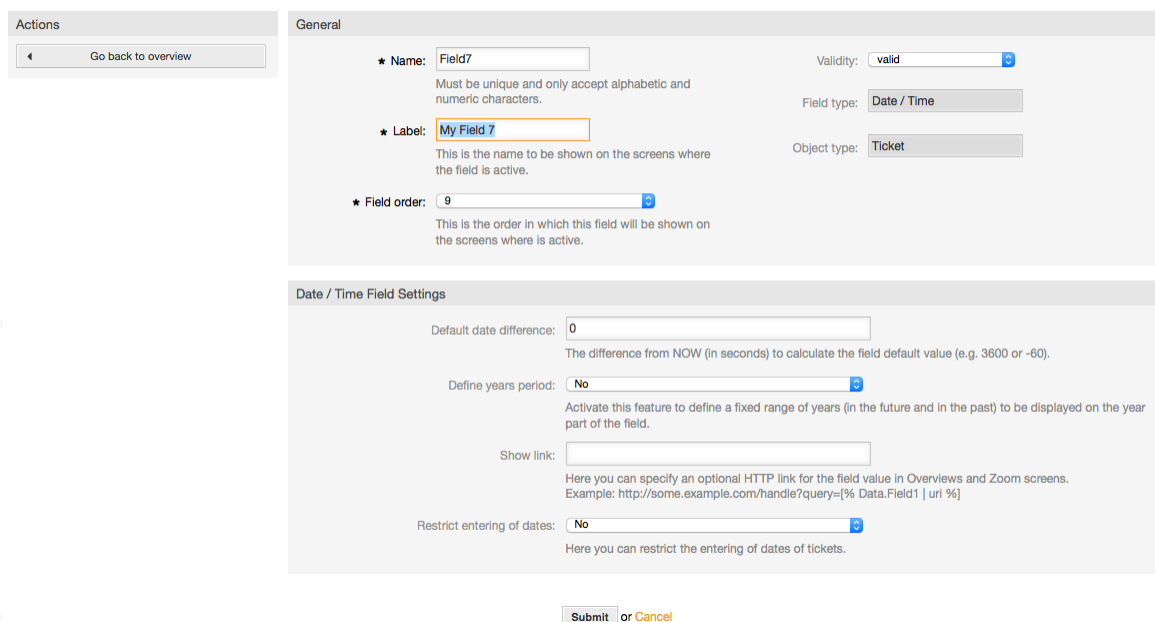
セットされたら、フィールド値は  
表示画面（ズームや概要のように）用にクリック可能ならHTTPリンクに変換されます。

例えば、もし「表示」リンクが「 http://www.otrs.com 」にセットされたら、フィールド値をクリックすればブラウザでOTRSのウェブページが開きます。

## 注記

The use of [% Data.NameX | uri %] in the Set link value, where NameX is the name of the field will add the field value as part of the link reference.

### Dynamic Fields - Ticket: Add Date / Time Field

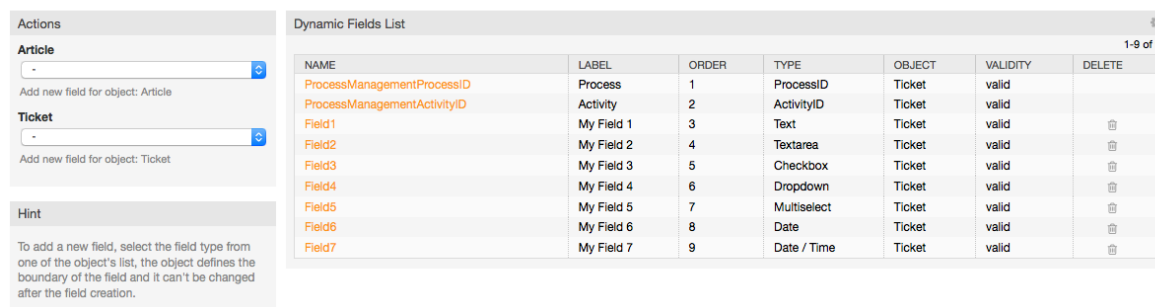


図：動的フィールド 日付 の構成ダイアログ

## 10.2.9. 動的フィールドの編集

入力された動的フィールドの概要画面は（前回のサンプルと）同様に見えるはずですが。

### Dynamic Fields Management - Overview



NAME	LABEL	ORDER	TYPE	OBJECT	VALIDITY	DELETE
ProcessManagementProcessID	Process	1	ProcessID	Ticket	valid	
ProcessManagementActivityID	Activity	2	ActivityID	Ticket	valid	
Field1	My Field 1	3	Text	Ticket	valid	🗑️
Field2	My Field 2	4	Textarea	Ticket	valid	🗑️
Field3	My Field 3	5	Checkbox	Ticket	valid	🗑️
Field4	My Field 4	6	Dropdown	Ticket	valid	🗑️
Field5	My Field 5	7	Multiselect	Ticket	valid	🗑️
Field6	My Field 6	8	Date	Ticket	valid	🗑️
Field7	My Field 7	9	Date / Time	Ticket	valid	🗑️

図:サンプルデータで埋められた動的フィールドの概要画面

動的フィールドを変更・編集するために、少なくともひとつのフィールドを定義し、動的フィールドの概要画面から既に追加済フィールドを選択し、その設定を更新しなければいけません。



## 注記

すべての動的フィールド設定が変更できるわけではありません。フィールド・タイプとオブジェクト・タイプはフィールドの選択から固定し、それらを変更することができません。

ラベルはいつでも変更することができますが、フィールド内部名の変更は推奨されません。もし内部名が変更されるならば、全ての特別なフィールドを参照するSysConfig設定は、ユーザ選択（定義されていれば）同様に更新されるべきです。

### 10.2.10. 画面上での動的フィールドの表示

特別の画面に動的フィールドを表示するために、2つの必須条件があります：

1. 動的フィールドは有効でなければいけません。
2. 動的フィールドは画面の構成の中で1または2にセットされなければいけません。

画面の中で動的フィールドを表示する次のステップに進みます。

- 必ず動的フィールドを有効にセットして下さい。フィールドフォームの有効性を動的フィールド概要画面から確認できます。必要ならフィールドを編集して有効にして下さい。
- 「Sysconfig」を開き、画面左側のアクション・サイドバーにあるドロップダウンリストから「チケット」を選択して下さい。

#### 注記

さらに、既にそれを知っていれば、上記の検索ボックスあるいは「sysconfig」キー中の「動的フィールド」を直接検索することができます。

- 探している画面用サブグループ設定へ行ってそれをクリックします。例えば「Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew」。
- "###DynamicField"で終わるセッティングを検索してください。例えば"Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###DynamicField"。
- セッティングが空か必須の動的フィールド名がない場合は、新規エントリーを加えるためには「+」ボタンをクリックしてください。例えばキー:Field1、Content:1。

設定にすでに動的フィールド名がリストされてることが確かならば、フィールドに表示するためには「1」をセットし、必須として表示するためには「2」をセットします。

- 画面底部にある「アップデート」ボタンをクリックする、及びあなたがフィールドを表示したい画面へ導いて構成を保存して下さい。

#### 10.2.10.1. サンプルの表示

下記は、異なる画面上の動的フィールドを表示するか非表示にするかの「sysconfig」構成例です。

**例4.21** 新規電話チケット画面にあるフィールド1を活性化します。

- グループ: チケット
- サブグループ: Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
- 設定: Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###DynamicField
- 値:

キー	内容
Field1	1

Attachment:  No file selected.

Next ticket state:

Pending Date (for pending\* states):  /  /   -  :

Priority:

**My Field 1: My Text**

Time units (work units):

図:新規電話チケット画面中のField1

#### 例4.22 新規電話チケット画面中の必須フィールド1を活性化

- グループ: チケット
- サブグループ: Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
- 設定: Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###DynamicField
- 値:

キー	内容
Field1	2

Attachment:  No file selected.

Next ticket state:

Pending Date (for pending\* states):  /  /   -  :

Priority:

**★ My Field 1: My Text**

Time units (work units):

図：新規電話チケット画面中の必須フィールド1

#### 例4.23 必須として新規電話チケット画面中のフィールド1を活性化

- グループ: チケット
- サブグループ: Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew

- 設定: Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###DynamicField

- 値:

キー	内容
Field1	1
Field2	1
Field3	1
Field4	1
Field5	1
Field6	1
Field7	1

Attachment:  No file selected.

Next ticket state:

Pending Date (for pending\* states):  /  /   -  :

Priority:

My Field 1:

My Field 2:   
Value

My Field 3:

My Field 4:

My Field 5:   
Option B

My Field 6:   /  /

My Field 7:   /  /   -  :

Time units (work units):

Create

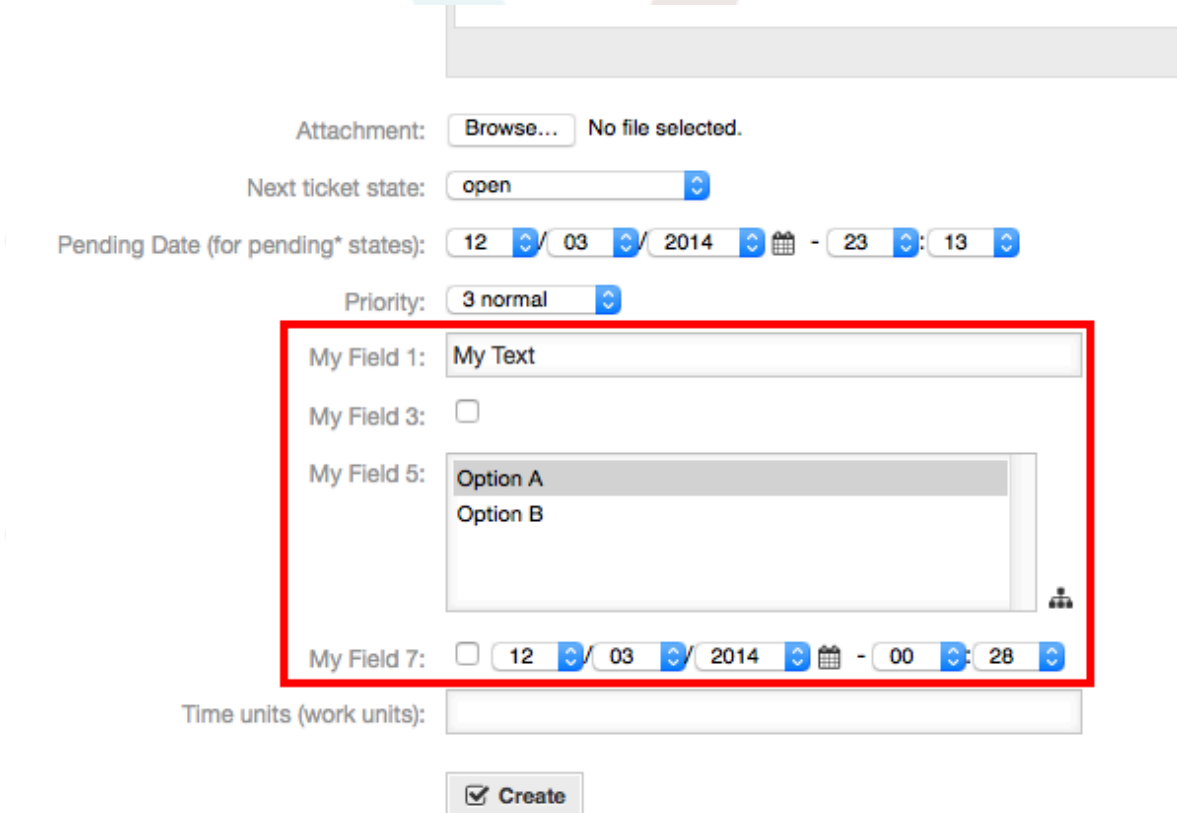
図:新規電話チケット画面中の必須の複数フィールド

#### 例4.24 新規電話チケット画面中の複数の必須フィールドを非活性化

- グループ: チケット

- サブグループ: Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
- 設定: Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###DynamicField
- 値:

キー	内容
Field1	1
Field2	0
Field3	1
Field4	0
Field5	1
Field6	0
Field7	1



Attachment:  No file selected.

Next ticket state:

Pending Date (for pending\* states):  /  /   :

Priority:

My Field 1:

My Field 3:

My Field 5:

My Field 7:   /  /   :

Time units (work units):

Create

図：新規電話チケット画面中の必須の複数フィールドの非活性化

#### 例4.25 チケットズーム画面でフィールド1を活性化

- グループ: チケット
- サブグループ: Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
- 設定: Ticket::Frontend::AgentTicketZoom###DynamicField
- 値:

キー	内容
Field1	1

Link | Owner | Responsible | Customer | Note | Phone Call Outbound | Phone Call Inbound | E-Mail Outbound | Merge

	FROM	SUBJECT	CREATED
+	Thor Odinson	Test ticket	12/03/2014 00:33

Created: 12/03/2014 00:33 by Carlos García

▼ Ticket Information

Age: 0 m  
 Created: 12/03/2014 00:33  
 Created by: Carlos García  
 State: open  
 Locked: unlock  
 Priority: 3 normal  
 Queue: Junk  
 CustomerID: THAVS  
 Accounted time: 0  
 Owner: Carlos García  
 Responsible: Carlos García  
**My Field 1: My text on Field1**

▼ Customer Information

Title: Mr.

図:チケット・ズーム・画面中のField1

#### 例4.26 チケット概要小画面の中のField1を活性化

- グループ: チケット
- サブグループ: Frontend::Agent::TicketOverview
- 設定: Ticket::Frontend::OverviewSmall###DynamicField
- 値:

キー	内容
Field1	1

QueueView: Junk

My Queues (2) Junk (1) Raw (1)

All tickets 1 Available tickets 1

Bulk 1-1 of 1 S M L

	TICKET#	▲AGE	FROM / SUBJECT	STATE	LOCK	QUEUE	MY FIELD 1	OWNER	CUSTOMERUSERID	CUSTOMERID
<input type="checkbox"/>	201412033051000017	6 m	Thor Odinson Test ticket	open	unlock	Junk	<b>My text on Field1</b>	Carlos García	thor.odinson	THAVS

図:チケット概要小画面中のフィールド 1

This setting affects: Escalation View, Locked View, Queue View, Responsible View, Status View, Service View and Watch View screens.

### 10.2.11. チケット・イベント・モジュールによってデフォルト値を設定

フィールドが値をまだ持っていない場合、チケット・イベント(例えば、チケット作成)は、あるフィールド用の値セットを引き起こすことができます。

#### 注記

この方法の使用によって、値がチケットの生成の後にセットされるので、このデフォルト値は編集画面(例えば新規電話チケット)で見られません。

この特徴を活性化するために、次のセッティングを可能にする必要があります:  
 s:"Ticket::EventModulePost###TicketDynamicFieldDefault".

#### 例4.27 チケット作成イベントのフィールド 1 を活性化

- グループ: チケット
- サブグループ: Core::TicketDynamicFieldDefault
- 設定: Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element1

#### 注記

この構成は、16のTicket::TicketDynamicFieldDefault###Element セットアップのうちの中でもセットすることができます。

16フィールド以上をセットアップする必要があるなら、\$OTRS\_HOME/Kernel/Config/files ディレクトリにあるXMLファイルは置き換えてこの機能を拡張します。

- 値:

キー	内容
イベント	チケット作成
Name	Field1
値	新しい値

### 10.2.12. ユーザー選択によってデフォルト値をセット

動的フィールドデフォルト値は、ユーザー選択に格納されたユーザに定義された値で書き換えることができます。

この方法を使用して、フィールドのデフォルト値は、フィールドが活性化されている画面に表示されます。(フィールドが異なる値をまだ持っていない場合)

「Sysconfig」設定は、サブグループ「Frontend::Agent::Preferences」の「PreferencesGroups###DynamicField」に存在します。この設定は、選ばれたユーザのために排他的な動的フィールドデフォルト値をセットするために、ユーザー選択画面でエントリーを作る方法の例です。この設定の制限は、単にそれが1つの動的フィールドの使用を許すということです。2つ以上のフィールドがこの特徴を使用する場合、これに似ているより多くの設定を加える、カスタムXML設定ファイルを作成することが必要です。

#### 注記

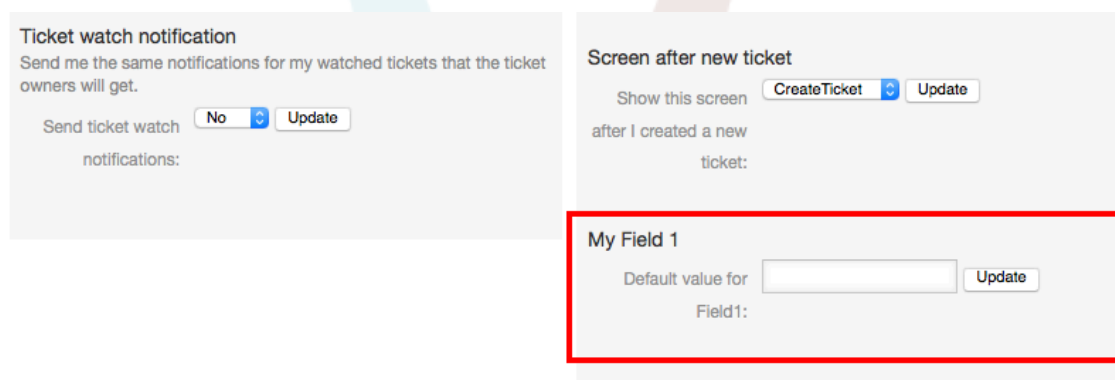
より多くの設定が新規XMLに追加され、各設定名がシステムの中でユニークかつ、"PreferencesGroups###DynamicField"と異ならなければならないならば、覚えておいて下さい。例えば、PreferencesGroups###101-DynamicField-Field1, PreferencesGroups###102-DynamicField-Field2, PreferencesGroups###My-Field1, PreferencesGroups###My-Field2,等。

#### 例4.28 ユーザー選択でのField1を活性化

- グループ: チケット
- サブグループ: Frontend::Agent::Preferences
- 設定: PreferencesGroups###101-DynamicField-Field1
- 値:

キー	内容
イベント	チケット作成

キー	内容
Active	1
Block	入力
Column	その他の設定
Data:	[% Env("UserDynamicField_Field1") %]
Key:	My Field 1
Label:	My Field 1用のデフォルト値
Module:	Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric
PrefKey:	UserDynamicField_Field1
Prio:	7000



**Ticket watch notification**  
 Send me the same notifications for my watched tickets that the ticket owners will get.  
 Send ticket watch:    
 notifications:

**Screen after new ticket**  
 Show this screen:    
 after I created a new ticket:  
 ticket:

**My Field 1**  
 Default value for:   
 Field1:

図:ユーザー選択画面中のField1

## 11. 一般インターフェイス

OTRSの一般インターフェイスは、OTRSをウェブサービスによって他のシステムと通信させる複合レイヤーのフレームワークから成ります。このコミュニケーションは双方向になりえます。:

- 供給者としてのOTRS: OTRSは、外部システムからのリクエストを聞き、要求されたアクションを行なって、情報を処理し、リクエストに答えるサーバーとして働きます。
- 依頼者としてのOTRS: OTRSは、遠隔のシステムにリクエストを送り、レスポンスを待って、クライアント情報収集者として働きます。

### 11.1. 一般インターフェイス・レイヤー

一般インターフェイスは柔軟で、かつカスタマイズするのが簡単になるようにレイヤー・モデルに基づいた構造である。

レイヤーは1セットのファイルである。それは、一般インターフェイスがウェブサービスの異なる部分をどのように行なうかコントロールします。正しい構成を使用すると、一つは新規モジュールを作成せずに、異なる外部システムのために異なるウェブサービスを構成することができます。

#### 注記

遠隔のシステムが一般インターフェイスの現在の束ねられたモジュールを支援しない場合、その特定のウェブサービスのために特別のモジュールを開発している必要がある。

OTRS出荷時に提供される一般インターフェイス・モジュールのリストは今後更新され増加していくでしょう。

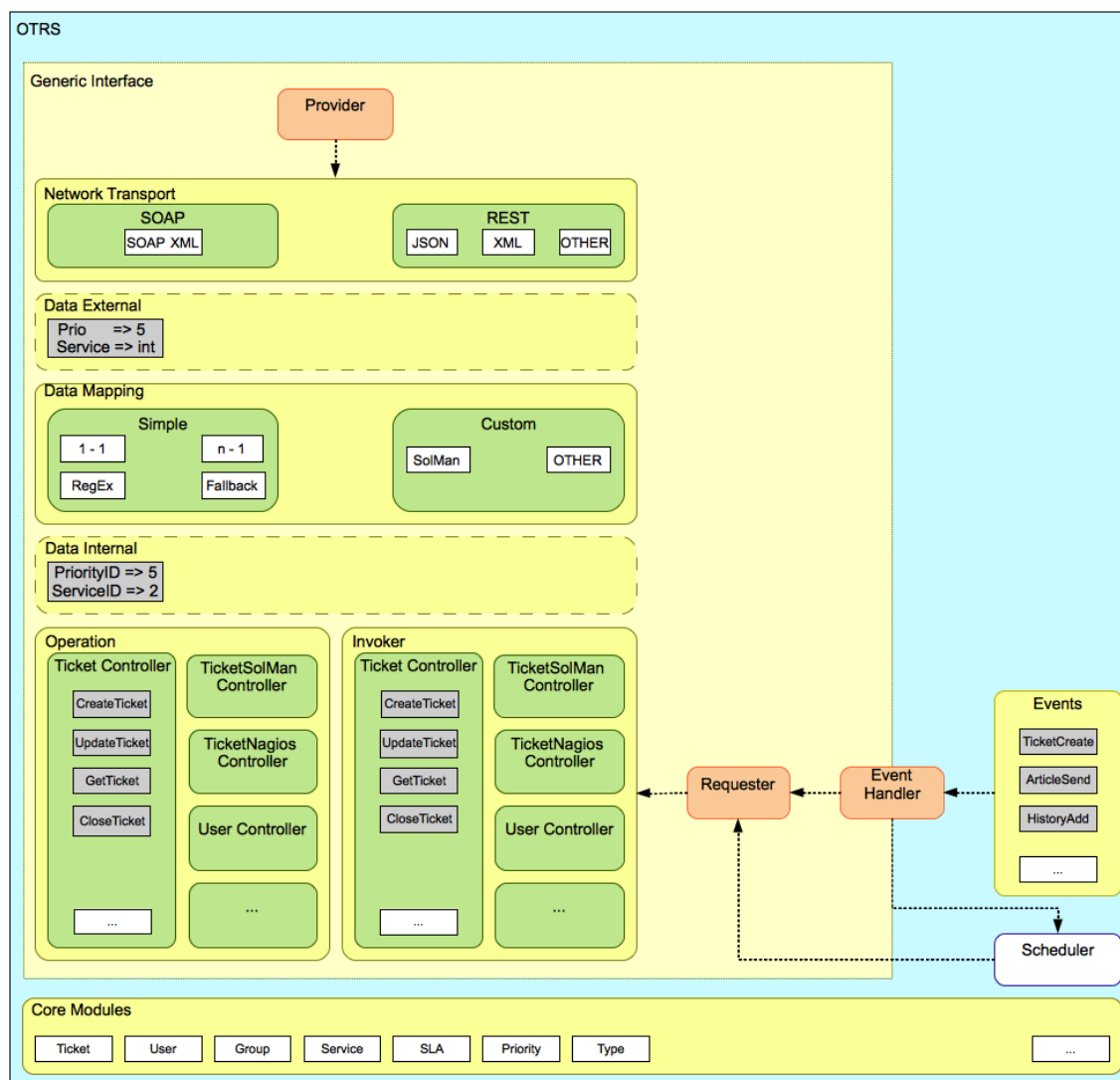


図:グラフィカル・インターフェース・レイヤー

### 11.1.1. ネットワーク・トランスポート

このレイヤーは遠隔のシステムとの正確なコミュニケーションに責任を持ちます。依頼を受け取り、供給者として働く場合、レスポンスを生成し、依頼者として働く場合、依頼および受信応答を生成します。

供給者コミュニケーションは「nphgenericinterface.pl」と呼ばれる新規ウェブサーバによって取り扱われます。

Requester communication could be initiated during an event triggered by a Generic Interface module or any other OTRS module. This event is caught by the event handler and depending on the configuration the event will be processed directly by the requester object or delegated to the Scheduler (a separated daemon designed to process tasks asynchronously).

### 11.1.2. データマッピング

このレイヤーは、データ構造とOTRSそしてリモートシステムの間での翻訳について責任を持ちます(データ内部およびデータ外部層)。通常遠隔のシステムはOTRS(異なる値およびそれらの値の名前を含む)とは異なっているデータ構造を持っています。そしてここに受信情報を「OTRSが理解する何



かへと変更するレイヤーの重要性が存在します。また、逆にデータ辞書を使うリモートシステムへの送信情報についてもです。

例:「優先度」(OTRS)は遠隔のシステムでの「Prio」と呼ばれるかもしれませんが。また、それは、値「1 低」(OTRS)が遠隔のシステムについての「情報」にマッピングされるべきです。

### 11.1.3. コントローラー

コントローラーは同様のオペレーションあるいは依頼アクション(Invokers)の集合です。例えば、チケット・コントローラーはいくつかの標準チケット・オペレーションを含んでいます。カスタム・コントローラーは実装可能です。例えば「チケット外部会社」コントローラーは標準チケット・コントローラーと同様の機能を含みます。しかし異なるデータ・インターフェイスまたは機能名(リモート・システム機能名に適應する)または異なるコードを完成します。

一般インターフェイスのための1つのアプリケーションは、同じ種類のもう一つのリモートシステムと話すことだけができるようなリモートシステムと情報を同期できるようになります。この場合、新規コントローラーは開発される必要があります。そして、オペレーションと依頼アクション(Invokers)は、リモートシステムの振る舞いをエミュレートしなければいけません。その振る舞いは、OTRSが提供するインターフェイスがリモートシステムのインターフェイスと同様です。

### 11.1.4. オペレーション(供給者としてのOTRS)

オペレーションはOTRSの内に行なうことができる単一の行為です。オペレーションにはすべて同じプログラミングインターフェイスがあります、それらは1つの特定のパラメータへデータを受け取り、成功ステータス、潜在的なエラーメッセージおよび返るデータを持ったデータ構造を返します。

通常、オペレーションは、コアモジュールを呼び出すために、すでにマップされたデータ(内部)を使います。そしてOTRSでアクション(チケット作成、ユーザー更新、キューの無効化、通知送信)を実行します。オペレーションはアクションを実行するOTRS APIへのフルの権限を持っています。

### 11.1.5. 依頼アクション(依頼者としてのOTRS)

依頼アクション(Invokers)とは、OTRSがリモートシステムに対して行うアクションのことです。依頼アクション(Invokers)は、リクエストを作成する必要とされる情報を処理し収集するためにOTRSコア・モジュールを使用します。情報が準備ができている場合、リモート・システムに送るためにリモート・システムのフォーマットにそれをマッピングしなければなりません。それはアクションを実行する情報を処理し、成功を処理するためか、エラーを取り扱うためのいずれかのために返答を送信します。

## 11.2. ウェブサービス・コマンドライン・インターフェイス

一般インターフェイスは、供給者としてそして同様に要求者としてアクションを実施するために定義済フローをも持っています。

これらのフローは以下に記述されます。

### 11.2.1. 供給者としてのOTRS

#### 11.2.1.1. リモートリクエスト:

##### 1. HTTPリクエスト

- OTRSは、HTTPリクエストを受け取りそれをレイヤーに渡します。
- 供給者モジュールはこれらのアクションを実行しコントロールすることを担当しています。

## 2. ネットワーク・トランスポート

- ネットワーク・トランスポート・モジュールは、データ・ペイロードをデコードし、オペレーション名とデータのそれ以外の部分とを区別します。
- オペレーション名およびオペレーションデータは供給者に返されます。

## 3. データ外部

- リモートシステムから送信されたデータ（これはモジュールベースのレイヤーではありません）。

## 4. マッピング

- データは、このオペレーション(入信する依頼データ用マッピング)のためのマッピング構成で指定されるように、外部システム・フォーマットからOTRS内部形式へ変換されます。
- 既に変換されたデータは、供給者に返されます。

## 5. データ内部

- 変換され、そしてオペレーション(これはモジュールベースのレイヤではありません)に渡される準備が整ったデータ。

## 6. オペレーション

- データを受取り、有効化します。
- ユーザ・アクセス・コントロールを行います。
- アクションを実行します。

### 11.2.1.2. OTRSレスポンス:

#### 1. オペレーション

- 供給者に結果データを返します。

#### 2. データ内部

- オペレーションから返されるデータ。

#### 3. マッピング

- データは、マッピング構成(発信の応答データ用マッピング)で指定されるリモート・システム・フォーマットに変換されます。
- 既に変換されたデータは、供給者に返されます。

#### 4. データ外部

- 返答としてネットワーク・トランスポートに渡されるために変換され、準備されるようなデータ。

#### 5. ネットワーク・トランスポート

- 既にリモート・システム・フォーマット済みのデータを受け取ります。
- このネットワーク・トランスポートタイプのための有効なレスポンスを構成します。

#### 6. HTTPレスポンス

- 応答はウェブサービス・クライアントに返送されます。

- エラーの場合には、エラー・レスポンスが、遠隔のシステム(例えばSOAPエラー、HTTPエラーなど)に送られます。

## 11.2.2. 依頼者としてのOTRS

### 11.2.2.1. OTRS依頼:

#### 1. イベント・トリガー・ハンドラ

- ウェブサービス構成に基づいて、依頼が同期か非同期かを決定します。
  - 同期
    - 依頼者への直通電話は、新規依頼を作成し、それをレイヤーを通して渡すためにされます。
  - 非同期
    - OTRSスケジューラのための新規一般インターフェース(依頼者)タスクを作成します。(スケジューラに依頼の実行を委任することによって、ユーザー体験は非常に改善されるかもしれませんが、そうでなければ、常に依頼を準備する必要になってしまいます。またリモート実行はそれらの依頼のきっかけとなるOTRSイベントに追加されます。)
    - その次のサイクルでは、スケジューラ・プロセスは新規タスクを読んで、新規依頼を作成し、それをレイヤーへ渡す依頼者への呼び出しを作成します。

#### 2. 依頼アクション(Invokers)

- イベントからデータを受け取ります。
- 受信データ(もし必要ならば)を有効にします。
- データを補足する(もし必要ならば)呼び出しコア・モジュール。
- 依頼データ構造を返すか、あるいは卒なく依頼を取り消すために依頼者にStop Communication信号を送ってください。

#### 3. データ内部

- 依頼アクション(Invokers)(これはモジュールベースのレイヤではありません)から渡されるようなデータ。

#### 4. マッピング

- データは、マッピング構成(発信の応答データ用マッピング)で指定されるリモート・システム・フォーマットに変換されます。
- 既に変換されたデータは、依頼者に返されます。

#### 5. データ外部

- 変換され、遠隔のシステムに送るために準備できたデータ。

#### 6. ネットワーク・トランスポート

- 依頼者からリモート・システム表示形式に既に変換されたりリモート・オペレーション・フォーマットおよびデータを受け取ります。
- ネットワーク・トランスポートの有効な依頼を構成します。
- 遠隔のシステムにリクエストを送り、応答を待ちます。

### 11.2.2.2. リモート応答:

#### 1. ネットワーク・トランスポート

- レスポンスを受け取り、データ・ペイロードをデコードします。
- 依頼者にデータを返します。

#### 2. データ外部

- リモート・システムから受け取るデータ。

#### 3. マッピング

- データは、このオペレーション(入信応答データ用マッピング)のためのマッピング構成の中で指定される外部システム・フォーマットからOTRS内部形式へと変換されます。
- 既に変換されたデータは、依頼者に返されます。

#### 4. データ内部

- 既に変形済データは、依頼者に返されます。

#### 5. 依頼アクション(Invokers)

- 返信データを受け取る
- 特に各依頼アクション(Invokers)(もしあればエラーハンドリングを含む)に必要とされていたデータを処理します。
- 依頼者に依頼アクション(Invokers)結果およびデータを返します。

#### 6. イベント・ハンドラあるいはスケジューラ

- 依頼者からのデータを受け取ります。スケジューラの場合、このデータは、タスクを直ぐにまたは将来に再スケジュールするような情報を含んでいるかもしれません。

## 11.3. ウェブサービス

Webサービスは、私たちの場合、OTRSとリモート・システムとの間のコミュニケーション方法です。

Webサービスの核心はその構成(Configuration)です。尚、ここで、以下が定義されます。ウェブサービスがどのアクションを内部に行なうことができるか(オペレーション)、どんなアクションが、OTRS要求がリモート・システムを実行できるか(依頼アクション(Invokers))どのようにデータが他からひとつのシステムへ変換されるか(Mapping)そしてどのプロトコル上でコミュニケーションが発生するのはどのプロトコル上か(Transport)。

The Generic Interface is the framework that makes it possible to create Web Services for OTRS in a predefined way, using already made building blocks that are independent from each other and interchangeable.

## 11.4. ウェブサービス・グラフィカル・インターフェース

ウェブサービスGUI(GUI)は、ユーザー・フレンドリーで便利なインターフェースで複雑なウェブサービス構成を構築することを可能にするツールです。それは次のものに許可します:

- ウェブサービスを作成および削除します。

- 既存のウェブサービスのためのエクスポート/インポート構成(YAMLファイルフォーマット中の)。
- ビュー、ウェブサービスで既存のウェブサービス用の復旧と旧構成のエクスポート
- デバッグ画面中の各ウェブサービスのすべてのコミュニケーション・ログを追跡してください。

### 11.4.1. ウェブサービス概要

管理者インターフェース(システム管理ボックス中の)のメイン画面中の「ウェブサービス」リンクは、ウェブサービス概要画面に向かいます。そこでは、ウェブサービス構成を管理することができます。新規ウェブサービスを加えるか、あるいはこの画面からの既存の構成を変更することができます。

ウェブサービス構成画面は、その上部に案内のために「パンくずリスト」を持っています。この案内はウェブサービス構成のどの部分に自分がいるのかを正確に知るために便利です。

また、その案内は、さらにユーザが構成プロセスの任意の部分にいつでも(このアクションは変更を保存しないでしょ)ジャンプすることを可能にします。

#### 注記

新規ウェブサービスを作るために、「ウェブサービスの追加」ボタンを押し、必須情報を提供します。

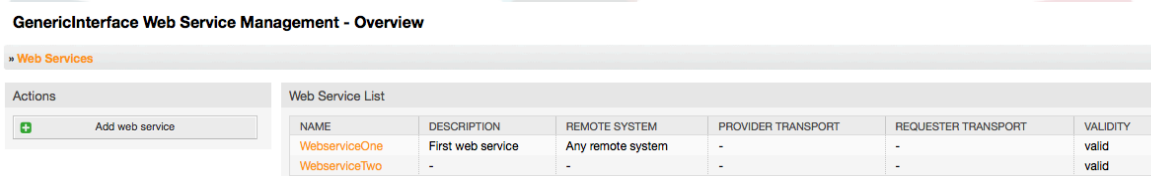


図:ウェブサービス概要

### 11.4.2. ウェブサービスの追加

この部分中の必要な唯一のフィールドは、システムにおいて独特である必要があり、空にしておくことができないウェブサービス「名」です。さらに、他のフィールドは「デバッグのしきい値」および「有効性」のように構成に必要であるが、これらのフィールドはすでに各リスト用にデフォルト値でたくさんあります。

「デバッグのしきい値」のためのデフォルト値は「デバッグ」します。このように構成された時、全てのコミュニケーションログがデータベースで登録されます。続いて起こるデバッグ閾値はより制限的で システム内の1セットより低く古いコミュニケーションログを破棄します。

#### デバッグ閾値レベル(下から上へ)

- Debug
- Info
- 通知
- Error

さらに、「供給者としてのOTRS」および「依頼者としてのOTRS」のためのネットワーク・トランスポート・プロトコルを定義することは可能です。

データベースの中で新規ウェブサービスを登録するために「保存」ボタンをクリックするか、またはこのオペレーションを廃棄するために「キャンセル」をクリックして下さい。ウェブサービス概要画面に戻ります。

YAMLフォーマットの中に既にウェブサービス構成ファイルを持っていれば、画面の左側の「インポート・ウェブサービス」ボタンをクリックすることができます。ウェブサービスのインポートについてより詳細には、次のセクション「ウェブサービス変更」をチェックしてください。

## 注記

ウェブサービスに、より多くの詳細を変更・追加するためには、ウェブサービス概要画面中のウェブサービス名をクリックしてください。

**GenericInterface Web Service Management - Add**

» Web Services » New Webservice

**Actions**

← Go to overview

↑ Import web service

---

**Hint**

After you save the configuration you will be redirected again to the edit screen.  
If you want to return to overview please click the "Go to overview" button.

**General**

★ Name:

Description:

Remote system:

Debug threshold:

Validity:

---

▼ OTRS as provider

In provider mode, OTRS offers web services which are used by remote systems.

**Settings**

Network transport:

**Operations**

Operations are individual system functions which remote systems can request.

NAME	DESCRIPTION	CONTROLLER	INBOUND MAPPING	OUTBOUND MAPPING
No data found.				

---

▼ OTRS as requester

In requester mode, OTRS uses web services of remote systems.

**Settings**

Network transport:

**Invokers**

Invokers prepare data for a request to a remote web service, and process its response data.

NAME	DESCRIPTION	CONTROLLER	INBOUND MAPPING	OUTBOUND MAPPING
No data found.				

---

**Save**

or

図:ウェブサービスの追加

### 11.4.3. ウェブサービス変更

この画面においては、ウェブサービスのすべての部分を扱う機能の完全セットを持っています。アクション・カラムの左側に

いくつかのボタンがあります。それによりウェブサービス上で全ての可能なアクションを実行できます。

- Clone web service.(クローン・ウェブサービス)
- Export web service.(エクスポート・ウェブサービス)
- Import web service.(インポート・ウェブサービス)
- Configuration History.(構成履歴)
- Delete web service.(ウェブサービスの削除)
- Debugger.(デバugg)

## 注記

「構成履歴」および「デバッガ」はあなたを異なる画面へ導きます。

### 11.4.3.1. ウェブサービスのクローン

ウェブサービスのクローンを作るために、「クローンのウェブサービス」ボタンをクリックする必要があります。ダイアログは、あなたが使用できるデフォルト名またはウェブサービス用の新規名を表示します。

## 注記

ウェブサービスの名前が間違いなくシステム内にユニークであることを忘れないでください。

ウェブサービスのクローンを作成するために「クローン」ボタンをクリックして下さい。またはダイアログを閉じるために「キャンセル」をクリックして下さい。

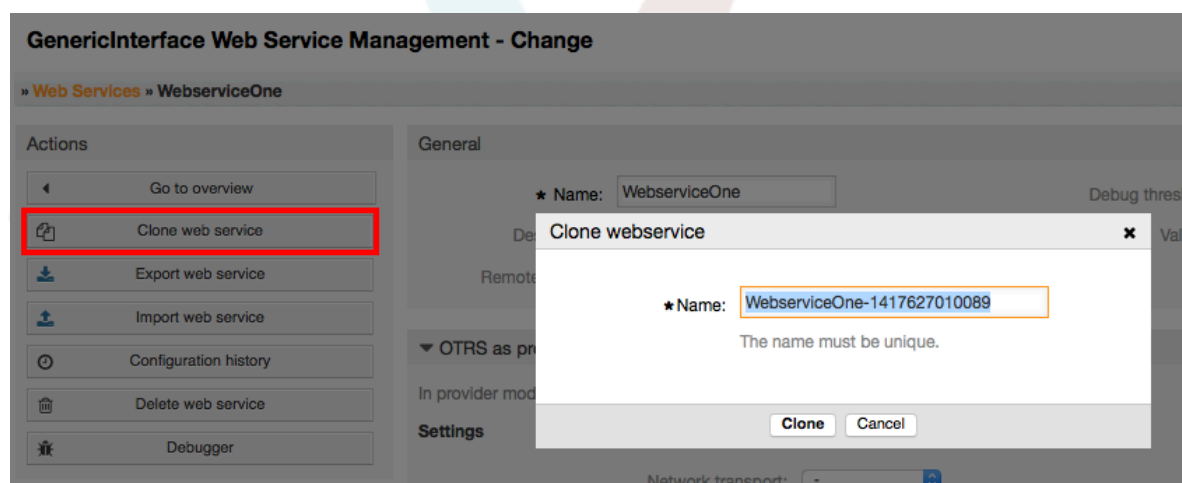


図:ウェブサービスのエクスポート

### 11.4.3.2. ウェブサービスのエクスポート

「エクスポート ウェブサービス」ボタンは、YAMLファイルの中への現在のウェブサービスの構成をダンプし、それをダウンロードし、ファイルシステム上にそれを格納する機会を与えます。ウェブサービスを統合したければこれは特に有用です。（ひとつのサーバからもうひとつのサーバへ。例えばテスト環境から生産システムへ）

## 警告

ウェブサービス構成中の格納されたパスワードはすべて、プレーンテキスト・フォーマットでエクスポートされます。

「エクスポート・ウェブサービス」をクリックする直後、ちょうどウェブページ上のファイルダウンロードリンクでクリックする時のようにブラウザの保存ダイアログが現れます。

## 注記

各オペレーティング・システム上のブラウザにはそれぞれそれ自身の保存ダイアログ画面およびスタイルがあります。ブラウザとその構成によってはダイアログが示されないことはありえます。また、ファイルはデフォルト・ディレクトリにあなたのファイルシステム上に保存されます。必要な場合はより特殊な指示があるかブラウザ・ドキュメンテーションをチェックしてください。

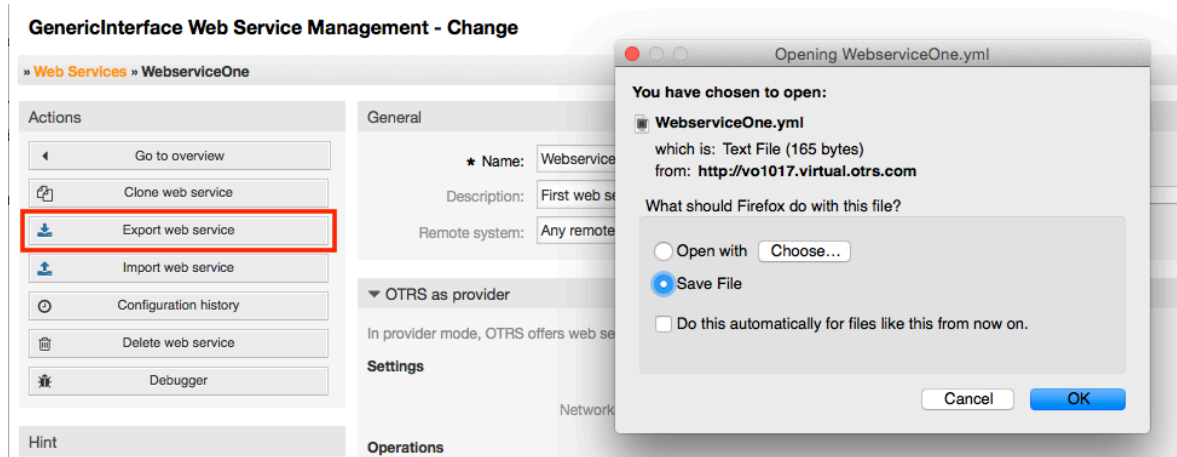


図:ウェブサービスのエクスポート

### 11.4.3.3. ウェブサービスのインポート

有効なウェブサービス構成YAMLファイルは、インポート・ウェブサービス機能を使用するように要求されます。「インポート・ウェブサービス」ボタンをクリックし、構成ファイルを探してブラウザし、入力ボックス中の完全なパスを提供してください。

ファイルから新規ウェブサービスを作るために「インポート」ボタンをクリックするか、あるいはダイアログを閉じるために「キャンセルしてください。」

#### 注記

ウェブサービス名は、構成ファイル名から得られます。(例えば、ファイル名がMyWebservice.ymlならば、結果として生じるウェブサービスはMyWebserviceと命名されます。)ウェブサービスが、あなたがインポートしたいウェブサービスと同じ名前でシステムで登録されれば、システムは、あなたにインポートウェブサービスの名前を変更させるためにウェブサービス変更画面に導くでしょう。

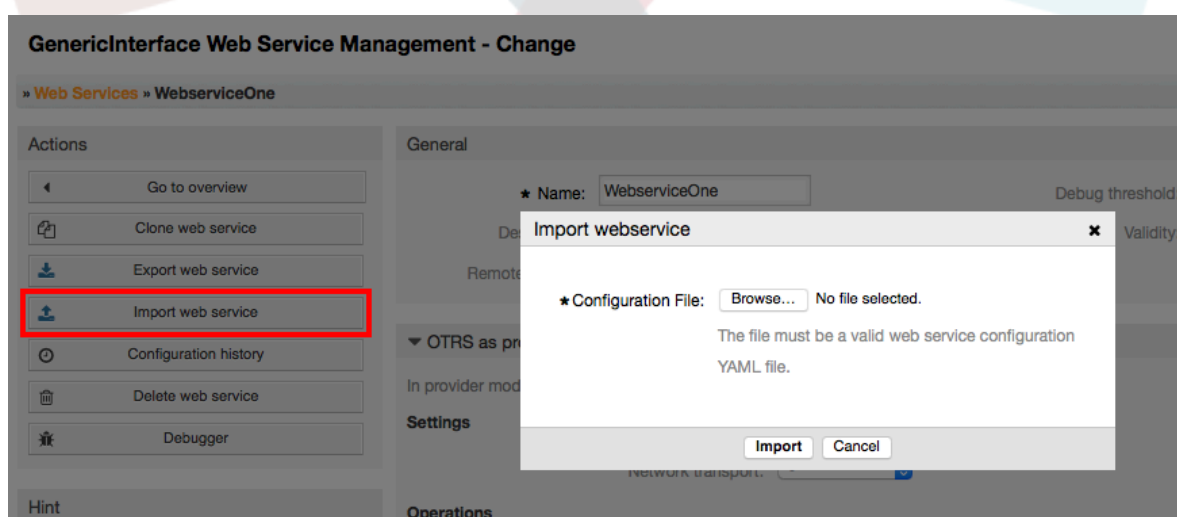


図:ウェブサービスのインポート

### 11.4.3.4. ウェブサービス履歴

ウェブサービス構成へのすべての変更はウェブサービス履歴(ジャーナルとしての)に新規エントリを作ります。ウェブサービス履歴画面は、ウェブサービスのためのすべての構成バージョンの



リストを表示します。「構成履歴の一覧」の中の列(バージョン)はそれぞれ、ウェブサービス履歴に一度の修正を表わします。

それが特定の日付/時刻であれば、全体の構成を示すには行のうちの1つをクリックしてください。構成はこの画面の「履歴詳細」セクションの中で示されるでしょう。ここでは、選択されたウェブサービス構成バージョンをエクスポートすることも、あるいは現在のウェブサービス構成へそのバージョンを回復することもできます。

「エクスポート・ウェブサービス構成」は、ウェブサービス変更画面中の「エクスポート・ウェブサービス」機能として正確に作用します。より詳細には、そのセクションを参照します。

現在のウェブサービス構成への変更が予想通りに働かず、変更を手動で復帰するのが簡単でない場合、「ウェブサービス構成を復帰」ボタンをクリックすることができます。これは、あなたが必ずウェブサービス構成を復帰させるかどうかあなたに尋ねるためにダイアログを開始するでしょう。現在の選択したバージョンで構成を代替するためにこのダイアログで「ウェブサービス構成を復帰」をクリックするか、あるいは、「キャンセル」をクリックしてダイアログを閉じます。

## 警告

ウェブサービス構成に格納されたどんなパスワードもプレインテキスト・フォーマットでエクスポートされるだろうということを覚えておいてください。

構成を回復する場合は注意してください。このプロセスは不可逆です。

**GenericInterface Configuration History for Web Service WebserviceOne**

» Web Services » WebserviceOne » History

**Actions**

Go back to Web Service

**Hint**

Here you can view older versions of the current web service's configuration, export or even restore them.

**Configuration History List**

6	2014-12-03 18:33:43
5	2014-12-03 18:32:50
4	2014-12-03 18:32:21
3	2014-12-03 18:31:48
2	2014-12-02 02:35:52
1	2014-12-02 02:33:25

Select a single configuration version to see its details.

**History Details: Version 6, 2014-12-03 18:33:43**

Export web service configuration | Restore web service configuration

```

---
Debugger:
  DebugThreshold: debug
  TestMode: '0'
Description: First web service
Provider:
  Operation:
    TicketGet:
      Description: Testing
      MappingInbound:
        Type: Simple
      MappingOutbound:
        Type: Simple
        Type: Ticket::TicketGet
  Transport:
    Config:
      Authentication: {}
      MaxLength: '2048'
      Namespace: Provider Transport
      Type: HTTP::SOAP
    RemoteSystem: Any remote system
  Requester:
    Transport:
      Config:
        Authentication: {}
        Encoding: ''
        Endpoint: http://local.otrs.com:8000/Webservice/Example
        Namespace: http://www.otrs.com/GenericInterface/actions
        SOAPAction: Yes
        SOAPActionSeparator: '#'
      Type: HTTP::SOAP
          
```

図:ウェブサービス履歴

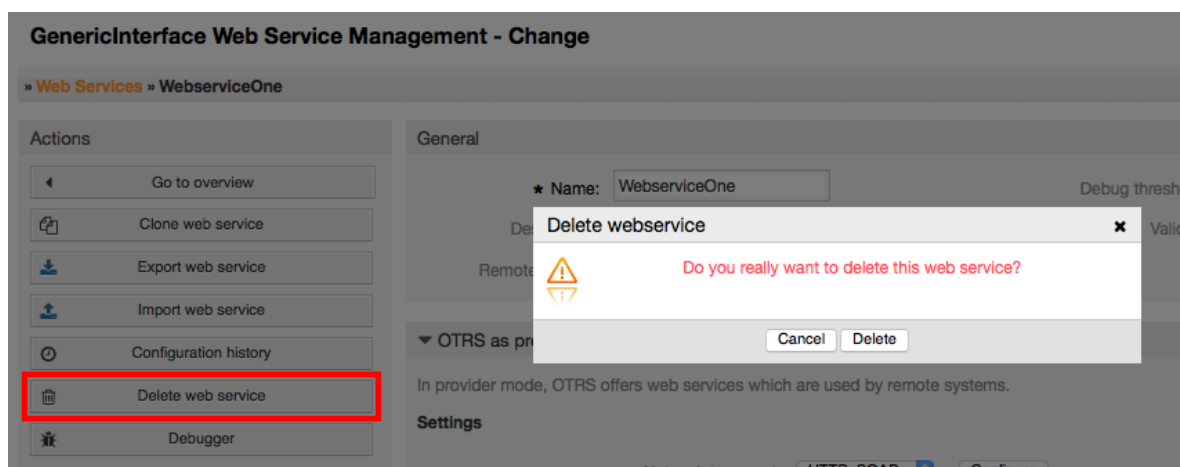
### 11.4.3.5. ウェブサービスの削除

時としてウェブサービスを完全に削除することが必要な場合があります。これをするために、あなたは「ウェブサービスの削除」ボタンを押すことができます。すると、新規ダイアログが確認を求めて現われるでしょう。

ウェブサービスの削除を確認するために「削除」をクリックするか、またはダイアログを閉じるために「キャンセル」をクリックして下さい。

## 警告

ウェブサービスの削除はやり直しがききません。ウェブサービスを削除する場合、注意してください。



図：ウェブサービスの削除

### 11.4.3.6. ウェブサービス・デバグ

デバグは、ウェブサービスのログを格納します。デバグ画面では、供給者あるいは依頼者タイプのいずれかのためのウェブサービス・コミュニケーションをすべて追跡することができます。

この画面が示される場合、依頼リストがロードし始めます。リストが完全に満たされた後、その詳細をチェックするために列のうちの1つを選ぶことができます。(列とはコミュニケーション・シーケンスを意味します)これは詳述します、下のボックスに現われます。

画面の右側ではフィルタを使用して、コミュニケーション・リストを狭くすることができます。次のものによってフィルタすることができます：

- コミュニケーション・タイプ(供給者または依頼者)
- 日付:前、及び/または特定の日付の後
- リモートのIPアドレス
- 上記すべての組み合わせ

フィルタ設定がセットされた後、「リフレッシュ」ボタンを押してください。検索基準を満たす新規リストが表示されるはずですが。

## 注記

フィルターの検索基準に依存しますが、新規リストが結果を返さないこともあり得ます。

アクション・カラムの下の画面の左の側では、「ウェブサービスに戻る」を選択するか、あるいは「クリア」ボタンを押すことによりデバグログを取り除くことができます。ダイアログが開いて、ログの削除を確認されます。アクションを実行するためにダイアログボタンで「クリア」をクリックするか「キャンセル」をクリックしてこのダイアログを閉じます。

「リクエスト詳細」セクションで、選択されたコミュニケーションの詳細をすべて見ることができます。ここでは、完全なフローを追跡し、起こりうるエラーをチェックし、あるいは成功の応答を確認することができます。

## GenericInterface Debugger for Web Service GenericTicketConnectorSOAP

» Web Services » GenericTicketConnectorSOAP » Debugger

Actions

Go back to web service

Clear

Request List

TYPE	TIME	REMOTE IP
Provider	2014-12-03 18:54:28	000.000.000.0
Provider	2014-12-03 18:54:34	000.000.000.0
Provider	2014-12-03 18:54:38	000.000.000.0
Provider	2014-12-03 18:54:39	000.000.000.0

Filter by type: [dropdown]

Filter from: [12] / [12] / [2013]

Filter to: [12] / [03] / [2014]

Filter by remote IP: [input]

Refresh

Select a single request to see its details.

---

Request Details

Communication sequence started (2014-12-03 18:54:35, debug)

Received data by provider from remote system (2014-12-03 18:54:35, debug)

```

<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/" xmlns:tic="http://www.otrs.org/TicketConnec
<soapenv:Header/
<soapenv:Body>
  <TicketGet>
    <!--You have a CHOICE of the next 3 items at this level-->
    <!--Optional:-->
    <tic:UserLogin>stefan.bedorf</tic:UserLogin>
    <!--Optional:-->
    <tic:Password>MyPwd</tic:Password>
    <!--1 or more repetitions!-->
    <tic:TicketID>1</tic:TicketID>
    <!--Optional:-->
    <tic:DynamicFields></tic:DynamicFields>
    <!--Optional:-->
    <tic:Extended>1</tic:Extended>
    <!--Optional:-->
    <tic:AllArticles>1</tic:AllArticles>
    <tic:Attachments>1</tic:Attachments>
  </TicketGet>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
  
```

Detected operation 'TicketGet' (2014-12-03 18:54:35, debug)

No data provided

Incoming data before mapping (2014-12-03 18:54:35, debug)

```

$VAR1 = {
  'AllArticles' => '1',
  'Attachments' => '1',
  'DynamicFields' => '',
  'Extended' => '1',
  'Password' => 'MyPwd',
  'TicketID' => '1',
  'UserLogin' => 'stefan.bedorf'
};
  
```

Outgoing data before mapping (2014-12-03 18:54:35, debug)

Returning provider data to remote system (HTTP Code: 200) (2014-12-03 18:54:35, debug)

図:ウェブサービス・デバッガ

### 11.4.3.7. ウェブサービス構成変更

ウェブサービス変更画面に戻って、その右側をレビューしましょう。ここでは、ウェブサービスのためのすべての一般データを修正することができます。一般データとはたとえば名前、記述、デバッグ閾値などです。さらに下には二つ以上の選択があります。それによって、「供給者としてのOTRS」や「依頼者としてのOTRS」といったコミュニケーション・タイプ用の特定のパラメータを変更することができます。

ウェブサービス構成は各レベル上に保存する必要があります。このことは設定が変われば、現在の構成レベルを保存してしまうことで、他へのリンクや構成の深い部分が無効になってしまうことを意味します。保存後に、無効となったリンクは

再び構成を継続することを可能にすることで、再度可能にできます。

「供給者としてのOTRS」セクションにおいては、ネットワーク・トランスポート・プロトコルをセットするか構成することが可能です。登録されるネットワーク・トランスポート・バックエンドだけがリストに示されます。ネットワーク・トランスポートを構成するためには「構成」ボタンをクリックします。さらに、このボックスの中に新規オペレーションを追加することは可能です。これを行うためには「オペレーションを追加」リストから可能なオペレーションをひとつ選択します。これはあなたをオペレーション構成画面へ導くでしょう。新規オペレーションを保存した後に、それは上記のテーブルにリストされるでしょう。

「依頼者としてのOTRS」は前のものに非常に似ています。しかし、「オペレーション」の代わりに、ここで依頼アクション(Invokers)を加えることができます。

ウェブサービスの構成を保存し継続するために「保存」ボタンをクリックするか、あるいはウェブサービス概要画面に保存し返るために「保存して終了」をクリックするか、現在の構成レベル変更を廃棄し、かつウェブサービス概要画面に返るために「キャンセル」をクリックして下さい。

**GenericInterface Web Service Management - Change**

» Web Services » GenericTicketConnectorSOAP

**Actions**

- Go to overview
- Clone web service
- Export web service
- Import web service
- Configuration history
- Delete web service
- Debugger

**Hint**

After you save the configuration you will be redirected again to the edit screen.  
If you want to return to overview please click the "Go to overview" button.

**General**

Name: GenericTicketConnectorSO      Debug threshold: Debug

Description: Ticket Connector SOAP Sa      Validity: valid

Remote system:

---

**OTRS as provider**

In provider mode, OTRS offers web services which are used by remote systems.

**Settings**

Network transport: HTTP::SOAP   

**Operations**

Operations are individual system functions which remote systems can request.

NAME	DESCRIPTION	CONTROLLER	INBOUND MAPPING	OUTBOUND MAPPING
SessionCreate	Creates a Session	Session::SessionCreate	-	-
TicketCreate	Creates a Ticket	Ticket::TicketCreate	-	-
TicketGet	Retrieve Ticket data	Ticket::TicketGet	-	-
TicketSearch	Search for Tickets	Ticket::TicketSearch	-	-
TicketUpdate	Updates a Ticket	Ticket::TicketUpdate	-	-

Add Operation:

---

**OTRS as requester**

In requester mode, OTRS uses web services of remote systems.

**Settings**

Network transport:

**Invokers**

Invokers prepare data for a request to a remote web service, and process its response data.

NAME	DESCRIPTION	CONTROLLER	INBOUND MAPPING	OUTBOUND MAPPING
No data found.				

Add Invoker:

---

**Save**

or  or

図:ウェブサービスの変更

## 注記

他の一般インターフェイスの構成画面のように（ネットワーク・トランスポート、オペレーション、依頼アクション(Invokers)およびマッピング）初期の構成（追加）画面は単にふたつのオプションを表します。「保存」と「キャンセル」です。構成画面に再度戻ると、新規オプション「保存および終了」が現われます。この特徴の振る舞いは下に定義されます。

「保存」はデータベースに現在の構成レベルを格納するでしょう。そして、それは、あなたが行った変更をレビューする、あるいはより深い設定を構成するために、前画面に戻ります。

「保存および終了」はデータベースに現在の構成レベルを格納します。また、それは、構成階層中の前画面(直上部の構成レベルへ)に戻ります。

「キャンセル」は、現在の構成レベルへのどんな構成変更も廃棄し、構成階層中の前画面に戻ります。

### 11.4.3.7.1. ウェブサービス供給者のネットワーク・トランスポート

In future the list of available network transports will be increased. Currently only "HTTP::SOAP" and "HTTP::REST" transports are available. Each transport has different

configuration options to setup and they might use different frontend modules to configure them,

供給者として「HTTP::SOAP」プロトコルを構成することは全く簡単です。設定は二つのみです。：「ネームスペース」および「最大のメッセージ長」。これらのフィールドは必須です。最初のものは、曖昧さを少なくする文脈に、SOAP方法を与えるURIです。また、第2のものは、OTRSが処理する SOAPメッセージのために最大サイズ(バイトで)を指定することができるフィールドです。

**GenericInterface Transport HTTP::SOAP for Web Service GenericTicketConnectorSOAP**

Web Services » GenericTicketConnectorSOAP » Provider Transport HTTP::SOAP

Actions	Network transport
<input type="button" value="Go back to web service"/>	Properties Type: HTTP::SOAP * Namespace: <input type="text" value="http://www.otrs.com/TicketConnector/"/> <small>URI to give SOAP methods a context, reducing ambiguities. e.g urn:otrs-com:soap:functions or http://www.otrs.com/GenericInterface/actions</small> * Maximum message length: <input type="text" value="10000000"/> <small>Here you can specify the maximum size (in bytes) of SOAP messages that OTRS will process.</small> <input type="button" value="Save"/> or <input type="button" value="Save and finish"/> or <input type="button" value="Cancel"/>

Figure: Web service provider network transport HTTP::SOAP.

For "HTTP::REST" the configuration might be a bit more complicated, as it grows dynamically for each configured operation by adding: "Route mapping for Operation '<OperationName>':" and "Valid request methods for Operation '<OperationName>':" settings to the default transport settings "Maximum message length:" and "Send Keep-Alive:"

- Route mapping for Operation '<OperationName>':

In this setting a resource path is set. This path must be defined according to the needs of the web service considering that the path in conjunction with the HTTP request method determines the Generic Interface operation to be executed.

Path can contain variables in the form of ':<VariableName>' each path string that fits on the position of the variable name will be added to the request payload using the variable name defined in this setting.

サンプル:

Route mapping: /Resource

- Valid requests:

http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource

http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource?Param1=One

- Invalid requests:

http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/

http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/OtherResource

http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/OtherResource?Param1=One

Route mapping: /Resource/:ID

- Valid requests:

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/1`

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/1?Param1=One`

In both cases ID = 1 will be sent to the operation as part of the payload. In the second case also Param1 = One will be added, depending on the HTTP request method other parameters will be added if they come as a JSON string in the request header.

- Invalid requests:

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource`

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource?Param1=One`

Route mapping: `/Resource/OtherResource/:ID/:Color`

- Valid requests:

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/OtherResource/1/Red`

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/OtherResource/123/Blue?Param1=One`

In the first example ID = 1 and Color = Red, while in the second ID = 123 and Color = Blue.

- Invalid requests:

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/1`

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/OtherResource/1`

`http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/Test/Resource/OtherResource/1?Param1=One`

In the first example the part of the path '`/OtherResource`' is missing as well as the `:Color` variable, on the second example just `:Color` variable is missing.

- Valid request methods for Operation '`<OperationName>`':

The HTTP request methods to determine the operation to use together with the route mapping, possible options: CONNECT, DELETE, GET, HEAD, OPTIONS, PATCH, POST, PUT and TRACE.

Totally different operations can share exactly the same mapping path, but the request method must be unique for each operation, in order to determine correctly the operation to use on each request.

**GenericInterface Transport HTTP::REST for Web Service WebserviceOne**

» Web Services » WebserviceOne » Provider Transport HTTP::REST

Actions

[Go back to web service](#)

Network transport

Properties

Type: HTTP::REST

★ Route mapping for Operation 'TicketGet':

Define the route that should get mapped to this operation. Variables marked by a ':' will get mapped to the entered name and passed along with the others to the mapping. (e.g. /Ticket/:TicketID).

Valid request methods for Operation 'TicketGet':

-  
 CONNECT  
 DELETE  
 GET

Limit this Operation to specific request methods. If no method is selected all requests will be accepted.

★ Maximum message length:

Here you can specify the maximum size (in bytes) of REST messages that OTRS will process.

★ Send Keep-Alive:

This configuration defines if incoming connections should get closed or kept alive.

or

Figure: Web service provider network transport HTTP::REST.

### 11.4.3.7.2. ウェブサービス・オペレーション

The actions that can be performed when you are using OTRS as a provider are called "Operations". Each operation belongs to a controller. Controllers are collections of operations or invokers, normally operations from the same controller need similar settings and share the same configuration dialog. But each operation can have independent configuration dialogs if needed.

Name, Description, Backend, and Mappings are fields that normally appear on every operation, other special fields can appear in non default configuration dialogs to fulfill specific needs of the operation.

通常は、各オペレーションに2つのマッピングする構成セクションがあります。一つは入信データ、もう一つは発信データです。各マッピング指示のために異なるマッピングするタイプ(バックエンド)を選ぶことができます。なぜなら、それらの構成が互いから独立して、さらにオペレーション・バックエンドから独立しているからです。正常で、最も一般的な実行は、両方のケースに(逆の構成を持つ)同じマッピングタイプを使うオペレーションです。完全なマッピング構成は、マッピングタイプに依存して個別の画面の中で行われます。

オペレーション・バックエンドは事前に投入されており編集可能ではありません。ウェブサービス編集画面に対するオペレーションを選択する時、このパラメタを見るでしょう。フィールドは参考に過ぎません。

In the left part of the screen on the action column you have the options: "Go back to web service" (discarding all changes since the last save) and "Delete". If you click on the last one, a dialog will open and ask you if you like to remove the operation. Click on "Delete" button to confirm the removal of the operation and its configuration or "Cancel" to close the delete dialog.

## Change Operation TicketGet of Web Service WebserviceOne

» Web Services » WebserviceOne » Change operation TicketGet

Actions	Operation Details
<input type="button" value="Go back to web service"/> <input type="button" value="Delete"/>	<p>★ Name: <input type="text" value="TicketGet"/>  <small>The name is typically used to call up this web service operation from a remote system.</small></p> <p>Description: <input type="text" value="Testing"/></p> <p>Mapping for incoming request data: <input type="button" value="Simple"/> <input type="button" value="Configure"/>  <small>The request data will be processed by this mapping, to transform it to the kind of data OTRS expects.</small></p> <p>Operation backend: <input type="text" value="Ticket::TicketGet"/>  <small>This OTRS operation backend module will be called internally to process the request, generating data for the response.</small></p> <p>Mapping for outgoing response data: <input type="button" value="Simple"/> <input type="button" value="Configure"/>  <small>The response data will be processed by this mapping, to transform it to the kind of data the remote system expects.</small></p> <p><input type="button" value="Save"/> or <input type="button" value="Save and finish"/> or <input type="button" value="Cancel"/></p>

図:ウェブサービス・オペレーション

### 11.4.3.7.3. ウェブサービス依頼者ネットワーク・トランスポート

依頼者用ネットワークトランスポート構成は供給者用の構成に似ています。依頼者の「HTTP::SOAP」ネットワーク・トランスポートのために、セットすることができるフィールドがさらにもっとあります。

必須フィールドの「エンドポイント」および「ネームスペース」とは別に、(エンドポイントとは、リクエストを受け入れるリモート・システム・ウェブサービス・インターフェースのURIのこと)さらに次のように明示することができます:

- SOAPメッセージのための符号化(utf-8, latin1, iso-8859-1, cp1250など)
- SOAPAction Header: you can use this to send an empty or filled SOAPAction header. Set to "No" and the SOAPAction header on the SOAP message will be an empty string, or set to "Yes" to send the soap action in Namespace#Action format and define the separator (typically "/" for .Net web services and "#" for the rest).
- 認証: 認証機構をセットするためには、いかなる認証も使わないか、またはリストからひとつを選択するために、「-」をセットします。そうすればフィールド詳細が現れるでしょう。

## 注記

Currently only the "BasicAuth" (HTTP) authentication mechanism is implemented. You can decide whether or not to use it depending on the Remote System configuration. If used, you must provide the User Name and the Password to access the remote system.

## 警告

認証用パスワードを供給しそのあとでYAMLファイルをウェブサービスへエクスポートするならば、このパスワードは暴露され、TYAMLファイルの内部のプレーンテキスト文字列に書き込まれるでしょう。必要に応じて予防措置を講じてください。



**GenericInterface Transport HTTP::SOAP for Web Service WebserviceOne**

» Web Services » WebserviceOne » Requester Transport HTTP::SOAP

Actions

◀ Go back to web service

Network transport

Properties

Type: HTTP::SOAP

★ Endpoint:   
URI to indicate a specific location for accessing a service.  
 e.g. http://local.otrs.com:8000/Webservice/Example

★ Namespace:   
URI to give SOAP methods a context, reducing ambiguities.  
 e.g. urn:otrs-com:soap:functions or http://www.otrs.com/GenericInterface/actions

Encoding:   
The character encoding for the SOAP message contents.  
 e.g. utf-8, latin1, iso-8859-1, cp1250, Etc.

SOAPAction:    
Set to "Yes" to send a filled SOAPAction header.  
 Set to "No" to send an empty SOAPAction header.

SOAPAction separator:    
Character to use as separator between name space and SOAP method.  
 Usually .Net web services uses a "/" as separator.

Authentication:    
The authentication mechanism to access the remote system.  
 A "-" value means no authentication.

Use SSL Options:    
Show or hide SSL options to connect to the remote system.

or  or

Figure: Web service requester network transport (HTTP::SOAP).

In the case of HTTP::Rest, this configuration also grows dynamically depending on the configured invokers by adding "Controller mapping for Invoker '<InvokerName>':" and "Valid request command for Invoker '<InvokerName>':" for each invoke. Authentication and SSL options are similar to the ones in HTTP::SOAP

- ホスト

The host name or IP Address and port of the remote system, if no port is specified, port 80 is used by default.

- Controller mapping for Invoker '<InvokerName>':

In this setting a resource path is set. This path must be defined according to the needs of the remote web service and following its definition.

Path can contain variables in the form of ':<VariableName>' for each variable name that matches the current data (to be sent), will be replaced by the corresponding data value. This matched variable names and values will be remove from the current data. Depending on the HTTP request command the remaining data could be sent as a JSON string in the request body or as query parameters within the URI.

サンプル:

For data: Var1 = One, Var2 = Two, Var3 = Three and Var4 = Four.

Controller mapping: /Resource

- After Replacements:

/Resource

- Remaining Data:

Var1 = One, Var2 = Two, Var3 = Three and Var4 = Four

Controller mapping: /Resource/:Var1

- After Replacements:

/Resource/One

- Remaining Data:

Var2 = Two, Var3 = Three and Var4 = Four

Controller mapping: /Resource/:Var1?Param1=:Var2&Var3=:Var3

- After Replacements:

/Resource/One?Param1=Two&Var3=Three

- Remaining Data:

Var4 = Four

- Valid request command for Invoker '<InvokerName>':

This determine the HTTP request method to use, possible options: CONNECT, DELETE, GET, HEAD, OPTIONS, PATCH, POST, PUT and TRACE. If no command is selected, Default command is used.

- デフォルトコマンド

Used as a fall-back for all Invokers with out a defined request command

**GenericInterface Transport HTTP::REST for Web Service WebserviceOne**

» Web Services » WebserviceOne » Requester Transport HTTP::REST

Actions	Network transport
<input type="button" value="Go back to web service"/>	<b>Properties</b> Type: HTTP::REST ★ Host: <input type="text" value="https://www.otrs.com:10745/api/v1.0"/> <small>Remote host URL for the REST requests. e.g https://www.otrs.com:10745/api/v1.0 (without trailing backslash)</small> Default command: <input type="text" value="GET"/> <input type="button" value="v"/> <small>The default HTTP command to use for the requests.</small> Authentication: <input type="text" value="BasicAuth"/> <input type="button" value="v"/> <small>The authentication mechanism to access the remote system. A "*" value means no authentication.</small> ★ User: <input type="text"/> <small>The user name to be used to access the remote system.</small> Password: <input type="text"/> <small>The password for the privileged user.</small> Use SSL Options: <input type="text" value="No"/> <input type="button" value="v"/> <small>Show or hide SSL options to connect to the remote system.</small> <input type="button" value="Save"/> or <input type="button" value="Cancel"/>

Figure: Web service provider network transport HTTP::REST.

#### 11.4.3.7.4. ウェブサービス依頼アクション(Invokers)

The actions that can be performed when you are using OTRS as a requester are called "Invokers". Each invoker belongs to a controller (controllers are collections of operations or invokers). Usually invokers from the same controller need similar settings and share the same configuration dialogs. Each invoker can have independent configuration dialogs if needed.

Name, Description, Backend, and Mappings are fields that normally appear on every invoker. Additionally the list of event triggers and other special fields can appear on non default configuration dialogs to fulfill special needs of the invoker.

通常は、各依頼アクション(Invokers)につき2つのマッピング構成セクションがあります。ひとつは入信データでもう一方は発信データです。それらの構成が相互に独立して、さらに依頼アクション(Invokers)バックエンドから独立しているため、各マッピング指示のために異なるマッピングするタイプ(バックエンド)を選ぶことができます。正常で、最も一般的な実行は、依頼アクション(Invokers)が逆の構成で、両方の場合の中で同じマッピングタイプを使用するという事です。完全なマッピング構成は個別の画面の中で行われます。それはマッピングタイプに依存します。

依頼アクション(Invokers)バックエンドは事前に投入されており編集可能ではありません。ウェブサービス編集画面に対する依頼アクション(Invokers)を選択する時、このパラメタを見てください。フィールドは参考に過ぎません。

Event triggers are events within OTRS such as "TicketCreate", "ArticleSend", etc. These can act as triggers to execute the invoker. Each invoker needs to have at least one event trigger registered, or the invoker will be useless, because it will never be called. The asynchronous property of the event triggers define if the OTRS process will handle the invoker or if it will be delegated to the OTRS Scheduler.

## 注記

The OTRS Scheduler is a separate process that executes tasks in the background. Using this the OTRS process itself will not be affected if the Remote System takes a long time to respond, if it is not available or if there are network problems. If you don't use the scheduler using web services can make OTRS slow or non-responsive. Therefore it is highly recommend to use asynchronous event triggers as often as possible.

イベント・トリガーを追加するためには、最初に最初のリストからイベント・ファミリーをつぎに第二のリストからイベント名を選択し、それから非同期プロパティをセットします。(イベントのきっかけが非同期ではないという意味で未検証ならば)プラスのボタンを最後にクリックします。新規イベント・トリガーが作成され、それは依頼アクション(Invokers)「イベント・トリガー」リスト上でリストされます。

To delete an Event trigger, simply locate the event trigger to be deleted in the "Event Triggers" list and click on the trash icon at the end of the row. This will open a dialog that asks you if you are sure to delete the event trigger. Click "Delete" to remove the event trigger from the list, or "Cancel" to close the dialog.

アクション・コラム画面の左部には、以下のオプションがあります:「ウェブサービスに戻る」(最後の保存以来変更をすべて廃棄して)と「削除」です。あなたが最後のものをクリックすれば、ダイアログは出現し、あなたが依頼アクション(Invokers)を削除したいかを尋ねます。確認するために「削除」をクリックすると、依頼アクション(Invokers)とその構成の削除する、あるいは「キャンセル」して削除ダイアログを閉じるかを確認されます。

## Change Invoker InvokerOne of Web Service GenericTicketConnectorSOAP

» Web Services » GenericTicketConnectorSOAP » Change Invoker InvokerOne

Actions

◀ Go back to web service

🗑 Delete

Invoker Details

★ Name:   
The name is typically used to call up an operation of a remote web service.

Description:

Invoker backend:   
This OTRS invoker backend module will be called to prepare the data to be sent to the remote system, and to process its response data.

Mapping for outgoing request data:    
The data from the invoker of OTRS will be processed by this mapping, to transform it to the kind of data the remote system expects.

Mapping for incoming response data:    
The response data will be processed by this mapping, to transform it to the kind of data the invoker of OTRS expects.

Event Triggers:

EVENT	ASYNCHRONOUS	DELETE
TicketCreate	Yes	
TicketMerge	Yes	<input type="button" value="🗑"/>

This invoker will be triggered by the configured events.

Add Event Trigger:    Asynchronous

To add a new event select the event object and event name and click on the "+" button.  
Asynchronous event triggers are handled by the OTRS Scheduler in background (recommended).  
Synchronous event triggers would be processed directly during the web request.

or  or

図:ウェブサービス依頼アクション(Invokers)

### 11.4.3.7.5. ウェブサービスマッピング

There are cases where you need to transform the data from one format to another (map or change data structure), because normally a web service is used to interact with a Remote System, that is highly probable that is not another OTRS system and / or could not understand the OTRS data structures and values. In these cases some or all values have to be changed, and sometimes even the names of the values (keys) or even the complete structure, in order to match with the expected data on the other end. To accomplish this task the Generic Interface Mapping Layer exists.

リモート・システムは自身のデータ構造を持ちます。それは新規マッピングモジュールをおののケースに対して作成することができます。(例えば、OTRS出荷時で、SAPソリューションマネージャに用にカスタマイズされたマッピング・モジュールがあります。)しかし、それは必ずしも必要だとは限りません。モジュールMapping::Simpleは、ほとんどのマッピング要求をカバーすべきです。

### 注記

Mapping::Simpleがウェブサービスのすべてのマッピングする必要をカバーするとは限らない場合、新規マッピングモジュールが作成されるべきです。新規マッピングするモジュールを作成する方法に関してもっと学習するために、OTRS開発マニュアルを調べてください。

このモジュールは、デフォルト値をマッピングさせる機会を与えます。各キーあるいは全体のコミュニケーション・データに見合う値のために。

画面の初めに、あなたがデフォルトルールをセットできる一般的なセクションを見ます。そのルールは全てのマップされていないキーや値に適用します。利用可能な3つのオプションがあり、これらのオプションは下のようリストされます:

- 保持 (変更しないままにして) : キーや値をとにかく触りません。

- 無視 (キー/値ペアを捨てます):これがキーに適用されれば、それはキーと値を削除します。なぜならキーが削除されると続いてその関連値も削除されるからです。これが値に適用されれば、値だけが削除され、キーは保持されます。この時それは空の値に関連付けられます。
- MapTo (デフォルトとして供給されたキーまたは値の使用) : 定義されたマッピングルールのない全てのキーとまたは値は、デフォルトとしてこれを使います。このオプションを選択するとき、新規のテキストフィールドがこのデフォルトをセットするために現れます。

新規キーマップのために「+」ボタンをクリックすると、単一のマッピング構成用の新規ボックスを表示します。必要なだけ多くのキーマッピングを追加することができます。再度「+」をクリックするだけで新規マッピングボックスが既存のものの下に現れます。このマッピングボックスから、次のようなオプションを持つ単一のキーのためにマップを定義することができます。

- 正確な値(s):古いキーが正確に一致すれば、古い重要な文字列は新規のものに変更されます。
- 正規表現: 重要なストリングは正規表現規則に従って代替されます。

新規値マップ「+」ボタンを押すと、値マップのための新規列を表示します。ここではキーマップに関して同じオプションでマップすべき各値(正確な値および正規表現)に関するルールを定義することも可能も可能です。必要なだけ多くのマップする値を追加できます。そしてもしそれらのひとつを削除したければ、単に各マッピング値の列の「-」ボタンをクリックします。

完全なキーマッピングセクション (ボックス) を削除可能ならば、単に削除したいボックスの右上端にある「-」ボタンを押します。

完全なマッピング構成を削除する必要がある場合: 対応するオペレーションか依頼アクション (Invokers)画面に戻って、以前に選択し、その値を「-」にセットするというマッピング指示を捜して、変更を適用するために構成を保存してください。

GenericInterface Mapping Simple for Web Service WebserviceOne

Web Services » WebserviceOne » Operation TicketGet » Simple Mapping for Incoming Data

Actions

Go back to operation

Mapping Simple

Default rule for unmapped keys:  ⌵  
This rule will apply for all keys with no mapping rule.

Default rule for unmapped values:  ⌵  
This rule will apply for all values with no mapping rule.

New key map:

▼ Mapping for Key KeyNew ⊖

Key mapping:   
 \*Map key:  matching the:  ⌵ \*to new key:

Value mapping:   
 \*Map value:  matching the:  ⌵ \*to new value:

⊖

\*Map value:  matching the:  ⌵ \*to new value:

⊖

New value map:

Save Save and finish or Cancel

図:ウェブサービスマッピング

## 11.5. ウェブサービス・コマンドライン・インターフェイス

コマンドライン・インタフェース(CLI)はウェブサービスとジョブをする速い方法です。それは、基本操作を行なうために使用できるツールセットから成ります:

- YAMLファイルに基づいてウェブサービスを作成、更新、読み込み、リスト、削除します。
- フィルタオプションでデバッグログを読み込みます。

## 注記

ウェブサービスと連動するためにCLIを使用する必要はありません。管理者インターフェースへ統合された、ウェブサービスのすべての部分と相互作用する画面の完全セットがあります。このマニュアルに含まれたウェブサービスGUIセクションを読んでください。

### 11.5.1. ウェブサービス構成

「WebserviceConfig.pl」は基本的だが、速く、強力です、ウェブサービス構成で働くツールとして開発されました。次のアクションを実行できるようになります:

- 追加: 構成ソースとしてYAMLファイルを使うウェブサービスを作成します。
- 更新: 既存のウェブサービスを変更します。異なるまたは変更されたYAMLファイルを使って構成は変更可能です。
- 読み込み: 画面に表示されたウェブサービスの構成を入手します。
- リスト: システムに登録されたすべてのウェブサービスの完全なリストを入手します。
- 削除: システムからウェブサービスを削除すること。このアクションは取消不能なので利用の際はご注意ください。

#### 警告

ウェブサービスREADオペレーションは、プレインテキストとして画面にすべての構成を表示します。これには格納されたパスワードを含みます。これに注意して、必要とされる予防措置を講じてください!

サンプル: 新規ウェブサービス構成の作成:

```
shell> OTRS_HOME/bin/otrs.WebserviceConfig.pl -a write -n <webservice_name> -f /path/to/yaml/file
```

さらに、次のオプションを備えた「otrs.WebserviceConfig.pl」を使用することができます:

- **-a read -i <webservice\_id>** - 格納された構成を読むこと。
- **-a write -n <webservice\_name> -f /path/to/yaml/file** - 新規ウェブサービスを作ること。
- **-a write -i <webservice\_id> -f /path/to/yaml/file** - ウェブサービスを更新すること。
- **-a list** - 利用可能なウェブサービスをリストすること。
- **-a delete -i <webservice\_id>** - ウェブサービスを削除すること。

### 11.5.2. ウェブサービス・デバッグ

コマンドライン・インタフェースによる別の利用可能なツールは"otrs.GenericInterfaceDebugRead.pl" スクリプトです。それはウェブサービス・デバッグ・ログエントリを検索するインターフェイスです。

サンプル: デバッグ・ログエントリの検索:

```
shell> bin/otrs.GenericInterfaceDebugRead.pl
```

オプションのパラメタは"otrs.GenericInterfaceDebugRead.pl"のために使用されます。

- **-c** - コミュニケーションID(md5sumフォーマット)によってフィルタします。

- **-t** - CommunicationType(「プロバイダー」あるいは「依頼者」)によってフィルタします。
- **-a** - 日付(その日、またはある日の後)によってフィルタします。
- **-b** - 日付(その日、またはある日の後)によってフィルタします。
- **-i** - IPアドレス(有効なIPv4かIPv6アドレス)によってフィルタします。
- **-w** - ウェブサービスIDによってフィルタします。
- **-d** - 詳細なコミュニケーション・データを含みます。

サンプル: すべてのパラメータを備えたデバッガ・ログエントリを検索:

```
shell> ./otrs.GenericInterfaceDebugRead.pl -c a7cc4d9f5c70387a9bfbe1351bc88966 -t Provider -a '2011-07-22 00:00:00' -b '2011-07-26 00:00:00' -i 127.0.0.1 -w 123 -d 1
```

## 注記

上記にリストされたフィルタ・オプションの少なくともひとつを含んでいること強くお勧めします、"-d"オプションが選択されていればさらに良いです。なぜならば多くの情報はデータベースから引き出され画面に表示され、さらに実際より必要以上の多くの情報が遅いレスポンス時間の原因となりえます。

## 11.6. ウェブサービス構成

その設計から、ウェブサービスは

単一のOTRSシステムから別のシステム(例えば、テストか開発環境からプロダクション・システムまで)まで

ポータブルになるように着想されました。したがって、それはデータベースからウェブサービス構成を抽出し、かつそれを別のものにインポートする、容易な方法を持つために必要でした。このタスクを遂行するために、一般インターフェースはウェブサービス構成基礎としてYAMLファイルを使用します。

なぜYAMLなのでしょう?

YAMLは人間が読み書きするのに優しいことを目指したマークアップ言語です(JSONより理解するほうが簡単です)。YAMLは数的タグのようなXMLが持ついくつかの制限を持ちません。それはオープンで標準化されており、全ウェブサービス構成を格納するほどに十分に完全です。

## 注記

YAMLについてより知りたければ <http://www.yaml.org/> をご覧ください。

下記はYAMLフォーマットによるウェブサービス設定ファイル例です:

```
---
Debugger:
  DebugThreshold: debug
Description: This an example of a web service configuration
Provider:
  Operation:
    CloseIncident:
      Description: This is a test operation
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      RemoteSystemGuid: ''
      Type: Test::Test
    Test:
      Description: This is a test operation
      MappingInbound:
        Config:
          KeyMapDefault:
            MapTo: ''
```

```
MapType: Keep
KeyMapExact:
Prio: Priority
ValueMap:
  Priority:
    ValueMapExact:
      Critical: 5 Very High
      Information: 1 Very Low
      Warning: 3 Normal
  ValueMapDefault:
    MapTo: 3 Normal
    MapType: MapTo
Type: Simple
MappingOutbound:
Config:
  KeyMapDefault:
    MapTo: ''
    MapType: Ignore
  KeyMapExact:
    Priority: Prio
  ValueMap:
    Prio:
      ValueMapExact:
        1 Very Low: Information
        3 Normal: Warning
        5 Very High: Critical
  ValueMapDefault:
    MapTo: ''
    MapType: Ignore
Type: Simple
Type: Test::Test
Transport:
Config:
  MaxLength: 10000000
  NameSpace: http://www.example.com/actions
  Type: HTTP::SOAP
RemoteSystem: remote.system.description.example.com
Requester:
Invoker:
  Test:
    Description: This is a test invoker
    Events:
      - Asynchronous: 1
        Event: TicketCreate
      - Asynchronous: 0
        Event: ArticleUpdate
    MappingInbound:
      Type: Simple
    MappingOutbound:
      Type: Simple
    Type: Test::Test
Transport:
Config:
  Authentication:
    Password: '*****'
    Type: BasicAuth
    User: otrs
  Encoding: utf-8
  Endpoint: http://www.example.com:8080/endpoint
  NameSpace: http://www.example.com/actions
  SOAPAction: Yes
  SOAPActionSeparator: '#'
  Type: HTTP::SOAP
```

## 11.6.1. 構成詳細

### 11.6.1.1. 一般

- Description(摘要):ウェブサービスを記述する短いテキスト。



- RemoteSystem ( リモート・システム ): リモート・システムの短い摘要。
- Debugger(デバッガ) : デバッガ・セッティング用のコンテナ。
- Provider(供給者): 供給者セッティング用のコンテナ。
- Requester(依頼者): 依頼者セッティング用のコンテナ。

### 11.6.1.2. デバッガ

- デバッグ閾値 : デバッガ・レベル

#### 可能な値

- debug(デバッグ): 全てのログはすべてデータベースに格納されます。
- info(情報): 情報、通知およびエラーレベルログはデータベースに格納されます。
- notice(通知): 通知、エラーレベルログデータベースに格納されます。
- error(エラー): エラーレベルログだけがデータベースに格納されます。

### 11.6.1.3. 供給者

- Operation(オペレーション): 各オペレーション設定用コンテナ。
- Transport ( トランスポート ): ネットワーク・トランスポート用コンテナ。

#### 11.6.1.3.1. オペレーション

- <OperationName>: オペレーション用のユニークな名前、それ自身のオペレーション設定用コンテナ(基数0..n, しかし重複しない)。

##### 11.6.1.3.1.1. <OperationName>

このセクションは、他のオペレーションがもっと含んでいるかもしれないタイ「Test::Test」、あるいは異なるセッティング、からのオペレーションに基づきます。

- Description ( 摘要 ): オペレーションを記述する短いテキスト。
- MappingInbound ( マッピング・インバウンド ): 入信依頼データ用マッピング設定用コンテナ。
- MappingOutbound ( マッピング・アウトバウンド ): 発信応答データ用マッピング設定用コンテナ。
- Type ( タイプ ): Controller::Operation formatでのオペレーション・バックエンド。

##### 11.6.1.3.1.1.1. MappingInbound ( マッピング・インバウンド )

このセクションは、タイプ「Simple」からのマッピングに基づきます。他のマッピングはより多くの異なる設定を含みます。

- Config(構成): このマッピング設定用コンテナ。
- Type ( タイプ ): マッピング・バックエンド。

##### 11.6.1.3.1.1.1.1. Config ( 構成 )

- KeyMapDefault: マップ未設定キーのコンテナ
- ValueMapDefault: 全てのマップ未設定の値の設定のコンテナ。
- KeyMapExact: 全ての正確なキーマッピング (基数 0 .. 1)。
- KeyMapRegEx: 全ての正規表現キーマッピング用コンテナ (基数 0 .. 1)。

- ValueMap: 全ての値マッピング用コンテナ (基数 0 .. 1)。

#### **11.6.1.3.1.1.1.1.1. KeyMapDefault ( マップ未設定キーのコンテナ )**

- MapTo: 使用される新しい値 (MapTypeがMapToにセットされた場合のみ適用可能)。
- MapType: マッピング用規則。

##### 可能な値

- Keep ( 保持 ) : 変更なく終了。
- Ignore ( 無視 ) : やめる
- MapTo ( マップトゥー ) : MapTo値を変更

#### **11.6.1.3.1.1.1.1.2. ValueMapDefault ( 値マップ・デフォルト )**

KeyMapDefault ( キーマップ・デフォルト ) に似ています。

#### **11.6.1.3.1.1.1.1.3. KeyMapExact ( 正確なキーマップ )**

- <oldkey>: <newkey> (基数 0 .. n 但し重複なく)。

#### **11.6.1.3.1.1.1.1.4. KeyMapRegEx**

- <oldkey(RegEx)>: <newkey> (基数 0 .. n 但し重複なく)。

#### **11.6.1.3.1.1.1.1.5. ValueMap**

- <newkey>: a container for value mappings for this new key ( KeyMapExact and KeyMapRegExからの新規キーに依存する基数 )

##### **11.6.1.3.1.1.1.1.5.1. <newkey>**

- ValueMapExact: 全ての性格な値マッピング用コンテナ (基数 0 .. 1)。
- ValueMapRegEx: 全ての正規表現値のマッピング用コンテナ(基数 0 .. 1)。

##### **11.6.1.3.1.1.1.1.5.1.1. valueMapExact**

- <oldvalue>: <newvalue> (基数 0 .. n 但し重複なく)。

##### **11.6.1.3.1.1.1.1.5.1.2. ValueMapRegEx**

- <oldvalue(RegEx)>: <newvalue> ( 基数 0 .. n 但し重複なく)。

#### **11.6.1.3.1.1.2. MappingOutbound**

MappingInboundと同じ。

#### **11.6.1.3.1.1.3. トランスポート**

このセクションは、供給者ネットワーク・トランスポートHTTP::SOAPに基づきます。他のトランスポートはより多く異なるセッティングを含んでいるかもしれません。

- Config ( 構成 ) : 特定のネットワークトランスポート構成セッティング用のコンテナ。
- Type: 供給者ネットワークトランスポートバックエンド。

##### **11.6.1.3.1.1.3.1. Config ( 構成 )**

- MaxLength: OTRSによってSOAPメッセージで読まれるバイトで最大の長さ。
- NameSpace: すべてのオペレーションにこのウェブサービスが所有しているコンテキストを与えるURI。

### 11.6.1.4. 依頼者

- Invoker ( 依頼アクション ): 各依頼アクション(Invokers)のセッティング用のコンテナ。
- Transport(トランスポート): 依頼者ネットワーク・トランスポート設定用コンテナ。

#### 11.6.1.4.1. 依頼アクション(Invokers)

- <InvokerName>: 依頼アクション用のユニーク名前。依頼アクションそれ自身の設定用コンテナ。(基数0..n 但し重複なく)

##### 11.6.1.4.1.1. <InvokerName>

このセクションは、タイプ"Test::Test"からの依頼アクションに基づいています。他の依頼アクションはより多く異なる設定を含んでいるかもしれません。

- Description ( 摘要 ): 依頼アクションを記述する短いテキスト
- Events ( イベント ): イベント・トリガー設定の未命名のリスト用コンテナ
- MappingInbound ( マッピング・インバウンド ): 入信応答データ用マッピング設定用コンテナ
- MappingOutbound ( マッピング・アウトバウンド ): 発信依頼データ用マッピング設定用コンテナ
- Type ( タイプ ): Controller::Invoker フォーマットでの依頼アクションのバックエンド

##### 11.6.1.4.1.1.1. イベント

- リスト要素: (基数 0 .. n)
- Asynchronous ( 非同期 ): もし依頼アクションの実行がスケジューラに可能な値を委任するならばセットします。

##### 可能な値

- 0: スケジューラで取扱い不能です。
- 1: スケジューラで取扱い可能です。
- Event ( イベント ): イベント・。トリガー名。

##### **Possible Values** (チケットのイベント用の)

- チケット作成
- TicketDelete (チケット削除)
- TicketTitleUpdate (チケット・タイトル・更新)
- TicketUnlockTimeoutUpdate (チケット・アンロック・タイムアウト更新)
- TicketQueueUpdate (チケットキュー更新)
- TicketTypeUpdate (チケット・タイプ・更新)
- TicketServiceUpdate (チケットサービス更新)
- TicketSLAUpdate (チケットSLA更新)
- TicketCustomerUpdate (チケット顧客更新)
- TicketFreeTextUpdate (チケットフリーテキスト更新)

- TicketFreeTimeUpdate (チケットフリータイム更新)
- TicketPendingTimeUpdate (チケット保留時間更新)
- TicketLockUpdate (チケットロック更新)
- TicketArchiveFlagUpdate (チケットアーカイブ更新)
- TicketStateUpdate (チケット・状態・更新)
- TicketOwnerUpdate (チケット所有者更新)
- TicketResponsibleUpdate (チケット応答可能更新)
- TicketPriorityUpdate (チケット優先権更新)
- HistoryAdd (履歴追加)
- HistoryDelete (履歴削除)
- TicketAccountTime (チケットアカウント時間)
- TicketMerge (チケット結合)
- TicketSubscribe (チケット・登録)
- TicketUnsubscribe (チケット・登録解除)
- TicketFlagSet (チケットフラグセット)
- TicketFlagDelete (チケットフラグ削除)
- TicketSlaveLinkAdd (チケットスレープリンク追加)
- TicketSlaveLinkDelete (チケットスレープリンク削除)
- TicketMasterLinkDelete (チケットマスターリンク削除)

### **Possible Values (for article events)** (可能な値 (記事イベントに関する))

- Article Events (記事イベント)
- ArticleCreate (記事作成)
- ArticleFreeTextUpdate (記事フリーテキスト更新)
- ArticleUpdate (記事更新)
- ArticleSend (記事送信)
- ArticleBounce (記事返答)
- ArticleAgentNotification (記事担当者通知)
- ArticleCustomerNotification (記事顧客通知)
- ArticleAutoResponse (記事自動返信)
- ArticleFlagSet (記事フラグセット)

- ArticleFlagDelete (記事フラグ削除)
- ArticleAgentNotification (記事担当者通知)
- ArticleCustomerNotification (記事顧客通知)

#### **11.6.1.4.1.1.2. MappingInbound (マッピング・インバウンド)**

オペレーションMappingInboundと同じ

#### **11.6.1.4.1.1.3. MappingOutbound**

オペレーションMappingInboundと同じ。

#### **11.6.1.4.1.1.4. トランスポート**

このセクションは、依頼者ネットワーク・トランスポートHTTP::SOAPに基づきます。他のトランスポートはより多く異なる設定を含むかもしれません。

- Config (構成): 特定のネットワークトランスポート構成セッティング用のコンテナ。
- Type (タイプ): 依頼者ネットワークトランスポートバックエンド

##### **11.6.1.4.1.1.4.1. Config (構成)**

- Authentication(認証): 認証セッティング用のコンテナ
- Encoding(エンコーディング): SOAPメッセージ・リクエスト符号化
- Endpoint(エンドポイント): OTRSリクエストを受け入れるリモート・サーバ・ウェブサービスのURI
- NameSpace(名前空間): すべての依頼アクション(Invokers)にこのウェブサービスが所有しているコンテキストを与えるURI.
- SOAPAction(SOAPアクション): SOAPメッセージ(in "<NameSpace> <Separator> <Action>" format).の中の空が満たされたSOAPActionヘッダーを送ること。

##### 可能な値

- YES(はい): 埋まったSOAPActionヘッダーを送る。
- No(いいえ): 空のSOAPActionヘッダーを送る
- SOAPActionSeparator: 記入された SOAPAction ヘッダの <Separator> をセットする。

##### 可能な値

- '/': .netウェブサービスのために使用されます。
- '#': すべての休息ウェブサービスのために使用されます。

##### **11.6.1.4.1.1.4.1.1. 認証**

- User (ユーザ): リモート・ウェブサービスにアクセスする特権ユーザー名
- Password (パスワード): プレーンテキスト中の特権ユーザー用のパスワード
- Type (タイプ): 認証のタイプ

## **11.7. コネクタ**

コネクタは、OTRSがウェブサービス供給者あるいは依頼アクションとして働く場合、あるいは、OTRSがウェブサービス依頼者として働く場合、オペレーションとも呼ばれるアクションのセッ

トの核心になります。しかし、さらに、それは特別のマッピングあるいはトランスポートも含むことができます。

1つのコネクタは、オペレーションのみ、依頼アクション(Invokers)のみ、あるいはその両方だけ、であり得ます。コネクタはマッピングやトランスポートのように他のコネクタのパーツを利用することさえ可能です。そのようなことは何もコネクタにとっては特殊なことではなくむしろそれらを実装しようとしている。

言いかえれば、コネクタは単なるコントローラー層に制限されていない。しかし、もし必要ならばそれはデータマッピングまたはネットワークのトランスポート層まで拡張することができます。

一般インターフェースのモジュール設計により、コネクタはプラグ・インと見なすことができます。;これは、コネクタを加えることによって、次のものを使用して、一般インターフェースの能力を拡張することができることを意味します: 使用法 : OTRS機能追加、OTRSカスタム・モジュール、サードパーティ・モジュール等。

## 11.7.1. バンドル・コネクタ

OTRSのこのバージョンで含まれて、次のコネクタは、使用される準備ができています。

- セッション
- チケット

### 11.7.1.1. セッション・コネクタ

このコネクタは他のオペレーションの中で使用することができる有効なSessionIDを作成するのに有能である。

提供 :

- オペレーション:
  - セッション作成

#### 11.7.1.1.1. オペレーション

##### 11.7.1.1.1.1. セッション作成

SessionCreateは、TicketCreateのような他のコネクタからの他のオペレーションの中で使用される、新規新規有効なSessionIDを作成します。

### 注記

他のコネクタからの他のオペレーションの中でSessionIDを使用するために、オペレーションはSessionIDによって認証を実装する必要がある。バンドルされたオペレーションの残りはすべて認証方法として有効なSessionIDを受け入れることができます。

可能な属性:

```
<SessionCreate>
  <!--このレベルでは次の2つの必須選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <UserLogin?></UserLogin>
  <!--Optional:-->
  <CustomerUserLogin?></CustomerUserLogin>
  <!--Optional:-->
  <Password?></Password>
</SessionCreate>
```

## 11.7.1.2. チケット・コネクタ

このコネクタは、チケットとダイアログするために基本機能を提供します。

提供：

- オペレーション:
  - チケット作成
  - TicketCreate(チケット作成)
  - TicketGet(チケット取得)
  - TicketSearch(チケット検索)

### 11.7.1.2.1. オペレーション

#### 11.7.1.2.1.1. チケット作成

TicketCreateは、OTRSにチケットを作成するインターフェースを提供します。チケットは記事を含んでいなければいけないし、いくつか添付を含むことができます。全ての定義された動的フィールドも、TicketCreateオペレーション上でセットすることができます。

可能な属性:

```

<TicketCreate>
  <!--このレベルでは次の3つの必須選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <UserLogin?</UserLogin>
  <!--Optional:-->
  <CustomerUserLogin?</CustomerUserLogin>
  <!--Optional:-->
  <SessionID?</SessionID>
  <!--Optional:-->
  <Password?</Password>
  <Ticket>
    <Title?</Title>
    <!--このレベルでは次の2つの必須選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <QueueID?</QueueID>
    <!--Optional:-->
    <Queue?</Queue>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <TypeID?</TypeID>
    <!--Optional:-->
    <Type?</Type>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <ServiceID?</ServiceID>
    <!--Optional:-->
    <Service?</Service>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <SLAID?</SLAID>
    <!--Optional:-->
    <SLA?</SLA>
    <!--このレベルでは次の3つの必須選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <StateID?</StateID>
    <!--Optional:-->
    <State?</State>
    <!--このレベルでは次の2つの必須選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <PriorityID?</PriorityID>
    <!--Optional:-->
    <Priority?</Priority>
  </Ticket>
</TicketCreate>

```

```
<!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
<!--Optional:-->
<OwnerID?</OwnerID>
<!--Optional:-->
<Owner?</Owner>
<!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
<!--Optional:-->
<ResponsibleID?</ResponsibleID>
<!--Optional:-->
<Responsible?</Responsible>
<CustomerUser?</CustomerUser>
<!--Optional:-->
<CustomerID?</CustomerID>
<!--Optional:-->
<PendingTime>
  <Year?</Year>
  <Month?</Month>
  <Day?</Day>
  <Hour?</Hour>
  <Minute?</Minute>
</PendingTime>
</Ticket>
<Article>
  <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <ArticleTypeID?</ArticleTypeID>
  <!--Optional:-->
  <ArticleType?</ArticleType>
  <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <SenderTypeID?</SenderTypeID>
  <!--Optional:-->
  <SenderType?</SenderType>
  <!--Optional:-->
  <From?</From>
  <Subject?</Subject>
  <Body?</Body>
  <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <ContentType?</ContentType>
  <Charset?</Charset>
  <MimeType?</MimeType>
  <!--Optional:-->
  <HistoryType?</HistoryType>
  <!--Optional:-->
  <HistoryComment?</HistoryComment>
  <!--Optional:-->
  <AutoResponseType?</AutoResponseType>
  <!--Optional:-->
  <TimeUnit?</TimeUnit>
  <!--Optional:-->
  <NoAgentNotify?</NoAgentNotify>
  <!-- 0 回以上の繰り返し:-->
  <ForceNotificationToUserID?</ForceNotificationToUserID>
  <!-- 0 回以上の繰り返し:-->
  <ExcludeNotificationToUserID?</ExcludeNotificationToUserID>
  <!-- 0 回以上の繰り返し:-->
  <ExcludeMuteNotificationToUserID?</ExcludeMuteNotificationToUserID>
</Article>
<!-- 0 回以上の繰り返し:-->
<DynamicField>
  <Name?</Name>
  <!-- 1回以上の繰り返し:-->
  <Value?</Value>
</DynamicField>
<!-- 0 回以上の繰り返し:-->
<Attachment>
  <Content>cid:61886944659</Content>
  <ContentType?</ContentType>
  <Filename?</Filename>
</Attachment>
</TicketCreate>
```



### 11.7.1.2.1.2. TicketCreate(チケット作成)

チケット更新オペレーションは、既存のチケットからの属性を修正するかあるいは新規記事を追加する能力を追加します。その記事は、チケットと新規記事のための添付と全ての定義済動的フィールドを含みます。

#### 注記

チケット属性を修正する新規記事を作成することは必要ではありません。

可能な属性:

```

<TicketUpdate>
  <!--このレベルでは次の3つの必須選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <UserLogin?</UserLogin>
  <!--Optional:-->
  <CustomerUserLogin?</CustomerUserLogin>
  <!--Optional:-->
  <SessionID?</SessionID>
  <!--Optional:-->
  <Password?</Password>
  <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
  <TicketID?</TicketID>
  <TicketNumber?</TicketNumber>
  <!--Optional:-->
  <Ticket>
    <!--Optional:-->
    <Title?</Title>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <QueueID?</QueueID>
    <!--Optional:-->
    <Queue?</Queue>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <TypeID?</TypeID>
    <!--Optional:-->
    <Type?</Type>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <ServiceID?</ServiceID>
    <!--Optional:-->
    <Service?</Service>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <SLAID?</SLAID>
    <!--Optional:-->
    <SLA?</SLA>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <StateID?</StateID>
    <!--Optional:-->
    <State?</State>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <PriorityID?</PriorityID>
    <!--Optional:-->
    <Priority?</Priority>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
    <OwnerID?</OwnerID>
    <!--Optional:-->
    <Owner?</Owner>
    <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
    <!--Optional:-->
  
```

```

<ResponsibleID?></ResponsibleID>
<!--Optional:-->
<Responsible?></Responsible>
<!--Optional:-->
<CustomerUser?></CustomerUser>
<!--Optional:-->
<CustomerID?></CustomerID>
<!--Optional:-->
<PendingTime>
  <Year?></Year>
  <Month?></Month>
  <Day?></Day>
  <Hour?></Hour>
  <Minute?></Minute>
</PendingTime>
</Ticket>
<!--Optional:-->
<Article>
  <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <ArticleTypeID?></ArticleTypeID>
  <!--Optional:-->
  <ArticleType?></ArticleType>
  <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <SenderTypeID?></SenderTypeID>
  <!--Optional:-->
  <SenderType?></SenderType>
  <!--Optional:-->
  <From?></From>
  <Subject?></Subject>
  <Body?></Body>
  <!--このレベルでは次の2つの選択項目があります。-->
  <!--Optional:-->
  <ContentType?></ContentType>
  <Charset?></Charset>
  <MimeType?></MimeType>
  <!--Optional:-->
  <HistoryType?></HistoryType>
  <!--Optional:-->
  <HistoryComment?></HistoryComment>
  <!--Optional:-->
  <AutoResponseType?></AutoResponseType>
  <!--Optional:-->
  <TimeUnit?></TimeUnit>
  <!--Optional:-->
  <NoAgentNotify?></NoAgentNotify>
  <!--Zero or more repetitions:-->
  <ForceNotificationToUserID?></ForceNotificationToUserID>
  <!--Zero or more repetitions:-->
  <ExcludeNotificationToUserID?></ExcludeNotificationToUserID>
  <!--Zero or more repetitions:-->
  <ExcludeMuteNotificationToUserID?></ExcludeMuteNotificationToUserID>
</Article>
<!--Zero or more repetitions:-->
<DynamicField>
  <Name?></Name>
  <!--1 or more repetitions:-->
  <Value?></Value>
</DynamicField>
<!--Zero or more repetitions:-->
<Attachment>
  <Content>cid:166861569966</Content>
  <ContentType?></ContentType>
  <Filename?></Filename>
</Attachment>
</TicketUpdate>

```

### 11.7.1.2.1.3. TicketGet(チケット取得)

このオペレーションは全てのチケットの属性を得るために使用されます。(この属性は、動的フィールド、すべての記事、およびチケットに属する全ての添付を含みます。)

可能な属性:

```
<TicketGet>
  <!--You have a MANDATORY CHOICE of the next 3 items at this level-->
  <!--Optional:-->
  <UserLogin?></UserLogin>
  <!--Optional:-->
  <CustomerUserLogin?></CustomerUserLogin>
  <!--Optional:-->
  <SessionID?></SessionID>
  <!--Optional:-->
  <Password?></Password>
  <!--1 or more repetitions:-->
  <TicketID?></TicketID>
  <!--Optional:-->
  <DynamicFields?></DynamicFields>
  <!--Optional:-->
  <Extended?></Extended>
  <!--Optional:-->
  <AllArticles?></AllArticles>
  <!--Optional:-->
  <ArticleSenderType?></ArticleSenderType>
  <!--Optional:-->
  <ArticleOrder?></ArticleOrder>
  <!--Optional:-->
  <ArticleLimit?></ArticleLimit>
  <!--Optional:-->
  <Attachments?></Attachments>
  <!--Optional:-->
  <HTMLBodyAsAttachment?></HTMLBodyAsAttachment>
</TicketGet>
```

### 11.7.1.2.1.4. TicketSearch(チケット検索)

TicketSearchオペレーションは、事前定義された基準に一致するチケットIDのリストを返します。

可能な属性:

```
<TicketSearch>
  <!--You have a MANDATORY CHOICE of the next 3 items at this level-->
  <!--Optional:-->
  <UserLogin?></UserLogin>
  <!--Optional:-->
  <CustomerUserLogin?></CustomerUserLogin>
  <!--Optional:-->
  <SessionID?></SessionID>
  <!--Optional:-->
  <Password?></Password>
  <!--Optional:-->
  <Limit?></Limit>
  <!--Zero or more repetitions:-->
  <TicketNumber?></TicketNumber>
  <!--Zero or more repetitions:-->
  <Title?></Title>
  <!--Zero or more repetitions:-->
  <Queues?></Queues>
  <!--Zero or more repetitions:-->
  <QueueIDs?></QueueIDs>
  <!--Optional:-->
```

```

<UseSubQueues>?</UseSubQueues>
<!--Zero or more repetitions:-->
<Types>?</Types>
<!--Zero or more repetitions:-->
<TypeIDs>?</TypeIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<States>?</States>
<!--Zero or more repetitions:-->
<StateIDs>?</StateIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<StateType>?</StateType>
<!--Zero or more repetitions:-->
<StateTypeIDs>?</StateTypeIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<Priorities>?</Priorities>
<!--Zero or more repetitions:-->
<PriorityIDs>?</PriorityIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<Services>?</Services>
<!--Zero or more repetitions:-->
<ServiceIDs>?</ServiceIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<SLAs>?</SLAs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<SLAIDs>?</SLAIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<Locks>?</Locks>
<!--Zero or more repetitions:-->
<LockIDs>?</LockIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<OwnerIDs>?</OwnerIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<ResponsibleIDs>?</ResponsibleIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<WatchUserIDs>?</WatchUserIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CustomerID>?</CustomerID>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CustomerUserLogin>?</CustomerUserLogin>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedUserIDs>?</CreatedUserIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedTypes>?</CreatedTypes>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedTypeIDs>?</CreatedTypeIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedPriorities>?</CreatedPriorities>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedPriorityIDs>?</CreatedPriorityIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedStates>?</CreatedStates>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedStateIDs>?</CreatedStateIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedQueues>?</CreatedQueues>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CreatedQueueIDs>?</CreatedQueueIDs>
<!--Zero or more repetitions:-->
<DynamicFields>
  <!--You have a MANDATORY CHOICE of the next 6 items at this level-->
  <!--Optional:-->
  <Equals>?</Equals>
  <!--Optional:-->
  <Like>?</Like>
  <!--Optional:-->
  <GreaterThan>?</GreaterThan>
  <!--Optional:-->
  <GreaterThanEquals>?</GreaterThanEquals>
  <!--Optional:-->
  <SmallerThan>?</SmallerThan>
  <!--Optional:-->
  <SmallerThanEquals>?</SmallerThanEquals>

```

```

</DynamicFields>
<!--Optional:-->
<Ticketflag>
  <!--Optional:-->
  <Seen?</Seen>
</Ticketflag>
<!--Optional:-->
<From?</From>
<!--Optional:-->
<To?</To>
<!--Optional:-->
<Cc?</Cc>
<!--Optional:-->
<Subject?</Subject>
<!--Optional:-->
<Body?</Body>
<!--Optional:-->
<FullTextIndex?</FullTextIndex>
<!--Optional:-->
<ContentSearch?</ContentSearch>
<!--Optional:-->
<ConditionInline?</ConditionInline>
<!--Optional:-->
<ArticleCreateTimeOlderMinutes?</ArticleCreateTimeOlderMinutes>
<!--Optional:-->
<ArticleCreateTimeNewerMinutes?</ArticleCreateTimeNewerMinutes>
<!--Optional:-->
<ArticleCreateTimeNewerDate?</ArticleCreateTimeNewerDate>
<!--Optional:-->
<ArticleCreateTimeOlderDate?</ArticleCreateTimeOlderDate>
<!--Optional:-->
<TicketCreateTimeOlderMinutes?</TicketCreateTimeOlderMinutes>
<!--Optional:-->
<ATicketCreateTimeNewerMinutes?</ATicketCreateTimeNewerMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketCreateTimeNewerDate?</TicketCreateTimeNewerDate>
<!--Optional:-->
<TicketCreateTimeOlderDate?</TicketCreateTimeOlderDate>
<!--Optional:-->
<TicketLastChangeTimeOlderMinutes?</TicketLastChangeTimeOlderMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketLastChangeTimeNewerMinutes?</TicketLastChangeTimeNewerMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketLastChangeTimeNewerDate?</TicketLastChangeTimeNewerDate>
<!--Optional:-->
<TicketLastChangeTimeOlderDate?</TicketLastChangeTimeOlderDate>
<!--Optional:-->
<TicketChangeTimeOlderMinutes?</TicketChangeTimeOlderMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketChangeTimeNewerMinutes?</TicketChangeTimeNewerMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketChangeTimeNewerDate?</TicketChangeTimeNewerDate>
<!--Optional:-->
<TicketChangeTimeOlderDate?</TicketChangeTimeOlderDate>
<!--Optional:-->
<TicketCloseTimeOlderMinutes?</TicketCloseTimeOlderMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketCloseTimeNewerMinutes?</TicketCloseTimeNewerMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketCloseTimeNewerDate?</TicketCloseTimeNewerDate>
<!--Optional:-->
<TicketCloseTimeOlderDate?</TicketCloseTimeOlderDate>
<!--Optional:-->
<TicketPendingTimeOlderMinutes?</TicketPendingTimeOlderMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketPendingTimeNewerMinutes?</TicketPendingTimeNewerMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketPendingTimeNewerDate?</TicketPendingTimeNewerDate>
<!--Optional:-->
<TicketPendingTimeOlderDate?</TicketPendingTimeOlderDate>
<!--Optional:-->
<TicketEscalationTimeOlderMinutes?</TicketEscalationTimeOlderMinutes>

```

```

<!--Optional:-->
<TTicketEscalationTimeNewerMinutes?></TTicketEscalationTimeNewerMinutes>
<!--Optional:-->
<TicketEscalationTimeNewerDate?></TicketEscalationTimeNewerDate>
<!--Optional:-->
<TicketEscalationTimeOlderDate?></TicketEscalationTimeOlderDate>
<!--Optional:-->
<ArchiveFlags?></ArchiveFlags>
<!--Zero or more repetitions:-->
<OrderBy?></OrderBy>
<!--Zero or more repetitions:-->
<SortBy?></SortBy>
<!--Zero or more repetitions:-->
<CustomerUserID?></CustomerUserID>
</TicketSearch>

```

## 11.7.2. サンプル:

### 11.7.2.1. ウェブサービス構成

The following is a basic but complete web service configuration file in YAML format to use all the Ticket Connector operations with the SOAP network transport. In order to use it in OTRS you need to copy the content, save it into a file and call it GenericTicketConnectorSOAP.yml, and import it into OTRS in the Web Services screen in the Admin panel by clicking in the "Add web service" action from the overview screen and then clicking in the "Import web service" action in the add screen.

```

---
Debugger:
  DebugThreshold: debug
  TestMode: 0
Description: Ticket Connector SOAP Sample
FrameworkVersion: 3.4.x git
Provider:
  Operation:
    SessionCreate:
      Description: Creates a Session
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Session::SessionCreate
    TicketCreate:
      Description: Creates a Ticket
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketCreate
    TicketUpdate:
      Description: Updates a Ticket
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketUpdate
    TicketGet:
      Description: Retrieve Ticket data
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketGet
    TicketSearch:
      Description: Search for Tickets
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketSearch
  Transport:
    Config:
      MaxLength: 100000000
      Namespace: http://www.otrs.org/TicketConnector/
    Type: HTTP::SOAP

```

```
RemoteSystem: ''
Requester:
  Transport:
    Type: ''
```

Similar example can be done for the REST network transport, REST web services uses HTTP operations such as "POST", "GET", "PUT", "PATCH" etc. This operations in conjunction with a URI path called resource defines a OTRS Generic Interface Operation or Invoker (depending on the communication way).

The following example uses /Session resource for SessionCreate, /Ticket resource for TicketSearch and TicketCreate and resource /Ticket/{TicketID} for TicketGet and TicketUpdate (Where {TicketID} is the actual TicketID value of a ticket e.g. /Ticket/123). In order to use it in OTRS you need to copy the content, save it into a file and call it GenericTicketConnectorREST.yml, and import it into OTRS in the Web Services screen in the Admin panel by clicking in the "Add web service" action from the overview screen and then clicking in the "Import web service" action in the add screen.

```
---
Debugger:
  DebugThreshold: debug
  TestMode: '0'
Description: Ticket Connector REST Sample
FrameworkVersion: 3.4.x git
Provider:
  Operation:
    SessionCreate:
      Description: Creates a Session
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Session::SessionCreate
    TicketCreate:
      Description: Creates a Ticket
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketCreate
    TicketGet:
      Description: Retrieves Ticket data
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketGet
    TicketSearch:
      Description: Search for Tickets
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketSearch
    TicketUpdate:
      Description: Updates a Ticket
      MappingInbound: {}
      MappingOutbound: {}
      Type: Ticket::TicketUpdate
  Transport:
    Config:
      KeepAlive: ''
      MaxLength: '100000000'
      RouteOperationMapping:
        SessionCreate:
          RequestMethod:
            - POST
          Route: /Session
        TicketCreate:
          RequestMethod:
            - POST
          Route: /Ticket
        TicketGet:
          RequestMethod:
```

```

- GET
Route: /Ticket/:TicketID
TicketSearch:
  RequestMethod:
  - GET
  Route: /Ticket
TicketUpdate:
  RequestMethod:
  - PATCH
  Route: /Ticket/:TicketID
Type: HTTP::REST
RemoteSystem: ''
Requester:
  Transport:
  Type: ''

```

### 11.7.2.2. パールSOAP依頼者

The following code is a Perl script that can connect to OTRS via the generic interface. In order to perform the operations provided by the Ticket Connector, it uses two Perl CPAN modules SOAP::Lite and Data::Dumper. Please make sure that your environment is capable to use these modules before you try to run the script.

```

#!/usr/bin/perl -w
# --
# otrs.SOAPRequest.pl - sample to send a SOAP request to OTRS Generic Interface Ticket
# Connector
# Copyright (C) 2001-2018 OTRS AG, https://otrs.com/
# --
# This program is free software: you can redistribute it and/or modify
# it under the terms of the GNU General Public License as published by
# the Free Software Foundation, either version 3 of the License, or
# (at your option) any later version.
#
# This program is distributed in the hope that it will be useful,
# but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of
# MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the
# GNU General Public License for more details.
#
# You should have received a copy of the GNU General Public License
# along with this program. If not, see https://www.gnu.org/licenses/gpl-3.0.txt.
# --

use strict;
use warnings;

# use ../ as lib location
use File::Basename;
use FindBin qw($RealBin);
use lib dirname($RealBin);

use SOAP::Lite;
use Data::Dumper;

# ---
# Variables to be defined.

# this is the URL for the web service
# the format is
# <HTTP_TYPE>:://<OTRS_FQDN>/nph-genericinterface.pl/Webservice/<WEB_SERVICE_NAME>
# or
# <HTTP_TYPE>:://<OTRS_FQDN>/nph-genericinterface.pl/WebserviceID/<WEB_SERVICE_ID>
my $URL = 'http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/GenericTicketConnector';

# this name space should match the specified name space in the SOAP transport for the web
# service.
my $NameSpace = 'http://www.otrs.org/TicketConnector/';

```



```

# this is operation to execute, it could be TicketCreate, TicketUpdate, TicketGet,
TicketSearch
# or SessionCreate. and they must to be defined in the web service.
my $Operation = 'TicketCreate';

# this variable is used to store all the parameters to be included on a request in XML
format. Each
# operation has a determined set of mandatory and non mandatory parameters to work
correctly. Please
# check the OTRS Admin Manual in order to get a complete list of parameters.
my $XMLData = '
<UserLogin>some user login</UserLogin>
<Password>some password</Password>
<Ticket>
  <Title>some title</Title>
  <CustomerUser>some customer user login</CustomerUser>
  <Queue>some queue</Queue>
  <State>some state</State>
  <Priority>some priority</Priority>
</Ticket>
<Article>
  <Subject>some subject</Subject>
  <Body>some body</Body>
  <ContentType>text/plain; charset=utf8</ContentType>
</Article>
';

# ---

# create a SOAP::Lite data structure from the provided XML data structure.
my $SOAPData = SOAP::Data
  ->type( 'xml' => $XMLData );

my $SOAPObject = SOAP::Lite
  ->uri($NameSpace)
  ->proxy($URL)
  ->$Operation($SOAPData);

# check for a fault in the soap code.
if ( $SOAPObject->fault ) {
  print $SOAPObject->faultcode, " ", $SOAPObject->faultstring, "\n";
}

# otherwise print the results.
else {

  # get the XML response part from the SOAP message.
  my $XMLResponse = $SOAPObject->context()->transport()->proxy()->http_response()-
>content();

  # deserialize response (convert it into a perl structure).
  my $Deserialized = eval {
    SOAP::Deserializer->deserialize($XMLResponse);
  };

  # remove all the headers and other not needed parts of the SOAP message.
  my $Body = $Deserialized->body();

  # just output relevant data and no the operation name key (like TicketCreateResponse).
  for my $ResponseKey ( keys %{$Body} ) {
    print Dumper( $Body->{$ResponseKey} );
  }
}

```

### 11.7.2.3. Perl REST Requester

The following code is a Perl script that can connect to OTRS via the generic interface. In order to perform the operations provided by the Ticket Connector, it uses three Perl CPAN

modules JSON, REST::Client and Data::Dumper. Please make sure that your environment is capable to use these modules before you try to run the script.

```
#!/usr/bin/perl
# --
# otrs.RESTRequest.pl - sample to send a REST request to OTRS Generic Interface Ticket
# Connector
# Copyright (C) 2001-2018 OTRS AG, https://otrs.com/
# --
# This program is free software: you can redistribute it and/or modify
# it under the terms of the GNU General Public License as published by
# the Free Software Foundation, either version 3 of the License, or
# (at your option) any later version.
#
# This program is distributed in the hope that it will be useful,
# but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of
# MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the
# GNU General Public License for more details.
#
# You should have received a copy of the GNU General Public License
# along with this program. If not, see https://www.gnu.org/licenses/gpl-3.0.txt.
# --

use strict;
use warnings;

## nofilter(TidyAll::Plugin::OTRS::Perl::Dumper)

# use ../ as lib location
use File::Basename;
use FindBin qw($RealBin);
use lib dirname($RealBin);

use JSON;
use REST::Client;

# ---
# Variables to be defined

# This is the HOST for the web service the format is:
# <HTTP_TYPE>://<OTRS_FQDN>/nph-genericinterface.pl
my $Host = 'http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl';

my $RestClient = REST::Client->new(
    {
        host => $Host,
    }
);

# This is the Controller and Request the format is:
# /Webservice/<WEB_SERVICE_NAME>/<RESOURCE>/<REQUEST_VALUE>
# or
# /WebserviceID/<WEB_SERVICE_ID>/<RESOURCE>/<REQUEST_VALUE>
# This example will retrieve the Ticket with the TicketID = 1 (<REQUEST_VALUE>)
my $ControllerAndRequest = '/Webservice/GenericTicketConnectorREST/Ticket/1';

my $Params = {
    UserLogin    => "some user login",      # to be filled with valid agent login
    Password     => "some user password",  # to be filled with valid agent password
    DynamicFields => 1,                    # optional, if set to 1,
                                                # ticket dynamic fields included in response
    AllArticles  => 1,                    # optional, if set to 1,
                                                # all ticket articles are included in response
                                                # more options to be found in
        # /Kernel/GenericInterface/Operation/Ticket/TicketGet.pm's
        # Run() subroutine documentation.
};

my @RequestParam;
```

```

# As sample web service configuration for TicketGet uses HTTP method GET all other
parameters needs
# to be sent as URI query parameters

# ----
# For GET method
my $QueryParams = $RestClient->buildQuery( %{ $Params } );

$ControllerAndRequest .= $QueryParams;

# The @RequestParam array on position 0 holds controller and request
@RequestParam = ($ControllerAndRequest);

$RestClient->GET(@RequestParam);
# ----

# # ----
# # For POST method
# my $JSONParams = encode_json $Params;

# # The @RequestParam array on position 0 holds controller and request
# # on position 1 it holds the JSON data string that gets posted
# @RequestParam = (
#   $ControllerAndRequest,
#   $JSONParams
# );

# $RestClient->POST(@RequestParam);
# # ----

# If the host isn't reachable, wrong configured or couldn't serve the requested page:
my $ResponseCode = $RestClient->responseCode();
if ( $ResponseCode ne '200' ) {
    print "Request failed, response code was: $ResponseCode\n";
    exit;
}

# If the request was answered correctly, we receive a JSON string here.
my $ResponseContent = $RestClient->responseContent();

my $Data = decode_json $ResponseContent;

# Just to print out the returned Data structure:
use Data::Dumper;
print "Response was:\n";
print Dumper($Data);

```

### 11.7.2.4. cURL Examples for REST Requests

Given the above example on a REST configuration for Generic Ticket Connector we have that:

**For Ticket Create:** use POST method on /Ticket path.

**For Ticket Search:** use GET method on /Ticket path.

**For Ticket Update:** use PATCH method on /Ticket/{TicketID} path (where {TicketID} is a template represented by :TicketID in the transport configuration)

**For Ticket Get:** use GET method on /Ticket/{TicketID} path (where {TicketID} is a template represented by :TicketID in the transport configuration)

#### 11.7.2.4.1. Create a New Ticket

cURL Command:

---

```
shell> curl "http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/
GenericTicketConnectorREST/Ticket?UserLogin=agent&Password=123" -H "Content-Type:
application/json" -d "{\"Ticket\":{\"Title\":\"REST Create Test\", \"Type\": \"Unclassified
\", \"Queue\":\"Raw\", \"State\":\"open\", \"Priority\":\"3 normal\", \"CustomerUser\":
\"customer\"}, \"Article\":{\"Subject\":\"Rest Create Test\", \"Body\":\"This is only a test
\", \"ContentType\":\"text/plain; charset=utf8\"}}" -X POST
```

Response:

```
{
  "ArticleID":5484,
  "TicketNumber":"1001936",
  "TicketID":"1686"
}
```

#### 11.7.2.4.2. Get Ticket Details

cURL Command:

```
curl "http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/GenericTicketConnectorREST/
Ticket/1686?UserLogin=agent&Password=123"
```

Response:

```
{
  "Ticket": [
    {
      "Age": 777,
      "PriorityID": 3,
      "ServiceID": "",
      "Type": "Unclassified",
      "Responsible": "root@localhost",
      "StateID": 4,
      "ResponsibleID": 1,
      "ChangeBy": 2,
      "EscalationTime": 0,
      "Changed": "2014-06-30 19:08:14",
      "OwnerID": 2,
      "RealTillTimeNotUsed": 0,
      "GroupID": 1,
      "Owner": "agent",
      "CustomerID": "OTRS",
      "TypeID": 1,
      "Created": "2014-06-30 19:08:12",
      "Priority": "3 normal",
      "UntilTime": 0,
      "EscalationUpdateTime": 0,
      "QueueID": 2,
      "Queue": "Raw",
      "State": "open",
      "Title": "REST Create Test",
      "CreateBy": 2,
      "TicketID": 1686,
      "StateType": "open",
      "EscalationResponseTime": 0,
      "UnlockTimeout": 0,
      "EscalationSolutionTime": 0,
      "LockID": 1,
      "TicketNumber": "1001936",
      "ArchiveFlag": "n",
```

```
"Lock": "unlock",
"CreateTimeUnix": 1404173292,
"SLAID": "",
"CustomerUserID": "customer"
}
]
}
```

#### 11.7.2.4.3. Update Ticket

cURL Command:

```
curl "http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/GenericTicketConnectorREST/Ticket/1686?UserLogin=agent&Password=123" -H "Content-Type: application/json" -d '{"Ticket\":"Queues\":"Postmaster\"}' -X PATCH
```

Response:

```
{
  "TicketNumber": "1001936",
  "TicketID": "1686"
}
```

#### 11.7.2.4.4. Search for Tickets

cURL Command:

```
curl "http://localhost/otrs/nph-genericinterface.pl/Webservice/GenericTicketConnectorREST/Ticket?UserLogin=agent&Password=123&Queue=Postmaster"
```

Response:

```
{
  "TicketID": [
    "1686",
    "102",
    "100",
    "1"
  ]
}
```

## 12. OTRSスケジューラ

The OTRS Scheduler is an independent system process that executes tasks in background. These kind of processes are known as *daemons* in Unix / Linux systems. It is independent but that doesn't mean that the Scheduler does everything alone, it is fully integrated into OTRS and can use any OTRS module as needed to complete each task.

正常な理由のためにスケジューラ・プロセスはときどきリスタートする必要があります。これは、一日に一度スケジューラ・プロセス自体によって自動的に行われます。しかし、必要な時、SysConfigを使用して「Scheduler::RestartAfterSeconds」設定の編集すればそれを調節することができます。

OTRSスケジューラは完全に自動プロセスです。唯一の人間の介入が必要とされることは、そのステータスを定期的にチェックし、必要な時にそれをスタートするか停止することです。

## 注記

スケジューラが何らかの理由で停止されたら、スケジューラが停止した時に登録された全ての保留タスクと新規タスクは、スケジューラが再開するとすぐに実行されます。(タスクがその後実行される準備ができていない限り)

## 12.1. スケジューラ・グラフィカル・インターフェース

スケジューラは、それが停止しない限り、OTRSグラフィカルユーザーインターフェイスにおいて不可視です。

### 12.1.1. スケジューラ停止中の通知

スケジューラが停止中をシステムが検知する場合、2つの異なるタイプの通知があります。この検知はスケジューラ・プロセスの更新頻度に基づきます。現在時刻と最終プロセス更新時刻の時間差が2倍以上ならば、OTRS通知エリア内にプロセス更新頻度警告メッセージが表示されます。それが4倍以上のプロセス頻度ならば、警告に変わって警戒メッセージが表示されます。

スケジューラ・プロセス更新時間は、「Scheduler::PIDUpdateTime」設定中のSysConfigによって構成することができます。警告メッセージを見ても必ずしも処置を講ずる必要はありません。

しかし、スケジューラ・プロセスが走っているかどうかをチェックすることは強く推奨します。警戒メッセージを見たら、スケジューラが停止している可能性が高いのでスタートすべきです。

データベースに有効なウェブサービスが登録されていたり、または「管理者」グループのユーザだけに表示されている場合、デフォルトでスケジューラは通知を有効ではありません。

通知を不能にするためには（推奨しません）あるいは、通知グループを変更・追加するためには、SysConfigの中の設定「Frontend::NotifyModule###800-Scheduler-Check」を編集してください。

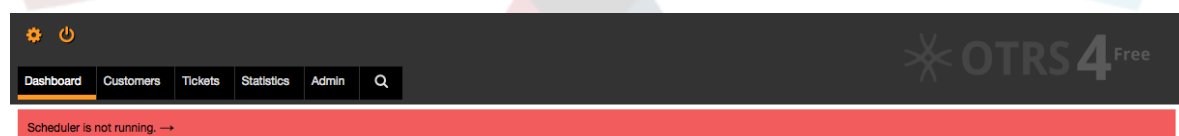


図:スケジューラ通知

### 12.1.2. スタート・スケジューラ

スケジューラ停止中通知リンク(警告が警戒のいずれか)をクリックすることによって、再びスケジューラ・プロセスを再開させるためにダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ中のチェックボックスを適切にクリックすることでスケジューラは正常にスタートするか強制的にスタートさせられます。

## 注記

強制的なスケジューラ・スタートは、前のスケジューラ・プロセスが異常に終了し、プロセスIDがデータベース中でまだ登録されている場合のみ、必要です。

スケジューラ・プロセスを十分にコントロールをするために、以下の述べるコマンドラインツールをつかって、その実際の状態をチェックして下さい。

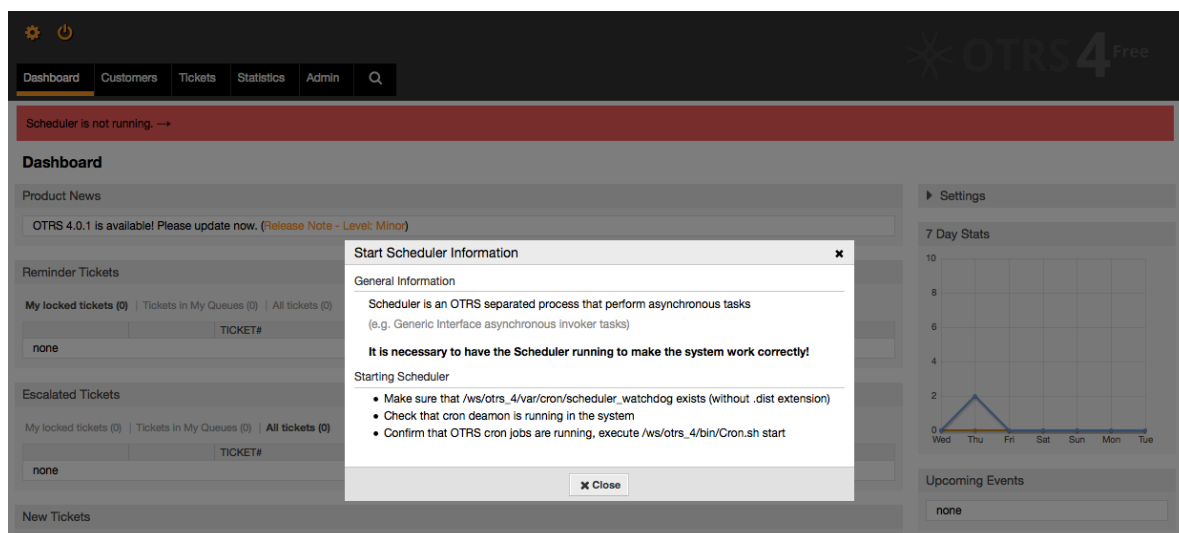


図:スケジューラの開始

## 12.2. スケジューラ・コマンドライン・インタフェース

スケジューラ・コマンドライン・ツールによってスケジューラ・プロセス(スタート・ストップ)をコントロールし、スケジュールの状態を尋ねます。さらにオペレーティング・システムによってコントロールされるプロセスを登録するツールがあります。

Included with OTRS there commandline interface (CLI) tools for the scheduler.

### 12.2.1. Scheduler init.d files

init.d ファイルは、スタートアップとシャット・ダウンでオペレーティング・システムによって呼び出される特別なスクリプトです。

OTRSは、オペレーティング・システムによってOTRSスケジューラ・プロセスを自動的に始める/止めるためにinit.d スクリプトを提供します。これらのスクリプトはOTRS\_HOME/scriptsの下にあります。

init.d スクリプトは、ご利用のオペレーティング・システムに応じて正しい位置にコピーする必要があります。それらは適切な許可を持つ必要があります。また、いくつかの内部変数を適切に動くようにセットする必要があります。システムをセット・アップにOTRS RPMを使用したならば、これは自動的に処理されます。

#### init.d スクリプト内部変数

- **OTRS\_HOME** - OTRSインストールのパス。
- **User** - the apache プロセスユーザ名。
- **Group** - the apache OTRSインストールのグループ名。

#### 注記

現在、OTRSは、Linuxプラットフォームのinit.d スクリプトだけを提供します。

表4.7 テーブル4.7. init.d スクリプトのリストとサポートされるオペレーティング・システム

Init Script	サポートするOS
otrs-scheduler-linux	Red Hat, Fedora, CentOS, SUSE, openSUSE, Debian, Ubuntu

Init Script		サポートするOS
otrs-scheduler-gentoo-init.d, scheduler-gentoo-conf.d	otrs-	Gentoo

#### 例4.29 Linux上でOTRSを開始するサンプル

```
shell> /etc/init.d/otrs-scheduler-linux start
```

#### 可能なアクション

- **start** - OTRSスケジューラ・プロセスを開始
- **stop** - OTRSスケジューラ・プロセスを停止。
- **restart** - OTRSスケジューラ・プロセスを再開。
- **status** - OTRSスケジューラ・プロセス・ステータスをクエリー

スケジューラは、そのプロセスIDを登録することができるようにデータベースを必要とします。というのは、この理由は次のものに必要であるからです:

- データベース・プロセスの活動開始以後、スケジューラ・プロセスを開始するためにスケジューラinit.d スクリプトを実行します。
- データベース・プロセスがシャット・ダウンする前に、スケジューラを停止するためにスケジューラinit.d スクリプトを実行します。

#### 注記

スケジューラがシステム起動時に開始することを望むなら、オペレーティング・システムのドキュメンテーションを読んで、init.dスクリプトを置く正しい場所、それらの自動的に開始するための構成方法及び起動順の設定方法を見つけて下さい。

### 12.2.2. スケジューラ・デーモン・ファイル

これは、実行すべきタスクをチェックしながらバックグラウンドで稼働し続けるスケジューラの部分です。さらに、それは、プロセスをコントロールするために主機能を提供します。

全てのUnix/Linuxはファイル **OTRS\_HOME/bin/otrs.Scheduler.pl**を使用します。

#### 例4.30 OTRSスケジューラを開始するサンプル

```
shell> OTRS_HOME/bin/otrs.Scheduler.pl -a start
```

#### 利用可能なオプション

- **-a** アクション

#### 可能な値

- **start** - スケジューラ・プロセスを開始。
- **stop** - スケジューラ・プロセスを停止。
- **status** - スケジューラ・プロセス状態のクエリー。



- **-f** スケジューラ・プロセスの強制的開始または停止。

#### 例4.31 OTRSスケジューラを強要停止するサンプル

```
shell> OTRS_HOME/bin/otrs.Scheduler.pl -a stop -f 1
```

#### 注記

スケジューラが走っておらず、プロセスがまだ登録されている時に、スケジューラを強制終了させることは、データベースからプロセスIDを取り除くことになります。

スケジューラが走っておらず、プロセスがまだ登録されていれば、スケジューラを強制終了させることは、スケジューラプロセスを開始することになります。

強制開始または強制停止は、プロセス開始がプロセス更新時間が失効する前になされる必要な場合のみ必要です。そうでなければ  
データベース内の失効エントリーは通常開始で破棄されます。

## 第5章 カスタマイズ

### 1. アクセス・コントロール・リスト(ACL)

#### 1.1. 導入

From OTRS 2.0 on, Access Control Lists (ACLs) can be used to control access to tickets, modules, queues, etc., or to influence actions on tickets (closing, moving, etc.) in certain situations. ACLs can be used to supplement the existing permission system of roles and groups. Using ACLs, rudimentary work-flows within the system can be mapped, based on ticket attributes.

In a general way ACLs are used to reduce the possible options for a ticket based on a defined set of rules.

ACLs can be directly entered into the Kernel/Config.pm file. whoever this is not any more recommended as OTRS comes now with a GUI Access Control Lists in the Admin panel that allows to save the ACLs in the Database as the first step and then deploy them into a file when they are ready.

This chapter has some ACL examples which will walk you trough the process of defining ACL definitions, and a reference of all possible important ACL settings.

#### 警告

The default user 'root@localhost' is not affected by the Ticket ACLs

#### 1.2. 記述

The ACL definition can be split into two big parts, 'Matching' and 'Change'. In the matching sections the ACLs contains attributes that has to be met in order to use the ACL, if the attributes defined in the ACL does not match with the attributes that are sent, then the ACL does not take any affect, but any other match ACL will. The change sections contains the rules to reduce the possible options for a ticket.

##### Matching Sections

- 項目

This section contains matching options that can be changed on the fly, for example on a ticket creation time the data of the ticket changes dynamically as the agent sets the information, if an ACL is set to match a ticket attribute then only when the matching attribute is selected the ACL will be active and might reduce other ticket attributes, but as soon as another value is selected the ACL will not take any affect.

- PropertiesDatabase

This section is similar to 'Properties' but does not take changes in ticket attributes that are not saved into the DataBase, this means that changing an attribute without submit will not make any affect. This section is not use for ticket creation screens (as tickets are not yet created in the Database).

##### Change Sections

- Possible

Possible section resets the data to be reduce to only the elements that are set in this section.

- PossibleAdd

Elements in PossibleAdd section add missing elements that were reduced in other ACLs. PossibleAdd is only used in together with other ACLs that have Possible or PossibleNot sections.

- PossibleNot

This section is used to remove specific elements from the current data. It could be used stand alone or together with other ACLs with a Possible or PossibleAdd sections.

In order to make the development of ACLs easier and more powerful there is a set of so called modifiers for the attributes on each section. This modifiers as explained below:

#### Modifiers

- [Not]

This modifier is used to negate a value for example: '[Not]2 low' in this case talking about ticket priorities will be the same as to have: '1 very low', '3 normal', '4 high', '5 very high'.

- [RegExp]

It is use to define a regular expression for matching several values, for example '[RegExp]low' talking about priorities is the same as '1 very low', '2 low'.

- [regex]

It is very similar to [RegExp] but it is case insensitive.

- [NotRegExp]

Negated regular expressions for example '[NotRegExp]low' talking about priorities is the same as '3 normal', '4 high', '5 very high'.

- [Notregex]

It is very similar to [NotRegExp] but it is case insensitive.

## 1.3. サンプル

The following examples are shown in both ways graphical and text based.

**例5.1 ACLはチケット優先度5のチケットのみをキューへの移動を許可します。**

This example shows you the basic structure of an ACL. First, it needs to have a name. In this case, it is "ACL-Name-2". Note that the ACLs will be numerically sorted before execution, so you should use the names carefully.

Secondly, you have a "Properties" section which is a filter for your tickets. All the criteria defined here will be applied to a ticket to determine if the ACL must be applied or not. In our example, a ticket will match if it is in the queue "Raw" and has priority "5 very high". This is also affected by changes in the form (e.g. if the ticket is the queue "raw" and had a priority "3 normal" at this moment the ACL will not match, but then priority drop-down is selected and the priority is changed now to "5 very high" then will also match).

最後に、「可能」セクションは画面への修正を定義します。この場合、利用可能キューから、「警告」キューだけがチケット・画面の中で選択することができます。

▼ Edit ACL structure

**Match settings**

▼ ⊖ Properties

▼ ⊖ Ticket

⊖ Queue:

Raw x Standard [ ] ⊕

⊖ Priority:

5 very high x Standard [ ] ⊕

⊕ [ ]

⊕ - [ ]

- [ ]

---

**Change settings**

▼ ⊖ Possible

▼ ⊖ Ticket

⊖ Queue:

Alert x Standard [ ] ⊕

⊕ [ ]

⊕ - [ ]

- [ ]

Save or Save and finish or Cancel

```
# ticket acl
$self->{TicketAcl}->{'100-Example-ACL'} = {
  # match properties
  Properties => {
    # current ticket match properties
    Ticket => {
      Queue => ['Raw'],
      Priority => ['5 very high'],
    }
  },
  # return possible options (white list)
  Possible => {
    # possible ticket options (white list)
    Ticket => {
      Queue => ['Alert'],
    },
  },
};
```

## 例5.2 データベースに格納された優先度5のチケットだけのキューへ移動を許可するACL

この例は先のものに非常に似ています。しかしながら、この例では、「生で」かつ優先度が「5：非常に高い」チケットのみが両者ともにデータベースに保存されて、マッチします。チケットがデータベースの中で実際に更新される前に、この種のACLはフォームの変更を考慮しません。

▼ Edit ACL structure

**Match settings**

▼ ⊖ PropertiesDatabase

▼ ⊖ Ticket

⊖ Queue:

Raw x Standard [ ] ⊕

⊖ Priority:

5 very high x Standard [ ] ⊕

⊕ [ ]

⊕ - [ ]

- [ ]

---

**Change settings**

▼ ⊖ Possible

▼ ⊖ Ticket

⊖ Queue:

Alert x Standard [ ] ⊕

⊕ [ ]

⊕ - [ ]

- [ ]

Save or Save and finish or Cancel

```
# ticket acl
$self->{TicketAcl}->{'102-Example-ACL'} = {
  # match properties
  PropertiesDatabase => {
    # current ticket match properties
    Ticket => {
      Queue => ['Raw'],
      Priority => ['5 very high'],
    }
  },
  # return possible options (white list)
  Possible => {
    # possible ticket options (white list)
    Ticket => {
      Queue => ['Alert'],
    },
  },
};
```

### 例5.3 未対応のキュー中のチケットの完了を不能にし、閉じるボタンを隠すACL

この例では、どのようにチケット・フィールド（の状態）が、（フォームを選択する1つ以上の可能な値で）フィルターされるかを理解できるでしょう。あるチケット用に実行することができるアクションを制限することも可能です。この場合、チケットは完了できません。

▼ Edit ACL structure

**Match settings**

▼ ⊖ Properties

▼ ⊖ Ticket

⊖ Queue:

Raw x Standard ▾  ⊕

⊕

⊕ - ▾

- ▾

---

**Change settings**

▼ ⊖ Possible

▼ ⊖ Ticket

⊖ State:

new x open x pending reminder x

Standard ▾  ⊕

⊕

⊕ - ▾

▼ ⊖ PossibleNot

▼ ⊖ Action

AgentTicketClose x Standard ▾  ⊕

⊕ - ▾

- ▾

Save or Save and finish or Cancel

```

$self->{TicketAcl}->{'102-Second-Example-ACL'} = {
  # match properties
  Properties => {
    # current ticket match properties
    Ticket => {
      Queue => ['Raw'],
    }
  },
  # return possible options (white list)
  Possible => {
    # possible ticket options (white list)
    Ticket => {
      State => ['new', 'open', 'pending reminder'],
    },
  },
  # return also not possible options (black list)
  PossibleNot => {
    # not possible action options
    Action => [ 'AgentTicketClose' ],
  },
};

```

## 例5.4 状態：「閉鎖成功」を常に削除するACL

この例では、否定フィルタ（状態：「完了（成功）」を取り除く）をどのようにして定義可能か例示します。チケット用のマッチ・プロパティを定義しなければ、どんなチケットでもマッチすることもわかります。例えばACLが常に当てはまります。これは、もしデフォルトで特定の値を非表示にしたいかつ、特殊な環境（例えば担当者が特定のグループにいるならば）だけにそれらを可能にしたいなら活用可能になります。

▼ Edit ACL structure

**Match settings**

-

---

**Change settings**

▼ ⊖ PossibleNot

▼ ⊖ Ticket

⊖ State:

closed successful x Standard

+ [ ]

+ [-]

+ [-]

Save or Save and finish or Cancel

```
$Self->{TicketAcl}->{'103-Third-ACL-Example'} = {
  # match properties
  Properties => {
    # current ticket match properties (match always)
  },
  # return possible options
  PossibleNot => {
    # possible ticket options
    Ticket => {
      State => ['closed successful'],
    },
  },
};
```

## 例5.5 "HW"で始まるキューが作成されるハードウェア・サービス・チケットのみを表示するACL

ここでは、マッチするチケットと利用可能なオプションのフィルタリングのための正規表現を使用することができるかについても例示します。

▼ Edit ACL structure

**Match settings**

▼ ⊖ Properties

▼ ⊖ Queue

⊖ Name:

[RegExp]HW x **Regex** [ ] ⊕

⊕ [ ]

⊕ - [ ]

- [ ]

---

**Change settings**

▼ ⊖ Possible

▼ ⊖ Ticket

⊖ Service:

[RegExp]^(Hardware) x **Regex** [ ] ⊕

⊕ [ ]

⊕ - [ ]

- [ ]

or  or

```

$self->{TicketAcl}->{'104-Only-Hardware-Services-for-HW-Queues-ACL'} = {
  # match properties
  # note we don't have "Ticket => {" because there's no ticket yet
  Properties => {
    Queue => {
      Name => ['[RegExp]HW'],
    }
  },
  # return possible options
  Possible => {
    # possible ticket options
    Ticket => {
      Service => ['[RegExp]^(Hardware)'],
    },
  },
};

```



## 例5.6 ACL to restrict a Process in the customer frontend using the CustomerID.

▼ Edit ACL structure

**Match settings**

- ▼  **Properties**
  - ▼  **CustomerUser**
    - UserCustomerID:
 

TheCustomerID
    - 
    -
  - ▼  **PropertiesDatabase**
    - 
    -

---

**Change settings**

- ▼  **Possible**
  -
- ▼  **PossibleNot**
  - ▼  **Process**
    - 
    - 
    -

```

$self->{TicketAcl}->{"105-Disallow-Process-For-CustomerID"} = {
    'Possible' => {},
    'PossibleNot' => {
        'Process' => [
            'P14'
        ]
    },
    'Properties' => {
        'CustomerUser' => {
            'UserCustomerID' => [
                'CustomerID'
            ]
        }
    },
    'PropertiesDatabase' => {},
    'StopAfterMatch' => 0
};

```

### 1.4. 参照

下記の例において、ACLで使用可能な全パラメーターのリストがあります。

Please see the section on ACLs in the ProcessManagement documentation for a detailed description of how to use ACLs for process tickets.

## 例5.7 全ての可能かつ重要なACL設定を示すリファレンス (参照)

```

# ticket acl
$Self->{TicketAcl}->{'200-ACL-Reference'} = {
  # match properties (current values from the form)
  Properties => {

    # the used frontend module
    Frontend => {
      Action => ['AgentTicketPhone', 'AgentTicketEmail'],
    },

    # the logged in agent
    User => {
      UserLogin => ['some login'],
      Group_rw => [
        'hotline',
      ],
      Role => [
        'admin',
      ],
      # ...
    },

    # the logged in customer
    CustomerUser => {
      UserLogin => ['some login'],
      UserCustomerID => ['some customer id'],
      Group_rw => [
        'hotline',
      ],
      Role => [
        'admin',
      ],
      # ...
    },

    # process properties
    Process => {
      ProcessEntityID => ['Process-9c378d7cc59f0fce4cee7bb9995ee3eb'],
      # the Process that the current ticket is part of
      ActivityEntityID => ['Activity-f8b2fdebe54eeb7b147a5f8e1da5e35c'],
      # the current Activity of the ticket
      ActivityDialogEntityID => ['ActivityDialog-aff0ae05fe6803f38de8fff6cf33b7ce'],
      # the current ActivityDialog that the Agent/Customer is using
    },

    # ticket properties
    Queue => {
      Name => ['Raw'],
      QueueID => ['some id'],
      GroupID => ['some id'],
      Email => ['some email'],
      RealName => ['OTRS System'],
      # ...
    },
    Service => {
      ServiceID => ['some id'],
      Name => ['some name'],
      ParentID => ['some id'],
      # ...
    },
    Type => {
      ID => ['some id'],
      Name => ['some name'],
      # ...
    },
    Priority = {
      ID => ['some id'],
      Name => ['some name'],
      # ...
    }
  }
}

```

```

},
SLA = {
  SLAID    => ['some id'],
  Name     => ['some name'],
  Calendar => ['some calendar'],
  # ...
},
State = {
  ID       => ['some id'],
  Name     => ['some name'],
  TypeName => ['some state type name'],,
  TypeID   => ['some state type id'],
  # ...
},
Owner => {
  UserLogin => ['some login'],
  Group_rw => [
    'some group',
  ],
  Role => [
    'admin',
  ],
  # ...
},
Responsible => {
  UserLogin => ['some login'],
  Group_rw => [
    'some group',
  ],
  Role => [
    'admin',
  ],
  # ...
},
DynamicField => {
  # Names must be in DynamicField_<field_name> format.
  # Values in [ ... ] must always be the untranslated internal data keys
  #   specified in the dynamic field definition and
  #   not the data values shown to the user.
  DynamicField_Field1    => ['some value'],
  DynamicField_OtherField => ['some value'],
  DynamicField_TicketFreeText2 => ['some value'],
  # ...
},
# alternatively, ticket properties can be specified in the ticket hash
Ticket => {
  Queue      => ['Raw'],
  State      => ['new', 'open'],
  Priority    => ['some priority'],
  Lock       => ['lock'],
  CustomerID => ['some id'],
  CustomerUserID => ['some id'],
  Owner      => ['some owner'],
  DynamicField_Field1 => ['some value'],
  DynamicField_MyField => ['some value'],
  # ...
},
},

# match properties (existing values from the database)
PropertiesDatabase => {
  # See section "Properties", the same config can be used here.
  # ...
}

# reset possible options (white list)
Possible => {
  # possible ticket options (white list)
  Ticket => {
    Queue => ['Hotline', 'Coordination'],
    State => ['some state'],
    Priority => ['5 very high'],

```

```

    DynamicField_Field1 => ['some value'],
    DynamicField_MyField => ['some value'],
    # ...
    NewOwner => ['some owner'],
    OldOwner => ['some owner'],
    # ...
  },

  # Limit the number of possible ActivityDialogs the Agent/Customer
  # can use in a process ticket.
  ActivityDialog => ['AD1', 'AD3'],

  # Limit the number of possible Processes that can be started
  Process => ['Process-9c378d7cc59f0fce4cee7bb9995ee3eb',
'Process-12345678901234567890123456789012'],

  # possible action options (white list)
  Action => [
    'AgentTicketBounce',
    'AgentTicketPhone'.      # only used to show/hide the Split action
    'AgentLinkObject',      # only used to show/hide the Link action
    # ...
  ],
},
# add options (white list)
PossibleAdd => {
  # See section "Possible"
  # ...
},
# remove options (black list)
PossibleNot => {
  # See section "Possible"
  # ...
},
};

```

## 注記

ACLとマッチしている間に、CustomerUserIDパラメーターが送られると、ACLメカニズムは、CustomerUserハッシュを満たすCustomerUser詳細を集めるために、供給されたCustomerUserIDを使用して、定義されたACLを比較します。またそれは、プロパティ（特性）・マッチ用のチケット・ハッシュ中の顧客情報を無効に(override)します。この計算もPropertiesDatabase部分のためになされるが、その一方で、データを集めるために基礎としてチケット・顧客(the Ticket Customer)を使用しています。

顧客・インターフェースでは、CustomerUserIDが現在の記録された顧客ユーザとともに常に送信されることに注目してください。

Be aware that in ticket search screens (AgentTicketSearch and CustomerTicketSearch) the only affected attributes by ACLs are the Dynamic Fields. This means that this screens you can not restrict any other attribute like ticket type, state, queue, etc.

From OTRS 4 the 'Action' parameter is not longer a hash but an array reference and it can be used in any of the Change sections using any of the Modifiers.

## 2. 工程管理

### 2.1. 導入

OTRSのこの機能により、チケット・システムでプロセス(ワークフロー)をモデル化することが可能です。この基本概念は再現するプロセスを定義可能にし、異なる人々に作業項目を任せられるためのものです。またある基準に基づく異なる指示のプロセス進行をリードします。

## 2.2. サンプル・プロセス

より実地的なサンプルで見てください。ここでは本の注文プロセスを定義します:

### 2.2.1. 要求の記録

受注前に、従業員によって書物の需要が記録されます。以下の本がここでの例に必要となります:

タイトル: Prozessmanagement für Dummies、著者: Thilo Knuppertz、ISBN: 3527703713

### 2.2.2. マネージャーによる承認

従業員の部長は注文に関して以下を決定する必要があります。否認の場合には、理由がマネージャーによって記録されるべきです。承認の場合には、オーダーが購買部に渡されます。

### 2.2.3. 購買部による処理

購入するとは、本を最良の条件で本を注文する場所を見つける職務です。品切れの場合、注文に記録します。購入が成約した場合はサプライヤー、購入価格、配達日を記録します。

### 2.2.4. 郵便室による処理

貨物が会社に入荷すると、貨物の入荷受付部は、その貨物をチェックし受領日を記録します。従業員はこの注文が到着を知らされ、貨物を取りに行く準備をしましょう。

## 2.3. 例の実行

チケットが、このワークフロー中で、

変更ノートを受け取ることができる添付書類のように作用すると考えれば、既にプロセス・チケットの明瞭な青写真を持っていることとなります。

サンプル・プロセスの分析から、次の必須アイテムを識別することができます。

- データを記録する可能性、それをアクティビティ・ダイアログと呼びます。
- データ変更されたことに対して自動的に反応するチェック機構、それを推移 (Transitions)と呼びます。
- プロセス・チケットの推移が成功した後でプロセス・チケットに適用可能な変更、それを推移アクション (Transition Actions) と呼びます。

さらにそれほど明白でないかもしれない追加項目を必要とします:

- 利用可能なアクティビティ・ダイアログをひとつ以上提供する可能性。ここでの例においては、マネージャーが「承認」「拒絶」の選択を持っていない場合これ (提供する可能性) が必要です。これをアクティビティと呼びます。

さて、アクティビティ、アクティビティ・ダイアログ、推移と推移アクションにより、私たちは、私たちの例の個々のステップを形成するための必要なツールを持つこととなります。私たちは、各々のワークフローにとってステップの順番が指定されうエリアをまだ見つけていません。これをプロセスと呼びましょう。これらのすべての実体 (エンティティ) を後で参照することができるようにするために、それらを括弧中の略語で指定します。この省略は EntityIDs と呼ばれる内部識別メカニズムに基づきます。

エンティティIDs(EntityIDs)は、1個あるいは2個の文字 (プロセス部分あるいは実体に依存します) と連続した番号で組み合わせて作られます。

- プロセス (Process): 'P1', 'P2' ... 'Pn'.

- アクティビティ ( Activity ) : 'A1', 'A2' ... 'An'.
- アクティビティ・ダイアログ ( Activity Dialog ) : 'AD1', 'AD2' ... 'ADn'.
- 推移 ( Transition ) : 'T1', 'T2' ... 'Tn'.
- 推移アクション ( Transition Action ) : 'TA1', 'TA2' ... 'TAn'.

プロセスとその部分の生成がシステムを準備するために必要とする前に、いくつかのSysConfigオプションのセット、キュー、ユーザー、動的フィールドを定義する必要があります。

次のキューを作成します：

- 管理： Management
- 顧客： Employees
- 購買： Purchasing
- 郵便局： Post office

次のユーザーを作成します。

- 管理者： Manager
- 顧客： Employee

次の動的フィールドを作成します。

- タイトル

ラベル	タイトル
タイプ	テキスト
オブジェクト	チケット

- 著者

ラベル	著者
タイプ	テキスト
オブジェクト	チケット

- ISBN

ラベル	ISBN
タイプ	テキスト
オブジェクト	チケット

- 状態

ラベル	状態
タイプ	ドロップダウン
オブジェクト	チケット
可能な値	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 承認</li> <li>• 承認拒否</li> <li>• 承認済</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 注文拒否</li> <li>• 発注済</li> <li>• 貨物受取済</li> </ul>
--	--

ノート: フィールド設定の「キー」と「値」は的確に使用して下さい。

• サプライヤー

ラベル	サプライヤー
タイプ	テキスト
オブジェクト	チケット

• 価格

ラベル	価格
タイプ	テキスト
オブジェクト	チケット

• 配達日 ( DeliveryDate )

ラベル	配達日
タイプ	日付
オブジェクト	チケット

• 受領日 ( DateOfReceipt )

ラベル	受領日
タイプ	日付
オブジェクト	チケット

次のSysConfigの設定をセットします :

- 'Ticket::Responsible': はい
- 'Ticket::Frontend::AgentTicketZoom###ProcessWidgetDynamicFieldGroups':

キー:	コンテンツ:
本	タイトル、著者、ISBN
一般	状態
注文	価格、サプライヤー、配達日
配送	受領日 ( DateOfReceipt )

- 'Ticket::Frontend::AgentTicketZoom###ProcessWidgetDynamicField':

キー:	コンテンツ:
著者	1
受領日 ( DateOfReceipt )	1
配達日 ( DeliveryDate )	1
ISBN	1

キー:	コンテンツ:
価格	1
状態	1
サプライヤー	1
タイトル	1

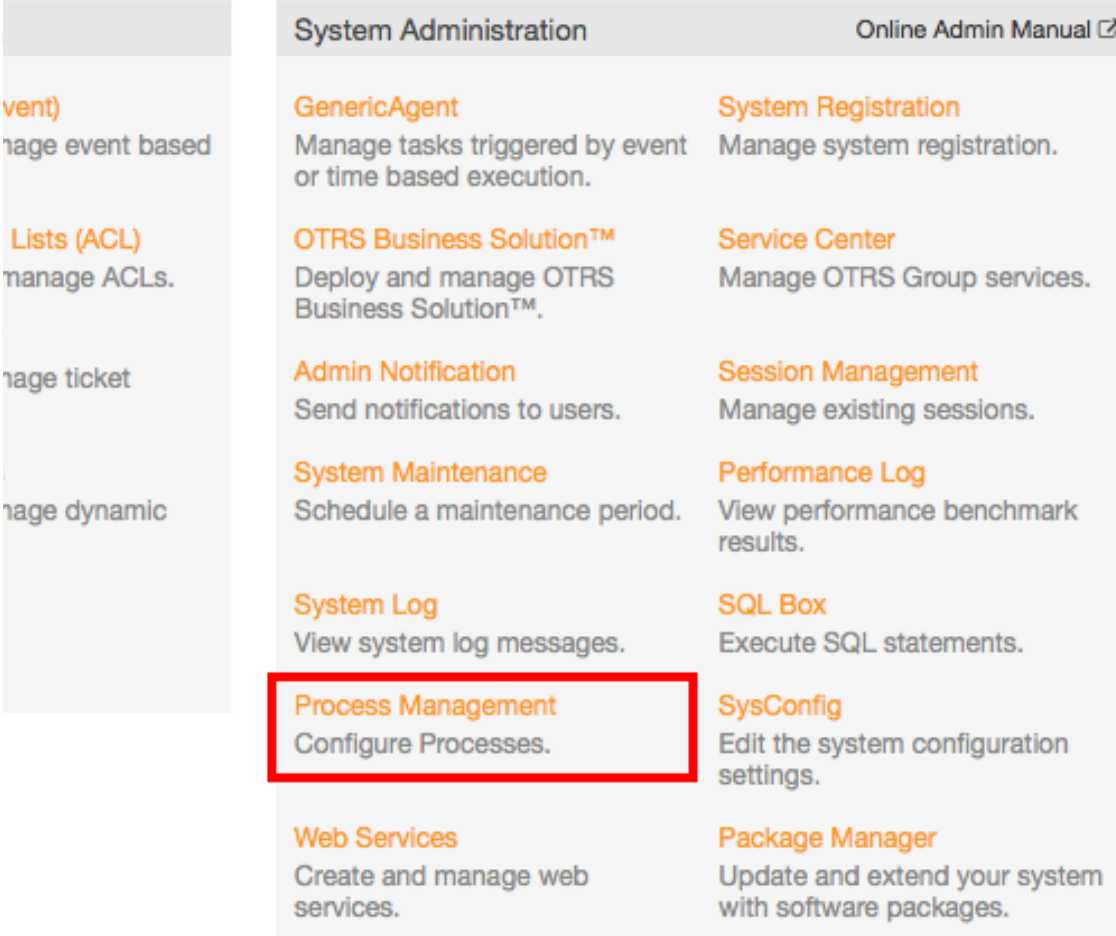
それでは、実際のプロセス管理職員で開始しましょう。次のステップで、必要とする個々の実体を定義します。

### 2.3.1. プロセス(コンテナとしての)

管理者パネル中のシステム管理ボックスの中の「プロセス・マネジメント」リンクをクリックする際には、新しいプロセスを作成する必要があります。これはプロセス・マネジメント概要への通じます。プロセスの生成の後、他のすべての実体(あるいはプロセス部分)を作成することができます。

#### 注記

1つのプロセスの中で定義されたアクティビティ、アクティビティ・ダイアログ、推移および推移アクションは、システムでのすべてのプロセスに利用可能になります。



The screenshot shows the 'System Administration' menu with the following items:

- GenericAgent: Manage tasks triggered by event or time based execution.
- OTRS Business Solution™: Deploy and manage OTRS Business Solution™.
- Admin Notification: Send notifications to users.
- System Maintenance: Schedule a maintenance period.
- System Log: View system log messages.
- Process Management: Configure Processes.** (highlighted in red)
- Web Services: Create and manage web services.
- System Registration: Manage system registration.
- Service Center: Manage OTRS Group services.
- Session Management: Manage existing sessions.
- Performance Log: View performance benchmark results.
- SQL Box: Execute SQL statements.
- SysConfig: Edit the system configuration settings.
- Package Manager: Update and extend your system with software packages.

図:OTRS管理者画面 - システム管理

アクション・ボックスから「新しいプロセスを作成する」アクションをクリックしてください。





図:新しいプロセスの追加

プロセス情報を記入し、プロセス名と摘要を設定し、全てのタスクが終了するまでプロセスの状態を「不活性」のままにしておきます。プロセスを保存します。

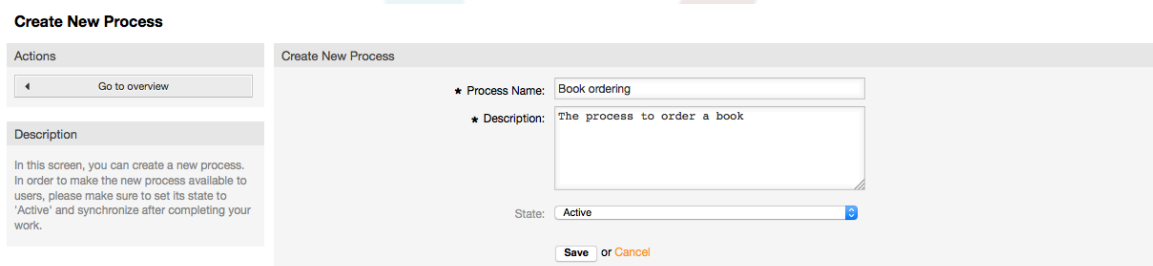


図:新しいプロセスの追加

## 2.3.2. アクティビティ・ダイアログ

プロセス・マネジメント概要画面にあるの新しいプロセス名をクリックします。それから「利用可能なプロセス構成要素」の中で「アクティビティ・ダイアログ」をクリックします。（このアクションはアクティビティ・ダイアログ・オプションを拡張し、他の全てを壊し押しつぶすでしょう。）次に「新しいアクティビティ・ダイアログを作成」をクリックします。

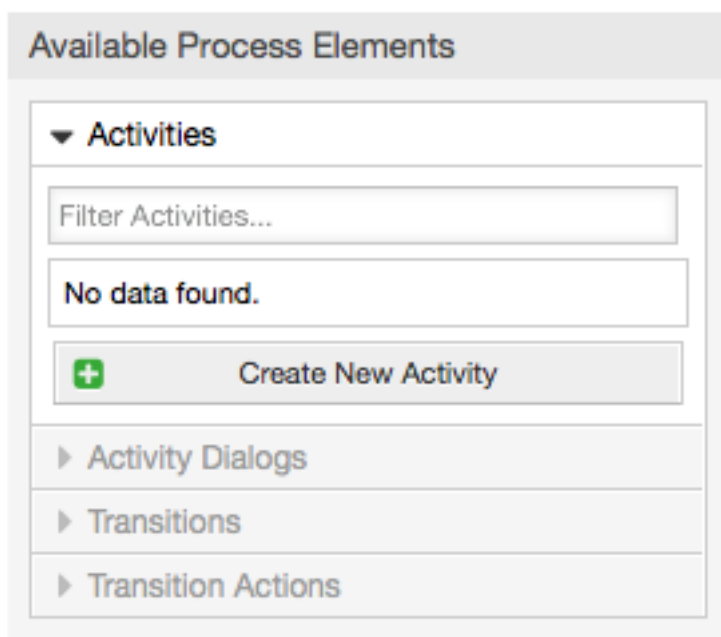
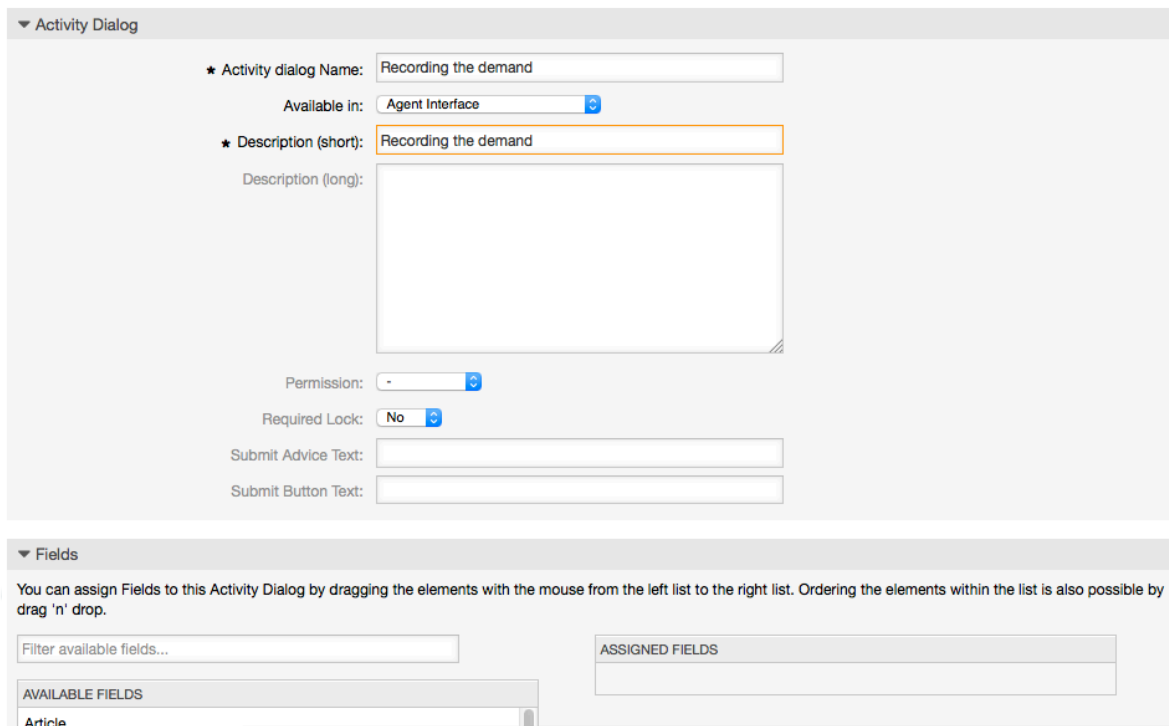


図:新しいアクティビティ・ダイアログ・ボタンの作成

「摘要（短）」フィールドと同様に、開いたポップ・アップ・画面に「アクティビティ・ダイアログ名」を記入します。この例では全ての他のフィールドをデフォルトのままにしておきます。アク

ティビティ・ダイアログにフィールドを指定するために、必要なフィールドを「利用可能なフィールド」プールから「指定されたフィールド」へドラッグします。「指定されたフィールド」プールの順序は

フィールドが画面にあるような順序です。プール内のフィールドをドラッグ&ドロップして順序を変更し、正しい位置に再配置します。



▼ Activity Dialog

★ Activity dialog Name: Recording the demand

Available in: Agent Interface

★ Description (short): Recording the demand

Description (long):

Permission: -

Required Lock: No

Submit Advice Text:

Submit Button Text:

▼ Fields

You can assign Fields to this Activity Dialog by dragging the elements with the mouse from the left list to the right list. Ordering the elements within the list is also possible by drag 'n' drop.

Filter available fields...

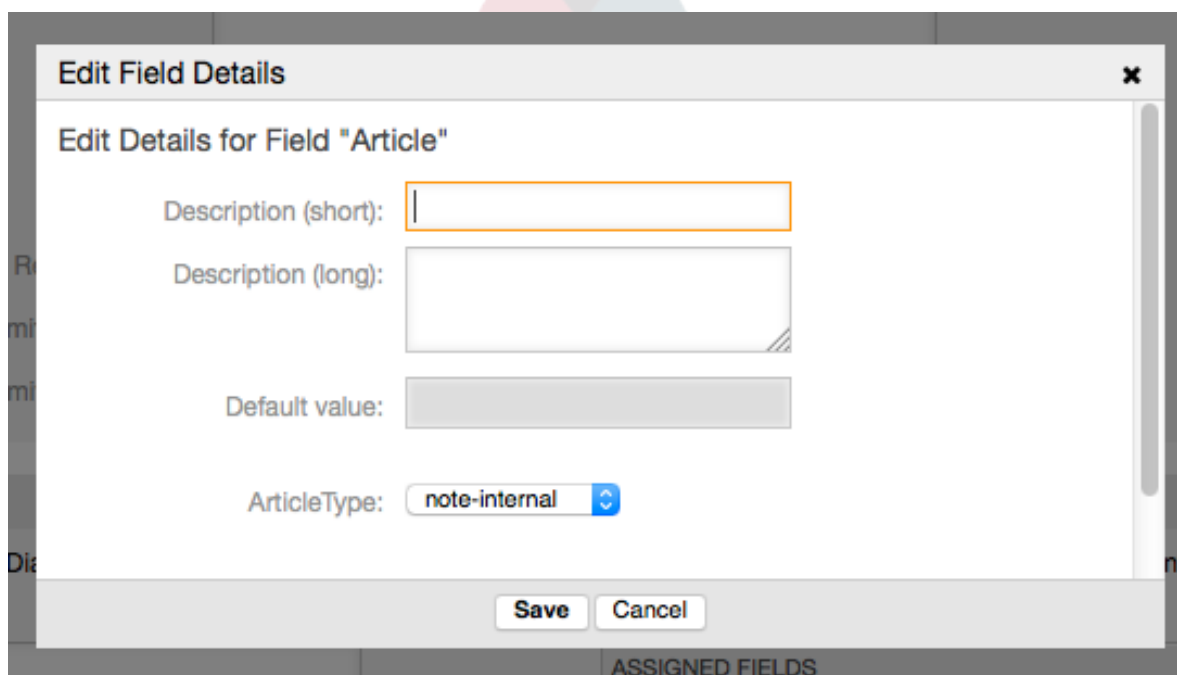
AVAILABLE FIELDS

Article

ASSIGNED FIELDS

図:新規アクティビティ・ダイアログの追加

フィールドが「指定されたフィールド」プールにドロップされるとすぐに、別のポップ・アップ・画面が開き、フィールドに関するいくつかの詳細が表示されます。デフォルト・オプションはそのままとして、また記事フィールドのみに関しては、記事タイプ・フィールドが「ノート内部：（note-internal）」にセットされることを確かめねばなりません。



Edit Field Details

Edit Details for Field "Article"

Description (short):

Description (long):

Default value:

ArticleType: note-internal

Save Cancel

ASSIGNED FIELDS

## 図:フィールド詳細(記事)の編集

全てのフィールドが指定された後で、変更を保存するためにメインのポップアップ画面にて、送信ボタンをクリックします。

この例では、私たちは記事フィールドをコメントに使用します。しかし、別のオプションは TextArea タイプ動的フィールドを作成できます。下記のラインの言及されたフィールドの残りは、私たちが事前に定義する動的フィールドです。

この画面では動的フィールドは、「DynamicField\_Title」の中に接頭辞「DynamicField\_」を持つことにご留意願います。タイトルフィールドとチケット・タイトルとを混同しないようにして下さい。

次のアクティビティ・ダイアログを作成してください:

- 「依頼の記録」(AD1)

注文のために収集されるデータ用の全ての必須フィールドを含むアクティビティ・ダイアログ(タイトル、著者、ISBN)と、「承認」を選択する可能性を持つ状態フィールド。

- 「承認拒否」(AD2)

コメント・フィールド(記事)を持つアクティビティ・フィールドとオプション「承認拒否」を備えた状態フィールド

- 「承認済」(AD3)

ここでは「承認済」オプションを持つ状態フィールドが必要となります。

- 「注文拒否」(AD4)

購入時不可能な注文(在庫切れの本)を拒否することを可能にするアクティビティ・ダイアログ。ここでは「注文拒否」オプションを持つ状態フィールドが必要となります。

- 「発注」(AD5)

購入時のフィールド・サプライヤー、価格、配達日、及び「注文拒否」オプションを持つ状態フィールドを、持つアクティビティ・ダイアログ。

- 「貨物受取」(AD6)

「受取日のフィールドを備えた郵便室」および「貨物受取」オプションを備えた状態・フィールド用のアクティビティ。

各々のアクティビティ・ダイアログ用の状態フィールドを制限するために、いくつかのACLの追加を必要とします。ACLを追加する場所はKernel/Config.pmの中またはKernel/Config/Filesの中にある新しいperlファイルです。

```
$Self->{TicketAcl}->{'P1-AD1-1'} = {
  Properties => {
    Process => {
      ActivityDialogEntityID => ['AD1'],
    },
  },
  Possible => {
    Ticket => {
      DynamicField_Status => ['Approval'],
    },
  },
};
```

```
$Self->{TicketAcl}->{'P1-AD2-1'} = {
  Properties => {
    Process => {
      ActivityDialogEntityID => ['AD2'],
    },
  },
  Possible => {
    Ticket => {
      DynamicField_Status => ['Approval denied'],
    },
  },
};

$Self->{TicketAcl}->{'P1-AD3-1'} = {
  Properties => {
    Process => {
      ActivityDialogEntityID => ['AD3'],
    },
  },
  Possible => {
    Ticket => {
      DynamicField_Status => ['Approved'],
    },
  },
};

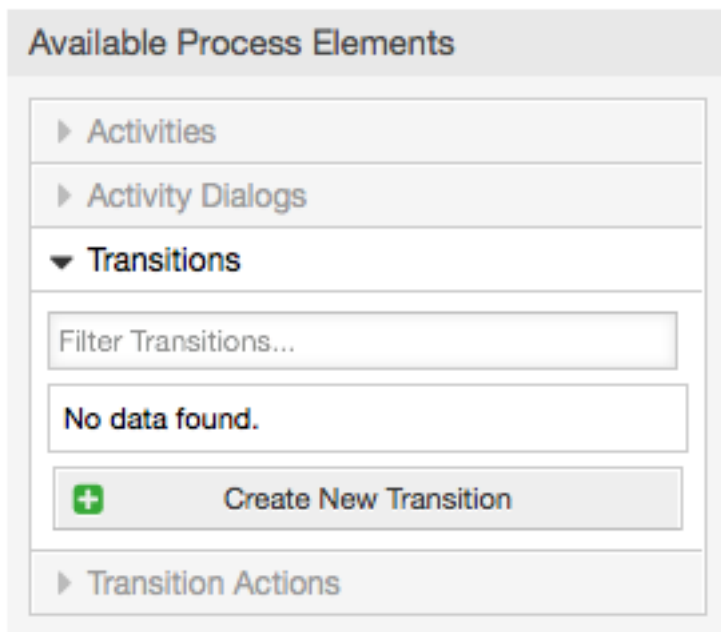
$Self->{TicketAcl}->{'P1-AD4-1'} = {
  Properties => {
    Process => {
      ActivityDialogEntityID => ['AD4'],
    },
  },
  Possible => {
    Ticket => {
      DynamicField_Status => ['Order denied'],
    },
  },
};

$Self->{TicketAcl}->{'P1-AD5-1'} = {
  Properties => {
    Process => {
      ActivityDialogEntityID => ['AD5'],
    },
  },
  Possible => {
    Ticket => {
      DynamicField_Status => ['Order placed'],
    },
  },
};

$Self->{TicketAcl}->{'P1-AD6-1'} = {
  Properties => {
    Process => {
      ActivityDialogEntityID => ['AD6'],
    },
  },
  Possible => {
    Ticket => {
      DynamicField_Status => ['Shipment received'],
    },
  },
};
```

### 2.3.3. 推移

「推移」で「利用可能なプロセス要素」をクリックして、その後、「新しい推移の作成」をクリックしてください。



図：新規推移ボタンの作成

開いたポップ・アップ・画面中に「推移名」を記入します。それからこの条件では、この例に対してひとつの条件とひとつのフィールドを使います。その両方に対してリンクのタイプを「and」のままにします。そしてフィールド一致タイプ値として「String」を使います。

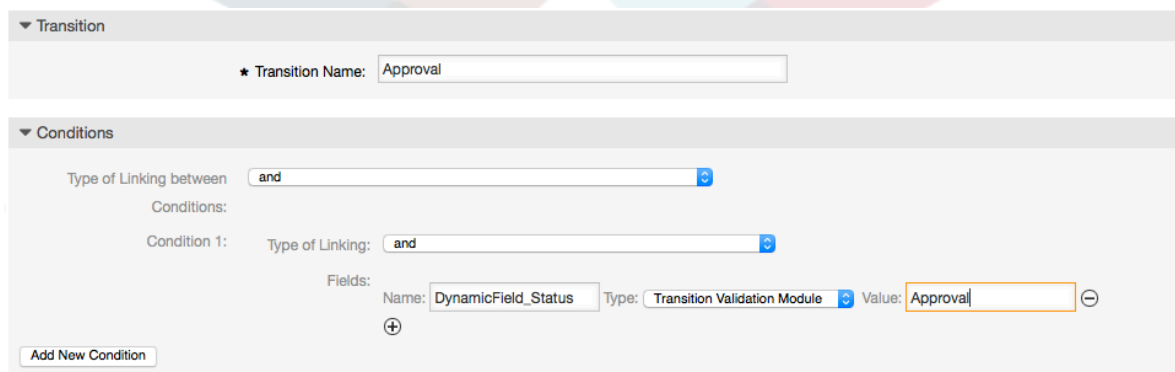


図: 新規推移の追加

全ての条件を設定後、変更を保存するために送信ボタンをクリックします。

次の推移を作成してください:

- 「承認」(T1)

状態フィールドが「承認」にセットされるかどうかをチェックする推移。

- 「承認拒否」(T2)

状態フィールドが「承認拒否」にセットされるかどうかをチェックする推移。

- 「承認済」(T3)

状態フィールドが着手されるかどうかをチェックする推移は「承認済」

- 「注文拒否」(T4)

状態フィールドが「注文拒否」にセットされるかどうかをチェックする推移。

- 「発注」 (T5)

状態フィールドが「発注」にセットされるかどうかをチェックする推移。

- 「貨物受取」 (T6)

状態フィールドが「貨物受取」にセットされるかどうかをチェックする推移。

### 2.3.4. 推移アクション

「利用可能なプロセス要素」中の「推移アクション」をクリックして、次に、「新規推移アクションの作成」をクリックしてください。

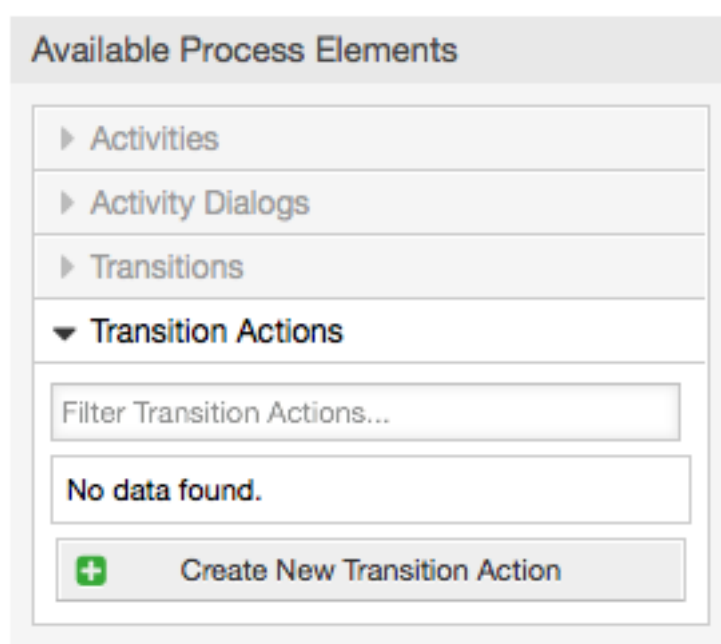


図:新規推移アクションボタンの作成

開かれたポップ・アップ・画面の中で「推移名」および「推移アクション・モジュール」を記入して下さい。それから、必須及び任意のパラメタと値を追加して下さい。

全ての推移アクション・モジュールは、Kernel/System/ProcessManagement/TransitionAction に存在します。また、推移アクションと以下は下記は、バンドルされた推移アクションのリストで、このリリースに含まれます。

- DynamicFieldSet (動的フィールドのセット)
- TicketArticleCreate (チケット記事の作成)
- チケット作成
- TicketCustomerSet (チケット・顧客・セット)
- TicketLockSet (チケット・ロック・セット)
- TicketOwnerSet (チケット・所有者・セット)
- TicketQueueSet (チケット・キュー・セット)

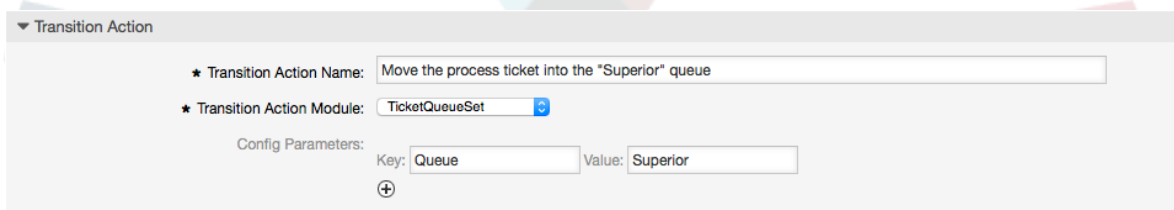
- TicketResponsibleSet (チケット・責任者・セット)
- TicketServiceSet (チケット・サービス・セット)
- TicketSLASet (チケット・SLA・セット)
- TicketStateSet (チケット・状態・セット)
- TicketTitleSet (チケット・タイトル・セット)
- TicketTypeSet (チケット・タイプ・セット)

モジュールはそれぞれ自身のものおよび異なるパラメーターを持っています。全ての必須及び任意のパラメータを知るためにモジュール・ドキュメンテーションをレビューして下さい。

## 注記

From OTRS 4.0.1, parameters are not longer mandatory fixed values, but instead, they can inherit from the original ticket using format: <OTRS\_Ticket\_property>.

From OTRS 4.0.6, the format <OTRS\_TICKET\_property> is now supported, older format is still usable, but deprecated as it will be dropped in further versions.



## 新規推移アクションの追加

全ての条件を設定後、変更を保存するために送信ボタンをクリックします。

次の推移アクションを作成してください:

- 「「管理」キューへプロセス・チケットを移動」(TA1)  
このアクションは推移「承認」(T1)が適用される時、実行されると思われます。
- 「チケットの責任者を「マネージャ」に変更」(TA2)  
推移「承認」(T1)の適用時、実行されるべきです。
- 「「従業員」キューへのプロセス・チケットの移動」(TA3)  
以下の場合実行されるべきです：
  - 推移: 「否認」(T2)が適用された
  - 推移: 「注文拒否」(T4)が適用された
  - 推移: 「出荷受取」(T6)が適用された
- 「チケットの責任者を「従業員」へ変更」(TA4)

以下の場合実行されるべきです：

- 推移: 「承認拒否」(T2)が適用された

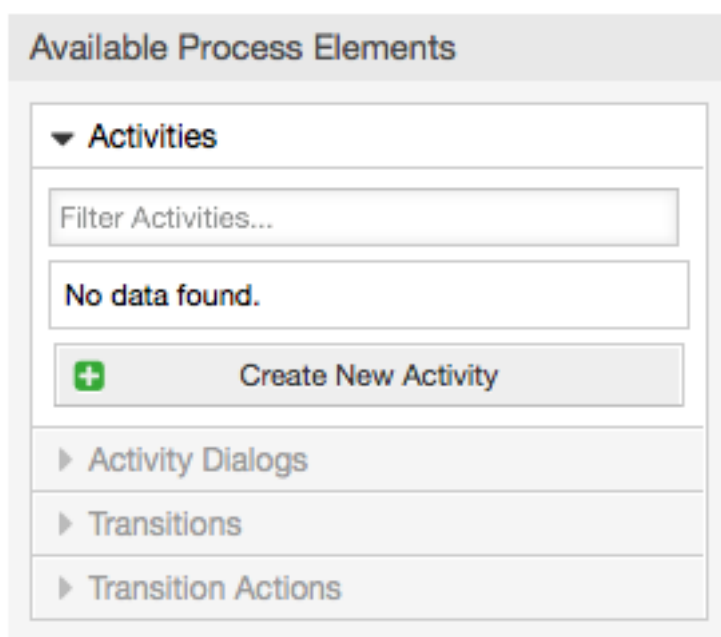
- 推移:「注文拒否」(T4)が適用された
- 推移:「貨物受取」(T6)が適用された
- 「プロセス・チケットを「購入」キュー」(TA5)へ移動する  
推移「承認済」(T3)が適用された場合に実行されるべきです。
- 「プロセス・チケットを「郵便局」キューへ移動」(TA6)  
推移「発注」(T5)が適用されたら実行されるべきです。
- 「チケットが正しく完了しました(TA7)」  
以下の場合実行されるべきです：
  - 推移:「貨物受取」(T6)が適用された
  - 「チケットが正しく完了しませんでした」(TA8)  
以下の場合実行されるべきです：
    - 推移:「承認拒否」(T2)が適用された
    - 推移:「注文拒否」(T4)が適用された

ご覧のように、同じ推移アクションが実行されるべき場所があります。したがって、それらを再使用することができるように推移アクションと推移とを自由にリンクすることを可能にすることは合理的なやり方です。

### 2.3.5. アクティビティ

アクティビティをひとつのバスケットとみなすアプローチを選択します。それは単数または複数のアクティビティ・ダイアログを含むことができます。

「利用可能なプロセス要素」中の「アクティビティ」をクリックして、次に、「新規アクティビティの作成」をクリックしてください。





## 図：新規アクティビティボタンの作成

開かれたポップ・アップ・画面中で「アクティビティ名」を記入して下さい。次に、必要なアクティビティ・ダイアログを“利用可能なアクティビティ・ダイアログ”プールからドラッグして、「割り当てされたアクティビティ・ダイアログ」プールへドロップします。このダイアログはチケット・ズーム画面で同じ順序で表示されるでしょう。その順序とは最上部から最下部、左から右へ推移するこの画面で定義されたものです。

この順序は特に最初のアクティビティで重要です。というのは、このアクティビティのための最初のアクティビティ・ダイアログはそれがプロセスが開始する時に表示されるただひとつのものだからです。

次のアクティビティを作成しましょう。

- 「依頼（要求）の記録」（A1）

アクティビティ・ダイアログ「依頼（要求）の記録」を含みます（AD1）

- 「承認」（A2）

アクティビティ・ダイアログ「承認」（AD3）と同様に「承認拒否」（AD2）を含みます。

- 「注文」（A3）

アクティビティ・ダイアログ「発注」（AD5）と同様に「注文拒否」（AD4）を含みます。（AD5）

- 「入荷」（A4）

アクティビティ・ダイアログ「貨物受取」（AD6）を含みます。

- 「プロセス完了」（A5）：これは可能なアクティビティ・ダイアログのないアクティビティです。「承認拒否」、「注文拒否」または「貨物受取」の後にセットされ、プロセスの終了を表します。

アクティビティが、プロセス・チケットの正確に定義された状態であることを明確に理解しました。成功した推移の後、プロセス・チケットはあるアクティビティから別のアクティビティへ遷移します。

### 2.3.6. 本の注文プロセスのパス

フローの記述者としてのプロセス、パズルの最後の欠けた1ピースで私たちの例を終えることにしましょう。私たちのケースでは、これは全注文ワークフローです。他のプロセスは事務用品注文あるいは完全に異なるプロセスでありえます。

プロセスには、スタート・アクティビティおよびスタート・アクティビティ・ダイアログをから成る、出発点があります。任意の新しい本オーダーについては、スタート・アクティビティ・ダイアログ(最初のアクティビティのための第1のアクティビティ・ダイアログ)は、表示される最初の画面です。これが完成し保存されれば、プロセス・チケットは作成され、形成されたワークフローに続くことができます。

プロセスには、プロセス・チケットどのようにしてがプロセスを通過できるのかについての指示も含まれています。これを「パス」と呼びましょう。それは、スタート・アクティビティ、1つ以上の推移(恐らく推移アクションを持った)および他の活動から成ります。

アクティビティがすでにアクティビティ・ダイアログを割り当てしたと仮定すると、アクティビティをアコーディオン（画面左部）からドラッグします。そしてそれをキャンバスエリア（以下のプロセス情報）にドロップします。プロセス・スタート(緑の円)からアクティビティまでの矢印が自動的に置かれることに注目してください。(これは最初のアクティビティです。また、その最初のアクティビティ・ダイアログは プロセスが開始するときに表示される最初の画面です)。

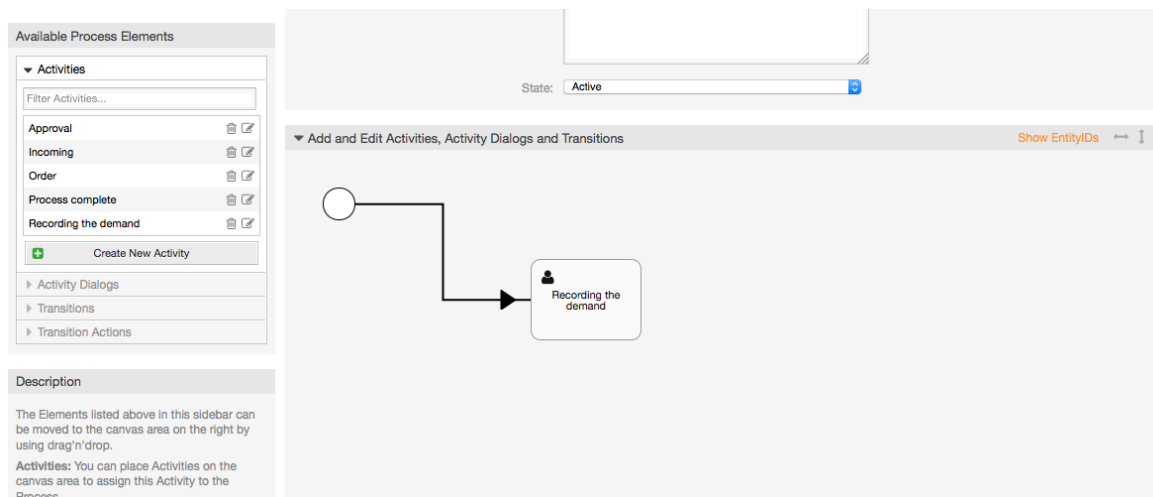
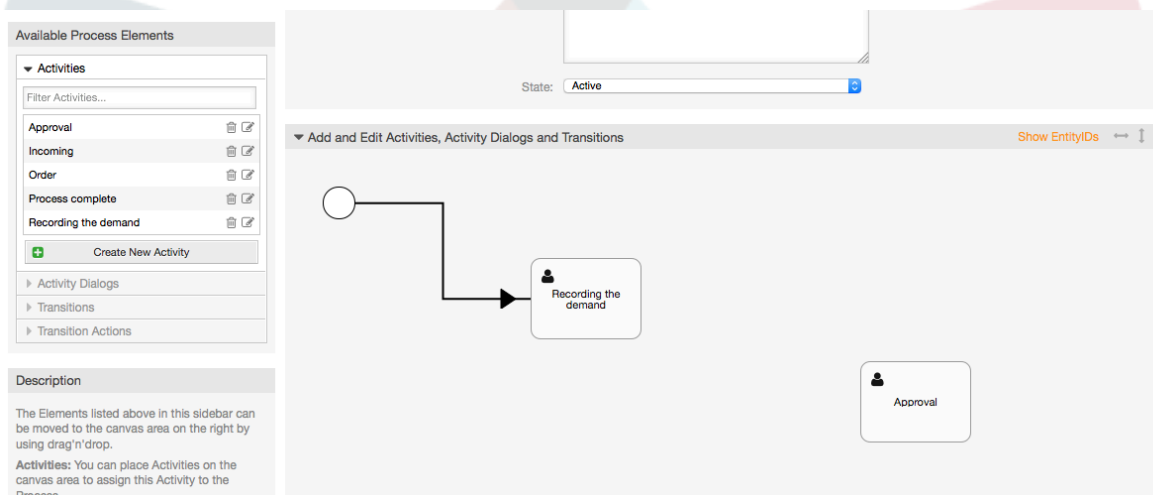


図:キャンパスに第1のアクティビティをドラッグしてください

次に、キャンパスに別のアクティビティをドラッグしてください。キャンパスに2つのアクティビティを持つことになります。ひとつはスタート点に接続され、もう一方は接続点を持ちません。それぞれのアクティビティ上でマウスポインタを持っていくと、それらアクティビティ・ダイアログを確認することができます。



図：第二のアクティビティをキャンパスにドラッグします

それからこの2つのアクティビティ間の「パス」を作成しましょう、そのために推移を使います。アコーディオン状の推移をクリックし、推移をドラッグしそれを最初のアクティビティの内部にドロップします。アクティビティはその色が

推移が添付されたことを示して、変化することに気づいて下さい。推移が推移の端の矢印にドロップされるとすぐに、スタート開始点の隣に置かれるでしょう。

アクティビティ間の接点を作成するために、推移の矢印の終了点をドラッグしてそれを他のアクティビティの内部にドロップします。

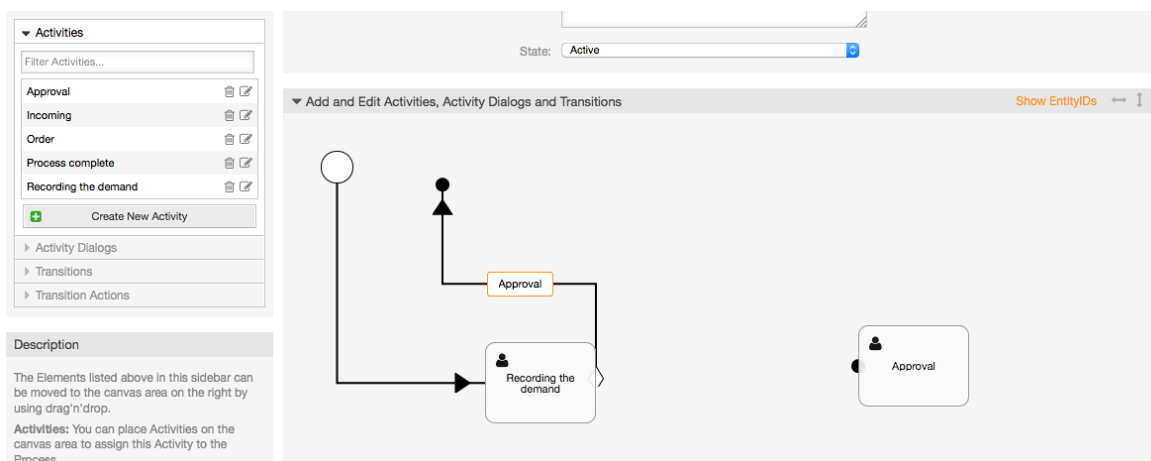


図:キャンバスに推移をドラッグします。

アクション間の「パス」が今定義されたので、次に推移に推移アクションを割り当てる必要があります。推移ラベル(キャンバス中の)をダブルクリックし、新しいポップアップ・ウィンドウを開きます。

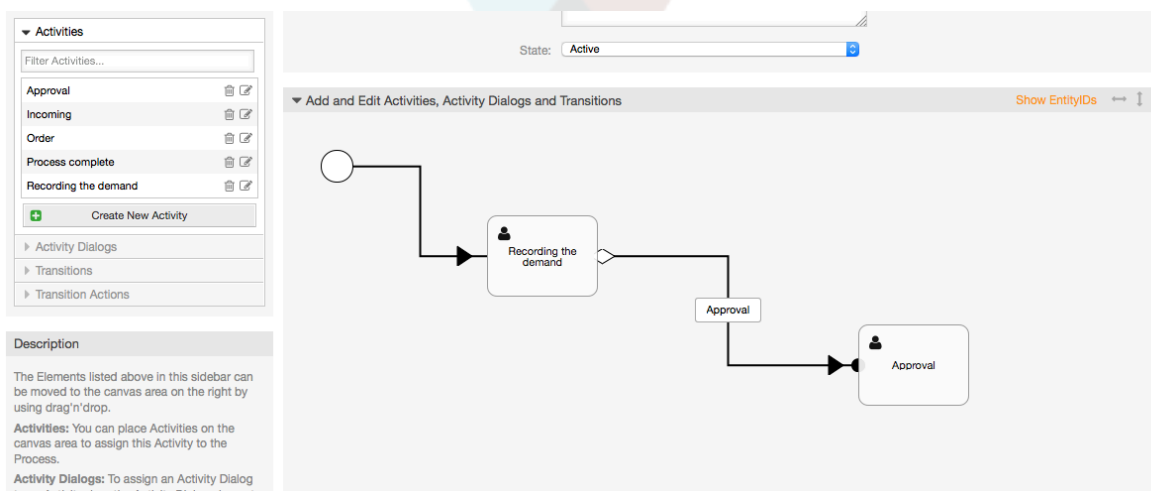
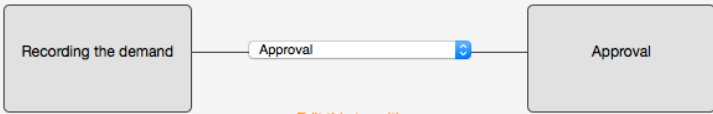


図:推移を使用して、アクティビティを接続します

必要な推移アクションを利用可能な推移アクションプールからドラッグし、それらを割り当てた推移アクションプールにドロップし、送信ボタンをクリックします。

▼ Path



▼ Transition Actions

You can assign Transition Actions to this Transition by dragging the elements with the mouse from the left list to the right list. Ordering the elements within the list is also possible by drag 'n' drop.

Filter available Transition Actions...

AVAILABLE TRANSITION ACTIONS	
Close ticket successfully (TransitionAction-264fdb3cd53e31417...	<input checked="" type="checkbox"/>
Close ticket unsuccessfully (TransitionAction-4de7ad2670fb40c...	<input checked="" type="checkbox"/>
Move the process ticket into the "Employees" queue (Transition...	<input checked="" type="checkbox"/>
Change ticket responsible to "Employee" (TransitionAction-7bc...	<input checked="" type="checkbox"/>
Move process ticket into the "Post office" queue (TransitionActi...	<input checked="" type="checkbox"/>
Move process ticket into the "Purchasing" queue (TransitionActi...	<input checked="" type="checkbox"/>

Create New Transition Action

ASSIGNED TRANSITION ACTIONS	
Change ticket responsible to "manager" (TransitionAction-aad8...	<input checked="" type="checkbox"/>
Move the process ticket into the "Management" queue (Transiti...	<input checked="" type="checkbox"/>

図: 推移アクションを割り当てます

メインプロセス編集画面に戻って（キャンバス下にある他のすべての変更を保存するための）保存ボタンをクリックします。

次のアクティビティ、推移、推移アクションを追加することで「パス」を完成します。

「承認」まで依頼・要求を記録すること

- 出発点: アクティビティ: 依頼・要求の記録(A1)
- 可能な推移: 承認(T1)
  - この活動の条件が満たされれば、チケットはアクティビティに移ります: 承認(A2)
  - さらに、次の推移アクションが実行されます:
    - 「「管理」キューへチケットを移動させる」(TA1)
    - 「チケットの責任者を「マネージャー」に設定する」(TA2)

アクティビティ: 「依頼・要求を記録する」(A1)が

プロセス・チケットの定義されたステップです。そのステップでは、推移: 「承認」(T1)の可能性がります。これが適用されれば、チケットは次のアクティビティ: 「承認」(A2)に移ります。そして推移アクション: 「「管理」キューへチケットを移動させる」(TA1)こと、及び「チケットの責任者として「マネージャー」を設定する」(TA2)が実行されます。アクティビティの中で: 「承認」(A2)(アクティビティ・ダイアログ)、 「承認拒否」(AD2)そして、 「承認済」(AD3)が利用可能です。

承認

- 出発点: アクティビティ: 「承認」(A2)
- 可能な推移:
  - 「承認拒否」(T2)
    - これが一致すれば、プロセス・チケットはアクティビティに移ります: 「プロセス完了」(A5)

- さらに、次の推移アクションが実行されます:
  - 「「従業員」キューへプロセス・チケットを移動」(TA3)
  - 「チケットの責任者を「従業員」設定」(TA4)
  - 「チケットが正しく完了しませんでした」(TA8)
- 「承認済」(T3)
  - これが一致すれば、プロセス・チケットはアクティビティ: 「注文」に移ります (A3)
  - さらに次の推移アクションが実行されます
    - 「プロセス・チケットを「購入」キューに移動します。」(TA5)

プロセスチケットのステップを定義する現在のアクティビティを見ればわかることがあります。推移には1個以上の可能性があり、それはまさにひとつのターゲット・アクティビティです。(そしておそらく1個以上の推移アクションです。)

#### 注文

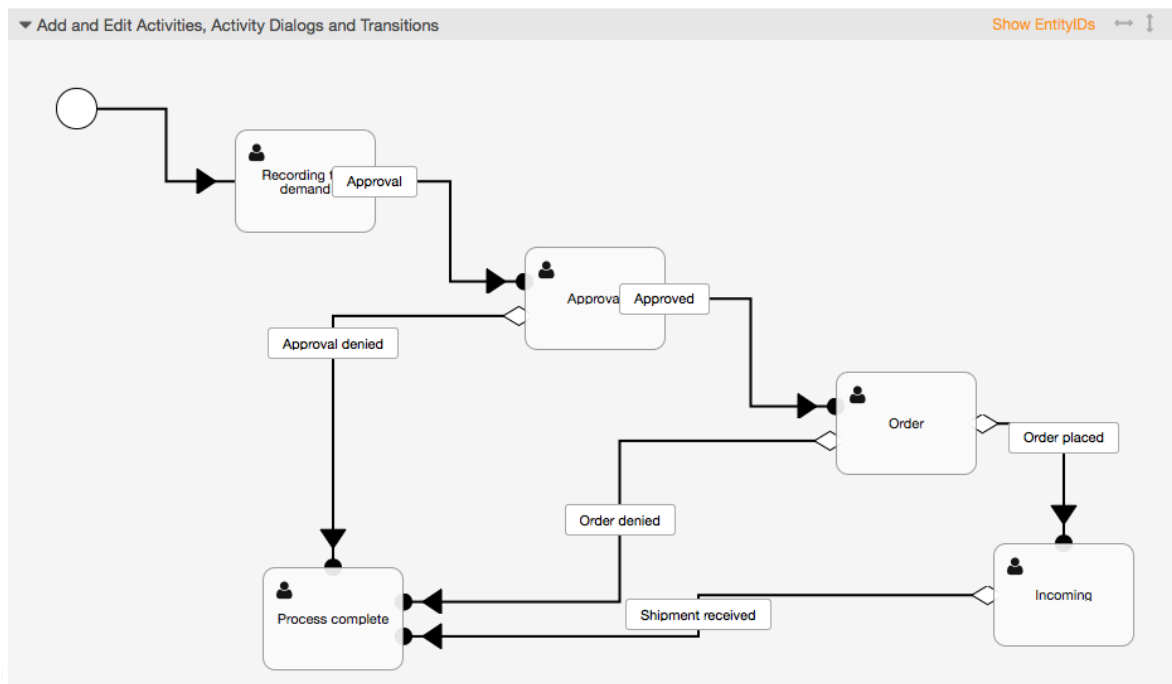
- 開始点: アクティビティ「注文」(A3)
- 可能な推移:
  - 「注文拒否」(T4)
    - これが一致すれば、プロセス・チケットはアクティビティに移ります: 「プロセス完了」(A5)
    - さらに、次の推移アクションが実行されます:
      - 「「従業員」キューへプロセス・チケットを移動」(TA3)
      - 「チケットの責任者を「従業員」設定」(TA4)
      - 「チケットが正しく完了しませんでした」(TA8)
  - 「発注」(T5)
    - これが一致すれば、プロセス・チケットはアクティビティに移るでしょう: 「入信」(A5)
    - さらに次の推移アクションが実行されます
      - 「「郵便局」キューにプロセス・チケットを移動させてください」(TA6)

#### Incoming (入信)

- 出発点: アクティビティ「入信」A4
- 可能な推移:
  - 「貨物受取」(T6)
    - これが一致すれば、プロセス・チケットはアクティビティに移ります: 「プロセス完了」(A5)
    - さらに、次の推移アクションが実行されます:
      - 「「従業員」キューへプロセス・チケットを移動」(TA3)
      - 「チケットの責任者を「従業員」設定」(TA4)

- 「チケットが正しく完了しました (TA7)」

本の注文プロセスの完全なパスはこのように見えるでしょう。



図：本の注文の完全なプロセス・パス

プロセス・パスを終了した後、キャンパスの下方部分中の「セーブする」ボタンをクリックして、次に、「全てのプロセスを同期」ボタンをクリックしてください。これはデータベースからすべてのプロセス情報を収集しキャッシュ・ファイル(Perl言語で)を作成します。このキャッシュ・ファイルは実際、プロセス・チケットを作成するか使用するためにシステムが使用するプロセス・構成です。

プロセス(GUIの中の)に行なわれるどんな変更も、システムで変更を反映するために再度キャッシュ・ファイルを同期させる必要があります。

さらに、YAMLファイルから全工程をインポートすることは可能です。しかし、インポートの前に各プロセスによって必要な動的フィールド、ユーザ、キューなどをすべて作ることがまだ必要です。

プロセスがACLの使用を要求する場合、手動でセットされることも必要であることに注目してください。

以下は本の注文の処理例のための完全なYAMLファイルです:

```

---
Activities:
  A1:
    ActivityDialogs:
      - AD1
    ChangeTime: 2012-11-23 14:49:22
    Config:
      ActivityDialog:
        1: AD1
    CreateTime: 2012-11-23 11:49:38
    EntityID: A1
    ID: 151
    Name: Recording the demand
  A2:
    ActivityDialogs:

```

```
- AD2
- AD3
ChangeTime: 2012-12-13 00:55:12
Config:
  ActivityDialog:
    1: AD2
    2: AD3
CreateTime: 2012-11-23 11:50:11
EntityID: A2
ID: 152
Name: Approval
A3:
  ActivityDialogs:
    - AD4
    - AD5
  ChangeTime: 2012-11-23 18:12:14
  Config:
    ActivityDialog:
      1: AD4
      2: AD5
  CreateTime: 2012-11-23 11:50:35
  EntityID: A3
  ID: 153
  Name: Order
A4:
  ActivityDialogs:
    - AD6
  ChangeTime: 2012-11-23 18:12:35
  Config:
    ActivityDialog:
      1: AD6
  CreateTime: 2012-11-23 11:51:00
  EntityID: A4
  ID: 154
  Name: Incoming
A5:
  ActivityDialogs: []
  ChangeTime: 2012-11-23 11:51:33
  Config: {}
  CreateTime: 2012-11-23 11:51:33
  EntityID: A5
  ID: 155
  Name: Process complete
ActivityDialogs:
  AD1:
    ChangeTime: 2012-12-06 02:16:21
    Config:
      DescriptionLong: ''
      DescriptionShort: Recoding the demand
      FieldOrder:
        - DynamicField_Author
        - DynamicField_ISBN
        - DynamicField_Title
        - DynamicField_Status
      Fields:
        DynamicField_Author:
          DefaultValue: ''
          DescriptionLong: ''
          DescriptionShort: ''
          Display: 1
        DynamicField_ISBN:
          DefaultValue: ''
          DescriptionLong: ''
          DescriptionShort: ''
          Display: 1
        DynamicField_Status:
          DefaultValue: ''
          DescriptionLong: ''
          DescriptionShort: ''
          Display: 1
        DynamicField_Title:
          DefaultValue: ''
```

```

    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: ''
    Display: 1
  Interface:
    - AgentInterface
  Permission: ''
  RequiredLock: 0
  SubmitAdviceText: ''
  SubmitButtonText: ''
  CreateTime: 2012-11-23 14:34:43
  EntityID: AD1
  ID: 154
  Name: Recording the demand
AD2:
  ChangeTime: 2012-11-23 14:57:41
  Config:
    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: Approval denied
    FieldOrder:
      - Article
      - DynamicField_Status
    Fields:
      Article:
        Config:
          ArticleType: note-internal
          DefaultValue: ''
          DescriptionLong: ''
          DescriptionShort: ''
          Display: 1
        DynamicField_Status:
          DefaultValue: ''
          DescriptionLong: ''
          DescriptionShort: ''
          Display: 1
      Interface:
        - AgentInterface
      Permission: ''
      RequiredLock: 0
      SubmitAdviceText: ''
      SubmitButtonText: Deny Request
    CreateTime: 2012-11-23 14:36:39
    EntityID: AD2
    ID: 155
    Name: Approval denied
AD3:
  ChangeTime: 2012-12-14 03:14:23
  Config:
    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: Approved
    FieldOrder:
      - DynamicField_Status
    Fields:
      DynamicField_Status:
        DefaultValue: ''
        DescriptionLong: ''
        DescriptionShort: ''
        Display: 1
      Interface:
        - AgentInterface
      Permission: ''
      RequiredLock: 0
      SubmitAdviceText: ''
      SubmitButtonText: Approve Request
    CreateTime: 2012-11-23 14:37:35
    EntityID: AD3
    ID: 156
    Name: Approved
AD4:
  ChangeTime: 2012-11-23 14:58:52
  Config:
    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: Order rejected

```



```

FieldOrder:
- Article
- DynamicField_Status
Fields:
  Article:
    Config:
      ArticleType: note-internal
      DefaultValue: ''
      DescriptionLong: ''
      DescriptionShort: ''
      Display: 1
    DynamicField_Status:
      DefaultValue: ''
      DescriptionLong: ''
      DescriptionShort: ''
      Display: 1
  Interface:
    - AgentInterface
  Permission: ''
  RequiredLock: 0
  SubmitAdviceText: ''
  SubmitButtonText: Reject Order
CreateTime: 2012-11-23 14:38:48
EntityID: AD4
ID: 157
Name: Order rejected
AD5:
  ChangeTime: 2012-12-06 02:20:12
  Config:
    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: Order placed
  FieldOrder:
    - DynamicField_DeliveryDate
    - DynamicField_Price
    - DynamicField_Supplier
    - DynamicField_Status
  Fields:
    DynamicField_DeliveryDate:
      DefaultValue: ''
      DescriptionLong: ''
      DescriptionShort: ''
      Display: 1
    DynamicField_Price:
      DefaultValue: ''
      DescriptionLong: ''
      DescriptionShort: ''
      Display: 1
    DynamicField_Status:
      DefaultValue: ''
      DescriptionLong: ''
      DescriptionShort: ''
      Display: 1
    DynamicField_Supplier:
      DefaultValue: ''
      DescriptionLong: ''
      DescriptionShort: ''
      Display: 1
  Interface:
    - AgentInterface
  Permission: ''
  RequiredLock: 0
  SubmitAdviceText: ''
  SubmitButtonText: Place Order
CreateTime: 2012-11-23 14:41:28
EntityID: AD5
ID: 158
Name: Order placed
AD6:
  ChangeTime: 2012-11-23 14:42:43
  Config:
    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: Shipment received

```

```

FieldOrder:
- DynamicField_DateOfReceipt
- DynamicField_Status
Fields:
  DynamicField_DateOfReceipt:
    DefaultValue: ''
    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: ''
    Display: 1
  DynamicField_Status:
    DefaultValue: ''
    DescriptionLong: ''
    DescriptionShort: ''
    Display: 1
Interface:
- AgentInterface
Permission: ''
RequiredLock: 0
SubmitAdviceText: ''
SubmitButtonText: ''
CreateTime: 2012-11-23 14:42:43
EntityID: AD6
ID: 159
Name: Shipment received
Process:
  Activities:
  - A1
  - A2
  - A3
  - A4
  - A5
  ChangeTime: 2012-12-06 02:31:59
  Config:
    Description: The process to order a book
    Path:
      A1:
        T1:
          ActivityEntityID: A2
          TransitionAction:
            - TA2
            - TA1
        A2:
          T2:
            ActivityEntityID: A5
            TransitionAction:
              - TA3
              - TA4
              - TA8
          T3:
            ActivityEntityID: A3
            TransitionAction:
              - TA5
        A3:
          T4:
            ActivityEntityID: A5
            TransitionAction:
              - TA3
              - TA4
              - TA8
          T5:
            ActivityEntityID: A4
            TransitionAction:
              - TA6
        A4:
          T6:
            ActivityEntityID: A5
            TransitionAction:
              - TA3
              - TA4
              - TA7
      A5: {}
    StartActivity: A1

```

```
StartActivityDialog: AD1
CreateTime: 2012-11-23 11:45:12
EntityID: P1
ID: 94
Layout:
  A1:
    left: 172
    top: 63
  A2:
    left: 402
    top: 156
  A3:
    left: 649
    top: 255
  A4:
    left: 774
    top: 391
  A5:
    left: 194
    top: 410
Name: Book ordering
State: Active
StateEntityID: S1
TransitionActions:
  - TA1
  - TA2
  - TA3
  - TA4
  - TA8
  - TA5
  - TA3
  - TA4
  - TA8
  - TA6
  - TA3
  - TA4
  - TA7
Transitions:
  - T1
  - T2
  - T3
  - T4
  - T5
  - T6
TransitionActions:
TA1:
  ChangeTime: 2012-11-23 16:01:37
  Config:
    Config:
      Queue: Management
      Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet
  CreateTime: 2012-11-23 15:50:59
  EntityID: TA1
  ID: 61
  Name: Move the process ticket into the "Management" queue
TA2:
  ChangeTime: 2012-11-23 16:02:12
  Config:
    Config:
      Responsible: manager
      Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketResponsibleSet
  CreateTime: 2012-11-23 15:58:22
  EntityID: TA2
  ID: 62
  Name: Change ticket responsible to "manager"
TA3:
  ChangeTime: 2012-11-24 14:27:02
  Config:
    Config:
      Queue: Employees
      Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet
  CreateTime: 2012-11-23 16:02:54
```

```
EntityID: TA3
ID: 63
Name: Move the process ticket into the "Employees" queue
TA4:
ChangeTime: 2012-11-23 16:04:06
Config:
  Config:
    Responsible: Employee
    Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketResponsibleSet
CreateTime: 2012-11-23 16:04:06
EntityID: TA4
ID: 64
Name: Change ticket responsible to "Employee"
TA5:
ChangeTime: 2012-12-06 02:18:34
Config:
  Config:
    Queue: Purchasing
    Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet
CreateTime: 2012-11-23 16:04:54
EntityID: TA5
ID: 65
Name: Move process ticket into the "Purchasing" queue
TA6:
ChangeTime: 2012-12-06 02:18:48
Config:
  Config:
    Queue: Post office
    Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet
CreateTime: 2012-11-23 16:06:20
EntityID: TA6
ID: 66
Name: Move process ticket into the "Post office" queue
TA7:
ChangeTime: 2012-12-06 02:29:55
Config:
  Config:
    State: closed successful
    Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketStateSet
CreateTime: 2012-12-06 02:29:27
EntityID: TA7
ID: 67
Name: Close ticket successfully
TA8:
ChangeTime: 2012-12-06 02:31:12
Config:
  Config:
    State: closed unsuccessful
    Module: Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketStateSet
CreateTime: 2012-12-06 02:31:12
EntityID: TA8
ID: 68
Name: Close ticket unsuccessfully
Transitions:
T1:
ChangeTime: 2012-11-23 15:12:20
Config:
  Condition:
    1:
      Fields:
        DynamicField_Status:
          Match: Approval
          Type: String
      Type: and
    ConditionLinking: and
CreateTime: 2012-11-23 11:53:52
EntityID: T1
ID: 94
Name: Approval
T2:
ChangeTime: 2012-11-23 15:12:50
Config:
```

```
Condition:
  1:
    Fields:
      DynamicField_Status:
        Match: Approval denied
        Type: String
      Type: and
    ConditionLinking: and
  CreateTime: 2012-11-23 11:54:26
  EntityID: T2
  ID: 95
  Name: Approval denied
T3:
  ChangeTime: 2012-11-23 15:13:29
  Config:
    Condition:
      1:
        Fields:
          DynamicField_Status:
            Match: Approved
            Type: String
          Type: and
        ConditionLinking: and
      CreateTime: 2012-11-23 11:54:54
      EntityID: T3
      ID: 96
      Name: Approved
T4:
  ChangeTime: 2012-11-23 15:14:08
  Config:
    Condition:
      1:
        Fields:
          DynamicField_Status:
            Match: Order denied
            Type: String
          Type: and
        ConditionLinking: and
      CreateTime: 2012-11-23 11:55:25
      EntityID: T4
      ID: 97
      Name: Order denied
T5:
  ChangeTime: 2012-11-23 18:30:33
  Config:
    Condition:
      1:
        Fields:
          DynamicField_Status:
            Match: Order placed
            Type: String
          Type: and
        ConditionLinking: and
      CreateTime: 2012-11-23 11:56:15
      EntityID: T5
      ID: 98
      Name: Order placed
T6:
  ChangeTime: 2012-11-23 15:15:30
  Config:
    Condition:
      1:
        Fields:
          DynamicField_Status:
            Match: Shipment received
            Type: String
          Type: and
        ConditionLinking: and
      CreateTime: 2012-11-23 11:56:48
      EntityID: T6
      ID: 99
      Name: Shipment received
```

## 2.4. プロセス構成リファレンス

### 2.4.1. プロセス

1つのプロセスはワークフロー/プロセスのパスを形成します。このパス上の中間地点はアクティビティまたは推移になりえます。これらについては後程お話しします。

#### 2.4.1.1. プロセス構成

プロセス構成は、ファイル `Kernel/Config.pm` 中で行われます。しかし `Kernel/Config/Files/MyProcess.pm` のような新しいファイルを作成することが強く推奨されます。GUIがファイル `Kernel/Config/File/ZZZProcessManagement` を生成することに気づいて下さい。そのファイル名を使用することは回避してください。そうでなければ、同期プロセスの際にそれは上書きされるでしょう。例：プロセス構成(プロセス・キャッシュ・ファイルからの)を見ましょう：

```
$Self->{'Process'} = {
  'P1' => {
    Name           => '本の注文',
    CreateTime     => '16-02-2012 13:37:00',
    CreateBy      => '1',
    ChangeTime    => '17-02-2012 13:37:00',
    ChangeBy     => '1',
    State         => 'Active',
    StartActivity => 'A1',
    StartActivityDialog => 'AD1',
    Path => {
      'A1' => {
        'T1' => {
          ActivityEntityID => 'A2',
        },
      },
      'A2' => {
        'T2' => {
          ActivityEntityID => 'A3',
        },
      },
    },
  },
  'P2' => {
    Name           => 'IT 注文',
    CreateTime     => '26-02-2012 13:37:00',
    CreateBy      => '1',
    ChangeTime    => '27-02-2012 13:37:00',
    ChangeBy     => '1',
    State         => 'Active',
    StartActivity => 'A2',
    StartActivityDialog => 'AD2',
    Path => {
      'A2' => {
        'T3' => {
          ActivityEntityID => 'A4',
        },
      },
    },
  },
};
```

#### 2.4.1.2. Name

プロセスの名前、新しいプロセス・チケットを作成する場合、担当者はこれを選択することができます。

### 2.4.1.3. CreateTime

プロセスの作成時刻。

### 2.4.1.4. CreateBy

プロセスを作成するユーザのUID

### 2.4.1.5. ChangeTime

プロセスの変更時刻

### 2.4.1.6. ChangeBy

プロセスの最終変更ユーザのUID

### 2.4.1.7. State

プロセスの状態を定義します。可能な値:

- 「Active (アクティブ)」は、新しいプロセス・チケットの中で使用することができる全てのプロセスです。
- 「FadeAway (消失)」は、もはやさらなる新規チケットを選択できないプロセスです。既存チケットはまだプロセスを使用可能です。
- 「Inactive」 (インアクティブ) は、不活性化されたプロセスです。新規も既存チケットも使用できません。

### 2.4.1.8. StartActivity

新しいプロセス・チケットを作成する場合、StartActivityを定義しなければいけません。チケットが作成されるとすぐに、このアクティビティは最初の推移チェック用の基礎としてセットされ使用されるでしょう。

### 2.4.1.9. StartActivityDialog

新しいプロセス・チケットでは、StartActivityDialogは定義されなければいけません。新しいプロセス・チケット(プロセスが選択された後)を作成する時、これが示されるでしょう。このポイントでは、チケットはまだ存在しません、それはStartActivityDialogを提出した後に作成されるでしょう。

### 2.4.1.10. パス

パスは、現在のプロセスのために、アクティビティの構造およびそれらの間の可能な推移を含みません。そしてさらに発生する推移アクションは移行時に起こります。これは、プロセス・チケットがとることができる方法をコントロールします。

```
'A1' => {  
  'T1' => {  
    ActivityEntityID => 'A2',  
  },  
  'T2' => {  
    ActivityEntityID => 'A3',  
  },  
  'T3' => {  
    ActivityEntityID => 'A4',  
    TransitionAction => ['TA1', 'TA2'],  
  },  
},
```

プロセス・チケットがアクティビティ('A1')にある場合、それには別の活動に到着する3つの可能な方法がある。推移('T1')に、「T3」に、条件は定義され、プロセス・チケットは別のアクティビティへの遷移を完了しなければならない。

この場合、推移「T2」に必要とされるプロセス・チケットおよびその動的なフィールドの値がすべて正確ならば、チケットは活動「A1」から「A3」に移動されるだろう。ActivityDialogが提出されるか、あるいはチケットに他の変更が行なわれる後、それは現在のアクティビティからの可能な推移をチェックされるだろう。複数の推移が可能ならば、最初のものが使用されるだろう(TransitionIDsをソートする数値ソートに基づく)。

さらに、パス設定中の推移に推移アクションを割り当てることは可能です。これらは成功した推移の後に実行されるモジュールである。それらは例のような配列形式で指定しなければならない。詳細は後述します。

## 2.4.2. アクティビティ

アクティビティは1つ以上のアクティビティ・ダイアログを含んでおり、プロセスの「ステップ」をモデル化します。現在のアクティビティの全てのアクティビティダイアログはチケット・ズームで表示され、推移の条件が満たされるまで使用することができます。

### 2.4.2.1. アクティビティ構成

サンプルのアクティビティ構成を見ましょう:

```
$Self->{'Process::Activity'} =
{
  'A1' => {
    Name      => 'Activity 1 optional',
    CreateTime => '16-02-2012 13:37:00',
    CreateBy  => '1',
    ChangeTime => '17-02-2012 13:37:00',
    ChangeBy  => '1',
    ActivityDialog => {
      1 => 'AD1',
    },
  },
  'A2' => {
    Name      => 'Activity 2 optional',
    CreateTime => '16-02-2012 13:37:00',
    CreateBy  => '1',
    ChangeTime => '17-02-2012 13:37:00',
    ChangeBy  => '1',
    ActivityDialog => {
      1 => 'AD5',
      2 => 'AD6',
      3 => 'AD1',
    },
  },
},
};
```

### 2.4.2.2. Name

アクティビティの名前

### 2.4.2.3. CreateTime

アクティビティの作成時刻

### 2.4.2.4. CreateBy

アクティビティの作成ユーザーのユーザのUID



### 2.4.2.5. ChangeTime

アクティビティの変更時刻

### 2.4.2.6. ChangeBy

アクティビティの最終変更ユーザのユーザのUID

### 2.4.2.7. ActivityDialog ( アクティビティ・ダイアログ )

アクティビティダイアログは、このアクティビティにおいて利用可能なアクティビティ・ダイアログのリストを含んでいます。現在のアクティビティの全てのアクティビティ・ダイアログはチケット・ズームで表示されます。それらの順序は、構成の中の順序でここでセットされます。「AD5」は「AD6」および「AD1」の前に示されます。

## 2.4.3. ActivityDialog ( アクティビティ・ダイアログ )

アクティビティ・ダイアログは特別の画面で、異なるアクティビティの中で使用することができます。

### 2.4.3.1. ActivityDialog ( アクティビティ・ダイアログ ) の構成

サンプルのコンフィグを見ましょう。

```
$Self->{'Process::ActivityDialog'} = {
  'AD1' => {
    Name           => 'ActivityDialog 1 optional',
    DescriptionShort => '基本情報',
    DescriptionLong => 'IT注文に関する必要な基本情報を挿入して下さい。',
    CreateTime     => '28-02-2012 13:37:00',
    CreateBy       => '1',
    ChangeTime     => '29-02-2012 13:37:00',
    ChangeBy       => '1',
    Fields => {
      PriorityID => {
        DescriptionShort => '優先度 ID',
        DescriptionLong  => '優先度をここに入力して下さい。',
        Display           => 2,
      },
    },
    FieldOrder     => [ 'PriorityID' ],
    SubmitAdviceText => 'ノート：フォームを送信したい場合は...',
    SubmitButtonText => '要求を送信',
  },
  'AD2' => {
    Name => 'ActivityDialog 2 optional',
    DescriptionShort => '基本情報',
    DescriptionLong  => '本の注文に関する必要な基本情報を挿入して下さい。',
    CreateTime     => '28-02-2012 13:37:00',
    CreateBy       => '1',
    ChangeTime     => '29-02-2012 13:37:00',
    ChangeBy       => '1',
    Fields => {
      StateID => {
        DescriptionShort => '状態 ID',
        DescriptionLong  => '状態をここに入力して下さい。',
        Display           => 2,
        DefaultValue     => '2',
      },
      Queue => {
        DescriptionShort => 'キュー ID',
        DescriptionLong  => 'キューをここに入力して下さい。',
        Display           => 2,
        DefaultValue     => 'Raw',
      },
    },
    Title => {
```

```

        DescriptionShort => 'タイトル',
        DescriptionLong  => 'タイトルをここに入力して下さい。',
        Display          => 1,
        DefaultValue     => 'Default Title',
    },
    DynamicField_Anzahl => {
        DescriptionShort  => '金額',
        DescriptionLong   => '金額をここに入力して下さい。',
        Display           => 2,
        DefaultValue     => '4',
    },
},
FieldOrder             => [ 'DynamicField_Anzahl', 'StateID', 'Queue', 'Title' ],
SubmitAdviceText      => 'ノート：フォームを送信する場合...',
SubmitButtonText     => '要求を送信',
},
};

```

### 2.4.3.2. Name

アクティビティ・ダイアログの名前

### 2.4.3.3. CreateTime

アクティビティ・ダイアログ作成時刻

### 2.4.3.4. CreateBy

このアクティビティ・ダイアログを作成したユーザのUID

### 2.4.3.5. ChangeTime

アクティビティ・ダイアログの最終変更時刻

### 2.4.3.6. ChangeBy

このアクティビティダイアログの最終変更者のユーザのUID

### 2.4.3.7. フィールド

このアクティビティダイアログで表示することができる全てのフィールドを含んでいます。次のフィールドは現在使用することができます:

```

Title
State
StateID
Priority
PriorityID
Lock
LockID
Queue
QueueID
Customer
CustomerID
CustomerNo
CustomerUserID
Owner
OwnerID
Type
TypeID
SLA
SLAID
Service
ServiceID
Responsible

```

```
ResponsibleID
PendingTime
DynamicField_$_fieldName # 全ての動的フィールド用
```

単一のフィールド構成の例：

```
StateID => {
  DescriptionShort => 'State ID',
  DescriptionLong  => 'Enter the state here',
  Display          => 2,
  DefaultValue     => '2',
},
```

フィールド「記事」は特殊なケースです。それが「フィールド」構成の中であれば、アクティビティ・ダイアログは件名フィールドおよび添付ファイル取扱い可能な機能を持った完全なリッチテキスト・エディターを内蔵します。その後、入力されたテキストは、記事としてチケットに加えられ、電子メールで送られます。サンプルの記事フィールド構成を見ましょう：

```
Article => {
  DescriptionShort => 'ここにコメントを挿入して下さい',
  DescriptionLong  => '',
  Display          => 1,
  Config          => {
    ArticleType => 'note-internal',
    LabelSubject => '',
    LabelBody   => '',
  },
},
```

フィールド構成オプションを見ましょう：

#### 2.4.3.7.1. DescriptionShort (短い摘要)

フィールドタイトルで表示される短い摘要 (オプション)。

#### 2.4.3.7.2. DescriptionLong (長い摘要)

マウスがフィールド上に乗る時、表示されるより長い摘要 (オプション)。フィールドの入力方法についての例示アドバイス。

#### 2.4.3.7.3. Display (表示)

フィールドが示される かつ、または 必須の場合のコントロール。可能な値：

- '0': フィールドは不可視です。フィールド値が自動的にセットならより便利でしょう。構成されたDefaultValueはこのケースでは格納されるでしょう。
- '1': フィールドは可視ですが任意です。
- '2': フィールドは可視でかつ必須です。次のフィールドが単に不可視にも必須にもなりません：

```
QueueID
Queue
State
StateID
Lock
LockID
Priority
PriorityID
Type
TypeID
```

フィールドが任意として設定され、ユーザが値を送信しなければ、アクティビティ・ダイアログがユーザによって送信される時、デフォルト値が保存されます。

#### 2.4.3.7.4. DefaultValue (デフォルト値)

「ID」(QueueID、OwnerIDのように)を備えたフィールドに関して、これは、値のデータベースIDを参照します。ID(キュー、オーナーのように)のない他のフィールドについては、DefaultValueは値自体を含んでいなければいけません。例:

```
Queue => {
  DescriptionShort => 'Queue',
  DescriptionLong => 'Enter the queue here',
  Display          => 2,
  DefaultValue     => 'Raw',
},
```

#### 2.4.3.8. FieldOrder (フィールド順序)

ここで、フィールドの表示順序は設定されます。重要:保存する時単に設定されたフィールドが考慮されるので、目に見えないフィールドはさらにここで設定されなければいけません。設定されないフィールドは保存されないでしょう。

#### 2.4.3.9. SubmitAdviceText (アドバイス用テキストの送信)

補足的ヘルプかアドバイス用テキストのための送信ボタン上に示される任意のテキスト。

#### 2.4.3.10. SubmitButtonText (送信ボタンのテキスト)

送信ボタンのための任意のカスタム・テキスト。

### 2.4.4. Transition (推移)

推移は、設定可能な条件に基づいて決定します。プロセス中でパスが取得されているような条件です。。(例えば プロセス・チケットが移動されるアクティビティへのパスです)

#### 2.4.4.1. Transition configuration (推移構成)

サンプルを見ましょう:

```
$Self->{'Process::Transition'} = {
  'T1' => {
    Name => 'Transition 1',
    CreateTime => '14-03-2012 13:37:00', # optional
    CreateBy => '1', # optional
    ChangeTime => '15-03-2012 13:37:00', # optional
    ChangeBy => '15-03-2012 13:37:00', # optional
    Condition => {
      Cond1 => {
        Fields => {
          StateID => {
            Type => 'String',
            Match => '1',
          },
        },
      },
    },
  },
  'T2' => {
    Name => 'Transition 2 optional',
    CreateTime => 'DATE', # optional
    CreateBy => 'USERID', # optional
    ChangeTime => 'DATE', # optional
    ChangeBy => 'USERID', # optional
  },
},
```

```

Condition => {
  Cond1 => {
    Queue => 'Raw',
    DynamicField_Farbe => '2',
    DynamicField_Anzahl => '1',
  },
},
};

```

#### 2.4.4.2. Name

推移の名前。

#### 2.4.4.3. CreateTime

アクティビティ・ダイアログ作成時刻

#### 2.4.4.4. CreateBy

この推移を作成したユーザのUID。

#### 2.4.4.5. ChangeTime

アクティビティ・ダイアログの最終変更時刻

#### 2.4.4.6. ChangeBy

この推移の最終変更者のユーザのUID。

#### 2.4.4.7. Condition (条件)

Contains all conditions that are necessary for this Transition to take effect. Example:

```

Condition => {
  Type => 'and',
  Cond1 => {
    Type => 'and',
    Fields => {
      StateID => {
        Type => 'String',
        Match => '1',
      },
      DynamicField_Marke => {
        Type => 'String',
        Match => 'VW',
      },
    },
  },
  Cond2 => {
    Type => 'and',
    Fields => {
      Queue => {
        Type => 'String',
        Match => 'Raw',
      },
    },
  },
},
};

```

構成の条件を詳細に見ましょう。

##### 2.4.4.7.1. タイプ (条件)

異なる条件要素が互いに接続される方法を指定します。可能な値:

- 'and': これはデフォルトです。推移が有効になるために条件をすべて満たさなければなりません。
- 'or': 少なくとも1つの条件は一致しなければなりません。
- 'xor': 1つの条件のみ一致しなければなりません。

#### 2.4.4.7.2. Cond1

これはサンプルの条件の名前です。それは自由に選ぶことができます。条件はソート順に評価されます。

#### 2.4.4.7.3. タイプ(Cond)

この条件の個々のフィールド試験が互いに接続される方法を指定します。可能な値:

- 'and': これはデフォルトです。全てのフィールド・テスト条件をすべて満たさなければなりません。
- 'or': 少なくとも1つの条件は一致しなければなりません。
- 'xor': 1つの条件のみ一致しなければなりません。

#### 2.4.4.7.4. フィールド

その値がテストされるべき特別のフィールドを指定します。私たちの例から:

```
Fields => {
  StateID => {
    Type => 'String',
    Match => '1',
  },
}
```

#### 2.4.4.7.5. StateID

フィールド名の例。次のチケット・フィールドが使用されます。:

```
Title
State
StateID
Priority
PriorityID
Lock
LockID
Queue
QueueID
Customer
CustomerID
CustomerNo
CustomerUserID
Owner
OwnerID
Type
TypeID
SLA
SLAID
Service
ServiceID
Responsible
ResponsibleID
DynamicField_FieldName # for all DynamicFields
```

「ID」(SLAIDのように)を備えたフィールドをテストする時、フィールドのデータベースIDは、実際の値がそのために使用される他のフィールド(SLAのような)のための試験に使用されます。

#### 2.4.4.7.6. タイプ

フィールド試験の種類を決定します。可能な値:

- 「String」: フィールド値を「Match」で指定されたStringと比較します。それらが正確に同じである場合マッチします。
- 「ハッシュ(Hush)」: フィールド値(ハッシュ)を「Match」で指定されたハッシュと比較します。ハッシュ値はすべて同じでなければいけない。
- 「配列(array)」: フィールド値(配列)を「Match」で指定された配列と比較します。両方のリストは同じでなければならぬ。
- 「Regex」: フィールド値は正規表現でテストすることができます。「Match」が基本的条件として`qr{}`を含めることは重要です。{}間に、実際の正規表現を記述することができます。
- 「モジュール」: 条件チェックのためにperlモジュールを使用することができます。チェックが1を返すならば、チェックは成功です。Kernel/System/ProcessManagement/TransitionValidation/ValidateDemo.pm. でサンプル・モジュールを見つけることができます。

### 2.4.5. 推移アクション

推移アクションは、推移がうまく適用された後で、きっかけとなるアクションです。(プロセス・チケットがひとつのアクティビティから別のアクティビティへ移る場合)これらの推移アクションはチケットで異なる変更を実施するために使われます。(例えば、キューまたはチケットのオーナーの変更)そうすれば、さらに、他の複雑な変更を行なうために自分の推移アクションを作成することができます。

#### 2.4.5.1. 推移アクション構成

例を見ましょう::

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {  
  'TA1' => {  
    Name => 'Queue Move',  
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet',  
    Config => {  
      Queue => 'Junk',  
      UserID => 123,  
    },  
  },  
};
```

#### 2.4.5.2. Name

推移アクションの名前。

#### 2.4.5.3. Module (モジュール)

使用されるperl・モジュールを指定します。

#### 2.4.5.4. Config (構成)

このパラメータは、モジュールに必要なセッティングをすべて含んでいます。その内容は、使用される特定の推移アクション・モジュールに依存します。詳細については、個々のモジュールのドキュメンテーションを参照してください。私たちの例において、キューだけが指定されねばなりません。

推移アクションの「構成」パラメータ内部のUserIDの使用は、全ての推移アクション(OTRS 3.2.4以来の)によって認められています。この例では、推移を引き起こすユーザーが、チケットを「ジャ

ンク」キューへ移動する権限を持っているかどうか、特に重要になりえます。ユーザーID 123を持つユーザーが持っているかもしれませんが。

#### 2.4.5.5. 推移アクション・モジュールの再使用

推移アクション・モジュールを複数回使用するためには、単に構成中でいくつかTransitionActionsを指定してください。例:

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Queue Move Junk',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet',
    Config => {
      Queue => 'Junk',
    },
  },
  'TA2' => {
    Name => 'Queue Move Raw',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet',
    Config => {
      Queue => 'Raw',
    },
  },
};
```

ここで、同じモジュールは、「未対応」キューにプロセス・チケット移動するために、そしてある時はジャンクキューへそれを移動するために、使用されます。特別の推移に使用されることが求められる推移アクションは、プロセス構成の「パス」設定から決定されます。

#### 2.4.5.6. 利用可能な推移アクション

OTRSは、あなたのプロセスで使用できるいくつかの推移アクションを搭載しています。ここでは、それらのドキュメンテーション、およびどのようにしてそれらを設定する必要があるかを見つけることができます。

##### 2.4.5.6.1. DynamicFieldSet (動的フィールドのセット)

プロセス・チケットで1つ以上の動的フィールドをセットします。

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Set DynamicField Master to Master and Approved to 1',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::DynamicFieldSet',
    Config => {
      MasterSlave => 'Master',
      Approved => '1',
    },
  },
};
```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「MasterSlave」と「Approved : 承認済」は DynamicField名のサンプルを付与されます。フィールド値(「Master」 and 「1」)はこの推移アクションによってセットされます。

##### 2.4.5.6.2. TicketArticleCreate (チケット記事の作成)

記事を作成し、ノートあるいは電子メール返答を作成するために使用することができます。例:

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
```



```

'TA1' => {
  Name => 'Article Create Note Internal',
  Module =>
'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketArticleCreate',
  Config => {
    ArticleType => 'note-internal', #
note-external|phone|fax|sms|... #
excluding any email type
  SenderType => 'agent', #
agent|system|customer
  ContentType => 'text/plain; charset=ISO-8859-15', # or
optional Charset & MimeType
  Subject => 'some short description', #
required
  Body => 'the message text', #
required
  HistoryType => 'OwnerUpdate', #
EmailCustomer|Move|AddNote|PriorityUpdate|WebRequestCustomer|...
  HistoryComment => 'Some free text!',
  From => 'Some Agent <email@example.com>', #
not required but useful
  To => 'Some Customer A <customer-a@example.com>', #
not required but useful
  Cc => 'Some Customer B <customer-b@example.com>', #
not required but useful
  ReplyTo => 'Some Customer B <customer-b@example.com>', #
not required
  InReplyTo => '<asdasdasd.12@example.com>', #
not required but useful
  References => '<asdasdasd.1@example.com> <asdasdasd.12@example.com>', #
not required but useful
  NoAgentNotify => 0, # if
you don't want to send agent notifications
  AutoResponseType => 'auto reply', #
auto reject|auto follow up|auto reply/new ticket|auto remove

  ForceNotificationToUserID => [ 1, 43, 56 ], # if
you want to force somebody
  ExcludeNotificationToUserID => [ 43, 56 ],
  # if you want full exclude somebody from notfications,
  # will also be removed in To: line of article,
  # higher prio as ForceNotificationToUserID
  ExcludeMuteNotificationToUserID => [ 43, 56 ],
  # the same as ExcludeNotificationToUserID but only the
  # sending gets muted, agent will still shown in To:
  # line of article
  },
},
};

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。それは自由に選ぶことができますが、設定されたアクションの目的を反映するべきです。

「ArticleType」は、作成される記事のタイプを定義します。可能な値:電話、ファックス、sms、webrequest、ノート内部、ノート外部およびノート報告書。

「SenderType」は送り手タイプの記事を定義します。可能な値:担当者、システム、顧客。

「ContentType」は、記事のコンテンツ・タイプを定義します。可能な値:'プレインテキスト;charset=ISO-8859-15'又は他の有効なcharsetとMIMEタイプ。

「Subject」は記事タイトルを定義します。必須項目。

「Body」は記事内容を定義します。必須項目。

「HistoryType」は、履歴エントリーのタイプを定義します。可能な値: AddNote, ArchiveFlagUpdate, Bounce, CustomerUpdate, EmailAgent, EmailCustomer,

EscalationResponseTimeNotifyBefore, EscalationResponseTimeStart, EscalationResponseTimeStop, EscalationSolutionTimeNotifyBefore, EscalationSolutionTimeStop, EscalationUpdateTimeNotifyBefore, EscalationUpdateTimeStart, EscalationUpdateTimeStop, FollowUp, Forward, Lock, LoopProtection, Merged, Misc, Move, NewTicket, OwnerUpdate, PhoneCallAgent, PhoneCallCustomer, PriorityUpdate, Remove, ResponsibleUpdate, SendAgentNotification, SendAnswer, SendAutoFollowUp, SendAutoReject, SendAutoReply, SendCustomerNotification, ServiceUpdate, SetPendingTime, SLAUpdate, StateUpdate, Subscribe, SystemRequest, TicketDynamicFieldUpdate, TicketLinkAdd, TicketLinkDelete, TimeAccounting, TypeUpdate, Unlock, Unsubscribe, WebRequestCustomer.

「HistoryComment」は、履歴エントリーの内容を定義します。

上で指定した表記法で'From', 'To', 'Cc' and 'ReplyTo'はEメール・アドレスをとります。

「InReplyTo」および「References」はEメール・メッセージIDをとります。

「NoAgentNotify」-1にセットされれば、担当者への電子メール通知は送られません。

「AutoResponseType」は次の値をとることができます:自動フォローアップ、自動拒否、自動削除、自動応答、自動返答/新規チケット。

'ForceNotificationToUserID', 'ExcludeNotificationToUserID', 'ExcludeMuteNotificationToUserID' は、ユーザーIDのリストをとることができます。そのリストとは、「常に通知」、「非通知」、または「通知されるが実際には通知メールを送らない、です。

#### 2.4.5.6.3. チケット作成

Creates a ticket with an article, the new ticket can be linked with process ticket. Example:

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Ticket Create',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketCreate',
    Config => {

      # ticket required:
      Title => 'Some Ticket Title',
      Queue => 'Raw', # or QueueID => 123,
      Lock => 'unlock',
      Priority => '3 normal', # or PriorityID => 2,
      State => 'new', # or StateID => 5,
      CustomerID => '123465',
      CustomerUser => 'customer@example.com',
      OwnerID => 'someuserlogin', # or OwnerID => 123,

      # ticket optional:
      TN => $TicketObject->TicketCreateNumber(), # optional
      Type => 'Incident', # or TypeID => 1, not required
      Service => 'Service A', # or ServiceID => 1, not required
      SLA => 'SLA A', # or SLAID => 1, not required
      ResponsibleID => 123, # not required
      ArchiveFlag => 'y', # (y|n) not required
      PendingTime => '2011-12-23 23:05:00', # optional (for pending states)
      PendingTimeDiff => 123, # optional (for pending states)

      # article required:
      ArticleType => 'note-internal', # note-external|
phone|fax|sms|... # excluding any
      email type
      SenderType => 'agent', # agent|system|
customer
      ContentType => 'text/plain; charset=ISO-8859-15', # or optional
      Charset & MimeType
```

```

Subject      => 'some short description',          # required
Body         => 'the message text',              # required
HistoryType  => 'OwnerUpdate',                  #
EmailCustomer|Move|AddNote|PriorityUpdate|WebRequestCustomer|...
HistoryComment => 'Some free text!',

# article optional:
useful      From      => 'Some Agent <email@example.com>',      # not required but
but useful  To        => 'Some Customer A <customer-a@example.com>', # not required
but useful  Cc         => 'Some Customer B <customer-b@example.com>', # not required
useful      ReplyTo    => 'Some Customer B <customer-b@example.com>', # not required
useful      MessageID  => '<asdasdasd.123@example.com>',          # not required but
useful      InReplyTo  => '<asdasdasd.12@example.com>',          # not required but
not required but useful  References => '<asdasdasd.1@example.com> <asdasdasd.12@example.com>', #
to send agent notifications  NoAgentNotify => 0, # if you don't want
follow up|auto reply/new ticket|auto remove  AutoResponseType => 'auto reply' # auto reject|auto
ForceNotificationToUserID => [ 1, 43, 56 ], # if you want to
force somebody  ExcludeNotificationToUserID => [ 43,56 ], # if you want full
exclude somebody from notifications, # will also be
removed in To: line of article, # higher prio as
ForceNotificationToUserID  ExcludeMuteNotificationToUserID => [ 43,56 ], # the same as
ExcludeNotificationToUserID but only the # sending gets
muted, agent will still shown in To: # line of article

TimeUnit      => 123

# other:
DynamicField_NameX => $Value,
LinkAs => $LinkType, # Normal, Parent,
Child, etc. (respective original ticket)
UserID => 123, # optional, to
override the UserID from the logged user
}

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。それは自由に選ぶことができますが、設定されたアクションの目的を反映するべきです。

'Title' The ticket title.

'Queue' or 'QueueID' specifies the name or id of the queue to be used in the new ticket.

'Lock' or 'LockID' sets the lock status of the ticket.

'Priority' or 'PriorityID' specifies the name or id of the priority to be used in the new ticket.

'State' or 'StateID' specifies the name or id of the state to be used in the new ticket.

'CustomerID', the customer id to be set for the new ticket.

'CustomerUser', the login of the customer that will be assigned in the ticket.

'Owner' or 'OwnerID', specifies the login or id of the agent that will be the new ticket owner.

'TN', custom number for the new ticket.

'Type' or 'TypeID' specifies the name or id of the ticket type to be used in the new ticket.

'Service' or 'ServiceID' specifies the name or id of the service to be used in the new ticket.

'SLA' or 'SLAID' specifies the name or id of the SLA to be used in the new ticket.

'ResponsibleID', the ID of the agent that will be the new ticket responsible.

'PendingTime', a predefined date to set the Ticket Pending Times, when the ticket state belongs to a pending state type

'PendingTimeDiff', a dynamically date ( expressed in seconds from current date/time ) to set the Ticket Pending Times, when the ticket state belongs to a pending state type

「ArticleType」は、作成される記事のタイプを定義します。可能な値:電話、ファックス、sms、webrequest、ノート内部、ノート外部およびノート報告書。

「SenderType」は送り手タイプの記事を定義します。可能な値:担当者、システム、顧客。

「ContentType」は、記事のコンテンツ・タイプを定義します。可能な値:'プレインテキスト';charset=ISO-8859-15'又は他の有効なcharsetとMIMEタイプ。

「Subject」は記事タイトルを定義します。必須項目。

「Body」は記事内容を定義します。必須項目。

'HistoryType' defines the type of the history entry. Possible values: AddNote, ArchiveFlagUpdate, Bounce, CustomerUpdate, EmailAgent, EmailCustomer, EscalationResponseTimeNotifyBefore, EscalationResponseTimeStart, EscalationResponseTimeStop, EscalationSolutionTimeNotifyBefore, EscalationSolutionTimeStart, EscalationSolutionTimeStop, EscalationUpdateTimeNotifyBefore, EscalationUpdateTimeStart, EscalationUpdateTimeStop, FollowUp, Forward, Lock, LoopProtection, Merged, Misc, Move, NewTicket, OwnerUpdate, PhoneCallAgent, PhoneCallCustomer, PriorityUpdate, Remove, ResponsibleUpdate, SendAgentNotification, SendAnswer, SendAutoFollowUp, SendAutoReject, SendAutoReply, SendCustomerNotification, ServiceUpdate, SetPendingTime, SLAUpdate, StateUpdate, Subscribe, SystemRequest, TicketDynamicFieldUpdate, TicketLinkAdd, TicketLinkDelete, TimeAccounting, TypeUpdate, Unlock, Unsubscribe, WebRequestCustomer.

「HistoryComment」は、履歴エントリーの内容を定義します。

上で指定した表記法で'From', 'To', 'Cc' and 'ReplyTo'はEメール・アドレスをとります。

「InReplyTo」および「References」はEメール・メッセージIDをとります。

「NoAgentNotify」-1にセットされれば、担当者への電子メール通知は送られません。

「AutoResponseType」は次の値をとることができます:自動フォローアップ、自動拒否、自動削除、自動応答、自動返答/新規チケット。

'ForceNotificationToUserID',

'ExcludeNotificationToUserID','ExcludeMuteNotificationToUserID' は、ユーザーIDのリストをとることができます。そのリストとは、「常に通知」、「非通知」、または「通知されるが実際には通知メールを送らない、です。

'TimeUnit' the time invested in the current ticket article expressed in seconds, minutes, hours, etc.

'DynamicField\_NameX' where DynamicField\_ is a required prefix and NameX is the name of a Dynamic Field to be set in the new ticket (on ticket level, not article levels)

'LinkAs' to define the new ticket relation with originator ticket, from the new ticket point of view, for example Normal, Parent, Child etc.

#### 2.4.5.6.4. TicketCustomerSet (チケット・顧客・セット)

顧客にプロセス・チケットをセットします。例：

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Customer Set Customer to test',
    Module => 'Kernel::System::Process::TransitionAction::TicketCustomerSet',
    Config => {
      No => 'test',
      User => 'client-user-123',
      # or in other words
      # CustomerID => 'client123',
      # CustomerUserID => 'client-user-123',
    },
  },
};
```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

No あるいは、CustomerIDは、顧客の顧客IDをセットします。

ユーザまたはCustomerUserIDは、顧客のユーザー名をセットします。

#### 2.4.5.6.5. TicketLockSet (チケット・ロック・セット)

プロセス・チケットのロックを変更します。例:

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Set Lock to lock',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketLockSet',
    Config => {
      Lock => 'lock',
      # or
      LockID => 2,
    },
  },
};
```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「Lock」は、プロセス・チケットの新しいロックを定義します。

「LockID」は、新しいロックの内部IDを定義します。

#### 2.4.5.6.6. TicketOwnerSet (チケット・所有者・セット)

プロセス・チケットの所有者を変更します。

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Owner Set root@localhost',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketOwnerSet',
    Config => {
      Owner => 'root@localhost',
      # or
      OwnerID => 1,
    },
  },
};
```

```

    },
  };

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「Owner」は、新しい所有者のログイン名を指定します。

「OwnerID」は、新しい所有者の内部IDを指定します。

#### 2.4.5.6.7. TicketQueueSet (チケット・キュー・セット)

ターゲット・キューにチケットを移動します。

```

$self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Queue Move Raw',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketQueueSet',
    Config => {
      Queue => 'Raw',
      # or
      # QueueID => '2',
    },
  },
};

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「Queue」は、対象のキューの名前を指定します。

「QueueID」は、対象のキューの内部IDを指定します。

#### 2.4.5.6.8. TicketResponsibleSet (チケット・責任者・セット)

プロセス・チケットの責任者を変更します。

```

$self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Responsible Set root@localhost',
    Module =>
      'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketResponsibleSet',
    Config => {
      Responsible => 'root@localhost',
      # or
      ResponsibleID => 1,
    },
  },
};

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「Responsible」は、新しい責任者のログイン名を指定します。

「ResponsibleID」は新しい責任者の内部IDを指定します。

#### 2.4.5.6.9. TicketServiceSet (チケット・サービス・セット)

プロセス・チケットにサービスを割り当てます。チケットは顧客を持つことを要求します。そしてそのサービスは、顧客に割り当てなければいけません。例:

```

$self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {

```

```

Name => 'Set MyService service',
Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketServiceSet',
Config => {
  Service => 'MyService',
  # or
  ServiceID => 123,
},
};

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「Service」は、プロセス・チケットの新しいサービスを定義します。姓名は必要です(例えば GrandFatherService::FatherService::SonService)。

「ServiceID」は、新しいサービスの内部IDを定義します。

#### 2.4.5.6.10. TicketSLASet (チケット・SLA・セット)

プロセス・チケットにサービスレベル合意を割り当てます。チケットはサービスを持つために要求します。また、SLAはそのサービスに割り当てられなければいけません。例:

```

$self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Set MySLA SLA',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketSLASet',
    Config => {
      SLA => 'MyService',
      # or
      SLAID => 123,
    },
  },
};

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「SLA」は、プロセス・チケットの新しいサービスレベル合意を定義します。

「SLAID」は、新しいSLAの内部IDを定義します。

#### 2.4.5.6.11. TicketStateSet (チケット・状態・セット)

プロセス・チケットの状態を変更します。

```

$self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Set State to open',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketStateSet',
    Config => {
      State => 'open',
      # or
      StateID => 4,

      PendingTimeDiff => 123,
    },
  },
};

```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「State」は、プロセス・チケットの新しい状態を定義します。

「StateID」は、新しい状態の内部IDを定義します。

Typeの状態が保留の時のみ使用する「PendingTimeDiff」は、チケットのの保留時間を設定するために（例えば保留時間3600は、推移アクションの実行後、一時間を意味します）、秒単位での時差（推移アクション実行時間に関連して）を定義します。

#### 2.4.5.6.12. TicketTitleSet (チケット・タイトル・セット)

プロセス・チケットのチケット・タイトルをセットします。例:

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Set Ticket Title to Ticket-title',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketTitleSet',
    Config => {
      Title => 'Ticket-title',
    },
  },
};
```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「Title」は、チケットの新しいタイトルを指定します。

#### 2.4.5.6.13. TicketTypeSet (チケット・タイプ・セット)

チケット・タイプのプロセス・チケットをセットします。例:

```
$Self->{'Process::TransitionAction'} = {
  'TA1' => {
    Name => 'Set Ticket Type to default',
    Module => 'Kernel::System::ProcessManagement::TransitionAction::TicketTypeSet',
    Config => {
      Type => 'default',
      # or
      # TypeID => '1',
    },
  },
};
```

「Name」は、設定された推移アクション名前を指定します。

「Type」は、チケット・タイプの名前を指定します。

「TypeID」は、チケット・タイプの内部IDを指定します。

### 2.4.6. アクセス・コントロール・リスト(ACL)

ACLの支援によって、プロセス・チケット中の選択可能な値を制限することができます。チケットACLシンタックスの詳細記述については、さらにACLリファレンスを参照ください。

#### 2.4.6.1. ACL構成

ACLは単にKernel/Config.pmに定義することができます。例:

```
$Self->{TicketAcl}->{'001-ACL-ProcessProperties'} = {
  Properties => {
    Process => {
      ProcessEntityID => ['P1'],
      ActivityEntityID => ['A1'],
      ActivityDialogEntityID => ['AD1'],
    }
  },
  Possible => {
```



```

    ActivityDialog => ['AD1', 'AD3'],
  },
  PossibleNot => {
    ActivityDialog => ['AD3'],
  },
};

```

## 2.4.6.2. 001-ACL-ProcessProperties

ACL規則の名前。ACL規則一般についてのさらに詳しい情報については、ACLマニュアルを調べてください:

### 2.4.6.3. プロセス

これはACLが適用されなければいけないかどうかをチェックするために使用されるセクションです。それが指定された値を持っている場合、規則が適用されます。次の値は使用することができません:

#### 2.4.6.3.1. ProcessEntityID

プロセスのID、プロセス。チケットがこのプロセスに割り当てられる場合マッチします。

#### 2.4.6.3.2. ActivityEntityID

プロセス・チケットが現在割り当てられるアクティビティのID。

#### 2.4.6.3.3. ActivityDialogEntityID

プロセス・チケットには現在開いているアクティビティ・ダイアログのID。

### 2.4.6.4. 「可能」(Possible)/「不可能」(PossibleNot) アクティビティ・ダイアログ

ここでは、アクティビティ・ダイアログIDのリストを指定することができます。このリストは、チケット・ズーム・マスク中のユーザに提示される可能なアクティビティ・ダイアログを制限するでしょう。

「Possible (可能)」は、許可されるアクティビティ・ダイアログをリストします。上記のセッティングは、設定されたアクティビティ・ダイアログのリストの「AD1」および「AD3」のみを許可するでしょう。

「PossibleNot (不可能)」は、許可されないアクティビティ・ダイアログをリストします。上記の例において、セッティングは設定されたアクティビティ・ダイアログのリストから「AD3」を取り除くでしょう。

「可能」と「不可能」の両方が指定されれば、設定されたアクティビティ・ダイアログのリストはまず「可能」でフィルタされます。サンプルではAD1とAD3のみそのまま残してあります。つぎに「不可能」が適用されます。「AD3」はフィルタで除外され、それゆえに「AD1」のみが残り、ユーザが使える可能なアクティビティ・ダイアログとして表示されます。

複数のACL規則がマッチすればしたら、すべてのマッチング規則の共通部分は可能なアクティビティ・ダイアログを決定するために計算されます。例:

設定されたアクティビティ・ダイアログ: 「AD1」、「AD2」、「AD3」、「AD4」、「AD5」、「AD6」、「AD7」

```

$self->{TicketAcl}->{'001-ACL-Status'} = {
  Properties => {
    Ticket => {
      Status => 'new',
    }
  },
};

```

```

Possible => {
  ActivityDialog => ['AD1', 'AD2', 'AD3', 'AD6', 'AD7'],
},
};
$self->{TicketAcl}->{'002-ACL-Queue'} = {
  Properties => {
    Ticket => {
      Queue => ['Raw']
    }
  },
  Possible => {
    ActivityDialog => ['AD2', 'AD3', 'AD4', 'AD7'],
  },
};
$self->{TicketAcl}->{'003-ACL-Priority'} = {
  Properties => {
    Ticket => {
      Priority => ['3 normal']
    }
  },
  PossibleNot => {
    ActivityDialog => ['AD3', 'AD4'],
  },
};

```

プロセス・チケットが状態「new」を持ち、それが「未対応」キューにあり優先度「3 普通」を持つならば、その後、すべてのACL規則がマッチします。

第一のルールはアクティビティ・ダイアログを 'AD1', 'AD2', 'AD3', 'AD4', 'AD5', 'AD6', 'AD7' から 'AD1', 'AD2', 'AD3', 'AD6', 'AD7' に減らし、'AD4' and 'AD5'を禁止します。

第二のルールはさらに残っているアクティビティ・ダイアログを減らし、ここでの例の'AD2','AD3','AD7'が残ります。。

3番目の規則は、さらに「不可能」によってリストを縮小するでしょう。「AD3」はリストから取り除かれます。それがリストの第一位に載っていなかったため、「AD4」は削除されません。最後に、「AD2」および「AD7」は、ユーザが利用することができる可能なアクティビティ・ダイアログとして残ります。

「新規プロセス・チケット」画面で表示可能なプロセスを限定することは可能です。その機能は、ACLは単にユーザに基づくことができるという唯一の例外をもってActivityDialogs (アクティビティ・ダイアログ)を限定することに似ています。

以下のサンプルを御覧ください。

```

$self->{TicketAcl}->{'200-ACL-Process'} = {
  # match properties
  Properties => {
    User => {
      UserID => [2, 3],
    },
  },
  Possible => {
    Process => ['P1', 'P2', 'P3'],
  },
  PossibleNot => {
    Process => ['P4'],
  },
};

```

```

$self->{TicketAcl}->{'201-ACL-Process'} = {
  # match properties
  Properties => {
    User => {
      Group_rw => [ 'MyGroup' ],
    },
  },
};

```

```

    },
  },
  Possible => {
    Process => ['P1', 'P2', 'P3'],
  },
  PossibleNot => {
    Process => ['P4'],
  },
};

```

```

$self->{TicketAcl}->{'202-ACL-Process'} = {
  # match properties
  Properties => {
    User => {
      Role => [ 'MyRole' ],
    },
  },
  Possible => {
    Process => ['P1', 'P2', 'P3'],
  },
  PossibleNot => {
    Process => ['P4'],
  },
};

```

### 3. 自分のテーマの作成

OTRSウェブ・フロント・エンドの中で好きなレイアウトを使用するように自分のテーマを作成することができます。自分のテーマを作成するために、必要に応じた出力テンプレートをカスタマイズできます。

出力テンプレートのシンタックスおよび構造についてはディベロッパー・マニュアル<http://otrs.github.io/doc>でより多くの情報をご覧ください。（特に[テンプレート](#)についての章の中で）

例として、「Company」と呼ばれる新しいテーマを作成する次のステップを行なってください:

1. Kernel/Output/HTML/Company と呼ばれるディレクトリを作成して Kernel/Output/HTML/Standard から 新規フォルダへあなたが変えたいと思う全てのファイルをコピーします。

#### 重要

実際に変更するファイルを上書きコピーしてください。OTRSは、自動的にスタンダード・テーマから見当たらないファイルを得るでしょう。これは後半の段階でアップグレードすることをより簡単にしましょう。

2. Kernel/Output/HTML/Company にファイルをカスタマイズします。お好きなようにレイアウトを変更します。
3. 新規のテーマを有効にするにはSysConfig内のFrontend::Themesでテーマを有効にする必要があります

新しいテーマは使用可能に違いありません。個人選択（選好）ページによってそれを選択することができます。

#### 警告

アップデート後にこれらの変更は失われるので、OTRSで送られたテーマ・ファイルを変更しないでください。上に記述されたステップを行なうことによりのみ自分のテーマを作成してください。

## 4. OTRSフロント・エンドのローカライゼーション

OTRSはそのウェブ・インターフェースのために多重言語サポートを提供します。

OTRSフレームワーク用ローカライゼーションのための手続き、新しい言語変換を作成するために続くステップ、と同様に、翻訳カスタマイズのための手続き、開発者マニュアル<http://otrs.github.io/doc>の "Language Translations (言語変換)" 章で見つけることができます。



## 第6章 パフォーマンス・チューニング

以下はOTRS導入のための強化テクニックのパフォーマンスのリストです。構成、コーディング、メモリー使用、その他を含みます。

### 1. OTRS

OTRSのパフォーマンスを改善するいくつかのオプションがあります。

#### 1.1. TicketIndexModule

There are two backend modules for the index for the ticket queue view:

`Kernel::System::Ticket::IndexAccelerator::RuntimeDB`

This is the default option, and will generate each queue view on the fly from the ticket table. You will not have performance trouble until you have about 60,000 open tickets in your system.

`Kernel::System::Ticket::IndexAccelerator::StaticDB`

The most powerful module, should be used when you have above 80,000 open tickets. It uses an extra `ticket_index` table, which will be populated with keywords based on ticket data. Use `bin/otrs.RebuildTicketIndex.pl` for generating an initial index after switching backends.

You can change the used `IndexAccelerator` module via `SysConfig`.

#### 1.2. SearchIndexModule

This module helps to extend your articles full-text search (From, To, Cc, Subject and Body search). There are two backend modules for the search index:

`Kernel::System::Ticket::ArticleSearchIndex::RuntimeDB`

This is the default option, and will do full-text searches on live data (it works fine for up to 50,000 tickets).

`Kernel::System::Ticket::ArticleSearchIndex::StaticDB`

This module will strip all articles and build an index after article creation, increasing performance of full-text searches up to 50%.

You can change the used `SearchIndexModule` via `SysConfig`.

To create an initial index, use `bin/otrs.RebuildFulltextIndex.pl`.

For `StaticDB` module, there are some options available for fine tuning:

`Ticket::SearchIndex::Attribute`

The attribute `"WordCountMax"` defines the maximum of words which will be processed to build up the index. For example only the first 1000 words of an article body are stored in the article search index. The attributes `"WordLengthMin"` and `"WordLengthMax"` are used as word length boundaries. Only words with a length between these two values are stored in the article search index.

## Ticket::SearchIndex::Filters

There are three default filters defined:

- The first filter strips out special chars like: , & < > ? " ! \* | ; [ ] ( ) + \$ ^ =
- The second filter strips out words which begin or ends with one of following chars: ' : .
- The third filter strips out words which do not contain a word-character: a-z, A-Z, 0-9, \_

## Ticket::SearchIndex::StopWords

There are so-called stop-words defined for some languages. These stop-words will be skipped while creating the search index.

# 1.3. TicketStorageModule (チケット・格納・モジュール)

チケット・記事記憶装置用の2つの異なるバックエンド・モジュールがあります:

## Kernel::System::Ticket::ArticleStorageDB

This default module will store attachments in the database.

### 注記

Don't use it with large setups.

Pro: If your web server isn't running under 'otrs' user, use this module to avoid file permission problems.

Con: It is not advisable to store attachments in your database. Take care that your database is able to store large objects. I.e.: configure MySQL with `set-variable = max_allowed_packet=8M` to store 8 MB objects (the default is 2M).

## Kernel::System::Ticket::ArticleStorageFS

Use this module to store attachments on the local file system.

### 注記

Recommended for large setups.

賛成意見: 速いですね!

Con: Your web server should run under the 'otrs' user. Also, if you have multiple front-end servers, you must make sure the filesystem is shared between the servers. Place it on an NFS share or preferably a SAN or similar solution.

### 注記

You can switch from one back-end to the other on the fly. You can switch the backend in the SysConfig, and then run the command line utility `otrs.ArticleStorageSwitch.pl` to put the articles from the database onto the filesystem or the other way around. You can use the `-s` and `-d` options to specify the source and destination back-ends. Please note that the entire process can take

considerable time to run, depending on the number of articles you have and the available CPU power and/or network capacity.

```
shell&gt; bin/otrs.ArticleStorageSwitch.pl -s ArticleStorageDB -d ArticleStorageFS
```

スクリプト:記憶バックエンドをデータベースからファイルシステムまで切り替えること。

## 1.4. チケットのアーカイブに保管

監査に耐えうるシステムとしてOTRSを使うならば、完了したチケットを削除することはよい考えとはいえません。そのため我々はチケットをアーカイブすることができる機能を実装しました。

Tickets that match certain criteria can be marked as "archived". These tickets are not accessed if you do a regular ticket search or run a Generic Agent job. The system itself does not have to deal with a huge amount of tickets any longer as only the "latest" tickets are taken into consideration when using OTRS. This can result in a huge performance gain on large systems.

アーカイブ機能を使用するには次のステップに従います:

### 1. SysConfigのアーカイブシステムを活性化します。

管理者ページで、SysConfigに行って、グループ・チケットを選択してください。Core::Ticketでは、デフォルトで「no」にセットされるオプションTicket::ArchiveSystemを見つけます。この設定を「yes」に変更し変更を保存します。

### 2. GenericAgentジョブを定義する

管理者ページでGenericAgentを選択し新規ジョブをそこへ追加します。

#### a. ジョブ設定

アーカイブに保管するジョブの名前を与え、この仕事を予定する適切なオプションを選択してください。

#### b. チケット・フィルタ

チケット・フィルタは選択された基準と一致するチケット検索です。完了した状態（数か月前に完了した）のチケットのみをアーカイブするのは良い考えです。

#### c. チケット・アクション

このセクションでは、「選択したチケットをアーカイブ」「チケットをアーカイブ」とラベルしたフィールドをセットしてください。

#### d. 仕事を保存する

ページの終わりに、仕事を保存するオプションを見つけるでしょう。

#### e. 影響を受けたチケット

システムは、一般担当者のジョブを実行する時にアーカイブされる全てのチケットを表示します。

### 3. チケット検索

チケットを検索する場合、システムはデフォルトでアーカイブに保管されないチケットを探索します。さらにアーカイブに保管されたチケットを捜したい場合は、検索基準を定義する時に単に「archive search」を加えてください。

## 1.5. キャッシュ

OTRS caches a lot of temporary data in `/opt/otrs/var/tmp`. Please make sure that this uses a high performance file system/storage. If you have enough RAM, you can also try to put this directory on a ramdisk like this:

```
shell> /opt/otrs/bin/otrs.CleanUp.pl
shell> /opt/otrs/bin/otrs.DeleteCache.pl
shell> sudo mount -o size=16G -t tmpfs none /opt/otrs/var/tmp

# add persistent mount point in /etc/fstab
```

### 注記

Please note that this will be a non-permanent storage that will be lost on server reboot. All your sessions (if you store them in the filesystem) and your cache data will be lost.

There is also a centralized memcached based cache backend available for purchase from OTRS Group.

## 2. データベース

DB発行は使用されているデータベースによって変わります。データベース管理者とデータベースがチェックのためのドキュメンテーションを研究してください。

### 2.1. MySQL

MySQLテーブル・タイプMyISAM(デフォルトです)を使用し、テーブルの大部分を削除したならば、あるいは可変長列(VARCHAR、BLOBあるいはTEXTカラムがあるテーブル)でテーブルに多くの変更を加えていれば、「optimize (最適化)」コマンドでデータ・ファイル(テーブル)をフラグメンテーション解消しなければいけません。

mysqldデーモンがCPU時間の多くを必要とする場合、テーブルの最適化を試みるべきです。 - チケット、ticket\_historyおよび記事(下記のスクリプトを参照)。

```
shell> mysql -u user -p database
mysql> optimize table ticket;
mysql> optimize table ticket_history;
mysql> optimize table article;
```

スクリプト:データ・ベース・テーブルの最適化。

### 2.2. PostgreSQL

PostgreSQL is best tuned by modifying the `postgresql.conf` file in your PostgreSQL data directory. For advice on how to do this, reference the following articles:

- <http://www.revsys.com/writings/postgresql-performance.html>
- <http://varlena.com/GeneralBits/Tidbits/perf.html>
- [http://varlena.com/GeneralBits/Tidbits/annotated\\_conf\\_e.html](http://varlena.com/GeneralBits/Tidbits/annotated_conf_e.html)

If performance is still not satisfactory, we suggest that you join the PostgreSQL Performance mailing list ( <http://www.postgresql.org/community/lists/> ), and ask questions there. The folks on the PostgreSQL list are very friendly and can probably help.



## 3. ウェブサーバ

Of course you should use mod\_perl 2.0 ( <http://perl.apache.org/> ). It's much faster (~\*100) than pure CGI, but it needs more RAM.

### 3.1. 事前に確立しているデータベース接続

You can have the database connections pre-established on startup of the web server. This saves time (see README.webserver).

### 3.2. プレインストールされたモジュール - **startup.pl**

Use the startup script `scripts/apache2-perl-startup.pl` for preloaded/precompiled Perl modules on your mod\_perl webserver to be faster, with a smaller memory footprint (see README.webserver).

### 3.3. ディスク上で更新された時パール・モジュールをリロードします。

By default Apache::Reload is used in `scripts/apache2-httpd.include.conf`. Disable it and you will get 8% more speed. But remember to restart the web server if you install any modules via the OTRS Package Manager, or any values in your SysConfig or in Kernel/Config.pm.

#### 重要

This would also mean you can't use the OTRS Package Manager via the web interface, you will need to use the command line variant - `bin/otrs.PackageManager.pl`.

### 3.4. 正しい戦略の選択

If you have a larger installation, e.g. over 1,000 new tickets per day and over 40 agents, it is a good idea to read the chapters on Performance of the mod\_perl User's Guide ( <http://perl.apache.org/docs/2.0/user/index.html> ).

### 3.5. mod\_gzip/mod\_deflate

If your bandwidth is small, use mod\_deflate for Apache2. If you have an html page with 45k, mod\_gzip/mod\_deflate compresses it to about 7k. The drawback is that this increases the load on the server side.

## 付録A 追加の資料

私達はOTRSに関する正に最新情報でサポートしようとしします。さらにフィードバックを提供する機会も与えます。

### otrs.com

The OTRS website with source code, documentation and news is available at <http://www.otrs.com/>. Here you can also find information about commercial services and trainings from OTRS Group, the creator of OTRS.

For services (support, consulting, development, and training) you can contact the company behind OTRS, OTRS AG. Our offices are located in Germany, USA, Mexico, the Netherlands, and in other countries. Visit our website for [contact information](#).

### メーリングリスト

表A.1 メーリングリスト

Name	摘要	ホームページ
announce@otrs.org	新しいOTRSリリースおよびセキュリティ問題に関するアナウンスのためリスト。英語で、転送量は少量です。	<a href="http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/announce">http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/announce</a>
otrs@otrs.org	全ての関連質問および製品サポートについてのリスト。英語で、流量は中/多量です。	<a href="http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/otrs">http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/otrs</a>
otrs-de@otrs.org	全ての関連質問および製品サポートについてのリスト。ドイツ語で、流量は中/多量です。	<a href="http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/otrs-de">http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/otrs-de</a>
dev@otrs.org	OTRS開発者がさまざまなデザインや実装の問題を議論するリスト。英語で、流量は中程度です。	<a href="http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/dev">http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/dev</a>
i18n@otrs.org	国際化および現地化に関する質問に関して。OTRSプロジェクトの翻訳者になりたいか、国際的環境でアプリケーションに関してどんな問題でもあれば、接続するのはここです。英語で、流量は少量です。	<a href="http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/i18n">http://lists.otrs.org/cgi-bin/listinfo/i18n</a>

### バグ・トラッキング

To report software defects, please visit <http://bugs.otrs.org/> (see Figure below). Please take note of the difference between a bug and a configuration issue. Configuration issues are problems that you encounter when setting a system, or general questions regarding the use of OTRS. Bug reports should only be used for issues with the source code of OTRS or other open source OTRS modules itself. For configuration issues, you should either use the [commercial support, available from OTRS.com](#), or the public mailing lists.

**Notice:** This is the community bug tracker. If you need **commercial assistance for setup or configuration** please see here: <http://www.otrs.com/en/solutions/subscriptions/>



Most common actions:

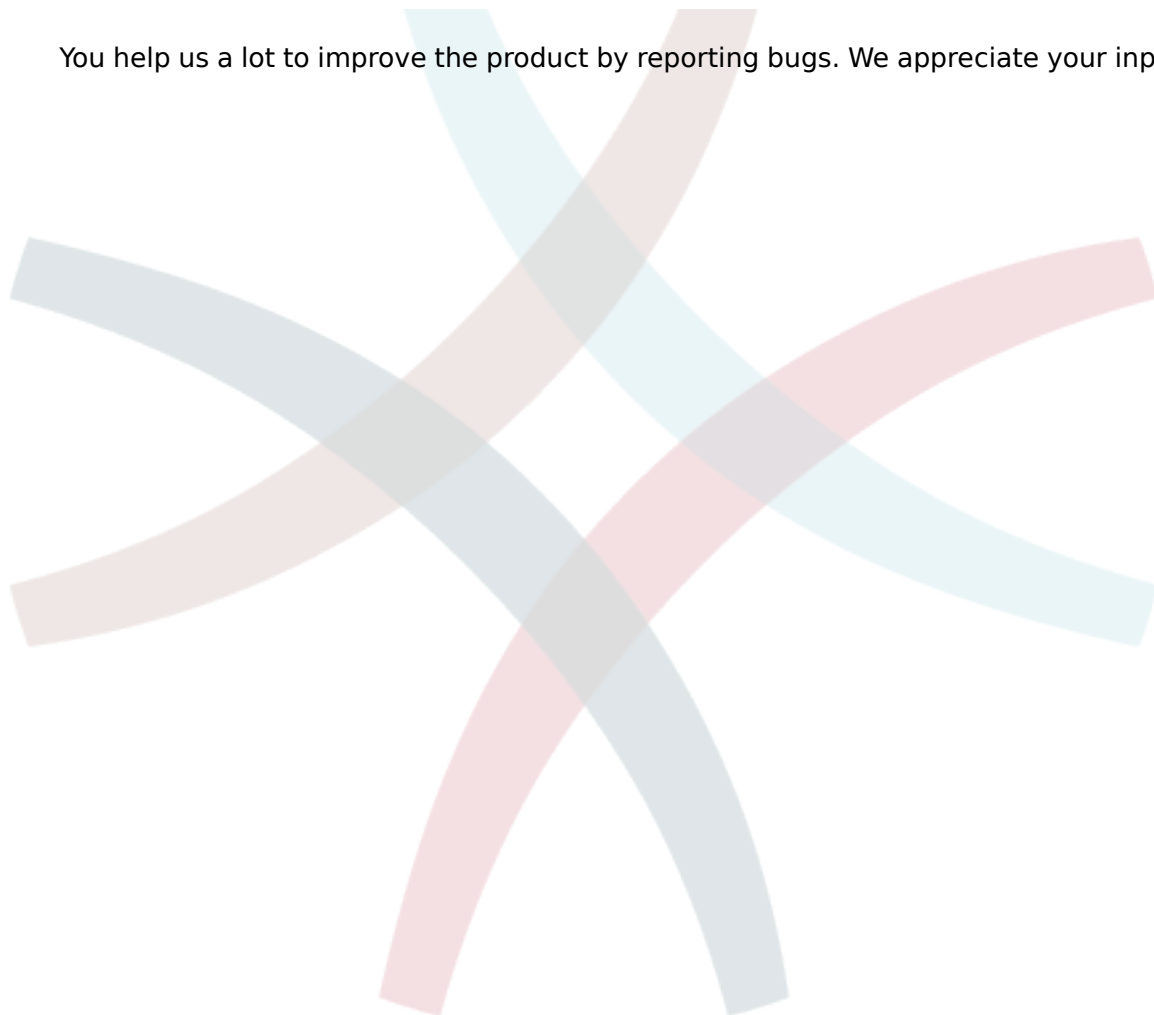
- [Search existing bug reports](#)
- [Enter a new bug report](#)
- [Summary reports and charts](#)

Login:   
Password:   
 I agree with the [OTRS Contributor Agreement!](#)

[Open a new Bugzilla account](#)

Enter a bug # or some search terms:  
  [\[Help\]](#)

You help us a lot to improve the product by reporting bugs. We appreciate your input!



# 付録B Configuration Options Reference

## 1. DynamicFields

### 1.1. DynamicFields::Driver::Registration

#### 1.1.1. DynamicFields::Driver###Text

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'Text'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldText',   'DisplayName' =&gt; 'Text',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::Driver::Text' };</pre>

#### 1.1.2. DynamicFields::Driver###TextArea

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'TextArea'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldText',   'DisplayName' =&gt; 'Textarea',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::Driver::TextArea' };</pre>

#### 1.1.3. DynamicFields::Driver###Checkbox

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'Checkbox'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldCheckbox',   'DisplayName' =&gt; 'Checkbox',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::Driver::Checkbox' };</pre>

#### 1.1.4. DynamicFields::Driver###Dropdown

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	DynamicFields

SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'Dropdown'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldDropdown',   'DisplayName' =&gt; 'Dropdown',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::Driver::Dropdown' };</pre>

### 1.1.5. DynamicFields::Driver###DateTime

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'DateTime'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldDateTime',   'DisplayName' =&gt; 'Date / Time',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::Driver::DateTime' };</pre>

### 1.1.6. DynamicFields::Driver###Date

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'Date'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldDateTime',   'DisplayName' =&gt; 'Date',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::Driver::Date' };</pre>

### 1.1.7. DynamicFields::Driver###Multiselect

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'Multiselect'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldMultiselect',   'DisplayName' =&gt; 'Multiselect',   'ItemSeparator' =&gt; ', ',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::Driver::Multiselect' };</pre>

## 1.2. DynamicFields::ObjectType::Registration

### 1.2.1. DynamicFields::ObjectType###Article

Description:	DynamicField object registration.
--------------	-----------------------------------

Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::ObjectType::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::ObjectType'}-&gt;{'Article'} = {   'DisplayName' =&gt; 'Article',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::ObjectType::Article',   'Prio' =&gt; '110' };</pre>

## 1.2.2. DynamicFields::ObjectType###Ticket

Description:	DynamicField object registration.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	DynamicFields::ObjectType::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::ObjectType'}-&gt;{'Ticket'} = {   'DisplayName' =&gt; 'Ticket',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::DynamicField::ObjectType::Ticket',   'Prio' =&gt; '100' };</pre>

## 1.3. Frontend::Admin::ModuleRegistration

### 1.3.1. Frontend::Module###AdminDynamicField

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminDynamicField'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.js'     ]   },   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Ticket',     'Description' =&gt; 'Create and manage dynamic fields.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Dynamic Fields',     'Prio' =&gt; '1000'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Dynamic Fields GUI' };</pre>

### 1.3.2. Frontend::Module###AdminDynamicFieldText

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminDynamicFieldText'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.js',       'Core.Agent.Admin.DynamicFieldText.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Dynamic Fields Text Backend GUI' }; </pre>

### 1.3.3. Frontend::Module###AdminDynamicFieldCheckbox

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminDynamicFieldCheckbox'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Dynamic Fields Checkbox Backend GUI' }; </pre>

### 1.3.4. Frontend::Module###AdminDynamicFieldDropdown

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminDynamicFieldDropdown'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; { </pre>

	<pre>'CSS' =&gt; [   'Core.Agent.Admin.DynamicField.css' ], 'JavaScript' =&gt; [   'Core.Agent.Admin.DynamicField.js',   'Core.Agent.Admin.DynamicFieldDropdown.js' ] }, 'Title' =&gt; 'Dynamic Fields Drop-down Backend GUI' };</pre>
--	--

### 1.3.5. Frontend::Module###AdminDynamicFieldDateTime

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminDynamicFieldDateTime'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.js',       'Core.Agent.Admin.DynamicFieldDateTime.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Dynamic Fields Date Time Backend GUI' };</pre>

### 1.3.6. Frontend::Module###AdminDynamicFieldMultiselect

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminDynamicFieldMultiselect'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.DynamicField.js',       'Core.Agent.Admin.DynamicFieldMultiselect.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Dynamic Fields Multiselect Backend GUI' };</pre>



## 1.4. Frontend::Agent::Preferences

### 1.4.1. PreferencesGroups###DynamicField

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'DynamicField'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Block' =&gt; 'Input',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Data' =&gt; "[% Env('UserDynamicField_NameX') %]",   'Key' =&gt; 'Default value for NameX',   'Label' =&gt; 'NameX',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserDynamicField_NameX',   'Prio' =&gt; '7000' };</pre>

### 1.4.2. PreferencesGroups###DynamicFieldsOverviewPageShown

Description:	Parameters for the pages (in which the dynamic fields are shown) of the dynamic fields overview.
Group:	DynamicFields
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'DynamicFieldsOverviewPageShown'} = {   'Active' =&gt; '0',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Data' =&gt; {     '10' =&gt; '10',     '15' =&gt; '15',     '20' =&gt; '20',     '25' =&gt; '25',     '30' =&gt; '30',     '35' =&gt; '35'   },   'DataSelected' =&gt; '25',   'Key' =&gt; 'Dynamic fields limit per page for Dynamic Fields Overview',   'Label' =&gt; 'Dynamic Fields Overview Limit',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'AdminDynamicFieldsOverviewPageShown',   'Prio' =&gt; '8000' };</pre>

## 2. Framework

### 2.1. Core

#### 2.1.1. SecureMode

Description:	Disables the web installer ( <a href="http://yourhost.example.com/otrs/installer.pl">http://yourhost.example.com/otrs/installer.pl</a> ), to prevent the system from being hijacked. If set to "No", the system can be reinstalled and the current basic configuration will be used to pre-populate the questions within the installer script. If not active, it also disables the GenericAgent, PackageManager and SQL Box.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SecureMode'} = '0';</code>

#### 2.1.2. Frontend::DebugMode

Description:	Enables or disables the debug mode over frontend interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::DebugMode'} = '0';</code>

#### 2.1.3. Frontend::TemplateCache

Description:	Enables or disables the caching for templates. <b>WARNING: Do NOT disable template caching for production environments for it will cause a massive performance drop! This setting should only be disabled for debugging reasons!</b>
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::TemplateCache'} = '1';</code>

#### 2.1.4. ConfigLevel

Description:	Sets the configuration level of the administrator. Depending on the config level, some sysconfig options will be not shown. The config levels are in in ascending order: Expert, Advanced, Beginner. The higher the config level is (e.g. Beginner is the highest), the less likely is it that the user can accidentally configure the system in a way that it is not usable any more.
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ConfigLevel'} = '100';</code>

### 2.1.5. ConfigImportAllowed

Description:	Controls if the admin is allowed to import a saved system configuration in SysConfig.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ConfigImportAllowed'} = '1';</code>

### 2.1.6. ProductName

Description:	Defines the name of the application, shown in the web interface, tabs and title bar of the web browser.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ProductName'} = 'OTRS 4';</code>

### 2.1.7. SystemID

Description:	Defines the system identifier. Every ticket number and http session string contains this ID. This ensures that only tickets which belong to your system will be processed as follow-ups (useful when communicating between two instances of OTRS).
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SystemID'} = '10';</code>

### 2.1.8. FQDN

Description:	Defines the fully qualified domain name of the system. This setting is used as a variable, OTRS_CONFIG_FQDN which is found in all forms of messaging used by the application, to build links to the tickets within your system.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'FQDN'} = 'yourhost.example.com';</code>

### 2.1.9. SupportDataCollector::HTTPHostname

Description:	Defines the HTTP hostname for the support data collection with the public module 'PublicSupportDataCollector' (e.g. used from the OTRS Daemon).
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SupportDataCollector::HTTPHostname'} = '';</code>

### 2.1.10. SupportDataCollector::WebUserAgent::Timeout

Description:	Defines the timeout (in seconds, minimum is 20 seconds) for the support data collection with the public module 'PublicSupportDataCollector' (e.g. used from the OTRS Daemon).
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SupportDataCollector::WebUserAgent::Timeout'} = '20';</code>

### 2.1.11. NodeID

Description:	Defines the cluster node identifier. This is only used in cluster configurations where there is more than one OTRS frontend system. Note: only values from 1 to 99 are allowed.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'NodeID'} = '1';</code>

### 2.1.12. HttpType

Description:	Defines the type of protocol, used by the web server, to serve the application. If https protocol will be used instead of plain http, it must be specified here. Since this has no affect on the web server's settings or behavior, it will not change the method of access to the application and, if it is wrong, it will not prevent you from logging into the application. This setting is only used as a variable, OTRS_CONFIG_HttpType which is found in all forms of messaging used by the application, to build links to the tickets within your system.
Group:	Framework

SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'HttpType'} = 'http';</code>

### 2.1.13. ScriptAlias

Description:	Sets the prefix to the scripts folder on the server, as configured on the web server. This setting is used as a variable, OTRS_CONFIG_ScriptAlias which is found in all forms of messaging used by the application, to build links to the tickets within the system.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ScriptAlias'} = 'otrs/';</code>

### 2.1.14. AdminEmail

Description:	Defines the system administrator's email address. It will be displayed in the error screens of the application.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AdminEmail'} = 'admin@example.com';</code>

### 2.1.15. Organization

Description:	Company name which will be included in outgoing emails as an X-Header.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Organization'} = 'Example Company';</code>

### 2.1.16. DefaultLanguage

Description:	Defines the default front-end language. All the possible values are determined by the available language files on the system (see the next setting).
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	\$Self->{'DefaultLanguage'} = 'en';
-----------------	-------------------------------------

## 2.1.17. DefaultUsedLanguages

Description:	<p>Defines all the languages that are available to the application. The Key/Content pair links the front-end display name to the appropriate language PM file. The "Key" value should be the base-name of the PM file (i.e. de.pm is the file, then de is the "Key" value). The "Content" value should be the display name for the front-end. Specify any own-defined language here (see the developer documentation <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> for more information). Please remember to use the HTML equivalents for non-ASCII characters (i.e. for the German oe = o umlaut, it is necessary to use the &amp;ouml; symbol).</p>
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DefaultUsedLanguages'} = {   'ar_SA' =&gt; 'Arabic (Saudi Arabia)',   'bg' =&gt; 'Bulgarian   (&amp;#x0411;&amp;#x044a;&amp;#x043b;&amp;#x0433;&amp;#x0430;&amp;#x0440;&amp;#x0441;&amp;#x043a;&amp;#x0438;)',   'ca' =&gt; 'Catal&amp;agrave;',   'cs' =&gt; 'Czech (&amp;#x010c;esky)',   'da' =&gt; 'Dansk',   'de' =&gt; 'Deutsch',   'el' =&gt; 'Greek   (&amp;#x0395;&amp;#x03bb;&amp;#x03b7;&amp;#x03bd;&amp;#x03b9;&amp;#x03ba;&amp;#x03ac;)',   'en' =&gt; 'English (United States)',   'en_CA' =&gt; 'English (Canada)',   'en_GB' =&gt; 'English (United Kingdom)',   'es' =&gt; 'Espa&amp;ntilde;ol',   'es_CO' =&gt; 'Espa&amp;ntilde;ol (Colombia)',   'es_MX' =&gt; 'Espa&amp;ntilde;ol (M&amp;eacute;xico)',   'et' =&gt; 'Eesti',   'fa' =&gt; 'Persian (&amp;#x0641;&amp;#x0627;&amp;#x0631;&amp;#x0633;&amp;#x0649;)',   'fi' =&gt; 'Suomi',   'fr' =&gt; 'Fran&amp;ccedil;ais',   'fr_CA' =&gt; 'Fran&amp;ccedil;ais (Canada)',   'gl' =&gt; 'Galego',   'he' =&gt; 'Hebrew (#####)',   'hi' =&gt; 'Hindi',   'hr' =&gt; 'Hrvatski',   'hu' =&gt; 'Magyar',   'it' =&gt; 'Italiano',   'ja' =&gt; 'Japanese (&amp;#x65e5;&amp;#x672c;&amp;#x8a9e;)',   'lt' =&gt; 'Lietuvių kalba',   'lv' =&gt; 'Latvijas',   'ms' =&gt; 'Malay',   'nb_NO' =&gt; 'Norsk bokm&amp;aring;l',   'nl' =&gt; 'Nederlands',   'pl' =&gt; 'Polski',   'pt' =&gt; 'Portugu&amp;ecirc;s',   'pt_BR' =&gt; 'Portugu&amp;ecirc;s Brasileiro',   'ru' =&gt; 'Russian   (&amp;#x0420;&amp;#x0443;&amp;#x0441;&amp;#x0441;&amp;#x0430;&amp;#x0438;&amp;#x0439;)',   'sk_SK' =&gt; 'Slovak (Sloven&amp;#x010d;ina)',   'sl' =&gt; 'Slovenian (Sloven&amp;#x0161;ina)',   'sr_Cyrl' =&gt; 'Serbian Cyrillic (српски)',   'sr_Latn' =&gt; 'Serbian Latin (Srpski)',   'sv' =&gt; 'Svenska',   'sw' =&gt; 'Swahili',   'tr' =&gt; 'T&amp;uuml;r&amp;ccedil;e',   'uk' =&gt; 'Ukrainian   (&amp;#x0423;&amp;#x0430;&amp;#x0440;&amp;#x0430;&amp;#x0457;&amp;#x043d;&amp;#x0441;&amp;#x044c;&amp;#x0430;&amp;#x0430;)</pre>

```
'vi_VN' => 'Vietnam (Vi&#x0246;t Nam)',
'zh_CN' => 'Chinese (Sim.) (&#x7b80;&#x4f53;&#x4e2d;&#x6587;)',
'zh_TW' => 'Chinese (Tradi.) (&#x6b63;&#x9ad4;&#x4e2d;&#x6587;)'
};
```

## 2.1.18. DefaultTheme

Description:	Defines the default front-end (HTML) theme to be used by the agents and customers. If you like, you can add your own theme. Please refer the administrator manual located at <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> .
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DefaultTheme'} = 'Standard';</code>

## 2.1.19. DefaultTheme::HostBased

Description:	It is possible to configure different themes, for example to distinguish between agents and customers, to be used on a per-domain basis within the application. Using a regular expression (regex), you can configure a Key/Content pair to match a domain. The value in "Key" should match the domain, and the value in "Content" should be a valid theme on your system. Please see the example entries for the proper form of the regex.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DefaultTheme::HostBased'} = {   'host1\\.example\\.com' =&gt; 'SomeTheme1',   'host2\\.example\\.com' =&gt; 'SomeTheme2' };</code>

## 2.1.20. CheckMXRecord

Description:	Makes the application check the MX record of email addresses before sending an email or submitting a telephone or email ticket.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CheckMXRecord'} = '1';</code>

## 2.1.21. CheckMXRecord::Nameserver

Description:	Defines the address of a dedicated DNS server, if necessary, for the "CheckMXRecord" look-ups.
Group:	Framework

SubGroup:	Core
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CheckMXRecord::Nameserver'} = 'ns.example.com';</code>

## 2.1.22. CheckEmailAddresses

Description:	Makes the application check the syntax of email addresses.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CheckEmailAddresses'} = '1';</code>

## 2.1.23. CheckEmailValidAddress

Description:	Defines a regular expression that excludes some addresses from the syntax check (if "CheckEmailAddresses" is set to "Yes"). Please enter a regex in this field for email addresses, that aren't syntactically valid, but are necessary for the system (i.e. "root@localhost").
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CheckEmailValidAddress'} = '^(root@localhost admin@localhost)\$';</code>

## 2.1.24. CheckEmailInvalidAddress

Description:	Defines a regular expression that filters all email addresses that should not be used in the application.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CheckEmailInvalidAddress'} = '@(example)\.\.(... ...)\$';</code>

## 2.1.25. CGILogPrefix

Description:	Specifies the text that should appear in the log file to denote a CGI script entry.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CGILogPrefix'} = 'OTRS-CGI';</code>



## 2.1.26. DemoSystem

Description:	Runs the system in "Demo" mode. If set to "Yes", agents can change preferences, such as selection of language and theme via the agent web interface. These changes are only valid for the current session. It will not be possible for agents to change their passwords.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DemoSystem'} = '0';</code>

## 2.1.27. SwitchToUser

Description:	Allows the administrators to login as other users, via the users administration panel.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SwitchToUser'} = '0';</code>

## 2.1.28. SwitchToCustomer

Description:	Allows the administrators to login as other customers, via the customer user administration panel.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SwitchToCustomer'} = '0';</code>

## 2.1.29. SwitchToCustomer::PermissionGroup

Description:	Specifies the group where the user needs rw permissions so that he can access the "SwitchToCustomer" feature.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SwitchToCustomer::PermissionGroup'} = 'admin';</code>

## 2.1.30. NotificationSenderName

Description:	Specifies the name that should be used by the application when sending notifications. The sender name is used
--------------	---

	to build the complete display name for the notification master (i.e. "OTRS Notification Master" otrs@your.example.com). Notifications are messages such as en::Customer::QueueUpdate or en::Agent::Move.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'NotificationSenderName'} = 'OTRS Notification Master';</code>

### 2.1.31. NotificationSenderEmail

Description:	Specifies the email address that should be used by the application when sending notifications. The email address is used to build the complete display name for the notification master (i.e. "OTRS Notification Master" otrs@your.example.com). You can use the OTRS_CONFIG_FQDN variable as set in your configuration, or choose another email address. Notifications are messages such as en::Customer::QueueUpdate or en::Agent::Move.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'NotificationSenderEmail'} = 'otrs@&lt;OTRS_CONFIG_FQDN&gt;';</code>

### 2.1.32. System::Customer::Permission

Description:	Defines the standard permissions available for customers within the application. If more permissions are needed, you can enter them here. Permissions must be hard coded to be effective. Please ensure, when adding any of the afore mentioned permissions, that the "rw" permission remains the last entry.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'System::Customer::Permission'} = [   'ro',   'rw' ];</code>

### 2.1.33. LanguageDebug

Description:	Debugs the translation set. If this is set to "Yes" all strings (text) without translations are written to STDERR. This can be helpful when you are creating a new translation file. Otherwise, this option should remain set to "No".
Group:	Framework
SubGroup:	Core

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'LanguageDebug'} = '0';</code>

## 2.1.34. Secure::**DisableBanner**

Description:	If enabled, the OTRS version tag will be removed from the Webinterface, the HTTP headers and the X-Headers of outgoing mails. NOTE: If you change this option, please make sure to delete the cache.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Secure::DisableBanner'} = '0';</code>

## 2.1.35. StandardTemplate2QueueByCreating

Description:	List of default Standard Templates which are assigned automatically to new Queues upon creation.
Group:	Framework
SubGroup:	Core
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'StandardTemplate2QueueByCreating'} = [</code> <code>''</code> <code>];</code>

## 2.2. Core::**Cache**

### 2.2.1. Cache::**Module**

Description:	Selects the cache backend to use.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Cache
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Cache::Module'} = 'Kernel::System::Cache::FileStorable';</code>

### 2.2.2. Cache::**InMemory**

Description:	Should the cache data be help in memory?
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Cache
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Cache::InMemory'} = '1';</code>
-----------------	--

### 2.2.3. Cache::InBackend

Description:	Should the cache data be stored in the selected cache backend?
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Cache
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Cache::InBackend'} = '1';</code>

### 2.2.4. Cache::SubdirLevels

Description:	Specify how many sub directory levels to use when creating cache files. This should prevent too many cache files being in one directory.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Cache
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Cache::SubdirLevels'} = '2';</code>

## 2.3. Core::CustomerCompany

### 2.3.1. CustomerCompany::EventModulePost###100-UpdateCustomerUsers

Description:	Event module that updates customer users after an update of the Customer.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::CustomerCompany
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerCompany::EventModulePost'}-&gt;{'100-UpdateCustomerUsers'} = {        'Event' =&gt; 'CustomerCompanyUpdate',        'Module' =&gt;        'Kernel::System::CustomerCompany::Event::CustomerUserUpdate',        'Transaction' =&gt; '0'      };</code>

## 2.4. Core::CustomerUser

### 2.4.1. CustomerUser::EventModulePost###100-UpdateServiceMembership

Description:	Event module that updates customer user service membership if login changes.
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Core::CustomerUser
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerUser::EventModulePost'}-&gt;{'100-UpdateServiceMembership'} = {   'Event' =&gt; 'CustomerUserUpdate',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::CustomerUser::Event::ServiceMemberUpdate',   'Transaction' =&gt; '0' };</pre>

## 2.5. Core::LinkObject

### 2.5.1. LinkObject::ViewMode

Description:	Determines the way the linked objects are displayed in each zoom mask.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::LinkObject
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LinkObject::ViewMode'} = 'Simple';</pre>

### 2.5.2. LinkObject::Type###Normal

Description:	Defines the link type 'Normal'. If the source name and the target name contain the same value, the resulting link is a non-directional one; otherwise, the result is a directional link.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::LinkObject
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LinkObject::Type'}-&gt;{'Normal'} = {   'SourceName' =&gt; 'Normal',   'TargetName' =&gt; 'Normal' };</pre>

### 2.5.3. LinkObject::Type###ParentChild

Description:	Defines the link type 'ParentChild'. If the source name and the target name contain the same value, the resulting link is a non-directional one; otherwise, the result is a directional link.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::LinkObject
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LinkObject::Type'}-&gt;{'ParentChild'} = {   'SourceName' =&gt; 'Parent',   'TargetName' =&gt; 'Child' };</pre>

## 2.5.4. LinkObject::TypeGroup###0001

Description:	Defines the link type groups. The link types of the same group cancel one another. Example: If ticket A is linked per a 'Normal' link with ticket B, then these tickets could not be additionally linked with link of a 'ParentChild' relationship.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::LinkObject
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LinkObject::TypeGroup'}-&gt;{'0001'} = [   'Normal',   'ParentChild' ];</pre>

## 2.6. Core::Log

### 2.6.1. LogModule

Description:	Defines the log module for the system. "File" writes all messages in a given logfile, "SysLog" uses the syslog daemon of the system, e.g. syslogd.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Log
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LogModule'} = 'Kernel::System::Log::SysLog';</pre>

### 2.6.2. LogModule::SysLog::Facility

Description:	If "SysLog" was selected for LogModule, a special log facility can be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Log
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LogModule::SysLog::Facility'} = 'user';</pre>

### 2.6.3. LogModule::SysLog::LogSock

Description:	If "SysLog" was selected for LogModule, a special log sock can be specified (on solaris you may need to use 'stream').
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Log
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LogModule::SysLog::LogSock'} = 'unix';</pre>

## 2.6.4. LogModule::SysLog::Charset

Description:	If "SysLog" was selected for LogModule, the charset that should be used for logging can be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Log
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'LogModule::SysLog::Charset'} = 'utf-8';</code>

## 2.6.5. LogModule::LogFile

Description:	If "file" was selected for LogModule, a logfile must be specified. If the file doesn't exist, it will be created by the system.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Log
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'LogModule::LogFile'} = '/tmp/otrs.log';</code>

## 2.6.6. LogModule::LogFile::Date

Description:	Adds a suffix with the actual year and month to the OTRS log file. A logfile for every month will be created.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Log
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'LogModule::LogFile::Date'} = '0';</code>

## 2.7. Core::MIME-Viewer

### 2.7.1. MIME-Viewer###application/excel

Description:	Specifies the path to the converter that allows the view of Microsoft Excel files, in the web interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::MIME-Viewer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'MIME-Viewer'}-&gt;{'application/excel'} = 'xhtml';</code>

### 2.7.2. MIME-Viewer###application/msword

Description:	Specifies the path to the converter that allows the view of Microsoft Word files, in the web interface.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Core::MIME-Viewer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'MIME-Viewer'}-&gt;{'application/msword'} = 'wvWare';</code>

### 2.7.3. MIME-Viewer###application/pdf

Description:	Specifies the path to the converter that allows the view of PDF documents, in the web interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::MIME-Viewer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'MIME-Viewer'}-&gt;{'application/pdf'} = 'pdftohtml -stdout -i';</code>

### 2.7.4. MIME-Viewer###text/xml

Description:	Specifies the path to the converter that allows the view of XML files, in the web interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::MIME-Viewer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'MIME-Viewer'}-&gt;{'text/xml'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/scripts/tools/xml2html.pl';</code>

## 2.8. Core::MirrorDB

### 2.8.1. Core::MirrorDB::DSN

Description:	If you want to use a mirror database for agent ticket fulltext search or to generate stats, specify the DSN to this database.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::MirrorDB
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Core::MirrorDB::DSN'} = 'DBI:mysql:database=mirrordb;host=mirrordbhost';</code>

### 2.8.2. Core::MirrorDB::User

Description:	If you want to use a mirror database for agent ticket fulltext search or to generate stats, the user to authenticate to this database can be specified.
Group:	Framework



SubGroup:	Core::MirrorDB
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Core::MirrorDB::User'} = 'some_user';</code>

### 2.8.3. Core::MirrorDB::Password

Description:	If you want to use a mirror database for agent ticket fulltext search or to generate stats, the password to authenticate to this database can be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::MirrorDB
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Core::MirrorDB::Password'} = 'some_password';</code>

## 2.9. Core::OTRSBusiness

### 2.9.1. OTRSBusiness::ReleaseChannel

Description:	Specify the channel to be used to fetch OTRS Business Solution™ updates. Warning: Development releases might not be complete, your system might experience unrecoverable errors and on extreme cases could become unresponsive!
Group:	Framework
SubGroup:	Core::OTRSBusiness
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'OTRSBusiness::ReleaseChannel'} = '1';</code>

## 2.10. Core::PDF

### 2.10.1. PDF

Description:	Enables PDF output. The CPAN module PDF::API2 is required, if not installed, PDF output will be disabled.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF'} = '1';</code>

### 2.10.2. PDF::LogoFile

Description:	Specifies the path of the file for the logo in the page header (gif jpg png, 700 x 100 pixel).
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::LogoFile'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/logo-otrs.png';</code>

### 2.10.3. PDF::PageSize

Description:	Defines the standard size of PDF pages.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::PageSize'} = 'a4';</code>

### 2.10.4. PDF::MaxPages

Description:	Defines the maximum number of pages per PDF file.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::MaxPages'} = '100';</code>

### 2.10.5. PDF::TTFontFile###Proportional

Description:	Defines the path and TTF-File to handle proportional font in PDF documents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'Proportional'} = 'DejaVuSans.ttf';</code>

### 2.10.6. PDF::TTFontFile###ProportionalBold

Description:	Defines the path and TTF-File to handle bold proportional font in PDF documents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'ProportionalBold'} = 'DejaVuSans-Bold.ttf';</code>

## 2.10.7. PDF::TTFontFile###ProportionalItalic

Description:	Defines the path and TTF-File to handle italic proportional font in PDF documents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'ProportionalItalic'} = 'DejaVuSans-Oblique.ttf';</code>

## 2.10.8. PDF::TTFontFile###ProportionalBoldItalic

Description:	Defines the path and TTF-File to handle bold italic proportional font in PDF documents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'ProportionalBoldItalic'} = 'DejaVuSans-BoldOblique.ttf';</code>

## 2.10.9. PDF::TTFontFile###Monospaced

Description:	Defines the path and TTF-File to handle monospaced font in PDF documents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'Monospaced'} = 'DejaVuSansMono.ttf';</code>

## 2.10.10. PDF::TTFontFile###MonospacedBold

Description:	Defines the path and TTF-File to handle bold monospaced font in PDF documents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'MonospacedBold'} = 'DejaVuSansMono-Bold.ttf';</code>

## 2.10.11. PDF::TTFontFile###MonospacedItalic

Description:	Defines the path and TTF-File to handle italic monospaced font in PDF documents.
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'MonospacedItalic'} = 'DejaVuSansMono-Oblique.ttf';</code>

## 2.10.12. PDF::TTFontFile###MonospacedBoldItalic

Description:	Defines the path and TTF-File to handle bold italic monospaced font in PDF documents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PDF
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PDF::TTFontFile'}-&gt;{'MonospacedBoldItalic'} = 'DejaVuSansMono-BoldOblique.ttf';</code>

## 2.11. Core::Package

### 2.11.1. Package::FileUpload

Description:	Enables file upload in the package manager frontend.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Package::FileUpload'} = '1';</code>

### 2.11.2. Package::RepositoryRoot

Description:	Defines the location to get online repository list for additional packages. The first available result will be used.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Package::RepositoryRoot'} = [ 'http://ftp.otrs.org/pub/otrs/misc/packages/repository.xml' ];</code>

### 2.11.3. Package::RepositoryList

Description:	Defines the list of online repositories. Another installations can be used as repository, for example: Key="http://example.com/otrs/public.pl?Action=PublicRepository;File=" and Content="Some Name".
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Package::RepositoryList'} = {   'ftp://ftp.example.com/pub/otrs/misc/packages/' =&gt; '[Example]   ftp://ftp.example.com/' };</pre>

#### 2.11.4. Package::RepositoryAccessRegExp

Description:	Defines the IP regular expression for accessing the local repository. You need to enable this to have access to your local repository and the package::RepositoryList is required on the remote host.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Package::RepositoryAccessRegExp'} = '127\\.0\\.0\\.1';</pre>

#### 2.11.5. Package::Timeout

Description:	Sets the timeout (in seconds) for package downloads. Overwrites "WebUserAgent::Timeout".
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Package::Timeout'} = '120';</pre>

#### 2.11.6. Package::Proxy

Description:	Fetches packages via proxy. Overwrites "WebUserAgent::Proxy".
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Package::Proxy'} = 'http://proxy.sn.no:8001/';</pre>

#### 2.11.7. Package::ShowFeatureAddons

Description:	Toggles display of OTRS FeatureAddons list in PackageManager.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Package::ShowFeatureAddons'} = '1';</code>
-----------------	---

## 2.11.8. Package::EventModulePost###99-SupportDataSend

Description:	Package event module file a scheduler task for update registration.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Package
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Package::EventModulePost'}-&gt;{'99-SupportDataSend'} = {        'Event' =&gt; '(PackageInstall PackageReinstall PackageUpgrade         PackageUninstall)',        'Module' =&gt; 'Kernel::System::Package::Event::SupportDataSend',        'Transaction' =&gt; '1'      };</code>

## 2.12. Core::PerformanceLog

### 2.12.1. PerformanceLog

Description:	Enables performance log (to log the page response time). It will affect the system performance. Frontend::Module###AdminPerformanceLog must be enabled.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PerformanceLog
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PerformanceLog'} = '0';</code>

### 2.12.2. PerformanceLog::File

Description:	Specifies the path of the file for the performance log.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PerformanceLog
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PerformanceLog::File'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/log/        Performance.log';</code>

### 2.12.3. PerformanceLog::FileMax

Description:	Defines the maximum size (in MB) of the log file.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::PerformanceLog
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PerformanceLog::FileMax'} = '25';</code>
-----------------	---

## 2.13. Core::**ReferenceData**

### 2.13.1. ReferenceData::**OwnCountryList**

Description:	This setting allows you to override the built-in country list with your own list of countries. This is particularly handy if you just want to use a small select group of countries.
Group:	Framework
SubGroup:	Core:: <b>ReferenceData</b>
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ReferenceData::OwnCountryList'} = {          'AT' =&gt; 'Austria',          'CH' =&gt; 'Switzerland',          'DE' =&gt; 'Germany'        };</code>

## 2.14. Core::**SOAP**

### 2.14.1. SOAP::**User**

Description:	Defines the username to access the SOAP handle (bin/cgi-bin/rpc.pl).
Group:	Framework
SubGroup:	Core:: <b>SOAP</b>
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SOAP::User'} = 'some_user';</code>

### 2.14.2. SOAP::**Password**

Description:	Defines the password to access the SOAP handle (bin/cgi-bin/rpc.pl).
Group:	Framework
SubGroup:	Core:: <b>SOAP</b>
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SOAP::Password'} = 'some_pass';</code>

### 2.14.3. SOAP::**Keep-Alive**

Description:	Enable keep-alive connection header for SOAP responses.
Group:	Framework
SubGroup:	Core:: <b>SOAP</b>

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SOAP::Keep-Alive'} = '0';</code>

## 2.15. Core::Sendmail

### 2.15.1. SendmailModule

Description:	Defines the module to send emails. "Sendmail" directly uses the sendmail binary of your operating system. Any of the "SMTP" mechanisms use a specified (external) mailserver. "DoNotSendEmail" doesn't send emails and it is useful for test systems.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailModule'} = 'Kernel::System::Email::Sendmail';</code>

### 2.15.2. SendmailModule::CMD

Description:	If "Sendmail" was selected as SendmailModule, the location of the sendmail binary and the needed options must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailModule::CMD'} = '/usr/sbin/sendmail -i -f';</code>

### 2.15.3. SendmailModule::Host

Description:	If any of the "SMTP" mechanisms was selected as SendmailModule, the mailhost that sends out the mails must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailModule::Host'} = 'mail.example.com';</code>

### 2.15.4. SendmailModule::Port

Description:	If any of the "SMTP" mechanisms was selected as SendmailModule, the port where your mailserver is listening for incoming connections must be specified.
Group:	Framework



SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailModule::Port'} = '25';</code>

### 2.15.5. SendmailModule::AuthUser

Description:	If any of the "SMTP" mechanisms was selected as SendmailModule, and authentication to the mail server is needed, an username must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailModule::AuthUser'} = 'MailserverLogin';</code>

### 2.15.6. SendmailModule::AuthPassword

Description:	If any of the "SMTP" mechanisms was selected as SendmailModule, and authentication to the mail server is needed, a password must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailModule::AuthPassword'} = 'MailserverPassword';</code>

### 2.15.7. SendmailBcc

Description:	Sends all outgoing email via bcc to the specified address. Please use this only for backup reasons.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailBcc'} = '';</code>

### 2.15.8. SendmailEnvelopeFrom

Description:	If set, this address is used as envelope sender in outgoing messages (not notifications - see below). If no address is specified, the envelope sender is equal to queue e-mail address.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	0

Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailEnvelopeFrom'} = '';</code>

## 2.15.9. SendmailNotificationEnvelopeFrom

Description:	If set, this address is used as envelope sender header in outgoing notifications. If no address is specified, the envelope sender header is empty (unless SendmailNotificationEnvelopeFrom::FallbackToEmailFrom is set).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailNotificationEnvelopeFrom'} = '';</code>

## 2.15.10. SendmailNotificationEnvelopeFrom::FallbackToEmailFrom

Description:	If no SendmailNotificationEnvelopeFrom is specified, this setting makes it possible to use the email's from address instead of an empty envelope sender (required in certain mail server configurations).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailNotificationEnvelopeFrom::FallbackToEmailFrom'} = '0';</code>

## 2.15.11. SendmailEncodingForce

Description:	Forces encoding of outgoing emails (7bit 8bit quoted-printable base64).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Sendmail
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SendmailEncodingForce'} = 'base64';</code>

## 2.16. Core::Session

### 2.16.1. SessionModule

Description:	Defines the module used to store the session data. With "DB" the frontend server can be splitted from the db server. "FS" is faster.
Group:	Framework

SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionModule'} = 'Kernel::System::AuthSession::DB';</code>

## 2.16.2. SessionName

Description:	Defines the name of the session key. E.g. Session, SessionID or OTRS.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionName'} = 'OTRSAgentInterface';</code>

## 2.16.3. CustomerPanelSessionName

Description:	Defines the name of the key for customer sessions.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelSessionName'} = 'OTRSCustomerInterface';</code>

## 2.16.4. SessionCheckRemoteIP

Description:	Turns on the remote ip address check. It should be set to "No" if the application is used, for example, via a proxy farm or a dialup connection, because the remote ip address is mostly different for the requests.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionCheckRemoteIP'} = '1';</code>

## 2.16.5. SessionDeleteIfNotRemoteID

Description:	Deletes a session if the session id is used with an invalid remote IP address.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionDeleteIfNotRemoteID'} = '1';</code>

## 2.16.6. SessionMaxTime

Description:	Defines the maximal valid time (in seconds) for a session id.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionMaxTime'} = '57600';</code>

## 2.16.7. SessionMaxIdleTime

Description:	Sets the inactivity time (in seconds) to pass before a session is killed and a user is logged out.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionMaxIdleTime'} = '7200';</code>

## 2.16.8. SessionActiveTime

Description:	DEPRECATED: This config setting will be removed in further versions of OTRS. Sets the time (in seconds) a user is marked as active (minimum active time is 300 seconds).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionActiveTime'} = '600';</code>

## 2.16.9. SessionDeleteIfTimeToOld

Description:	Deletes requested sessions if they have timed out.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionDeleteIfTimeToOld'} = '1';</code>

## 2.16.10. SessionUseCookie

Description:	Makes the session management use html cookies. If html cookies are disabled or if the client browser disabled html cookies, then the system will work as usual and append the session id to the links.
Group:	Framework

SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionUseCookie'} = '1';</code>

### 2.16.11. SessionUseCookieAfterBrowserClose

Description:	Stores cookies after the browser has been closed.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionUseCookieAfterBrowserClose'} = '0';</code>

### 2.16.12. SessionCSRFProtection

Description:	Protection against CSRF (Cross Site Request Forgery) exploits (for more info see <a href="http://en.wikipedia.org/wiki/Cross-site_request_forgery">http://en.wikipedia.org/wiki/Cross-site_request_forgery</a> ).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionCSRFProtection'} = '1';</code>

### 2.16.13. AgentSessionLimitPriorWarning

Description:	Sets the maximum number of active agents within the timespan defined in <code>SessionMaxIdleTime</code> before a prior warning will be visible for the logged in agents.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AgentSessionLimitPriorWarning'} = '90';</code>

### 2.16.14. AgentSessionLimit

Description:	Sets the maximum number of active agents within the timespan defined in <code>SessionMaxIdleTime</code> .
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AgentSessionLimit'} = '100';</code>

## 2.16.15. AgentSessionPerUserLimit

Description:	Sets the maximum number of active sessions per agent within the timespan defined in SessionMaxIdleTime.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AgentSessionPerUserLimit'} = '20';</code>

## 2.16.16. CustomerSessionLimit

Description:	Sets the maximum number of active customers within the timespan defined in SessionMaxIdleTime.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerSessionLimit'} = '100';</code>

## 2.16.17. CustomerSessionPerUserLimit

Description:	Sets the maximum number of active sessions per customers within the timespan defined in SessionMaxIdleTime.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerSessionPerUserLimit'} = '20';</code>

## 2.16.18. SessionDir

Description:	If "FS" was selected for SessionModule, a directory where the session data will be stored must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionDir'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/sessions';</code>

## 2.16.19. SessionTable

Description:	If "DB" was selected for SessionModule, a table in database where session data will be stored must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Session

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SessionTable'} = 'sessions';</code>

## 2.17. Core::SpellChecker

### 2.17.1. SpellChecker

Description:	Enables spell checker support.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::SpellChecker
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SpellChecker'} = '0';</code>

### 2.17.2. SpellCheckerBin

Description:	Install ispell or aspell on the system, if you want to use a spell checker. Please specify the path to the aspell or ispell binary on your operating system.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::SpellChecker
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SpellCheckerBin'} = '/usr/bin/ispell';</code>

### 2.17.3. SpellCheckerDictDefault

Description:	Defines the default spell checker dictionary.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::SpellChecker
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SpellCheckerDictDefault'} = 'english';</code>

### 2.17.4. SpellCheckerIgnore

Description:	Defines a default list of words, that are ignored by the spell checker.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::SpellChecker
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SpellCheckerIgnore'} = [ 'www', 'webmail',</code>

```
'https',
'http',
'html',
'rfc'
];
```

## 2.18. Core::Stats

### 2.18.1. Stats::StatsHook

Description:	Sets the stats hook.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::StatsHook'} = 'Stat#';</code>

### 2.18.2. Stats::StatsStartNumber

Description:	Start number for statistics counting. Every new stat increments this number.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::StatsStartNumber'} = '10000';</code>

### 2.18.3. Stats::MaxXaxisAttributes

Description:	Defines the default maximum number of X-axis attributes for the time scale.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::MaxXaxisAttributes'} = '1000';</code>

## 2.19. Core::Stats::Graph

### 2.19.1. Stats::Graph::t\_margin

Description:	Specifies the top margin of the chart.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::t_margin'} = '10';</code>



## 2.19.2. Stats::Graph::l\_margin

Description:	Specifies the left margin of the chart.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::l_margin'} = '10';</code>

## 2.19.3. Stats::Graph::b\_margin

Description:	Specifies the bottom margin of the chart.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::b_margin'} = '10';</code>

## 2.19.4. Stats::Graph::r\_margin

Description:	Specifies the right margin of the chart.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::r_margin'} = '20';</code>

## 2.19.5. Stats::Graph::bgclr

Description:	Specifies the background color of the picture.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::bgclr'} = 'white';</code>

## 2.19.6. Stats::Graph::transparent

Description:	Makes the picture transparent.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::transparent'} = '0';</code>

## 2.19.7. Stats::Graph::fgclr

Description:	Specifies the border color of the chart.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::fgclr'} = 'black';</code>

## 2.19.8. Stats::Graph::boxclr

Description:	Specifies the background color of the chart.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::boxclr'} = 'white';</code>

## 2.19.9. Stats::Graph::accentclr

Description:	Specifies the border color of the legend.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::accentclr'} = 'black';</code>

## 2.19.10. Stats::Graph::legendclr

Description:	Specifies the text color of the legend.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::legendclr'} = 'black';</code>

## 2.19.11. Stats::Graph::textclr

Description:	Specifies the text color of the chart (e. g. caption).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::textclr'} = 'black';</code>

## 2.19.12. Stats::Graph::dclrs

Description:	Defines the colors for the graphs.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::dclrs'} = [   'red',   'green',   'blue',   'yellow',   'purple',   'orange',   'pink',   'marine',   'cyan',   'lgray',   'lblue',   'lyellow',   'lgreen',   'lred',   'lpurple',   'lorange',   'lbrown' ];</pre>

## 2.19.13. Stats::Graph::TitleFont

Description:	Defines the title font in graphs (place custom fonts in var/fonts).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::TitleFont'} = 'DejaVuSans-Bold.ttf';</pre>

## 2.19.14. Stats::Graph::LegendFont

Description:	Defines the legend font in graphs (place custom fonts in var/fonts).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::LegendFont'} = 'DejaVuSans.ttf';</pre>

## 2.19.15. Stats::Graph::line\_width

Description:	Defines the boldness of the line drawn by the graph.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::line_width'} = '1';</code>
-----------------	---

## 2.19.16. Stats::Graph::legend\_placement

Description:	Defines the placement of the legend. This should be a two letter key of the form: 'B[LCR] R[TCB]'. The first letter indicates the placement (Bottom or Right), and the second letter the alignment (Left, Right, Center, Top, or Bottom).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::legend_placement'} = 'BC';</code>

## 2.19.17. Stats::Graph::legend\_spacing

Description:	Defines the spacing of the legends.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::legend_spacing'} = '4';</code>

## 2.19.18. Stats::Graph::legend\_marker\_width

Description:	Defines the width of the legend.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::legend_marker_width'} = '12';</code>

## 2.19.19. Stats::Graph::legend\_marker\_height

Description:	Defines the height of the legend.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Stats::Graph
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::Graph::legend_marker_height'} = '8';</code>

## 2.20. Core::Time

### 2.20.1. TimeInputFormat

Description:	Defines the date input format used in forms (option or input fields).
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeInputFormat'} = 'Option';</code>

## 2.20.2. TimeShowAlwaysLong

Description:	Shows time in long format (days, hours, minutes), if set to "Yes"; or in short format (days, hours), if set to "No".
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeShowAlwaysLong'} = '0';</code>

## 2.20.3. TimeZone

Description:	Sets the system time zone (required a system with UTC as system time). Otherwise this is a diff time to the local time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone'} = '+0';</code>

## 2.20.4. TimeZoneUser

Description:	Sets the user time zone per user (required a system with UTC as system time and UTC under TimeZone). Otherwise this is a diff time to the local time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZoneUser'} = '0';</code>

## 2.20.5. TimeZoneUserBrowserAutoOffset

Description:	Sets the user time zone per user based on java script / browser time zone offset feature at login time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZoneUserBrowserAutoOffset'} = '1';</code>
-----------------	--

## 2.20.6. MaximumCalendarNumber

Description:	Maximum Number of a calendar shown in a dropdown.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'MaximumCalendarNumber'} = '50';</code>

## 2.20.7. CalendarWeekDayStart

Description:	Define the start day of the week for the date picker.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart'} = '1';</code>

## 2.20.8. TimeVacationDays

Description:	Adds the permanent vacation days. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'TimeVacationDays'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } }; </pre>

## 2.20.9. TimeVacationDaysOneTime

Description:	Adds the one time vacation days. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } };</pre>

## 2.20.10. TimeWorkingHours

Description:	Defines the hours and week days to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeWorkingHours'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Sat' =&gt; [],   'Sun' =&gt; [],   'Thu' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Tue' =&gt; [     '8',     '9',</pre>

```

    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ],
  'Wed' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ]
];

```

## 2.20.11. TimeShowCompleteDescription

Description:	Shows time use complete description (days, hours, minutes), if set to "Yes"; or just first letter (d, h, m), if set to "No".
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeShowCompleteDescription'} = '0';</code>

## 2.21. Core::Time::Calendar1

### 2.21.1. TimeZone::Calendar1Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar1
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar1Name'} = 'Calendar Name 1';</code>

### 2.21.2. TimeZone::Calendar1

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar1



Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar1'} = '0';</code>

### 2.21.3. CalendarWeekDayStart::Calendar1

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar1
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar1'} = '1';</code>

### 2.21.4. TimeVacationDays::Calendar1

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar1
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar1'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } };</pre>

### 2.21.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar1

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar1
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar1'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } };</pre>

## 2.21.6. TimeWorkingHours::Calendar1

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar1
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar1'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Sat' =&gt; [],   'Sun' =&gt; [],   'Thu' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Tue' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18', </pre>

```

    '19',
    '20'
  ],
  'Wed' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ]
};

```

## 2.22. Core::Time::Calendar2

### 2.22.1. TimeZone::Calendar2Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar2
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar2Name'} = 'Calendar Name 2';</code>

### 2.22.2. TimeZone::Calendar2

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar2
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar2'} = '0';</code>

### 2.22.3. CalendarWeekDayStart::Calendar2

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar2
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar2'} = '1';</code>

### 2.22.4. TimeVacationDays::Calendar2

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar2
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar2'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } }</pre>

## 2.22.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar2

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar2
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar2'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } }</pre>

## 2.22.6. TimeWorkingHours::Calendar2

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar2
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar2'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ], }</pre>

```

'Mon' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
],
'Sat' => [],
'Sun' => [],
'Thu' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
],
'Tue' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
],
'Wed' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
]
];

```

## 2.23. Core::Time::Calendar3

### 2.23.1. TimeZone::Calendar3Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar3
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar3Name'} = 'Calendar Name 3';</code>

## 2.23.2. TimeZone::Calendar3

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar3
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar3'} = '0';</code>

## 2.23.3. CalendarWeekDayStart::Calendar3

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar3
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar3'} = '1';</code>

## 2.23.4. TimeVacationDays::Calendar3

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar3
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar3'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } };</pre>

## 2.23.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar3

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar3
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar3'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } };</pre>

## 2.23.6. TimeWorkingHours::Calendar3

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar3
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar3'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Sat' =&gt; [],   'Sun' =&gt; [],   'Thu' =&gt; [     '8',     '9',     '10',</pre>

```

    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ],
  'Tue' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ],
  'Wed' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ]
]
};

```

## 2.24. Core::Time::Calendar4

### 2.24.1. TimeZone::Calendar4Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar4
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar4Name'} = 'Calendar Name 4';</code>

### 2.24.2. TimeZone::Calendar4

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar4
Valid:	1



Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar4'} = '0';</code>

### 2.24.3. CalendarWeekDayStart::Calendar4

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar4
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar4'} = '1';</code>

### 2.24.4. TimeVacationDays::Calendar4

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar4
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar4'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } };</pre>

### 2.24.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar4

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar4
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar4'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } };</pre>

## 2.24.6. TimeWorkingHours::Calendar4

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar4
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar4'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Sat' =&gt; [],   'Sun' =&gt; [],   'Thu' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Tue' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',   ] } </pre>

```

    '19',
    '20'
  ],
  'Wed' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ]
};

```

## 2.25. Core::Time::Calendar5

### 2.25.1. TimeZone::Calendar5Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar5
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar5Name'} = 'Calendar Name 5';</code>

### 2.25.2. TimeZone::Calendar5

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar5
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar5'} = '0';</code>

### 2.25.3. CalendarWeekDayStart::Calendar5

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar5
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar5'} = '1';</code>

### 2.25.4. TimeVacationDays::Calendar5

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar5
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar5'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } }</pre>

### 2.25.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar5

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar5
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar5'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } }</pre>

### 2.25.6. TimeWorkingHours::Calendar5

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar5
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar5'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ], }</pre>

```

'Mon' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
],
'Sat' => [],
'Sun' => [],
'Thu' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
],
'Tue' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
],
'Wed' => [
  '8',
  '9',
  '10',
  '11',
  '12',
  '13',
  '14',
  '15',
  '16',
  '17',
  '18',
  '19',
  '20'
]
];

```

## 2.26. Core::Time::Calendar6

### 2.26.1. TimeZone::Calendar6Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar6
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar6Name'} = 'Calendar Name 6';</code>

## 2.26.2. TimeZone::Calendar6

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar6
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar6'} = '0';</code>

## 2.26.3. CalendarWeekDayStart::Calendar6

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar6
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar6'} = '1';</code>

## 2.26.4. TimeVacationDays::Calendar6

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar6
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar6'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } };</pre>

## 2.26.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar6

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar6
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar6'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } };</pre>

## 2.26.6. TimeWorkingHours::Calendar6

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar6
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar6'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Sat' =&gt; [],   'Sun' =&gt; [],   'Thu' =&gt; [     '8',     '9',     '10',</pre>

```
'11',
'12',
'13',
'14',
'15',
'16',
'17',
'18',
'19',
'20'
],
'Tue' => [
'8',
'9',
'10',
'11',
'12',
'13',
'14',
'15',
'16',
'17',
'18',
'19',
'20'
],
'Wed' => [
'8',
'9',
'10',
'11',
'12',
'13',
'14',
'15',
'16',
'17',
'18',
'19',
'20'
]
];
```

## 2.27. Core::Time::Calendar7

### 2.27.1. TimeZone::Calendar7Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar7
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar7Name'} = 'Calendar Name 7';</code>

### 2.27.2. TimeZone::Calendar7

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar7
Valid:	1



Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar7'} = '0';</code>

### 2.27.3. CalendarWeekDayStart::Calendar7

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar7
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar7'} = '1';</code>

### 2.27.4. TimeVacationDays::Calendar7

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar7
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar7'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } };</pre>

### 2.27.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar7

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar7
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar7'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } };</pre>

## 2.27.6. TimeWorkingHours::Calendar7

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar7
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar7'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Sat' =&gt; [],   'Sun' =&gt; [],   'Thu' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Tue' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',   ] } </pre>

```

    '19',
    '20'
  ],
  'Wed' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ]
};

```

## 2.28. Core::Time::Calendar8

### 2.28.1. TimeZone::Calendar8Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar8
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar8Name'} = 'Calendar Name 8';</code>

### 2.28.2. TimeZone::Calendar8

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar8
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar8'} = '0';</code>

### 2.28.3. CalendarWeekDayStart::Calendar8

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar8
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar8'} = '1';</code>

### 2.28.4. TimeVacationDays::Calendar8

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar8
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar8'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } }</pre>

### 2.28.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar8

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar8
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar8'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } }</pre>

### 2.28.6. TimeWorkingHours::Calendar8

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar8
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar8'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [</pre>

```

'8',
'9',
'10',
'11',
'12',
'13',
'14',
'15',
'16',
'17',
'18',
'19',
'20'
],
'Sat' => [],
'Sun' => [],
'Thu' => [
'8',
'9',
'10',
'11',
'12',
'13',
'14',
'15',
'16',
'17',
'18',
'19',
'20'
],
'Tue' => [
'8',
'9',
'10',
'11',
'12',
'13',
'14',
'15',
'16',
'17',
'18',
'19',
'20'
],
'Wed' => [
'8',
'9',
'10',
'11',
'12',
'13',
'14',
'15',
'16',
'17',
'18',
'19',
'20'
]
]
};

```

## 2.29. Core::Time::Calendar9

### 2.29.1. TimeZone::Calendar9Name

Description:	Defines the name of the indicated calendar.
Group:	Framework

SubGroup:	Core::Time::Calendar9
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar9Name'} = 'Calendar Name 9';</code>

### 2.29.2. TimeZone::Calendar9

Description:	Defines the time zone of the indicated calendar, which can be assigned later to a specific queue.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar9
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TimeZone::Calendar9'} = '0';</code>

### 2.29.3. CalendarWeekDayStart::Calendar9

Description:	Define the start day of the week for the date picker for the indicated calendar.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar9
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CalendarWeekDayStart::Calendar9'} = '1';</code>

### 2.29.4. TimeVacationDays::Calendar9

Description:	Adds the permanent vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar9
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDays::Calendar9'} = {   '1' =&gt; {     '1' =&gt; 'New Year\'s Day'   },   '12' =&gt; {     '24' =&gt; 'Christmas Eve',     '25' =&gt; 'First Christmas Day',     '26' =&gt; 'Second Christmas Day',     '31' =&gt; 'New Year\'s Eve'   },   '5' =&gt; {     '1' =&gt; 'International Workers\' Day'   } };</pre>

### 2.29.5. TimeVacationDaysOneTime::Calendar9

Description:	Adds the one time vacation days for the indicated calendar. Please use single digit pattern for numbers from 1 to 9 (instead of 01 - 09).
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar9
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeVacationDaysOneTime::Calendar9'} = {   '2004' =&gt; {     '1' =&gt; {       '1' =&gt; 'test'     }   } };</pre>

## 2.29.6. TimeWorkingHours::Calendar9

Description:	Defines the hours and week days of the indicated calendar, to count the working time.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Time::Calendar9
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TimeWorkingHours::Calendar9'} = {   'Fri' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Mon' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',     '18',     '19',     '20'   ],   'Sat' =&gt; [],   'Sun' =&gt; [],   'Thu' =&gt; [     '8',     '9',     '10',     '11',     '12',     '13',     '14',     '15',     '16',     '17',</pre>

```

    '18',
    '19',
    '20'
  ],
  'Tue' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ],
  'Wed' => [
    '8',
    '9',
    '10',
    '11',
    '12',
    '13',
    '14',
    '15',
    '16',
    '17',
    '18',
    '19',
    '20'
  ]
]
};

```

## 2.30. Core::Web

### 2.30.1. Frontend::WebPath

Description:	Defines the URL base path of icons, CSS and Java Script.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::WebPath'} = '/otrs-web/';</code>

### 2.30.2. Frontend::ImagePath

Description:	Defines the URL image path of icons for navigation.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::ImagePath'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Frontend::WebPath&gt;skins/Agent/default/img/';</code>

### 2.30.3. Frontend::CSSPath

Description:	Defines the URL CSS path.
--------------	---------------------------



Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CSSPath'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Frontend::WebPath&gt;css/';</code>

### 2.30.4. Frontend::JavaScriptPath

Description:	Defines the URL java script path.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::JavaScriptPath'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Frontend::WebPath&gt;js/';</code>

### 2.30.5. Frontend::RichText

Description:	Uses richtext for viewing and editing: articles, salutations, signatures, standard templates, auto responses and notifications.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::RichText'} = '1';</code>

### 2.30.6. Frontend::RichTextPath

Description:	Defines the URL rich text editor path.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::RichTextPath'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Frontend::WebPath&gt;js/thirdparty/ckeditor-4.4.8/';</code>

### 2.30.7. Frontend::RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::RichTextWidth'} = '620';</code>
-----------------	--

## 2.30.8. Frontend::RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::RichTextHeight'} = '320';</code>

## 2.30.9. Frontend::RichText::DefaultCSS

Description:	Defines the default CSS used in rich text editors.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::RichText::DefaultCSS'} = 'font-family:Geneva,Helvetica,Arial,sans-serif; font-size: 12px;';</code>

## 2.30.10. Frontend::RichText::EnhancedMode

Description:	Defines if the enhanced mode should be used (enables use of table, replace, subscript, superscript, paste from word, etc.).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::RichText::EnhancedMode'} = '0';</code>

## 2.30.11. DisableMSIFrameSecurityRestricted

Description:	Disable restricted security for IFrames in IE. May be required for SSO to work in IE.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DisableMSIFrameSecurityRestricted'} = '0';</code>

## 2.30.12. DisableIFrameOriginRestricted

Description:	Disable HTTP header "X-Frame-Options: SAMEORIGIN" to allow OTRS to be included as an IFrame in other websites. Disabling this
--------------	---

	HTTP header can be a security issue! Only disable it, if you know what you are doing!
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DisableIFrameOriginRestricted'} = '0';</code>

### 2.30.13. DisableContentSecurityPolicy

Description:	Disable HTTP header "Content-Security-Policy" to allow loading of external script contents. Disabling this HTTP header can be a security issue! Only disable it, if you know what you are doing!
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DisableContentSecurityPolicy'} = '0';</code>

### 2.30.14. DefaultViewNewLine

Description:	Automated line break in text messages after x number of chars.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DefaultViewNewLine'} = '90';</code>

### 2.30.15. DefaultViewLines

Description:	Sets the number of lines that are displayed in text messages (e.g. ticket lines in the QueueZoom).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DefaultViewLines'} = '6000';</code>

### 2.30.16. Frontend::AnimationEnabled

Description:	Turns on the animations used in the GUI. If you have problems with these animations (e.g. performance issues), you can turn them off here.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::AnimationEnabled'} = '1';</code>

### 2.30.17. Frontend::MenuDragDropEnabled

Description:	Turns on drag and drop for the main navigation.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::MenuDragDropEnabled'} = '1';</code>

### 2.30.18. AttachmentDownloadType

Description:	Allows choosing between showing the attachments of a ticket in the browser (inline) or just make them downloadable (attachment).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AttachmentDownloadType'} = 'attachment';</code>

### 2.30.19. WebMaxFileUpload

Description:	Defines the maximal size (in bytes) for file uploads via the browser. Warning: Setting this option to a value which is too low could cause many masks in your OTRS instance to stop working (probably any mask which takes input from the user).
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'WebMaxFileUpload'} = '24000000';</code>

### 2.30.20. WebUploadCacheModule

Description:	Selects the module to handle uploads via the web interface. "DB" stores all uploads in the database, "FS" uses the file system.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'WebUploadCacheModule'} = 'Kernel::System::Web::UploadCache::DB';</code>

## 2.30.21. Frontend::Output::FilterText###AAAURL

Description:	Defines the filter that processes the text in the articles, in order to highlight URLs.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Output::FilterText'}-&gt;{'AAAURL'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::OutputFilterTextURL',   'Templates' =&gt; {     'AgentTicketZoom' =&gt; '1'   } };</pre>

## 2.30.22. Frontend::Themes

Description:	Activates the available themes on the system. Value 1 means active, 0 means inactive.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Themes'} = {   'Lite' =&gt; '0',   'Standard' =&gt; '1' };</pre>

## 2.30.23. Frontend::Output::FilterText###OutputFilterTextAutoLink

Description:	Defines a filter to process the text in the articles, in order to highlight predefined keywords.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Output::FilterText'}-&gt;{'OutputFilterTextAutoLink'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::OutputFilterTextAutoLink',   'Templates' =&gt; {     'AgentTicketZoom' =&gt; '1'   } };</pre>

## 2.30.24. Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink###CVE

Description:	Defines a filter for html output to add links behind CVE numbers. The element Image allows two input kinds. At once the name of
--------------	---

	an image (e.g. faq.png). In this case the OTRS image path will be used. The second possibility is to insert the link to the image.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink'}-&gt;{'CVE'} = {   'RegExp' =&gt; [     '(CVE CAN)\{3,4}\{2,}'   ],   'Templates' =&gt; {     'AgentTicketZoom' =&gt; '1'   },   'URL1' =&gt; {     'Description' =&gt; 'Mitre',     'Image' =&gt; 'http://cve.mitre.org/favicon.ico',     'Target' =&gt; '_blank',     'URL' =&gt; 'http://cve.mitre.org/cgi-bin/cvename.cgi?name=&lt;MATCH1&gt;-&lt;MATCH2&gt;-&lt;MATCH3&gt;'   },   'URL2' =&gt; {     'Description' =&gt; 'Google',     'Image' =&gt; 'http://www.google.de/favicon.ico',     'Target' =&gt; '_blank',     'URL' =&gt; 'http://google.com/search?q=&lt;MATCH1&gt;-&lt;MATCH2&gt;-&lt;MATCH3&gt;'   },   'URL3' =&gt; {     'Description' =&gt; 'US-CERT NVD',     'Image' =&gt; 'http://nvd.nist.gov/favicon.ico',     'Target' =&gt; '_blank',     'URL' =&gt; 'http://nvd.nist.gov/nvd.cfm?cvename=&lt;MATCH1&gt;-&lt;MATCH2&gt;-&lt;MATCH3&gt;'   } }; </pre>

## 2.30.25. Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink###Bugtraq

Description:	Defines a filter for html output to add links behind bugtraq numbers. The element Image allows two input kinds. At once the name of an image (e.g. faq.png). In this case the OTRS image path will be used. The second possibility is to insert the link to the image.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink'}-&gt;{'Bugtraq'} = {   'RegExp' =&gt; [     'Bugtraq[\s\\w\\t]*?ID[\s\\w\\t]*?:[\s\\w\\t]*?(\\d{2,8})',     'Bugtraq[\s\\w\\t]*?ID[\s\\w\\t]*?(\\d{2,8})',     'Bugtraq[\s\\w\\t]*?:[\s\\w\\t]*?(\\d{2,8})',     'Bugtraq[\s\\w\\t]*?(\\d{2,8})',     'BID[\s\\w\\t]*?:[\s\\w\\t]*?(\\d{2,8})',     'BID[\s\\w\\t]*?(\\d{2,8})'   ],   'Templates' =&gt; {     'AgentTicketZoom' =&gt; '1'   },   'URL1' =&gt; {     'Description' =&gt; 'Security Focus',     'Image' =&gt; 'http://www.securityfocus.com/favicon.', </pre>

```
'Target' => '_blank',
'URL' => 'http://www.securityfocus.com/bid/<MATCH1>/info'
},
'URL2' => {
'Description' => 'Google',
'Image' => 'http://www.google.de/favicon.ico',
'Target' => '_blank',
'URL' => 'http://google.com/search?q=<MATCH>'
}
};
```

## 2.30.26. Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink###MSBulletins

Description:	Defines a filter for html output to add links behind MSBulletin numbers. The element Image allows two input kinds. At once the name of an image (e.g. faq.png). In this case the OTRS image path will be used. The second possibility is to insert the link to the image.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink'}-&gt;{'MSBulletins'} = { 'RegExp' =&gt; [ 'MS[^A-Za-z]{0,5}(\\d\\d)?.?(\\d{2,4})' ], 'Templates' =&gt; { 'AgentTicketZoom' =&gt; '1' }, 'URL1' =&gt; { 'Description' =&gt; 'Microsoft Technet', 'Image' =&gt; 'http://www.microsoft.com/favicon.ico', 'Target' =&gt; '_blank', 'URL' =&gt; 'http://www.microsoft.com/technet/security/bulletin/MS&lt;MATCH1&gt;-&lt;MATCH2&gt;.mspx' }, 'URL2' =&gt; { 'Description' =&gt; 'Google', 'Image' =&gt; 'http://www.google.de/favicon.ico', 'Target' =&gt; '_blank', 'URL' =&gt; 'http://google.com/search?q=MS&lt;MATCH1&gt;-&lt;MATCH2&gt;' } } };</pre>

## 2.30.27. Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink###Setting1

Description:	Define a filter for html output to add links behind a defined string. The element Image allows two input kinds. At once the name of an image (e.g. faq.png). In this case the OTRS image path will be used. The second possibility is to insert the link to the image.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink'}-&gt;{'Setting1'} = { 'RegExp' =&gt; [</pre>

```

    'RegExp'
  ],
  'Templates' => {
    'AgentTicketZoom' => '1'
  },
  'URL1' => {
    'Description' => 'Description',
    'Image' => 'right-small.png',
    'Target' => '_blank',
    'URL' => 'URL'
  },
  'URL2' => {
    'Description' => 'Description',
    'Image' => 'Image',
    'Target' => '_blank',
    'URL' => 'URL'
  }
};

```

## 2.30.28. Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink###Setting2

Description:	Defines a filter for html output to add links behind a defined string. The element Image allows two input kinds. At once the name of an image (e.g. faq.png). In this case the OTRS image path will be used. The second possibility is to insert the link to the image.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Output::OutputFilterTextAutoLink'}-&gt;{'Setting2'} = {   'RegExp' =&gt; [     'RegExp'   ],   'Templates' =&gt; {     'AgentTicketZoom' =&gt; '1'   },   'URL1' =&gt; {     'Description' =&gt; 'Description',     'Image' =&gt; 'right-small.png',     'Target' =&gt; '_blank',     'URL' =&gt; 'URL'   },   'URL2' =&gt; {     'Description' =&gt; 'Description',     'Image' =&gt; 'Image',     'Target' =&gt; '_blank',     'URL' =&gt; 'URL'   },   'URL3' =&gt; {     'Description' =&gt; 'Description',     'Image' =&gt; 'Image',     'Target' =&gt; '_blank',     'URL' =&gt; 'URL'   } }; </pre>

## 2.30.29. Loader::Enabled::CSS

Description:	If enabled, OTRS will deliver all CSS files in minified form. WARNING: If you turn this off, there will likely be problems in IE 7, because it cannot load more than 32 CSS files.
--------------	--



Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Enabled::CSS'} = '1';</code>

### 2.30.30. Loader::Enabled::JS

Description:	If enabled, OTRS will deliver all JavaScript files in minified form.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Enabled::JS'} = '1';</code>

### 2.30.31. Loader::Agent::CommonCSS###000-Framework

Description:	List of CSS files to always be loaded for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::CommonCSS'}-&gt;{'000-Framework'} = [     'Core.Reset.css',     'Core.Default.css',     'Core.Header.css',     'Core.OverviewControl.css',     'Core.OverviewSmall.css',     'Core.OverviewMedium.css',     'Core.OverviewLarge.css',     'Core.Footer.css',     'Core.PageLayout.css',     'Core.Form.css',     'Core.Table.css',     'Core.Widget.css',     'Core.WidgetMenu.css',     'Core.TicketDetail.css',     'Core.Tooltip.css',     'Core.Dialog.css',     'Core.Print.css',     'thirdparty/fontawesome/font-awesome.css'   ];</code>

### 2.30.32. Loader::Agent::CommonCSS::IE8###000-Framework

Description:	List of IE8-specific CSS files to always be loaded for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::CommonCSS::IE8'}-&gt;{'000-Framework'} = [ 'Core.OverviewSmall.IE8.css' ];</code>

### 2.30.33. Loader::Agent::CommonJS###000-Framework

Description:	List of JS files to always be loaded for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::CommonJS'}-&gt;{'000-Framework'} = [ 'thirdparty/jquery-1.11.1/jquery.js', 'thirdparty/jquery-browser-detection/jquery-browser-detection.js', 'thirdparty/jquery-ui-1.11.1/jquery-ui.js', 'thirdparty/jquery-validate-1.13.0/jquery.validate.js', 'thirdparty/stacktrace-0.6.2/stacktrace.js', 'thirdparty/jquery-pubsub/pubsub.js', 'thirdparty/jquery-jstree-v.pre1.0/jquery.jstree.js', 'thirdparty/jquery-jstree-v.pre1.0/_lib/jquery.hotkeys.js', 'Core.JavaScriptEnhancements.js', 'Core.Debug.js', 'Core.Data.js', 'Core.Config.js', 'Core.Exception.js', 'Core.JSON.js', 'Core.App.js', 'Core.AJAX.js', 'Core.UI.js', 'Core.UI.Accordion.js', 'Core.UI.Datepicker.js', 'Core.UI.DnD.js', 'Core.UI.Resizable.js', 'Core.UI.Table.js', 'Core.UI.Accessibility.js', 'Core.UI.RichTextEditor.js', 'Core.UI.Dialog.js', 'Core.UI.ActionRow.js', 'Core.UI.Popup.js', 'Core.UI.TreeSelection.js', 'Core.UI.Autocomplete.js', 'Core.Form.js', 'Core.Form.ErrorTooltips.js', 'Core.Form.Validate.js', 'Core.Agent.js', 'Core.Agent.Search.js', 'Core.Agent.CustomerInformationCenterSearch.js' ];</code>

### 2.30.34. Loader::Agent::CommonJS###001-JQueryMigrate

Description:	List of JS files to always be loaded for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::CommonJS'}-&gt;{'001-JQueryMigrate'} = [ 'thirdparty/jquery-migrate-1.2.1/jquery-migrate.js' ];</code>

```
];
```

### 2.30.35. Loader::Customer::CommonCSS###000-Framework

Description:	List of CSS files to always be loaded for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Customer::CommonCSS'}-&gt;{'000-Framework'} = [   'Core.Reset.css',   'Core.Default.css',   'Core.Form.css',   'Core.Dialog.css',   'Core.Tooltip.css',   'Core.Login.css',   'Core.Control.css',   'Core.Table.css',   'Core.TicketZoom.css',   'Core.Print.css',   'thirdparty/fontawesome/font-awesome.css' ];</pre>

### 2.30.36. Loader::Customer::CommonCSS::IE8###000-Framework

Description:	List of IE8-specific CSS files to always be loaded for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Customer::CommonCSS::IE8'}-&gt;{'000-Framework'} = [];</pre>

### 2.30.37. Loader::Customer::CommonJS###000-Framework

Description:	List of JS files to always be loaded for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Customer::CommonJS'}-&gt;{'000-Framework'} = [   'thirdparty/jquery-1.11.1/jquery.js',   'thirdparty/jquery-browser-detection/jquery-browser-detection.js',   'thirdparty/jquery-validate-1.13.0/jquery.validate.js',   'thirdparty/jquery-ui-1.11.1/jquery-ui.js',   'thirdparty/stacktrace-0.6.2/stacktrace.js',   'thirdparty/jquery-pubsub/pubsub.js',   'thirdparty/jquery-jstree-v.pre1.0/jquery.jstree.js',   'thirdparty/jquery-jstree-v.pre1.0/_lib/jquery.hotkeys.js', ];</pre>

	<pre>'Core.Debug.js', 'Core.Data.js', 'Core.Exception.js', 'Core.JSON.js', 'Core.JavaScriptEnhancements.js', 'Core.Config.js', 'Core.App.js', 'Core.AJAX.js', 'Core.UI.js', 'Core.UI.Accessibility.js', 'Core.UI.Dialog.js', 'Core.UI.RichTextEditor.js', 'Core.UI.Datepicker.js', 'Core.UI.Popup.js', 'Core.UI.TreeSelection.js', 'Core.UI.Autocomplete.js', 'Core.Form.js', 'Core.Form.ErrorTooltips.js', 'Core.Form.Validate.js', 'Core.Customer.js' ];</pre>
--	--

### 2.30.38. Loader::Customer::CommonJS###001-JQueryMigrate

Description:	List of JS files to always be loaded for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Customer::CommonJS'}-&gt;{'001-JQueryMigrate'} = [ 'thirdparty/jquery-migrate-1.2.1/jquery-migrate.js' ];</code>

### 2.30.39. Loader::Agent::DefaultSelectedSkin

Description:	The agent skin's InternalName which should be used in the agent interface. Please check the available skins in Frontend::Agent::Skins.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::DefaultSelectedSkin'} = 'default';</code>

### 2.30.40. Loader::Customer::SelectedSkin::HostBased

Description:	It is possible to configure different skins, for example to distinguish between different customers, to be used on a per-domain basis within the application. Using a regular expression (regex), you can configure a Key/Content pair to match a domain. The value in "Key" should match the domain, and the value in "Content" should be a valid skin on your system. Please see the example entries for the proper form of the regex.
Group:	Framework

SubGroup:	Core::Web
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Customer::SelectedSkin::HostBased'} = {   'host1\\.example\\.com' =&gt; 'Someskin1',   'host2\\.example\\.com' =&gt; 'Someskin2' };</pre>

## 2.31. Core::WebUserAgent

### 2.31.1. WebUserAgent::Timeout

Description:	Sets the timeout (in seconds) for http/ftp downloads.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::WebUserAgent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'WebUserAgent::Timeout'} = '15';</pre>

### 2.31.2. WebUserAgent::Proxy

Description:	Defines the connections for http/ftp, via a proxy.
Group:	Framework
SubGroup:	Core::WebUserAgent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'WebUserAgent::Proxy'} = 'http://proxy.sn.no:8001/';</pre>

### 2.31.3. WebUserAgent::DisableSSLVerification

Description:	Turns off SSL certificate validation, for example if you use a transparent HTTPS proxy. Use at your own risk!
Group:	Framework
SubGroup:	Core::WebUserAgent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'WebUserAgent::DisableSSLVerification'} = '0';</pre>

## 2.32. Crypt::PGP

### 2.32.1. PGP

Description:	Enables PGP support. When PGP support is enabled for signing and encrypting mail, it is HIGHLY recommended that the web server runs as the OTRS user. Otherwise, there will be problems with the privileges when accessing .gnupg folder.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::PGP
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PGP'} = '0';</code>

### 2.32.2. PGP::Bin

Description:	Defines the path to PGP binary.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::PGP
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PGP::Bin'} = '/usr/bin/gpg';</code>

### 2.32.3. PGP::Options

Description:	Sets the options for PGP binary.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::PGP
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PGP::Options'} = '--homedir /opt/otrs/.gnupg/ --batch --no-tty --yes';</code>

### 2.32.4. PGP::Key::Password

Description:	Sets the password for private PGP key.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::PGP
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PGP::Key::Password'} = {  '488A0B8F' =&gt; 'SomePassword',  'D2DF79FA' =&gt; 'SomePassword'  };</code>

### 2.32.5. PGP::TrustedNetwork

Description:	Set this to yes if you trust in all your public and private pgp keys, even if they are not certified with a trusted signature.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::PGP
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PGP::TrustedNetwork'} = '0';</code>
-----------------	--

## 2.32.6. PGP::Log

Description:	Configure your own log text for PGP.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::PGP
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PGP::Log'} = {   'BADSIG' =&gt; 'The PGP signature with the keyid has not been verified successfully.',   'ERRSIG' =&gt; 'It was not possible to check the PGP signature, this may be caused by a missing public key or an unsupported algorithm.',   'EXPKEYSIG' =&gt; 'The PGP signature was made by an expired key.',   'GOODSIG' =&gt; 'Good PGP signature.',   'KEYREVOKED' =&gt; 'The PGP signature was made by a revoked key, this could mean that the signature is forged.',   'NODATA' =&gt; 'No valid OpenPGP data found.',   'NO_PUBKEY' =&gt; 'No public key found.',   'REVKEYSIG' =&gt; 'The PGP signature was made by a revoked key, this could mean that the signature is forged.',   'SIGEXPIRED' =&gt; 'The PGP signature is expired.',   'SIG_ID' =&gt; 'Signature data.',   'TRUST_UNDEFINED' =&gt; 'This key is not certified with a trusted signature!.',   'VALIDSIG' =&gt; 'The PGP signature with the keyid is good.' }; </pre>

## 2.32.7. PGP::StoreDecryptedData

Description:	If this option is disabled, articles will not automatically be decrypted and stored in the database. Please note that this also means no decryption will take place and the articles will be shown in ticket zoom in their original (encrypted) form.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::PGP
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PGP::StoreDecryptedData'} = '1';</code>

## 2.33. Crypt::SMIME

### 2.33.1. SMIME

Description:	Enables S/MIME support.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::SMIME
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SMIME'} = '0';</code>

### 2.33.2. SMIME::Bin

Description:	Defines the path to open ssl binary. It may need a HOME env (\$ENV{HOME} = '/var/lib/wwwrun');
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::SMIME
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SMIME::Bin'} = '/usr/bin/openssl';</code>

### 2.33.3. SMIME::CertPath

Description:	Specifies the directory where SSL certificates are stored.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::SMIME
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SMIME::CertPath'} = '/etc/ssl/certs';</code>

### 2.33.4. SMIME::PrivatePath

Description:	Specifies the directory where private SSL certificates are stored.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::SMIME
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SMIME::PrivatePath'} = '/etc/ssl/private';</code>

### 2.33.5. SMIME::CacheTTL

Description:	Cache time in seconds for the SSL certificate attributes.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::SMIME
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SMIME::CacheTTL'} = '86400';</code>

### 2.33.6. SMIME::StoreDecryptedData

Description:	If this option is disabled, articles will not automatically be decrypted and stored in the database. Please note that this also means no decryption will take place and the articles will be shown in ticket zoom in their original (encrypted) form.
Group:	Framework
SubGroup:	Crypt::SMIME



Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SMIME::StoreDecryptedData'} = '1';</code>

## 2.34. CustomerInformationCenter

### 2.34.1.

#### AgentCustomerInformationCenter::MainMenu###010-EditCustomerID

Description:	Main menu registration.
Group:	Framework
SubGroup:	CustomerInformationCenter
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::MainMenu'}-&gt;{'010-EditCustomerID'} = {        'Link' =&gt; "[% Env("Baselink")        %]Action=AdminCustomerCompany;Subaction=Change;CustomerID=[%        Data.CustomerID   uri %];Nav=0",        'Name' =&gt; 'Edit customer company'      };</code>

## 2.35. Frontend::Admin

### 2.35.1. Events###Package

Description:	List of all Package events to be displayed in the GUI.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Events'}-&gt;{'Package'} = [        'PackageInstall',        'PackageReinstall',        'PackageUpgrade',        'PackageUninstall'      ];</code>

### 2.35.2. Events###DynamicField

Description:	List of all DynamicField events to be displayed in the GUI.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Events'}-&gt;{'DynamicField'} = [        'DynamicFieldAdd',        'DynamicFieldUpdate',        'DynamicFieldDelete'      ];</code>

	];
--	----

### 2.35.3. Events###CustomerUser

Description:	List of all CustomerUser events to be displayed in the GUI.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Events'}-&gt;{'CustomerUser'} = [   'CustomerUserAdd',   'CustomerUserUpdate' ];</pre>

### 2.35.4. Events###CustomerCompany

Description:	List of all CustomerCompany events to be displayed in the GUI.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Events'}-&gt;{'CustomerCompany'} = [   'CustomerCompanyAdd',   'CustomerCompanyUpdate' ];</pre>

## 2.36. Frontend::Admin::AdminCustomerCompany

### 2.36.1. AdminCustomerCompany::RunInitialWildcardSearch

Description:	Runs an initial wildcard search of the existing customer company when accessing the AdminCustomerCompany module.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::AdminCustomerCompany
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AdminCustomerCompany::RunInitialWildcardSearch'} = '1';</pre>

## 2.37. Frontend::Admin::AdminCustomerUser

### 2.37.1. AdminCustomerUser::RunInitialWildcardSearch

Description:	Runs an initial wildcard search of the existing customer users when accessing the AdminCustomerUser module.
Group:	Framework

SubGroup:	Frontend::Admin::AdminCustomerUser
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AdminCustomerUser::RunInitialWildcardSearch'} = '1';</code>

## 2.38. Frontend::Admin::AdminSelectBox

### 2.38.1. AdminSelectBox::AllowDatabaseModification

Description:	Controls if the admin is allowed to make changes to the database via AdminSelectBox.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::AdminSelectBox
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AdminSelectBox::AllowDatabaseModification'} = '0';</code>

## 2.39. Frontend::Admin::ModuleRegistration

### 2.39.1. Frontend::Module###Admin

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'Admin'} = {   'Description' =&gt; 'Admin-Area',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.SysConfig.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'a',       'Block' =&gt; 'ItemArea',       'Description' =&gt; '',       'Link' =&gt; 'Action=Admin',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Admin',       'NavBar' =&gt; 'Admin',       'Prio' =&gt; '10000',       'Type' =&gt; 'Menu'     }   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin', </pre>

	<pre>'Title' =&gt; '' };</pre>
--	--------------------------------

## 2.39.2. Frontend::Module###AdminInit

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminInit'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Init' };</pre>

## 2.39.3. Frontend::Module###AdminUser

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminUser'} = {   'Description' =&gt; 'Create and manage agents.',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Agent',     'Description' =&gt; 'Create and manage agents.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Agents',     'Prio' =&gt; '100'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Agents' };</pre>

## 2.39.4. Frontend::Module###AdminGroup

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminGroup'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Agent',</pre>

	<pre>'Description' =&gt; 'Create and manage groups.', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin', 'Name' =&gt; 'Groups', 'Prio' =&gt; '150' }, 'NavBarName' =&gt; 'Admin', 'Title' =&gt; 'Groups' };</pre>
--	--

### 2.39.5. Frontend::Module###AdminUserGroup

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminUserGroup'} = { 'Description' =&gt; 'Admin', 'Group' =&gt; [ 'admin' ], 'NavBarModule' =&gt; { 'Block' =&gt; 'Agent', 'Description' =&gt; 'Link agents to groups.', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin', 'Name' =&gt; 'Agents &lt;-&gt; Groups', 'Prio' =&gt; '200' }, 'NavBarName' =&gt; 'Admin', 'Title' =&gt; 'Agents &lt;-&gt; Groups' };</pre>

### 2.39.6. Frontend::Module###AdminCustomerUser

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminCustomerUser'} = { 'Description' =&gt; 'Edit Customer Users', 'Group' =&gt; [ 'admin', 'users' ], 'GroupRo' =&gt; [ '' ], 'Loader' =&gt; { 'JavaScript' =&gt; [ 'Core.Agent.TicketAction.js' ] }, 'NavBar' =&gt; [ { 'AccessKey' =&gt; '', 'Block' =&gt; 'ItemArea', 'Description' =&gt; '', 'Link' =&gt; 'Action=AdminCustomerUser;Nav=Agent', 'LinkOption' =&gt; '', 'Name' =&gt; 'Customer User Administration', 'NavBar' =&gt; 'Customers',</pre>

```

    'Prio' => '9000',
    'Type' => ''
  }
},
'NavBarModule' => {
  'Block' => 'Customer',
  'Description' => 'Create and manage customer users.',
  'Module' => 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',
  'Name' => 'Customer User',
  'Prio' => '300'
},
'NavBarName' => 'Customers',
'Title' => 'Customer Users'
};

```

### 2.39.7. Frontend::Module###AdminCustomerCompany

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminCustomerCompany'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin',     'users'   ],   'GroupRo' =&gt; [     ''   ],   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; '',       'Block' =&gt; 'ItemArea',       'Description' =&gt; '',       'Link' =&gt; 'Action=AdminCustomerCompany;Nav=Agent',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Customer Administration',       'NavBar' =&gt; 'Customers',       'Prio' =&gt; '9100',       'Type' =&gt; ''     }   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Customer',     'Description' =&gt; 'Create and manage customers.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Customers',     'Prio' =&gt; '310'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Customer Companies' }; </pre>

### 2.39.8. Frontend::Module###AdminCustomerUserGroup

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminCustomerUserGroup'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Customer',     'Description' =&gt; 'Link customer user to groups.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Customer User &lt;-&gt; Groups',     'Prio' =&gt; '400'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Customers &lt;-&gt; Groups' }; </pre>

### 2.39.9. Frontend::Module###AdminCustomerUserService

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminCustomerUserService'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Customer',     'Description' =&gt; 'Link customer user to services.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Customer User &lt;-&gt; Services',     'Prio' =&gt; '500'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Customer User &lt;-&gt; Services' }; </pre>

### 2.39.10. Frontend::Module###AdminRole

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminRole'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Agent',     'Description' =&gt; 'Create and manage roles.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Roles',     'Prio' =&gt; '600'   }, }; </pre>

```
'NavBarName' => 'Admin',
'Title' => 'Roles'
};
```

### 2.39.11. Frontend::Module###AdminRoleUser

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminRoleUser'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Agent',     'Description' =&gt; 'Link agents to roles.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Agents &lt;-&gt; Roles',     'Prio' =&gt; '700'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Agents &lt;-&gt; Roles' };</pre>

### 2.39.12. Frontend::Module###AdminRoleGroup

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminRoleGroup'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Agent',     'Description' =&gt; 'Link roles to groups.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Roles &lt;-&gt; Groups',     'Prio' =&gt; '800'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Roles &lt;-&gt; Groups' };</pre>

### 2.39.13. Frontend::Module###AdminSMIME

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0



Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSMIME'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Email',     'Description' =&gt; 'Manage S/MIME certificates for email encryption.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'S/MIME Certificates',     'Prio' =&gt; '1100'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'S/MIME Management' }; </pre>
-----------------	---

### 2.39.14. Frontend::Module###AdminPGP

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminPGP'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Email',     'Description' =&gt; 'Manage PGP keys for email encryption.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'PGP Keys',     'Prio' =&gt; '1200'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'PGP Key Management' }; </pre>

### 2.39.15. Frontend::Module###AdminMailAccount

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminMailAccount'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Email',     'Description' =&gt; 'Manage POP3 or IMAP accounts to fetch email from.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'PostMaster Mail Accounts',     'Prio' =&gt; '100'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin', }; </pre>

	<pre>'Title' =&gt; 'Mail Accounts' };</pre>
--	---

## 2.39.16. Frontend::Module###AdminPostMasterFilter

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminPostMasterFilter'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Email',     'Description' =&gt; 'Filter incoming emails.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'PostMaster Filters',     'Prio' =&gt; '200'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'PostMaster Filters' };</pre>

## 2.39.17. Frontend::Module###AdminEmail

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminEmail'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Send notifications to users.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Admin Notification',     'Prio' =&gt; '400'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Admin Notification' };</pre>

## 2.39.18. Frontend::Module###AdminSession

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSession'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Manage existing sessions.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Session Management',     'Prio' =&gt; '500'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Session Management' }; </pre>
-----------------	--

## 2.39.19. Frontend::Module###AdminPerformanceLog

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminPerformanceLog'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.PerformanceLog.css'     ]   },   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'View performance benchmark results.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Performance Log',     'Prio' =&gt; '550'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Performance Log' }; </pre>

## 2.39.20. Frontend::Module###AdminRegistration

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminRegistration'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.Registration.css'     ]   }, }; </pre>

	<pre>'NavBarModule' =&gt; {   'Block' =&gt; 'System',   'Description' =&gt; 'Manage system registration.',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',   'Name' =&gt; 'System Registration',   'Prio' =&gt; '350' }, 'NavBarName' =&gt; 'Admin', 'Title' =&gt; 'System Registration' };</pre>
--	---

### 2.39.21. Frontend::Module###AdminOTRSBusiness

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminOTRSBusiness'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.OTRSBusiness.css'     ]   },   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Deploy and manage OTRS Business Solution™.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'OTRS Business Solution™',     'Prio' =&gt; '360'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'OTRS Business Solution™' };</pre>

### 2.39.22. Frontend::Module###AdminServiceCenter

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminServiceCenter'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ServiceCenter.css'     ]   },   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Manage OTRS Group services.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Service Center',     'Prio' =&gt; '370'   } };</pre>

```

},
'NavBarName' => 'Admin',
'Title' => 'Service Center'
};

```

### 2.39.23. Frontend::Module###AdminLog

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminLog'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'View system log messages.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'System Log',     'Prio' =&gt; '600'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'System Log' }; </pre>

### 2.39.24. Frontend::Module###AdminSelectBox

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSelectBox'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Execute SQL statements.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'SQL Box',     'Prio' =&gt; '700'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'SQL Box' }; </pre>

### 2.39.25. Frontend::Module###AdminPackageManager

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminPackageManager'} = {   'Description' =&gt; 'Software Package Manager',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Update and extend your system with software packages.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Package Manager',     'Prio' =&gt; '1000'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Package Manager' };</pre>

## 2.39.26. Frontend::Module###AdminSystemMaintenance

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSystemMaintenance'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Schedule a maintenance period.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'System Maintenance',     'Prio' =&gt; '501'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'System Maintenance' };</pre>

## 2.40. Frontend::Agent

### 2.40.1. AgentLogo

Description:	The logo shown in the header of the agent interface. The URL to the image can be a relative URL to the skin image directory, or a full URL to a remote web server.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentLogo'} = {   'StyleHeight' =&gt; '55px',   'StyleRight' =&gt; '24px',   'StyleTop' =&gt; '25px',   'StyleWidth' =&gt; '300px',   'URL' =&gt; 'skins/Agent/default/img/logo_bg.png'</pre>

```
};
```

## 2.40.2. AgentLogoCustom###default

Description:	The logo shown in the header of the agent interface for the skin "default". See "AgentLogo" for further description.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentLogoCustom'}-&gt;{'default'} = {   'StyleHeight' =&gt; '55px',   'StyleRight' =&gt; '24px',   'StyleTop' =&gt; '25px',   'StyleWidth' =&gt; '300px',   'URL' =&gt; 'skins/Agent/default/img/logo_bg.png' };</pre>

## 2.40.3. AgentLogoCustom###slim

Description:	The logo shown in the header of the agent interface for the skin "slim". See "AgentLogo" for further description.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentLogoCustom'}-&gt;{'slim'} = {   'StyleHeight' =&gt; '45px',   'StyleRight' =&gt; '45px',   'StyleTop' =&gt; '10px',   'StyleWidth' =&gt; '220px',   'URL' =&gt; 'skins/Agent/default/img/logo_bg.png' };</pre>

## 2.40.4. AgentLogoCustom###ivory

Description:	The logo shown in the header of the agent interface for the skin "ivory". See "AgentLogo" for further description.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentLogoCustom'}-&gt;{'ivory'} = {   'StyleHeight' =&gt; '55px',   'StyleRight' =&gt; '24px',   'StyleTop' =&gt; '25px',   'StyleWidth' =&gt; '300px',   'URL' =&gt; 'skins/Agent/default/img/logo_bg.png' };</pre>

## 2.40.5. AgentLogoCustom###ivory-slim

Description:	The logo shown in the header of the agent interface for the skin "ivory-slim". See "AgentLogo" for further description.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentLogoCustom'}-&gt;{'ivory-slim'} = {   'StyleHeight' =&gt; '45px',   'StyleRight' =&gt; '45px',   'StyleTop' =&gt; '10px',   'StyleWidth' =&gt; '220px',   'URL' =&gt; 'skins/Agent/default/img/logo_bg.png' };</pre>

## 2.40.6. AgentLoginLogo

Description:	The logo shown on top of the login box of the agent interface. The URL to the image must be relative URL to the skin image directory.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentLoginLogo'} = {   'StyleHeight' =&gt; '100px',   'URL' =&gt; 'skins/Agent/default/img/loginlogo_default.png' };</pre>

## 2.40.7. LoginURL

Description:	Defines an alternate URL, where the login link refers to.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LoginURL'} = 'http://host.example.com/login.html';</pre>

## 2.40.8. LogoutURL

Description:	Defines an alternate URL, where the logout link refers to.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LogoutURL'} = 'http://host.example.com/thanks-for-using-otrs.html';</pre>

## 2.40.9. PreApplicationModule###AgentInfo

Description:	Defines a useful module to load specific user options or to display news.
--------------	---



Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PreApplicationModule'}-&gt;{'AgentInfo'} = 'Kernel::Modules::AgentInfo';</code>

## 2.40.10. InfoKey

Description:	Defines the key to be checked with Kernel::Modules::AgentInfo module. If this user preferences key is true, the message is accepted by the system.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'InfoKey'} = 'wpt22';</code>

## 2.40.11. InfoFile

Description:	File that is displayed in the Kernel::Modules::AgentInfo module, if located under Kernel/Output/HTML/Standard/AgentInfo.dtl.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'InfoFile'} = 'AgentInfo';</code>

## 2.40.12. LostPassword

Description:	Activates lost password feature for agents, in the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'LostPassword'} = '1';</code>

## 2.40.13. ShowMotd

Description:	Shows the message of the day on login screen of the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ShowMotd'} = '0';</code>
-----------------	---

## 2.40.14. NotificationSubjectLostPasswordToken

Description:	Defines the subject for notification mails sent to agents, with token about new requested password.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'NotificationSubjectLostPasswordToken'} = 'New OTRS password request';</code>

## 2.40.15. NotificationBodyLostPasswordToken

Description:	Defines the body text for notification mails sent to agents, with token about new requested password (after using this link the new password will be sent).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'NotificationBodyLostPasswordToken'} = 'Hi &lt;OTRS_USERFIRSTNAME&gt;,  You or someone impersonating you has requested to change your OTRS password.  If you want to do this, click on the link below. You will receive another email containing the password.  &lt;OTRS_CONFIG_HttpType&gt;://&lt;OTRS_CONFIG_FQDN&gt;/ &lt;OTRS_CONFIG_ScriptAlias&gt;index.pl? Action=LostPassword;Token=&lt;OTRS_TOKEN&gt;  If you did not request a new password, please ignore this email. '; </pre>

## 2.40.16. NotificationSubjectLostPassword

Description:	Defines the subject for notification mails sent to agents, about new password.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'NotificationSubjectLostPassword'} = 'New OTRS password';</code>

## 2.40.17. NotificationBodyLostPassword

Description:	Defines the body text for notification mails sent to agents, about new password (after using this link the new password will be sent).
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'NotificationBodyLostPassword'} = 'Hi &lt;OTRS_USERFIRSTNAME&gt;,  Here\'s your new OTRS password.  New password: &lt;OTRS_NEWPW&gt;  You can log in via the following URL:  &lt;OTRS_CONFIG_ContentType&gt;://&lt;OTRS_CONFIG_FQDN&gt;/ &lt;OTRS_CONFIG_ScriptAlias&gt;index.pl '; </pre>

## 2.40.18. OpenMainMenuOnHover

Description:	If enabled, the first level of the main menu opens on mouse hover (instead of click only).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'OpenMainMenuOnHover'} = '0'; </pre>

## 2.40.19. FirstnameLastnameOrder

Description:	Specifies the order in which the firstname and the lastname of agents will be displayed.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'FirstnameLastnameOrder'} = '0'; </pre>

## 2.40.20. Loader::Agent::Skin###000-default

Description:	Default skin for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Loader::Agent::Skin'}-&gt;{'000-default'} = {   'Description' =&gt; 'This is the default orange - black skin.',   'HomePage' =&gt; 'www.otrs.org',   'InternalName' =&gt; 'default',   'VisibleName' =&gt; 'Default' }; </pre>

## 2.40.21. Loader::Agent::Skin###001-slim

Description:	Default skin for the agent interface (slim version).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::Skin'}-&gt;{'001-slim'} = {   'Description' =&gt; "Slim" skin which tries to save screen space for power users.',   'HomePage' =&gt; 'www.otrs.org',   'InternalName' =&gt; 'slim',   'VisibleName' =&gt; 'Default (Slim)' };</pre>

## 2.40.22. Loader::Agent::Skin###001-ivory

Description:	Balanced white skin by Felix Niklas.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::Skin'}-&gt;{'001-ivory'} = {   'Description' =&gt; 'Balanced white skin by Felix Niklas.',   'HomePage' =&gt; 'www.felixniklas.de',   'InternalName' =&gt; 'ivory',   'VisibleName' =&gt; 'Ivory' };</pre>

## 2.40.23. Loader::Agent::Skin###001-ivory-slim

Description:	Balanced white skin by Felix Niklas (slim version).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::Skin'}-&gt;{'001-ivory-slim'} = {   'Description' =&gt; 'Balanced white skin by Felix Niklas (slim version).',   'HomePage' =&gt; 'www.felixniklas.de',   'InternalName' =&gt; 'ivory-slim',   'VisibleName' =&gt; 'Ivory (Slim)' };</pre>

## 2.40.24.

### Loader::Agent::DefaultSelectedSkin::HostBased

Description:	It is possible to configure different skins, for example to distinguish between different agents, to be used on a per-domain basis within the application. Using a regular expression (regex), you can configure a Key/Content pair to match a domain. The value in "Key" should match the domain, and the value in "Content" should be a
--------------	---

	valid skin on your system. Please see the example entries for the proper form of the regex.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::DefaultSelectedSkin::HostBased'} = {   'host1\\.example\\.com' =&gt; 'SomeSkin1',   'host2\\.example\\.com' =&gt; 'SomeSkin2' };</pre>

## 2.40.25. AutoComplete::Agent###Default

Description:	Defines the config options for the autocompletion feature.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AutoComplete::Agent'}-&gt;{'Default'} = {   'AutoCompleteActive' =&gt; '1',   'ButtonText' =&gt; 'Search',   'MaxResultsDisplayed' =&gt; '20',   'MinQueryLength' =&gt; '2',   'QueryDelay' =&gt; '100' };</pre>

## 2.40.26. AutoComplete::Agent###CustomerSearch

Description:	Defines the config options for the autocompletion feature.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AutoComplete::Agent'}-&gt;{'CustomerSearch'} = {   'AutoCompleteActive' =&gt; '1',   'ButtonText' =&gt; 'Search Customer',   'MaxResultsDisplayed' =&gt; '20',   'MinQueryLength' =&gt; '2',   'QueryDelay' =&gt; '100' };</pre>

## 2.40.27. AutoComplete::Agent###UserSearch

Description:	Defines the config options for the autocompletion feature.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AutoComplete::Agent'}-&gt;{'UserSearch'} = {   'AutoCompleteActive' =&gt; '1',   'ButtonText' =&gt; 'Search User',   'MaxResultsDisplayed' =&gt; '20', };</pre>

	<pre>'MinQueryLength' =&gt; '2', 'QueryDelay' =&gt; '100' };</pre>
--	--

## 2.40.28. PossibleNextActions

Description:	Defines the list of possible next actions on an error screen, a full path is required, then is possible to add external links if needed.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PossibleNextActions'} = {   'Go to dashboard!' =&gt; "[% Env(\ 'CGIHandle\ ' ) %]? Action=AgentDashboard' };</pre>

## 2.41. Frontend::Agent::Dashboard

### 2.41.1.

#### AgentCustomerInformationCenter::Backend###0600-CIC-CustomerCompanyInformation

Description:	Parameters for the dashboard backend of the customer company information of the agent interface . "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::Backend'}-&gt;{'0600-CIC- CustomerCompanyInformation'} = {   'Attributes' =&gt; '',   'Block' =&gt; 'ContentSmall',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; 'Customer Information',   'Group' =&gt; '',   'Module' =&gt;   'Kernel::Output::HTML::DashboardCustomerCompanyInformation',   'Title' =&gt; 'Customer Information' };</pre>

### 2.41.2. DashboardBackend###0000-ProductNotify

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" defines the cache expiration period in minutes for the plugin.
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0000-ProductNotify'} = {   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '1440',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; 'News about OTRS releases!',   'Group' =&gt; 'admin',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardProductNotify',   'Title' =&gt; 'Product News' };</pre>

### 2.41.3. DashboardBackend###0390-UserOutOfOffice

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Limit" defines the number of entries displayed by default. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" defines the cache expiration period in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0390-UserOutOfOffice'} = {   'Block' =&gt; 'ContentSmall',   'CacheTTLLocal' =&gt; '5',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; '',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '10',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardUserOutOfOffice',   'SortBy' =&gt; 'UserFullname',   'Title' =&gt; 'Out Of Office' };</pre>

### 2.41.4. DashboardBackend###0400-UserOnline

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Limit" defines the number of entries displayed by default. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" defines the cache expiration period in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0400-UserOnline'} = {   'Block' =&gt; 'ContentSmall',   'CacheTTLLocal' =&gt; '5',   'Default' =&gt; '0',   'Description' =&gt; '',   'Filter' =&gt; 'Agent', };</pre>

	<pre>'Group' =&gt; '', 'Limit' =&gt; '10', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardUserOnline', &gt;ShowEmail' =&gt; '0', 'SortBy' =&gt; 'UserFullname', 'Title' =&gt; 'Logged-In Users' };</pre>
--	--

## 2.41.5. DashboardBackend###0405-News

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Limit" defines the number of entries displayed by default. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTL" indicates the cache expiration period in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0405-News'} = { 'Block' =&gt; 'ContentSmall', 'CacheTTL' =&gt; '360', 'Default' =&gt; '1', 'Description' =&gt; '', 'Group' =&gt; '', 'Limit' =&gt; '6', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardNews', 'Title' =&gt; 'OTRS News' };</pre>

## 2.41.6. DashboardBackend###0410-RSS

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Limit" defines the number of entries displayed by default. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTL" indicates the cache expiration period in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0410-RSS'} = { 'Block' =&gt; 'ContentSmall', 'CacheTTL' =&gt; '360', 'Default' =&gt; '1', 'Description' =&gt; '', 'Group' =&gt; '', 'Limit' =&gt; '6', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardRSS', 'Title' =&gt; 'Custom RSS Feed', 'URL' =&gt; 'http://www.otrs.com/en/rss.xml', 'URL_de' =&gt; 'http://www.otrs.com/de/rss.xml', 'URL_es' =&gt; 'http://www.otrs.com/es/rss.xml', 'URL_nl' =&gt; 'http://www.otrs.com/nl/rss.xml', 'URL_ru' =&gt; 'http://www.otrs.com/ru/rss.xml', 'URL_zh' =&gt; 'http://www.otrs.com/cn/rss.xml' };</pre>



## 2.41.7. DashboardBackend###0420-CmdOutput

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Cmd" is used to specify command with parameters. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTL" indicates the cache expiration period in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0420-CmdOutput'} = {   'Block' =&gt; 'ContentSmall',   'CacheTTL' =&gt; '60',   'Cmd' =&gt; '/bin/echo Configure me please.',   'Default' =&gt; '0',   'Description' =&gt; '',   'Group' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardCmdOutput',   'Title' =&gt; 'Sample command output' }; </pre>

## 2.41.8. DashboardBackend###0200-Image

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTL" indicates the cache expiration period in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0200-Image'} = {   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; 'Some picture description!',   'Group' =&gt; '',   'Height' =&gt; '140',   'Link' =&gt; 'http://otrs.org/',   'LinkTitle' =&gt; 'http://otrs.org/',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardImage',   'Title' =&gt; 'A picture',   'URL' =&gt; 'http://www.otrs.com/uploads/pics/ jointhecommunity_02.jpg',   'Width' =&gt; '198' }; </pre>

## 2.41.9. DashboardBackend###0210-MOTD

Description:	Shows the message of the day (MOTD) in the agent dashboard. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually.
Group:	Framework

SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0210-MOTD'} = {   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'Default' =&gt; '1',   'Group' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardMOTD',   'Title' =&gt; 'Message of the Day' };</pre>

## 2.41.10. DashboardBackend###0300-IFrame

Description:	Defines the parameters for the dashboard backend. "Group" is used to restrict access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" indicates if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTL" indicates the cache expiration period in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0300-IFrame'} = {   'Align' =&gt; 'left',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; 'Some description!',   'Frameborder' =&gt; '1',   'Group' =&gt; '',   'Height' =&gt; '800',   'Link' =&gt; 'http://otrs.org/',   'LinkTitle' =&gt; 'OTRS.org/',   'Marginheight' =&gt; '5',   'Marginwidth' =&gt; '5',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardIFrame',   'Scrolling' =&gt; 'auto',   'Title' =&gt; 'A Website',   'URL' =&gt; 'http://www.otrs.org/',   'Width' =&gt; '1024' };</pre>

## 2.41.11.

### AgentCustomerInformationCenter::Backend###0050-CIC-CustomerUserList

Description:	Parameters for the dashboard backend of the customer user list overview of the agent interface . "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::Backend'}-&gt;{'0050-CIC-CustomerUserList'} = {   'Attributes' =&gt; '',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; 'All customer users of a CustomerID',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '10',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardCustomerUserList',   'Permission' =&gt; 'ro',   'Title' =&gt; 'Customer Users' };</pre>
-----------------	---

## 2.42. Frontend::Agent::LinkObject

### 2.42.1. Frontend::AgentLinkObject::WildcardSearch

Description:	Starts a wildcard search of the active object after the link object mask is started.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::LinkObject
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::AgentLinkObject::WildcardSearch'} = '0';</pre>

## 2.43. Frontend::Agent::ModuleMetaHead

### 2.43.1. Frontend::HeaderMetaModule###100-Refresh

Description:	Defines the module to generate html refresh headers of html sites.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleMetaHead
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::HeaderMetaModule'}-&gt;{'100-Refresh'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::HeaderMetaRefresh' };</pre>

## 2.44. Frontend::Agent::ModuleNotify

### 2.44.1. Frontend::NotifyModule###100-OTRSBusiness

Description:	Defines the module to display a notification in different interfaces on different occasions for OTRS Business Solution™.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'100-OTRSBusiness'} = {   'Group' =&gt; 'admin',</pre>

	<pre>'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationAgentOTRSBusiness';</pre>
--	--

## 2.44.2. Frontend::NotifyModule###200-UID-Check

Description:	Defines the module to display a notification in the agent interface, if the system is used by the admin user (normally you shouldn't work as admin).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'200-UID-Check'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationUIDCheck' };</pre>

## 2.44.3. Frontend::NotifyModule###250-AgentSessionLimit

Description:	Defines the module to display a notification in the agent interface, if the agent session limit prior warning is reached.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'250-AgentSessionLimit'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationAgentSessionLimit' };</pre>

## 2.44.4. Frontend::NotifyModule###300-ShowAgentOnline

Description:	Defines the module that shows all the currently logged in agents in the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'300-ShowAgentOnline'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationAgentOnline',   'ShowEmail' =&gt; '1' };</pre>

## 2.44.5. Frontend::NotifyModule###400-ShowCustomerOnline

Description:	Defines the module that shows all the currently logged in customers in the agent interface.
Group:	Framework

SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'400-ShowCustomerOnline'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationCustomerOnline',   'ShowEmail' =&gt; '1' };</pre>

## 2.44.6. Frontend::NotifyModule###500-OutofOffice-Check

Description:	Defines the module to display a notification in the agent interface, if the agent is logged in while having out-of-office active.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'500-OutofOffice-Check'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationOutofOfficeCheck' };</pre>

## 2.44.7. Frontend::NotifyModule###600-SystemMaintenance-Check

Description:	Defines the module to display a notification in the agent interface, if the agent is logged in while having system maintenance active.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'600-SystemMaintenance-Check'} = {   'Module' =&gt;   'Kernel::Output::HTML::NotificationSystemMaintenanceCheck' };</pre>

## 2.44.8. Frontend::NotifyModule###900-Generic

Description:	Defines the module that shows a generic notification in the agent interface. Either "Text" - if configured - or the contents of "File" will be displayed.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'900-Generic'} = {   'File' =&gt; '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/notify.txt',   'Link' =&gt; 'http://www.otrs.com',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationGeneric',   'Priority' =&gt; 'Warning',   'Text' =&gt; 'The OTRS Website' };</pre>

```
};
```

## 2.45. Frontend::Agent::ModuleRegistration

### 2.45.1. Frontend::Module###Logout

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'Logout'} = {   'Description' =&gt; 'Logout',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; '' };</pre>

### 2.45.2. Frontend::Module###AgentDashboard

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentDashboard'} = {   'Description' =&gt; 'Agent Dashboard',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Dashboard.css',       'Core.AllocationList.css',       'thirdparty/fullcalendar-1.6.1/fullcalendar.css',       'thirdparty/d3js/nv.d3.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'thirdparty/flot-0.8.3/excanvas.js',       'thirdparty/flot-0.8.3/jquery.flot.js',       'thirdparty/fullcalendar-1.6.1/fullcalendar.min.js',       'thirdparty/d3js/d3.v3.min.js',       'thirdparty/d3js/nv.d3.min.js',       'thirdparty/d3js/models/OTRSmultiBarChart.js',       'thirdparty/d3js/models/OTRSstackedAreaChart.js',       'Core.UI.Chart.js',       'Core.UI.AdvancedChart.js',       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js',       'Core.Agent.Dashboard.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'd',       'Block' =&gt; 'ItemArea',       'Description' =&gt; '',       'Link' =&gt; 'Action=AgentDashboard',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Dashboard',       'NavBar' =&gt; 'Dashboard',       'Prio' =&gt; '50',       'Type' =&gt; 'Menu'     }   ] };</pre>

```

],
'NavBarName' => 'Dashboard',
'Title' => ''
};

```

### 2.45.3. Frontend::Module###AgentCustomerInformationCenter

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter'} = {   'Description' =&gt; 'Customer Information Center',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'thirdparty/flot-0.8.3/excanvas.js',       'thirdparty/flot-0.8.3/jquery.flot.js',       'Core.UI.Chart.js',       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.Dashboard.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'c',       'Block' =&gt; 'ItemArea',       'Description' =&gt; '',       'Link' =&gt; 'Action=AgentCustomerInformationCenter',       'LinkOption' =&gt; 'onclick="window.setTimeout(function() {Core.Agent.CustomerInformationCenterSearch.OpenSearchDialog();}; 0); return false;"',       'Name' =&gt; 'Customer Information Center',       'NavBar' =&gt; 'Customers',       'Prio' =&gt; '50',       'Type' =&gt; ''     },     {       'AccessKey' =&gt; '',       'Block' =&gt; 'ItemArea',       'Description' =&gt; '',       'Link' =&gt; 'Action=AgentCustomerInformationCenter',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Customers',       'NavBar' =&gt; 'Customers',       'Prio' =&gt; '60',       'Type' =&gt; 'Menu'     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Customer Information Center',   'Title' =&gt; '' }; </pre>

### 2.45.4. Frontend::Module###AgentCustomerInformationCenterSearch

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentCustomerInformationCenterSearch'} = {   'Description' =&gt; 'Customer Information Center Search',   'Title' =&gt; '' };</pre>

## 2.45.5. Frontend::Module###AgentPreferences

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentPreferences'} = {   'Description' =&gt; 'Agent Preferences',   'NavBarName' =&gt; 'Preferences',   'Title' =&gt; '' };</pre>

## 2.45.6. Frontend::Module###PictureUpload

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'PictureUpload'} = {   'Description' =&gt; 'Picture upload module',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Picture-Upload' };</pre>

## 2.45.7. Frontend::Module###AgentSpelling

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentSpelling'} = {   'Description' =&gt; 'Spell checker',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Spell Checker' };</pre>



```
};
```

## 2.45.8. Frontend::Module###SpellingInline

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'SpellingInline'} = {   'Description' =&gt; 'Spell checker',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Spell Checker' };</pre>

## 2.45.9. Frontend::Module###AgentBook

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentBook'} = {   'Description' =&gt; 'Address book of CustomerUser sources',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Address Book' };</pre>

## 2.45.10. Frontend::Module###AgentLinkObject

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentLinkObject'} = {   'Description' =&gt; 'Link Object',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Link Object' };</pre>

## 2.45.11. Frontend::Module###AgentInfo

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentInfo'} = {   'Description' =&gt; 'Generic Info module',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Info' };</pre>

## 2.45.12. Frontend::Module###AgentSearch

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentSearch'} = {   'Description' =&gt; 'Global Search Module',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Search' };</pre>

## 2.45.13. CustomerFrontend::Module###SpellingInline

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'SpellingInline'} = {   'Description' =&gt; 'Spell checker',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Spell Checker' };</pre>

## 2.45.14. Frontend::Module###AgentHTMLReference

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentHTMLReference'} = {   'Description' =&gt; 'HTML Reference',   'Group' =&gt; [     'users'   ],   'GroupRo' =&gt; [     'users'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.HTMLReference.css'     ]   } };</pre>

```
'NavBarName' => '',
'Title' => 'HTML Reference'
};
```

## 2.45.15. Frontend::Module###AgentStats

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentStats'} = {   'Description' =&gt; 'Stats',   'Group' =&gt; [     'stats'   ],   'GroupRo' =&gt; [     'stats'   ],   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Stats.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; '',       'Block' =&gt; 'ItemArea',       'Description' =&gt; '',       'Link' =&gt; 'Action=AgentStats;Subaction=Overview',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Statistics',       'NavBar' =&gt; 'Stats',       'Prio' =&gt; '8500',       'Type' =&gt; 'Menu'     },     {       'AccessKey' =&gt; '',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Overview',       'GroupRo' =&gt; [         'stats'       ],       'Link' =&gt; 'Action=AgentStats;Subaction=Overview',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Overview',       'NavBar' =&gt; 'Stats',       'Prio' =&gt; '100',       'Type' =&gt; ''     },     {       'AccessKey' =&gt; '',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'New',       'Group' =&gt; [         'stats'       ],       'Link' =&gt; 'Action=AgentStats;Subaction=Add',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'New',       'NavBar' =&gt; 'Stats',       'Prio' =&gt; '200',       'Type' =&gt; ''     },     {       'AccessKey' =&gt; '',       'Block' =&gt; '', </pre>

```

    'Description' => 'Import',
    'Group' => [
      'stats'
    ],
    'Link' => 'Action=AgentStats;Subaction=Import',
    'LinkOption' => '',
    'Name' => 'Import',
    'NavBar' => 'Stats',
    'Prio' => '300',
    'Type' => ''
  }
],
'NavBarName' => 'Stats',
'Title' => 'Stats'
};

```

## 2.46. Frontend::Agent::NavBarModule

### 2.46.1. Frontend::NavBarModule###6-CustomerCompany

Description:	Frontend module registration (disable company link if no company feature is used).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::NavBarModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::NavBarModule'}-&gt;{'6-CustomerCompany'} = { 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarCustomerCompany' };</code>

### 2.46.2. Frontend::NavBarModule###7-AgentTicketService

Description:	Frontend module registration (disable AgentTicketService link if Ticket Service feature is not used).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::NavBarModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::NavBarModule'}-&gt;{'7-AgentTicketService'} = { 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarAgentTicketService' };</code>

## 2.47. Frontend::Agent::Preferences

### 2.47.1. PreferencesTable

Description:	Defines the name of the table where the user preferences are stored.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PreferencesTable'} = 'user_preferences';</code>

## 2.47.2. PreferencesTableKey

Description:	Defines the column to store the keys for the preferences table.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PreferencesTableKey'} = 'preferences_key';</code>

## 2.47.3. PreferencesTableValue

Description:	Defines the name of the column to store the data in the preferences table.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PreferencesTableValue'} = 'preferences_value';</code>

## 2.47.4. PreferencesTableUserID

Description:	Defines the name of the column to store the user identifier in the preferences table.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PreferencesTableUserID'} = 'user_id';</code>

## 2.47.5. PreferencesView

Description:	Sets the display order of the different items in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PreferencesView'} = [     'User Profile',     'Email Settings',     'Other Settings'   ];</code>

## 2.47.6. PreferencesGroups###Password

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'Password'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Area' =&gt; 'Agent',   'Column' =&gt; 'User Profile',   'Label' =&gt; 'Change password',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesPassword',   'PasswordMaxLoginFailed' =&gt; '0',   'PasswordMin2Characters' =&gt; '0',   'PasswordMin2Lower2UpperCharacters' =&gt; '0',   'PasswordMinSize' =&gt; '0',   'PasswordNeedDigit' =&gt; '0',   'PasswordRegExp' =&gt; '',   'Prio' =&gt; '0500' }; </pre>

## 2.47.7. PreferencesGroups###SpellDict

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view. Take care to maintain the dictionaries installed in the system in the data section.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'SpellDict'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'User Profile',   'Data' =&gt; {     'deutsch' =&gt; 'Deutsch',     'english' =&gt; 'English'   },   'DataSelected' =&gt; 'english',   'Key' =&gt; 'Default spelling dictionary',   'Label' =&gt; 'Spelling Dictionary',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserSpellDict',   'Prio' =&gt; '2000' }; </pre>

## 2.47.8. PreferencesGroups###Comment

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'Comment'} = { </pre>

	<pre>'Active' =&gt; '0', 'Block' =&gt; 'Input', 'Column' =&gt; 'Other Settings', 'Data' =&gt; "[% Env('UserComment') %]", 'Key' =&gt; 'Comment', 'Label' =&gt; 'Comment', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric', 'PrefKey' =&gt; 'UserComment', 'Prio' =&gt; '6000' };</pre>
--	--

## 2.47.9. PreferencesGroups###Language

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'Language'} = { 'Active' =&gt; '1', 'Column' =&gt; 'User Profile', 'Key' =&gt; 'Frontend language', 'Label' =&gt; 'Language', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesLanguage', 'PrefKey' =&gt; 'UserLanguage', 'Prio' =&gt; '1000' };</pre>

## 2.47.10. PreferencesGroups###Skin

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'Skin'} = { 'Active' =&gt; '1', 'Column' =&gt; 'User Profile', 'Key' =&gt; 'Wear this frontend skin', 'Label' =&gt; 'Skin', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesSkin', 'PrefKey' =&gt; 'UserSkin', 'Prio' =&gt; '2000' };</pre>

## 2.47.11. PreferencesGroups###Theme

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'Theme'} = {</pre>

	<pre>'Active' =&gt; '1', 'Column' =&gt; 'User Profile', 'Key' =&gt; 'Frontend theme', 'Label' =&gt; 'Theme', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesTheme', 'PrefKey' =&gt; 'UserTheme', 'Prio' =&gt; '3000' };</pre>
--	---

## 2.47.12. PreferencesGroups###OutOfOffice

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'OutOfOffice'} = { 'Active' =&gt; '1', 'Block' =&gt; 'OutOfOffice', 'Column' =&gt; 'User Profile', 'Key' =&gt; '', 'Label' =&gt; 'Out Of Office Time', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesOutOfOffice', 'PrefKey' =&gt; 'UserOutOfOffice', 'Prio' =&gt; '4000' };</pre>

## 2.47.13. PreferencesGroups###TimeZone

Description:	Defines the config parameters of this item, to be shown in the preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'TimeZone'} = { 'Active' =&gt; '1', 'Column' =&gt; 'User Profile', 'Key' =&gt; 'Time Zone', 'Label' =&gt; 'Time Zone', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesTimeZone', 'PrefKey' =&gt; 'UserTimeZone', 'Prio' =&gt; '5000' };</pre>

## 2.47.14. PreferencesGroups###CSVSeparator

Description:	Gives end users the possibility to override the separator character for CSV files, defined in the translation files.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'CSVSeparator'} = {</pre>



```
'Active' => '1',
'Column' => 'Other Settings',
'Data' => {
  '' => '',
  ';' => ';',
  ',' => ',',
  '\\t' => 'tab',
  '|' => '|'
},
'DataSelected' => '0',
'Desc' => 'Select the separator character used in CSV files (stats
and searches). If you don\'t select a separator here, the default
separator for your language will be used.',
'Key' => 'CSV Separator',
'Label' => 'CSV Separator',
'Module' => 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',
'PrefKey' => 'UserCSVSeparator',
'Prio' => '4000'
};
```

## 2.48. Frontend::Agent::SearchRouter

### 2.48.1. Frontend::SearchDefault

Description:	Search backend default router.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::SearchRouter
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::SearchDefault'} = 'Action=AgentTicketSearch;Subaction=AJAX';</code>

## 2.49. Frontend::Agent::Stats

### 2.49.1. Stats::SearchPageShown

Description:	Defines the default maximum number of search results shown on the overview page.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::SearchPageShown'} = '20';</code>

### 2.49.2. Stats::DefaultSelectedDynamicObject

Description:	Defines the default selection at the drop down menu for dynamic objects (Form: Common Specification).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::DefaultSelectedDynamicObject'} = 'Ticket';</code>

### 2.49.3. Stats::DefaultSelectedPermissions

Description:	Defines the default selection at the drop down menu for permissions (Form: Common Specification).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::DefaultSelectedPermissions'} = [   'stats' ];</pre>

### 2.49.4. Stats::DefaultSelectedFormat

Description:	Defines the default selection at the drop down menu for stats format (Form: Common Specification). Please insert the format key (see Stats::Format).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::DefaultSelectedFormat'} = [   'Print',   'CSV' ];</pre>

### 2.49.5. Stats::SearchLimit

Description:	Defines the search limit for the stats.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::SearchLimit'} = '500';</pre>

### 2.49.6. Stats::Format

Description:	Defines all the possible stats output formats.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::Format'} = {   'CSV' =&gt; 'CSV',   'Excel' =&gt; 'Excel',   'GD::Graph::area' =&gt; 'graph-area',   'GD::Graph::bars' =&gt; 'graph-bars',   'GD::Graph::hbars' =&gt; 'graph-hbars',   'GD::Graph::lines' =&gt; 'graph-lines',   'GD::Graph::linespoints' =&gt; 'graph-lines-points', }</pre>

```
'GD::Graph::pie' => 'graph-pie',
'GD::Graph::points' => 'graph-points',
'Print' => 'Print'
};
```

## 2.49.7. Stats::GraphSize

Description:	Sets the size of the statistic graph.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::GraphSize'} = {   '1200x800' =&gt; '1200x800',   '1600x1200' =&gt; '1600x1200',   '800x600' =&gt; '800x600' };</pre>

## 2.49.8. Stats::TimeType

Description:	Sets the time type which should be shown.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::TimeType'} = 'Extended';</pre>

## 2.49.9. Stats::ExchangeAxis

Description:	Allows agents to exchange the axis of a stat if they generate one.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::ExchangeAxis'} = '0';</pre>

## 2.49.10. Stats::UseAgentElementInStats

Description:	Allows agents to generate individual-related stats.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::UseAgentElementInStats'} = '0';</pre>

## 2.49.11. Stats::UseInvalidAgentInStats

Description:	Allows invalid agents to generate individual-related stats.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::UseInvalidAgentInStats'} = '1';</code>

## 2.49.12. Stats::CustomerIDAsMultiSelect

Description:	Shows all the customer identifiers in a multi-select field (not useful if you have a lot of customer identifiers).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Agent::Stats
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::CustomerIDAsMultiSelect'} = '1';</code>

## 2.50. Frontend::Customer

### 2.50.1. CustomerHeadline

Description:	The headline shown in the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerHeadline'} = 'Example Company';</code>

### 2.50.2. CustomerLogo

Description:	The logo shown in the header of the customer interface. The URL to the image can be a relative URL to the skin image directory, or a full URL to a remote web server.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerLogo'} = {          'StyleHeight' =&gt; '45px',          'StyleRight' =&gt; '25px',          'StyleTop' =&gt; '9px',          'StyleWidth' =&gt; '300px',          'URL' =&gt; 'skins/Customer/default/img/logo.png'        };</code>

### 2.50.3. CustomerPanelUserID

Description:	Defines the user identifier for the customer panel.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelUserID'} = '1';</code>

## 2.50.4. CustomerGroupSupport

Description:	Activates support for customer groups.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerGroupSupport'} = '0';</code>

## 2.50.5. CustomerGroupAlwaysGroups

Description:	Defines the groups every customer user will be in (if CustomerGroupSupport is enabled and you don't want to manage every user for these groups).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerGroupAlwaysGroups'} = [ 'users' ];</code>

## 2.50.6. CustomerPanelLoginURL

Description:	Defines an alternate login URL for the customer panel..
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelLoginURL'} = 'http://host.example.com/cgi-bin/login.pl';</code>

## 2.50.7. CustomerPanelLogoutURL

Description:	Defines an alternate logout URL for the customer panel.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelLogoutURL'} = 'http://host.example.com/cgi-bin/login.pl';</code>
-----------------	--

## 2.50.8. Frontend::CustomerUser::Item###1-GoogleMaps

Description:	Defines a customer item, which generates a google maps icon at the end of a customer info block.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'1-GoogleMaps'} = {        'Attributes' =&gt; 'UserStreet;UserCity;UserCountry;',        'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.GoogleMaps.css',        'CSSClass' =&gt; 'GoogleMaps',        'IconName' =&gt; 'fa-globe',        'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGeneric',        'Required' =&gt; 'UserStreet;UserCity;',        'Target' =&gt; '_blank',        'Text' =&gt; 'Location',        'URL' =&gt; 'http://maps.google.com/maps?z=7&amp;q='      };</code>

## 2.50.9. Frontend::CustomerUser::Item###2-Google

Description:	Defines a customer item, which generates a google icon at the end of a customer info block.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'2-Google'} = {        'Attributes' =&gt; 'UserFirstname;UserLastname;',        'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.Google.css',        'CSSClass' =&gt; 'Google',        'IconName' =&gt; 'fa-google',        'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGeneric',        'Required' =&gt; 'UserFirstname;UserLastname;',        'Target' =&gt; '_blank',        'Text' =&gt; 'Google',        'URL' =&gt; 'http://google.com/search?q='      };</code>

## 2.50.10. Frontend::CustomerUser::Item###2-LinkedIn

Description:	Defines a customer item, which generates a LinkedIn icon at the end of a customer info block.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'2-LinkedIn'} = {        'Attributes' =&gt; 'UserFirstname;UserLastname;',      };</code>

	<pre>'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.Linkedin.css', 'CSSClass' =&gt; 'LinkedIn', 'IconName' =&gt; 'fa-linkedin', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGeneric', 'Required' =&gt; 'UserFirstname;UserLastname;', 'Target' =&gt; '_blank', 'Text' =&gt; 'LinkedIn', 'URL' =&gt; 'http://www.linkedin.com/commonSearch? type=people&amp;keywords=' };</pre>
--	--

## 2.50.11. Frontend::CustomerUser::Item###3-XING

Description:	Defines a customer item, which generates a XING icon at the end of a customer info block.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'3-XING'} = { 'Attributes' =&gt; 'UserFirstname;UserLastname;', 'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.Xing.css', 'CSSClass' =&gt; 'Xing', 'IconName' =&gt; 'fa-xing', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGeneric', 'Required' =&gt; 'UserFirstname;UserLastname;', 'Target' =&gt; '_blank', 'Text' =&gt; 'XING', 'URL' =&gt; 'https://www.xing.com/app/search?op=search;keywords=' };</pre>

## 2.50.12. CustomerPanelPreApplicationModule###CustomerAccept

Description:	This module and its PreRun() function will be executed, if defined, for every request. This module is useful to check some user options or to display news about new applications.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPanelPreApplicationModule'}-&gt;{'CustomerAccept'} = 'Kernel::Modules::CustomerAccept';</pre>

## 2.50.13. CustomerPanel::InfoKey

Description:	Defines the key to check with CustomerAccept. If this user preferences key is true, then the message is accepted by the system.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPanel::InfoKey'} = 'CustomerAccept1';</pre>

## 2.50.14. CustomerPanel::InfoFile

Description:	Defines the path of the shown info file, that is located under Kernel/Output/HTML/Standard/CustomerAccept.dtl.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanel::InfoFile'} = 'CustomerAccept';</code>

## 2.50.15. CustomerPanelLostPassword

Description:	Activates lost password feature for customers.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelLostPassword'} = '1';</code>

## 2.50.16. CustomerPanelCreateAccount

Description:	Enables customers to create their own accounts.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelCreateAccount'} = '1';</code>

## 2.50.17. CustomerPanelCreateAccount::MailRestrictions::Whitelist

Description:	If active, one of the regular expressions has to match the user's email address to allow registration.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelCreateAccount::MailRestrictions::Whitelist'} = [ '\@your\\.domain\\.example\$' ];</code>

## 2.50.18. CustomerPanelCreateAccount::MailRestrictions::Blacklist

Description:	If active, none of the regular expressions may match the user's email address to allow registration.
--------------	--



Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPanelCreateAccount::MailRestrictions::Blacklist'} = [   '\\@your\\.domain\\.example\$' ];</pre>

## 2.50.19. CustomerPanelSubjectLostPasswordToken

Description:	Defines the subject for notification mails sent to customers, with token about new requested password.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPanelSubjectLostPasswordToken'} = 'New OTRS password request';</pre>

## 2.50.20. CustomerPanelBodyLostPasswordToken

Description:	Defines the body text for notification mails sent to customers, with token about new requested password (after using this link the new password will be sent).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPanelBodyLostPasswordToken'} = 'Hi &lt;OTRS_USERFIRSTNAME&gt;,  You or someone impersonating you has requested to change your OTRS password.  If you want to do this, click on this link. You will receive another email containing the password.  &lt;OTRS_CONFIG_ContentType&gt;://&lt;OTRS_CONFIG_FQDN&gt;/ &lt;OTRS_CONFIG_ScriptAlias&gt;customer.pl? Action=CustomerLostPassword;Token=&lt;OTRS_TOKEN&gt;  If you did not request a new password, please ignore this email. ';</pre>

## 2.50.21. CustomerPanelSubjectLostPassword

Description:	Defines the subject for notification mails sent to customers, about new password.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelSubjectLostPassword'} = 'New OTRS password';</code>
-----------------	---

## 2.50.22. CustomerPanelBodyLostPassword

Description:	Defines the body text for notification mails sent to customers, about new password (after using this link the new password will be sent).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'CustomerPanelBodyLostPassword'} = 'Hi &lt;OTRS_USERFIRSTNAME&gt;,  New password: &lt;OTRS_NEWPW&gt;  &lt;OTRS_CONFIG_ContentType&gt;://&lt;OTRS_CONFIG_FQDN&gt;/ &lt;OTRS_CONFIG_ScriptAlias&gt;customer.pl '; </pre>

## 2.50.23. CustomerPanelSubjectNewAccount

Description:	Defines the subject for notification mails sent to customers, about new account.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelSubjectNewAccount'} = 'New OTRS Account!';</code>

## 2.50.24. CustomerPanelBodyNewAccount

Description:	Defines the body text for notification mails sent to customers, about new account.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'CustomerPanelBodyNewAccount'} = 'Hi &lt;OTRS_USERFIRSTNAME&gt;,  You or someone impersonating you has created a new OTRS account for you.  Full name: &lt;OTRS_USERFIRSTNAME&gt; &lt;OTRS_USERLASTNAME&gt; User name: &lt;OTRS_USERLOGIN&gt; Password : &lt;OTRS_USERPASSWORD&gt;  You can log in via the following URL. We encourage you to change your password via the Preferences button after logging in.  &lt;OTRS_CONFIG_ContentType&gt;://&lt;OTRS_CONFIG_FQDN&gt;/ &lt;OTRS_CONFIG_ScriptAlias&gt;customer.pl </pre>

	';
--	----

## 2.50.25. Loader::Customer::Skin###000-default

Description:	Default skin for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Customer::Skin'}-&gt;{'000-default'} = {   'Description' =&gt; 'This is the default orange - black skin for the customer interface.',   'HomePage' =&gt; 'www.otrs.org',   'InternalName' =&gt; 'default',   'VisibleName' =&gt; 'Default' };</pre>

## 2.50.26. Loader::Customer::SelectedSkin

Description:	The customer skin's InternalName which should be used in the customer interface. Please check the available skins in Frontend::Customer::Skins.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Customer::SelectedSkin'} = 'default';</pre>

## 2.50.27. AutoComplete::Customer###Default

Description:	Defines the config options for the autocompletion feature.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'AutoComplete::Customer'}-&gt;{'Default'} = {   'AutoCompleteActive' =&gt; '1',   'ButtonText' =&gt; 'Search',   'MaxResultsDisplayed' =&gt; '20',   'MinQueryLength' =&gt; '2',   'QueryDelay' =&gt; '100' };</pre>

## 2.51. Frontend::Customer::Auth

### 2.51.1. Customer::AuthModule

Description:	Defines the module to authenticate customers.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule'} = 'Kernel::System::CustomerAuth::DB';</code>

## 2.51.2. Customer::AuthModule::DB::CryptType

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, the crypt type of passwords must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::CryptType'} = 'sha2';</code>

## 2.51.3. Customer::AuthModule::DB::Table

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, the name of the table where your customer data should be stored must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::Table'} = 'customer_user';</code>

## 2.51.4. Customer::AuthModule::DB::CustomerKey

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, the name of the column for the CustomerKey in the customer table must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::CustomerKey'} = 'login';</code>

## 2.51.5. Customer::AuthModule::DB::CustomerPassword

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, the column name for the CustomerPassword in the customer table must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::CustomerPassword'} = 'pw';</code>

## 2.51.6. Customer::AuthModule::DB::DSN

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, the DSN for the connection to the customer table must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::DSN'} = 'DBI:mysql:database=customerdb;host=customerdbhost';</code>

## 2.51.7. Customer::AuthModule::DB::User

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, a username to connect to the customer table can be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::User'} = 'some_user';</code>

## 2.51.8. Customer::AuthModule::DB::Password

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, a password to connect to the customer table can be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::Password'} = 'some_password';</code>

## 2.51.9. Customer::AuthModule::DB::Type

Description:	If "DB" was selected for Customer::AuthModule, a database driver (normally autodetection is used) can be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::DB::Type'} = 'mysql';</code>

## 2.51.10.

### Customer::AuthModule::HTTPBasicAuth::Replace

Description:	If "HTTPBasicAuth" was selected for Customer::AuthModule, you can specify to strip leading parts of user names (e. g. for domains like example_domain\user to user).
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::HTTPBasicAuth::Replace'} = 'example_domain\\\\';</code>

## 2.51.11.

### Customer::AuthModule::HTTPBasicAuth::ReplaceRegExp

Description:	If "HTTPBasicAuth" was selected for Customer::AuthModule, you can specify (by using a RegExp) to strip parts of REMOTE_USER (e. g. for to remove trailing domains). RegExp-Note, \$1 will be the new Login.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::HTTPBasicAuth::ReplaceRegExp'} = '^(.+?)@.+?\$';</code>

## 2.51.12. Customer::AuthModule::LDAP::Host

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule, the LDAP host can be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::Host'} = 'ldap.example.com';</code>

## 2.51.13. Customer::AuthModule::LDAP::BaseDN

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule, the BaseDN must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::BaseDN'} = 'dc=example,dc=com';</code>

## 2.51.14. Customer::AuthModule::LDAP::UID

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule, the user identifier must be specified.
Group:	Framework

SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::UID'} = 'uid';</code>

## 2.51.15. Customer::AuthModule::LDAP::GroupDN

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::Authmodule, you can check if the user is allowed to authenticate because he is in a posixGroup, e.g. user needs to be in a group xyz to use OTRS. Specify the group, who may access the system.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::GroupDN'} = 'cn=otrsallow,ou=posixGroups,dc=example,dc=com';</code>

## 2.51.16. Customer::AuthModule::LDAP::AccessAttr

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule, you can specify access attributes here.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::AccessAttr'} = 'memberUid';</code>

## 2.51.17. Customer::AuthModule::LDAP::UserAttr

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule, user attributes can be specified. For LDAP posixGroups use UID, for non LDAP posixGroups use full user DN.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::UserAttr'} = 'UID';</code>

## 2.51.18. Customer::AuthModule::LDAP::SearchUserDN

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule and your users have only anonymous access to the LDAP tree, but you want to search through the data, you can do this with a user who has access to the LDAP directory. Specify the username for this special user here.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::SearchUserDN'} = 'cn=binduser,ou=users,dc=example,dc=com';</code>

### 2.51.19. Customer::AuthModule::LDAP::SearchUserPw

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule and your users have only anonymous access to the LDAP tree, but you want to search through the data, you can do this with a user who has access to the LDAP directory. Specify the password for this special user here.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::SearchUserPw'} = 'some_password';</code>

### 2.51.20. Customer::AuthModule::LDAP::AlwaysFilter

Description:	If "LDAP" was selected, you can add a filter to each LDAP query, e.g. (mail=*), (objectclass=user) or (!objectclass=computer).
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::AlwaysFilter'} = '(!objectclass=computer)';</code>

### 2.51.21. Customer::AuthModule::LDAP::UserSuffix

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule and if you want to add a suffix to every customer login name, specify it here, e. g. you just want to write the username user but in your LDAP directory exists user@domain.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::UserSuffix'} = '@domain.com';</code>

### 2.51.22. Customer::AuthModule::LDAP::Params

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule and special paramaters are needed for the Net::LDAP perl module, you can specify them here. See "perldoc Net::LDAP" for more information about the parameters.
Group:	Framework



SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::Params'} = {   'async' =&gt; '0',   'port' =&gt; '389',   'timeout' =&gt; '120',   'version' =&gt; '3' };</pre>

### 2.51.23. Customer::AuthModule::LDAP::Die

Description:	If "LDAP" was selected for Customer::AuthModule, you can specify if the applications will stop if e. g. a connection to a server can't be established due to network problems.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::LDAP::Die'} = '1';</pre>

### 2.51.24. Customer::AuthModule::Radius::Host

Description:	If "Radius" was selected for Customer::AuthModule, the radius host must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::Radius::Host'} = 'radiushost';</pre>

### 2.51.25. Customer::AuthModule::Radius::Password

Description:	If "Radius" was selected for Customer::AuthModule, the password to authenticate to the radius host must be specified.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::Radius::Password'} =   'radiussecret';</pre>

### 2.51.26. Customer::AuthModule::Radius::Die

Description:	If "Radius" was selected for Customer::AuthModule, you can specify if the applications will stop if e. g. a connection to a server can't be established due to network problems.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Auth

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::AuthModule::Radius::Die'} = '1';</code>

## 2.52. Frontend::Customer::ModuleMetaHead

### 2.52.1. CustomerFrontend::HeaderMetaModule###1-Refresh

Description:	Defines the module to generate html refresh headers of html sites, in the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleMetaHead
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::HeaderMetaModule'}-&gt;{'1-Refresh'} = { 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::HeaderMetaRefresh' };</code>

## 2.53. Frontend::Customer::ModuleNotify

### 2.53.1. CustomerFrontend::NotifyModule###1-OTRSBusiness

Description:	Defines the module to display a notification in different interfaces on different occasions for OTRS Business Solution™.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::NotifyModule'}-&gt;{'1-OTRSBusiness'} = { 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationCustomerOTRSBusiness' };</code>

### 2.53.2. CustomerFrontend::NotifyModule###1-ShowAgentOnline

Description:	Defines the module that shows the currently logged in agents in the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleNotify
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::NotifyModule'}-&gt;{'1-ShowAgentOnline'} = { 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationAgentOnline', 'ShowEmail' =&gt; '1' };</code>

### 2.53.3. CustomerFrontend::NotifyModule###1-ShowCustomerOnline

Description:	Defines the module that shows the currently logged in customers in the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleNotify
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::NotifyModule'}-&gt;{'1-ShowCustomerOnline'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationCustomerOnline',   'ShowEmail' =&gt; '1' };</pre>

### 2.53.4. CustomerFrontend::NotifyModule###6-CustomerSystemMaintenance-Check

Description:	Defines the module to display a notification in the agent interface, if the agent is logged in while having system maintenance active.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::NotifyModule'}-&gt;{'6-CustomerSystemMaintenance-Check'} = {   'Module' =&gt;   'Kernel::Output::HTML::NotificationCustomerSystemMaintenanceCheck' };</pre>

## 2.54. Frontend::Customer::ModuleRegistration

### 2.54.1. CustomerFrontend::Module###Logout

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'Logout'} = {   'Description' =&gt; 'Logout of customer panel',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; '' };</pre>

### 2.54.2. CustomerFrontend::Module###CustomerPreferences

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
--------------	--

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerPreferences'} = {   'Description' =&gt; 'Customer preferences',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Preferences' };</pre>

### 2.54.3. CustomerFrontend::Module###CustomerAccept

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerAccept'} = {   'Description' =&gt; 'To accept login information, such as an EULA or license.',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Info' };</pre>

### 2.54.4. CustomerFrontend::Module###PictureUpload

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'PictureUpload'} = {   'Description' =&gt; 'Picture upload module',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Picture-Upload' };</pre>

## 2.55. Frontend::Customer::Preferences

### 2.55.1. CustomerPreferences

Description:	Defines the parameters for the customer preferences table.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferences'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::System::CustomerUser::Preferences::DB',   'Params' =&gt; {     'Table' =&gt; 'customer_preferences',   } };</pre>

	<pre>'TableKey' =&gt; 'preferences_key', 'TableUserID' =&gt; 'user_id', 'TableValue' =&gt; 'preferences_value' } };</pre>
--	---

## 2.55.2. CustomerPreferencesView

Description:	Sets the order of the different items in the customer preferences view.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesView'} = [   'User Profile',   'Other Settings' ];</pre>

## 2.55.3. CustomerPreferencesGroups###Password

Description:	Defines all the parameters for this item in the customer preferences.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'Password'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Area' =&gt; 'Customer',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Label' =&gt; 'Change password',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesPassword',   'PasswordMin2Characters' =&gt; '0',   'PasswordMin2Lower2UpperCharacters' =&gt; '0',   'PasswordMinSize' =&gt; '0',   'PasswordNeedDigit' =&gt; '0',   'PasswordRegExp' =&gt; '',   'Prio' =&gt; '1000' };</pre>

## 2.55.4. CustomerPreferencesGroups###Language

Description:	Defines all the parameters for this item in the customer preferences.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'Language'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'User Profile',   'Key' =&gt; 'Language',   'Label' =&gt; 'Interface language',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesLanguage', };</pre>

	<pre>'PrefKey' =&gt; 'UserLanguage', 'Prio' =&gt; '2000' };</pre>
--	---

## 2.55.5. CustomerPreferencesGroups###Theme

Description:	Defines all the parameters for this item in the customer preferences.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'Theme'} = { 'Active' =&gt; '0', 'Column' =&gt; 'User Profile', 'Key' =&gt; 'Select your frontend Theme.', 'Label' =&gt; 'Theme', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesTheme', 'PrefKey' =&gt; 'UserTheme', 'Prio' =&gt; '1000' };</pre>

## 2.55.6. CustomerPreferencesGroups###TimeZone

Description:	Defines all the parameters for this item in the customer preferences.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'TimeZone'} = { 'Active' =&gt; '1', 'Column' =&gt; 'User Profile', 'Key' =&gt; 'Time Zone', 'Label' =&gt; 'Time Zone', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesTimeZone', 'PrefKey' =&gt; 'UserTimeZone', 'Prio' =&gt; '5000' };</pre>

## 2.55.7. CustomerPreferencesGroups###PGP

Description:	Defines all the parameters for this item in the customer preferences.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'PGP'} = { 'Active' =&gt; '1', 'Column' =&gt; 'Other Settings', 'Key' =&gt; 'PGP Key Upload', 'Label' =&gt; 'PGP Key', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesPGP', 'PrefKey' =&gt; 'UserPGPKey', 'Prio' =&gt; '10000' };</pre>

```
};
```

## 2.55.8. CustomerPreferencesGroups###SMIME

Description:	Defines all the parameters for this item in the customer preferences.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'SMIME'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Key' =&gt; 'S/MIME Certificate Upload',   'Label' =&gt; 'S/MIME Certificate',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesSMIME',   'PrefKey' =&gt; 'UserSMIMEKey',   'Prio' =&gt; '11000' };</pre>

## 2.56. Frontend::Public

### 2.56.1. PublicFrontend::CommonParam###Action

Description:	Defines the default value for the action parameter for the public frontend. The action parameter is used in the scripts of the system.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Public
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PublicFrontend::CommonParam'}-&gt;{'Action'} =   'PublicDefault';</pre>

## 2.57. Frontend::Public::ModuleRegistration

### 2.57.1. PublicFrontend::Module###PublicDefault

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Public::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PublicFrontend::Module'}-&gt;{'PublicDefault'} = {   'Description' =&gt; 'PublicDefault',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'PublicDefault' };</pre>

### 2.57.2. PublicFrontend::Module###PublicRepository

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
--------------	---

Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Public::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PublicFrontend::Module'}-&gt;{'PublicRepository'} = {   'Description' =&gt; 'PublicRepository',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'PublicRepository' };</pre>

### 2.57.3. PublicFrontend::Module###PublicSupportDataCollector

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Framework
SubGroup:	Frontend::Public::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PublicFrontend::Module'}-&gt;{'PublicSupportDataCollector'} = {   'Description' =&gt; 'PublicSupportDataCollector',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'PublicSupportDataCollector' };</pre>

## 2.58. SystemMaintenance

### 2.58.1. SystemMaintenance::TimeNotifyUpcomingMaintenance

Description:	Sets the minutes a notification is shown for notice about upcoming system maintenance period.
Group:	Framework
SubGroup:	SystemMaintenance
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'SystemMaintenance::TimeNotifyUpcomingMaintenance'} = '30';</pre>

### 2.58.2. SystemMaintenance::IsActiveDefaultNotification

Description:	Sets the default message for the notification is shown on a running system maintenance period.
Group:	Framework
SubGroup:	SystemMaintenance
Valid:	1
Required:	0



Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SystemMaintenance::IsActiveDefaultNotification'} = 'A system maintenance period is active';</code>
-----------------	---

### 2.58.3.

#### SystemMaintenance::IsActiveDefaultLoginMessage

Description:	Sets the default message for the login screen on Agent and Customer interface, it's shown when a running system maintenance period is active.
Group:	Framework
SubGroup:	SystemMaintenance
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SystemMaintenance::IsActiveDefaultLoginMessage'} = 'System is on a scheduled maintenance period. We spect to be online promptly.';</code>

### 2.58.4.

#### SystemMaintenance::IsActiveDefaultLoginErrorMessage

Description:	Sets the default error message for the login screen on Agent and Customer interface, it's shown when a running system maintenance period is active.
Group:	Framework
SubGroup:	SystemMaintenance
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'SystemMaintenance::IsActiveDefaultLoginErrorMessage'} = 'A maintenance period is running, get into the system is not possible for now.';</code>

## 3. GenericInterface

### 3.1. Core::CustomerCompany

#### 3.1.1. CustomerCompany::EventModulePost###1000-GenericInterface

Description:	Performs the configured action for each event (as an Invoker) for each configured Webservice.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Core::CustomerCompany
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerCompany::EventModulePost'}-&gt;{'1000-GenericInterface'} = {        'Event' =&gt; '',        'Module' =&gt; 'Kernel::GenericInterface::Event::Handler',        'Transaction' =&gt; '1'      };</code>

## 3.2. Core::CustomerUser

### 3.2.1. CustomerUser::EventModulePost###1000- GenericInterface

Description:	Performs the configured action for each event (as an Invoker) for each configured Webservice.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Core::CustomerUser
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerUser::EventModulePost'}-&gt;{'1000-GenericInterface'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::GenericInterface::Event::Handler',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

## 3.3. Core::DynamicField

### 3.3.1. DynamicField::EventModulePost###1000- GenericInterface

Description:	Performs the configured action for each event (as an Invoker) for each configured Webservice.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Core::DynamicField
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicField::EventModulePost'}-&gt;{'1000-GenericInterface'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::GenericInterface::Event::Handler',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

## 3.4. Core::Package

### 3.4.1. Package::EventModulePost###1000- GenericInterface

Description:	Performs the configured action for each event (as an Invoker) for each configured Webservice.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Core::Package
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Package::EventModulePost'}-&gt;{'1000-GenericInterface'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::GenericInterface::Event::Handler',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

```
};
```

## 3.5. Core::Queue

### 3.5.1. Queue::EventModulePost###1000- GenericInterface

Description:	Performs the configured action for each event (as an Invoker) for each configured Webservice.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Core::Queue
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Queue::EventModulePost'}-&gt;{'1000-GenericInterface'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::GenericInterface::Event::Handler',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

## 3.6. Core::Ticket

### 3.6.1. Ticket::EventModulePost###1000- GenericInterface

Description:	Performs the configured action for each event (as an Invoker) for each configured Webservice.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'1000-GenericInterface'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::GenericInterface::Event::Handler',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

## 3.7. Frontend::Admin::ModuleRegistration

### 3.7.1. Frontend::Module###AdminGenericInterfaceDebugger

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminGenericInterfaceDebugger'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ] };</pre>

	<pre> ], 'Loader' =&gt; {   'CSS' =&gt; [     'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'   ],   'CSS_IE7' =&gt; 'Core.Agent.Admin.GenericInterface.IE7.css',   'JavaScript' =&gt; [     'Core.Agent.Admin.GenericInterfaceDebugger.js'   ] }, 'Title' =&gt; 'GenericInterface Debugger GUI' }; </pre>
--	--

### 3.7.2. Frontend::Module###AdminGenericInterfaceWebservice

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminGenericInterfaceWebservice'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterfaceWebservice.js'     ]   },   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Create and manage web services.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Web Services',     'Prio' =&gt; '1000'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'GenericInterface Web Service GUI' }; </pre>

### 3.7.3. Frontend::Module###AdminGenericInterfaceTransportHTTPS0A

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminGenericInterfaceTransportHTTPS0A'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; { </pre>

```
'CSS' => [
  'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'
],
},
'Title' => 'GenericInterface TransportHTTPS SOAP GUI'
};
```

### 3.7.4.

#### Frontend::Module###AdminGenericInterfaceTransportHTTPREST

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}- &gt;{'AdminGenericInterfaceTransportHTTPREST'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'     ]   },   'Title' =&gt; 'GenericInterface TransportHTTPREST GUI' };</pre>

### 3.7.5.

#### Frontend::Module###AdminGenericInterfaceWebserviceHistory

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}- &gt;{'AdminGenericInterfaceWebserviceHistory'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterfaceWebserviceHistory.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'GenericInterface Webservice History GUI' };</pre>

### 3.7.6.

#### Frontend::Module###AdminGenericInterfaceOperationDefault

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
--------------	---

Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}- &gt;{'AdminGenericInterfaceOperationDefault'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterfaceOperation.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'GenericInterface Operation GUI' }; </pre>

### 3.7.7. Frontend::Module###AdminGenericInterfaceInvokerDefault

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}- &gt;{'AdminGenericInterfaceInvokerDefault'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericInterfaceInvoker.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'GenericInterface Invoker GUI' }; </pre>

### 3.7.8. Frontend::Module###AdminGenericInterfaceMappingSimple

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminGenericInterfaceMappingSimple'} = {   'Description' =&gt; 'Admin', </pre>

```
'Group' => [
  'admin'
],
'Loader' => {
  'CSS' => [
    'Core.Agent.Admin.GenericInterface.css'
  ],
  'CSS_IE7' => 'Core.Agent.Admin.GenericInterface.IE7.css',
  'JavaScript' => [
    'Core.Agent.Admin.GenericInterfaceMappingSimple.js'
  ]
},
'Title' => 'GenericInterface Webservice Mapping GUI'
};
```

## 3.8. GenericInterface::Invoker::ModuleRegistration

### 3.8.1. GenericInterface::Invoker::Module###Test::Test

Description:	GenericInterface module registration for the invoker layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Invoker::ModuleRegistration
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Invoker::Module'}-&gt;{'Test::Test'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceInvokerDefault',   'Controller' =&gt; 'Test',   'Name' =&gt; 'Test' };</pre>

### 3.8.2. GenericInterface::Invoker::Module###Test::TestSimple

Description:	GenericInterface module registration for the invoker layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Invoker::ModuleRegistration
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Invoker::Module'}-&gt;{'Test::TestSimple'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceInvokerDefault',   'Controller' =&gt; 'Test',   'Name' =&gt; 'TestSimple' };</pre>

## 3.9. GenericInterface::Mapping::ModuleRegistration

### 3.9.1. GenericInterface::Mapping::Module###Test

Description:	GenericInterface module registration for the mapping layer.
Group:	GenericInterface

SubGroup:	GenericInterface::Mapping::ModuleRegistration
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Mapping::Module'}-&gt;{'Test'} = {   'ConfigDialog' =&gt; '' };</pre>

### 3.9.2. GenericInterface::Mapping::Module###Simple

Description:	GenericInterface module registration for the mapping layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Mapping::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Mapping::Module'}-&gt;{'Simple'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceMappingSimple' };</pre>

## 3.10. GenericInterface::Operation::ModuleRegistration

### 3.10.1. GenericInterface::Operation::Module###Test::Test

Description:	GenericInterface module registration for the operation layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::ModuleRegistration
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Module'}-&gt;{'Test::Test'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceOperationDefault',   'Controller' =&gt; 'Test',   'Name' =&gt; 'Test' };</pre>

### 3.10.2. GenericInterface::Operation::Module###Session::SessionCreate

Description:	GenericInterface module registration for the operation layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Module'}-&gt;{'Session::SessionCreate'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceOperationDefault',   'Controller' =&gt; 'Session',   'Name' =&gt; 'SessionCreate' };</pre>



### 3.10.3. GenericInterface::Operation::Module###Ticket::TicketCreate

Description:	GenericInterface module registration for the operation layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Module'}- &gt;{'Ticket::TicketCreate'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceOperationDefault',   'Controller' =&gt; 'Ticket',   'Name' =&gt; 'TicketCreate' };</pre>

### 3.10.4. GenericInterface::Operation::Module###Ticket::TicketUpdate

Description:	GenericInterface module registration for the operation layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Module'}- &gt;{'Ticket::TicketUpdate'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceOperationDefault',   'Controller' =&gt; 'Ticket',   'Name' =&gt; 'TicketUpdate' };</pre>

### 3.10.5. GenericInterface::Operation::Module###Ticket::TicketGet

Description:	GenericInterface module registration for the operation layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Module'}- &gt;{'Ticket::TicketGet'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceOperationDefault',   'Controller' =&gt; 'Ticket',   'Name' =&gt; 'TicketGet' };</pre>

### 3.10.6. GenericInterface::Operation::Module###Ticket::TicketSearch

Description:	GenericInterface module registration for the operation layer.
Group:	GenericInterface

SubGroup:	GenericInterface::Operation::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Module'}- &gt;{'Ticket::TicketSearch'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceOperationDefault',   'Controller' =&gt; 'Ticket',   'Name' =&gt; 'TicketGet' };</pre>

## 3.11. GenericInterface::Operation::TicketCreate

### 3.11.1. GenericInterface::Operation::TicketCreate###ArticleType

Description:	Defines the default type of the article for this operation.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketCreate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketCreate'}- &gt;{'ArticleType'} = 'webrequest';</pre>

### 3.11.2. GenericInterface::Operation::TicketCreate###HistoryType

Description:	Defines the history type for this operation, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketCreate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketCreate'}- &gt;{'HistoryType'} = 'NewTicket';</pre>

### 3.11.3. GenericInterface::Operation::TicketCreate###HistoryComment

Description:	Defines the history comment for this operation, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketCreate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketCreate'}- &gt;{'HistoryComment'} = '%%GenericInterface Create';</pre>

### 3.11.4.

## GenericInterface::Operation::TicketCreate###AutoResponseType

Description:	Defines the default auto response type of the article for this operation.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketCreate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketCreate'}-&gt;{'AutoResponseType'} = 'auto reply';</code>

## 3.12.

## GenericInterface::Operation::TicketSearch

### 3.12.1.

## GenericInterface::Operation::TicketSearch###SearchLimit

Description:	Maximum number of tickets to be displayed in the result of this operation.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketSearch'}-&gt;{'SearchLimit'} = '500';</code>

### 3.12.2.

## GenericInterface::Operation::TicketSearch###SortBy::Default

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting of the ticket search result of this operation.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketSearch'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</code>

### 3.12.3.

## GenericInterface::Operation::TicketSearch###Order::Default

Description:	Defines the default ticket order in the ticket search result of the this operation. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketSearch
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketSearch'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Down';</code>

## 3.13. GenericInterface::Operation::TicketUpdate

### 3.13.1. GenericInterface::Operation::TicketUpdate###ArticleType

Description:	Defines the default type of the article for this operation.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketUpdate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketUpdate'}-&gt;{'ArticleType'} = 'webrequest';</code>

### 3.13.2. GenericInterface::Operation::TicketUpdate###HistoryType

Description:	Defines the history type for this operation, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketUpdate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketUpdate'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>

### 3.13.3. GenericInterface::Operation::TicketUpdate###HistoryComment

Description:	Defines the history comment for this operation, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketUpdate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketUpdate'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%GenericInterface Note';</code>

### 3.13.4. GenericInterface::Operation::TicketUpdate###AutoResponseType

Description:	Defines the default auto response type of the article for this operation.
--------------	---

Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Operation::TicketUpdate
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::TicketUpdate'}-&gt;{'AutoResponseType'} = 'auto follow up';</code>

## 3.14. GenericInterface::Transport::ModuleRegistration

### 3.14.1.

#### GenericInterface::Transport::Module###HTTP::SOAP

Description:	GenericInterface module registration for the transport layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Transport::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Transport::Module'}-&gt;{'HTTP::SOAP'} = { 'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceTransportHTTPSOAP', 'Name' =&gt; 'SOAP', 'Protocol' =&gt; 'HTTP' };</code>

### 3.14.2.

#### GenericInterface::Transport::Module###HTTP::REST

Description:	GenericInterface module registration for the transport layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Transport::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Transport::Module'}-&gt;{'HTTP::REST'} = { 'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceTransportHTTPREST', 'Name' =&gt; 'REST', 'Protocol' =&gt; 'HTTP' };</code>

### 3.14.3.

#### GenericInterface::Transport::Module###HTTP::Test

Description:	GenericInterface module registration for the transport layer.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Transport::ModuleRegistration
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Transport::Module'}-&gt;{'HTTP::Test'} = { 'ConfigDialog' =&gt; 'AdminGenericInterfaceTransportHTTPTest', 'Name' =&gt; 'Test',</code>

```
'Protocol' => 'HTTP'
};
```

## 3.15. GenericInterface::Webservice

### 3.15.1. GenericInterface::WebserviceConfig::CacheTTL

Description:	Cache time in seconds for the web service config backend.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Webservice
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::WebserviceConfig::CacheTTL'} = '86400';</code>

### 3.15.2.

### GenericInterface::Operation::Common::CachedAuth::AgentCacheTTL

Description:	Cache time in seconds for agent authentication in the GenericInterface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Webservice
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Common::CachedAuth::AgentCacheTTL'} = '300';</code>

### 3.15.3.

### GenericInterface::Operation::Common::CachedAuth::CustomerCacheTTL

Description:	Cache time in seconds for customer authentication in the GenericInterface.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Webservice
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Operation::Common::CachedAuth::CustomerCacheTTL'} = '300';</code>

### 3.15.4. GenericInterface::Webservice::Path::Separator

Description:	Webservice path separator.
Group:	GenericInterface
SubGroup:	GenericInterface::Webservice
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'GenericInterface::Webservice::Path::Separator'} = '&gt;';</code>

## 4. ProcessManagement

### 4.1. Core

#### 4.1.1.

#### **Process::DynamicFieldProcessManagementProcessID**

Description:	This option defines the dynamic field in which a Process Management process entity id is stored.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::DynamicFieldProcessManagementProcessID'} = 'ProcessManagementProcessID';</code>

#### 4.1.2.

#### **Process::DynamicFieldProcessManagementActivityID**

Description:	This option defines the dynamic field in which a Process Management activity entity id is stored.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::DynamicFieldProcessManagementActivityID'} = 'ProcessManagementActivityID';</code>

#### 4.1.3. **Process::DefaultQueue**

Description:	This option defines the process tickets default queue.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::DefaultQueue'} = 'Raw';</code>

#### 4.1.4. **Process::DefaultState**

Description:	This option defines the process tickets default state.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::DefaultState'} = 'new';</code>

#### 4.1.5. **Process::DefaultLock**

Description:	This option defines the process tickets default lock.
--------------	---

Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::DefaultLock'} = 'unlock';</code>

#### 4.1.6. Process::DefaultPriority

Description:	This option defines the process tickets default priority.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::DefaultPriority'} = '3 normal';</code>

#### 4.1.7. Process::Entity::Prefix

Description:	Default ProcessManagement entity prefixes for entity IDs that are automatically generated.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::Entity::Prefix'} = {        'Activity' =&gt; 'A',        'ActivityDialog' =&gt; 'AD',        'Process' =&gt; 'P',        'Transition' =&gt; 'T',        'TransitionAction' =&gt; 'TA'      };</code>

#### 4.1.8. Process::CacheTTL

Description:	Cache time in seconds for the DB process backend.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::CacheTTL'} = '3600';</code>

#### 4.1.9. Process::NavBarOutput::CacheTTL

Description:	Cache time in seconds for the ticket process navigation bar output module.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Process::NavBarOutput::CacheTTL'} = '900';</code>



## 4.2. Core::Ticket

### 4.2.1.

#### Ticket::EventModulePost###TicketProcessTransitions

Description:	Event module registration. For more performance you can define a trigger event (e. g. Event => TicketCreate).
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'TicketProcessTransitions'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::Event::TicketProcessTransitions',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

## 4.3. Core::Transition

### 4.3.1.

#### ProcessManagement::Transition::Debug::Enabled

Description:	If enabled debugging information for transitions is logged.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core::Transition
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ProcessManagement::Transition::Debug::Enabled'} = '0';</pre>

### 4.3.2.

#### ProcessManagement::Transition::Debug::LogPriority

Description:	Defines the priority in which the information is logged and presented.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core::Transition
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ProcessManagement::Transition::Debug::LogPriority'} = 'debug';</pre>

### 4.3.3.

#### ProcessManagement::Transition::Debug::Filter###00-Default

Description:	Filter for debugging Transitions. Note: More filters can be added in the format <OTRS_TICKET_Attribute> e.g. <OTRS_TICKET_Priority>.
--------------	--

Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Core::Transition
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ProcessManagement::Transition::Debug::Filter'}-&gt;{'00-Default'} = {   '&lt;OTRS_TICKET_TicketNumber&gt;' =&gt; '',   'TransitionEntityID' =&gt; '' };</pre>

## 4.4. DynamicFields::Driver::Registration

### 4.4.1. DynamicFields::Driver###ProcessID

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'ProcessID'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldText',   'DisabledAdd' =&gt; '1',   'DisplayName' =&gt; 'ProcessID',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::DynamicField::Driver::ProcessManagement::ProcessID' };</pre>

### 4.4.2. DynamicFields::Driver###ActivityID

Description:	DynamicField backend registration.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	DynamicFields::Driver::Registration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFields::Driver'}-&gt;{'ActivityID'} = {   'ConfigDialog' =&gt; 'AdminDynamicFieldText',   'DisabledAdd' =&gt; '1',   'DisplayName' =&gt; 'ActivityID',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::DynamicField::Driver::ProcessManagement::ActivityID' };</pre>

## 4.5. Frontend::Admin::ModuleRegistration

### 4.5.1. Frontend::Module###AdminProcessManagement

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminProcessManagement'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'thirdparty/jsplumb-1.6.4/jsplumb.js',       'thirdparty/farahey-0.5/farahey.js',       'thirdparty/jsplumb-labelspacer/label-spacer.js',       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.js',       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.Canvas.js',       'Core.UI.AllocationList.js'     ]   },   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Configure Processes.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Process Management',     'Prio' =&gt; '750'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Process Management' }; </pre>

#### 4.5.2. Frontend::Module###AdminProcessManagementActivity

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminProcessManagementActivity'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.js',       'Core.UI.AllocationList.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Process Management Activity GUI' }; </pre>

#### 4.5.3. Frontend::Module###AdminProcessManagementActivityDialog

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	ProcessManagement

SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}- &gt;{'AdminProcessManagementActivityDialog'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.js',       'Core.UI.AllocationList.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Process Management Activity Dialog GUI' }; </pre>

#### 4.5.4. Frontend::Module###AdminProcessManagementTransition

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminProcessManagementTransition'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Process Management Transition GUI' }; </pre>

#### 4.5.5. Frontend::Module###AdminProcessManagementTransitionActio

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}- &gt;{'AdminProcessManagementTransitionAction'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [ </pre>

	<pre>       'admin'     ],     'Loader' =&gt; {       'CSS' =&gt; [         'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.css'       ],       'JavaScript' =&gt; [         'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.js'       ]     },     'Title' =&gt; 'Process Management Transition Action GUI'   }; </pre>
--	--

## 4.5.6. Frontend::Module###AdminProcessManagementPath

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminProcessManagementPath'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.ProcessManagement.js',       'Core.UI.AllocationList.js'     ]   },   'Title' =&gt; 'Process Management Path GUI' }; </pre>

## 4.6. Frontend::Agent::Dashboard

### 4.6.1. DashboardBackend###0140-RunningTicketProcess

Description:	Parameters for the dashboard backend of the running process tickets overview of the agent interface . "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0140-RunningTicketProcess'} = {   'Attributes' =&gt; 'StateType=new;StateType=open;StateType=pending reminder;StateType=pending auto', </pre>

```

'Block' => 'ContentLarge',
'CacheTTLLocal' => '0.5',
'Default' => '0',
'DefaultColumns' => {
  'Age' => '2',
  'Changed' => '1',
  'CustomerID' => '1',
  'CustomerName' => '1',
  'CustomerUserID' => '1',
  'DynamicField_ProcessManagementActivityID' => '2',
  'DynamicField_ProcessManagementProcessID' => '2',
  'EscalationResponseTime' => '1',
  'EscalationSolutionTime' => '1',
  'EscalationTime' => '1',
  'EscalationUpdateTime' => '1',
  'Lock' => '1',
  'Owner' => '1',
  'PendingTime' => '1',
  'Priority' => '1',
  'Queue' => '1',
  'Responsible' => '1',
  'SLA' => '1',
  'Service' => '1',
  'State' => '1',
  'TicketNumber' => '2',
  'Title' => '2',
  'Type' => '1'
},
'Description' => 'All tickets with a reminder set where the
reminder date has been reached',
'Group' => '',
'IsProcessWidget' => '1',
'Limit' => '10',
'Module' => 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',
'Permission' => 'rw',
'Time' => 'UntilTime',
'Title' => 'Running Process Tickets'
};

```

## 4.7. Frontend::Agent::ModuleRegistration

### 4.7.1. Frontend::Module###AgentTicketProcess

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketProcess'} = {   'Description' =&gt; 'Create new process ticket',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.TicketProcess.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js',       'Core.Agent.TicketProcess.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'p',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Create New process ticket',       'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketProcess', </pre>

```

'LinkOption' => '',
'Name' => 'New process ticket',
'NavBar' => 'Ticket',
'Prio' => '220',
'Type' => ''
}
],
'NavBarName' => 'Ticket',
'Title' => 'New process ticket'
};

```

## 4.8. Frontend::Agent::NavBarModule

### 4.8.1. Frontend::NavBarModule###1-TicketProcesses

Description:	Frontend module registration (disable ticket processes screen if no process available).
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::NavBarModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::NavBarModule'}-&gt;{'1-TicketProcesses'} = { 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarAgentTicketProcess' };</code>

## 4.9. Frontend::Agent::Ticket::MenuModule

### 4.9.1. Ticket::Frontend::MenuModule###480-Process

Description:	Shows a link in the menu to enroll a ticket into a process in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'480-Process'} = { 'Action' =&gt; 'AgentTicketProcess', 'Description' =&gt; 'Enroll this ticket into a process', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketProcess;IsProcessEnroll=1;TicketID=[% Data.TicketID   html %]', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuProcess', 'Name' =&gt; 'Process Enroll', 'PopupType' =&gt; 'TicketAction', 'Target' =&gt; '' };</code>

## 4.10. Frontend::Agent::Ticket::ViewProcess

### 4.10.1.

### Ticket::Frontend::AgentTicketProcess###StateType

Description:	Determines the next possible ticket states, for process tickets in the agent interface.
Group:	ProcessManagement

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewProcess
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketProcess'}-&gt;{'StateType'} = [   'new',   'open',   'pending auto',   'pending reminder',   'closed' ];</pre>

### 4.10.2. Ticket::Frontend::CustomerTicketProcess###StateType

Description:	Determines the next possible ticket states, for process tickets in the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewProcess
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketProcess'}-&gt;{'StateType'} = [   'new',   'open' ];</pre>

### 4.10.3. Ticket::Frontend::AgentTicketProcess::CustomerIDReadOnly

Description:	Controls if CustomerID is editable in the agent interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewProcess
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketProcess::CustomerIDReadOnly'} = '1';</pre>

## 4.11. Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom

### 4.11.1. Ticket::Frontend::AgentTicketZoom###ProcessDisplay

Description:	Display settings to override defaults for Process Tickets.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketZoom'}-&gt;{'ProcessDisplay'} = {   'NavBarName' =&gt; 'Processes',</pre>



	<code>'WidgetTitle' =&gt; 'Process Information';</code>
--	---

### 4.11.2.

## Ticket::Frontend::AgentTicketZoom###ProcessWidgetDynamicF

Description:	Dynamic fields groups for process widget. The key is the name of the group, the value contains the fields to be shown. Example: 'Key => My Group', 'Content: Name_X, NameY'.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketZoom'}-&gt;{'ProcessWidgetDynamicFieldGroups'} = {};</code>

### 4.11.3.

## Ticket::Frontend::AgentTicketZoom###ProcessWidgetDynamicF

Description:	Dynamic fields shown in the process widget in ticket zoom screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketZoom'}-&gt;{'ProcessWidgetDynamicField'} = {};</code>

## 4.12.

## Frontend::Customer::ModuleRegistration

### 4.12.1.

## CustomerFrontend::Module###CustomerTicketProcess

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerTicketProcess'} = {        'Description' =&gt; 'Process Ticket',        'Loader' =&gt; {          'CSS' =&gt; [            'Core.Customer.TicketProcess.css'          ]        },        'NavBar' =&gt; [          {            'AccessKey' =&gt; 'o',            'Block' =&gt; '',          }        ]      };</code>

```
'Description' => 'Create new process ticket',
'Link' => 'Action=CustomerTicketProcess',
'LinkOption' => '',
'Name' => 'New process ticket',
'NavBar' => 'Ticket',
'Prio' => '220',
'Type' => 'Submenu'
}
],
'NavBarName' => 'Ticket',
'Title' => 'Process ticket'
};
```

## 4.13. Frontend::Customer::NavBarModule

### 4.13.1. CustomerFrontend::NavBarModule###10-CustomerTicketProcesses

Description:	Frontend module registration (disable ticket processes screen if no process available) for Customer.
Group:	ProcessManagement
SubGroup:	Frontend::Customer::NavBarModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::NavBarModule'}-&gt;{'10-CustomerTicketProcesses'} = { 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarCustomerTicketProcess' };</code>

## 5. Scheduler

### 5.1. Core

#### 5.1.1. Scheduler::SleepTime

Description:	Defines scheduler sleep time in seconds after processing all available tasks (floating point number).
Group:	Scheduler
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Scheduler::SleepTime'} = '1.0';</code>

#### 5.1.2. Scheduler::PIDUpdateTime

Description:	Defines scheduler PID update time in seconds.
Group:	Scheduler
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Scheduler::PIDUpdateTime'} = '600';</code>

### 5.1.3. Scheduler::RestartAfterSeconds

Description:	Defines the time in seconds after which the Scheduler performs an automatic self-restart.
Group:	Scheduler
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Scheduler::RestartAfterSeconds'} = '86400';</code>

### 5.1.4. Scheduler::TaskDataLength

Description:	Defines the maximum length (in characters) for a scheduler task data. WARNING: Do not modify this setting unless you are sure of the current Database length for 'task_data' filed from 'scheduler_data_list' table.
Group:	Scheduler
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Scheduler::TaskDataLength'} = '8000';</code>

## 5.2. Core::Log

### 5.2.1. Scheduler::LogPath

Description:	Defines the path for scheduler to store its console output (SchedulerOUT.log and SchedulerERR.log).
Group:	Scheduler
SubGroup:	Core::Log
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Scheduler::LogPath'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/log';</code>

### 5.2.2. Scheduler::Log::DaysToKeep

Description:	Defines the time in days to keep log backup files.
Group:	Scheduler
SubGroup:	Core::Log
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Scheduler::Log::DaysToKeep'} = '10';</code>

## 5.3. Core::Web

### 5.3.1. Loader::Agent::CommonCSS###000-Scheduler

Description:	List of CSS files to always be loaded for the agent interface.
--------------	--

Group:	Scheduler
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::CommonCSS'}-&gt;{'000-Scheduler'} = [   'Core.Agent.SchedulerInfo.css' ];</pre>

### 5.3.2. Loader::Agent::CommonJS###000-Scheduler

Description:	List of JS files to always be loaded for the agent interface.
Group:	Scheduler
SubGroup:	Core::Web
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Loader::Agent::CommonJS'}-&gt;{'000-Scheduler'} = [   'Core.Agent.SchedulerInfo.js' ];</pre>

## 5.4. Frontend::Admin::ModuleRegistration

### 5.4.1. Frontend::Module###AgentSchedulerInfo

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Scheduler
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentSchedulerInfo'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Title' =&gt; 'Shows information on how to start OTRS Scheduler' };</pre>

## 5.5. Frontend::Agent::ModuleNotify

### 5.5.1. Frontend::NotifyModule###800-Scheduler-Check

Description:	Defines the module to display a notification in the agent interface if the scheduler is not running.
Group:	Scheduler
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'800-Scheduler-Check'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NotificationSchedulerCheck' };</pre>

```
};
```

## 6. Ticket

### 6.1. Core

#### 6.1.1. OTRSEscalationEvents::DecayTime

Description:	The duration in minutes after emitting an event, in which the new escalation notify and start events are suppressed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'OTRSEscalationEvents::DecayTime'} = '1440';</code>

### 6.2. Core::CustomerCompany

#### 6.2.1. CustomerCompany::EventModulePost###110-UpdateTickets

Description:	Event module that updates tickets after an update of the Customer.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::CustomerCompany
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerCompany::EventModulePost'}-&gt;{'110-UpdateTickets'} = {   'Event' =&gt; 'CustomerCompanyUpdate',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::CustomerCompany::Event::TicketUpdate',   'Transaction' =&gt; '0' };</code>

#### 6.2.2. CustomerUser::EventModulePost###120-UpdateTickets

Description:	Event module that updates tickets after an update of the Customer User.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::CustomerCompany
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerUser::EventModulePost'}-&gt;{'120-UpdateTickets'} = {   'Event' =&gt; 'CustomerUserUpdate',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::CustomerUser::Event::TicketUpdate',   'Transaction' =&gt; '0' };</code>

## 6.3. Core::**FulltextSearch**

### 6.3.1. Ticket::**SearchIndexModule**

Description:	Helps to extend your articles full-text search (From, To, Cc, Subject and Body search). Runtime will do full-text searches on live data (it works fine for up to 50.000 tickets). StaticDB will strip all articles and will build an index after article creation, increasing fulltext searches about 50%. To create an initial index use "bin/otrs.RebuildFulltextIndex.pl".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core:: <b>FulltextSearch</b>
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SearchIndexModule'} = 'Kernel::System::Ticket::ArticleSearchIndex::RuntimeDB';</code>

### 6.3.2. Ticket::**SearchIndex::WarnOnStopWordUsage**

Description:	Display a warning and prevent search when using stop words within fulltext search.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core:: <b>FulltextSearch</b>
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SearchIndex::WarnOnStopWordUsage'} = '0';</code>

### 6.3.3. Ticket::**SearchIndex::Attribute**

Description:	Basic fulltext index settings. Execute "bin/otrs.RebuildFulltextIndex.pl" in order to generate a new index.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core:: <b>FulltextSearch</b>
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SearchIndex::Attribute'} = {          'WordCountMax' =&gt; '1000',          'WordLengthMax' =&gt; '30',          'WordLengthMin' =&gt; '3'      };</code>

### 6.3.4. Ticket::**SearchIndex::Filters**

Description:	Fulltext index regex filters to remove parts of the text.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core:: <b>FulltextSearch</b>
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SearchIndex::Filters'} = [          '[,\\&amp;\\&lt;\\&gt;\\?\"\\!\\*\\ ;\\[\\]\\\\(\\)\\+\\\$\\^=]',          '^[\\':.]] [\\':.]\$',          '^[^\w]+\$'</code>

];

### 6.3.5. Ticket::SearchIndex::StopWords

Description:	Stop words for fulltext index. These words will be removed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::FulltextSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Ticket::SearchIndex::StopWords'} = {   'a' =&gt; '1',   'aan' =&gt; '1',   'aber' =&gt; '1',   'about' =&gt; '1',   'above' =&gt; '1',   'adesso' =&gt; '1',   'af' =&gt; '1',   'after' =&gt; '1',   'again' =&gt; '1',   'against' =&gt; '1',   'ai' =&gt; '1',   'al' =&gt; '1',   'alguna' =&gt; '1',   'algunas' =&gt; '1',   'alguno' =&gt; '1',   'algunos' =&gt; '1',   'algún' =&gt; '1',   'all' =&gt; '1',   'alla' =&gt; '1',   'alleen' =&gt; '1',   'allo' =&gt; '1',   'allora' =&gt; '1',   'alors' =&gt; '1',   'als' =&gt; '1',   'altre' =&gt; '1',   'altri' =&gt; '1',   'altro' =&gt; '1',   'am' =&gt; '1',   'ambos' =&gt; '1',   'ampleamos' =&gt; '1',   'an' =&gt; '1',   'anche' =&gt; '1',   'ancora' =&gt; '1',   'and' =&gt; '1',   'ander' =&gt; '1',   'ante' =&gt; '1',   'antes' =&gt; '1',   'any' =&gt; '1',   'aquel' =&gt; '1',   'aquellas' =&gt; '1',   'aquellos' =&gt; '1',   'aqui' =&gt; '1',   'are' =&gt; '1',   'aren\t' =&gt; '1',   'arriba' =&gt; '1',   'as' =&gt; '1',   'at' =&gt; '1',   'atras' =&gt; '1',   'au' =&gt; '1',   'auch' =&gt; '1',   'aucuns' =&gt; '1',   'auf' =&gt; '1',   'aus' =&gt; '1',   'aussi' =&gt; '1',   'autre' =&gt; '1',   'avant' =&gt; '1',   'avec' =&gt; '1',   'avere' =&gt; '1', </pre>

```
'aveva' => '1',
'vevano' => '1',
'avoir' => '1',
'bajo' => '1',
'bastante' => '1',
'be' => '1',
'because' => '1',
'been' => '1',
'before' => '1',
'beginnen' => '1',
'bei' => '1',
'being' => '1',
'below' => '1',
'ben' => '1',
'between' => '1',
'bien' => '1',
'bij' => '1',
'bin' => '1',
'bis' => '1',
'bist' => '1',
'blijven' => '1',
'bon' => '1',
'both' => '1',
'buono' => '1',
'but' => '1',
'by' => '1',
'cada' => '1',
'can\'t' => '1',
'cannot' => '1',
'car' => '1',
'ce' => '1',
'cela' => '1',
'ces' => '1',
'ceux' => '1',
'chaque' => '1',
'che' => '1',
'chi' => '1',
'ci' => '1',
'cierta' => '1',
'ciertas' => '1',
'cierto' => '1',
'ciertos' => '1',
'cinque' => '1',
'comme' => '1',
'comment' => '1',
'como' => '1',
'comprare' => '1',
'con' => '1',
'consecutivi' => '1',
'consecutivo' => '1',
'consequimos' => '1',
'conseguir' => '1',
'consigo' => '1',
'consigue' => '1',
'consiguen' => '1',
'consigues' => '1',
'cosa' => '1',
'could' => '1',
'couldn\'t' => '1',
'cual' => '1',
'cuando' => '1',
'cui' => '1',
'da' => '1',
'dadurch' => '1',
'dag' => '1',
'daher' => '1',
'dan' => '1',
'dans' => '1',
'darum' => '1',
'das' => '1',
'dass' => '1',
'dat' => '1',
```



```
'daß' => '1',  
'de' => '1',  
'dedans' => '1',  
'dehors' => '1',  
'dein' => '1',  
'deine' => '1',  
'del' => '1',  
'della' => '1',  
'dello' => '1',  
'dem' => '1',  
'den' => '1',  
'denken' => '1',  
'dentro' => '1',  
'depuis' => '1',  
'der' => '1',  
'des' => '1',  
'desde' => '1',  
'deshalb' => '1',  
'dessen' => '1',  
'deux' => '1',  
'deve' => '1',  
'devo' => '1',  
'devrait' => '1',  
'deze' => '1',  
'di' => '1',  
'did' => '1',  
'didn\'t' => '1',  
'die' => '1',  
'dies' => '1',  
'dieser' => '1',  
'dieses' => '1',  
'dit' => '1',  
'do' => '1',  
'doch' => '1',  
'doen' => '1',  
'does' => '1',  
'doesn\'t' => '1',  
'doing' => '1',  
'doit' => '1',  
'don\'t' => '1',  
'donc' => '1',  
'donde' => '1',  
'door' => '1',  
'doppio' => '1',  
'dort' => '1',  
'dos' => '1',  
'down' => '1',  
'droite' => '1',  
'du' => '1',  
'due' => '1',  
'durch' => '1',  
'during' => '1',  
'dus' => '1',  
'début' => '1',  
'e' => '1',  
'each' => '1',  
'ecco' => '1',  
'echt' => '1',  
'een' => '1',  
'eens' => '1',  
'ein' => '1',  
'eine' => '1',  
'einem' => '1',  
'einen' => '1',  
'einer' => '1',  
'eines' => '1',  
'el' => '1',  
'elk' => '1',  
'elkaar' => '1',  
'ellas' => '1',  
'elle' => '1',  
'elles' => '1',
```

```
'ellos' => '1',
'empleais' => '1',
'emplean' => '1',
'emplear' => '1',
'empleas' => '1',
'empleo' => '1',
'en' => '1',
'encima' => '1',
'encore' => '1',
'entonces' => '1',
'entre' => '1',
'er' => '1',
'era' => '1',
'eramos' => '1',
'eran' => '1',
'eras' => '1',
'eres' => '1',
'es' => '1',
'essai' => '1',
'est' => '1',
'esta' => '1',
'estaba' => '1',
'estado' => '1',
'estais' => '1',
'estamos' => '1',
'estan' => '1',
'estoy' => '1',
'et' => '1',
'eu' => '1',
'euer' => '1',
'eure' => '1',
'even' => '1',
'fait' => '1',
'faites' => '1',
'fare' => '1',
'few' => '1',
'fin' => '1',
'fine' => '1',
'fino' => '1',
'fois' => '1',
'font' => '1',
'for' => '1',
'force' => '1',
'fra' => '1',
'from' => '1',
'fue' => '1',
'fueron' => '1',
'fui' => '1',
'fuimos' => '1',
'further' => '1',
'für' => '1',
'gaan' => '1',
'gebruiken' => '1',
'geen' => '1',
'gente' => '1',
'geven' => '1',
'giu' => '1',
'goed' => '1',
'groot' => '1',
'gueno' => '1',
'ha' => '1',
'haar' => '1',
'hace' => '1',
'haceis' => '1',
'hacemos' => '1',
'hacen' => '1',
'hacer' => '1',
'haces' => '1',
'had' => '1',
'hadn\'t' => '1',
'hago' => '1',
'hai' => '1',
```

```
'hanno' => '1',
'has' => '1',
'hasn\'t' => '1',
'hatte' => '1',
'hatten' => '1',
'hattest' => '1',
'hattet' => '1',
'haut' => '1',
'have' => '1',
'haven\'t' => '1',
'having' => '1',
'he' => '1',
'he\'d' => '1',
'he\'ll' => '1',
'he\'s' => '1',
'hebben' => '1',
'heel' => '1',
'hem' => '1',
'her' => '1',
'here' => '1',
'here\'s' => '1',
'hers' => '1',
'herself' => '1',
'het' => '1',
'hier' => '1',
'hij' => '1',
'him' => '1',
'himself' => '1',
'hinter' => '1',
'his' => '1',
'ho' => '1',
'hoe' => '1',
'horen' => '1',
'hors' => '1',
'houden' => '1',
'how' => '1',
'how\'s' => '1',
'huis' => '1',
'hun' => '1',
'i' => '1',
'i\'d' => '1',
'i\'ll' => '1',
'i\'m' => '1',
'i\'ve' => '1',
'ich' => '1',
'ici' => '1',
'iets' => '1',
'if' => '1',
'ih' => '1',
'ihre' => '1',
'il' => '1',
'ils' => '1',
'im' => '1',
'in' => '1',
'incluso' => '1',
'indietro' => '1',
'intenta' => '1',
'intentais' => '1',
'intentamos' => '1',
'intentan' => '1',
'intentar' => '1',
'intentas' => '1',
'intento' => '1',
'into' => '1',
'invece' => '1',
'io' => '1',
'ir' => '1',
'is' => '1',
'isn\'t' => '1',
'ist' => '1',
'it' => '1',
'it\'s' => '1',
```

```
'its' => '1',  
'itself' => '1',  
'ja' => '1',  
'jaar' => '1',  
'je' => '1',  
'jede' => '1',  
'jedem' => '1',  
'jeden' => '1',  
'jeder' => '1',  
'jedes' => '1',  
'jener' => '1',  
'jenes' => '1',  
'jetzt' => '1',  
'jij' => '1',  
'jou' => '1',  
'jullie' => '1',  
'juste' => '1',  
'kann' => '1',  
'kannst' => '1',  
'keer' => '1',  
'kijken' => '1',  
'kind' => '1',  
'komen' => '1',  
'krijgen' => '1',  
'kunnen' => '1',  
'können' => '1',  
'könnt' => '1',  
'la' => '1',  
'laat' => '1',  
'land' => '1',  
'lang' => '1',  
'largo' => '1',  
'las' => '1',  
'laten' => '1',  
'lavoro' => '1',  
'le' => '1',  
'lei' => '1',  
'les' => '1',  
'let\'s' => '1',  
'leur' => '1',  
'lezen' => '1',  
'liggen' => '1',  
'lo' => '1',  
'lopen' => '1',  
'loro' => '1',  
'los' => '1',  
'lui' => '1',  
'lungo' => '1',  
'là' => '1',  
'ma' => '1',  
'maar' => '1',  
'machen' => '1',  
'maintenant' => '1',  
'mais' => '1',  
'maken' => '1',  
'man' => '1',  
'me' => '1',  
'mee' => '1',  
'meglio' => '1',  
'mein' => '1',  
'meine' => '1',  
'mens' => '1',  
'mes' => '1',  
'met' => '1',  
'mientras' => '1',  
'mijn' => '1',  
'mine' => '1',  
'mio' => '1',  
'mit' => '1',  
'modo' => '1',  
'moeder' => '1',  
'moeten' => '1',
```

```
'mogen' => '1',  
'moins' => '1',  
'molta' => '1',  
'molte' => '1',  
'molto' => '1',  
'mon' => '1',  
'more' => '1',  
'most' => '1',  
'mot' => '1',  
'muchos' => '1',  
'musst' => '1',  
'mustn\'t' => '1',  
'muy' => '1',  
'muß' => '1',  
'mußt' => '1',  
'my' => '1',  
'myself' => '1',  
'même' => '1',  
'müssen' => '1',  
'müßt' => '1',  
'na' => '1',  
'naar' => '1',  
'nach' => '1',  
'nachdem' => '1',  
'nee' => '1',  
'nei' => '1',  
'nein' => '1',  
'nella' => '1',  
'net' => '1',  
'ni' => '1',  
'nicht' => '1',  
'niet' => '1',  
'nieuw' => '1',  
'no' => '1',  
'nog' => '1',  
'noi' => '1',  
'nome' => '1',  
'nommés' => '1',  
'nor' => '1',  
'nos' => '1',  
'nosotros' => '1',  
'nostro' => '1',  
'not' => '1',  
'notre' => '1',  
'nou' => '1',  
'nous' => '1',  
'nouveaux' => '1',  
'nove' => '1',  
'nu' => '1',  
'nun' => '1',  
'nuovi' => '1',  
'nuovo' => '1',  
'o' => '1',  
'oder' => '1',  
'of' => '1',  
'off' => '1',  
'oltre' => '1',  
'om' => '1',  
'omdat' => '1',  
'on' => '1',  
'once' => '1',  
'only' => '1',  
'ons' => '1',  
'ook' => '1',  
'op' => '1',  
'or' => '1',  
'ora' => '1',  
'other' => '1',  
'otro' => '1',  
'otto' => '1',  
'ou' => '1',  
'ought' => '1',
```

```
'our' => '1',  
'ours' => '1',  
'ourselves' => '1',  
'out' => '1',  
'over' => '1',  
'own' => '1',  
'où' => '1',  
'par' => '1',  
'para' => '1',  
'parce' => '1',  
'parole' => '1',  
'pas' => '1',  
'peggio' => '1',  
'pero' => '1',  
'persone' => '1',  
'personnes' => '1',  
'peu' => '1',  
'peut' => '1',  
'piu' => '1',  
'pièce' => '1',  
'plupart' => '1',  
'poco' => '1',  
'podeis' => '1',  
'podemos' => '1',  
'poder' => '1',  
'podria' => '1',  
'podriais' => '1',  
'podriamos' => '1',  
'podrian' => '1',  
'podrias' => '1',  
'por' => '1',  
'por qué' => '1',  
'porque' => '1',  
'pour' => '1',  
'pourquoi' => '1',  
'primero' => '1',  
'primo' => '1',  
'promesso' => '1',  
'puede' => '1',  
'pueden' => '1',  
'puedo' => '1',  
'qua' => '1',  
'quand' => '1',  
'quarto' => '1',  
'quasi' => '1',  
'quattro' => '1',  
'que' => '1',  
'quel' => '1',  
'quelle' => '1',  
'quelles' => '1',  
'quello' => '1',  
'quels' => '1',  
'questo' => '1',  
'qui' => '1',  
'quien' => '1',  
'quindi' => '1',  
'quinto' => '1',  
'rispetto' => '1',  
'roepen' => '1',  
'sa' => '1',  
'sabe' => '1',  
'sabeis' => '1',  
'sabemos' => '1',  
'saben' => '1',  
'saber' => '1',  
'sabes' => '1',  
'same' => '1',  
'sans' => '1',  
'sara' => '1',  
'schrijven' => '1',  
'secondo' => '1',  
'sei' => '1',
```

```
'seid' => '1',  
'sein' => '1',  
'seine' => '1',  
'sembra' => '1',  
'sembrava' => '1',  
'senza' => '1',  
'ser' => '1',  
'ses' => '1',  
'sette' => '1',  
'seulement' => '1',  
'shan\'t' => '1',  
'she' => '1',  
'she\'d' => '1',  
'she\'ll' => '1',  
'she\'s' => '1',  
'should' => '1',  
'shouldn\'t' => '1',  
'si' => '1',  
'sia' => '1',  
'siamo' => '1',  
'sich' => '1',  
'sie' => '1',  
'sien' => '1',  
'siendo' => '1',  
'siete' => '1',  
'sin' => '1',  
'sind' => '1',  
'so' => '1',  
'sobre' => '1',  
'sois' => '1',  
'solamente' => '1',  
'soll' => '1',  
'sollen' => '1',  
'sollst' => '1',  
'sollt' => '1',  
'solo' => '1',  
'some' => '1',  
'somos' => '1',  
'son' => '1',  
'sono' => '1',  
'sonst' => '1',  
'sont' => '1',  
'sopra' => '1',  
'soprattutto' => '1',  
'sotto' => '1',  
'sous' => '1',  
'soweit' => '1',  
'sowie' => '1',  
'soy' => '1',  
'soyez' => '1',  
'staan' => '1',  
'stati' => '1',  
'stato' => '1',  
'stesso' => '1',  
'su' => '1',  
'subito' => '1',  
'such' => '1',  
'sujet' => '1',  
'sul' => '1',  
'sulla' => '1',  
'sur' => '1',  
'sus' => '1',  
'ta' => '1',  
'también' => '1',  
'tandis' => '1',  
'tanto' => '1',  
'te' => '1',  
'tegen' => '1',  
'tekst' => '1',  
'tellement' => '1',  
'tels' => '1',  
'tempo' => '1',
```

```
'teneis' => '1',
'tenemos' => '1',
'tener' => '1',
'tengo' => '1',
'terzo' => '1',
'tes' => '1',
'than' => '1',
'that' => '1',
'that\'s' => '1',
'the' => '1',
'their' => '1',
'theirs' => '1',
'them' => '1',
'themselves' => '1',
'then' => '1',
'there' => '1',
'there\'s' => '1',
'these' => '1',
'they' => '1',
'they\'d' => '1',
'they\'ll' => '1',
'they\'re' => '1',
'they\'ve' => '1',
'this' => '1',
'those' => '1',
'through' => '1',
'tiempo' => '1',
'tiene' => '1',
'tienen' => '1',
'tijd' => '1',
'to' => '1',
'toch' => '1',
'todo' => '1',
'ton' => '1',
'too' => '1',
'tot' => '1',
'tous' => '1',
'tout' => '1',
'tra' => '1',
'trabaja' => '1',
'trabajais' => '1',
'trabajamos' => '1',
'trabajan' => '1',
'trabajar' => '1',
'trabajas' => '1',
'trabajo' => '1',
'tras' => '1',
'tre' => '1',
'triplo' => '1',
'trop' => '1',
'très' => '1',
'tu' => '1',
'tuyo' => '1',
'twee' => '1',
'u' => '1',
'uit' => '1',
'ultimo' => '1',
'un' => '1',
'una' => '1',
'unas' => '1',
'und' => '1',
'under' => '1',
'uno' => '1',
'unos' => '1',
'unser' => '1',
'unserè' => '1',
'unter' => '1',
'until' => '1',
'up' => '1',
'usa' => '1',
'usais' => '1',
'usamos' => '1',
```



```
'usan' => '1',  
'usar' => '1',  
'usas' => '1',  
'uso' => '1',  
'va' => '1',  
'vader' => '1',  
'vai' => '1',  
'vais' => '1',  
'valeur' => '1',  
'valor' => '1',  
'vamos' => '1',  
'van' => '1',  
'vaya' => '1',  
'veel' => '1',  
'verdad' => '1',  
'verdadera' => '1',  
'verdadero' => '1',  
'vertellen' => '1',  
'very' => '1',  
'vinden' => '1',  
'voi' => '1',  
'voie' => '1',  
'voient' => '1',  
'volte' => '1',  
'vom' => '1',  
'von' => '1',  
'vont' => '1',  
'voor' => '1',  
'vor' => '1',  
'vosotras' => '1',  
'vosotros' => '1',  
'vostro' => '1',  
'votre' => '1',  
'vous' => '1',  
'voy' => '1',  
'vragen' => '1',  
'vu' => '1',  
'waar' => '1',  
'waarom' => '1',  
'wann' => '1',  
'want' => '1',  
'warum' => '1',  
'was' => '1',  
'wasn\'t' => '1',  
'wat' => '1',  
'we' => '1',  
'we\'d' => '1',  
'we\'ll' => '1',  
'we\'re' => '1',  
'we\'ve' => '1',  
'weer' => '1',  
'weiter' => '1',  
'weitere' => '1',  
'wel' => '1',  
'welk' => '1',  
'wenn' => '1',  
'wer' => '1',  
'werde' => '1',  
'werden' => '1',  
'werdet' => '1',  
'were' => '1',  
'weren\'t' => '1',  
'weshalb' => '1',  
'weten' => '1',  
'what' => '1',  
'what\'s' => '1',  
'when' => '1',  
'when\'s' => '1',  
'where' => '1',  
'where\'s' => '1',  
'which' => '1',  
'while' => '1',
```

```
'who' => '1',
'who\'s' => '1',
'whom' => '1',
'why' => '1',
'why\'s' => '1',
'wie' => '1',
'wieder' => '1',
'wieso' => '1',
'willen' => '1',
'wir' => '1',
'wird' => '1',
'wirst' => '1',
'with' => '1',
'wo' => '1',
'woher' => '1',
'wohin' => '1',
'won\'t' => '1',
'woord' => '1',
'worden' => '1',
'would' => '1',
'wouldn\'t' => '1',
'yo' => '1',
'you' => '1',
'you\'d' => '1',
'you\'ll' => '1',
'you\'re' => '1',
'you\'ve' => '1',
'your' => '1',
'yours' => '1',
'yourself' => '1',
'yourselves' => '1',
'ze' => '1',
'zeggen' => '1',
'zetten' => '1',
'zich' => '1',
'zien' => '1',
'zijn' => '1',
'zin' => '1',
'zitten' => '1',
'zo' => '1',
'zu' => '1',
'zullen' => '1',
'zum' => '1',
'zur' => '1',
'ça' => '1',
'étaient' => '1',
'état' => '1',
'étions' => '1',
'été' => '1',
'être' => '1',
'über' => '1'
};
```

### 6.3.6. Ticket::EventModulePost###98-ArticleSearchIndex

Description:	Builds an article index right after the article's creation.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::FulltextSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'98-ArticleSearchIndex'} = {   'Event' =&gt; '(ArticleCreate ArticleUpdate)',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::ArticleSearchIndex' };</pre>

## 6.4. Core::LinkObject

### 6.4.1. LinkObject::PossibleLink###0200

Description:	Links 2 tickets with a "Normal" type link.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::LinkObject
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LinkObject::PossibleLink'}-&gt;{'0200'} = {   'Object1' =&gt; 'Ticket',   'Object2' =&gt; 'Ticket',   'Type' =&gt; 'Normal' };</pre>

### 6.4.2. LinkObject::PossibleLink###0201

Description:	Links 2 tickets with a "ParentChild" type link.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::LinkObject
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LinkObject::PossibleLink'}-&gt;{'0201'} = {   'Object1' =&gt; 'Ticket',   'Object2' =&gt; 'Ticket',   'Type' =&gt; 'ParentChild' };</pre>

### 6.4.3. LinkObject::IgnoreLinkedTicketStateTypes

Description:	Defines, which tickets of which ticket state types should not be listed in linked ticket lists.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::LinkObject
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'LinkObject::IgnoreLinkedTicketStateTypes'} = [   'merged',   'removed' ];</pre>

## 6.5. Core::PostMaster

### 6.5.1. PostmasterMaxEmails

Description:	Maximal auto email responses to own email-address a day (Loop-Protection).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterMaxEmails'} = '40';</code>
-----------------	---

## 6.5.2. PostMasterMaxEmailSize

Description:	Maximal size in KBytes for mails that can be fetched via POP3/POP3S/IMAP/IMAPS (KBytes).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostMasterMaxEmailSize'} = '16384';</code>

## 6.5.3. PostMasterReconnectMessage

Description:	The "bin/PostMasterMailAccount.pl" will reconnect to POP3/POP3S/IMAP/IMAPS host after the specified count of messages.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostMasterReconnectMessage'} = '20';</code>

## 6.5.4. LoopProtectionModule

Description:	Default loop protection module.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'LoopProtectionModule'} = 'Kernel::System::PostMaster::LoopProtection::DB';</code>

## 6.5.5. LoopProtectionLog

Description:	Path for the log file (it only applies if "FS" was selected for LoopProtectionModule and it is mandatory).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'LoopProtectionLog'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/Log/LoopProtection';</code>

## 6.5.6. PostmasterAutoHTML2Text

Description:	Converts HTML mails into text messages.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterAutoHTML2Text'} = '1';</code>

### 6.5.7. PostmasterFollowUpSearchInReferences

Description:	Executes follow up checks on In-Reply-To or References headers for mails that don't have a ticket number in the subject.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterFollowUpSearchInReferences'} = '0';</code>

### 6.5.8. PostmasterFollowUpSearchInBody

Description:	Executes follow up mail body checks in mails that don't have a ticket number in the subject.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterFollowUpSearchInBody'} = '0';</code>

### 6.5.9. PostmasterFollowUpSearchInAttachment

Description:	Executes follow up mail attachments checks in mails that don't have a ticket number in the subject.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterFollowUpSearchInAttachment'} = '0';</code>

### 6.5.10. PostmasterFollowUpSearchInRaw

Description:	Executes follow up plain/raw mail checks in mails that don't have a ticket number in the subject.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterFollowUpSearchInRaw'} = '0';</code>

### 6.5.11. PostmasterUserID

Description:	Specifies user id of the postmaster data base.
Group:	Ticket

SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterUserID'} = '1';</code>

### 6.5.12. PostmasterDefaultQueue

Description:	Defines the postmaster default queue.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterDefaultQueue'} = 'Raw';</code>

### 6.5.13. PostmasterDefaultPriority

Description:	Defines the default priority of new tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterDefaultPriority'} = '3 normal';</code>

### 6.5.14. PostmasterDefaultState

Description:	Defines the default state of new tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterDefaultState'} = 'new';</code>

### 6.5.15. PostmasterFollowUpState

Description:	Defines the state of a ticket if it gets a follow-up.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterFollowUpState'} = 'open';</code>

### 6.5.16. PostmasterFollowUpStateClosed

Description:	Defines the state of a ticket if it gets a follow-up and the ticket was already closed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterFollowUpStateClosed'} = 'open';</code>

### 6.5.17.

## PostmasterFollowUpOnUnlockAgentNotifyOnlyToOwner

Description:	Sends agent follow-up notification only to the owner, if a ticket is unlocked (the default is to send the notification to all agents).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterFollowUpOnUnlockAgentNotifyOnlyToOwner'} = '0';</code>

### 6.5.18. PostmasterHeaderFieldCount

Description:	Defines the number of header fields in frontend modules for add and update postmaster filters. It can be up to 99 fields.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterHeaderFieldCount'} = '12';</code>

### 6.5.19. PostmasterX-Header

Description:	Defines all the X-headers that should be scanned.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostmasterX-Header'} = [     'From',     'To',     'Cc',     'Reply-To',     'ReplyTo',     'Subject',     'Message-ID',     'Message-Id',     'Resent-To',     'Resent-From',     'Precedence',     'Mailing-List',     'List-Id',     'List-Archive',     'Errors-To',     'References',     'In-Reply-To',     'Auto-Submitted',     'X-Loop',     'X-Spam-Flag',     'X-Spam-Level',     'X-Spam-Score',</code>

```
'X-Spam-Status',
'X-No-Loop',
'X-Priority',
'Importance',
'X-Mailer',
'User-Agent',
'Organization',
'X-Original-To',
'Delivered-To',
'Envelope-To',
'X-Envelope-To',
'Return-Path',
'X-OTRS-Owner',
'X-OTRS-OwnerID',
'X-OTRS-Responsible',
'X-OTRS-ResponsibleID',
'X-OTRS-Loop',
'X-OTRS-Priority',
'X-OTRS-Queue',
'X-OTRS-Lock',
'X-OTRS-Ignore',
'X-OTRS-State',
'X-OTRS-State-PendingTime',
'X-OTRS-Type',
'X-OTRS-Service',
'X-OTRS-SLA',
'X-OTRS-CustomerNo',
'X-OTRS-CustomerUser',
'X-OTRS-SenderType',
'X-OTRS-ArticleType',
'X-OTRS-FollowUp-Priority',
'X-OTRS-FollowUp-Queue',
'X-OTRS-FollowUp-Lock',
'X-OTRS-FollowUp-State',
'X-OTRS-FollowUp-State-PendingTime',
'X-OTRS-FollowUp-Type',
'X-OTRS-FollowUp-Service',
'X-OTRS-FollowUp-SLA',
'X-OTRS-FollowUp-SenderType',
'X-OTRS-FollowUp-ArticleType'
];
```

### 6.5.20. PostMaster::PreFilterModule###1-Match

Description:	Module to filter and manipulate incoming messages. Block/ignore all spam email with From: noreply@ address.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'1-Match'} = {   'Match' =&gt; {     'From' =&gt; 'noreply@'   },   'Module' =&gt; 'Kernel::System::PostMaster::Filter::Match',   'Set' =&gt; {     'X-OTRS-Ignore' =&gt; 'yes'   } };</pre>

### 6.5.21. PostMaster::PreFilterModule###2-Match

Description:	Module to filter and manipulate incoming messages. Get a 4 digit number to ticket free text, use regex in Match e. g. From => '(.\+?)@.\+?', and use () as [***] in Set =>.
--------------	---



Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'2-Match'} = {   'Match' =&gt; {     'Subject' =&gt; 'SomeNumber:(\d\d\d\d\d)'   },   'Module' =&gt; 'Kernel::System::PostMaster::Filter::Match',   'Set' =&gt; {     'X-OTRS-DynamicField-TicketFreeKey1' =&gt; 'SomeNumber',     'X-OTRS-DynamicField-TicketFreeText1' =&gt; '***'   } };</pre>

### 6.5.22. PostMaster::PreFilterModule###3-NewTicketReject

Description:	Blocks all the incoming emails that do not have a valid ticket number in subject with From: @example.com address.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'3-NewTicketReject'} = {   'Match' =&gt; {     'From' =&gt; '@example.com'   },   'Module' =&gt; 'Kernel::System::PostMaster::Filter::NewTicketReject',   'Set' =&gt; {     'X-OTRS-Ignore' =&gt; 'yes'   } };</pre>

### 6.5.23. PostMaster::PreFilterModule::NewTicketReject::Sender

Description:	Defines the sender for rejected emails.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule::NewTicketReject::Sender'} = 'noreply@example.com';</pre>

### 6.5.24. PostMaster::PreFilterModule::NewTicketReject::Subject

Description:	Defines the subject for rejected emails.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule::NewTicketReject::Subject'} = 'Email Rejected';</code>

### 6.5.25. PostMaster::PreFilterModule::NewTicketReject::Body

Description:	Defines the body text for rejected emails.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule::NewTicketReject::Body'} = ' Dear Customer,  Unfortunately we could not detect a valid ticket number in your subject, so this email can\'t be processed.  Please create a new ticket via the customer panel.  Thanks for your help!  Your Helpdesk Team '; </pre>

### 6.5.26. PostMaster::PreFilterModule###4-CMD

Description:	CMD example setup. Ignores emails where external CMD returns some output on STDOUT (email will be piped into STDIN of some.bin).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'4-CMD'} = {   'CMD' =&gt; '/usr/bin/some.bin',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::PostMaster::Filter::CMD',   'Set' =&gt; {     'X-OTRS-Ignore' =&gt; 'yes'   } }; </pre>

### 6.5.27. PostMaster::PreFilterModule###5-SpamAssassin

Description:	Spam Assassin example setup. Ignores emails that are marked with SpamAssassin.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'5-SpamAssassin'} = {</code>

	<pre>'CMD' =&gt; '/usr/bin/spamassassin   grep -i "X-Spam-Status: yes"', 'Module' =&gt; 'Kernel::System::PostMaster::Filter::CMD', 'Set' =&gt; {   'X-OTRS-Ignore' =&gt; 'yes' } };</pre>
--	---

### 6.5.28. PostMaster::PreFilterModule###6-SpamAssassin

Description:	Spam Assassin example setup. Moves marked mails to spam queue.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'6-SpamAssassin'} = {   'CMD' =&gt; '/usr/bin/spamassassin   grep -i "X-Spam-Status: yes"',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::PostMaster::Filter::CMD',   'Set' =&gt; {     'X-OTRS-Queue' =&gt; 'spam'   } } };</pre>

### 6.5.29. PostMaster::PreFilterModule###000-MatchDBSource

Description:	Module to use database filter storage.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'000-MatchDBSource'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::System::PostMaster::Filter::MatchDBSource' } };</pre>

### 6.5.30. PostMaster::PreCreateFilterModule###000-FollowUpArticleTypeCheck

Description:	Module to check if arrived emails should be marked as email-internal (because of original forwarded internal email). ArticleType and SenderType define the values for the arrived email/article.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreCreateFilterModule'}-&gt;{'000-FollowUpArticleTypeCheck'} = {   'ArticleType' =&gt; 'email-internal',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::PostMaster::Filter::FollowUpArticleTypeCheck',   'SenderType' =&gt; 'customer' } };</pre>

### 6.5.31. PostMaster::PreFilterModule###000-ExternalTicketNumberRecognition1

Description:	Recognize if a ticket is a follow up to an existing ticket using an external ticket number.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'000-ExternalTicketNumberRecognition1'} = {   'ArticleType' =&gt; 'note-report',   'DynamicFieldName' =&gt; 'Name_X',   'FromAddressRegExp' =&gt; '\\s*@example.com',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognition',   'Name' =&gt; 'Some Description',   'NumberRegExp' =&gt; '\\s*Incident-(\\d.*)\\s*',   'SearchInBody' =&gt; '1',   'SearchInSubject' =&gt; '1',   'SenderType' =&gt; 'system',   'TicketStateTypes' =&gt; 'new;open' };</pre>

### 6.5.32. PostMaster::PreFilterModule###000-ExternalTicketNumberRecognition2

Description:	Recognize if a ticket is a follow up to an existing ticket using an external ticket number.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'000-ExternalTicketNumberRecognition2'} = {   'ArticleType' =&gt; 'note-report',   'DynamicFieldName' =&gt; 'Name_X',   'FromAddressRegExp' =&gt; '\\s*@example.com',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognition',   'Name' =&gt; 'Some Description',   'NumberRegExp' =&gt; '\\s*Incident-(\\d.*)\\s*',   'SearchInBody' =&gt; '1',   'SearchInSubject' =&gt; '1',   'SenderType' =&gt; 'system',   'TicketStateTypes' =&gt; 'new;open' };</pre>

### 6.5.33. PostMaster::PreFilterModule###000-ExternalTicketNumberRecognition3

Description:	Recognize if a ticket is a follow up to an existing ticket using an external ticket number.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0

Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'000-ExternalTicketNumberRecognition3'} = {   'ArticleType' =&gt; 'note-report',   'DynamicFieldName' =&gt; 'Name_X',   'FromAddressRegExp' =&gt; '\\s*@example.com',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognition',   'Name' =&gt; 'Some Description',   'NumberRegExp' =&gt; '\\s*Incident-(\\d.*)\\s*',   'SearchInBody' =&gt; '1',   'SearchInSubject' =&gt; '1',   'SenderType' =&gt; 'system',   'TicketStateTypes' =&gt; 'new;open' };</pre>

### 6.5.34. PostMaster::PreFilterModule###000-ExternalTicketNumberRecognition4

Description:	Recognize if a ticket is a follow up to an existing ticket using an external ticket number.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PostMaster::PreFilterModule'}-&gt;{'000-ExternalTicketNumberRecognition4'} = {   'ArticleType' =&gt; 'note-report',   'DynamicFieldName' =&gt; 'Name_X',   'FromAddressRegExp' =&gt; '\\s*@example.com',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::PostMaster::Filter::ExternalTicketNumberRecognition',   'Name' =&gt; 'Some Description',   'NumberRegExp' =&gt; '\\s*Incident-(\\d.*)\\s*',   'SearchInBody' =&gt; '1',   'SearchInSubject' =&gt; '1',   'SenderType' =&gt; 'system',   'TicketStateTypes' =&gt; 'new;open' };</pre>

### 6.5.35. SendNoAutoResponseRegExp

Description:	If this regex matches, no message will be send by the autoresponder.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'SendNoAutoResponseRegExp'} = '(MAILER-DAEMON postmaster abuse)@.+?\\..+?';</pre>

### 6.5.36. AutoResponseForWebTickets

Description:	If this option is set to 'Yes', tickets created via the web interface, via Customers or Agents, will receive an autoresponse if configured. If this option is set to 'No', no autoresponses will be sent.
Group:	Ticket

SubGroup:	Core::PostMaster
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AutoResponseForWebTickets'} = '1';</code>

## 6.6. Core::Queue

### 6.6.1. Queue::EventModulePost###130-UpdateQueue

Description:	Event module that performs an update statement on TicketIndex to rename the queue name there if needed and if StaticDB is actually used.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Queue
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Queue::EventModulePost'}-&gt;{'130-UpdateQueue'} = {        'Event' =&gt; 'QueueUpdate',        'Module' =&gt;        'Kernel::System::Queue::Event::TicketAcceleratorUpdate',        'Transaction' =&gt; '0'      };</code>

## 6.7. Core::Stats

### 6.7.1. Stats::DynamicObjectRegistration###Ticket

Description:	Module to generate ticket statistics.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Stats
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::DynamicObjectRegistration'}-&gt;{'Ticket'} = {        'Module' =&gt; 'Kernel::System::Stats::Dynamic::Ticket'      };</code>

### 6.7.2. Stats::DynamicObjectRegistration###TicketList

Description:	Determines if the statistics module may generate ticket lists.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Stats
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Stats::DynamicObjectRegistration'}-&gt;{'TicketList'} = {        'Module' =&gt; 'Kernel::System::Stats::Dynamic::TicketList'      };</code>

### 6.7.3. Stats::DynamicObjectRegistration###TicketAccountedTime

Description:	Module to generate accounted time ticket statistics.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Stats
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::DynamicObjectRegistration'}-&gt;{'TicketAccountedTime'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Stats::Dynamic::TicketAccountedTime' };</pre>

#### 6.7.4.

### Stats::DynamicObjectRegistration###TicketSolutionResponseTime

Description:	Module to generate ticket solution and response time statistics.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Stats
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Stats::DynamicObjectRegistration'}-&gt;{'TicketSolutionResponseTime'} = {   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Stats::Dynamic::TicketSolutionResponseTime' };</pre>

## 6.8. Core::Ticket

### 6.8.1. Ticket::Hook

Description:	The identifier for a ticket, e.g. Ticket#, Call#, MyTicket#. The default is Ticket#.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Hook'} = 'Ticket#';</pre>

### 6.8.2. Ticket::HookDivider

Description:	The divider between TicketHook and ticket number. E.g ': '.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::HookDivider'} = '';</pre>

### 6.8.3. Ticket::SubjectSize

Description:	Max size of the subjects in an email reply.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SubjectSize'} = '100';</code>

#### 6.8.4. Ticket::SubjectRe

Description:	The text at the beginning of the subject in an email reply, e.g. RE, AW, or AS.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SubjectRe'} = 'Re';</code>

#### 6.8.5. Ticket::SubjectFwd

Description:	The text at the beginning of the subject when an email is forwarded, e.g. FW, Fwd, or WG.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SubjectFwd'} = 'Fwd';</code>

#### 6.8.6. Ticket::SubjectFormat

Description:	The format of the subject. 'Left' means '[TicketHook#:12345] Some Subject', 'Right' means 'Some Subject [TicketHook#:12345]', 'None' means 'Some Subject' and no ticket number. In the last case you should enable PostmasterFollowupSearchInRaw or PostmasterFollowUpSearchInReferences to recognize followups based on email headers and/or body.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::SubjectFormat'} = 'Left';</code>

#### 6.8.7. Ticket::MergeDynamicFields

Description:	A list of dynamic fields that are merged into the main ticket during a merge operation. Only dynamic fields that are empty in the main ticket will be set.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::MergeDynamicFields'} = [];</code>



### 6.8.8. Ticket::CustomQueue

Description:	Name of custom queue. The custom queue is a queue selection of your preferred queues and can be selected in the preferences settings.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomQueue'} = 'My Queues';</code>

### 6.8.9. Ticket::CustomService

Description:	Name of custom service. The custom service is a service selection of your preferred services and can be selected in the preferences settings.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomService'} = 'My Services';</code>

### 6.8.10. Ticket::NewArticleIgnoreSystemSender

Description:	Ignore system sender article types (e. g. auto responses or email notifications) to be flagged as 'Unread Article' in AgentTicketZoom or expanded automatically in Large view screens.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::NewArticleIgnoreSystemSender'} = '0';</code>

### 6.8.11. Ticket::ChangeOwnerToEveryone

Description:	Changes the owner of tickets to everyone (useful for ASP). Normally only agent with rw permissions in the queue of the ticket will be shown.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::ChangeOwnerToEveryone'} = '0';</code>

### 6.8.12. Ticket::Responsible

Description:	Enables ticket responsible feature, to keep track of a specific ticket.
Group:	Ticket

SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Responsible'} = '0';</code>

### 6.8.13. Ticket::ResponsibleAutoSet

Description:	Automatically sets the owner of a ticket as the responsible for it (if ticket responsible feature is enabled). This will only work by manually actions of the logged in user. It does not work for automated actions e.g. GenericAgent, Postmaster and GenericInterface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::ResponsibleAutoSet'} = '1';</code>

### 6.8.14. Ticket::Type

Description:	Allows defining new types for ticket (if ticket type feature is enabled).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Type'} = '0';</code>

### 6.8.15. Ticket::Service

Description:	Allows defining services and SLAs for tickets (e. g. email, desktop, network, ...), and escalation attributes for SLAs (if ticket service/SLA feature is enabled).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Service'} = '0';</code>

### 6.8.16. Ticket::Service::KeepChildren

Description:	Retains all services in listings even if they are children of invalid elements.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Service::KeepChildren'} = '0';</code>

### 6.8.17. Ticket::Service::Default::UnknownCustomer

Description:	Allows default services to be selected also for non existing customers.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Service::Default::UnknownCustomer'} = '0';</code>

### 6.8.18. Ticket::ArchiveSystem

Description:	Activates the ticket archive system to have a faster system by moving some tickets out of the daily scope. To search for these tickets, the archive flag has to be enabled in the ticket search.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::ArchiveSystem'} = '0';</code>

### 6.8.19. Ticket::ArchiveSystem::RemoveSeenFlags

Description:	Controls if the ticket and article seen flags are removed when a ticket is archived.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::ArchiveSystem::RemoveSeenFlags'} = '1';</code>

### 6.8.20. Ticket::ArchiveSystem::RemoveTicketWatchers

Description:	Removes the ticket watcher information when a ticket is archived.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::ArchiveSystem::RemoveTicketWatchers'} = '1';</code>

### 6.8.21. Ticket::CustomerArchiveSystem

Description:	Activates the ticket archive system search in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomerArchiveSystem'} = '0';</code>
-----------------	--

## 6.8.22. Ticket::NumberGenerator

Description:	Selects the ticket number generator module. "AutoIncrement" increments the ticket number, the SystemID and the counter are used with SystemID.counter format (e.g. 1010138, 1010139). With "Date" the ticket numbers will be generated by the current date, the SystemID and the counter. The format looks like Year.Month.Day.SystemID.counter (e.g. 200206231010138, 200206231010139). With "DateChecksum" the counter will be appended as checksum to the string of date and SystemID. The checksum will be rotated on a daily basis. The format looks like Year.Month.Day.SystemID.Counter.CheckSum (e.g. 2002070110101520, 2002070110101535). "Random" generates randomized ticket numbers in the format "SystemID.Random" (e.g. 100057866352, 103745394596).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::NumberGenerator'} = 'Kernel::System::Ticket::Number::DateChecksum';</code>

## 6.8.23. Ticket::NumberGenerator::CheckSystemID

Description:	Checks the SystemID in ticket number detection for follow-ups (use "No" if SystemID has been changed after using the system).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::NumberGenerator::CheckSystemID'} = '1';</code>

## 6.8.24. Ticket::NumberGenerator::MinCounterSize

Description:	Sets the minimal ticket counter size (if "AutoIncrement" was selected as TicketNumberGenerator). Default is 5, this means the counter starts from 10000.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::NumberGenerator::MinCounterSize'} = '5';</code>

## 6.8.25.

### Ticket::NumberGenerator::Date::UseFormattedCounter

Description:	Enables the minimal ticket counter size (if "Date" was selected as TicketNumberGenerator).
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::NumberGenerator::Date::UseFormattedCounter'} = '0';</code>

## 6.8.26. Ticket::CounterLog

Description:	Log file for the ticket counter.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CounterLog'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/log/TicketCounter.log';</code>

## 6.8.27. Ticket::IndexModule

Description:	IndexAccelerator: to choose your backend TicketViewAccelerator module. "RuntimeDB" generates each queue view on the fly from ticket table (no performance problems up to approx. 60.000 tickets in total and 6.000 open tickets in the system). "StaticDB" is the most powerful module, it uses an extra ticket-index table that works like a view (recommended if more than 80.000 and 6.000 open tickets are stored in the system). Use the script "bin/otrs.RebuildTicketIndex.pl" for initial index update.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::IndexModule'} = 'Kernel::System::Ticket::IndexAccelerator::RuntimeDB';</code>

## 6.8.28. Ticket::StorageModule

Description:	Saves the attachments of articles. "DB" stores all data in the database (not recommended for storing big attachments). "FS" stores the data on the filesystem; this is faster but the webserver should run under the OTRS user. You can switch between the modules even on a system that is already in production without any loss of data. Note: Searching for attachment names is not supported when "FS" is used.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::StorageModule'} = 'Kernel::System::Ticket::ArticleStorageDB';</code>

## 6.8.29. Ticket::StorageModule::CheckAllBackends

Description:	Specifies whether all storage backends should be checked when looking for attachments. This is only required for installations where some attachments are in the file system, and others in the database.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::StorageModule::CheckAllBackends'} = '0';</code>

## 6.8.30. ArticleDir

Description:	Specifies the directory to store the data in, if "FS" was selected for TicketStorageModule.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ArticleDir'} = '&lt;OTRS_CONFIG_Home&gt;/var/article';</code>

## 6.8.31. Ticket::EventModulePost###100-ArchiveRestore

Description:	Restores a ticket from the archive (only if the event is a state change, from closed to any open available state).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'100-ArchiveRestore'} = {        'Event' =&gt; 'TicketStateUpdate',        'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::ArchiveRestore'      };</code>

## 6.8.32. Ticket::EventModulePost###110-AcceleratorUpdate

Description:	Updates the ticket index accelerator.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'110-AcceleratorUpdate'} = {        'Event' =&gt; 'TicketStateUpdate TicketQueueUpdate TicketLockUpdate',        'Module' =&gt;        'Kernel::System::Ticket::Event::TicketAcceleratorUpdate'      };</code>

### 6.8.33. Ticket::EventModulePost###120-ForceOwnerResetOnMove

Description:	Resets and unlocks the owner of a ticket if it was moved to another queue.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'120-ForceOwnerResetOnMove'} = {   'Event' =&gt; 'TicketQueueUpdate',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::ForceOwnerReset' };</pre>

### 6.8.34. Ticket::EventModulePost###130-ForceStateChangeOnLock

Description:	Forces to choose a different ticket state (from current) after lock action. Define the current state as key, and the next state after lock action as content.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'130-ForceStateChangeOnLock'} = {   'Event' =&gt; 'TicketLockUpdate',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::ForceState',   'new' =&gt; 'open' };</pre>

### 6.8.35. Ticket::EventModulePost###140-ResponsibleAutoSet

Description:	Automatically sets the responsible of a ticket (if it is not set yet) after the first owner update.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'140-ResponsibleAutoSet'} = {   'Event' =&gt; 'TicketOwnerUpdate',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::ResponsibleAutoSet' };</pre>

### 6.8.36. Ticket::EventModulePost###150-TicketPendingTimeReset

Description:	Sets the PendingTime of a ticket to 0 if the state is changed to a non-pending state.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'150-TicketPendingTimeReset'} = {   'Event' =&gt; 'TicketStateUpdate',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::Event::TicketPendingTimeReset' };</pre>

### 6.8.37. Ticket::EventModulePost###500-NotificationEvent

Description:	Sends the notifications which are configured in the admin interface under "Notfication (Event)".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'500-NotificationEvent'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::NotificationEvent',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

### 6.8.38. Ticket::EventModulePost###900-EscalationIndex

Description:	Updates the ticket escalation index after a ticket attribute got updated.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'900-EscalationIndex'} = {   'Event' =&gt; 'TicketSLAUpdate TicketQueueUpdate TicketStateUpdate  TicketCreate ArticleCreate',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::TicketEscalationIndex' };</pre>

### 6.8.39. Ticket::EventModulePost###900-EscalationStopEvents

Description:	Ticket event module that triggers the escalation stop events.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'900-EscalationStopEvents'} = {   {</pre>



	<pre>'Event' =&gt; 'TicketSLAUpdate TicketQueueUpdate TicketStateUpdate  ArticleCreate', 'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::TriggerEscalationStopEvents' };</pre>
--	---

### 6.8.40. Ticket::EventModulePost###910-ForceUnlockOnMove

Description:	Forces to unlock tickets after being moved to another queue.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'910-ForceUnlockOnMove'} = { 'Event' =&gt; 'TicketQueueUpdate', 'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::ForceUnlock' };</pre>

### 6.8.41. Ticket::EventModulePost###920-TicketArticleNewMessageUpdate

Description:	Update Ticket "Seen" flag if every article got seen or a new Article got created.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'920- TicketArticleNewMessageUpdate'} = { 'Event' =&gt; 'ArticleCreate ArticleFlagSet', 'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::TicketNewMessageUpdate' };</pre>

### 6.8.42. DynamicFieldFromCustomerUser::Mapping

Description:	Define a mapping between variables of the customer user data (keys) and dynamic fields of a ticket (values). The purpose is to store customer user data in ticket dynamic fields. The dynamic fields must be present in the system and should be enabled for AgentTicketFreeText, so that they can be set/updated manually by the agent. They mustn't be enabled for AgentTicketPhone, AgentTicketEmail and AgentTicketCustomer. If they were, they would have precedence over the automatically set values. To use this mapping, you have to also activate the next setting below.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DynamicFieldFromCustomerUser::Mapping'} = { 'UserFirstname' =&gt; 'CustomerFirstname' };</pre>

### 6.8.43. Ticket::EventModulePost###930-DynamicFieldFromCustomerUser

Description:	This event module stores attributes from CustomerUser as DynamicFields tickets. Please see the setting above for how to configure the mapping.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'930-DynamicFieldFromCustomerUser'} = {   'Event' =&gt; '(TicketCreate TicketCustomerUpdate)',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::Event::DynamicFieldFromCustomerUser' };</pre>

### 6.8.44. Ticket::CustomModule###001-CustomModule

Description:	Overloads (redefines) existing functions in Kernel::System::Ticket. Used to easily add customizations.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomModule'}-&gt;{'001-CustomModule'} = 'Kernel::System::Ticket::Custom';</pre>

### 6.8.45. Ticket::ViewableSenderTypes

Description:	Defines the default viewable sender types of a ticket (default: customer).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::ViewableSenderTypes'} = [   '\customer\' ];</pre>

### 6.8.46. Ticket::ViewableLocks

Description:	Defines the viewable locks of a ticket. NOTE: When you change this setting, make sure to delete the cache in order to use the new value. Default: unlock, tmp_lock.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::ViewableLocks'} = [</pre>

	<pre>'\unlock\'', '\tmp_lock\' ];</pre>
--	---

### 6.8.47. Ticket::**ViewableStateType**

Description:	Defines the valid state types for a ticket.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::<b>ViewableStateType</b>'} = [   'new',   'open',   'pending reminder',   'pending auto' ];</pre>

### 6.8.48. Ticket::**UnlockStateType**

Description:	Defines the valid states for unlocked tickets. To unlock tickets the script "bin/otrs.UnlockTickets.pl" can be used.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::<b>UnlockStateType</b>'} = [   'new',   'open' ];</pre>

### 6.8.49. Ticket::**PendingNotificationOnlyToOwner**

Description:	Sends reminder notifications of unlocked ticket after reaching the reminder date (only sent to ticket owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::<b>PendingNotificationOnlyToOwner</b>'} = '0';</pre>

### 6.8.50. Ticket::**PendingNotificationNotToResponsible**

Description:	Disables sending reminder notifications to the responsible agent of a ticket (Ticket:: <b>Responsible</b> needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::<b>PendingNotificationNotToResponsible</b>'} = '0';</pre>

### 6.8.51. Ticket::**PendingReminderStateType**

Description:	Defines the state type of the reminder for pending tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::PendingReminderStateType'} = [   'pending reminder' ];</pre>

### 6.8.52. Ticket::**PendingAutoStateType**

Description:	Determines the possible states for pending tickets that changed state after reaching time limit.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::PendingAutoStateType'} = [   'pending auto' ];</pre>

### 6.8.53. Ticket::**StateAfterPending**

Description:	Defines which states should be set automatically (Content), after the pending time of state (Key) has been reached.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::StateAfterPending'} = {   'pending auto close+' =&gt; 'closed successful',   'pending auto close-' =&gt; 'closed unsuccessful' };</pre>

### 6.8.54. System::**Permission**

Description:	Standard available permissions for agents within the application. If more permissions are needed, they can be entered here. Permissions must be defined to be effective. Some other good permissions have also been provided built-in: note, close, pending, customer, freetext, move, compose, responsible, forward, and bounce. Make sure that "rw" is always the last registered permission.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'System::Permission'} = [   'ro',</pre>

	<pre>'move_into', 'create', 'note', 'owner', 'priority', 'rw' ];</pre>
--	--

### 6.8.55. Ticket::Permission###1-OwnerCheck

Description:	Module to check the owner of a ticket.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Permission'}-&gt;{'1-OwnerCheck'} = {   'Granted' =&gt; '1',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Permission::OwnerCheck',   'Required' =&gt; '0' };</pre>

### 6.8.56. Ticket::Permission###2-ResponsibleCheck

Description:	Module to check the agent responsible of a ticket.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Permission'}-&gt;{'2-ResponsibleCheck'} = {   'Granted' =&gt; '1',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::Permission::ResponsibleCheck',   'Required' =&gt; '0' };</pre>

### 6.8.57. Ticket::Permission###3-GroupCheck

Description:	Module to check if a user is in a special group. Access is granted, if the user is in the specified group and has ro and rw permissions.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Permission'}-&gt;{'3-GroupCheck'} = {   'Granted' =&gt; '1',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Permission::GroupCheck',   'Required' =&gt; '0' };</pre>

### 6.8.58. Ticket::Permission###4-WatcherCheck

Description:	Module to check the watcher agents of a ticket.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Permission'}-&gt;{'4-WatcherCheck'} = {   'Granted' =&gt; '1',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Permission::WatcherCheck',   'Required' =&gt; '0' };</pre>

### 6.8.59. CustomerTicket::Permission###1-GroupCheck

Description:	Module to check the group permissions for the access to customer tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerTicket::Permission'}-&gt;{'1-GroupCheck'} = {   'Granted' =&gt; '0',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::CustomerPermission::GroupCheck',   'Required' =&gt; '1' };</pre>

### 6.8.60. CustomerTicket::Permission###2-CustomerUserIDCheck

Description:	Grants access, if the customer ID of the ticket matches the customer user's ID and the customer user has group permissions on the queue the ticket is in.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerTicket::Permission'}-&gt;{'2-CustomerUserIDCheck'} = {   'Granted' =&gt; '1',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::CustomerPermission::CustomerUserIDCheck',   'Required' =&gt; '0' };</pre>

### 6.8.61. CustomerTicket::Permission###3-CustomerIDCheck

Description:	Module to check customer permissions.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerTicket::Permission'}-&gt;{'3-CustomerIDCheck'} = {   'Granted' =&gt; '1',   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::CustomerPermission::CustomerIDCheck',   'Required' =&gt; '0' };</pre>

```
};
```

### 6.8.62. Ticket::DefineEmailFrom

Description:	Defines how the From field from the emails (sent from answers and email tickets) should look like.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::DefineEmailFrom'} = 'SystemAddressName';</code>

### 6.8.63. Ticket::DefineEmailFromSeparator

Description:	Defines the separator between the agents real name and the given queue email address.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::DefineEmailFromSeparator'} = 'via';</code>

### 6.8.64. CustomerNotifyJustToRealCustomer

Description:	Sends customer notifications just to the mapped customer.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerNotifyJustToRealCustomer'} = '0';</code>

### 6.8.65. AgentSelfNotifyOnAction

Description:	Specifies if an agent should receive email notification of his own actions.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'AgentSelfNotifyOnAction'} = '0';</code>

### 6.8.66. Ticket::EventModulePost###900-GenericAgent

Description:	Event module registration. For more performance you can define a trigger event (e. g. Event => TicketCreate).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'900-GenericAgent'} = {   'Event' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::System::Ticket::Event::GenericAgent',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

### 6.8.67. Ticket::GenericAgentRunLimit

Description:	Set the limit of tickets that will be executed on a single genericagent job execution.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::GenericAgentRunLimit'} = '4000';</pre>

### 6.8.68. Ticket::UnlockOnAway

Description:	Unlock tickets whenever a note is added and the owner is out of office.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::UnLockOnAway'} = '0';</pre>

### 6.8.69. Ticket::IncludeUnknownTicketCustomers

Description:	Include unknown customers in ticket filter.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::IncludeUnknownTicketCustomers'} = '0';</pre>

### 6.8.70. StandardTemplate::Types

Description:	Defines the list of types for templates.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::Ticket
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'StandardTemplate::Types'} = {   'Answer' =&gt; 'Answer',   'Create' =&gt; 'Create',   'Email' =&gt; 'Email',   'Forward' =&gt; 'Forward',   'Note' =&gt; 'Note',   'PhoneCall' =&gt; 'Phone call' };</pre>



## 6.9. Core::TicketACL

### 6.9.1. Ticket::Acl::Module###1-Ticket::Acl::Module

Description:	ACL module that allows closing parent tickets only if all its children are already closed ("State" shows which states are not available for the parent ticket until all child tickets are closed).
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Acl::Module'}-&gt;{'1-Ticket::Acl::Module'} = {   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::Acl::CloseParentAfterClosedChilds',   'State' =&gt; [     'closed successful',     'closed unsuccessful'   ] };</pre>

### 6.9.2. TicketACL::Default::Action

Description:	Default ACL values for ticket actions.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TicketACL::Default::Action'} = {};</pre>

### 6.9.3. ACLKeysLevel1Match

Description:	Defines which items are available in first level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel1Match'} = {   'Properties' =&gt; 'Properties',   'PropertiesDatabase' =&gt; 'PropertiesDatabase' };</pre>

### 6.9.4. ACLKeysLevel1Change

Description:	Defines which items are available in first level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel1Change'} = {   'Possible' =&gt; 'Possible',   'PossibleAdd' =&gt; 'PossibleAdd', };</pre>

	<code>'PossibleNot' =&gt; 'PossibleNot'</code> };
--	--

### 6.9.5. ACLKeysLevel2::Possible

Description:	Defines which items are available in second level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel2::Possible'} = {   'Action' =&gt; 'Action',   'ActivityDialog' =&gt; 'ActivityDialog',   'Process' =&gt; 'Process',   'Ticket' =&gt; 'Ticket' };</code>

### 6.9.6. ACLKeysLevel2::PossibleAdd

Description:	Defines which items are available in second level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel2::PossibleAdd'} = {   'Action' =&gt; 'Action',   'ActivityDialog' =&gt; 'ActivityDialog',   'Process' =&gt; 'Process',   'Ticket' =&gt; 'Ticket' };</code>

### 6.9.7. ACLKeysLevel2::PossibleNot

Description:	Defines which items are available in second level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel2::PossibleNot'} = {   'Action' =&gt; 'Action',   'ActivityDialog' =&gt; 'ActivityDialog',   'Process' =&gt; 'Process',   'Ticket' =&gt; 'Ticket' };</code>

### 6.9.8. ACLKeysLevel2::Properties

Description:	Defines which items are available in second level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel2::Properties'} = {   'CustomerUser' =&gt; 'CustomerUser',   'DynamicField' =&gt; 'DynamicField',   'Frontend' =&gt; 'Frontend',   'Owner' =&gt; 'Owner',   'Priority' =&gt; 'Priority',   'Process' =&gt; 'Process',   'Queue' =&gt; 'Queue',   'Responsible' =&gt; 'Responsible',   'SLA' =&gt; 'SLA',   'Service' =&gt; 'Service',   'State' =&gt; 'State',   'Ticket' =&gt; 'Ticket',   'Type' =&gt; 'Type',   'User' =&gt; 'User' };</pre>

### 6.9.9. ACLKeysLevel2::PropertiesDatabase

Description:	Defines which items are available in second level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel2::PropertiesDatabase'} = {   'CustomerUser' =&gt; 'CustomerUser',   'DynamicField' =&gt; 'DynamicField',   'Owner' =&gt; 'Owner',   'Priority' =&gt; 'Priority',   'Process' =&gt; 'Process',   'Queue' =&gt; 'Queue',   'Responsible' =&gt; 'Responsible',   'SLA' =&gt; 'SLA',   'Service' =&gt; 'Service',   'State' =&gt; 'State',   'Ticket' =&gt; 'Ticket',   'Type' =&gt; 'Type',   'User' =&gt; 'User' };</pre>

### 6.9.10. ACLKeysLevel3::Actions###100-Default

Description:	Defines which items are available for 'Action' in third level of the ACL structure.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ACLKeysLevel3::Actions'}-&gt;{'100-Default'} = [   'AgentTicketBounce',   'AgentTicketClose',   'AgentTicketCompose',   'AgentTicketCustomer',   'AgentTicketForward',   'AgentTicketEmailOutbound',   'AgentTicketFreeText',   'AgentTicketHistory',</pre>

	<pre>'AgentTicketLink', 'AgentTicketLock', 'AgentTicketMerge', 'AgentTicketMove', 'AgentTicketNote', 'AgentTicketOwner', 'AgentTicketPending', 'AgentTicketPhone', 'AgentTicketPhoneInbound', 'AgentTicketPhoneOutbound', 'AgentTicketPlain', 'AgentTicketPrint', 'AgentTicketPriority', 'AgentTicketProcess', 'AgentTicketResponsible', 'AgentTicketSearch', 'AgentTicketWatcher', 'AgentTicketZoom', 'AgentLinkObject', 'CustomerTicketProcess' ];</pre>
--	--

### 6.9.11. ACL::CacheTTL

Description:	Cache time in seconds for the DB ACL backend.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'ACL::CacheTTL'} = '3600';</code>

### 6.9.12. TicketACL::Debug::Enabled

Description:	If enabled debugging information for ACLs is logged.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TicketACL::Debug::Enabled'} = '0';</code>

### 6.9.13. TicketACL::Debug::LogPriority

Description:	Defines the priority in which the information is logged and presented.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'TicketACL::Debug::LogPriority'} = 'debug';</code>

### 6.9.14. TicketACL::Debug::Filter###00-Default

Description:	Filter for debugging ACLs. Note: More ticket attributes can be added in the format <OTRS_TICKET_Attribute> e.g. <OTRS_TICKET_Priority>.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketACL
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TicketACL::Debug::Filter'}-&gt;{'00-Default'} = {   '&lt;OTRS_TICKET_TicketNumber&gt;' =&gt; '',   'ACLName' =&gt; '' };</pre>

## 6.10. Core::TicketBulkAction

### 6.10.1. Ticket::Frontend::BulkFeature

Description:	Enables ticket bulk action feature for the agent frontend to work on more than one ticket at a time.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketBulkAction
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::BulkFeature'} = '1';</pre>

### 6.10.2. Ticket::Frontend::BulkFeatureGroup

Description:	Enables ticket bulk action feature only for the listed groups.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketBulkAction
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::BulkFeatureGroup'} = [   'admin',   'users' ];</pre>

## 6.11. Core::TicketDynamicFieldDefault

### 6.11.1.

#### Ticket::EventModulePost###TicketDynamicFieldDefault

Description:	Event module registration. For more performance you can define a trigger event (e. g. Event => TicketCreate). This is only possible if all Ticket dynamic fields need the same event.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::EventModulePost'}-&gt;{'TicketDynamicFieldDefault'} = {   'Module' =&gt;   'Kernel::System::Ticket::Event::TicketDynamicFieldDefault',   'Transaction' =&gt; '1' };</pre>

```
};
```

### 6.11.2. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element1

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element1'} = {   'Event' =&gt; 'TicketCreate',   'Name' =&gt; 'Field1',   'Value' =&gt; 'Default' };</pre>

### 6.11.3. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element2

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element2'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.4. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element3

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element3'} = {</pre>

```
'Event' => '',
'Name' => '',
'Value' => ''
};
```

### 6.11.5. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element4

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element4'} = { 'Event' =&gt; '', 'Name' =&gt; '', 'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.6. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element5

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element5'} = { 'Event' =&gt; '', 'Name' =&gt; '', 'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.7. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element6

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0

Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element6'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.8.

#### **Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element7**

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element7'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.9.

#### **Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element8**

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element8'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.10.

#### **Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element9**

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault



Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element9'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.11.

#### **Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element10**

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element10'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.12.

#### **Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element11**

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element11'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.13.

#### **Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element12**

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket

SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element12'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.14. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element13

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element13'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.15. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element14

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element14'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.16. Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element15

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element15'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

### 6.11.17.

#### Ticket::TicketDynamicFieldDefault###Element16

Description:	Configures a default TicketDynamicField setting. "Name" defines the dynamic field which should be used, "Value" is the data that will be set, and "Event" defines the trigger event. Please check the developer manual ( <a href="http://doc.otrs.org/">http://doc.otrs.org/</a> ), chapter "Ticket Event Module".
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketDynamicFieldDefault
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::TicketDynamicFieldDefault'}-&gt;{'Element16'} = {   'Event' =&gt; '',   'Name' =&gt; '',   'Value' =&gt; '' };</pre>

## 6.12. Core::TicketWatcher

### 6.12.1. Ticket::Watcher

Description:	Enables or disables the ticket watcher feature, to keep track of tickets without being the owner nor the responsible.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketWatcher
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Watcher'} = '0';</pre>

### 6.12.2. Ticket::WatcherGroup

Description:	Enables ticket watcher feature only for the listed groups.
Group:	Ticket
SubGroup:	Core::TicketWatcher
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::WatcherGroup'} = [   'admin',   'users' ];</pre>

## 6.13. Frontend::Admin

### 6.13.1. Events###Ticket

Description:	List of all ticket events to be displayed in the GUI.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Events'}-&gt;{'Ticket'} = [   'TicketCreate',   'TicketDelete',   'TicketTitleUpdate',   'TicketUnlockTimeoutUpdate',   'TicketQueueUpdate',   'TicketTypeUpdate',   'TicketServiceUpdate',   'TicketSLAUpdate',   'TicketCustomerUpdate',   'TicketPendingTimeUpdate',   'TicketLockUpdate',   'TicketArchiveFlagUpdate',   'TicketStateUpdate',   'TicketOwnerUpdate',   'TicketResponsibleUpdate',   'TicketPriorityUpdate',   'HistoryAdd',   'HistoryDelete',   'TicketAccountTime',   'TicketMerge',   'TicketSubscribe',   'TicketUnsubscribe',   'TicketFlagSet',   'TicketFlagDelete',   'TicketSlaveLinkAdd',   'TicketSlaveLinkDelete',   'TicketMasterLinkDelete',   'EscalationResponseTimeNotifyBefore',   'EscalationUpdateTimeNotifyBefore',   'EscalationSolutionTimeNotifyBefore',   'EscalationResponseTimeStart',   'EscalationUpdateTimeStart',   'EscalationSolutionTimeStart',   'EscalationResponseTimeStop',   'EscalationUpdateTimeStop',   'EscalationSolutionTimeStop' ]; </pre>

### 6.13.2. Events###Article

Description:	List of all article events to be displayed in the GUI.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Events'}-&gt;{'Article'} = [   'ArticleCreate',   'ArticleUpdate',   'ArticleSend',   'ArticleBounce',   'ArticleAgentNotification',   'ArticleCustomerNotification', ]; </pre>

	<pre>'ArticleAutoResponse', 'ArticleFlagSet', 'ArticleFlagDelete', 'ArticleAgentNotification', 'ArticleCustomerNotification' ];</pre>
--	---

### 6.13.3. Events###Queue

Description:	List of all queue events to be displayed in the GUI.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Events'}-&gt;{'Queue'} = [ 'QueueCreate', 'QueueUpdate' ];</pre>

## 6.14. Frontend::Admin::AdminNotificationEvent

### 6.14.1.

#### Frontend::Admin::AdminNotificationEvent###RichText

Description:	Uses richtext for viewing and editing notification events.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::AdminNotificationEvent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Admin::AdminNotificationEvent'}-&gt;{'RichText'} = '1';</pre>

### 6.14.2.

#### Frontend::Admin::AdminNotificationEvent###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::AdminNotificationEvent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Admin::AdminNotificationEvent'}-&gt; {'RichTextWidth'} = '620';</pre>

### 6.14.3.

#### Frontend::Admin::AdminNotificationEvent###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::AdminNotificationEvent
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::Admin::AdminNotificationEvent'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '320';</code>

## 6.15. Frontend::Admin::ModuleRegistration

### 6.15.1. Frontend::Module###AdminACL

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminACL'} = {        'Description' =&gt; 'Admin',        'Group' =&gt; [          'admin'        ],        'Loader' =&gt; {          'CSS' =&gt; [            'Core.Agent.Admin.ACL.css'          ],          'JavaScript' =&gt; [            'Core.Agent.Admin.ACL.js'          ]        },        'NavBarModule' =&gt; {          'Block' =&gt; 'Ticket',          'Description' =&gt; 'Configure and manage ACLs.',          'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',          'Name' =&gt; 'Access Control Lists (ACL)',          'Prio' =&gt; '750'        },        'NavBarName' =&gt; 'Admin',        'Title' =&gt; 'Access Control Lists (ACL)'      };</code>

### 6.15.2. Frontend::Module###AdminQueue

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminQueue'} = {        'Description' =&gt; 'Admin',        'Group' =&gt; [          'admin'        ],        'NavBarModule' =&gt; {          'Block' =&gt; 'Queue',          'Description' =&gt; 'Create and manage queues.',          'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',          'Name' =&gt; 'Queues',          'Prio' =&gt; '100'        }      };</code>

```

},
'NavBarName' => 'Admin',
'Title' => 'Queues'
};

```

### 6.15.3. Frontend::Module###AdminTemplate

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminTemplate'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Create and manage templates.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Templates',     'Prio' =&gt; '200'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Templates' }; </pre>

### 6.15.4. Frontend::Module###AdminQueueTemplates

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminQueueTemplates'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Link templates to queues.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Templates &lt;-&gt; Queues',     'Prio' =&gt; '300'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Templates &lt;-&gt; Queues' }; </pre>

### 6.15.5. Frontend::Module###AdminAutoResponse

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminAutoResponse'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Create and manage responses that are automatically sent.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Auto Responses',     'Prio' =&gt; '400'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Auto Responses' }; </pre>
-----------------	---

### 6.15.6. Frontend::Module###AdminQueueAutoResponse

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminQueueAutoResponse'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Link queues to auto responses.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Auto Responses &lt;-&gt; Queues',     'Prio' =&gt; '500'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Auto Responses &lt;-&gt; Queues' }; </pre>

### 6.15.7. Frontend::Module###AdminAttachment

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminAttachment'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Create and manage attachments.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Attachments',     'Prio' =&gt; '600'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin', }; </pre>



	<pre>'Title' =&gt; 'Attachments' };</pre>
--	---

### 6.15.8. Frontend::Module###AdminTemplateAttachment

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminTemplateAttachment'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Link attachments to templates.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Attachments &lt;-&gt; Templates',     'Prio' =&gt; '700'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Attachments &lt;-&gt; Templates' };</pre>

### 6.15.9. Frontend::Module###AdminSalutation

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSalutation'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Create and manage salutations.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Salutations',     'Prio' =&gt; '800'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Salutations' };</pre>

### 6.15.10. Frontend::Module###AdminSignature

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSignature'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Queue',     'Description' =&gt; 'Create and manage signatures.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Signatures',     'Prio' =&gt; '900'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Signatures' }; </pre>
-----------------	---

### 6.15.11. Frontend::Module###AdminSystemAddress

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSystemAddress'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Email',     'Description' =&gt; 'Set sender email addresses for this system.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Email Addresses',     'Prio' =&gt; '300'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Email Addresses' }; </pre>

### 6.15.12. Frontend::Module###AdminNotification

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminNotification'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Ticket',     'Description' =&gt; 'Manage notifications that are sent to agents.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Agent Notifications',     'Prio' =&gt; '400'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Agent Notifications' }; </pre>

### 6.15.13. Frontend::Module###AdminNotificationEvent

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminNotificationEvent'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Ticket',     'Description' =&gt; 'Create and manage event based notifications.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Notifications (Event)',     'Prio' =&gt; '400'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Notifications (Event)' };</pre>

### 6.15.14. Frontend::Module###AdminService

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminService'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Ticket',     'Description' =&gt; 'Create and manage services.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Services',     'Prio' =&gt; '900'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Services' };</pre>

### 6.15.15. Frontend::Module###AdminSLA

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminSLA'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ], };</pre>

	<pre>'NavBarModule' =&gt; {   'Block' =&gt; 'Ticket',   'Description' =&gt; 'Create and manage Service Level Agreements (SLAs).',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',   'Name' =&gt; 'Service Level Agreements',   'Prio' =&gt; '1000' }, 'NavBarName' =&gt; 'Admin', 'Title' =&gt; 'Service Level Agreements' };</pre>
--	---

### 6.15.16. Frontend::Module###AdminType

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminType'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Ticket',     'Description' =&gt; 'Create and manage ticket types.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Types',     'Prio' =&gt; '700'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Types' };</pre>

### 6.15.17. Frontend::Module###AdminState

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminState'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Ticket',     'Description' =&gt; 'Create and manage ticket states.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'States',     'Prio' =&gt; '800'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'States' };</pre>

### 6.15.18. Frontend::Module###AdminPriority

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminPriority'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'Ticket',     'Description' =&gt; 'Create and manage ticket priorities.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'Priorities',     'Prio' =&gt; '850'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'Priorities' }; </pre>

## 6.15.19. Frontend::Module###AdminGenericAgent

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Admin::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AdminGenericAgent'} = {   'Description' =&gt; 'Admin',   'Group' =&gt; [     'admin'   ],   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.Admin.GenericAgent.js'     ]   },   'NavBarModule' =&gt; {     'Block' =&gt; 'System',     'Description' =&gt; 'Manage tasks triggered by event or time based execution.',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::NavBarModuleAdmin',     'Name' =&gt; 'GenericAgent',     'Prio' =&gt; '300'   },   'NavBarName' =&gt; 'Admin',   'Title' =&gt; 'GenericAgent' }; </pre>

## 6.16. Frontend::Agent

### 6.16.1. Ticket::Frontend::PendingDiffTime

Description:	Time in seconds that gets added to the actual time if setting a pending-state (default: 86400 = 1 day).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PendingDiffTime'} = '86400';</code>

### 6.16.2. Ticket::Frontend::MaxQueueLevel

Description:	Define the max depth of queues.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MaxQueueLevel'} = '5';</code>

### 6.16.3. Ticket::Frontend::ListType

Description:	Shows existing parent/child queue lists in the system in the form of a tree or a list.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ListType'} = 'tree';</code>

### 6.16.4. Ticket::Frontend::TextAreaEmail

Description:	Permitted width for compose email windows.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::TextAreaEmail'} = '82';</code>

### 6.16.5. Ticket::Frontend::TextAreaNote

Description:	Permitted width for compose note windows.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::TextAreaNote'} = '78';</code>

### 6.16.6. Ticket::Frontend::InformAgentMaxSize

Description:	Max size (in rows) of the informed agents box in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::InformAgentMaxSize'} = '3';</code>

### 6.16.7. Ticket::Frontend::InvolvedAgentMaxSize

Description:	Max size (in rows) of the involved agents box in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::InvolvedAgentMaxSize'} = '3';</code>

### 6.16.8. Ticket::Frontend::CustomerInfoCompose

Description:	Shows the customer user information (phone and email) in the compose screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerInfoCompose'} = '1';</code>

### 6.16.9. Ticket::Frontend::CustomerInfoComposeMaxSize

Description:	Max size (in characters) of the customer information table (phone and email) in the compose screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerInfoComposeMaxSize'} = '22';</code>

### 6.16.10. Ticket::Frontend::CustomerInfoZoom

Description:	Shows the customer user's info in the ticket zoom view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerInfoZoom'} = '1';</code>

### 6.16.11. Ticket::Frontend::CustomerInfoZoomMaxSize

Description:	Maximum size (in characters) of the customer information table in the ticket zoom view.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerInfoZoomMaxSize'} = '22';</code>

### 6.16.12.

#### **Ticket::Frontend::DynamicFieldsZoomMaxSizeSidebar**

Description:	Maximum length (in characters) of the dynamic field in the sidebar of the ticket zoom view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::DynamicFieldsZoomMaxSizeSidebar'} = '18';</code>

### 6.16.13.

#### **Ticket::Frontend::DynamicFieldsZoomMaxSizeArticle**

Description:	Maximum length (in characters) of the dynamic field in the article of the ticket zoom view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::DynamicFieldsZoomMaxSizeArticle'} = '160';</code>

### 6.16.14. Ticket::Frontend::AccountTime

Description:	Activates time accounting.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AccountTime'} = '1';</code>

### 6.16.15. Ticket::Frontend::TimeUnits

Description:	Sets the preferred time units (e.g. work units, hours, minutes).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::TimeUnits'} = '(work units)';</code>



### 6.16.16. Ticket::Frontend::NeedAccountedTime

Description:	Defines if time accounting is mandatory in the agent interface. If activated, a note must be entered for all ticket actions (no matter if the note itself is configured as active or is originally mandatory for the individual ticket action screen).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::NeedAccountedTime'} = '0';</code>

### 6.16.17. Ticket::Frontend::BulkAccountedTime

Description:	Defines if time accounting must be set to all tickets in bulk action.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::BulkAccountedTime'} = '1';</code>

### 6.16.18. Ticket::Frontend::NeedSpellCheck

Description:	Defines if composed messages have to be spell checked in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::NeedSpellCheck'} = '0';</code>

### 6.16.19. Ticket::Frontend::NewOwnerSelection

Description:	Shows an owner selection in phone and email tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::NewOwnerSelection'} = '1';</code>

### 6.16.20. Ticket::Frontend::NewResponsibleSelection

Description:	Show a responsible selection in phone and email tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::NewResponsibleSelection'} = '1';</code>

### 6.16.21. Ticket::Frontend::NewQueueSelectionType

Description:	Defines the receipt target of the phone ticket and the sender of the email ticket ("Queue" shows all queues, "System address" displays all system addresses) in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::NewQueueSelectionType'} = 'Queue';</code>

### 6.16.22. Ticket::Frontend::NewQueueSelectionString

Description:	Determines the strings that will be shown as receipt (To:) of the phone ticket and as sender (From:) of the email ticket in the agent interface. For Queue as NewQueueSelectionType "<Queue>" shows the names of the queues and for SystemAddress "<Realname> <<Email>>" shows the name and email of the receipt.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::NewQueueSelectionString'} = '&lt;Queue&gt;';</code>

### 6.16.23. Ticket::Frontend::NewQueueOwnSelection

Description:	Determines which options will be valid of the receipt (phone ticket) and the sender (email ticket) in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::NewQueueOwnSelection'} = {   '1' =&gt; 'First Queue',   '2' =&gt; 'Second Queue' };</code>

### 6.16.24. Ticket::Frontend::ShowCustomerTickets

Description:	Shows customer history tickets in AgentTicketPhone, AgentTicketEmail and AgentTicketCustomer.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ShowCustomerTickets'} = '1';</code>
-----------------	--

### 6.16.25. NewTicketInNewWindow::Enabled

Description:	If enabled, TicketPhone and TicketEmail will be open in new windows.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'NewTicketInNewWindow::Enabled'} = '0';</code>

### 6.16.26. CustomerDBLink

Description:	Defines an external link to the database of the customer (e.g. 'http://yourhost/customer.php?CID=[% Data.CustomerID %]' or '').
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerDBLink'} = "[% Env("CGIHandle") %]? Action=AgentCustomerInformationCenter;CustomerID=[% Data.CustomerID   uri %]';</code>

### 6.16.27. CustomerDBLinkTarget

Description:	Defines the target attribute in the link to external customer database. E.g. 'target="cdb"'.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerDBLinkTarget'} = '';</code>

### 6.16.28. CustomerDBLinkClass

Description:	Defines the target attribute in the link to external customer database. E.g. 'AsPopup PopupType_TicketAction'.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerDBLinkClass'} = '';</code>

### 6.16.29. Frontend::CommonObject###QueueObject

Description:	Path of the file that stores all the settings for the QueueObject object for the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CommonObject'}-&gt;{'QueueObject'} = 'Kernel::System::Queue';</code>

### 6.16.30. Frontend::CommonObject###TicketObject

Description:	Path of the file that stores all the settings for the TicketObject for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CommonObject'}-&gt;{'TicketObject'} = 'Kernel::System::Ticket';</code>

### 6.16.31. Frontend::CommonParam###Action

Description:	Defines the default used Frontend-Module if no Action parameter given in the url on the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CommonParam'}-&gt;{'Action'} = 'AgentDashboard';</code>

### 6.16.32. Frontend::CommonParam###QueueID

Description:	Default queue ID used by the system in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CommonParam'}-&gt;{'QueueID'} = '0';</code>

### 6.16.33. Frontend::CommonParam###TicketID

Description:	Default ticket ID used by the system in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::CommonParam'}-&gt;{'TicketID'} = '';</code>

### 6.16.34. DefaultOverviewColumns

Description:	General ticket data shown in the ticket overviews (fall-back). Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by
--------------	---

	default. Note that TicketNumber can not be disabled, because it is necessary.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'DefaultOverviewColumns'} = {   'Age' =&gt; '2',   'Changed' =&gt; '1',   'CustomerID' =&gt; '2',   'CustomerName' =&gt; '1',   'CustomerUserID' =&gt; '1',   'EscalationResponseTime' =&gt; '1',   'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',   'EscalationTime' =&gt; '1',   'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',   'Lock' =&gt; '2',   'Owner' =&gt; '2',   'PendingTime' =&gt; '1',   'Priority' =&gt; '1',   'Queue' =&gt; '2',   'Responsible' =&gt; '1',   'SLA' =&gt; '1',   'Service' =&gt; '1',   'State' =&gt; '2',   'TicketNumber' =&gt; '2',   'Title' =&gt; '2',   'Type' =&gt; '1' }; </pre>

## 6.17. Frontend::Agent::Dashboard

### 6.17.1. DashboardBackend###0100-TicketPendingReminder

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket pending reminder overview of the agent interface . "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0100-TicketPendingReminder'} = {   'Attributes' =&gt; 'TicketPendingTimeOlderMinutes=1;StateType=pending reminder;SortBy=PendingTime;OrderBy=Down;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1', </pre>

```

'CustomerID' => '1',
'CustomerName' => '1',
'CustomerUserID' => '1',
'EscalationResponseTime' => '1',
'EscalationSolutionTime' => '1',
'EscalationTime' => '1',
'EscalationUpdateTime' => '1',
'Lock' => '1',
'Owner' => '1',
'PendingTime' => '1',
'Priority' => '1',
'Queue' => '1',
'Responsible' => '1',
'SLA' => '1',
'Service' => '1',
'State' => '1',
'TicketNumber' => '2',
'Title' => '2',
'Type' => '1'
},
'Description' => 'All tickets with a reminder set where the
reminder date has been reached',
'Filter' => 'Locked',
'Group' => '',
'Limit' => '10',
'Module' => 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',
'Permission' => 'rw',
'Time' => 'UntilTime',
'Title' => 'Reminder Tickets'
};

```

## 6.17.2. DashboardBackend###0110-TicketEscalation

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket escalation overview of the agent interface . "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0110-TicketEscalation'} = {   'Attributes' =&gt;   'TicketEscalationTimeOlderMinutes=1;SortBy=EscalationTime;OrderBy=Down;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1',     'CustomerID' =&gt; '1',     'CustomerName' =&gt; '1',     'CustomerUserID' =&gt; '1',     'EscalationResponseTime' =&gt; '1',     'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',     'EscalationTime' =&gt; '1',     'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',     'Lock' =&gt; '1',     'Owner' =&gt; '1', </pre>

```

'PendingTime' => '1',
'Priority' => '1',
'Queue' => '1',
'Responsible' => '1',
'SLA' => '1',
'Service' => '1',
'State' => '1',
'TicketNumber' => '2',
'Title' => '2',
'Type' => '1'
},
'Description' => 'All escalated tickets',
'Filter' => 'All',
'Group' => '',
'Limit' => '10',
'Module' => 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',
'Permission' => 'rw',
'Time' => 'EscalationTime',
'Title' => 'Escalated Tickets'
};

```

### 6.17.3. DashboardBackend###0120-TicketNew

Description:	Parameters for the dashboard backend of the new tickets overview of the agent interface. "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0120-TicketNew'} = {   'Attributes' =&gt; 'StateType=new;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1',     'CustomerID' =&gt; '1',     'CustomerName' =&gt; '1',     'CustomerUserID' =&gt; '1',     'EscalationResponseTime' =&gt; '1',     'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',     'EscalationTime' =&gt; '1',     'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',     'Lock' =&gt; '1',     'Owner' =&gt; '1',     'PendingTime' =&gt; '1',     'Priority' =&gt; '1',     'Queue' =&gt; '1',     'Responsible' =&gt; '1',     'SLA' =&gt; '1',     'Service' =&gt; '1',     'State' =&gt; '1',     'TicketNumber' =&gt; '2',     'Title' =&gt; '2',     'Type' =&gt; '1'   }, }; </pre>

	<pre>'Description' =&gt; 'All new tickets, these tickets have not been worked on yet', 'Filter' =&gt; 'All', 'Group' =&gt; '', 'Limit' =&gt; '10', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric', 'Permission' =&gt; 'rw', 'Time' =&gt; 'Age', 'Title' =&gt; 'New Tickets' };</pre>
--	---

## 6.17.4. DashboardBackend###0130-TicketOpen

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket pending reminder overview of the agent interface. "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0130-TicketOpen'} = {   'Attributes' =&gt; 'StateType=open;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1',     'CustomerID' =&gt; '1',     'CustomerName' =&gt; '1',     'CustomerUserID' =&gt; '1',     'EscalationResponseTime' =&gt; '1',     'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',     'EscalationTime' =&gt; '1',     'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',     'Lock' =&gt; '1',     'Owner' =&gt; '1',     'PendingTime' =&gt; '1',     'Priority' =&gt; '1',     'Queue' =&gt; '1',     'Responsible' =&gt; '1',     'SLA' =&gt; '1',     'Service' =&gt; '1',     'State' =&gt; '1',     'TicketNumber' =&gt; '2',     'Title' =&gt; '2',     'Type' =&gt; '1'   },   'Description' =&gt; 'All open tickets, these tickets have already been worked on, but need a response',   'Filter' =&gt; 'All',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '10',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',   'Permission' =&gt; 'rw',   'Time' =&gt; 'Age',   'Title' =&gt; 'Open Tickets / Need to be answered'</pre>



```
};
```

### 6.17.5. DashboardBackend###0250-TicketStats

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket stats of the agent interface. "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0250-TicketStats'} = {   'Block' =&gt; 'ContentSmall',   'CacheTTLLocal' =&gt; '30',   'Changed' =&gt; '1',   'Closed' =&gt; '1',   'Default' =&gt; '1',   'Group' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketStatsGeneric',   'Permission' =&gt; 'rw',   'Title' =&gt; '7 Day Stats' };</pre>

### 6.17.6. DashboardBackend###0260-TicketCalendar

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket calendar of the agent interface. "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0260-TicketCalendar'} = {   'Block' =&gt; 'ContentSmall',   'CacheTTL' =&gt; '2',   'Default' =&gt; '1',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '6',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardCalendar',   'OwnerOnly' =&gt; '',   'Permission' =&gt; 'rw',   'Title' =&gt; 'Upcoming Events' };</pre>

### 6.17.7. DashboardBackend###0270-TicketQueueOverview

Description:	Parameters for the dashboard backend of the queue overview widget of the agent interface. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "QueuePermissionGroup" is not mandatory, queues are only listed
--------------	---

	if they belong to this permission group if you enable it. "States" is a list of states, the key is the sort order of the state in the widget. "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0270-TicketQueueOverview'} = {   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; 'Provides a matrix overview of the tickets per state per queue.',   'Group' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketQueueOverview',   'Permission' =&gt; 'rw',   'QueuePermissionGroup' =&gt; 'users',   'Sort' =&gt; 'SortBy=Age;OrderBy=Up',   'States' =&gt; {     '1' =&gt; 'new',     '4' =&gt; 'open',     '6' =&gt; 'pending reminder'   },   'Title' =&gt; 'Ticket Queue Overview' };</pre>

### 6.17.8. DashboardBackend###0280-DashboardEventsTicketCalendar

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket stats of the agent interface. "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'DashboardBackend'}-&gt;{'0280-DashboardEventsTicketCalendar'} = {   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTL' =&gt; '0',   'Default' =&gt; '0',   'Group' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardEventsTicketCalendar',   'Title' =&gt; 'Events Ticket Calendar' };</pre>

### 6.17.9. AgentCustomerInformationCenter::Backend###0100-CIC-TicketPendingReminder

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket pending reminder overview of the agent interface . "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access
--------------	---

	to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::Backend'}-&gt;{'0100-CIC-TicketPendingReminder'} = {   'Attributes' =&gt; 'TicketPendingTimeOlderMinutes=1;StateType=pending reminder;SortBy=PendingTime;OrderBy=Down;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1',     'CustomerID' =&gt; '1',     'CustomerName' =&gt; '1',     'CustomerUserID' =&gt; '1',     'EscalationResponseTime' =&gt; '1',     'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',     'EscalationTime' =&gt; '1',     'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',     'Lock' =&gt; '1',     'Owner' =&gt; '1',     'PendingTime' =&gt; '1',     'Priority' =&gt; '1',     'Queue' =&gt; '1',     'Responsible' =&gt; '1',     'SLA' =&gt; '1',     'Service' =&gt; '1',     'State' =&gt; '1',     'TicketNumber' =&gt; '2',     'Title' =&gt; '2',     'Type' =&gt; '1'   },   'Description' =&gt; 'All tickets with a reminder set where the reminder date has been reached',   'Filter' =&gt; 'Locked',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '10',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',   'Permission' =&gt; 'ro',   'Time' =&gt; 'UntilTime',   'Title' =&gt; 'Reminder Tickets' }; </pre>

### 6.17.10. AgentCustomerInformationCenter::Backend###0110-CIC-TicketEscalation

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket escalation overview of the agent interface . "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes
--------------	--

	for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::Backend'}-&gt;{'0110-CIC-TicketEscalation'} = {   'Attributes' =&gt;   'TicketEscalationTimeOlderMinutes=1;SortBy=EscalationTime;OrderBy=Down;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1',     'CustomerID' =&gt; '1',     'CustomerName' =&gt; '1',     'CustomerUserID' =&gt; '1',     'EscalationResponseTime' =&gt; '1',     'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',     'EscalationTime' =&gt; '1',     'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',     'Lock' =&gt; '1',     'Owner' =&gt; '1',     'PendingTime' =&gt; '1',     'Priority' =&gt; '1',     'Queue' =&gt; '1',     'Responsible' =&gt; '1',     'SLA' =&gt; '1',     'Service' =&gt; '1',     'State' =&gt; '1',     'TicketNumber' =&gt; '2',     'Title' =&gt; '2',     'Type' =&gt; '1'   },   'Description' =&gt; 'All escalated tickets',   'Filter' =&gt; 'All',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '10',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',   'Permission' =&gt; 'ro',   'Time' =&gt; 'EscalationTime',   'Title' =&gt; 'Escalated Tickets' }; </pre>

### 6.17.11. AgentCustomerInformationCenter::Backend###0120-CIC-TicketNew

Description:	Parameters for the dashboard backend of the new tickets overview of the agent interface. "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::Backend'}-&gt;{'0120-CIC-TicketNew'} = {   'Attributes' =&gt; 'StateType=new;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1',     'CustomerID' =&gt; '1',     'CustomerName' =&gt; '1',     'CustomerUserID' =&gt; '1',     'EscalationResponseTime' =&gt; '1',     'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',     'EscalationTime' =&gt; '1',     'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',     'Lock' =&gt; '1',     'Owner' =&gt; '1',     'PendingTime' =&gt; '1',     'Priority' =&gt; '1',     'Queue' =&gt; '1',     'Responsible' =&gt; '1',     'SLA' =&gt; '1',     'Service' =&gt; '1',     'State' =&gt; '1',     'TicketNumber' =&gt; '2',     'Title' =&gt; '2',     'Type' =&gt; '1'   },   'Description' =&gt; 'All new tickets, these tickets have not been worked on yet',   'Filter' =&gt; 'All',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '10',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',   'Permission' =&gt; 'ro',   'Time' =&gt; 'Age',   'Title' =&gt; 'New Tickets' }; </pre>

## 6.17.12. AgentCustomerInformationCenter::Backend###0130-CIC-TicketOpen

Description:	Parameters for the dashboard backend of the ticket pending reminder overview of the agent interface. "Limit" is the number of entries shown by default. "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed for DefaultColumns. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::Backend'}-&gt;{'0130-CIC- TicketOpen'} = {   'Attributes' =&gt; 'StateType=open;',   'Block' =&gt; 'ContentLarge',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'DefaultColumns' =&gt; {     'Age' =&gt; '2',     'Changed' =&gt; '1',     'Created' =&gt; '1',     'CustomerID' =&gt; '1',     'CustomerName' =&gt; '1',     'CustomerUserID' =&gt; '1',     'EscalationResponseTime' =&gt; '1',     'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',     'EscalationTime' =&gt; '1',     'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',     'Lock' =&gt; '1',     'Owner' =&gt; '1',     'PendingTime' =&gt; '1',     'Priority' =&gt; '1',     'Queue' =&gt; '1',     'Responsible' =&gt; '1',     'SLA' =&gt; '1',     'Service' =&gt; '1',     'State' =&gt; '1',     'TicketNumber' =&gt; '2',     'Title' =&gt; '2',     'Type' =&gt; '1'   },   'Description' =&gt; 'All open tickets, these tickets have already been worked on, but need a response',   'Filter' =&gt; 'All',   'Group' =&gt; '',   'Limit' =&gt; '10',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardTicketGeneric',   'Permission' =&gt; 'ro',   'Time' =&gt; 'Age',   'Title' =&gt; 'Open Tickets / Need to be answered' }; </pre>
-----------------	--

### 6.17.13. AgentCustomerInformationCenter::Backend###0500- CIC-CustomerIDStatus

Description:	Parameters for the dashboard backend of the customer id status widget of the agent interface . "Group" is used to restrict the access to the plugin (e. g. Group: admin;group1;group2;). "Default" determines if the plugin is enabled by default or if the user needs to enable it manually. "CacheTTLLocal" is the cache time in minutes for the plugin.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter::Backend'}-&gt;{'0500-CIC- CustomerIDStatus'} = {   'Attributes' =&gt; '',   'Block' =&gt; 'ContentSmall',   'CacheTTLLocal' =&gt; '0.5',   'Default' =&gt; '1',   'Description' =&gt; 'Company Status',   'Group' =&gt; '',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::DashboardCustomerIDStatus', </pre>

```
'Permission' => 'ro',
'Title' => 'Company Status'
};
```

## 6.18. Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar

### 6.18.1. DashboardEventsTicketCalendar###CalendarWidth

Description:	Defines the calendar width in percent. Default is 95%.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DashboardEventsTicketCalendar'}-&gt;{'CalendarWidth'} = '95';</code>

### 6.18.2. DashboardEventsTicketCalendar###Queues

Description:	Defines queues that's tickets are used for displaying as calendar events.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DashboardEventsTicketCalendar'}-&gt;{'Queues'} = [ 'Raw' ];</code>

### 6.18.3. DashboardEventsTicketCalendar::DynamicFieldStartTime

Description:	Define dynamic field name for start time. This field has to be manually added to the system as Ticket: "Date / Time" and must be activated in ticket creation screens and/or in any other ticket action screens.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DashboardEventsTicketCalendar::DynamicFieldStartTime'} = 'TicketCalendarStartTime';</code>

### 6.18.4. DashboardEventsTicketCalendar::DynamicFieldEndTime

Description:	Define dynamic field name for end time. This field has to be manually added to the system as Ticket: "Date / Time" and must be activated in ticket creation screens and/or in any other ticket action screens.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DashboardEventsTicketCalendar::DynamicFieldEndTime'} = 'TicketCalendarEndTime';</code>

## 6.18.5. DashboardEventsTicketCalendar::DynamicFieldsForEvents

Description:	Defines the dynamic fields that are used for displaying on calendar events.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DashboardEventsTicketCalendar::DynamicFieldsForEvents'} = [ 'TicketCalendarStartTime', 'TicketCalendarEndTime' ];</code>

## 6.18.6. DashboardEventsTicketCalendar::TicketFieldsForEvents

Description:	Defines the ticket fields that are going to be displayed calendar events. The "Key" defines the field or ticket attribute and the "Content" defines the display name.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard::EventsTicketCalendar
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'DashboardEventsTicketCalendar::TicketFieldsForEvents'} = { 'CustomerID' =&gt; 'Customer ID', 'CustomerUserID' =&gt; 'Customer user', 'Priority' =&gt; 'Priority', 'Queue' =&gt; 'Queue', 'SLA' =&gt; 'SLA', 'Service' =&gt; 'Service', 'State' =&gt; 'State', 'Title' =&gt; 'Title', 'Type' =&gt; 'Type' };</code>

## 6.19. Frontend::Agent::Dashboard::TicketFilters

### 6.19.1. OnlyValuesOnTicket

Description:	Defines if the list for filters should be retrieve just from current tickets in system. Just for clarification, Customers list will always came from system's tickets.
--------------	--



Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Dashboard::TicketFilters
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'OnlyValuesOnTicket'} = '1';</code>

## 6.20. Frontend::Agent::ModuleMetaHead

### 6.20.1. Frontend::HeaderMetaModule###2-TicketSearch

Description:	Module to generate html OpenSearch profile for short ticket search in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleMetaHead
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::HeaderMetaModule'}-&gt;{'2-TicketSearch'} = {        'Action' =&gt; 'AgentTicketSearch',        'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::HeaderMetaTicketSearch'      };</code>

## 6.21. Frontend::Agent::ModuleNotify

### 6.21.1. Frontend::NotifyModule###5-Ticket::TicketEscalation

Description:	Module to show notifications and escalations (ShownMax: max. shown escalations, EscalationInMinutes: Show ticket which will escalation in, CacheTime: Cache of calculated escalations in seconds).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleNotify
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::NotifyModule'}-&gt;{'5-Ticket::TicketEscalation'} =        {        'CacheTime' =&gt; '40',        'EscalationInMinutes' =&gt; '120',        'Module' =&gt;        'Kernel::Output::HTML::NotificationAgentTicketEscalation',        'ShownMax' =&gt; '25'      };</code>

## 6.22. Frontend::Agent::ModuleRegistration

### 6.22.1. Frontend::Module###AgentTicketQueue

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketQueue'} = {   'Description' =&gt; 'Overview of all open Tickets',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AgentTicketQueue.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'o',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Overview of all open Tickets',       'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketQueue',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Queue view',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '100',       'Type' =&gt; ''     },     {       'AccessKey' =&gt; 't',       'Block' =&gt; 'ItemArea',       'Description' =&gt; '',       'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketQueue',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Tickets',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '200',       'Type' =&gt; 'Menu'     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'QueueView' }; </pre>

## 6.22.2. Frontend::Module###AgentTicketService

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketService'} = {   'Description' =&gt; 'Overview of all open Tickets',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AgentTicketService.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'o', </pre>

	<pre> 'Block' =&gt; '', 'Description' =&gt; 'Overview of all open Tickets', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketService', 'LinkOption' =&gt; '', 'Name' =&gt; 'Service view', 'NavBar' =&gt; 'Ticket', 'Prio' =&gt; '105', 'Type' =&gt; '' } ], 'NavBarName' =&gt; 'Ticket', 'Title' =&gt; 'ServiceView' }; </pre>
--	--

### 6.22.3. Frontend::Module###AgentTicketPhone

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketPhone'} = {   'Description' =&gt; 'Create new phone ticket',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'n',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Create new phone ticket (inbound)',       'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPhone',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'New phone ticket',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '200',       'Type' =&gt; ''     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'New phone ticket' }; </pre>

### 6.22.4. Frontend::Module###AgentTicketPhoneOutbound

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketPhoneOutbound'} = {   'Description' =&gt; 'Phone Call',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   }, }; </pre>

	<pre>'NavBarName' =&gt; 'Ticket', 'Title' =&gt; 'Phone-Ticket' };</pre>
--	---

### 6.22.5.

## Frontend::Module###AgentTicketPhoneInbound

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketPhoneInbound'} = {   'Description' =&gt; 'Incoming Phone Call',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Phone-Ticket' };</pre>

### 6.22.6. Frontend::Module###AgentTicketEmail

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketEmail'} = {   'Description' =&gt; 'Create new email ticket',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'm',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Create new email ticket and send this out (outbound)',       'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketEmail',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'New email ticket',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '210',       'Type' =&gt; ''     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'New email ticket' };</pre>

### 6.22.7. Frontend::Module###AgentTicketSearch

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketSearch'} = {   'Description' =&gt; 'Search Ticket',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 's',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Search Tickets',       'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketSearch',       'LinkOption' =&gt; 'onclick="window.setTimeout(function() {Core.Agent.Search.OpenSearchDialog(\'AgentTicketSearch\')});', 0); return false;";',       'Name' =&gt; 'Search',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '300',       'Type' =&gt; ''     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Search' }; </pre>

## 6.22.8. Frontend::Module###AgentTicketLockedView

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketLockedView'} = {   'Description' =&gt; 'Locked Tickets',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AgentTicketQueue.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Locked Tickets' }; </pre>

## 6.22.9.

## Frontend::Module###AgentTicketResponsibleView

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketResponsibleView'} = {   'Description' =&gt; 'Responsible Tickets',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Responsible Tickets' };</pre>

### 6.22.10. Frontend::Module###AgentTicketWatchView

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketWatchView'} = {   'Description' =&gt; 'Watched Tickets',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AgentTicketQueue.css',       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Watched Tickets' };</pre>

### 6.22.11. Frontend::Module###AgentCustomerSearch

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentCustomerSearch'} = {   'Description' =&gt; 'AgentCustomerSearch',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'AgentCustomerSearch' };</pre>

### 6.22.12. Frontend::Module###AgentUserSearch

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentUserSearch'} = {   'Description' =&gt; 'AgentUserSearch',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'AgentUserSearch' };</pre>

### 6.22.13. Frontend::Module###AgentTicketStatusView

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketStatusView'} = {   'Description' =&gt; 'Overview of all open tickets',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'Core.UI.AllocationList.js',       'Core.Agent.TableFilters.js'     ]   },   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'v',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Overview of all open Tickets.',       'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketStatusView',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Status view',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '110',       'Type' =&gt; ''     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Status view' };</pre>

### 6.22.14. Frontend::Module###AgentTicketEscalationView

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketEscalationView'} = {   'Description' =&gt; 'Overview of all escalated tickets',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.AllocationList.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [</pre>

```

    'Core.UI.AllocationList.js',
    'Core.Agent.TableFilters.js'
  ]
},
'NavBar' => [
  {
    'AccessKey' => 'e',
    'Block' => '',
    'Description' => 'Overview Escalated Tickets',
    'Link' => 'Action=AgentTicketEscalationView',
    'LinkOption' => '',
    'Name' => 'Escalation view',
    'NavBar' => 'Ticket',
    'Prio' => '120',
    'Type' => ''
  }
],
'NavBarName' => 'Ticket',
'Title' => 'Escalation view'
};

```

### 6.22.15. Frontend::Module###AgentZoom

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentZoom'} = {   'Description' =&gt; 'compat module for AgentZoom to AgentTicketZoom',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; '' }; </pre>

### 6.22.16. Frontend::Module###AgentTicketZoom

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketZoom'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Zoom',   'Loader' =&gt; {     'CSS' =&gt; [       'Core.Agent.TicketProcess.css'     ],     'JavaScript' =&gt; [       'thirdparty/jquery-tablesorter-2.0.5/jquery.tablesorter.js',       'Core.UI.Table.Sort.js',       'Core.Agent.TicketZoom.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Zoom' }; </pre>

### 6.22.17. Frontend::Module###AgentTicketAttachment

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
--------------	---



Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketAttachment'} = {   'Description' =&gt; 'To download attachments',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; '' };</pre>

## 6.22.18. Frontend::Module###AgentTicketPlain

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketPlain'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket plain view of an email',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Plain' };</pre>

## 6.22.19. Frontend::Module###AgentTicketNote

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketNote'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Note',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Note' };</pre>

## 6.22.20. Frontend::Module###AgentTicketMerge

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketMerge'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Merge',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Merge' };</pre>

```
};
```

### 6.22.21. Frontend::Module###AgentTicketPending

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketPending'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Pending',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Pending' };</pre>

### 6.22.22. Frontend::Module###AgentTicketWatcher

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketWatcher'} = {   'Description' =&gt; 'A TicketWatcher Module',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket-Watcher',   'Title' =&gt; 'Ticket-Watcher' };</pre>

### 6.22.23. Frontend::Module###AgentTicketPriority

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketPriority'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Priority',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Priority' };</pre>

### 6.22.24. Frontend::Module###AgentTicketLock

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketLock'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Lock',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Lock' };</pre>

### 6.22.25. Frontend::Module###AgentTicketMove

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketMove'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Move',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Move' };</pre>

### 6.22.26. Frontend::Module###AgentTicketHistory

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketHistory'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket History',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'History' };</pre>

### 6.22.27. Frontend::Module###AgentTicketOwner

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketOwner'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Owner',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   } };</pre>

```

    ]
  },
  'NavBarName' => 'Ticket',
  'Title' => 'Owner'
};

```

## 6.22.28. Frontend::Module###AgentTicketResponsible

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketResponsible'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Responsible',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Responsible' }; </pre>

## 6.22.29. Frontend::Module###AgentTicketCompose

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketCompose'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Compose email Answer',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Compose' }; </pre>

## 6.22.30. Frontend::Module###AgentTicketBounce

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketBounce'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Compose Bounce Email',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Bounce' }; </pre>

### 6.22.31. Frontend::Module###AgentTicketForward

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketForward'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Forward Email',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Forward' };</pre>

### 6.22.32. Frontend::Module###AgentTicketEmailOutbound

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketEmailOutbound'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Outbound Email',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Email Outbound' };</pre>

### 6.22.33. Frontend::Module###AgentTicketCustomer

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketCustomer'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Customer',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.CustomerSearch.js',       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Customer' };</pre>

## 6.22.34. Frontend::Module###AgentTicketClose

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketClose'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Close',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Close' };</pre>

## 6.22.35. Frontend::Module###AgentTicketFreeText

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketFreeText'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket FreeText',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Free Fields' };</pre>

## 6.22.36. Frontend::Module###AgentTicketPrint

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketPrint'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket Print',   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Print' };</pre>

## 6.22.37. Frontend::Module###AgentTicketBulk

Description:	Frontend module registration for the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ModuleRegistration

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Module'}-&gt;{'AgentTicketBulk'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket bulk module',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Agent.TicketAction.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Bulk-Action' };</pre>

## 6.23. Frontend::Agent::Preferences

### 6.23.1. PreferencesGroups###NewTicketNotify

Description:	Parameters for the NewTicketNotify object in the preferences view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'NewTicketNotify'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Email Settings',   'Data' =&gt; {     '0' =&gt; 'No Notification',     'MyQueues' =&gt; 'My Queues',     'MyQueuesAndMyServices' =&gt; 'My Queues and My Services',     'MyQueuesOrMyServices' =&gt; 'My Queues or My Services',     'MyServices' =&gt; 'My Services'   },   'DataSelected' =&gt; '0',   'Desc' =&gt; 'Send me a notification if there is a new ticket in my queues/services.',   'Key' =&gt; 'Send new ticket notifications if subscribed to',   'Label' =&gt; 'New ticket notification',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserSendNewTicketNotification',   'Prio' =&gt; '1000' };</pre>

### 6.23.2. PreferencesGroups###FollowUpNotify

Description:	Parameters for the FollowUpNotify object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'FollowUpNotify'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Email Settings',   'Data' =&gt; {     '0' =&gt; 'No Notification',     'MyQueues' =&gt; 'My Queues',     'MyQueuesAndMyServices' =&gt; 'My Queues and My Services',     'MyQueuesOrMyServices' =&gt; 'My Queues or My Services',   } };</pre>

	<pre>       'MyServices' =&gt; 'My Services'     },     'DataSelected' =&gt; '0',     'Desc' =&gt; 'Send me a notification if a customer sends a follow up and I\'m the owner of the ticket or the ticket is unlocked and is in one of my queues/services.',     'Key' =&gt; 'Send ticket follow up notifications if subscribed to',     'Label' =&gt; 'Ticket follow up notification',     'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',     'PrefKey' =&gt; 'UserSendFollowUpNotification',     'Prio' =&gt; '2000'   }; </pre>
--	--

### 6.23.3. PreferencesGroups###LockTimeoutNotify

Description:	Parameters for the LockTimeoutNotify object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'LockTimeoutNotify'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Email Settings',   'Data' =&gt; {     '0' =&gt; 'No',     '1' =&gt; 'Yes'   },   'DataSelected' =&gt; '0',   'Desc' =&gt; 'Send me a notification if a ticket is unlocked by the system.',   'Key' =&gt; 'Send ticket lock timeout notifications',   'Label' =&gt; 'Ticket lock timeout notification',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserSendLockTimeoutNotification',   'Prio' =&gt; '3000' }; </pre>

### 6.23.4. PreferencesGroups###MoveNotify

Description:	Parameters for the MoveNotify object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'MoveNotify'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Email Settings',   'Data' =&gt; {     '0' =&gt; 'No',     '1' =&gt; 'Yes'   },   'DataSelected' =&gt; '0',   'Desc' =&gt; 'Send me a notification if a ticket is moved into one of "My Queues".',   'Key' =&gt; 'Send ticket move notifications',   'Label' =&gt; 'Ticket move notification',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserSendMoveNotification',   'Prio' =&gt; '4000' }; </pre>



### 6.23.5. PreferencesGroups###ServiceUpdateNotify

Description:	Parameters for the ServiceUpdateNotify object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'ServiceUpdateNotify'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Email Settings',   'Data' =&gt; {     '0' =&gt; 'No',     '1' =&gt; 'Yes'   },   'DataSelected' =&gt; '0',   'Desc' =&gt; 'Send me a notification if the service of a ticket is   changed to a service in "My Services" and the ticket is in a queue   where I have read permissions.',   'Key' =&gt; 'Send service update notifications',   'Label' =&gt; 'Service update notification',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserSendServiceUpdateNotification',   'Prio' =&gt; '4000' }; </pre>

### 6.23.6. PreferencesGroups###WatcherNotify

Description:	Parameters for the WatcherNotify object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'WatcherNotify'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Email Settings',   'Data' =&gt; {     '0' =&gt; 'No',     '1' =&gt; 'Yes'   },   'DataSelected' =&gt; '0',   'Desc' =&gt; 'Send me the same notifications for my watched tickets   that the ticket owners will get.',   'Key' =&gt; 'Send ticket watch notifications',   'Label' =&gt; 'Ticket watch notification',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesTicketWatcher',   'PrefKey' =&gt; 'UserSendWatcherNotification',   'Prio' =&gt; '5000' }; </pre>

### 6.23.7. PreferencesGroups###CustomQueue

Description:	Parameters for the CustomQueue object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'CustomQueue'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Desc' =&gt; 'Your queue selection of your favorite queues. You also get notified about those queues via email if enabled.',   'Key' =&gt; 'My Queues',   'Label' =&gt; 'My Queues',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesCustomQueue',   'Permission' =&gt; 'ro',   'Prio' =&gt; '1000' };</pre>

## 6.23.8. PreferencesGroups###CustomService

Description:	Parameters for the CustomService object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'CustomService'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Desc' =&gt; 'Your service selection of your favorite services. You also get notified about those services via email if enabled.',   'Key' =&gt; 'My Services',   'Label' =&gt; 'My Services',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesCustomService',   'Prio' =&gt; '1000' };</pre>

## 6.23.9. PreferencesGroups###RefreshTime

Description:	Parameters for the RefreshTime object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'RefreshTime'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Data' =&gt; {     '0' =&gt; 'off',     '10' =&gt; '10 minutes',     '15' =&gt; '15 minutes',     '2' =&gt; ' 2 minutes',     '5' =&gt; ' 5 minutes',     '7' =&gt; ' 7 minutes'   },   'DataSelected' =&gt; '0',   'Desc' =&gt; 'If enabled, the different overviews (Dashboard, LockedView, QueueView) will automatically refresh after the specified time.',   'Key' =&gt; 'Refresh Overviews after',   'Label' =&gt; 'Overview Refresh Time',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserRefreshTime',   'Prio' =&gt; '2000' };</pre>

## 6.23.10. PreferencesGroups###TicketOverviewSmallPageShown

Description:	Parameters for the pages (in which the tickets are shown) of the small ticket overview.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'TicketOverviewSmallPageShown'} = {   'Active' =&gt; '0',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Data' =&gt; {     '10' =&gt; '10',     '15' =&gt; '15',     '20' =&gt; '20',     '25' =&gt; '25',     '30' =&gt; '30',     '35' =&gt; '35'   },   'DataSelected' =&gt; '25',   'Key' =&gt; 'Ticket limit per page for Ticket Overview "Small"',   'Label' =&gt; 'Ticket Overview "Small" Limit',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserTicketOverviewSmallPageShown',   'Prio' =&gt; '8000' }; </pre>

## 6.23.11. PreferencesGroups###TicketOverviewFilterSettings

Description:	Parameters for .
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'TicketOverviewFilterSettings'} = {   'Active' =&gt; '0',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Key' =&gt; 'Column ticket filters for Ticket Overviews type "Small".',   'Label' =&gt; 'Enabled filters.',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesColumnFilters',   'PrefKey' =&gt; 'UserFilterColumnsEnabled',   'Prio' =&gt; '8100' }; </pre>

## 6.23.12. PreferencesGroups###TicketOverviewMediumPageShown

Description:	Parameters for the pages (in which the tickets are shown) of the medium ticket overview.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'TicketOverviewMediumPageShown'} = {   'Active' =&gt; '0',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Data' =&gt; {     '10' =&gt; '10',     '15' =&gt; '15',     '20' =&gt; '20',     '25' =&gt; '25',     '30' =&gt; '30',     '35' =&gt; '35'   },   'DataSelected' =&gt; '20',   'Key' =&gt; 'Ticket limit per page for Ticket Overview "Medium"',   'Label' =&gt; 'Ticket Overview "Medium" Limit',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserTicketOverviewMediumPageShown',   'Prio' =&gt; '8100' }; </pre>

### 6.23.13. PreferencesGroups###TicketOverviewPreviewPageShown

Description:	Parameters for the pages (in which the tickets are shown) of the ticket preview overview.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'TicketOverviewPreviewPageShown'} = {   'Active' =&gt; '0',   'Column' =&gt; 'Other Settings',   'Data' =&gt; {     '10' =&gt; '10',     '15' =&gt; '15',     '20' =&gt; '20',     '25' =&gt; '25',     '30' =&gt; '30',     '35' =&gt; '35'   },   'DataSelected' =&gt; '15',   'Key' =&gt; 'Ticket limit per page for Ticket Overview "Preview"',   'Label' =&gt; 'Ticket Overview "Preview" Limit',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserTicketOverviewPreviewPageShown',   'Prio' =&gt; '8200' }; </pre>

### 6.23.14. PreferencesGroups###CreateNextMask

Description:	Parameters for the CreateNextMask object in the preference view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'PreferencesGroups'}-&gt;{'CreateNextMask'} = {   'Active' =&gt; '1', </pre>

```
'Column' => 'Other Settings',
'Data' => {
  '' => 'Create Ticket',
  'AgentTicketZoom' => 'Ticket Zoom'
},
'DataSelected' => '',
'Key' => 'Show this screen after I created a new ticket',
'Label' => 'Screen after new ticket',
'Module' => 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',
'PrefKey' => 'UserCreateNextMask',
'Prio' => '3000'
};
```

## 6.24. Frontend::Agent::SearchRouter

### 6.24.1.

#### Frontend::Search###AgentCustomerInformationCenter

Description:	Search backend router.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::SearchRouter
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Search'}-&gt;{'AgentCustomerInformationCenter'} = {   '^AgentCustomerInformationCenter' =&gt;   'Action=AgentCustomerInformationCenterSearch' };</pre>

### 6.24.2. Frontend::Search###Ticket

Description:	Search backend router.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::SearchRouter
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::Search'}-&gt;{'Ticket'} = {   '^AgentTicket' =&gt; 'Action=AgentTicketSearch;Subaction=AJAX' };</pre>

## 6.25.

### Frontend::Agent::Ticket::ArticleAttachmentModule

#### 6.25.1.

#### Ticket::Frontend::ArticleAttachmentModule###1-Download

Description:	Shows a link to download article attachments in the zoom view of the article in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleAttachmentModule
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticleAttachmentModule'}-&gt;{'1-Download'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleAttachmentDownload' };</pre>

## 6.25.2. Ticket::Frontend::ArticleAttachmentModule###2-HTML-Viewer

Description:	Shows a link to access article attachments via a html online viewer in the zoom view of the article in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleAttachmentModule
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticleAttachmentModule'}-&gt;{'2-HTML-Viewer'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleAttachmentHTMLViewer' };</pre>

## 6.26. Frontend::Agent::Ticket::ArticleComposeModule

### 6.26.1. Ticket::Frontend::ArticleComposeModule###1-SignEmail

Description:	Module to compose signed messages (PGP or S/MIME).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleComposeModule
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticleComposeModule'}-&gt;{'1-SignEmail'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleComposeSign' };</pre>

### 6.26.2. Ticket::Frontend::ArticleComposeModule###2-CryptEmail

Description:	Module to crypt composed messages (PGP or S/MIME).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleComposeModule
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticleComposeModule'}-&gt;{'2-CryptEmail'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleComposeCrypt' };</pre>

## 6.27. Frontend::Agent::Ticket::ArticleViewModule

### 6.27.1. Ticket::Frontend::ArticleViewModule###1-PGP

Description:	Agent interface article notification module to check PGP.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleViewModule
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticleViewModule'}-&gt;{'1-PGP'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleCheckPGP' };</pre>

### 6.27.2. Ticket::Frontend::ArticleViewModule###1-SMIME

Description:	Agent interface module to check incoming emails in the Ticket-Zoom-View if the S/MIME-key is available and true.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleViewModule
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticleViewModule'}-&gt;{'1-SMIME'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleCheckSMIME' };</pre>

## 6.28. Frontend::Agent::Ticket::ArticleViewModulePre

### 6.28.1. Ticket::Frontend::ArticlePreViewModule###1-PGP

Description:	Agent interface article notification module to check PGP.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleViewModulePre
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticlePreViewModule'}-&gt;{'1-PGP'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleCheckPGP' };</pre>

### 6.28.2. Ticket::Frontend::ArticlePreViewModule###1-SMIME

Description:	Agent interface article notification module to check S/MIME.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ArticleViewModulePre
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ArticlePreViewModule'}-&gt;{'1-SMIME'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ArticleCheckSMIME' };</pre>

## 6.29. Frontend::Agent::Ticket::MenuModule

### 6.29.1. Ticket::Frontend::MenuModule###000-Back

Description:	Shows a link in the menu to go back in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'000-Back'} = {   'Action' =&gt; '',   'Description' =&gt; 'Back',   'Link' =&gt; "[% Env("LastScreenOverview") %];TicketID=[% Data.TicketID   html %]",   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Back',   'PopupType' =&gt; '',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.29.2. Ticket::Frontend::MenuModule###100-Lock

Description:	Shows a link in the menu to lock/unlock tickets in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'100-Lock'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketLock',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuLock',   'Name' =&gt; 'Lock',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.29.3. Ticket::Frontend::MenuModule###200-History

Description:	Shows a link in the menu to access the history of a ticket in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'200-History'} = {</pre>



	<pre>'Action' =&gt; 'AgentTicketHistory', 'Description' =&gt; 'Show the ticket history', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketHistory;TicketID=[% Data.TicketID   html %]', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric', 'Name' =&gt; 'History', 'PopupType' =&gt; 'TicketHistory', 'Target' =&gt; '' };</pre>
--	--

#### 6.29.4. Ticket::Frontend::MenuModule###210-Print

Description:	Shows a link in the menu to print a ticket or an article in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'210-Print'} = { 'Action' =&gt; 'AgentTicketPrint', 'Description' =&gt; 'Print this ticket', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPrint;TicketID=[% Data.TicketID   html %]', 'LinkParam' =&gt; 'target="print"', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric', 'Name' =&gt; 'Print', 'PopupType' =&gt; 'TicketAction', 'Target' =&gt; '' };</pre>

#### 6.29.5. Ticket::Frontend::MenuModule###300-Priority

Description:	Shows a link in the menu to see the priority of a ticket in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'300-Priority'} = { 'Action' =&gt; 'AgentTicketPriority', 'Description' =&gt; 'Change the ticket priority', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPriority;TicketID=[% Data.TicketID   html %]', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric', 'Name' =&gt; 'Priority', 'PopupType' =&gt; 'TicketAction', 'Target' =&gt; '' };</pre>

#### 6.29.6. Ticket::Frontend::MenuModule###310-FreeText

Description:	Shows a link in the menu to add a free text field in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'310-FreeText'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketFreeText',   'Description' =&gt; 'Change the free fields for this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketFreeText;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Free Fields',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' }; </pre>

### 6.29.7. Ticket::Frontend::MenuModule###320-Link

Description:	Shows a link in the menu that allows linking a ticket with another object in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'320-Link'} = {   'Action' =&gt; 'AgentLinkObject',   'Description' =&gt; 'Link this ticket to other objects',   'Link' =&gt; 'Action=AgentLinkObject;SourceObject=Ticket;SourceKey=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Link',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' }; </pre>

### 6.29.8. Ticket::Frontend::MenuModule###400-Owner

Description:	Shows a link in the menu to see the owner of a ticket in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'400-Owner'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketOwner',   'Description' =&gt; 'Change the owner for this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketOwner;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Owner',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' }; </pre>

### 6.29.9. Ticket::Frontend::MenuModule###410-Responsible

Description:	Shows a link in the menu to see the responsible agent of a ticket in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'410-Responsible'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketResponsible',   'Description' =&gt; 'Change the responsible person for this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketResponsible;TicketID=[% Data.TicketID     html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuResponsible',   'Name' =&gt; 'Responsible',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.29.10. Ticket::Frontend::MenuModule###420-Customer

Description:	Shows a link in the menu to see the customer who requested the ticket in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'420-Customer'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketCustomer',   'Description' =&gt; 'Change the customer for this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketCustomer;TicketID=[% Data.TicketID     html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Customer',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.29.11. Ticket::Frontend::MenuModule###420-Note

Description:	Shows a link in the menu to add a note in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'420-Note'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketNote',   'Description' =&gt; 'Add a note to this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketNote;TicketID=[% Data.TicketID   html   %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Note',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.29.12. Ticket::Frontend::MenuModule###425-Phone Call Outbound

Description:	Shows a link in the menu to add a note in the ticket zoom view of the agent interface.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'425-Phone Call Outbound'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketPhoneOutbound',   'Description' =&gt; 'Phone Call Outbound',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPhoneOutbound;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Phone Call Outbound',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' }; </pre>

### 6.29.13. Ticket::Frontend::MenuModule###426-Phone Call Inbound

Description:	Shows a link in the menu to add a note in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'426-Phone Call Inbound'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketPhoneInbound',   'Description' =&gt; 'Phone Call Inbound',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPhoneInbound;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Phone Call Inbound',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' }; </pre>

### 6.29.14. Ticket::Frontend::MenuModule###427-Email Outbound

Description:	Shows a link in the menu to send an outbound email in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'427-Email Outbound'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketEmailOutbound',   'Description' =&gt; 'Write a new, outgoing mail',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketEmailOutbound;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'E-Mail Outbound',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' }; </pre>

```
};
```

### 6.29.15. Ticket::Frontend::MenuModule###430-Merge

Description:	Shows a link in the menu that allows merging tickets in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'430-Merge'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketMerge',   'Description' =&gt; 'Merge into a different ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketMerge;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Merge',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.29.16. Ticket::Frontend::MenuModule###440-Pending

Description:	Shows a link in the menu to set a ticket as pending in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'440-Pending'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketPending',   'Description' =&gt; 'Set this ticket to pending',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPending;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Pending',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.29.17. Ticket::Frontend::MenuModule###448-Watch

Description:	Shows a link in the menu for subscribing / unsubscribing from a ticket in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'448-Watch'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketWatcher',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuTicketWatcher',   'Name' =&gt; 'Watch',   'Target' =&gt; '' };</pre>

## 6.29.18. Ticket::Frontend::MenuModule###450-Close

Description:	Shows a link in the menu to close a ticket in the ticket zoom view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'450-Close'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketClose',   'Description' =&gt; 'Close this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketClose;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Close',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' };</pre>

## 6.29.19. Ticket::Frontend::MenuModule###460-Delete

Description:	Shows a link in the menu to delete a ticket in the ticket zoom view of the agent interface. Additional access control to show or not show this link can be done by using Key "Group" and Content like "rw:group1;move_into:group2".
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'460-Delete'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketMove',   'Description' =&gt; 'Delete this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketMove;TicketID=[% Data.TicketID %];DestQueue=Delete',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Delete',   'PopupType' =&gt; '',   'Target' =&gt; '' };</pre>

## 6.29.20. Ticket::Frontend::MenuModule###470-Spam

Description:	Shows a link to set a ticket as spam in the ticket zoom view of the agent interface. Additional access control to show or not show this link can be done by using Key "Group" and Content like "rw:group1;move_into:group2".
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MenuModule'}-&gt;{'470-Spam'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketMove',   'Description' =&gt; 'Mark as Spam!',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketMove;TicketID=[% Data.TicketID %];DestQueue=Delete',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Spam',</pre>

```
'PopupType' => '',
'Target' => ''
};
```

## 6.30.

### Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre

#### 6.30.1. Ticket::Frontend::PreMenuModule###100-Lock

Description:	Shows a link in the menu to lock / unlock a ticket in the ticket overviews of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'100-Lock'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketLock',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuLock',   'Name' =&gt; 'Lock',   'PopupType' =&gt; '',   'Target' =&gt; '' };</pre>

#### 6.30.2. Ticket::Frontend::PreMenuModule###200-Zoom

Description:	Shows a link in the menu to zoom a ticket in the ticket overviews of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'200-Zoom'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketZoom',   'Description' =&gt; 'Look into a ticket!',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketZoom;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Zoom',   'PopupType' =&gt; '',   'Target' =&gt; '' };</pre>

#### 6.30.3. Ticket::Frontend::PreMenuModule###210-History

Description:	Shows a link in the menu to see the history of a ticket in every ticket overview of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'210-History'} = {</pre>

	<pre>'Action' =&gt; 'AgentTicketHistory', 'Description' =&gt; 'Show the ticket history', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketHistory;TicketID=[% Data.TicketID   html %]', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric', 'Name' =&gt; 'History', 'PopupType' =&gt; 'TicketHistory', 'Target' =&gt; '' };</pre>
--	--

### 6.30.4. Ticket::Frontend::PreMenuModule###300-Priority

Description:	Shows a link in the menu to set the priority of a ticket in every ticket overview of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'300-Priority'} = { 'Action' =&gt; 'AgentTicketPriority', 'Description' =&gt; 'Change the priority for this ticket', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPriority;TicketID=[% Data.TicketID   html %]', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric', 'Name' =&gt; 'Priority', 'PopupType' =&gt; 'TicketAction', 'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.30.5. Ticket::Frontend::PreMenuModule###420-Note

Description:	Shows a link in the menu to add a note to a ticket in every ticket overview of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'420-Note'} = { 'Action' =&gt; 'AgentTicketNote', 'Description' =&gt; 'Add a note to this ticket', 'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketNote;TicketID=[% Data.TicketID   html %]', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric', 'Name' =&gt; 'Note', 'PopupType' =&gt; 'TicketAction', 'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.30.6. Ticket::Frontend::PreMenuModule###440-Close

Description:	Shows a link in the menu to close a ticket in every ticket overview of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	1



Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'440-Close'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketClose',   'Description' =&gt; 'Close this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketClose;TicketID=[% Data.TicketID   html %]',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Close',   'PopupType' =&gt; 'TicketAction',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.30.7. Ticket::Frontend::PreMenuModule###445-Move

Description:	Shows a link in the menu to move a ticket in every ticket overview of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'445-Move'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketMove',   'Description' =&gt; 'Change queue!',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuMove',   'Name' =&gt; 'Move' };</pre>

### 6.30.8. Ticket::Frontend::PreMenuModule###450-Delete

Description:	Shows a link in the menu to delete a ticket in every ticket overview of the agent interface. Additional access control to show or not show this link can be done by using Key "Group" and Content like "rw:group1;move_into:group2".
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'450-Delete'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketMove',   'Description' =&gt; 'Delete this ticket',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketMove;TicketID=[% Data.TicketID %];DestQueue=Delete',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Delete',   'PopupType' =&gt; '',   'Target' =&gt; '' };</pre>

### 6.30.9. Ticket::Frontend::PreMenuModule###460-Spam

Description:	Shows a link in the menu to set a ticket as spam in every ticket overview of the agent interface. Additional access control to show or not show this link can be done by using Key "Group" and Content like "rw:group1;move_into:group2".
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::MenuModulePre
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PreMenuModule'}-&gt;{'460-Spam'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketMove',   'Description' =&gt; 'Mark as Spam!',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketMove;TicketID=[% Data.TicketID %];DestQueue=Delete',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketMenuGeneric',   'Name' =&gt; 'Spam',   'PopupType' =&gt; '',   'Target' =&gt; '' };</pre>

## 6.31.

# Frontend::Agent::Ticket::OverviewMenuModule

### 6.31.1.

## Ticket::Frontend::OverviewMenuModule###001-Sort

Description:	Shows a select of ticket attributes to order the queue view ticket list. The possible selections can be configured via 'TicketOverviewMenuSort###SortAttributes'.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::OverviewMenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::OverviewMenuModule'}-&gt;{'001-Sort'} = {   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketOverviewMenuSort' };</pre>

### 6.31.2. TicketOverviewMenuSort###SortAttributes

Description:	Defines from which ticket attributes the agent can select the result order.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::OverviewMenuModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'TicketOverviewMenuSort'}-&gt;{'SortAttributes'} = {   'Age' =&gt; '1',   'Title' =&gt; '1' };</pre>

## 6.32. Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce

### 6.32.1.

## Ticket::Frontend::AgentTicketBounce###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket bounce screen in the agent interface.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBounce'}-&gt;{'Permission'} = 'bounce';</code>

### 6.32.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketBounce###RequiredLock**

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket bounce screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBounce'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.32.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketBounce###StateDefault**

Description:	Defines the default next state of a ticket after being bounced, in the ticket bounce screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBounce'}-&gt;{'StateDefault'} = 'closed successful';</code>

### 6.32.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketBounce###StateType**

Description:	Defines the next state of a ticket after being bounced, in the ticket bounce screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBounce'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'closed' ];</code>

### 6.32.5. Ticket::Frontend::BounceText

Description:	Defines the default ticket bounced notification for customer/sender in the ticket bounce screen of the agent interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBounce
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::BounceText'} = 'Your email with ticket number "&lt;OTRS_TICKET&gt;" is bounced to "&lt;OTRS_BOUNCE_TO&gt;". Contact this address for further information.';</code>

## 6.33. Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk

### 6.33.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###RequiredLock

Description:	Automatically lock and set owner to current Agent after selecting for an Bulk Action.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.33.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###TicketType

Description:	Sets the ticket type in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'TicketType'} = '1';</code>

### 6.33.3. Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###Owner

Description:	Sets the ticket owner in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'Owner'} = '1';</code>

### 6.33.4.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###Responsible

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'Responsible'} = '1';</code>

### 6.33.5. Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###State

Description:	Sets the state of a ticket in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'State'} = '1';</code>

### 6.33.6.

### Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###StateType

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'closed', 'pending reminder', 'pending auto' ];</code>

### 6.33.7.

### Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###StateDefault

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.33.8. Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###Priority

Description:	Shows the ticket priority options in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'Priority'} = '1';</code>

### 6.33.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###PriorityDefault**

Description:	Defines the default ticket priority in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</code>

### 6.33.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###ArticleTypeDefault**

Description:	Defines the default type of the note in the ticket bulk screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.33.11.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketBulk###ArticleTypes**

Description:	Specifies the different note types that will be used in the system.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewBulk
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketBulk'}-&gt;{'ArticleTypes'} = {  'note-external' =&gt; '1',  'note-internal' =&gt; '1',  'note-report' =&gt; '0'  };</code>

## 6.34. Frontend::Agent::Ticket::ViewClose

### 6.34.1.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Permission**

Description:	Required permissions to use the close ticket screen in the agent interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Permission'} = 'close';</code>

### 6.34.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###RequiredLock**

Description:	Defines if a ticket lock is required in the close ticket screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.34.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###TicketType**

Description:	Sets the ticket type in the close ticket screen of the agent interface (Ticket::Type needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'TicketType'} = '0';</code>

### 6.34.4. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Service

Description:	Sets the service in the close ticket screen of the agent interface (Ticket::Service needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Service'} = '0';</code>

### 6.34.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.34.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###SLAMandatory**

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.34.7. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Queue

Description:	Sets the queue in the ticket close screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.34.8. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Owner

Description:	Sets the ticket owner in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Owner'} = '0';</code>

### 6.34.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###OwnerMandatory**

Description:	Sets if ticket owner must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0



Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'OwnerMandatory'} = '0';</code>
-----------------	--

### 6.34.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Responsible**

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Responsible'} = '0';</code>

### 6.34.11. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###State

Description:	Sets the state of a ticket in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'State'} = '1';</code>

### 6.34.12.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###StateType**

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'StateType'} = [ 'closed' ];</code>

### 6.34.13.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###StateDefault**

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'StateDefault'} = 'closed successful';</code>
-----------------	--

### 6.34.14. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Note

Description:	Allows adding notes in the close ticket screen of the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Note'} = '1';</code>

### 6.34.15. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###NoteMandatory

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '1';</code>

### 6.34.16. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Subject

Description:	Sets the default subject for notes added in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Close")   html %]";</code>

### 6.34.17. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Body

Description:	Sets the default body text for notes added in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.34.18.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###InvolvedAgent**

Description:	Shows a list of all the involved agents on this ticket, in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'InvolvedAgent'} = '0';</code>

### 6.34.19.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###InformAgent**

Description:	Shows a list of all the possible agents (all agents with note permissions on the queue/ticket) to determine who should be informed about this note, in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'InformAgent'} = '0';</code>

### 6.34.20.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###ArticleTypeDefault**

Description:	Defines the default type of the note in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.34.21.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###ArticleTypes**

Description:	Specifies the available note types for this ticket mask. If the option is deselected, ArticleTypeDefault is used and the option is removed from the mask.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'ArticleTypes'} = {   'note-external' =&gt; '0',   'note-internal' =&gt; '1',   'note-report' =&gt; '0' };</pre>
-----------------	--

### 6.34.22.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Priority**

Description:	Shows the ticket priority options in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Priority'} = '0';</pre>

### 6.34.23.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###PriorityDefault**

Description:	Defines the default ticket priority in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</pre>

### 6.34.24. Ticket::Frontend::AgentTicketClose###Title

Description:	Shows the title fields in the close ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'Title'} = '0';</pre>

### 6.34.25.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketClose###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the close ticket screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>
-----------------	---

### 6.34.26.

## Ticket::Frontend::AgentTicketClose###HistoryComment

Description:	Defines the history comment for the close ticket screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%Close';</code>

### 6.34.27.

## Ticket::Frontend::AgentTicketClose###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket close screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

### 6.34.28.

## Ticket::Frontend::AgentTicketClose###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

### 6.34.29.

## Ticket::Frontend::AgentTicketClose###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewClose
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketClose'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.35. Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose

### 6.35.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketCompose###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket compose screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCompose'}-&gt;{'Permission'} = 'compose';</code>

### 6.35.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketCompose###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket compose screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCompose'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.35.3.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketCompose###StateDefault

Description:	Defines the default next state of a ticket if it is composed / answered in the ticket compose screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCompose'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.35.4.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketCompose###StateType

Description:	Defines the next possible states after composing / answering a ticket in the ticket compose screen of the agent interface.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCompose'}-&gt;{'StateType'} = [   'open',   'closed',   'pending auto',   'pending reminder' ];</pre>

### 6.35.5. Ticket::Frontend::AgentTicketCompose###ArticleTypes

Description:	Specifies the different article types that will be used in the system.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCompose'}-&gt;{'ArticleTypes'} = [   'email-external',   'email-internal' ];</pre>

### 6.35.6. Ticket::Frontend::AgentTicketCompose###DefaultArticleType

Description:	Specifies the default article type for the ticket compose screen in the agent interface if the article type cannot be automatically detected.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCompose'}-&gt;{'DefaultArticleType'} = 'email-external';</pre>

### 6.35.7. Ticket::Frontend::ResponseFormat

Description:	Defines the format of responses in the ticket compose screen of the agent interface ([% Data.OrigFrom   html %] is From 1:1, [% Data.OrigFromName   html %] is only realname of From).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ResponseFormat'} = '[% Data.Salutation   html %] [% Data.StdResponse   html %] [% Data.Signature   html %]'</pre>

	<pre>[% Data.Created   Localize("TimeShort") %] - [% Data.OrigFromName   html %] [% Translate("wrote")   html %]: [% Data.Body   html %] ';</pre>
--	---

### 6.35.8. Ticket::Frontend::Quote

Description:	Defines the used character for plaintext email quotes in the ticket compose screen of the agent interface. If this is empty or inactive, original emails will not be quoted but appended to the response.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::Quote'} = '&gt;';</code>

### 6.35.9. Ticket::Frontend::ResponseQuoteMaxLines

Description:	Defines the maximum number of quoted lines to be added to responses.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ResponseQuoteMaxLines'} = '99';</code>

### 6.35.10. Ticket::Frontend::ComposeAddCustomerAddress

Description:	Adds customers email addresses to recipients in the ticket compose screen of the agent interface. The customers email address won't be added if the article type is email-internal.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ComposeAddCustomerAddress'} = '1';</code>

### 6.35.11. Ticket::Frontend::ComposeReplaceSenderAddress

Description:	Replaces the original sender with current customer's email address on compose answer in the ticket compose screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	1



Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ComposeReplaceSenderAddress'} = '0';</code>
-----------------	--

## 6.35.12.

### Ticket::Frontend::ComposeExcludeCcRecipients

Description:	Uses Cc recipients in reply Cc list on compose an email answer in the ticket compose screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ComposeExcludeCcRecipients'} = '0';</code>

## 6.35.13.

### Ticket::Frontend::AgentTicketCompose###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket compose screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCompose
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCompose'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.36. Frontend::Agent::Ticket::ViewCustomer

### 6.36.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketCustomer###Permission

Description:	Required permissions to change the customer of a ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCustomer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCustomer'}-&gt;{'Permission'} = 'customer';</code>

### 6.36.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketCustomer###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required to change the customer of a ticket in the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCustomer
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCustomer'}-&gt;{'RequiredLock'} = '0';</code>

### 6.36.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketCustomer::CustomerIDReadOnly**

Description:	Controls if CustomerID is editable in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewCustomer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketCustomer::CustomerIDReadOnly'} = '1';</code>

## 6.37. Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew

### 6.37.1. Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###Priority

Description:	Sets the default priority for new email tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'Priority'} = '3 normal';</code>

### 6.37.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###ArticleType**

Description:	Sets the default article type for new email tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'ArticleType'} = 'email-external';</code>

### 6.37.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###SenderType**

Description:	Sets the default sender type for new email tickets in the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'SenderType'} = 'agent';</code>

#### 6.37.4.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail::CustomerIDReadOnly**

Description:	Controls if CustomerID is editable in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail::CustomerIDReadOnly'} = '1';</code>

#### 6.37.5. Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###Subject

Description:	Sets the default subject for new email tickets (e.g. 'email Outbound') in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'Subject'} = '';</code>

#### 6.37.6. Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###Body

Description:	Sets the default text for new email tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

#### 6.37.7.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###StateDefault**

Description:	Sets the default next ticket state, after the creation of an email ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.37.8.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###StateType**

Description:	Determines the next possible ticket states, after the creation of a new email ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'StateType'} = [   'open',   'pending auto',   'pending reminder',   'closed' ];</pre>

### 6.37.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the email ticket screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'HistoryType'} =   'EmailAgent';</pre>

### 6.37.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###HistoryComment**

Description:	Defines the history comment for the email ticket screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'HistoryComment'} =   '';</pre>

### 6.37.11.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>
-----------------	--

### 6.37.12.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###SLAMandatory**

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.37.13.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the ticket email screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

### 6.37.14.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###RichTextWidth**

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

### 6.37.15.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmail###RichTextHeight**

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailNew
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmail'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '320';</code>
-----------------	--

## 6.38. Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound

### 6.38.1. Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###Permission

Description:	Required permissions to use the email outbound screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}-&gt;{'Permission'} = 'compose';</code>

### 6.38.2. Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the email outbound screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.38.3. Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###StateDefault

Description:	Defines the default next state of a ticket after the message has been sent, in the email outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.38.4. Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###StateType

Description:	Defines the next possible states after sending a message in the email outbound screen of the agent interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}- &gt;{'StateType'} = [ 'open', 'closed', 'pending reminder', 'pending auto' ];</pre>

### 6.38.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###ArticleTypeDef**

Description:	Defines the default type of the message in the email outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}- &gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'email-internal';</pre>

### 6.38.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###ArticleTypes**

Description:	Specifies the different article types that will be used in the system.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}- &gt;{'ArticleTypes'} = [ 'email-external', 'email-internal' ];</pre>

### 6.38.7.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the email outbound screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}- &gt;{'DynamicField'} = {};</pre>

### 6.38.8.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

### 6.38.9.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEmailOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEmailOutbound'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '300';</code>

## 6.39. Frontend::Agent::Ticket::ViewEscalation

### 6.39.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView###TicketPermission

Description:	Defines the required permission to show a ticket in the escalation view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEscalation
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView'}-&gt;{'TicketPermission'} = 'rw';</code>

### 6.39.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView###ViewableTicket

Description:	Shows all open tickets (even if they are locked) in the escalation view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEscalation
Valid:	1
Required:	1



Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView'}-&gt;{'ViewableTicketsPage'} = '50';</code>
-----------------	---

### 6.39.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView###SortBy::Default**

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting in the escalation view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEscalation
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'EscalationTime';</code>

### 6.39.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView###Order::Default**

Description:	Defines the default ticket order (after priority sort) in the escalation view of the agent interface. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEscalation
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Up';</code>

### 6.39.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView###DefaultColumns**

Description:	Columns that can be filtered in the escalation view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewEscalation
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketEscalationView'}-&gt;{'DefaultColumns'} = {        'Age' =&gt; '2',        'Changed' =&gt; '1',        'Created' =&gt; '1',        'CustomerID' =&gt; '2',        'CustomerName' =&gt; '1',        'CustomerUserID' =&gt; '1',        'EscalationResponseTime' =&gt; '1',        'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',        'EscalationTime' =&gt; '2',        'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',        'Lock' =&gt; '2',</code>

```
'Owner' => '2',
'PendingTime' => '1',
'Priority' => '1',
'Queue' => '2',
'Responsible' => '1',
'SLA' => '1',
'Service' => '1',
'State' => '2',
'TicketNumber' => '2',
'Title' => '2',
'Type' => '1'
};
```

## 6.40. Frontend::Agent::Ticket::ViewForward

### 6.40.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket forward screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'Permission'} = 'forward';</code>

### 6.40.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket forward screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.40.3.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###StateDefault

Description:	Defines the default next state of a ticket after being forwarded, in the ticket forward screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'StateDefault'} = 'closed successful';</code>

#### 6.40.4.

### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###StateType

Description:	Defines the next possible states after forwarding a ticket in the ticket forward screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'StateType'} = [   'open',   'closed',   'pending reminder',   'pending auto' ];</pre>

#### 6.40.5.

### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###ArticleTypeDefault

Description:	Defines the default type of forwarded message in the ticket forward screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'email-external';</pre>

#### 6.40.6.

### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###ArticleTypes

Description:	Specifies the different article types that will be used in the system.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'ArticleTypes'} = [   'email-external',   'email-internal' ];</pre>

#### 6.40.7.

### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket forward screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.40.8.

### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

## 6.40.9.

### Ticket::Frontend::AgentTicketForward###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewForward
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketForward'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.41. Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText

### 6.41.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket free text screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Permission'} = 'rw';</code>

### 6.41.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket free text screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'RequiredLock'} = '0';</code>

### 6.41.3. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###TicketType

Description:	Sets the ticket type in the ticket free text screen of the agent interface (Ticket::Type needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'TicketType'} = '1';</code>

### 6.41.4. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Service

Description:	Sets the service in the ticket free text screen of the agent interface (Ticket::Service needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Service'} = '1';</code>

### 6.41.5. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###ServiceMandatory

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.41.6. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###SLAMandatory

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.41.7.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Queue**

Description:	Sets the queue in the ticket free text screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.41.8.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Owner**

Description:	Sets the ticket owner in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Owner'} = '0';</code>

### 6.41.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###OwnerMandatory**

Description:	Sets if ticket owner must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'OwnerMandatory'} = '0';</code>

### 6.41.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Responsible**

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Responsible'} = '0';</code>

### 6.41.11. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###State

Description:	Sets the state of a ticket in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'State'} = '0';</code>

### 6.41.12. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###StateType

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'closed', 'pending reminder', 'pending auto' ];</code>

### 6.41.13. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###StateDefault

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.41.14. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Note

Description:	Allows adding notes in the ticket free text screen of the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Note'} = '0';</code>

### 6.41.15.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###NoteMandatory**

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '0';</code>

### 6.41.16.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Subject**

Description:	Defines the default subject of a note in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Note")   html %]";</code>

### 6.41.17.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Body**

Description:	Defines the default body of a note in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.41.18.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###InvolvedAgent**

Description:	Shows a list of all the involved agents on this ticket, in the ticket free text screen of the agent interface.
--------------	--



Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'InvolvedAgent'} = '0';</code>

### 6.41.19. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###InformAgent

Description:	Shows a list of all the possible agents (all agents with note permissions on the queue/ticket) to determine who should be informed about this note, in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'InformAgent'} = '0';</code>

### 6.41.20. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###ArticleTypeDefault

Description:	Defines the default type of the note in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.41.21. Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###ArticleTypes

Description:	Specifies the available note types for this ticket mask. If the option is deselected, ArticleTypeDefault is used and the option is removed from the mask.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'ArticleTypes'} = {   'note-external' =&gt; '1',   'note-internal' =&gt; '1',   'note-report' =&gt; '0' };</code>

### 6.41.22.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Priority**

Description:	Shows the ticket priority options in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Priority'} = '0';</code>

### 6.41.23.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###PriorityDefault**

Description:	Defines the default ticket priority in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</code>

### 6.41.24.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###Title**

Description:	Shows the title fields in the ticket free text screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'Title'} = '1';</code>

### 6.41.25.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the ticket free text screen action, which gets used for ticket history.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>

## 6.41.26.

### Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###HistoryComment

Description:	Defines the history comment for the ticket free text screen action, which gets used for ticket history.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%FreeText';</code>

## 6.41.27.

### Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket free text screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.41.28.

### Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

## 6.41.29.

### Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewFreeText
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketFreeText'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.42. Frontend::Agent::Ticket::ViewHistory

### 6.42.1. Ticket::Frontend::HistoryOrder

Description:	Shows the ticket history (reverse ordered) in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewHistory
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::HistoryOrder'} = 'normal';</code>

### 6.42.2. Ticket::Frontend::HistoryTypes###000-Framework

Description:	Controls how to display the ticket history entries as readable values.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewHistory
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::HistoryTypes'}-&gt;{'000-Framework'} = {   'AddNote' =&gt; 'Added note (%s)',   'ArchiveFlagUpdate' =&gt; 'Archive state changed: "%s"',   'Bounce' =&gt; 'Bounced to "%s".',   'CustomerUpdate' =&gt; 'Updated: %s',   'EmailAgent' =&gt; 'Email sent to customer.',   'EmailCustomer' =&gt; 'Added email. %s',   'EscalationResponseTimeNotifyBefore' =&gt; 'Escalation response time forewarned',   'EscalationResponseTimeStart' =&gt; 'Escalation response time in effect',   'EscalationResponseTimeStop' =&gt; 'Escalation response time finished',   'EscalationSolutionTimeNotifyBefore' =&gt; 'Escalation solution time forewarned',   'EscalationSolutionTimeStart' =&gt; 'Escalation solution time in effect',   'EscalationSolutionTimeStop' =&gt; 'Escalation solution time finished',   'EscalationUpdateTimeNotifyBefore' =&gt; 'Escalation update time forewarned',   'EscalationUpdateTimeStart' =&gt; 'Escalation update time in effect',   'EscalationUpdateTimeStop' =&gt; 'Escalation update time finished',   'FollowUp' =&gt; 'FollowUp for [%s]. %s',   'Forward' =&gt; 'Forwarded to "%s".',   'Lock' =&gt; 'Locked ticket.',   'LoopProtection' =&gt; 'Loop-Protection! No auto-response sent to "%s".',   'Misc' =&gt; '%s',   'Move' =&gt; 'Ticket moved into Queue "%s" (%s) from Queue "%s" (%s).',   'NewTicket' =&gt; 'New Ticket [%s] created (Q=%s;P=%s;S=%s).',   'OwnerUpdate' =&gt; 'New owner is "%s" (ID=%s).',   'PhoneCallAgent' =&gt; 'Agent called customer.',   'PhoneCallCustomer' =&gt; 'Customer called us.',   'PriorityUpdate' =&gt; 'Changed priority from "%s" (%s) to "%s" (%s).',   'Remove' =&gt; '%s',   'ResponsibleUpdate' =&gt; 'New responsible is "%s" (ID=%s).',   'SLAUpdate' =&gt; 'Updated SLA to %s (ID=%s).', </pre>

```
'SendAgentNotification' => '"%s"-notification sent to "%s".',
'SendAnswer' => 'Email sent to "%s".',
'SendAutoFollowUp' => 'AutoFollowUp sent to "%s".',
'SendAutoReject' => 'AutoReject sent to "%s".',
'SendAutoReply' => 'AutoReply sent to "%s".',
'SendCustomerNotification' => 'Notification sent to "%s".',
'ServiceUpdate' => 'Updated Service to %s (ID=%s).',
'SetPendingTime' => 'Updated: %s',
'StateUpdate' => 'Old: "%s" New: "%s"',
'Subscribe' => 'Added subscription for user "%s".',
'SystemRequest' => 'System Request (%s).',
'TicketDynamicFieldUpdate' => 'Updated: %s=%s;%s=%s;%s=%s;',
'TicketLinkAdd' => 'Added link to ticket "%s".',
'TicketLinkDelete' => 'Deleted link to ticket "%s".',
'TimeAccounting' => '%s time unit(s) accounted. Now total %s time
unit(s).',
'TitleUpdate' => 'Title updated: Old: "%s", New: "%s"',
'TypeUpdate' => 'Updated Type to %s (ID=%s).',
'Unlock' => 'Unlocked ticket.',
'Unsubscribe' => 'Removed subscription for user "%s".',
'WebRequestCustomer' => 'Customer request via web.'
};
```

## 6.43. Frontend::Agent::Ticket::ViewLocked

### 6.43.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketLockedView###SortBy::Default

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting in the locked ticket view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewLocked
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketLockedView'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</code>

### 6.43.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketLockedView###Order::Default

Description:	Defines the default ticket order in the ticket locked view of the agent interface. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewLocked
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketLockedView'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Up';</code>

### 6.43.3.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketLockedView###DefaultColumns

Description:	Columns that can be filtered in the locked view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewLocked
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketLockedView'}-&gt;{'DefaultColumns'} = {   'Age' =&gt; '2',   'Changed' =&gt; '1',   'Created' =&gt; '1',   'CustomerID' =&gt; '2',   'CustomerName' =&gt; '1',   'CustomerUserID' =&gt; '1',   'EscalationResponseTime' =&gt; '1',   'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',   'EscalationTime' =&gt; '1',   'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',   'Lock' =&gt; '2',   'Owner' =&gt; '2',   'PendingTime' =&gt; '1',   'Priority' =&gt; '1',   'Queue' =&gt; '2',   'Responsible' =&gt; '1',   'SLA' =&gt; '1',   'Service' =&gt; '1',   'State' =&gt; '2',   'TicketNumber' =&gt; '2',   'Title' =&gt; '2',   'Type' =&gt; '1' }; </pre>

## 6.44. Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge

### 6.44.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketMerge###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket merge screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMerge'}-&gt;{'Permission'} = 'rw'; </pre>

### 6.44.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketMerge###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket merge screen of a zoomed ticket in the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMerge'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>
-----------------	--

### 6.44.3. Ticket::Frontend::MergeText

Description:	When tickets are merged, the customer can be informed per email by setting the check box "Inform Sender". In this text area, you can define a pre-formatted text which can later be modified by the agents.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MergeText'} = 'Your email with ticket number "&lt;OTRS_TICKET&gt;" is merged to "&lt;OTRS_MERGE_TO_TICKET&gt;";</code>

### 6.44.4. Ticket::Frontend::AutomaticMergeSubject

Description:	When tickets are merged, a note will be added automatically to the ticket which is no longer active. Here you can define the subject of this note (this subject cannot be changed by the agent).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AutomaticMergeSubject'} = 'Ticket Merged';</code>

### 6.44.5. Ticket::Frontend::AutomaticMergeText

Description:	When tickets are merged, a note will be added automatically to the ticket which is no longer active. Here you can define the body of this note (this text cannot be changed by the agent).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AutomaticMergeText'} = 'Merged Ticket &lt;OTRS_TICKET&gt; to &lt;OTRS_MERGE_TO_TICKET&gt;.';</code>

### 6.44.6. Ticket::Frontend::AgentTicketMerge###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMerge'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>
-----------------	---

### 6.44.7.

## Ticket::Frontend::AgentTicketMerge###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMerge
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMerge'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.45. Frontend::Agent::Ticket::ViewMove

### 6.45.1. Ticket::Frontend::MoveType

Description:	Determines if the list of possible queues to move to ticket into should be displayed in a dropdown list or in a new window in the agent interface. If "New Window" is set you can add a move note to the ticket.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MoveType'} = 'form';</code>

### 6.45.2.

## Ticket::Frontend::AgentTicketMove###RequiredLock

Description:	Automatically lock and set owner to current Agent after opening the move ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.45.3. Ticket::Frontend::AgentTicketMove###State

Description:	Allows to set a new ticket state in the move ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1



Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'State'} = '1';</code>

#### 6.45.4.

### Ticket::Frontend::AgentTicketMove###StateType

Description:	Defines the next state of a ticket after being moved to another queue, in the move ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'closed' ];</code>

#### 6.45.5. Ticket::Frontend::AgentTicketMove###Priority

Description:	Shows the ticket priority options in the move ticket screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'Priority'} = '0';</code>

#### 6.45.6. Ticket::Frontend::AgentTicketMove###Note

Description:	Allows adding notes in the ticket free text screen of the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'Note'} = '0';</code>

#### 6.45.7.

### Ticket::Frontend::AgentTicketMove###NoteMandatory

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '0';</code>
-----------------	--

## 6.45.8.

### Ticket::Frontend::AgentTicketMove###NextScreen

Description:	Determines the next screen after the ticket is moved. LastScreenOverview will return the last overview screen (e.g. search results, queueview, dashboard). TicketZoom will return to the TicketZoom.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'NextScreen'} = 'TicketZoom';</code>

## 6.45.9. Ticket::Frontend::AgentTicketMove###Subject

Description:	Sets the default subject for notes added in the ticket move screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'Subject'} = '[% Translate("Change Queue")   html %]';</code>

## 6.45.10. Ticket::Frontend::AgentTicketMove###Body

Description:	Sets the default body text for notes added in the ticket move screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

## 6.45.11.

### Ticket::Frontend::AgentTicketMove###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

## 6.45.12.

### Ticket::Frontend::AgentTicketMove###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.45.13.

### Ticket::Frontend::AgentTicketMove###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket move screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewMove
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketMove'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.46. Frontend::Agent::Ticket::ViewNote

### 6.46.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket note screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Permission'} = 'note';</code>

### 6.46.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketNote###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket note screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'RequiredLock'} = '0';</code>

### 6.46.3. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###TicketType

Description:	Sets the ticket type in the ticket note screen of the agent interface (Ticket::Type needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'TicketType'} = '0';</code>

### 6.46.4. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Service

Description:	Sets the service in the ticket note screen of the agent interface (Ticket::Service needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Service'} = '0';</code>

### 6.46.5. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###ServiceMandatory

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.46.6. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###SLAMandatory

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.46.7. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Queue

Description:	Sets the queue in the ticket note screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.46.8. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Owner

Description:	Sets the ticket owner in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Owner'} = '0';</code>

### 6.46.9. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###OwnerMandatory

Description:	Sets if ticket owner must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'OwnerMandatory'} = '0';</code>

### 6.46.10. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Responsible

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Responsible'} = '0';</code>

### 6.46.11. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###State

Description:	Sets the state of a ticket in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'State'} = '0';</code>

## 6.46.12.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###StateType**

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'closed', 'pending reminder', 'pending auto' ];</code>

## 6.46.13.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###StateDefault**

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

## 6.46.14. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Note

Description:	Allows adding notes in the ticket note screen of the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Note'} = '1';</code>

## 6.46.15.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###NoteMandatory**

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '1';</code>

### 6.46.16. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Subject

Description:	Sets the default subject for notes added in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Note")   html %]";</code>

### 6.46.17. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Body

Description:	Sets the default body text for notes added in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.46.18. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###InvolvedAgent

Description:	Shows a list of all the involved agents on this ticket, in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'InvolvedAgent'} = '0';</code>

### 6.46.19. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###InformAgent

Description:	Shows a list of all the possible agents (all agents with note permissions on the queue/ticket) to determine who should be informed about this note, in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'InformAgent'} = '0';</code>

### 6.46.20.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###ArticleTypeDefault**

Description:	Defines the default type of the note in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.46.21.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###ArticleTypes**

Description:	Specifies the available note types for this ticket mask. If the option is deselected, ArticleTypeDefault is used and the option is removed from the mask.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'ArticleTypes'} = {        'note-external' =&gt; '1',        'note-internal' =&gt; '1',        'note-report' =&gt; '0'      };</code>

### 6.46.22. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Priority

Description:	Shows the ticket priority options in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Priority'} = '0';</code>

### 6.46.23.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###PriorityDefault**

Description:	Defines the default ticket priority in the ticket note screen of the agent interface.
--------------	---



Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</code>

#### 6.46.24. Ticket::Frontend::AgentTicketNote###Title

Description:	Shows the title fields in the ticket note screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'Title'} = '0';</code>

#### 6.46.25.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketNote###HistoryType

Description:	Defines the history type for the ticket note screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>

#### 6.46.26.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketNote###HistoryComment

Description:	Defines the history comment for the ticket note screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%Note';</code>

#### 6.46.27.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketNote###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket note screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.46.28.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###RichTextWidth**

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

## 6.46.29.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketNote###RichTextHeight**

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewNote
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketNote'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.47. Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner

### 6.47.1.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Permission**

Description:	Required permissions to use the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Permission'} = 'owner';</code>

### 6.47.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###RequiredLock**

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface (if the ticket isn't locked
--------------	---

	yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'RequiredLock'} = '0';</code>

### 6.47.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###TicketType**

Description:	Sets the ticket type in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface (Ticket::Type needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'TicketType'} = '0';</code>

### 6.47.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Service**

Description:	Sets the service in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface (Ticket::Service needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Service'} = '0';</code>

### 6.47.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.47.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###SLAMandatory**

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.47.7. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Queue

Description:	Sets the queue in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.47.8. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Owner

Description:	Sets the ticket owner in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Owner'} = '1';</code>

### 6.47.9. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###OwnerMandatory

Description:	Sets if ticket owner must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'OwnerMandatory'} = '1';</code>

### 6.47.10. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Responsible

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Responsible'} = '0';</code>
-----------------	---

### 6.47.11. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###State

Description:	Sets the state of the ticket in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'State'} = '0';</code>

### 6.47.12. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###StateType

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'pending reminder', 'pending auto' ];</code>

### 6.47.13. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###StateDefault

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.47.14. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Note

Description:	Allows adding notes in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Note'} = '1';</code>
-----------------	--

### 6.47.15. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###NoteMandatory

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '1';</code>

### 6.47.16. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Subject

Description:	Sets the default subject for notes added in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Owner Update")   html %]!";</code>

### 6.47.17. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Body

Description:	Sets the default body text for notes added in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.47.18. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###InvolvedAgent

Description:	Shows a list of all the involved agents on this ticket, in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'InvolvedAgent'} = '0';</code>

### 6.47.19.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###InformAgent

Description:	Shows a list of all the possible agents (all agents with note permissions on the queue/ticket) to determine who should be informed about this note, in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'InformAgent'} = '0';</code>

### 6.47.20.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###ArticleTypeDefault

Description:	Defines the default type of the note in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.47.21.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###ArticleTypes

Description:	Specifies the available note types for this ticket mask. If the option is deselected, ArticleTypeDefault is used and the option is removed from the mask.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'ArticleTypes'} = {   'note-external' =&gt; '0',   'note-internal' =&gt; '1',   'note-report' =&gt; '0' };</code>

### 6.47.22.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Priority

Description:	Shows the ticket priority options in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Priority'} = '0';</code>

### 6.47.23.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###PriorityDefault**

Description:	Defines the default ticket priority in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</code>

### 6.47.24. Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###Title

Description:	Shows the title fields in the ticket owner screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'Title'} = '0';</code>

### 6.47.25.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the ticket owner screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>

### 6.47.26.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###HistoryComment**

Description:	Defines the history comment for the ticket owner screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0



Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%0Owner';</code>
-----------------	--

## 6.47.27.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the ticket owner screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.47.28.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###RichTextWidth**

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

## 6.47.29.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketOwner###RichTextHeight**

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewOwner
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketOwner'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.48. Frontend::Agent::Ticket::ViewPending

### 6.48.1.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Permission**

Description:	Required permissions to use the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Permission'} = 'pending';</code>

### 6.48.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###RequiredLock**

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.48.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###TicketType**

Description:	Sets the ticket type in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface (Ticket::Type needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'TicketType'} = '0';</code>

### 6.48.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Service**

Description:	Sets the service in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface (Ticket::Service needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Service'} = '0';</code>

### 6.48.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.48.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###SLAMandatory**

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.48.7.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Queue**

Description:	Sets the queue in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.48.8.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Owner**

Description:	Sets the ticket owner in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Owner'} = '0';</code>

### 6.48.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###OwnerMandatory**

Description:	Sets if ticket owner must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'OwnerMandatory'} = '0';</code>
-----------------	--

### 6.48.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Responsible**

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Responsible'} = '0';</code>

### 6.48.11.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###State**

Description:	Sets the state of the ticket in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'State'} = '1';</code>

### 6.48.12.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###StateType**

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'StateType'} = [ 'pending reminder', 'pending auto' ];</code>

### 6.48.13.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###StateDefault**

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'StateDefault'} = 'pending reminder';</code>
-----------------	---

### 6.48.14.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Note**

Description:	Allows adding notes in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Note'} = '1';</code>

### 6.48.15.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###NoteMandatory**

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '1';</code>

### 6.48.16.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Subject**

Description:	Sets the default subject for notes added in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Subject'} = '% Translate("Pending")   html %!';</code>

### 6.48.17.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Body**

Description:	Sets the default body text for notes added in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Body'} = '';</code>
-----------------	---

### 6.48.18.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###InvolvedAgent**

Description:	Shows a list of all the involved agents on this ticket, in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'InvolvedAgent'} = '0';</code>

### 6.48.19.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###InformAgent**

Description:	Shows a list of all the possible agents (all agents with note permissions on the queue/ticket) to determine who should be informed about this note, in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'InformAgent'} = '0';</code>

### 6.48.20.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###ArticleTypeDefault**

Description:	Defines the default type of the note in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.48.21.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPending###ArticleTypes**

Description:	Specifies the available note types for this ticket mask. If the option is deselected, ArticleTypeDefault is used and the option is removed from the mask.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'ArticleTypes'} = { 'note-external' =&gt; '0', 'note-internal' =&gt; '1', 'note-report' =&gt; '0' };</pre>

### 6.48.22. Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Priority

Description:	Shows the ticket priority options in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Priority'} = '0';</pre>

### 6.48.23. Ticket::Frontend::AgentTicketPending###PriorityDefault

Description:	Defines the default ticket priority in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}- &gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</pre>

### 6.48.24. Ticket::Frontend::AgentTicketPending###Title

Description:	Shows the title fields in the ticket pending screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'Title'} = '0';</pre>

### 6.48.25. Ticket::Frontend::AgentTicketPending###HistoryType

Description:	Defines the history type for the ticket pending screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>

## 6.48.26.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPending###HistoryComment

Description:	Defines the history comment for the ticket pending screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%%Pending';</code>

## 6.48.27.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPending###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket pending screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.48.28.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPending###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

## 6.48.29.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPending###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
--------------	---



Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPending
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPending'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.49. Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound

### 6.49.1. Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket phone inbound screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'Permission'} = 'phone';</code>

### 6.49.2. Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket phone inbound screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'RequiredLock'} = '0';</code>

### 6.49.3. Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###ArticleType

Description:	Defines the default type of the note in the ticket phone inbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'ArticleType'} = 'phone';</code>

#### 6.49.4.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###SenderType

Description:	Defines the default sender type for phone tickets in the ticket phone inbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'SenderType'} = 'customer';</code>

#### 6.49.5.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###Subject

Description:	Defines the default subject for phone tickets in the ticket phone inbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Phone call")   html %]!";</code>

#### 6.49.6.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###Body

Description:	Defines the default note body text for phone tickets in the ticket phone inbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

#### 6.49.7.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###State

Description:	Defines the default ticket next state after adding a phone note in the ticket phone inbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'State'} = 'open';</code>

### 6.49.8.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###StateType**

Description:	Next possible ticket states after adding a phone note in the ticket phone inbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'StateType'} = [   'open',   'pending auto',   'pending reminder',   'closed' ];</pre>

### 6.49.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the ticket phone inbound screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'HistoryType'} = 'PhoneCallCustomer';</pre>

### 6.49.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###HistoryComment**

Description:	Defines the history comment for the ticket phone inbound screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'HistoryComment'} = '';</pre>

### 6.49.11.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the ticket phone inbound screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.49.12.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###RichTextWidth**

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '475';</code>

## 6.49.13.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound###RichTextHeight**

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneInbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneInbound'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '200';</code>

## 6.50. Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew

### 6.50.1.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###Priority**

Description:	Sets the default priority for new phone tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'Priority'} = '3 normal';</code>

### 6.50.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###ArticleType**

Description:	Sets the default article type for new phone tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'ArticleType'} = 'phone';</code>

### 6.50.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###SenderType**

Description:	Sets the default sender type for new phone ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'SenderType'} = 'customer';</code>

### 6.50.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone::CustomerIDReadOnly**

Description:	Controls if CustomerID is editable in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone::CustomerIDReadOnly'} = '1';</code>

### 6.50.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone::AllowMultipleFrom**

Description:	Controls if more than one from entry can be set in the new phone ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone::AllowMultipleFrom'} = '1';</code>

### 6.50.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###Subject**

Description:	Sets the default subject for new phone tickets (e.g. 'Phone call') in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'Subject'} = '';</code>
-----------------	--

### 6.50.7. Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###Body

Description:	Sets the default note text for new telephone tickets. E.g 'New ticket via call' in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.50.8. Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###StateDefault

Description:	Sets the default next state for new phone tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.50.9. Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###StateType

Description:	Determines the next possible ticket states, after the creation of a new phone ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'pending auto', 'pending reminder', 'closed' ];</code>

### 6.50.10. Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###HistoryType

Description:	Defines the history type for the phone ticket screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'HistoryType'} = 'PhoneCallCustomer';</code>
-----------------	---

### 6.50.11.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###HistoryComment**

Description:	Defines the history comment for the phone ticket screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'HistoryComment'} = '';</code>

### 6.50.12.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###SplitLinkType**

Description:	Sets the default link type of splitted tickets in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'SplitLinkType'} = {   'Direction' =&gt; 'Target',   'LinkType' =&gt; 'ParentChild' };</code>

### 6.50.13.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.50.14.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###SLAMandatory**

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

## 6.50.15.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket phone screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.50.16.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

## 6.50.17.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhone###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhone'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '320';</code>

## 6.51.

### Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound

#### 6.51.1.

### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket phone outbound screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1



Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'Permission'} = 'phone';</code>

### 6.51.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###RequiredLock**

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket phone outbound screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>

### 6.51.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###ArticleType**

Description:	Defines the default type of the note in the ticket phone outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'ArticleType'} = 'phone';</code>

### 6.51.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###SenderType**

Description:	Defines the default sender type for phone tickets in the ticket phone outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'SenderType'} = 'agent';</code>

### 6.51.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###Subject**

Description:	Defines the default subject for phone tickets in the ticket phone outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Phone call")   html %]!";</code>

### 6.51.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###Body**

Description:	Defines the default note body text for phone tickets in the ticket phone outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.51.7.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###State**

Description:	Defines the default ticket next state after adding a phone note in the ticket phone outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'State'} = 'closed successful';</code>

### 6.51.8.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###StateType**

Description:	Next possible ticket states after adding a phone note in the ticket phone outbound screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'pending auto', 'pending reminder', 'closed' ];</code>

### 6.51.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the ticket phone outbound screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'HistoryType'} = 'PhoneCallAgent';</code>

### 6.51.10.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###HistoryComment

Description:	Defines the history comment for the ticket phone outbound screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'HistoryComment'} = '';</code>

### 6.51.11.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket phone outbound screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

### 6.51.12.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###RichTextWidth

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '475';</code>

### 6.51.13.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound###RichTextHeight

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPhoneOutbound
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPhoneOutbound'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '200';</code>

## 6.52. Frontend::Agent::Ticket::ViewPrint

### 6.52.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPrint###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket print screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPrint
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPrint'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.53. Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority

### 6.53.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Permission'} = 'priority';</code>

### 6.53.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###RequiredLock

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'RequiredLock'} = '1';</code>
-----------------	---

### 6.53.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###TicketType**

Description:	Sets the ticket type in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface (Ticket::Type needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'TicketType'} = '0';</code>

### 6.53.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Service**

Description:	Sets the service in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface (Ticket::Service needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Service'} = '0';</code>

### 6.53.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.53.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###SLAMandatory**

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>
-----------------	---

### 6.53.7.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Queue**

Description:	Sets the queue in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.53.8.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Owner**

Description:	Sets the ticket owner in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Owner'} = '0';</code>

### 6.53.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###OwnerMandatory**

Description:	Sets if ticket owner must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'OwnerMandatory'} = '0';</code>

### 6.53.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Responsible**

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Responsible'} = '0';</code>

### 6.53.11. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###State

Description:	Sets the state of the ticket in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'State'} = '0';</code>

### 6.53.12. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###StateType

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'pending reminder', 'pending auto' ];</code>

### 6.53.13. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###StateDefault

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.53.14. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Note

Description:	Allows adding notes in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Note'} = '1';</code>
-----------------	---

### 6.53.15. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###NoteMandatory

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '1';</code>

### 6.53.16. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Subject

Description:	Sets the default subject for notes added in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Priority Update")   html %]!";</code>

### 6.53.17. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Body

Description:	Sets the default body text for notes added in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.53.18. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###InvolvedAgent

Description:	Shows a list of all the involved agents on this ticket, in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'InvolvedAgent'} = '0';</code>



### 6.53.19.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###InformAgent

Description:	Shows a list of all the possible agents (all agents with note permissions on the queue/ticket) to determine who should be informed about this note, in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'InformAgent'} = '0';</code>

### 6.53.20.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###ArticleTypeDefault

Description:	Defines the default type of the note in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.53.21.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###ArticleTypes

Description:	Specifies the available note types for this ticket mask. If the option is deselected, ArticleTypeDefault is used and the option is removed from the mask.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'ArticleTypes'} = {          'note-external' =&gt; '0',          'note-internal' =&gt; '1',          'note-report' =&gt; '0'      };</code>

### 6.53.22.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Priority

Description:	Shows the ticket priority options in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Priority'} = '1';</code>

### 6.53.23.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###PriorityDefault**

Description:	Defines the default ticket priority in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</code>

### 6.53.24. Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###Title

Description:	Shows the title fields in the ticket priority screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'Title'} = '0';</code>

### 6.53.25.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the ticket priority screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>

### 6.53.26.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###HistoryComment**

Description:	Defines the history comment for the ticket priority screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%Priority';</code>
-----------------	---

### 6.53.27.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the ticket priority screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

### 6.53.28.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###RichTextWidth**

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

### 6.53.29.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketPriority###RichTextHeight**

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewPriority
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketPriority'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## **6.54. Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue**

### 6.54.1.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###StripEmptyLines**

Description:	Strips empty lines on the ticket preview in the queue view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'StripEmptyLines'} = '0';</code>

### 6.54.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###ViewAllPossibleTickets**

Description:	Shows all both ro and rw queues in the queue view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'ViewAllPossibleTickets'} = '0';</code>

### 6.54.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###HighlightAge1**

Description:	Sets the age in minutes (first level) for highlighting queues that contain untouched tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'HighlightAge1'} = '1440';</code>

### 6.54.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###HighlightAge2**

Description:	Sets the age in minutes (second level) for highlighting queues that contain untouched tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'HighlightAge2'} = '2880';</code>

### 6.54.5. Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###Blink

Description:	Activates a blinking mechanism of the queue that contains the oldest ticket.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'Blink'} = '1';</code>

### 6.54.6.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###QueueSort

Description:	Sorts the tickets (ascendingly or descendingly) when a single queue is selected in the queue view and after the tickets are sorted by priority. Values: 0 = ascending (oldest on top, default), 1 = descending (youngest on top). Use the QueueID for the key and 0 or 1 for value.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'QueueSort'} = {   '3' =&gt; '0',   '7' =&gt; '1' };</pre>

### 6.54.7.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###SortBy::Default

Description:	Defines the default sort criteria for all queues displayed in the queue view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</pre>

### 6.54.8.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###PreSort::ByPriority

Description:	Defines if a pre-sorting by priority should be done in the queue view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}- &gt;{'PreSort::ByPriority'} = '1';</pre>

### 6.54.9.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###Order::Default

Description:	Defines the default sort order for all queues in the queue view, after priority sort.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Up';</code>

## 6.54.10.

### Ticket::Frontend::AgentTicketQueue###DefaultColumns

Description:	Columns that can be filtered in the queue view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketQueue'}-&gt;{'DefaultColumns'} = {        'Age' =&gt; '2',        'Changed' =&gt; '1',        'Created' =&gt; '1',        'CustomerID' =&gt; '2',        'CustomerName' =&gt; '1',        'CustomerUserID' =&gt; '1',        'EscalationResponseTime' =&gt; '1',        'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',        'EscalationTime' =&gt; '1',        'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',        'Lock' =&gt; '2',        'Owner' =&gt; '2',        'PendingTime' =&gt; '1',        'Priority' =&gt; '1',        'Queue' =&gt; '2',        'Responsible' =&gt; '1',        'SLA' =&gt; '1',        'Service' =&gt; '1',        'State' =&gt; '2',        'TicketNumber' =&gt; '2',        'Title' =&gt; '2',        'Type' =&gt; '1'      };</code>

## 6.54.11.

### Ticket::Frontend::AgentTicketService###DefaultColumns

Description:	Columns that can be filtered in the service view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewQueue
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketService'}-&gt;{'DefaultColumns'} = {        'Age' =&gt; '2',        'Changed' =&gt; '1',        'Created' =&gt; '1',        'CustomerID' =&gt; '2',        'CustomerName' =&gt; '1',      };</code>

```
'CustomerUserID' => '1',
'EscalationResponseTime' => '1',
'EscalationSolutionTime' => '1',
'EscalationTime' => '1',
'EscalationUpdateTime' => '1',
'Lock' => '2',
'Owner' => '2',
'PendingTime' => '1',
'Priority' => '1',
'Queue' => '2',
'Responsible' => '1',
'SLA' => '1',
'Service' => '2',
'State' => '2',
'TicketNumber' => '2',
'Title' => '2',
'Type' => '1'
};
```

## 6.55. Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible

### 6.55.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketResponsibleView###SortBy::Default

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting in the responsible view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsibleView'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</code>

### 6.55.2.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketResponsibleView###Order::Default

Description:	Defines the default ticket order in the responsible view of the agent interface. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsibleView'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Up';</code>

### 6.55.3.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Permission

Description:	Required permissions to use the ticket responsible screen in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Permission'} = 'responsible';</code>

#### 6.55.4.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###RequiredLock**

Description:	Defines if a ticket lock is required in the ticket responsible screen of the agent interface (if the ticket isn't locked yet, the ticket gets locked and the current agent will be set automatically as its owner).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'RequiredLock'} = '0';</code>

#### 6.55.5.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###TicketType**

Description:	Sets the ticket type in the ticket responsible screen of the agent interface (Ticket::Type needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'TicketType'} = '0';</code>

#### 6.55.6.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Service**

Description:	Sets the service in the ticket responsible screen of the agent interface (Ticket::Service needs to be activated).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Service'} = '0';</code>

#### 6.55.7.

### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1



Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.55.8.

## Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###SLAMandatory

Description:	Sets if SLA must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.55.9.

## Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Queue

Description:	Sets the queue in the ticket responsible screen of a zoomed ticket in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.55.10.

## Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Owner

Description:	Sets the ticket owner in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Owner'} = '0';</code>

### 6.55.11.

## Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###OwnerMandatory

Description:	Sets if ticket owner must be selected by the agent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'OwnerMandatory'} = '0';</code>

### 6.55.12.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Responsible**

Description:	Sets the responsible agent of the ticket in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Responsible'} = '1';</code>

### 6.55.13.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###State**

Description:	Sets the state of a ticket in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'State'} = '0';</code>

### 6.55.14.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###StateType**

Description:	Defines the next state of a ticket after adding a note, in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'pending reminder', 'pending auto' ];</code>

### 6.55.15.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###StateDefault**

Description:	Defines the default next state of a ticket after adding a note, in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>
-----------------	---

### 6.55.16.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Note**

Description:	Allows adding notes in the ticket responsible screen of the agent interface. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Note'} = '1';</code>

### 6.55.17.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###NoteMandatory**

Description:	Sets if note must be filled in by the agent. Can be overwritten by Ticket::Frontend::NeedAccountedTime.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'NoteMandatory'} = '1';</code>

### 6.55.18.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Subject**

Description:	Sets the default subject for notes added in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Subject'} = "[% Translate("Responsible Update")   html %]!";</code>

### 6.55.19.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Body**

Description:	Sets the default body text for notes added in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Body'} = '';</code>
-----------------	---

### 6.55.20.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###InvolvedAgent**

Description:	Shows a list of all the involved agents on this ticket, in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'InvolvedAgent'} = '0';</code>

### 6.55.21.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###InformAgent**

Description:	Shows a list of all the possible agents (all agents with note permissions on the queue/ticket) to determine who should be informed about this note, in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'InformAgent'} = '0';</code>

### 6.55.22.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###ArticleTypeDefault**

Description:	Defines the default type of the note in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'ArticleTypeDefault'} = 'note-internal';</code>

### 6.55.23.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###ArticleTypes**

Description:	Specifies the available note types for this ticket mask. If the option is deselected, ArticleTypeDefault is used and the option is removed from the mask.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'ArticleTypes'} = {   'note-external' =&gt; '0',   'note-internal' =&gt; '1',   'note-report' =&gt; '0' };</pre>

### 6.55.24.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Priority**

Description:	Shows the ticket priority options in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Priority'} = '0';</pre>

### 6.55.25.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###PriorityDefault**

Description:	Defines the default ticket priority in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</pre>

### 6.55.26.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###Title**

Description:	Shows the title fields in the ticket responsible screen of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'Title'} = '1';</pre>

### 6.55.27.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###HistoryType**

Description:	Defines the history type for the ticket responsible screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'HistoryType'} = 'AddNote';</code>

### 6.55.28.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###HistoryComment**

Description:	Defines the history comment for the ticket responsible screen action, which gets used for ticket history in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'HistoryComment'} = '%%Responsible';</code>

### 6.55.29.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the ticket responsible screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

### 6.55.30.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###RichTextWidth**

Description:	Defines the width for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'RichTextWidth'} = '620';</code>

### 6.55.31.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible###RichTextHeight**

Description:	Defines the height for the rich text editor component for this screen. Enter number (pixels) or percent value (relative).
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsible'}-&gt;{'RichTextHeight'} = '100';</code>

## 6.55.32.

### Ticket::Frontend::AgentTicketResponsibleView###DefaultColumns

Description:	Columns that can be filtered in the responsible view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewResponsible
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketResponsibleView'}-&gt;{'DefaultColumns'} = {        'Age' =&gt; '2',        'Changed' =&gt; '1',        'Created' =&gt; '1',        'CustomerID' =&gt; '2',        'CustomerName' =&gt; '1',        'CustomerUserID' =&gt; '1',        'EscalationResponseTime' =&gt; '1',        'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',        'EscalationTime' =&gt; '1',        'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',        'Lock' =&gt; '2',        'Owner' =&gt; '2',        'PendingTime' =&gt; '1',        'Priority' =&gt; '1',        'Queue' =&gt; '2',        'Responsible' =&gt; '1',        'SLA' =&gt; '1',        'Service' =&gt; '1',        'State' =&gt; '2',        'TicketNumber' =&gt; '2',        'Title' =&gt; '2',        'Type' =&gt; '1'      };</code>

## 6.56. Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch

### 6.56.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###ExtendedSearchConditions

Description:	Allows extended search conditions in ticket search of the agent interface. With this feature you can search e. g. with this kind of conditions like "(key1&&key2)" or "(key1  key2)".
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'ExtendedSearchCondition'} = '1';</code>
-----------------	--

### 6.56.2.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###SearchLimit**

Description:	Maximum number of tickets to be displayed in the result of a search in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'SearchLimit'} = '2000';</code>

### 6.56.3.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###SearchPageShown**

Description:	Number of tickets to be displayed in each page of a search result in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'SearchPageShown'} = '40';</code>

### 6.56.4.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###SearchViewableTicketL**

Description:	Number of lines (per ticket) that are shown by the search utility in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'SearchViewableTicketLines'} = '10';</code>

### 6.56.5.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###SortBy::Default**

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting of the ticket search result of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1



Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</code>
-----------------	--

### 6.56.6.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Order::Default**

Description:	Defines the default ticket order in the ticket search result of the agent interface. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Down';</code>

### 6.56.7.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###SearchArticleCSVTree**

Description:	Exports the whole article tree in search result (it can affect the system performance).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'SearchArticleCSVTree'} = '0';</code>

### 6.56.8.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###SearchCSVData**

Description:	Data used to export the search result in CSV format.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'SearchCSVData'} = [ 'TicketNumber', 'Age', 'Created', 'Closed', 'FirstLock', 'FirstResponse', 'State', 'Priority', 'Queue', 'Lock', 'Owner', 'UserFirstname', 'UserLastname', 'CustomerID', 'CustomerName', 'From', 'Subject', 'AccountedTime',</code>

	<pre>'ArticleTree', 'SolutionInMin', 'SolutionDiffInMin', 'FirstResponseInMin', 'FirstResponseDiffInMin' ];</pre>
--	---

### 6.56.9.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###ArticleCreateTime**

Description:	Includes article create times in the ticket search of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'ArticleCreateTime'} = '0';</code>

### 6.56.10.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###Fulltext**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'Fulltext'} = '';</code>

### 6.56.11.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketNum**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketNumber'} = '';</code>

### 6.56.12.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###Title**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'Title'} = '';</code>

### 6.56.13.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###From**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'From'} = '';</code>

### 6.56.14.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###To**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'To'} = '';</code>

### 6.56.15.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###Cc**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'Cc'} = '';</code>

### 6.56.16.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###Subject**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'Subject'} = '';</code>

### 6.56.17.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###Body**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'Body'} = '';</code>

### 6.56.18.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###CustomerID**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'CustomerID'} = '';</code>

### 6.56.19.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###CustomerUserLogin**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'CustomerUserLogin'} = '';</code>

### 6.56.20.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###StateIDs**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'StateIDs'} = [];</code>

### 6.56.21.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###QueueIDs**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'QueueIDs'} = [];</code>

### 6.56.22.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketCreate**

Description:	Default data to use on attribute for ticket search screen. Example: "TicketCreateTimePointFormat=year;TicketCreateTimePointStart=Last;TicketCre
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketCreateTimePoint'} = '';</code>

### 6.56.23.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketCreate**

Description:	Default data to use on attribute for ticket search screen. Example: "TicketCreateTimeStartYear=2010;TicketCreateTimeStartMonth=10;TicketCre
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketCreateTimeSlot'} = '';</code>

### 6.56.24.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketChar**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketChangeTimePoint'} = '';</code>

### 6.56.25.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketChar**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketChangeTimeSlot'} = '';</code>

### 6.56.26.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketClos**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketCloseTimePoint'} = '';</code>

### 6.56.27.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketClos**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketCloseTimeSlot'} = '';</code>

### 6.56.28.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketEsca**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketEscalationTimePoint'} = '';</code>

### 6.56.29.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###TicketEsca**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'TicketEscalationTimeSlot'} = '';</code>

### 6.56.30.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###ArticleCrea**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'ArticleCreateTimePoint'} = '';</code>

### 6.56.31.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###ArticleCrea**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'ArticleCreateTimeSlot'} = '';</code>

### 6.56.32.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###SearchInA**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'SearchInArchive'} = '';</code>

### 6.56.33.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the ticket search screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and shown by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

### 6.56.34.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###Defaults###DynamicField**

Description:	Defines the default shown ticket search attribute for ticket search screen. Example: "Key" must have the name of the Dynamic Field in this case 'X', "Content" must have the value of the Dynamic Field depending on the Dynamic Field type, Text: 'a text', Dropdown: '1', Date/Time: 'Search_DynamicField_XTimeSlotStartYear=1974; Search_DynamicField_XTimeSlotStartMonth=01; Search_DynamicField_XTimeSlotStartDay=26; Search_DynamicField_XTimeSlotStartHour=00; Search_DynamicField_XTimeSlotStartMinute=00; Search_DynamicField_XTimeSlotStartSecond=00; Search_DynamicField_XTimeSlotStopYear=2013; Search_DynamicField_XTimeSlotStopMonth=01; Search_DynamicField_XTimeSlotStopDay=26; Search_DynamicField_XTimeSlotStopHour=23; Search_DynamicField_XTimeSlotStopMinute=59; Search_DynamicField_XTimeSlotStopSecond=59;' and or 'Search_DynamicField_XTimePointFormat=week; Search_DynamicField_XTimePointStart=Before; Search_DynamicField_XTimePointValue=7';
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'Defaults'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

### 6.56.35.

#### **Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###SearchCSVDynamicField**

Description:	Dynamic Fields used to export the search result in CSV format.
--------------	--



Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'SearchCSVDynamicField'} = {};</code>

## 6.56.36.

### Ticket::Frontend::AgentTicketSearch###DefaultColumns

Description:	Columns that can be filtered in the ticket search result view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketSearch'}-&gt;{'DefaultColumns'} = {        'Age' =&gt; '2',        'Changed' =&gt; '1',        'Created' =&gt; '1',        'CustomerID' =&gt; '2',        'CustomerName' =&gt; '1',        'CustomerUserID' =&gt; '1',        'EscalationResponseTime' =&gt; '1',        'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',        'EscalationTime' =&gt; '1',        'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',        'Lock' =&gt; '2',        'Owner' =&gt; '2',        'PendingTime' =&gt; '1',        'Priority' =&gt; '1',        'Queue' =&gt; '2',        'Responsible' =&gt; '1',        'SLA' =&gt; '1',        'Service' =&gt; '1',        'State' =&gt; '2',        'TicketNumber' =&gt; '2',        'Title' =&gt; '2',        'Type' =&gt; '1'      };</code>

## 6.57. Frontend::Agent::Ticket::ViewService

### 6.57.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketService###StripEmptyLines

Description:	Strips empty lines on the ticket preview in the service view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewService
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketService'}-&gt;{'StripEmptyLines'} = '0';</code>

### 6.57.2.

## Ticket::Frontend::AgentTicketService###ViewAllPossibleTickets

Description:	Shows all both ro and rw tickets in the service view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewService
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketService'}-&gt;{'ViewAllPossibleTickets'} = '0';</code>

### 6.57.3.

## Ticket::Frontend::AgentTicketService###ServiceSort

Description:	Sorts the tickets (ascendingly or descendingly) when a single queue is selected in the service view and after the tickets are sorted by priority. Values: 0 = ascending (oldest on top, default), 1 = descending (youngest on top). Use the ServiceID for the key and 0 or 1 for value.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewService
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketService'}-&gt;{'ServiceSort'} = {   '3' =&gt; '0',   '7' =&gt; '1' };</code>

### 6.57.4.

## Ticket::Frontend::AgentTicketService###SortBy::Default

Description:	Defines the default sort criteria for all services displayed in the service view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewService
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketService'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</code>

### 6.57.5.

## Ticket::Frontend::AgentTicketService###PreSort::ByPriority

Description:	Defines if a pre-sorting by priority should be done in the service view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewService
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketService'}-&gt;{'PreSort::ByPriority'} = '1';</code>

## 6.57.6. Ticket::Frontend::AgentTicketService###Order::Default

Description:	Defines the default sort order for all services in the service view, after priority sort.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewService
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketService'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Up';</code>

## 6.58. Frontend::Agent::Ticket::ViewStatus

### 6.58.1. Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView###ViewableTicketsPage

Description:	Shows all open tickets (even if they are locked) in the status view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewStatus
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView'}-&gt;{'ViewableTicketsPage'} = '50';</code>

### 6.58.2. Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView###SortBy::Default

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting in the status view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewStatus
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</code>

### 6.58.3. Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView###Order::Default

Description:	Defines the default ticket order (after priority sort) in the status view of the agent interface. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewStatus
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Down';</code>

## 6.58.4.

### Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView###DefaultColumns

Description:	Columns that can be filtered in the status view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewStatus
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketStatusView'}-&gt;{'DefaultColumns'} = { 'Age' =&gt; '2', 'Changed' =&gt; '1', 'Created' =&gt; '1', 'CustomerID' =&gt; '2', 'CustomerName' =&gt; '1', 'CustomerUserID' =&gt; '1', 'EscalationResponseTime' =&gt; '1', 'EscalationSolutionTime' =&gt; '1', 'EscalationTime' =&gt; '1', 'EscalationUpdateTime' =&gt; '1', 'Lock' =&gt; '2', 'Owner' =&gt; '2', 'PendingTime' =&gt; '1', 'Priority' =&gt; '1', 'Queue' =&gt; '2', 'Responsible' =&gt; '1', 'SLA' =&gt; '1', 'Service' =&gt; '1', 'State' =&gt; '2', 'TicketNumber' =&gt; '2', 'Title' =&gt; '2', 'Type' =&gt; '1' };</code>

## 6.59. Frontend::Agent::Ticket::ViewWatch

### 6.59.1.

#### Ticket::Frontend::AgentTicketWatchView###SortBy::Default

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting in the watch view of the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewWatch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketWatchView'}-&gt;{'SortBy::Default'} = 'Age';</code>

## 6.59.2.

### Ticket::Frontend::AgentTicketWatchView###Order::Default

Description:	Defines the default ticket order in the watch view of the agent interface. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewWatch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketWatchView'}-&gt;{'Order::Default'} = 'Up';</code>

## 6.59.3.

### Ticket::Frontend::AgentTicketWatchView###DefaultColumns

Description:	Columns that can be filtered in the watch view of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default. Note: Only Ticket attributes and Dynamic Fields (DynamicField_NameX) are allowed.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewWatch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketWatchView'}-&gt;{'DefaultColumns'} = {        'Age' =&gt; '2',        'Changed' =&gt; '1',        'Created' =&gt; '1',        'CustomerID' =&gt; '2',        'CustomerName' =&gt; '1',        'CustomerUserID' =&gt; '1',        'EscalationResponseTime' =&gt; '1',        'EscalationSolutionTime' =&gt; '1',        'EscalationTime' =&gt; '1',        'EscalationUpdateTime' =&gt; '1',        'Lock' =&gt; '2',        'Owner' =&gt; '2',        'PendingTime' =&gt; '1',        'Priority' =&gt; '1',        'Queue' =&gt; '2',        'Responsible' =&gt; '1',        'SLA' =&gt; '1',        'Service' =&gt; '1',        'State' =&gt; '2',        'TicketNumber' =&gt; '2',        'Title' =&gt; '2',        'Type' =&gt; '1'      };</code>

## 6.60. Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom

### 6.60.1. Ticket::Frontend::PlainView

Description:	Shows a link to see a zoomed email ticket in plain text.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::PlainView'} = '0';</code>

### 6.60.2. Ticket::Frontend::ZoomExpand

Description:	Shows all the articles of the ticket (expanded) in the zoom view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ZoomExpand'} = '0';</code>

### 6.60.3. Ticket::Frontend::ZoomExpandSort

Description:	Shows the articles sorted normally or in reverse, under ticket zoom in the agent interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ZoomExpandSort'} = 'reverse';</code>

### 6.60.4. Ticket::ZoomAttachmentDisplayCount

Description:	Shows a count of icons in the ticket zoom, if the article has attachments.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::ZoomAttachmentDisplayCount'} = '20';</code>

### 6.60.5. Ticket::ZoomTimeDisplay

Description:	Displays the accounted time for an article in the ticket zoom view.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::ZoomTimeDisplay'} = '0';</code>

### 6.60.6. Ticket::UseArticleColors

Description:	Shows colors for different article types in the article table.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom

Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::UseArticleColors'} = '1';</code>

### 6.60.7. Ticket::Frontend::TicketArticleFilter

Description:	Activates the article filter in the zoom view to specify which articles should be shown.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::TicketArticleFilter'} = '0';</code>

### 6.60.8. Ticket::Frontend::HTMLArticleHeightDefault

Description:	Set the default height (in pixels) of inline HTML articles in AgentTicketZoom.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::HTMLArticleHeightDefault'} = '100';</code>

### 6.60.9. Ticket::Frontend::HTMLArticleHeightMax

Description:	Set the maximum height (in pixels) of inline HTML articles in AgentTicketZoom.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::HTMLArticleHeightMax'} = '2500';</code>

### 6.60.10. Ticket::Frontend::MaxArticlesZoomExpand

Description:	The maximal number of articles expanded on a single page in AgentTicketZoom.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MaxArticlesZoomExpand'} = '400';</code>

### 6.60.11. Ticket::Frontend::MaxArticlesPerPage

Description:	The maximal number of articles shown on a single page in AgentTicketZoom.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::MaxArticlesPerPage'} = '1000';</code>

## 6.60.12. Ticket::Frontend::ZoomRichTextForce

Description:	Show article as rich text even if rich text writing is disabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::ZoomRichTextForce'} = '1';</code>

## 6.60.13.

### Ticket::Frontend::AgentTicketZoom###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the sidebar of the ticket zoom screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::AgentTicketZoom'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.61. Frontend::Agent::TicketOverview

### 6.61.1. Ticket::Frontend::Overview###Small

Description:	Allows having a small format ticket overview (CustomerInfo => 1 - shows also the customer information).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::Overview'}-&gt;{'Small'} = {        'CustomerInfo' =&gt; '1',        'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketOverviewSmall',        'ModulePriority' =&gt; '100',        'Name' =&gt; 'Small',        'NameShort' =&gt; 'S'      };</code>

## 6.61.2.

### Ticket::Frontend::OverviewSmall###ColumnHeader

Description:	Shows either the last customer article's subject or the ticket title in the small format overview.
--------------	--



Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::OverviewSmall'}-&gt;{'ColumnHeader'} = 'LastCustomerSubject';</code>

### 6.61.3. Ticket::Frontend::Overview###Medium

Description:	Allows having a medium format ticket overview (CustomerInfo => 1 - shows also the customer information).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::Overview'}-&gt;{'Medium'} = {        'CustomerInfo' =&gt; '0',        'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketOverviewMedium',        'ModulePriority' =&gt; '200',        'Name' =&gt; 'Medium',        'NameShort' =&gt; 'M',        'OverviewMenuModules' =&gt; '1',        'TicketActionsPerTicket' =&gt; '1'      };</code>

### 6.61.4. Ticket::Frontend::Overview###Preview

Description:	Shows a preview of the ticket overview (CustomerInfo => 1 - shows also Customer-Info, CustomerInfoMaxSize max. size in characters of Customer-Info).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::Overview'}-&gt;{'Preview'} = {        'CustomerInfo' =&gt; '0',        'CustomerInfoMaxSize' =&gt; '18',        'DefaultPreViewLines' =&gt; '25',        'DefaultViewNewLine' =&gt; '90',        'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::TicketOverviewPreview',        'ModulePriority' =&gt; '300',        'Name' =&gt; 'Large',        'NameShort' =&gt; 'L',        'OverviewMenuModules' =&gt; '1',        'StripEmptyLines' =&gt; '0',        'TicketActionsPerTicket' =&gt; '1'      };</code>

### 6.61.5. Ticket::Frontend::Overview::PreviewArticleSenderTypes

Description:	Defines which article sender types should be shown in the preview of a ticket.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview

Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::Overview::PreviewArticleSenderTypes'} = {   'agent' =&gt; '1',   'customer' =&gt; '1',   'system' =&gt; '1' };</pre>

### 6.61.6.

#### Ticket::Frontend::Overview::PreviewArticleLimit

Description:	Sets the count of articles visible in preview mode of ticket overviews.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::Overview::PreviewArticleLimit'} = '5';</pre>

### 6.61.7.

#### Ticket::Frontend::Overview::PreviewArticleTypeExpanded

Description:	Defines which article type should be expanded when entering the overview. If nothing defined, latest article will be expanded.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::Overview::PreviewArticleTypeExpanded'} = '';</pre>

### 6.61.8.

#### Ticket::Frontend::OverviewSmall###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket small format overview screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Available, 2 = Enabled by default.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::OverviewSmall'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</pre>

### 6.61.9.

#### Ticket::Frontend::OverviewMedium###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket medium format overview screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::OverviewMedium'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.61.10. Ticket::Frontend::OverviewPreview###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket preview format overview screen of the agent interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::OverviewPreview'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.62. Frontend::Agent::ToolBarModule

### 6.62.1. Frontend::ToolBarModule###1-Ticket::AgentTicketQueue

Description:	Toolbar Item for a shortcut.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'1-Ticket::AgentTicketQueue'} = {        'AccessKey' =&gt; 'q',        'Action' =&gt; 'AgentTicketQueue',        'CssClass' =&gt; 'QueueView',        'Icon' =&gt; 'fa fa-folder',        'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketQueue',        'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarLink',        'Name' =&gt; 'Queue view',        'Priority' =&gt; '1010010'      };</code>

### 6.62.2. Frontend::ToolBarModule###2-Ticket::AgentTicketStatus

Description:	Toolbar Item for a shortcut.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0

Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'2-Ticket::AgentTicketStatus'} = {   'AccessKey' =&gt; 'S',   'Action' =&gt; 'AgentTicketStatusView',   'CssClass' =&gt; 'StatusView',   'Icon' =&gt; 'fa fa-list-ol',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketStatusView',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarLink',   'Name' =&gt; 'Status view',   'Priority' =&gt; '1010020' };</pre>
-----------------	--

### 6.62.3. Frontend::ToolBarModule###3-Ticket::AgentTicketEscalation

Description:	Toolbar Item for a shortcut.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'3-Ticket::AgentTicketEscalation'} = {   'AccessKey' =&gt; 'w',   'Action' =&gt; 'AgentTicketEscalationView',   'CssClass' =&gt; 'EscalationView',   'Icon' =&gt; 'fa fa-exclamation',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketEscalationView',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarLink',   'Name' =&gt; 'Escalation view',   'Priority' =&gt; '1010030' };</pre>

### 6.62.4. Frontend::ToolBarModule###4-Ticket::AgentTicketPhone

Description:	Toolbar Item for a shortcut.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'4-Ticket::AgentTicketPhone'} = {   'AccessKey' =&gt; '',   'Action' =&gt; 'AgentTicketPhone',   'CssClass' =&gt; 'PhoneTicket',   'Icon' =&gt; 'fa fa-phone',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketPhone',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarLink',   'Name' =&gt; 'New phone ticket',   'Priority' =&gt; '1020010' };</pre>

### 6.62.5. Frontend::ToolBarModule###5-Ticket::AgentTicketEmail

Description:	Toolbar Item for a shortcut.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'5-Ticket::AgentTicketEmail'} = {   'AccessKey' =&gt; '',   'Action' =&gt; 'AgentTicketEmail',   'CssClass' =&gt; 'EmailTicket',   'Icon' =&gt; 'fa fa-envelope',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketEmail',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarLink',   'Name' =&gt; 'New email ticket',   'Priority' =&gt; '1020020' };</pre>

### 6.62.6. Frontend::ToolBarModule###6-Ticket::AgentTicketProcess

Description:	Toolbar Item for a shortcut.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'6-Ticket::AgentTicketProcess'} = {   'AccessKey' =&gt; 'p',   'Action' =&gt; 'AgentTicketProcess',   'CssClass' =&gt; 'ProcessTicket',   'Icon' =&gt; 'fa fa-th-large',   'Link' =&gt; 'Action=AgentTicketProcess',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarLink',   'Name' =&gt; 'New process ticket',   'Priority' =&gt; '1020030' };</pre>

### 6.62.7. Frontend::ToolBarModule###6-Ticket::TicketResponsible

Description:	Agent interface notification module to see the number of tickets an agent is responsible for.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'6-Ticket::TicketResponsible'} = {   'AccessKey' =&gt; 'r',   'AccessKeyNew' =&gt; '',   'AccessKeyReached' =&gt; '',   'CssClass' =&gt; 'Responsible',   'CssClassNew' =&gt; 'Responsible New',   'CssClassReached' =&gt; 'Responsible Reached',   'Icon' =&gt; 'fa fa-user',   'IconNew' =&gt; 'fa fa-user',   'IconReached' =&gt; 'fa fa-user',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarTicketResponsible',   'Priority' =&gt; '1030010' };</pre>

## 6.62.8. Frontend::ToolBarModule###7-Ticket::TicketWatcher

Description:	Agent interface notification module to see the number of watched tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'7-Ticket::TicketWatcher'} = {   'AccessKey' =&gt; '',   'AccessKeyNew' =&gt; '',   'AccessKeyReached' =&gt; '',   'CssClass' =&gt; 'Watcher',   'CssClassNew' =&gt; 'Watcher New',   'CssClassReached' =&gt; 'Watcher Reached',   'Icon' =&gt; 'fa fa-eye',   'IconNew' =&gt; 'fa fa-eye',   'IconReached' =&gt; 'fa fa-eye',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarTicketWatcher',   'Priority' =&gt; '1030020' };</pre>

## 6.62.9. Frontend::ToolBarModule###8-Ticket::TicketLocked

Description:	Agent interface notification module to see the number of locked tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'8-Ticket::TicketLocked'} = {   'AccessKey' =&gt; 'k',   'AccessKeyNew' =&gt; '',   'AccessKeyReached' =&gt; '',   'CssClass' =&gt; 'Locked',   'CssClassNew' =&gt; 'Locked New',   'CssClassReached' =&gt; 'Locked Reached',   'Icon' =&gt; 'fa fa-lock',   'IconNew' =&gt; 'fa fa-lock',   'IconReached' =&gt; 'fa fa-lock',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarTicketLocked',   'Priority' =&gt; '1030030' };</pre>

## 6.62.10. Frontend::ToolBarModule###8-Ticket::AgentTicketService

Description:	Agent interface notification module to see the number of tickets in My Services.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0

Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'8-Ticket::AgentTicketService'} = {   'CssClass' =&gt; 'ServiceView',   'Icon' =&gt; 'fa fa-wrench',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarTicketService',   'Priority' =&gt; '1030035' };</pre>

### 6.62.11. Frontend::ToolBarModule###9-Ticket::TicketSearchProfile

Description:	Agent interface module to access search profiles via nav bar.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'9-Ticket::TicketSearchProfile'} = {   'Block' =&gt; 'ToolBarSearchProfile',   'Description' =&gt; 'Search template',   'MaxWidth' =&gt; '40',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarTicketSearchProfile',   'Name' =&gt; 'Search template',   'Priority' =&gt; '1990010' };</pre>

### 6.62.12. Frontend::ToolBarModule###10-Ticket::TicketSearchFulltext

Description:	Agent interface module to access fulltext search via nav bar.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'10-Ticket::TicketSearchFulltext'} = {   'Block' =&gt; 'ToolBarSearchFulltext',   'CSS' =&gt; 'Core.Agent.Toolbar.FulltextSearch.css',   'Description' =&gt; 'Fulltext search',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarGeneric',   'Name' =&gt; 'Fulltext search',   'Priority' =&gt; '1990020',   'Size' =&gt; '10' };</pre>

### 6.62.13. Frontend::ToolBarModule###11-CICSearchCustomerID

Description:	Agent interface module to access CIC search via nav bar.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0

Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'11-CICSearchCustomerID'} = {   'Block' =&gt; 'ToolBarCICSearchCustomerID',   'CSS' =&gt; 'Core.Agent.Toolbar.CICSearch.css',   'Description' =&gt; 'CustomerID search',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarGeneric',   'Name' =&gt; 'CustomerID search',   'Priority' =&gt; '1990030',   'Size' =&gt; '10' };</pre>
-----------------	---

## 6.62.14. Frontend::ToolBarModule###11-CICSearchCustomerUser

Description:	Agent interface module to access CIC search via nav bar.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Agent::ToolBarModule
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::ToolBarModule'}-&gt;{'11-CICSearchCustomerUser'} = {   'Block' =&gt; 'ToolBarCICSearchCustomerUser',   'CSS' =&gt; 'Core.Agent.Toolbar.CICSearch.css',   'Description' =&gt; 'Customer user search',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ToolBarGeneric',   'Name' =&gt; 'Customer user search',   'Priority' =&gt; '1990040',   'Size' =&gt; '10' };</pre>

## 6.63. Frontend::Customer

### 6.63.1.

#### Ticket::Frontend::CustomerDisableCompanyTicketAccess

Description:	This option will deny the access to customer company tickets, which are not created by the customer user.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerDisableCompanyTicketAccess'} = '0';</pre>

### 6.63.2.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketOverviewCustomEmptyText

Description:	Custom text for the page shown to customers that have no tickets yet (if you need those text translated add them to a custom translation module).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0



Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketOverviewCustomEmptyText'} = {   'Button' =&gt; 'Create your first ticket',   'Text' =&gt; 'Please click the button below to create your first ticket.',   'Title' =&gt; 'Welcome!' };</pre>

### 6.63.3. Frontend::CustomerUser::Item###15-OpenTickets

Description:	Customer item (icon) which shows the open tickets of this customer as info block. Setting CustomerUserLogin to 1 searches for tickets based on login name rather than CustomerID.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'15-OpenTickets'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketSearch',   'Attributes' =&gt; 'StateType=Open;',   'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.OpenTicket.css',   'CSSClassNoOpenTicket' =&gt; 'NoOpenTicket',   'CSSClassOpenTicket' =&gt; 'OpenTicket',   'CustomerUserLogin' =&gt; '0',   'IconNameNoOpenTicket' =&gt; 'fa-check-circle',   'IconNameOpenTicket' =&gt; 'fa-exclamation-circle',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGenericTicket',   'Subaction' =&gt; 'Search',   'Target' =&gt; '_blank',   'Text' =&gt; 'Open tickets (customer)' };</pre>

### 6.63.4. Frontend::CustomerUser::Item###16-OpenTicketsForCustomerUserLogin

Description:	Customer item (icon) which shows the open tickets of this customer as info block. Setting CustomerUserLogin to 1 searches for tickets based on login name rather than CustomerID.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'16-OpenTicketsForCustomerUserLogin'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketSearch',   'Attributes' =&gt; 'StateType=Open;',   'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.OpenTicket.css',   'CSSClassNoOpenTicket' =&gt; 'NoOpenTicket',   'CSSClassOpenTicket' =&gt; 'OpenTicket',   'CustomerUserLogin' =&gt; '1',   'IconNameNoOpenTicket' =&gt; 'fa-check-circle',   'IconNameOpenTicket' =&gt; 'fa-exclamation-circle',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGenericTicket',   'Subaction' =&gt; 'Search',   'Target' =&gt; '_blank',   'Text' =&gt; 'Open tickets (customer user)' };</pre>

### 6.63.5. Frontend::CustomerUser::Item###17-ClosedTickets

Description:	Customer item (icon) which shows the closed tickets of this customer as info block. Setting CustomerUserLogin to 1 searches for tickets based on login name rather than CustomerID.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'17-ClosedTickets'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketSearch',   'Attributes' =&gt; 'StateType=Closed;',   'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.OpenTicket.css',   'CSSClassNoOpenTicket' =&gt; 'NoOpenTicket',   'CSSClassOpenTicket' =&gt; 'OpenTicket',   'CustomerUserLogin' =&gt; '0',   'IconNameNoOpenTicket' =&gt; 'fa-power-off',   'IconNameOpenTicket' =&gt; 'fa-power-off',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGenericTicket',   'Subaction' =&gt; 'Search',   'Target' =&gt; '_blank',   'Text' =&gt; 'Closed tickets (customer)'; </pre>

### 6.63.6. Frontend::CustomerUser::Item###18-ClosedTicketsForCustomerUserLogin

Description:	Customer item (icon) which shows the closed tickets of this customer as info block. Setting CustomerUserLogin to 1 searches for tickets based on login name rather than CustomerID.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre> \$Self-&gt;{'Frontend::CustomerUser::Item'}-&gt;{'18-ClosedTicketsForCustomerUserLogin'} = {   'Action' =&gt; 'AgentTicketSearch',   'Attributes' =&gt; 'StateType=Closed;',   'CSS' =&gt; 'Core.Agent.CustomerUser.OpenTicket.css',   'CSSClassNoOpenTicket' =&gt; 'NoOpenTicket',   'CSSClassOpenTicket' =&gt; 'OpenTicket',   'CustomerUserLogin' =&gt; '1',   'IconNameNoOpenTicket' =&gt; 'fa-power-off',   'IconNameOpenTicket' =&gt; 'fa-power-off',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerUserGenericTicket',   'Subaction' =&gt; 'Search',   'Target' =&gt; '_blank',   'Text' =&gt; 'Closed tickets (customer user)'; </pre>

### 6.63.7. CustomerFrontend::CommonObject###QueueObject

Description:	Path of the file that stores all the settings for the QueueObject object for the customer interface.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::CommonObject'}-&gt;{'QueueObject'} = 'Kernel::System::Queue';</code>

## 6.63.8. CustomerFrontend::CommonObject###TicketObject

Description:	Path of the file that stores all the settings for the TicketObject for the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::CommonObject'}-&gt;{'TicketObject'} = 'Kernel::System::Ticket';</code>

## 6.63.9. CustomerFrontend::CommonParam###Action

Description:	Defines the default used Frontend-Module if no Action parameter given in the url on the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::CommonParam'}-&gt;{'Action'} = 'CustomerTicketOverview';</code>

## 6.63.10. CustomerFrontend::CommonParam###TicketID

Description:	Default ticket ID used by the system in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::CommonParam'}-&gt;{'TicketID'} = '';</code>

## 6.64. Frontend::Customer::ModuleMetaHead

### 6.64.1. CustomerFrontend::HeaderMetaModule###2-TicketSearch

Description:	Module to generate html OpenSearch profile for short ticket search in the customer interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleMetaHead
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::HeaderMetaModule'}-&gt;{'2-TicketSearch'} = {   'Action' =&gt; 'CustomerTicketSearch',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::CustomerHeaderMetaTicketSearch' };</pre>

## 6.65. Frontend::Customer::ModuleRegistration

### 6.65.1. CustomerFrontend::Module###CustomerTicketOverview

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerTicketOverview'} = {   'Description' =&gt; 'Overview of customer tickets',   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'm',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Tickets',       'Link' =&gt; 'Action=CustomerTicketOverview;Subaction=MyTickets',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Tickets',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '100',       'Type' =&gt; 'Menu'     },     {       'AccessKey' =&gt; '',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'My Tickets',       'Link' =&gt; 'Action=CustomerTicketOverview;Subaction=MyTickets',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'My Tickets',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '110',       'Type' =&gt; 'Submenu'     },     {       'AccessKey' =&gt; 'M',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Company Tickets',       'Link' =&gt;       'Action=CustomerTicketOverview;Subaction=CompanyTickets',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Company Tickets',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '120',       'Type' =&gt; 'Submenu'     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket', };</pre>

	<code>'Title' =&gt; 'Overview'</code> <code>};</code>
--	--

### 6.65.2.

## CustomerFrontend::Module###CustomerTicketMessage

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerTicketMessage'} = {   'Description' =&gt; 'Create tickets',   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 'n',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Create new Ticket',       'Link' =&gt; 'Action=CustomerTicketMessage',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'New Ticket',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '100',       'Type' =&gt; 'Submenu'     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'New Ticket' };</pre>

### 6.65.3.

## CustomerFrontend::Module###CustomerTicketZoom

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerTicketZoom'} = {   'Description' =&gt; 'Ticket zoom view',   'Loader' =&gt; {     'JavaScript' =&gt; [       'Core.Customer.TicketZoom.js',       'Core.UI.Popup.js'     ]   },   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Zoom' };</pre>

### 6.65.4.

## CustomerFrontend::Module###CustomerTicketPrint

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration

Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerTicketPrint'} = {   'Description' =&gt; 'Customer Ticket Print Module',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; 'Print' };</pre>

### 6.65.5.

## CustomerFrontend::Module###CustomerTicketAttachment

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerTicketAttachment'} = {   'Description' =&gt; 'To download attachments',   'NavBarName' =&gt; '',   'Title' =&gt; '' };</pre>

### 6.65.6.

## CustomerFrontend::Module###CustomerTicketSearch

Description:	Frontend module registration for the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::ModuleRegistration
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerFrontend::Module'}-&gt;{'CustomerTicketSearch'} = {   'Description' =&gt; 'Customer ticket search',   'NavBar' =&gt; [     {       'AccessKey' =&gt; 's',       'Block' =&gt; '',       'Description' =&gt; 'Search',       'Link' =&gt; 'Action=CustomerTicketSearch',       'LinkOption' =&gt; '',       'Name' =&gt; 'Search',       'NavBar' =&gt; 'Ticket',       'Prio' =&gt; '300',       'Type' =&gt; 'Submenu'     }   ],   'NavBarName' =&gt; 'Ticket',   'Title' =&gt; 'Search' };</pre>

## 6.66. Frontend::Customer::Preferences

### 6.66.1. CustomerPreferencesGroups###ShownTickets

Description:	Defines all the parameters for the ShownTickets object in the customer preferences of the customer interface.
--------------	---

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'ShownTickets'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'User Profile',   'Data' =&gt; {     '15' =&gt; '15',     '20' =&gt; '20',     '25' =&gt; '25',     '30' =&gt; '30'   },   'DataSelected' =&gt; '25',   'Key' =&gt; 'Tickets per page',   'Label' =&gt; 'Number of displayed tickets',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserShowTickets',   'Prio' =&gt; '4000' };</pre>

## 6.66.2. CustomerPreferencesGroups###RefreshTime

Description:	Defines all the parameters for the RefreshTime object in the customer preferences of the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Preferences
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'CustomerPreferencesGroups'}-&gt;{'RefreshTime'} = {   'Active' =&gt; '1',   'Column' =&gt; 'User Profile',   'Data' =&gt; {     '' =&gt; 'off',     '10' =&gt; '10 minutes',     '15' =&gt; '15 minutes',     '2' =&gt; ' 2 minutes',     '5' =&gt; ' 5 minutes',     '7' =&gt; ' 7 minutes'   },   'DataSelected' =&gt; '',   'Key' =&gt; 'Refresh interval',   'Label' =&gt; 'Ticket overview',   'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::PreferencesGeneric',   'PrefKey' =&gt; 'UserRefreshTime',   'Prio' =&gt; '4000' };</pre>

## 6.67. Frontend::Customer::Ticket::ViewNew

### 6.67.1.

### Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###NextScreenAfterNew

Description:	Determines the next screen after new customer ticket in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'NextScreenAfterNewTicket'} = 'CustomerTicketOverview';</code>

### 6.67.2.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###Priority**

Description:	Allows customers to set the ticket priority in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'Priority'} = '1';</code>

### 6.67.3.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###PriorityDefault**

Description:	Defines the default priority of new customer tickets in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</code>

### 6.67.4.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###Queue**

Description:	Allows customers to set the ticket queue in the customer interface. If this is set to 'No', QueueDefault should be configured.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'Queue'} = '1';</code>

### 6.67.5.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###QueueDefault**

Description:	Defines the default queue for new customer tickets in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	0



Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'QueueDefault'} = 'Postmaster';</code>

### 6.67.6.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###TicketType**

Description:	Allows customers to set the ticket type in the customer interface. If this is set to 'No', TicketTypeDefault should be configured.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'TicketType'} = '1';</code>

### 6.67.7.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###TicketTypeDefault**

Description:	Defines the default ticket type for new customer tickets in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'TicketTypeDefault'} = 'Unclassified';</code>

### 6.67.8.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###Service**

Description:	Allows customers to set the ticket service in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'Service'} = '1';</code>

### 6.67.9.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###SLA**

Description:	Allows customers to set the ticket SLA in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1

Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'SLA'} = '1';</code>

### 6.67.10.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###ServiceMandatory**

Description:	Sets if service must be selected by the customer.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'ServiceMandatory'} = '0';</code>

### 6.67.11.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###SLAMandatory**

Description:	Sets if SLA must be selected by the customer.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'SLAMandatory'} = '0';</code>

### 6.67.12.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###StateDefault**

Description:	Defines the default state of new customer tickets in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'StateDefault'} = 'new';</code>

### 6.67.13.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###ArticleType**

Description:	Defines the default type for article in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'ArticleType'} = 'webrequest';</code>

### 6.67.14.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###SenderType

Description:	Sender type for new tickets from the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'SenderType'} = 'customer';</code>

### 6.67.15.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###HistoryType

Description:	Defines the default history type in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'HistoryType'} = 'WebRequestCustomer';</code>

### 6.67.16.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###HistoryComment

Description:	Comment for new history entries in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'HistoryComment'} = '';</code>

### 6.67.17. CustomerPanelSelectionType

Description:	Defines the receipt target of the tickets ("Queue" shows all queues, "SystemAddress" displays all system addresses) in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelSelectionType'} = 'Queue';</code>

### 6.67.18. CustomerPanelSelectionString

Description:	Determines the strings that will be shown as receipt (To:) of the ticket in the customer interface. For Queue as
--------------	--

	CustomerPanelSelectionType, "<Queue>" shows the names of the queues, and for SystemAddress, "<Realname> <<Email>>" shows the name and email of the receiptent.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelSelectionString'} = '&lt;Queue&gt;';</code>

## 6.67.19. CustomerPanelOwnSelection

Description:	Determines which queues will be valid for ticket's receiptents in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanelOwnSelection'} = {   'Junk' =&gt; 'First Queue',   'Misc' =&gt; 'Second Queue' };</code>

## 6.67.20. CustomerPanel::NewTicketQueueSelectionModule

Description:	Module for To-selection in new ticket screen in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'CustomerPanel::NewTicketQueueSelectionModule'} =   'Kernel::Output::HTML::CustomerNewTicketQueueSelectionGeneric';</code>

## 6.67.21. Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage###DynamicField

Description:	Dynamic fields options shown in the ticket message screen of the customer interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required. NOTE. If you want to display these fields also in the ticket zoom of the customer interface, you have to enable them in CustomerTicketZoom###DynamicField.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewNew
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketMessage'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.68. Frontend::Customer::Ticket::ViewPrint

### 6.68.1.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketPrint###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket print screen of the customer interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewPrint
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketPrint'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.69. Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch

### 6.69.1. Ticket::CustomerTicketSearch::SearchLimit

Description:	Maximum number of tickets to be displayed in the result of a search in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomerTicketSearch::SearchLimit'} = '5000';</code>

### 6.69.2.

#### Ticket::CustomerTicketSearch::SearchPageShown

Description:	Number of tickets to be displayed in each page of a search result in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomerTicketSearch::SearchPageShown'} = '40';</code>

### 6.69.3. Ticket::CustomerTicketSearch::SortBy::Default

Description:	Defines the default ticket attribute for ticket sorting in a ticket search of the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomerTicketSearch::SortBy::Default'} = 'Age';</code>

#### 6.69.4. Ticket::CustomerTicketSearch::Order::Default

Description:	Defines the default ticket order of a search result in the customer interface. Up: oldest on top. Down: latest on top.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::CustomerTicketSearch::Order::Default'} = 'Down';</code>

#### 6.69.5.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch###ExtendedSearchCon

Description:	Allows extended search conditions in ticket search of the customer interface. With this feature you can search w. g. with this kind of conditions like "(key1&&key2)" or "(key1  key2)".
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch'}-&gt;{'ExtendedSearchCondition'} = '1';</code>

#### 6.69.6. Customer::TicketSearch::AllServices

Description:	If enabled, the customer can search for tickets in all services (regardless what services are assigned to the customer).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Customer::TicketSearch::AllServices'} = '0';</code>

#### 6.69.7.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch###SearchArticleCSVTr

Description:	Exports the whole article tree in search result (it can affect the system performance).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch'}-&gt;{'SearchArticleCSVTree'} = '0';</code>

#### 6.69.8.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch###SearchCSVData

Description:	Data used to export the search result in CSV format.
--------------	--

Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch'}-&gt;{'SearchCSVData'} = [   'TicketNumber',   'Age',   'Created',   'Closed',   'State',   'Priority',   'Lock',   'CustomerID',   'CustomerName',   'From',   'Subject' ];</pre>

### 6.69.9. Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket search screen of the customer interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</pre>

### 6.69.10. Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch###SearchOverviewDy

Description:	Dynamic fields shown in the ticket search overview results screen of the customer interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch'}-&gt;{'SearchOverviewDynamicField'} = {};</pre>

### 6.69.11. Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch###SearchCSVDynamic

Description:	Dynamic Fields used to export the search result in CSV format.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewSearch
Valid:	1

Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketSearch'}-&gt;{'SearchCSVDynamicField'} = {};</code>

## 6.70. Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom

### 6.70.1.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###NextScreenAfterFollowUp

Description:	Determines the next screen after the follow up screen of a zoomed ticket in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'NextScreenAfterFollowUp'} = 'CustomerTicketOverview';</code>

### 6.70.2.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###ArticleType

Description:	Defines the default type of the note in the ticket zoom screen of the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'ArticleType'} = 'webrequest';</code>

### 6.70.3.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###SenderType

Description:	Defines the default sender type for tickets in the ticket zoom screen of the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'SenderType'} = 'customer';</code>

### 6.70.4.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###HistoryType

Description:	Defines the history type for the ticket zoom action, which gets used for ticket history in the customer interface.
Group:	Ticket



SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'HistoryType'} = 'FollowUp';</code>

### 6.70.5.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###HistoryComment**

Description:	Defines the history comment for the ticket zoom action, which gets used for ticket history in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'HistoryComment'} = '';</code>

### 6.70.6.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###Priority**

Description:	Allows customers to change the ticket priority in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'Priority'} = '1';</code>

### 6.70.7.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###PriorityDefault**

Description:	Defines the default priority of follow up customer tickets in the ticket zoom screen in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'PriorityDefault'} = '3 normal';</code>

### 6.70.8.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###State**

Description:	Allows choosing the next compose state for customer tickets in the customer interface.
Group:	Ticket

SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'State'} = '1';</code>

### 6.70.9. Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###StateDefault

Description:	Defines the default next state for a ticket after customer follow up in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'StateDefault'} = 'open';</code>

### 6.70.10. Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###StateType

Description:	Defines the next possible states for customer tickets in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'StateType'} = [ 'open', 'closed' ];</code>

### 6.70.11. Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###AttributesView

Description:	Shows the activated ticket attributes in the customer interface (0 = Disabled and 1 = Enabled).
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'AttributesView'} = { 'Owner' =&gt; '0', 'Priority' =&gt; '1', 'Queue' =&gt; '1', 'Responsible' =&gt; '0', 'SLA' =&gt; '0', 'Service' =&gt; '0', 'State' =&gt; '1', 'Type' =&gt; '0' };</code>

## 6.70.12.

### Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###DynamicField

Description:	Dynamic fields shown in the ticket zoom screen of the customer interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.70.13.

### Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom###FollowUpDynamicField

Description:	Dynamic fields options shown in the ticket reply section in the ticket zoom screen of the customer interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::Ticket::ViewZoom
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketZoom'}-&gt;{'FollowUpDynamicField'} = {};</code>

## 6.71. Frontend::Customer::TicketOverview

### 6.71.1.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketOverviewSortable

Description:	Controls if customers have the ability to sort their tickets.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketOverviewSortable'} = '';</code>

### 6.71.2.

#### Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview###ColumnHeader

Description:	Shows either the last customer article's subject or the ticket title in the small format overview.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0

Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview'}-&gt;{'ColumnHeader'} = 'TicketTitle';</code>
-----------------	--

### 6.71.3.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview###Owner**

Description:	Show the current owner in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::TicketOverview
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview'}-&gt;{'Owner'} = '0';</code>

### 6.71.4.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview###Queue**

Description:	Show the current queue in the customer interface.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::TicketOverview
Valid:	1
Required:	1
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview'}-&gt;{'Queue'} = '0';</code>

### 6.71.5.

#### **Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview###DynamicField**

Description:	Dynamic fields shown in the ticket overview screen of the customer interface. Possible settings: 0 = Disabled, 1 = Enabled, 2 = Enabled and required.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Customer::TicketOverview
Valid:	1
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'Ticket::Frontend::CustomerTicketOverview'}-&gt;{'DynamicField'} = {};</code>

## 6.72. Frontend::Queue::Preferences

### 6.72.1. QueuePreferences###Comment2

Description:	Parameters of the example queue attribute Comment2.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Queue::Preferences
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<code>\$Self-&gt;{'QueuePreferences'}-&gt;{'Comment2'} = {</code>

```
'Block' => 'TextArea',
'Cols' => '50',
'Desc' => 'Define the queue comment 2.',
'Label' => 'Comment2',
'Module' => 'Kernel::Output::HTML::QueuePreferencesGeneric',
'PrefKey' => 'Comment2',
'Rows' => '5'
};
```

## 6.73. Frontend::SLA::Preferences

### 6.73.1. SLAPreferences###Comment2

Description:	Parameters of the example SLA attribute Comment2.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::SLA::Preferences
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'SLAPreferences'}-&gt;{'Comment2'} = { 'Block' =&gt; 'TextArea', 'Cols' =&gt; '50', 'Desc' =&gt; 'Define the sla comment 2.', 'Label' =&gt; 'Comment2', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::SLAPreferencesGeneric', 'PrefKey' =&gt; 'Comment2', 'Rows' =&gt; '5' };</pre>

## 6.74. Frontend::Service::Preferences

### 6.74.1. ServicePreferences###Comment2

Description:	Parameters of the example service attribute Comment2.
Group:	Ticket
SubGroup:	Frontend::Service::Preferences
Valid:	0
Required:	0
Config-Setting:	<pre>\$Self-&gt;{'ServicePreferences'}-&gt;{'Comment2'} = { 'Block' =&gt; 'TextArea', 'Cols' =&gt; '50', 'Desc' =&gt; 'Define the service comment 2.', 'Label' =&gt; 'Comment2', 'Module' =&gt; 'Kernel::Output::HTML::ServicePreferencesGeneric', 'PrefKey' =&gt; 'Comment2', 'Rows' =&gt; '5' };</pre>

# 付録C GNUフリー文書許諾契約書

Version 1.1, March 2000

Copyright (C) 2000 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

## 0. はじめに

この利用許諾契約書の目的は、この契約書が適用されるマニュアルや教科書、その他機能本位で実用的な文書(無料ではなく)自由という意味で「フリー」とすること、すなわち、改変の有無あるいは目的の営利非営利を問わず、文書を複製し再頒布する自由をすべての人々に効果的に保証することです。加えてこの契約書により、著者や出版者が自分たちの著作物に対して相応の敬意と賞賛を得る手段も保護されます。また、他人が行った改変に対して責任を負わずに済むようになります。

この利用許諾契約書は「コピーレフト」的なライセンスの一つであり、この契約書が適用された文書から派生した著作物は、それ自身もまた原本と同じ意味でフリーでなければなりません。この契約書は、フリーソフトウェアのために設計されたコピーレフトなライセンスであるGNU一般公衆使用許諾契約書を補足するものです。

この利用許諾契約書は、フリーソフトウェア用のマニュアルに適用することを目的として書かれました。フリーソフトウェアはフリーな文書を必要としており、フリーなプログラムはそのソフトウェアが保証するのと同じ自由を提供するマニュアルと共に頒布されるべきだからです。しかし、この契約書の適用範囲はソフトウェアのマニュアルに留まりません。対象となる著作物において扱われる主題が何であれ、あるいはそれが印刷された書籍として出版されるか否かに関わらず、この契約書は文字で書かれたいかなる著作物にも適用することが可能です。私たちとしては、主にこの契約書を解説や参照を目的とする著作物に適用することをお勧めします。

## 1. この利用許諾契約書の適用範囲と用語の定義

著作物がこの利用許諾契約書の定める条件の下で頒布される旨の告知を、著作権者がその中に書いたすべてのマニュアルあるいはその他の著作物は、この契約書の適用対象となります。以下において、「『文書』(Document)」とはそのような告知が記載されたマニュアルないし著作物すべてを指します。公衆の一員ならば誰でも契約の当事者となることができ、この契約書中では「あなた」と表現されます。

『文書』の「改変版 (Modified Version)」とは、一字一句忠実に複製したか、あるいは改変や他言語への翻訳を行ったかどうかに関わらず、その『文書』の全体あるいは一部分を含む著作物すべてを意味します。

「補遺部分 (Secondary Section)」とは、文書中でその旨指定された補遺ないし本文に先だって前付けとして置かれる一部分であり、文書の出版者あるいは著者と、文書全体の主題(あるいはそれに関連する事柄)との関係のみを論じ、全体としての主題の範疇に直接属する内容を全く含まないものです(たとえば、文書の一部が数学の教科書だった場合、補遺部分では数学について何も解説してはなりません)。補遺部分で扱われる関係は、その主題あるいは関連する事柄との歴史的なつながりのことも知れないし、それらに関する法的、商業的、哲学的、倫理的、あるいは政治的立場についても知れません。

「変更不可部分 (Invariant Sections)」とは補遺部分の一種で、それらが変更不可部分であることが、文書をこの利用許諾契約書の下で発表する旨述べた告知中においてその部分の題名と共に明示されているものです。

「カバーテキスト(Cover Texts)」とは、文書がこの利用許諾契約書の指定する条件の下で発表される旨述べた告知において、「表カバーテキスト」あるいは「裏カバーテキスト」として列挙された短い文章のことを指します。

文書の「透過的」複製物とは、機械による読み取りが可能な文書の複製物のことを指します。透過的な複製物の文書形式は、その仕様が一般の人々に入手可能で、文書の内容を一般的なテキストエディタ、または(画素で構成される画像ならば)一般的なペイントプログラム、あるいは(図面ならば)いくつかの広く入手可能な製図エディタで簡単に改訂するのに適しており、なおかつテキストフォーマットへの入力に適する(あるいはテキストフォーマットへの入力に適する諸形式への自動的な変換に適する)ものでなければなりません。透過的なファイル形式への複製であっても、マークアップ、あるいはマークアップの不在が読者によるそれ以降の改変をわざと邪魔し阻害するように仕組みられたものは透過的であるとは見做されません。ある画像形式が、相当量のテキスト文章を表現するために使われた場合、それは透過的ではない。透過的ではない複製は「非透過的」複製と呼ばれます。

透過的複製に適した形式のサンプルとしては、マークアップを含まないプレーン ASCII形式、Texinfo入力形式、LaTeX入力形式、一般に入手可能なDTDを用いたSGMLあるいはXML、または人間による改変を想定して設計された、標準に準拠したシンプルなHTMLやPostScript、PDFなどが挙げられます。透過的な画像形式の例には、PNGやXCF、JPGが含まれます。非透過形式としては、独占的なワードプロセッサでのみ閲覧編集できる独占的なファイル形式、普通には入手できないDTDまたは処理系を使ったSGMLやXML、ある種のワードプロセッサが生成する、出力のみを目的とした機械生成のHTMLやPostScript、PDFなどが含まれます。

「題扉 (Title Page)」とは、印刷された書籍に於いては、実際の表紙自身のみならず、この利用許諾契約書が表紙に掲載することを義務づける文章や図などを、読みやすい形で載せるのに必要なだけの、表紙に引き続く数ページをも意味する。表紙に類するものが無い形式で発表される著作物においては、「題扉」とは本文の始まりに先だて、その著作物の題名が最も目立つ形で現れる場所の近くに置かれる文章のことを指します。

## 2. 逐語的に忠実な複製

この利用許諾契約書、著作権表示、この契約書が文書に適用される旨述べた告知の三つがすべての複製物に複製され、かつあなたがこの契約書で指定されている以外のいかなる条件も追加しない限り、あなたはこの文書を、商用であるか否かを問わずいかなる形でも複製頒布することができます。あなたは、あなたが作成あるいは頒布する複製物に対して、閲覧や再複製を技術的な手法によって妨害、規制してはいけません。しかしながら、複製と引き換えに代価を得てもかまいません。あなたが相当量の複製物を頒布する際には、本契約書第3項で指定される条件にも従わなければなりません。

またあなたは、上記と同じ条件の下で、複製物を貸与したり複製物を公に開示 することができます。

## 3. 大量の複製

もしあなたが、文書の印刷された (あるいは通常は印刷された表紙を持つ 媒体における)複製物を100部を超えて出版し、また文書の利用許諾告知がカバーテキストの掲載を要求している場合には、指定されたすべてのカバーテキストを、表カバーテキストは表表紙に、裏カバーテキストは裏表紙に、はっきりと読みやすい形で載せた表紙の中に複製物本体を綴じ込まなければなりません。また、両方の表紙において、それらの複製物の出版者としてのあなたをはっきりとかつ読みやすい形で確認できなければなりません。表表紙では文書の完全な題名を、題名を構成するすべての語が等しく目立つようにして、視認可能な形で示さなければなりません。それらの情報に加えて、表紙に他の文章や図などを加えることは許可される。表紙のみを変更した複製物は、それが文書の題名を保存し上記の条件を満たす限り、ほかの点では逐語的に忠実な複製物として扱われます。

もしどちらかの表紙に要求されるカバーテキストの量が多すぎて読みやすく収めることが不可能ならば、あなたはテキスト先頭の一文(あるいは適切に収まる だけ)を実際の表紙に載せ、続きは隣接したページに載せるべきです。

あなたが文書の「非透過的」複製物を100部を超えて出版あるいは頒布する場合、それぞれの非透過な複製物と一緒に機械で読み取り可能な透過的複製物を添付するか、それぞれの非透過な複製物(あるいはそれに付属する文書)中で、公にアクセス可能なコンピュータネットワーク上の所在地を記述しなければなりません。その場所には、非透過な複製物と内容的に寸分違わず、余計なものが

追加されていない完全な文書の透過的複製物が置かれ、またそこから、ネットワークを利用する一般公衆が、一般に標準的と考えられるネットワークプロトコルを使ってダウンロードすることができなければなりません。もしあなたが後者の選択肢を選ぶならば、その版の非透過な複製物を公衆に(直接、あるいは あなたの代理人ないし小売業者が)最後に頒布してから最低1年間は、その透過的複製物が指定の場所でアクセス可能であり続けることを保証するよう、非透過な複製物の大量頒布を始める際に十分に慎重な手順を踏まなければなりません。

これは要望であり必要条件ではないが、文書の著者に、文書の更新された版をあなたに提供する機会を与えるため、透過非透過を問わず大量の複製物を再頒布し始める前には彼らにきちんと連絡しておいて下さい。

## 4. 改変

文書の改変版を、この利用許諾契約書と細部まで同一の契約の下で発表する限り、すなわち原本の役割を改変版で置き換えた形での頒布と改変を、その複製物を所有するすべての人々に許可する限り、あなたは改変版を上記第2項および第3項が指定する条件の下で複製および頒布することができます。さらに、あなたは改変版において以下のことを行わなければなりません。

- A. 題扉に(もしあればその他の表紙にも)、文書および文書のそれ以前の版と見分けがつく題名を載せること(もし以前の版があれば、文書の「履歴 (History)」の部分に列記されているはずです)。もし元の版の出版者から許可を得たならば、以前の版と同じ題名を使っても良いです。
- B. 題扉に、改変版における改変を行った1人以上の人物 が団体名を列記すること。あわせて元の『文書』の著者として、最低5人(もし5人以下ならばすべて)の主要著者を列記すること。
- C. 改変版の出版者名を出版者として記載すること。
- D. 文書にあるすべての著作権表示を残すこと。
- E. 他の著作権表示の近くに、あなたの改変に対する適切な著作権表示を追加すること。
- F. 著作権表示のすぐ後に、改変版をこの契約書の条件 の下で利用することを公衆に対して許可する告知を含めること。その形式はこの契約書の末尾にある付記で示されている。
- G. 元の『文書』の利用許諾告知に書かれた、変更不可部分の完全な一覧と、要求されるカバーテキストとを、改変版の利用許諾告知でもそのまま残すこと。
- H. この契約書の、変更されていない複製物を含めること。
- I. 「履歴 (History)」と題された部分とその題名を保存し、そこに改変版の、少なくとも題名、出版年、新しく変更した部分の著者名、出版者名を、題扉に掲載するのと同じように記載した一項を加えること。もし文書中に「履歴」と題された部分が存在しない場合には、文書の題名、出版年、著者、出版者を題扉に掲載するのと同じように記載した部分を用意し、上記で述べたような、改変版を説明する一項を加えること。
- J. 文書中に、文書の透過的複製物への公共的アクセスのために指定されたネットワーク的所在地が記載されていたならば、それを保存すること。同様に、その『文書』の元になった以前の版で指定されていたネットワーク的所在地も載っていたならば、それも保存すること。これらの情報は「履歴(History)」の部分に置いても良いです。ただし、それが 文書自身より少なくとも4年前に出版された著作物の情報であったり、あるいは改変版が参考にしている版の元々の出版者から許可を得たならば、その情報を削除してもかまいません。
- K. 「謝辞 (Acknowledgement)」あるいは「献辞 (Dedication)」等と題されたいかなる部分も、その部分の題名を保存し、その部分の内容(各貢献者への謝意あるいは献呈の意)と語調を保存すること。
- L. 『文書』の変更不可部分を、その本文および題名を 変更せずに保存すること。章番号やそれに相当するものは部分の題名の一部とは見做さない。
- M. 「推薦の辞 (Endorsement)」というような章名が題された部分はすべて削除すること。そのような部分を改変版に含めてはいけません。



N.すでに存在する部分を「推薦の辞 (Endorsement)」と題されるように改名したり、題名の点で変更不可部分のどれかと抵触するように改名してはいけません。

もし改変版に、補遺部分としての条件を満たし、かつ文書から複製物された文章や図などをいっさい含んでいない、前書き的な章あるいは付録が新しく含まれるならば、あなたは希望によりそれらの部分の一部あるいはすべてを変更不可と宣言することができます。変更不可を宣言するためには、それらの部分の題名を改変版の利用許諾告知中の変更不可部分一覧に追加すれば良いです。これらの題名は他の章名とは全く別のものでなければなりません。

含まれる内容が、さまざまな集団によるあなたの改変版に対する推薦の辞のみである限り、あなたは、「推薦の辞 (Endorsement)」と題された章を追加することができます。推薦の辞の例としては、ピアレビュー (内容審査) の陳述、あるいは文書がある標準の権威ある定義としてその団体に承認されたという声明などがあります。

あなたは、5語までの一文を表カバーテキストとして、25語までの文を裏表紙テキストとして、改変版のカバーテキスト一覧の末尾に加えることができます。一個人ないし一団体が直接(あるいは団体内で結ばれた協定によって)加えることができるのは、表カバーテキストおよび裏カバーテキストとしてそれぞれ一文ずつのみである。もし以前すでにその文書において、表裏いずれかの表紙にあなたの(またはあなたが代表する同じ団体内で為された協定に基づく)カバーテキストが含まれていたならば、あなたが新たに追加することはできません。しかしあなたは、その古い文を加えた以前の出版者から明示的な許可を得たならば、古い文を置き換えることができます。

文書の著者あるいは出版者は、この利用許諾契約書によって、彼らの名前を利用することを許可しているわけではありません。彼らの名前を改変版の宣伝に使ったり、改変版への明示的あるいは黙示的な保証のために使うことを許可するものではありません。

## 5. 文書の結合

あなたは、上記第4項において改変版に関して定義された条件の下で、この利用許諾契約書の下で発表された複数の文書の一つにまとめることができます。その際、原本となる文書にある変更不可部分を全て、改変せずに結合後の著作物中に含め、それらをあなたが統合した著作物の変更不可部分としてその利用許諾告知において列記し、かつ原本にある全ての保証否認警告を保存しなければなりません。

結合後の著作物についてはこの契約書の複製物の一つ含んでいけばよく、同一内容の変更不可部分が複数ある場合には一つで代用してよいです。もし同じ題名だが内容の異なる変更不可部分が複数あるならば、そのような部分のそれぞれの題名の最後に、(もし分かっているならば)その部分の原著者あるいは出版者の名前、あるいは他と重ならないような番号を括弧で括って記載することで、それぞれ見分けが付くようにしなければなりません。結合後の著作物の利用許諾告知における変更不可部分の一覧においても、章の題名に同様の調整をすること。

結合後の著作物においては、あなたはそれぞれの原本の「履歴 (History)」と題されたあらゆる部分をまとめて、「履歴 (History)」と題された一章にしなければなりません。同様に、「謝辞 (Acknowledgements)」あるいは「献辞 (Dedications)」と題されたあらゆる部分もまとめなければなりません。あなたは「推薦の辞 (Endorsements)」と題されたあらゆる部分も削除しなければなりません。

## 6. 文書の収集

あなたは、この利用許諾契約書の下で発表された複数の文書で構成される収集著作物を作ることができます。その場合、それぞれの文書が逐語的に忠実に複製されることを保障するために他のすべての点でこの契約書の定める条件に従う限り、さまざまな文書中のこの契約書の個々の複製物を、収集著作物中に複製物の一つ含めることで代用することができます。

あなたは、このような収集著作物から文書の一つ取り出し、それをこの契約書の下で頒布することができます。ただしその際には、この契約書の複製物を抽出された文書に挿入し、またその他すべての点でこの文書の逐語的に忠実な複製に関してこの契約書が定める条件に従わなければなりません。

## 7. 独立した著作物の集積

文書あるいはその派生物を、他の別の独立した文書あるいは著作物と一緒にし、一巻の記憶装置あるいは頒布媒体に収めた編集著作物は、編集に起因する著作権が編集著作物に含まれる個々の著作物とその利用者に許可した法的権利を制限するよう行使されない限り、「集積」著作物と呼ばれます。文書が集積著作物に含まれる場合、この契約書は、文書と共にまとめられた他の独立した著作物には、それら自身が文書の派生物で無い限り適用されることにはなりません。

このような文書の複製物において、この利用許諾契約書の第3項によりカバーテキストの掲載が要求されている場合、文書の量が集積著作物全体の2分の1以下であれば、文書のカバーテキストは集積著作物中で文書そのものの周りを囲む中表紙、あるいは文書が電子的形式である場合には表紙の電子的等価物にのみ配置するだけでよいです。その場合以外は、カバーテキストは集積著作物全体を取り巻く印刷された表紙に掲載されなければなりません。

## 8. 翻訳

翻訳は改変の一種と見做すので、あなたは文書の翻訳をこの利用許諾契約書の第4項の定める条件の下で頒布することができます。変更不可部分を翻訳によって置き換えるには著作権者の特別許可を必要としますが、元の変更不可部分に追加する形で変更不可部分の全てないし一部の翻訳を含めることはかまいません。この契約書や文書中の利用許諾告知、保証否認警告すべての英語原本も含める限り、あなたはこの契約書、告知、警告の翻訳を含めることができます。契約書や告知、警告に関して翻訳と英語原本との間に食い違いが生じた場合、英語原本が優先されます。

## 9. 契約の終了

この利用許諾契約書の下で明確に提示されている場合を除き、あなたは文書を複製、改変、サブライセンス、あるいは頒布してはなりません。このライセンスで指定されている以外の、文書の複製、改変、サブライセンス、頒布に関するすべての企ては無効であり、この契約書によって保証されるあなたの権利を自動的に終結させることとなります。しかし、この契約書の下であなたから複製物ないし諸権利を得た個人や団体に関しては、そういった人々がこの契約書に完全に従ったままである限り、彼らに与えられた許諾は終結しません。

## 10. 将来における本利用許諾契約書の改訂

フリーソフトウェア財団は、時によってGNU フリー文書利用許諾契約書の新しい改訂版を出版することができます。そのような新版は現在の版と理念においては似たものになるでしょうが、新たに生じた問題や懸念を解決するため細部においては違ったものになるでしょう。詳しくは <http://www.gnu.org/copyleft/> を参照して下さい。

GNU フリー文書利用許諾契約書のそれぞれの版には、新旧の区別が付くようなバージョン番号が振られています。もし文書において、この契約書のある特定の版が「それ以降のどの版でも」適用して良いと指定されている場合、あなたはフリーソフトウェア財団から発行された(草稿として発表されたものを除く)指定の版かそれ以降の版のうちどれか一つを選び、その条項や条件に従うことができます。もし文書がこの契約書のバージョン番号を指定していない場合には、あなたはフリーソフトウェア財団から今までに出版された(草稿として発表されたものを除く)版のうちからどれか一つを選ぶことができます。

## ・この利用許諾契約書をあなたの文書に適用するには

この利用許諾契約書をあなたが書いた文書に適用するには、この契約書の複製物一つを文書中に含め、以下に示す著作権表示と利用許諾告知を題扉のすぐ後に置いて下さい:

Copyright (C) 西暦年 あなたの名前. この文書を、フリーソフトウェア財団発行の GNU フリー文書利用許諾契約書(バージョン1.1かそれ以降から一つを選

---

択)が定める条件の下で複製、頒布、あるいは改変することを許可します。変更不可部分、表カバーテキスト、裏カバーテキストは存在しません。この利用許諾契約書の複製物は「GNU フリー文書利用許諾契約書」という章に含まれています。

もし変更不可部分や表カバーテキスト、裏カバーテキストがあれば、「変更不可部分...は存在しない。」というところを以下で置き換えてください:

あなたの文書に、他に類を見ない独自のプログラムコードのサンプルが含まれる場合、フリーソフトウェアにおいてそのコードを利用することを許可するために、そういったサンプルに関してはこの利用許諾契約書と同時にGNU 一般公衆許諾契約書のようなフリーソフトウェア向けライセンスのうちどれか一つを選択して適用してもよい、というような条件の下で発表することを推奨します。

